

2020年度 公開科目 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A0065】	経済法Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring	1
【A0066】	経済法Ⅱ [青柳 由香] 秋学期授業/Fall	2
【A0100】	教育法Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	2
【A0101】	教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	3
【A0114】	法哲学Ⅰ [西村 清貴] 春学期授業/Spring	4
【A0115】	法哲学Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	5
【A0132】	法と遺伝学Ⅰ [上杉 奈々] 春学期授業/Spring	6
【A0133】	法と遺伝学Ⅱ [上杉 奈々] 秋学期授業/Fall	7
【A0249】	ジェンダー論Ⅰ [衛藤 幹子] 春学期授業/Spring	8
【A0250】	ジェンダー論Ⅱ [衛藤 幹子] 秋学期授業/Fall	9
【A0283】	都市政策Ⅰ [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	10
【A0284】	都市政策Ⅱ [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	11
【A0341】	コミュニティ論Ⅰ [名和田 是彦] 春学期授業/Spring	12
【A0342】	コミュニティ論Ⅱ [名和田 是彦] 秋学期授業/Fall	14
【A0348】	公共哲学Ⅰ [名和田 是彦] 春学期授業/Spring	15
【A0354】	外国書講読(独語)Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	16
【A0355】	外国書講読(独語)Ⅱ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	17
【A0447】	アメリカ政治外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	18
【A0448】	現代のアメリカと世界 [森 聡] 秋学期授業/Fall	19
【A0451】	A Short Introduction to Japanese Politics [衛藤 幹子] 秋学期授業/Fall	20
【A0456】	法律学特講(現代中国の法と社会Ⅰ) [牟 憲魁] サマーセッション/Summer Session	21
【A0625】	Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	22
【A0645】	国際協力講座 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	23
【A0664】	グローバル・ガバナンス [本多 美樹] 春学期授業/Spring	24
【A0673】	地球環境論Ⅱ 秋学期	25
【A0717】	国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	26
【A0718】	国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	27
【A0736】	オセアニアの政治と社会Ⅰ [長島 怜央] 春学期授業/Spring	29
【A0737】	オセアニアの政治と社会Ⅱ [長島 怜央] 秋学期授業/Fall	30
【A0749】	国際機構論Ⅰ [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	31
【A0750】	国際機構論Ⅱ [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	32
【A0771】	朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [朴 廷鎬] 春学期授業/Spring	33
【A0772】	朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [朴 廷鎬] 秋学期授業/Fall	33
【A0786】	現代政策学特講Ⅰ(千代田区) [宮崎 伸光] オータムセッション/Autumn Session	34
【A0787】	現代政策学特講Ⅱ(沖縄) [宮崎 伸光] スプリングセッション/Spring Session	35
【A0797】	法律学特講(現代中国の法と社会Ⅱ) [解 志勇] オータムセッション/Autumn Session	36
【A0836】	外国書講読(独語)Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	36
【A0837】	外国書講読(独語)Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	37
【A0838】	外国書講読(仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	38
【A0839】	外国書講読(仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	39
【A0846】	日本の政治と社会Ⅰ [平良 好利] 春学期授業/Spring	39
【A0847】	日本の政治と社会Ⅱ [平良 好利] 秋学期授業/Fall	40
【A0900】	協同組合論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	41
【A2224】	哲学特講(7) - 1 [君嶋 泰明] 春学期	42
【A2241】	科学哲学1 [中釜 浩一] 春学期	43
【A2242】	科学哲学2 [中釜 浩一] 秋学期	44
【A2245】	現代思想2(フランスの思想)1 [大池 惣太郎] 春学期	45
【A2246】	現代思想2(フランスの思想)2 [大池 惣太郎] 秋学期	46
【A2251】	宗教学1(伝統宗教)1 [杉本 隆司] 春学期	47
【A2252】	宗教学1(伝統宗教)2 [杉本 隆司] 秋学期	48
【A2268】	ラテン語1 [金子 佳司] 春学期	49
【A2269】	ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期	50
【A2270】	ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期	51

【A2271】	ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期	52
【A2553】	日本文芸批評史 A [川鍋 義一] 春学期	53
【A2555】	日本文芸批評史 B [川鍋 義一] 秋学期	54
【A2561】	中国文芸史 A [遠藤 星希] 春学期	55
【A2563】	中国文芸史 B [遠藤 星希] 秋学期	56
【A2663】	日本文芸研究特講 (2) 中古 C [加藤 昌嘉] 春学期	57
【A2664】	日本文芸研究特講 (2) 中古 D [加藤 昌嘉] 秋学期	58
【A2665】	日本文芸研究特講 (3) 中世 A [小秋元 段] 春学期	59
【A2666】	日本文芸研究特講 (3) 中世 B [小秋元 段] 秋学期	60
【A2668】	日本文芸研究特講 (3) 中世 D [阿部 真弓] 秋学期	60
【A2669】	日本文芸研究特講 (4) 近世 A [眞島 望] 春学期	61
【A2670】	日本文芸研究特講 (4) 近世 B [小林 ふみ子] 秋学期	62
【A2674】	日本文芸研究特講 (5) 近代 B [中丸 宣明] 秋学期	63
【A2804】	英語学概論 A [椎名 美智] 春学期	64
【A2805】	英語学概論 B [大沢 ふよう] 秋学期	65
【A2806】	言語学概論 A [石川 潔] 春学期	66
【A2807】	言語学概論 B [石井 創] 秋学期	67
【A2808】	英語・言語学講義 A [椎名 美智] 秋学期	68
【A2809】	英語・言語学講義 B [石川 潔] 秋学期	69
【A2810】	社会言語学 [塩田 雄大] 春学期	69
【A2811】	応用言語学 [福田 純也] 春学期	70
【A2824】	比較文学 A [松枝 佳奈] 春学期	71
【A2825】	比較文学 B [松枝 佳奈] 秋学期	72
【A2905】	米文学史 A [宮川 雅] 春学期	73
【A2906】	米文学史 B [宮川 雅] 秋学期	74
【A2907】	英米文学講義 I A [宮川 雅] 春学期	75
【A2908】	英米文学講義 I B [宮川 雅] 秋学期	76
【A2909】	英米文学講義 II A [丹治 愛] 春学期	77
【A2910】	英米文学講義 II B [丹治 愛] 秋学期	78
【A2911】	英語学講義 A [大沢 ふよう] 春学期	79
【A2912】	英語学講義 B [大沢 ふよう] 秋学期	80
【A2913】	言語学講義 I A [石川 潔] 春学期	81
【A2914】	言語学講義 I B [石川 潔] 秋学期	81
【A2915】	言語学講義 II A [伊藤 達也] 春学期	82
【A2916】	言語学講義 II B [伊藤 達也] 秋学期	82
【A2965】	英米文学特殊講義 I [若澤 佑典] 春学期	83
【A2966】	英米文学特殊講義 II [小島 尚人] 秋学期	84
【A2981】	比較文化論 (1) [小島 尚人] 秋学期	85
【A2982】	英米文化概論 A [田中 裕希] 春学期	86
【A2983】	英米文化概論 B [田中 裕希] 秋学期	86
【A3113】	日本考古学 [小倉 淳一] 秋学期	87
【A3116】	日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期	87
【A3152】	考古学概論 [小倉 淳一] 春学期	88
【A3157】	日本史特講 IV [中山 学] 秋学期	89
【A3164】	東洋史特講 III [芦沢 知絵] 秋学期	89
【A3171】	西洋史特講 IV [高澤 紀恵] 春学期	90
【A3172】	西洋史特講 V [高澤 紀恵] 秋学期	91
【A3208】	東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期	91
【A3212】	日本史序説 I [川上 真理] 春学期	92
【A3213】	日本史序説 II [齋藤 智志] 秋学期	93
【A3214】	東洋史序説 [塩沢 裕仁] 春学期	94
【A3215】	西洋史序説 [志内 一興] 春学期	95
【A3217】	東洋史特講 VII [久野 美樹] 春学期	96
【A3218】	東洋史特講 VIII [小澤 一郎] 春学期	97
【A3219】	西洋史特講 IX [大和久 悌一郎] 秋学期	98
【A3420】	生物・土壌地理学及び実験 I [小川 滋之] 春学期	99
【A3421】	生物・土壌地理学及び実験 II [小川 滋之] 秋学期	100

【A3422】 気候・気象学及び実験Ⅰ [山口 隆子] 春学期	101
【A3423】 気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期	101
【A3424】 海洋・陸水学及び実験Ⅰ [小寺 浩二] 春学期	102
【A3425】 海洋・陸水学及び実験Ⅱ [小寺 浩二] 秋学期	103
【A3426】 社会経済地理学(1) [小原 文明] 秋学期	104
【A3427】 社会経済地理学(2) [中川 秀一] 秋学期	105
【A3428】 社会経済地理学(3) [片岡 義晴] 秋学期	106
【A3471】 地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期	107
【A3472】 地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期	108
【A3481】 社会経済地理学(4)(エコツーリズム) [呉羽 正昭] 秋学期	109
【A3482】 文化地理学(1) [中俣 均] 春学期	110
【A3483】 文化地理学(2) [中俣 均] 秋学期	110
【A3622】 発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期	111
【A3809】 民俗学Ⅰ [室井 康成] 春学期	112
【A3810】 民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期	113
【A3811】 イスラム世界論Ⅰ [小澤 一郎] 春学期	113
【A3812】 イスラム世界論Ⅱ [小澤 一郎] 秋学期	114
【A3814】 現代のコモンセンス [中沢 けい、丹治 愛、高橋 敏治] 秋学期	115
【A3819】 歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期	116
【A3820】 歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期	117
【A4032】 経営学総論Ⅰ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 春学期授業/Spring	119
【A4033】 経営学総論Ⅱ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 秋学期授業/Fall	121
【A4393】 組織経済学Ⅰ [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	123
市場経営学科専門科目 200番台 【A4465】 日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	124
市場経営学科専門科目 200番台 【A4466】 日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	126
特殊講義 【A5401】 広告論 [小林 健一] オータムセッション/Autumn Session	128
特殊講義 【A5410】 寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [鷺田 賢一郎] 秋学期授業/Fall	129
【A6307,A6553】 Advanced Topics in Contemporary Art [Akiko Mizoguchi] 秋学期授業/Fall	130
【A9010/A9046】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [鈴木 敦] 秋学期授業/Fall	131
【A9021】 スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	132
【A9022】 スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	133
【A9026】 スポーツメディア論 [海老名 徳雪] 春学期授業/Spring	133
【A9037】 アスリートキャリア論 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	134
【A9207/A9258】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [佐藤 祐輔] 春学期授業/Spring	135
【A9214】 リーダーシップ論Ⅰ [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	137
【A9215】 リーダーシップ論Ⅱ [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall	138
【A9220】 アスリートキャリア論 [成田 道彦] 秋学期授業/Fall	139
【A9221】 スポーツメディア論 [海老名 徳雪] 秋学期授業/Fall	140
建築学科 【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	141
都市環境デザイン工学科 【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	142
【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	143
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	144
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	146
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	147
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	149
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	151
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 秋学期授業/Fall	153
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	155
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	156
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	157
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	158
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	159
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	160

建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒] 秋 学期授業/Fall	161
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	162
【C0223】 メディアと社会 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	164
【C0231】 言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	165
【C0233】 ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	166
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	167
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	168
【C0244】 宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	169
【C0531】 英語アプリケーションⅡ [クレグ ジョンストン] 春学期授業/Spring	170
【C0532】 英語アプリケーションⅢ [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	171
【C0533】 英語アプリケーションⅣ [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	173
【C0534】 英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	175
【C0536】 英語アプリケーションⅦ [アンドリュウ・ジョーンズ] 秋学期授業/Fall	177
【C0537】 英語アプリケーションⅧ [リービ 英雄] 秋学期授業/Fall	178
【C0539】 英語アプリケーションⅩ [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall	179
【C0595】 ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	180
【C0596】 ドイツ語アプリケーション [辻 朋季] 春学期授業/Spring	181
【C0597】 ドイツ語アプリケーション [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	182
【C0625】 フランス語アプリケーション [ジョルディ・フィリップ] 春学期授業/Spring	183
【C0626】 フランス語アプリケーション [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	184
【C0627】 フランス語アプリケーション [カレンス・フィリップ] 春学期授業/Spring	185
【C0628】 フランス語アプリケーション [カレンス・フィリップ] 秋学期授業/Fall	186
【C0655】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	187
【C0656】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	188
【C0685】 中国語アプリケーションⅠ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	189
【C0686】 中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	190
【C0687】 中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	191
【C0688】 中国語アプリケーションⅡ [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	192
【C0754】 朝鮮語アプリケーション [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	193
【C0755】 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	194
【C0756】 朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	195
【C0772】 情報コミュニケーションⅢ [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	196
【C0833】 ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	197
【C0854】 現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	198
【C0872】 映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	199
【C0901】 世界の中の日本語 [リービ 英雄] 秋学期授業/Fall	201
【C0910】 中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [曾 士才] 春学期授業/Spring	202
【C0911】 中国の文化Ⅱ (多民族社会中国) [曾 士才] 秋学期授業/Fall	203
【C0913】 中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	204
【C0914】 中国の文化Ⅴ (中国語と日本語) [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	205
【C0915】 中国の文化Ⅶ (古典思想・文学) [野村 英登] 春学期授業/Spring	206
【C0916】 中国の文化Ⅶ (近代文学) [桑島 道夫] 春学期授業/Spring	207
【C0917】 中国の文化Ⅷ (現代文学) [桑島 道夫] 秋学期授業/Fall	208
【C0918】 中国の文化Ⅸ (中国俗文学) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	209
【C0920】 朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	210
【C0931】 ロシア・中央アジアの文化 [油本 眞理] 秋学期授業/Fall	211
【C0932】 ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	212
【C0940】 ドイツ語圏の文化Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	213
【C0944】 フランス語圏の文化Ⅲ (文学) [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	214
【C0946】 スペイン語圏の文化Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	215
【C0947】 北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	216
【C0950】 カタルーニャの文化Ⅰ (言語 A) [ヴィラ・ラケル] 春学期授業/Spring	217
【C0951】 カタルーニャの文化Ⅱ (言語 B) [ヴィラ・ラケル] 秋学期授業/Fall	218
【C0952】 カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会 A) [ヴィラ・ラケル] 春学期授業/Spring	219
【C0953】 カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会 B) [ヴィラ・ラケル] 秋学期授業/Fall	220
【C0960】 英語圏の文化Ⅰ (文化史) [宇治谷 義英] 春学期授業/Spring	221

【C0962】英語圏の文化Ⅲ（現代事情）〔栗飯原 文子〕春学期授業/Spring	222
【C0963】英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）〔須藤 祐二〕秋学期授業/Fall	223
【C0965】英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）〔菊池 かおり〕春学期授業/Spring	224
【C0966】英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）〔齊藤 雄介〕春学期授業/Spring	225
【C0967】英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）〔齊藤 雄介〕秋学期授業/Fall	227
【C1000】比較表象文化論〔竹内 晶子〕秋学期授業/Fall	228
【C1020】間文化性研究翻訳論〔熊田 泰章〕春学期授業/Spring	229
【C1021】日英翻訳論〔前川 裕〕春学期授業/Spring	230
【C1031】宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）〔佐々木 一恵〕秋学期授業/Fall	231
【C1032】宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）〔江村 裕文〕春学期授業/Spring	232
【C1040】国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）〔松本 悟〕春学期授業/Spring	233
【C1041】国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））〔松本 悟〕秋学期授業/Fall	234
【C1044】人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）〔宮本 正明〕秋学期授業/Fall	235
【C1046】地域協力・統合〔大中 一彌〕秋学期授業/Fall	236
【C1048】実践国際協力〔松本 悟〕秋学期授業/Fall	237
【C1052】実践社会調査法〔松本 悟〕春学期授業/Spring	238
【C1055】国際関係研究Ⅵ〔栗飯原 文子〕秋学期授業/Fall	239
【C1056】国際関係研究Ⅶ〔石森 大知〕秋学期授業/Fall	240
【C2004】国際法Ⅰ〔岡松 暁子〕春学期授業/Spring	241
【C2005】国際法Ⅱ〔土屋 志穂〕秋学期授業/Fall	241
【C2013】環境法Ⅰ〔横内 恵〕春学期授業/Spring	242
【C2014】環境法Ⅱ〔永野 秀雄〕秋学期授業/Fall	243
【C2015】環境法Ⅲ〔横内 恵〕秋学期授業/Fall	243
【C2017】国際環境法〔岡松 暁子〕秋学期授業/Fall	244
【C2112】環境経営論Ⅰ〔金藤 正直〕春学期授業/Spring	245
【C2113】環境経営論Ⅱ〔金藤 正直〕秋学期授業/Fall	246
【C2120】途上国経済論Ⅰ〔武貞 稔彦〕春学期授業/Spring	247
【C2200】現代社会論Ⅰ〔佐伯 英子〕春学期授業/Spring	248
【C2217】環境社会論Ⅰ〔西城戸 誠〕春学期授業/Spring	249
【C2218】環境社会論Ⅱ〔西城戸 誠〕秋学期授業/Fall	250
【C2227】災害政策論〔中川 和之〕春学期授業/Spring	251
【C2301】仏教思想〔小島敬裕〕秋学期授業/Fall	253
【C2310】環境倫理学〔吉永 明弘〕秋学期授業/Fall	254
【C2311】環境哲学基礎論〔吉永 明弘〕春学期授業/Spring	254
【C2314】ヨーロッパ環境史論Ⅰ〔辻 英史〕春学期授業/Spring	255
【C2315】ヨーロッパ環境史論Ⅱ〔辻 英史〕秋学期授業/Fall	256
【C2404】自然環境論Ⅱ〔杉戸 信彦〕秋学期授業/Fall	257
【C2416】環境科学Ⅰ〔藤倉 良〕春学期授業/Spring	258
【C2417】環境科学Ⅱ〔藤倉 良〕秋学期授業/Fall	259
【C2418】環境科学Ⅲ〔藤倉 良〕春学期授業/Spring	260
【C2500】公害防止管理論Ⅰ〔大岡 健三〕春学期授業/Spring	261
【C2501】公害防止管理論Ⅱ〔大野 香代〕春学期授業/Spring	262
【C2503】環境教育論〔野田 恵〕春学期授業/Spring	263
基幹科目_選択【C7083】職業選択論Ⅰ〔上西 充子〕春学期	264
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7195】学習の社会史A〔山口 真里〕秋学期	265
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7196】学習の社会史B〔寺崎 里水、金山 喜昭〕春学期	266
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7254】職業選択論Ⅱ〔上西 充子〕秋学期	267
展開科目_選択必修（体験型）【C7270】【2013年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ〔松本 真尚、田口 香織、市川 大樹〕春学期	268
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7270】【2014年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ〔松本 真尚、田口 香織、市川 大樹〕春学期	269
展開科目_選択必修（体験型）【C7271】【2013年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ〔松本 真尚、田口 香織、市川 大樹〕秋学期	270
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7271】【2014年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ〔松本 真尚、田口 香織、市川 大樹〕秋学期	271
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7274】シティズンシップ論〔榎並 利博〕春学期	272
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ〔佐藤 恵〕春学期	273

展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期	274
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7315】アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期	275
展開科目_総合【C7350】就業機会とキャリア [酒井 理] 秋学期	276
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [梅崎 修、武石 恵美子] 秋学期	277
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期	278
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期	279
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台_外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【F7222】朝鮮語4B-I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	281
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台_外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【F7223】朝鮮語4B-II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	282
【K6046】社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	283
【K6047】社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	284
【K6048】社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	285
【K6049】社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	286
【K6054】日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	287
【K6055】日本経済論A [小崎 敏男] 春学期授業/Spring	288
【K6056】日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	289
【K6057】日本経済論B [小崎 敏男] 秋学期授業/Fall	290
【K6058】国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	291
【K6059】国際経済論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	291
【K6060】国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	292
【K6061】国際経済論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	293
【K6062】財政学A [小林 克也] 春学期授業/Spring	294
【K6063】財政学A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	295
【K6064】財政学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	296
【K6065】財政学B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	297
【K6066】金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	298
【K6067】金融論A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	299
【K6068】金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	300
【K6069】金融論B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	301
【K6094】計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	302
【K6095】計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	303
【K6102】企業と経済・応用A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	304
【K6103】企業と経済・応用B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	305
【K6108】現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	305
【K6109】現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	306
【K6122】経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	307
【K6123】経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	308
【K6124】経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	309
【K6125】産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	310
【K6128】コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	311
【K6129】コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	312
【K6140】企業実務研究A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	313
【K6141】企業実務研究B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	314
【K6150】国際関係論A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	315
【K6151】国際関係論B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	316
【K6152】経済人類学A [山本 真鳥] 春学期授業/Spring	317
【K6153】経済人類学B [山本 真鳥] 秋学期授業/Fall	318
【K6154】環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	319
【K6155】環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	320
【K6156】環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	321
【K6157】環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	322
【K6160】経済地理A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	323
【K6161】経済地理B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	324
【K6162】アメリカ経済論A [河村 哲二] 春学期授業/Spring	325
【K6163】アメリカ経済論B [河村 哲二] 秋学期授業/Fall	326
【K6164】ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	327

【K6165】	ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	328
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	328
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	329
【K6168】	中国経済論A [多田 稔] 春学期授業/Spring	330
【K6169】	中国経済論B [多田 稔] 秋学期授業/Fall	331
【K6180】	ドイツ語セミナーA [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	332
【K6181】	ドイツ語セミナーB [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	333
【K6182】	フランス語セミナーB [前之園 春奈] 秋学期授業/Fall	334
【K6183】	フランス語セミナーA [前之園 春奈] 春学期授業/Spring	335
【K6184】	ロシア語セミナーA [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	336
【K6185】	ロシア語セミナーB [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	337
【K6186】	中国語セミナーA [若林 ゆりん] 春学期授業/Spring	338
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩] 秋学期授業/Fall	339
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	340
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	341
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	341
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	342
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	343
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	344
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	345
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	346
【K6227】	社会経済思想史A [鳴子 博子] 春学期授業/Spring	347
【K6228】	社会経済思想史B [鳴子 博子] 秋学期授業/Fall	348
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	349
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	350
【K6233】	社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	350
【K6234】	社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	351
【K6235】	労働経済論A [酒井 正] 春学期授業/Spring	352
【K6236】	労働経済論B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	353
【K6243】	社会保障論A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	354
【K6244】	社会保障論B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	355
【K6314】	地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	356
【K6315】	地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	357
【K6337】	マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	358
【K6338】	マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	359
【K6339】	ミクロ経済学A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	360
【K6340】	ミクロ経済学B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	361
【K6343】	マクロ経済学A [森田 裕史] 春学期授業/Spring	362
【K6344】	マクロ経済学B [森田 裕史] 秋学期授業/Fall	363
【K6345】	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	364
【K6346】	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	365
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	365
【K6571】	特別講義 (OBOG から学ぶ自由を生き抜く実践知) [田中 優希] 春学期授業/Spring	366
【K6572】	寄付講座 わが国金融の現状と課題 [寄付講座担当教員] 秋学期授業/Fall	367
【K6575】	特別講義 (ビジネス日本語A) [李 址遠] 春学期授業/Spring	368
【K6576】	特別講義 (ビジネス日本語B) [李 址遠] 秋学期授業/Fall	369
【K6577】	特別講義 (中央官庁の政策研究) [菅田 洋一] 春学期授業/Spring	369
【K6705】	日本国憲法A [榎 透] 秋学期授業/Fall	370
【K6706】	日本国憲法B [榎 透] 秋学期授業/Fall	371
【K6707】	民法一部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	371
【K6708】	民法一部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	372
【K6711】	商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	373
【K6712】	商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	373
【K6729】	簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	374
【K6730】	簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	375
【K6733】	Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	376
【K6734】	Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	377

【K6736】 Academic Research Seminar B [寺内 正典] 秋学期授業/Fall	378
【K6739】 Academic Research Seminar A [山崎 達朗] 春学期授業/Spring	379
【K6740】 Academic Research Seminar B [山崎 達朗] 秋学期授業/Fall	379
【K6749】 原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	380
【K6750】 原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	381
【K6751】 会計学入門A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	381
【K6752】 会計学入門B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	382
講義・実習科目 【L0609】 社会計画論Ⅰ [湯浅 陽一] 春学期授業/Spring	383
講義・実習科目 【L0610】 社会計画論Ⅱ [湯浅 陽一] 秋学期授業/Fall	384
講義・実習科目 【L0613】 環境倫理 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring	385
講義・実習科目 【L0614】 環境法 [井上 秀典] 秋学期授業/Fall	386
講義・実習科目 【LA107】 産業社会学Ⅰ [平野 寛弥] 春学期授業/Spring	387
講義・実習科目 【LA108】 産業社会学Ⅱ [鈴木 玲] 秋学期授業/Fall	388
講義・実習科目 【LA112】 金融システム論 [八木 勲] 秋学期授業/Fall	389
講義・実習科目 【LA202】 環境経済学Ⅰ [信澤 由之] 春学期授業/Spring	390
講義・実習科目 【LA203】 環境経済学Ⅱ [信澤 由之] 秋学期授業/Fall	391
講義・実習科目 【LA204】 環境政策論 [田中 充] 春学期授業/Spring	392
講義・実習科目 【LA205】 環境自治体論 [田中 充] 秋学期授業/Fall	393
講義・実習科目 【LA210】 社会保障法Ⅰ [曾布川 哲也] 春学期授業/Spring	394
講義・実習科目 【LA211】 社会保障法Ⅱ [曾布川 哲也] 秋学期授業/Fall	395
講義・実習科目 【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	396
講義・実習科目 【LA309】 イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	397
講義・実習科目 【LB410】 地域研究(中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	398
講義・実習科目 【LD303】 社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 斉] 春学期授業/Spring	399
講義・実習科目 【LD304】 社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 斉] 秋学期授業/Fall	400
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0061】 ホスピタリティ論 [野口 洋平] 春学期授業/Spring	401
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0062】 日本人の心理特性と文化 [長山 恵一] 秋学期授業/Fall	402
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(人文系) 【N0063】 教育学 [藤本 典裕] 春学期授業/Spring	403
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0119】 社会学特講 [左古 輝人] 春学期授業/Spring	404
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0122】 経営学 [山藤 竜太郎] 秋学期授業/Fall	404
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(社会系) 【N0123】 老年学 [新名 正弥] 春学期授業/Spring	405
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目(自然・スポーツ系) 【N0158】 ヘルスプロモーション [熊坂 隆行] 秋学期授業/Fall	406
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目 【N1058】 福祉国家論 [布川 日佐史] 秋学期授業/Fall	406
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1105】 地域文化政策論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	407
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1108】 都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	408
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1113】 国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	409
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1114】 福祉の思想と歴史 [白川 耕一] 春学期授業/Spring	409
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1115】 環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	410
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1201】 コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	411
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1207】 地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	412
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1208】 地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	413
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1209】 地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	414
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1213】 文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	415
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1216】 ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	416
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1217】 ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	417
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1221】 NPO論 [渡真利 紘一] 春学期授業/Spring	418
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1222】 居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	419
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目 【N1309】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	420
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】 大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring	421

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ: 岩田和子、講師 (ゲストスピーカー): 山本洋一郎氏他] 春学期授業/Spring	422
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	423
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	424
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	425
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6051】日本語コミュニケーションA [江村 裕文] 春学期授業/Spring	426
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6052】日本語コミュニケーションB [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	427
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	428
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	429
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6105】文芸創作講座A [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	430
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6106】文芸創作講座B [岩川 ありさ] 秋学期授業/Fall	433
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6107】日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	434
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6108】日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	435
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6109】身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	436
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6110】身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	437
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	438
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	440
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	441
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	442
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	443
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	444
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6117】行為の理論A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	445
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6118】行為の理論B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	446
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	447
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	448
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	449
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	450
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6125】古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	451
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6126】古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	452
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	453
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史B [新崎 盛吾] 秋学期授業/Fall	455
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	456
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	457
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】クエア・スタディーズA [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	458
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6132】クエア・スタディーズB [岩川 ありさ] 秋学期授業/Fall	460
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】キリスト教思想史A [酒井 健] 春学期授業/Spring	461
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】キリスト教思想史B [酒井 健] 秋学期授業/Fall	462

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6135】教養ゼミⅠ [江村 裕文] 春学期授業/Spring	463
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6136】教養ゼミⅡ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	464
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6137】異文化コミュニケーション論A [山本 ところ] 春学期授業/Spring	465
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6138】異文化コミュニケーション論B [山本 ところ] 秋学期授業/Fall	466
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6139】教養ゼミⅠ [江村 裕文] 春学期授業/Spring	467
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6140】教養ゼミⅡ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	468
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6141】教養ゼミⅠ [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	469
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6142】教養ゼミⅡ [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	470
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6201】法哲学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	471
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6202】法哲学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	473
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6203】教養ゼミⅠ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	474
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6204】教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	475
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6205】教養ゼミⅠ [水野 和夫] 春学期授業/Spring	476
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6206】教養ゼミⅡ [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	477
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6208】福祉社会論B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	478
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6209】人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	479
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6210】人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	480
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6211】文化人類学方法論A [石森 大知] 春学期授業/Spring	481
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6212】文化人類学方法論B [石森 大知] 秋学期授業/Fall	482
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6213】教養ゼミⅠ [上村 剛] 春学期授業/Spring	483
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6214】教養ゼミⅡ [上村 剛] 秋学期授業/Fall	484
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6215】人間行動学A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	485
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6216】人間行動学B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	487
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6223】教養ゼミⅠ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	489
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6224】教養ゼミⅡ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	490
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6301】自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	491
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6302】自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	492
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6305】計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	494
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6306】コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	495
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6307】確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	496
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6308】確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	497
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6309】集合論A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	498
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6310】集合論B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	499
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6311】相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	500
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6312】相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	501
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6313】現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	502
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6314】現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	503
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6315】原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	504
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6316】原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	505
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6317】教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	506
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6318】教養ゼミⅡ [島野 智之] 秋学期授業/Fall	507
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6321】教養ゼミⅠ [木原 章] 春学期授業/Spring	508

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6322】教養ゼミⅡ [木原 章] 秋学期授業/Fall	509
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	510
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6325】光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	512
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6326】光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	513
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6327】物質の科学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6328】物質の科学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	515
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6329】ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	516
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	519
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論A [植木 紀子] 春学期授業/Spring	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論B [植木 紀子] 秋学期授業/Fall	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6339】教養ゼミⅠ [中田 和秀] 春学期授業/Spring	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6340】教養ゼミⅡ [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	526
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A [アネッテ・グルーバー] 春学期授業/Spring	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B [アネッテ・グルーバー] 秋学期授業/Fall	528
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ [辻 英史、竹本 研史] 春学期授業/Spring	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ [辻 英史、竹本 研史] 秋学期授業/Fall	530
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	531
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6429】ドイツ語圏の文学A [林 志津江] 春学期授業/Spring	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6430】ドイツ語圏の文学B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	534
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	537
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [辻 英史] 春学期授業/Spring	538
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	539
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6435】留学ドイツ語A [林 志津江] 春学期授業/Spring	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6436】留学ドイツ語B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	543
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	544

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A〔落合 久夫〕春学期授業/Spring	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B〔落合 久夫〕秋学期授業/Fall	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A〔磯辺 薫〕春学期授業/Spring	547
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B〔磯辺 薫〕秋学期授業/Fall	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学A〔朝比奈 茂〕春学期授業/Spring	549
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B〔朝比奈 茂〕秋学期授業/Fall	550
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A〔落合 久夫〕春学期授業/Spring	552
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B〔落合 久夫〕秋学期授業/Fall	553
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A〔吉田 康伸〕春学期授業/Spring	554
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学B〔吉田 康伸〕秋学期授業/Fall	555
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6515】スポーツ科学A〔秋本 成晴〕春学期授業/Spring	556
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6516】スポーツ科学B〔秋本 成晴〕秋学期授業/Fall	557
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学A〔笠井 淳〕春学期授業/Spring	558
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学B〔笠井 淳〕秋学期授業/Fall	559
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6521】スポーツ科学A〔笠井 淳〕春学期授業/Spring	560
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6522】スポーツ科学B〔笠井 淳〕秋学期授業/Fall	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6523】教養ゼミⅠ〔伊藤 マモル〕春学期授業/Spring	562
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6524】教養ゼミⅡ〔伊藤 マモル〕秋学期授業/Fall	563
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6525】スポーツ科学A〔伊藤 マモル〕春学期授業/Spring	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6526】スポーツ科学B〔伊藤 マモル〕秋学期授業/Fall	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6527】教養ゼミⅠ〔伊藤 マモル〕春学期授業/Spring	569
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6528】教養ゼミⅡ〔伊藤 マモル〕秋学期授業/Fall	571
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学A〔西村 一帆〕春学期授業/Spring	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学B〔西村 一帆〕秋学期授業/Fall	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6531】教養ゼミⅠ〔林 容市〕春学期授業/Spring	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6532】教養ゼミⅡ〔林 容市〕秋学期授業/Fall	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語A〔廣松 勲〕春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語B〔廣松 勲〕秋学期授業/Fall	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ〔大中 一彌〕春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ〔大中 一彌〕秋学期授業/Fall	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ〔ジョルディ・フィリップ〕春学期授業/Spring	581
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ〔ジョルディ・フィリップ〕秋学期授業/Fall	583
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション(中・上級)A〔ジョルディ・フィリップ〕春学期授業/Spring	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション(中・上級)B〔ジョルディ・フィリップ〕秋学期授業/Fall	585
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6613】フランス語講読A〔竹本 研史〕春学期授業/Spring	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6614】フランス語講読B〔竹本 研史〕秋学期授業/Fall	587
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6701】第三外国語としてのロシア語A〔木部 敬〕春学期授業/Spring	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6702】第三外国語としてのロシア語B〔木部 敬〕秋学期授業/Fall	589

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級A〔三神 エレーナ〕春学期授業/Spring	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級B〔三神 エレーナ〕秋学期授業/Fall	591
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語A〔三神 エレーナ〕春学期授業/Spring	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語B〔三神 エレーナ〕秋学期授業/Fall	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読A〔土岐 康子〕春学期授業/Spring	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読B〔土岐 康子〕秋学期授業/Fall	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語A〔佐藤 裕子〕春学期授業/Spring	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B〔油本 真理〕秋学期授業/Fall	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A〔廣野 行雄〕春学期授業/Spring	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B〔廣野 行雄〕秋学期授業/Fall	599
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A〔周 重雷〕春学期授業/Spring	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B〔周 重雷〕秋学期授業/Fall	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳・通訳A〔葉 進〕春学期授業/Spring	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳・通訳B〔葉 進〕秋学期授業/Fall	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C〔高田 裕子〕春学期授業/Spring	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D〔高田 裕子〕秋学期授業/Fall	605
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A〔渡辺 昭太〕春学期授業/Spring	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B〔渡辺 昭太〕秋学期授業/Fall	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A〔康 鴻音〕春学期授業/Spring	609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B〔康 鴻音〕秋学期授業/Fall	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ〔岩田 和子〕春学期授業/Spring	611
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ〔岩田 和子〕秋学期授業/Fall	612
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A〔杉下 由紀子〕春学期授業/Spring	613
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B〔杉下 由紀子〕秋学期授業/Fall	614
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A〔大西 亮〕春学期授業/Spring	615
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B〔大西 亮〕秋学期授業/Fall	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A〔瓜 谷 アウロラ〕春学期授業/Spring	617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B〔瓜 谷 アウロラ〕秋学期授業/Fall	618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ〔久木 正雄〕春学期授業/Spring	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ〔久木 正雄〕秋学期授業/Fall	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A〔久木 正雄〕春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B〔久木 正雄〕秋学期授業/Fall	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台_外国語科目_4群〔選択〕外国語（英語・諸外国語）【R4281】ドイツ語コミュニケーションⅠ〔オストヴァルト・イェンス〕春学期授業/Spring	623

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コミュニケーションⅡ [オストヴァルト・イエンス] 秋学期授業/Fall	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現法Ⅰ [ウテ・シュミット] 春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現法Ⅱ [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	626
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視聴覚Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視聴覚Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4287】 時事ドイツ語Ⅰ [平松 英人] 春学期授業/Spring	629
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4288】 時事ドイツ語Ⅱ [平松 英人] 秋学期授業/Fall	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4289】 検定ドイツ語Ⅰ [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4290】 検定ドイツ語Ⅱ [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界L A [ウテ・シュミット] 春学期授業/Spring	633
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界L B [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会L A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会L B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界L A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	637
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界L B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅰ [ニコラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	640
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ [ニコラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	641
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5277】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅰ [アガエス ジュリアン] 春学期授業/Spring	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R5278】 フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ [アガエス ジュリアン] 秋学期授業/Fall	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	648
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5295】 フランス生活文化論L A [梶谷 彩子] オータムセッション/Autumn Session	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5296】 フランス生活文化論L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	652
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6211】 ロシア語4Ⅰ [木部 敬] 春学期授業/Spring	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6212】 ロシア語4Ⅱ [木部 敬] 秋学期授業/Fall	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R6213】 ロシア語4Ⅰ [土岐 康子] 春学期授業/Spring	655

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R6214】ロシア語4Ⅱ [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R6215】ロシア語5 Ⅰ [三神 エレーナ] 春学期授業/Spring	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R6216】ロシア語5 Ⅱ [三神 エレーナ] 秋学期授業/Fall	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6243】ロシアの文化と社 会L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	659
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6244】ロシアの文化と社 会L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7413】中国語コ ミュニケーション初級Ⅰ [周 重雷] 春学期授業/Spring	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7414】中国語コ ミュニケーション初級Ⅱ [周 重雷] 秋学期授業/Fall	662
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7437】資格中国語 初級Ⅰ [青木 正子] 春学期授業/Spring	663
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R7438】資格中国語 初級Ⅱ [青木 正子] 秋学期授業/Fall	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7445】中国語の世界L A [渡邊 大] 春学期授業/Spring	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7446】中国語の世界L B [渡邊 大] 秋学期授業/Fall	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7447】中国の文化と社会 L A [山本 律] 春学期授業/Spring	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7448】中国の文化と社会 L B [山本 律] 秋学期授業/Fall	668
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7449】中国の文化と社会 L C [鈴木 直子] 春学期授業/Spring	669
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7450】中国の文化と社会 L D [鈴木 直子] 秋学期授業/Fall	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8301】スペイン語 コミュニケーションⅠ [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R8302】スペイン語 コミュニケーションⅡ [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8303】時事スペイン 語Ⅰ [大西 亮] 春学期授業/Spring	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R8304】時事スペイン 語Ⅱ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8305】スペイン語の世界 L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	675
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8306】スペイン語の世界 L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	676
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9283】朝鮮語4 B Ⅰ [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	677
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語)【R9284】朝鮮語4 B Ⅱ [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	678
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R9289】朝鮮の文化と社会 L A [李 英美] 春学期授業/Spring	679
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R9290】朝鮮の文化と社会 L B [李 英美] 秋学期授業/Fall	680

LAW200AB

経済法 I

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法 I および経済法 II では、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法 I では、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【遠隔授業の実施について】

春学期の少なくとも数回はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 (1)	独占禁止法の目的および体系
第 2 回	独占禁止法の沿革 (1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第 3 回	独占禁止法の沿革 (2)	独占禁止法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第 4 回	独占禁止法のエンフォースメント (1)	組織・行政手続き
第 5 回	独占禁止法のエンフォースメント (2)	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエンス制度）
第 6 回	独占禁止法のエンフォースメント (3)	民事・刑事上の効果
第 7 回	不当な取引制限 (1)	概観、事業者概念
第 8 回	不当な取引制限 (2)	行為要件、競争の実質的制限
第 9 回	不当な取引制限 (3)	事例 (1) 価格カルテルの事例を扱う。
第 10 回	不当な取引制限 (4)	事例 (2) 入札談合の事例を扱う。
第 11 回	不当な取引制限 (5)	事例 (3) その他の事例を扱う。
第 12 回	私的独占 (1)	概観、行為要件
第 13 回	私的独占 (2)	事例 (1) 支配型私的独占の事例を扱う。
第 14 回	私的独占 (3)	事例 (2) 排除型私的独占の事例を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷したうえで講義に出席すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のいずれかを教科書として用意すること。版に注意すること。
土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第 2 版、2019 年）
岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第 9 版、2020 年）2970 円

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第 2 版）』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 %、平常点 30 点。定期試験は原則として教場試験を予定しているが、やむを得ない場合には変更する。

教場授業・遠隔授業いずれにおいても適宜リアクションペーパーの提出を求める。また小テストを実施したり、レポート課題を課したりする（1 回とは限らない）。これらはいずれも成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

経済法Ⅱ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について認識を得る。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
 事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
 事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

経済法Ⅱでは、独占禁止法による規制のうち「不正な取引方法」について学ぶ。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ、不正な取引方法（1）	概要、不正な取引方法の位置づけ
第 2 回	不正な取引方法（2）	公正競争阻害性
第 3 回	不正な取引方法（3）	取引拒絶の概要
第 4 回	不正な取引方法（4）	取引拒絶の事例
第 5 回	不正な取引方法（5）	抱き合わせの概要
第 6 回	不正な取引方法（6）	抱合せの事例
第 7 回	不正な取引方法（7）	再販売価格維持行為
第 8 回	不正な取引方法（8）	再販売価格維持行為の事例
第 9 回	不正な取引方法（9）	拘束条件付取引
第 10 回	不正な取引方法（10）	拘束条件付取引の事例
第 11 回	不正な取引方法（11）	取引妨害
第 12 回	不正な取引方法（12）	取引妨害の事例
第 13 回	不正な取引方法（13）	優越的地位の濫用
第 14 回	不正な取引方法（14）	優越的地位の濫用の事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷したうえで講義に出席すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第 2 版、2019 年）

【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選（第 2 版）』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）と定期試験（90％）による。ミニレポートを課したり、授業中の小テストを実施したりすることがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

教育法Ⅰ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取り入れていきます。

対面授業が行えない期間は、動画視聴と課題提出を組み合わせる授業を行う。初回授業は 4 月 24 日 13 時。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第 2 回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第 3 回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第 4 回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制定の生成過程について
第 5 回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第 6 回	新・教育基本法（旧法）	旧教育基本法について
第 7 回	新・教育基本法（新法）	新教育基本法について
第 8 回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第 9 回	教育権—学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通して考察する。
第 10 回	教育権—学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通して考察する。
第 11 回	教育権—教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通して考察する。
第 12 回	教育権—教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通して考察する。
第 13 回	教育権—学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通して考察する。
第 14 回	教育権—学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『解説教育六法 2020 年版』（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）
 授業内小レポート（リアクションペーパー）（40％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

LAW200AB

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取り入れていきます。

対面授業が行えない期間は、動画視聴と課題提出を組み合わせる授業を行う。初回授業は 4 月 24 日 15 時。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『解説教育六法 2020 年版』（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（40％）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

LAW200AB

法哲学 I

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見るができるようになることを本講義の目標とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学1では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求すべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	振り返りと小テスト	ここまでの振り返りと小テストを行う
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	リベラリズム対コミュニタリアニズム	リベラリズムとコミュニタリアニズムの対立を整理する
第11回	自由	J・S・ミルを中心に自由に関する議論を見る
第12回	平等	正義と平等の関係について見る
第13回	全体の振り返り	全体の振り返りと質疑応答を行う
第14回	学期末テストと解説	学期末試験を行った後、模範解答等の説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

龍川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

龍川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2018年）

平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002年）

深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書について工夫したい。

【Outline and objectives】

"Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws.

LAW200AB

法哲学Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目的とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とから成る。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題に関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	自然法論と法実証主義	法哲学における二大潮流である自然法論と法実証主義について見る
第3回	純粹法学	ハンス・ケルゼンの純粹法学を見る
第4回	法とルール (1)	H・L・A・ハートにおける内的視点と外的視点の区別に関する議論を見る
第5回	法とルール (2)	ハートにおける一次的ルールと二次的ルールに関する議論を見る
第6回	法と道徳	ハートが関わった、法と道徳に関する二つの論争について見る
第7回	ここまでのまとめと小テスト	ここまでのまとめと小テストを行う
第8回	法と解釈 (1)	ロナルド・ドゥオーキンの『権利論』を中心としてルールと原理の相違について見る
第9回	法と解釈 (2)	ロナルド・ドゥオーキンの『法の帝国』を中心として法解釈という営みについて見る
第10回	ハートの反論	ドゥオーキンに対するハートの反論を見る
第11回	法と権威	ジョセフ・ラズを中心として現代の法実証主義について見る
第12回	二つの法実証主義	排除的法実証主義と包含的法実証主義の区別を見る
第13回	権利	ホーフエルトの議論を中心として権利という概念の分析を行う
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

龍川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002年）

深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

龍川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)

小テスト (20%)

【学生の意見等からの気づき】

板書についてわかりやすく工夫したい

【Outline and objectives】

Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints.

LAW300AB

法と遺伝学 I

上杉 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」です！ また、法律学科のコース制との関係では「文化・社会と法コース」に属しています。

現代の医療・医学の中で避けては通れなくなっている領域として、遺伝医療・遺伝医学があります。細胞の中の小さな小さな物質が、今となっては私たちの生活に大きな影響を及ぼす身近なものとなっています。

たとえば…

・妊娠したので健康な赤ちゃんが欲しいから、出生前検査を受けようかしら？
・将来、病気になる可能性を知りたいから、方法は簡単だし遺伝子検査を受けようかな？

このような医療の選択肢が、既に私たちの生活の中にある状況となっています。しかし、このような遺伝子にかかわる医療介入や検査（場合によっては医療機関が関わらないサービスも含む）は、普段病院や診療所で受ける一般的な検査（レントゲン検査や血液検査）とは何が同じで、何が違うのでしょうか。違うとすれば、それはどのような特性によるのでしょうか。

このような身近な医療技術となったものへの素朴な疑問から、本講のテーマである遺伝学・遺伝医療について法や倫理の視点から考えます。

これまで新しい医療技術は、新しい法的・倫理的・社会的問題をわれわれ一般市民に問うてきました。「法と遺伝学 I」では、医療技術によって既に社会にインパクトが起こっている事象を主たるテーマに取り上げながら、遺伝学・遺伝医療について、その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか、その医療技術に

恩恵があるとすれば、それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか、といったことを「ああでもない、こうでもない」といような視点や価値観に触れながら考えることで、新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。

唯一無二の正解はありません。「ああでもない、こうでもない」と思索の旅に出てみましょう。

【到達目標】

(1) 遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び、そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら、新たな法的・倫理的課題を発見することができる。

(2) その課題を解決するための法的・政策的な解決法につき、自由に自分の考えを形成することすることができる。

(3) その自分の考えについて、様々な価値観を踏まえうえて批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

★★2020 年度春学期 オンライン授業の進め方について★★

春学期の授業はオンライン（オンデマンド方式）により 4/23 木より開始します。

■ 第 1 回目（4/23）はテキストを中心とした PDF ファイルの教材を掲載します。

■ それ以降は、スライドに解説音声を入れた動画ファイル（mp4）を掲載する予定ですが、受講生の学習（Wi-Fi）環境によってはテキスト中心の教材をしばらく継続します（遠慮なく状況を教えてください）。

■ 対面授業における講義資料に相当するものは、学習支援システムに PDF にて毎回掲載します。

■ 上記に記載の「リアクションペーパー」に相当する方法として、学習支援システム上の掲示板機能を用いて運用します。

■ お知らせ・連絡等は随時、学習支援システムにて行います。

■ 本授業のガイダンスに相当する部分は【第 0 回「法と遺伝学 I」取扱説明書】として、学習支援システムの【教材】に予め掲載します。

——以下、もともと記載のシラバス——

● 基本的には講義形式としますが、質問等、学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。

● 毎回、リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し、受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。

● DVD、新聞記事などを多用する予定です。

● 「法と遺伝学 II」（秋学期）の内容も含め、何か興味のわトピックのあった学生さんは、どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますが、どのテーマも平易な言葉での説明と展開を心掛けますので、安心して受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・法と遺伝学Ⅰ入門	法と遺伝学とは？
第2回	拳児と遺伝学	社会における出生前診断
第3回	拳児と遺伝学	医療における出生前診断
第4回	拳児と遺伝学	出生前診断の可能性と社会的課題
第5回	拳児と遺伝学	着床前診断・スクリーニングとは？
第6回	拳児と遺伝学	社会における着床前診断
第7回	拳児と遺伝学	着床前診断の可能性と社会的課題
第8回	拳児と遺伝学	生殖補助医療がもたらす家族と社会の変容
第9回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝学と人間
第10回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝性疾患と当事者
第11回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝性疾患と家族
第12回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝性疾患と社会
第13回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリングの役割
第14回	総括	現代社会が直面する法的・倫理的・社会的課題と解決策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で扱うテーマに沿って、新聞記事などで現在の社会的動向を調べ、その背景や理由について自分なりに考察すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
毎回レジュメを配布する。

【参考書】

和田幹彦編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005年刊）
山中美智子・玉井真理子・板井律子編著「出生前診断 受ける受けない誰が決めるの？」（生活書院・2017年・2,200円＋税）
★そのほか、テーマに応じて適宜講義時に論文や書籍を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出による講義への貢献（20%）

★

但し、オンライン講義による授業のため、変更する際には初回の講義の際（4/23木第1回の教材配信時に）周知します。

【学生の意見等からの気づき】

●学生の理解度・関心を確認しながら進めます。
●ビデオやDVD教材を多用する予定です。

【Outline and objectives】

“Law and Genetics I” try to think on genetics in medicine (such as prenatal / preimplantation genetic diagnosis, genetic tests) that we've faced with ELSI (Ethical Legal Social Issues) problems. And there is no “one and only” answer to these problems. Your goal is to improve your legal mind and logical thinking ability with your classmates.

LAW300AB

法と遺伝学Ⅱ

上杉 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」です！また、法律学科のコース制との関係では「文化・社会と法コース」に属しています。

「法と遺伝学Ⅰ」では、医療技術によって既に社会にインパクトが起きている事象を主たるテーマに取り上げましたが、本講では、社会へのインパクトが未知数な医療技術・科学技術をテーマに取り上げます。遺伝学・遺伝医療について、その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか、その医療技術に恩恵があるとすれば、それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか、といったことを既に経験している社会的事象から推論しながら、「ああでもない、こうでもない」とい
ろんな視点や価値観に触れながら考えることで、新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。
唯一無二の正解はありません。「ああでもない、こうでもない」と思索の旅に出てみましょう。

【到達目標】

- （1）遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び、そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら、新たな法的・倫理的課題を発見することができる。
- （2）既に社会が経験している事象からの学びをもとに、新たな技術により生じうる法的・倫理的課題を推論し検討することができる。
- （3）その課題を解決するための法的・政策的解決法につき、自由に自分の考えを形成することができる。
- （4）その自分の考えについて、様々な価値観を踏まえうえて批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 基本的には講義形式としますが、質問等、学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。
- 毎回、リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し、受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。
- DVD、新聞記事などを多用する予定です。
- 「法と遺伝学Ⅰ」（春学期）の内容も含め、何か興味のわくトピックのあった学生さんは、どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますが、どのテーマも平易な言葉での説明と展開を心掛けますので、安心して受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・法と遺伝学Ⅱ入門	法と遺伝学とは？
第2回	遺伝子解析と研究	何がどこまで分かる？
第3回	遺伝子解析と研究	遺伝情報は誰のもの？
第4回	遺伝子解析と研究	incidental findingsって何？
第5回	iPS細胞研究と遺伝子	再生医療の現在
第6回	iPS細胞研究と遺伝子	再生医療の未来
第7回	ミトコンドリアDNAとその可能性	どんな性質があるの？
第8回	ミトコンドリアDNAとその可能性	家族形成はどこまで可能？
第9回	ミトコンドリアDNAとその可能性	遺伝子工学の発展に伴う家族と法における課題
第10回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集技術とは
第11回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と社会
第12回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と人間
第13回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と種・環境
第14回	総括	遺伝学領域の先端医療技術と人間の欲望…法的・倫理的・社会的課題と解決

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で扱うテーマに沿って、新聞記事などで現在の社会的動向を調べ、その背景や理由について自分なりに考察すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
毎回レジュメを配布する。

【参考書】

和田幹彦編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005年刊）
そのほか、テーマに応じて適宜講義時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出による講義への貢献（20%）

【学生の意見等からの気づき】

- 学生さんの理解度・関心を確認しながら進めます。
- ビデオやDVD教材を多用する予定です。

【Outline and objectives】

“Law and Genetics II” try to think on genetics in medicine and genetic engineering that we are going to face with ELSI (Ethical Legal Social Issues) problems. There is no “one and only” answer to these problems. Your goal is to improve your legal mind and logical thinking ability with your classmates.

POL200AC

ジェンダー論 I

衛藤 幹子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過してきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論Iでは、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このような学びを通して、学生にはヒューリスティックにものごとを問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。本講義は、上辺の知識ではなく、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視角から政治学の中心的な概念を問い直すことをテーマに、次の4つの項目から構成されます。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治学の3つの概念をジェンダーの視角から批判的に検討し、無謬に見える概念の背後にある不平等や不正義を暴き出します。この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に適用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 支配のレジーム（体制）

ジェンダーの観点から、人が人を支配する「支配体制（regime、レジーム）」を定義するならば、それはどのような体制なのでしょう。ここでは、男性による女性の抑圧、搾取と定義し、「男性支配レジーム」と称することにします。このレジームはなぜ、いかにして形成され、発展したのか、レジームの起源に迫ります。なぜ起源を明らかにする必要があるのでしょうか。それは、起源、すなわち始まりがあるということは、いつか終わりがあることを確信できるからです。

(3) 平等の不平等

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、平等には不平等が内在しており、女性や人種や民族において少数派、性的少数派、あるいは障がいのある人びとを差別的に取り扱う元凶なのです。ここでは、リベラリズムという政治イデオロギーと平等の関係に焦点を当て、平等の否定的な本質に迫ります。

(4) 公と私、あるいは公私二元論

公と私の明確な区分は、これもリベラリズムと深く関係しています。両者を分けることは、現代社会ではとりわけ重要視され、プライバシーの保護は非常に重要な事柄です。しかしながら、政治を公的領域、家庭を私的領域と分けたことによる弊害も少なくありません。分けても、私領域に追いやられた女性は、二級市民とされ、社会で活躍する機会を奪われてきた歴史があります。この伝統は今にちにおいても残っているのでしょうか。このセクションでは、公私分断の起源とその弊害を議論します。

授業ではスライド、レジュメを随時活用します。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。授業中に、学生の意見をたびたび聞くことになります。一方、グループワークは、7～8人の小をつくり、グループ毎に授業で取り上げたテーマについて議論し、その結果を発表するという内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 データからみるジェンダー格差	様々なデータから政治、経済、社会的な男女格差をみる
第3回	社会的現実の認識 「女性」という集団の差異化	女性を一つの「社会集団」と括ることで見えてくるもの
第4回	「存在」と「名づけ」：「名づけ」の重要性	我われが今ここに存在することの意味を「名前」から考察
第5回	フェミニスト・アプローチ	「横軸の革命」としてのフェミニズムについて検討し、フェミニストのアプローチについて議論
第6回	ジェンダー概念	セックスとジェンダー
第7回	身体の支配：家父長制	ジェンダー概念の広がり可能性 女性の身体（性）の支配としての家父長制
第8回	身体の支配：家父長制	家父長制とは何か、それはどのようにして生まれ、社会に浸透したのか
第9回	労働の支配：ジェンダー役割	か女性の労働からの疎外 ジェンダー分業イデオロギーはいかにつくられ、社会に流布していったの
第10回	自由：公私二元論、女性の領分	女性の労働からの疎外 ジェンダー分業イデオロギーはいかにつくられ、社会に流布していったの
第11回	自由：公私二元論、女性の領分	公的領域と私的領域との分断と女性の市民的自由からの隔離
第12回	平等：普遍的平等の不等	公私二元論が政治理論に埋め込まれた過程の検証
第13回	平等：普遍的平等の不等	古典的自由主義と近代自由主義における平等の変化
第14回	授業内試験	近代自由主義が達成した普遍的平等を多面的に検証 持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

衛藤幹子『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近—』（政大出版局、2017年）

【参考書】

三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店、2014年）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

衛藤 幹子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過してきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。ジェンダー論Ⅰが基礎編という位置づけであるのに対し、本講義のⅡはジェンダーの視点を実際に使って政治学の課題を読み解く応用編にあたります。従って、このⅡの受講生はⅠを履修していることが望まれます。本講義では、現代政治学の中心課題の一つである民主主義に焦点を当て、民主政治の「非」あるいは「反」民主性を議論します。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このことをとおして、政治や社会の出来事を独自の視点で分析し、ヒューリスティックな解決方法を見つけ出す能力を養います。すなわち、本講義は受講生の自己開発的な知性を磨くことを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダー概念を用いて民主主義、代表制、選挙、政党、政治文化、市民社会といった政治のさまざまな局面を検討していく予定です。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的 講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	民主主義：多様性と現代民主制度	民主政治における政治的代表制の意義と限界
第3回	女性、少数派の政治代表	なぜ女性や少数派は過少代表に甘んじているのか、その要因の多面的考察
第4回	過少代表の要因（総論）	選挙制度、政党の姿勢、ジェンダー平等意識、福祉国家レジームから検証
第5回	各論（1）選挙制度	世界の選挙制度 少数派と選挙制度
第6回	各論（2）選挙制度	日本の選挙制度と女性、若者、社会的少数派
第7回	各論（3）政党	政党は候補者のゲートキーパー
第8回	各論（4）政党	日本の政党と社会的少数派
第9回	各論（5）政党	政党制度と選挙制度の相互抑制、あるいは相互促進
第10回	各論（6）政治と文化	世界価値調査からみる政治文化のトレンド
第11回	各論（7）政治と文化	日本の伝統的政治文化の影響力
第12回	市民社会と民主主義	市民社会は民主主義実践の場として期待されることが多いが、果たして市民社会は平等で自由な場なのか。
第13回	市民社会と民主主義	市民社会をジェンダーの視点から批判的に検討
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べやノート整理、紹介文献を読むことなどを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

①衛藤幹子『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近—』法政大学出版局（2017年）

②三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店（2014年）を教科書として使用します。

③講義内容の概要をレジュメ形式で記載したプリントや配布します。

【参考書】

必要に応じて、参考文献を紹介しします。なお、紹介文献については、プリントに提示しします。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（授業内、持ち込み不可）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力しします。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

都市政策 I

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

当面は下記の通り授業を行います。

- ・授業前日（月曜日）18 時までに資料と解説音声データを学習支援システムの「課題」にアップロードする。（*大学等のシステム環境が充実したときに変更することがある）
- ・基本的には時間割と同じ時間（火曜日1限）に視聴していることを想定しているが、事前に視聴しても構わない（リアルタイムでのクリッカーなどは使用しない）。
- ・視聴時間は各回の内容により異なる。視聴後は、①即日課題（授業の感想・意見等）、あるいは②一般課題のいずれかを提出するので、以下に示した通りに提出する。

①即日課題（通常のリアクションペーパーに相当）：授業後に授業内容に関する感想、意見、質問について、学習支援システムの「課題」から提出（当日中締切）

②一般課題：授業で出題された課題に関して、インターネットや居住地周辺の現地調査をした上でその結果を学習支援システムの「課題」から提出（基本的には該当週の金曜日正午締切）

・第1回講義「オリエンテーション」の内容については、授業支援システムにアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	都市とは何か	都市の成り立ちと集積
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	近代都市計画の誕生	産業革命による都市環境の変化
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地区計画	地区計画、建築協定（建築基準法）等
第 9 回	開発許可制度	制度導入の経緯、概要
第 10 回	都市計画事業	概要、土地地区画整理事業、市街地再開発事業
第 11 回	都市計画の決め方	都市計画決定、地方分権
第 12 回	都市の計画	都市計画マスタープラン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（前日までに配布資料をアップロードしします）。

・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

教員が講義で配布する資料を使う。
講義資料は講義前日までに授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

- 伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
- 饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
- 住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）
- 高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）

【成績評価の方法と基準】

評価は、即日課題、一般課題の合計（60%）と期末試験（40%）で行う。

①即日課題、一般課題の評価は下記になる。

・即日課題（授業の感想・意見等）：A：授業内容を踏まえた独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

・一般課題：A：独自の視点からの意見が掛かっている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である。また、いずれ課題も締切時間を遅延した場合には、受理するが上記の評価からさらに減点する。

②期末試験は定期試験期間に行う予定であるが、期間中の実施ができない場合には、学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を用いて行う。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

POL200AC

都市政策Ⅱ

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回レジュメや参考資料を配布し、必要に応じて、事例等の画像をプロジェクターから投影して講義を行う。また適宜参考資料等の情報提供を行う。また、自らが生活する地域の土地利用の現状を考察する課題（レポート）を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	歴史的街並みの保全・活用の取組	歴史的街並みの保全・活用の取組を生み出す背景と事例紹介
第 3 回	景観まちづくり	景観条例と景観法
第 4 回	都市デザイン	都市デザイン行政の事例紹介（横浜市）
第 5 回	住宅政策と都市構造	戦後の住宅政策、都心居住
第 6 回	空き家問題とストック活用	既存ストックを活用したまちづくり事例
第 7 回	ライフスタイルの小売業の変化	戦後の小売業の発展が都市構造に与えた影響
第 8 回	商業政策	小売業に関する規制緩和と都市構造に与えた影響
第 9 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	ユニバーサルデザイン等の概念、都市空間にて実現するための制度・事業等
第 10 回	防災まちづくり 1	都市空間における災害、防災まちづくりの手法・事例の紹介（地震・火災）
第 11 回	防災まちづくり 2	都市空間における災害、防災まちづくりの手法・事例の紹介（風水害）
第 12 回	都市再生	大都市の構造変化
第 13 回	コンパクトシティ	低成長・高齢社会における土地利用の考え方
第 14 回	公共施設マネジメント	低成長・高齢社会におけるインフラ維持・管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします（前日までに配布資料をアップロードします）。

・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教員が講義で配布する資料を使います。

講義資料は講義前日までに授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）

饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）

三船康道+まちづくりコラボレーション著「まちづくりキーワード事典」（学芸出版社）

住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）

高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、地域課題（課題は授業内で出題）に関するレポート（30%）、期末試験（40%）

*平常点評価：受講生は各回授業の最後に感想・意見などをリアクションペーパーに記入する。各回のリアクションペーパーの記載内容を評価したものを集計する。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料

等の改善を行いたい。

[Outline and objectives]

In this lecture, we examine the case of controlling space to solve regional problems.

POL200AC

コミュニティ論 I

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中では「政策・都市・行政系」に属します。「コミュニティ」及び「コミュニティ政策」とは何であるか、日本のそれはどういう特徴を持っているかを理解することが、この「コミュニティ論 I」のテーマであり、到達目標です。結論から言うと、日本の「コミュニティ」は、欧米なら地方自治体等として政治制度の中に位置づけられているはずの身近な地域単位です。それが日本では長らく民間サイドに放置されてきました。高度成長期後にこうした「コミュニティ」を再び制度化する政策が試みられ、コミュニティは政治社会の構成要素となっていきました。そして、バブル経済崩壊の 1990 年代以降の厳しい時代においては独特な役割を期待され、また新たな法制度のもとに展開してきています。本講義はこうした日本特有の身近な地域社会の構造を解明することを目指しています。

【到達目標】

コミュニティ、自治体内分権（都市内分権）、協働といった政策用語が織りなす今日の日本のコミュニティ政策の概要と、その日本の特異性を、理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

コミュニティ政策はある意味で日本に特有なものです。それを理解するためには、日本と異なった構造をもつ国や比較的類似した国との比較の視点をもつことが不可欠です。外国の状況をそれとて扱うのは「コミュニティ論 II」の課題とし、「I」では、諸外国との比較を念頭に置きつつ、コミュニティ論の基礎理論を提示し、それに基づいて日本のコミュニティとコミュニティ政策について概説します。

今期はオンライン授業が学期中続くことも想定せざるを得ません。

教材（私の書いた講義録風の資料と関連資料とからなる）を学習支援システムに、原則として毎週、アップロードし、受講者はこの資料を学習し、課題を提出します。提出された課題については、個々にメールによって、又は学習支援システムを通じて受講者全員に、私からコメントを返します。

少なくとも一部は電子会議システムによるリアルタイム双方向動画授業を行いたいと考えていますが、受講者のネット環境を確認してからにします。

4月22日水曜日を初回とします。前日までに資料を学習支援システムにアップロードします。

課題は常に、水曜日にオンラインで授業を受けた（学習支援システムの資料を学習した）あとでその週の金曜日までに提出するものとします。課題のない回もありうるものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	「地域的まとまり」の「重層構造」について、受講者の直感的な理解を掘り起こし、講義の理論的基礎を獲得する。
第 2 回	市町村合併の歴史と民間地域組織	日本はこれまで3回にわたって大規模な合併を経験した。そんなことをして大丈夫だったのだろうか。合併の結果地域運営装置を失った地域社会は民間組織である自治会・町内会を組織して地域生活を守ったことを明らかにする。
第 3 回	自治会・町内会の構造と特質	自治会・町内会の理解抜きには日本のコミュニティは語れない。日本独自の地域組織とされる自治会・町内会の基本的な性格を、これまでの社会学等の研究に基づいて整理する。
第 4 回	身近な地域社会の運営の仕組みとアクター	自治会・町内会以外にも地域には様々な団体やアクターがいる。これらを整理することを通じて、地方自治体という制度的な枠組は欠いていても、地域社会が地域運営組織を備えていることを明らかにする。
第 5 回	コミュニティ政策の開始	昭和の大合併が終わったあと日本は経済の高度成長に入り、都市化の道を歩む。その結果生じた諸矛盾の激発がコミュニティ政策を促した。その最初の時期から1970年代の様子を概観する。

第 6 回	1980年代のコミュニティ政策とその転換	1980年代のコミュニティ政策はコミュニティ・センター自主管理が主柱であった。これがバブル経済の崩壊とともに変わってくる。この様子を明らかにする。
第 7 回	日本型自治体内分権の成立	1990年代からいくつかの自治体で取組まれた新しいコミュニティ政策は、地方自治法に「地域自治区」制度が規定されるあたりからさらに加速してくる。この動きを日本型自治体内分権として捉える。
第 8 回	コミュニティ政策における「参加」と「協働」	日本の自治体内分権は、ドイツと違って、地域社会の意思決定を民主的なものにするという狙い（「参加」）よりも、地域社会に不足している公共サービスを住民自身が担うという狙い（「協働」）が強い。このことを、地域自治区制度を採用している二つの自治体を比較しつつ明らかにする。
第 9 回	日本型自治体内分権の諸類型	地域自治区制度によらず、独自の政策や条例で自治体内分権を行なっている自治体も視野に入れて、日本型自治体内分権の展開状況を整理する。
第 10 回	日本型自治体内分権と自治会・町内会	自治会・町内会は2000年前後から特有の弱体化過程に入ったと私は見る。だからこそ自治体内分権という新しいコミュニティ政策が採用されるのであるが、にもかかわらずその制度が主要にあてにしているのは自治会・町内会である。そのため自治体内分権の実践には独特な困難が伴っている。このことをいくつかの実例に則して考察する。
第 11 回	「協働」と市民活動	「協働」のパートナーとして地縁組織と並んで期待されているのがNPO等のテーマ型市民活動であるが、その特質について、私の行なったアンケート調査などに基づいて検討する。
第 12 回	機能的コミュニティ政策	「機能的コミュニティ政策」とは熟しない言葉だが、主としてコミュニティ政策として発想されたわけではないが、コミュニティ政策としての機能もっている政策のいくつかを事例研究的に検討したい。自治基本条例、地域福祉計画、協働事業提案制度などである。
第 13 回	現代日本のコミュニティ政策の総体的動向	以上を総括しつつ、現代日本で政策としてコミュニティがどのように見られ扱われているかを整理する。
第 14 回	現代コミュニティの展望	財政危機と不況の中で格差が拡大している。この状況のもとでコミュニティはどのような役割を果たせるのか、総務省や日本都市センターなどが行った全国調査をもとに私見を述べ、受講者と意見交換したい。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries, especially Germany.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習をしっかりすることが基本ですが、授業支援システムを通じて教材を事前に配布した場合には、これを前もって読んで検討しておくことが求められます。

復習をするためには、講義の最中にノートをしっかり取る必要があります。今の学生は、受講態度はまじめなのですが、教員が心配になるくらいノートを取っていません。人の言っていることを克明にメモするというのは、単に大学だけでなく、職業生活など社会の他の局面でも必ず役に立つスキルです。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。

名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社）

名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の課題を採点して判定します。内容の正しさよりも、課題を受け止めてよく調べよく考えたかどうかを重視して採点します。社会科学においては、正解が複数ある、あるいは正解がはっきりしない、という場合もよくあります。どこかにある「正解」なるものを探し、という学習態度では身につけません。

【学生の意見等からの気づき】

私が担当しているほかの授業と比べると、比較的理解しやすいと感じられているようです。自分の研究の中心的テーマなのでそれだけ内容が成熟しているのかもしれませんが、しかしこのところ変動の激しい分野でもありますので、内容をアップデートしていくことを怠りたくありません。画像や図をもっと多用して分かりやすくすることを試みたいと思います。

POL200AC

コミュニティ論Ⅱ

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中で、「政策・都市・行政」系に属する科目です。コミュニティないしコミュニティ政策は、ある意味で日本特有の現象といえます。諸外国は、日本でコミュニティ政策として処理している課題を、別な形で処理しているからです。この「コミュニティ論Ⅱ」では、諸外国（特にドイツ）との比較を正面から行なうことによって、日本でコミュニティ政策が必然化してくることを明らかにできる、普遍的な理論枠組を提示したいと思います。

【到達目標】

日本のコミュニティ政策の概略を理解した上で、こうした政策的営みが国際的に見てきわめて特異なものであることを理解し、日本社会の特異な構造の一面を考察することができるようになること。

具体的には、近代地方自治制度のもとでは、市町村こそがコミュニティを運営する基本的な仕組みであること、市町村合併を経た後コミュニティにどのような制度的枠組を付与するかで国際比較的な偏差が生ずることの理解、その中で日本はきわめて特異な経過をたどったこと、こうした理解を可能にする理論枠組である「地域的まとまり論」の理解、が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、時折受講者からの発言を求め、受講者の問題意識を共有したり、理解度や知識水準を確認したりして、授業内容が受講者の能力とニーズに合ったものにするように努めます。また、配布資料を充実させるようにし、事前事後の学習に役立つようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な地域を運営する制度には何が必要か	国民国家の中央政府の機能だけでは、民主的な意思決定とはいえないし、身近な公共サービスもきちんと行なわれない。身近な地域社会（本講義ではこれを「コミュニティ」とよぶ）にも運営組織が必要である。それが市町村であった。その制度的特徴はどこにあるかを考えて導入的序論とする。
第 2 回	市町村合併の諸相	身近な地域運営組織としての市町村はその後合併によってあまり身近でなくなる。合併はなぜ行なわれるのか、また合併後にどのような地域運営組織が保障されるのか、その諸類型を明らかにする。
第 3 回	合併後の地域運営制度 その1 小規模自治体連携制度	ドイツの農村に広く見られる、小規模自治体連携制度は、合併時代にもコミュニティの制度上の位置づけを確保する一つの制度的工夫であった。これを主としてドイツのニーダーザクセン州の「連合自治体（Samtgemeinde）」制度に即して見る。
第 4 回	合併後の地域運営制度 その2 イギリスのパリッシュとフィリピン のバランガイ	イギリスのパリッシュとフィリピンのバランガイは、市町村の中に、市町村とほぼ同等の権限と制度的仕組みをもった準自治体を形成することを可能にするやり方である。その概要を講ずる。
第 5 回	合併後の地域運営制度 その3 都市内分権	都市の場合には、都市空間の一体的管理の必要性から、都市自治体の内部に市町村並みの自立性をもった存在を許容するわけにはいかない。そこで都市内分権という制度が工夫されている。これをドイツに即して見る。
第 6 回	ドイツの都市内分権の制度的特徴と実態	ドイツの都市内分権をもう少し詳しく見る。制度と実態の双方に渡って詳しく講ずる。
第 7 回	合併後の地域運営制度 その4 日本	以上の対応から見ると、日本の行き方はきわめて特殊である。要するに何もなかったのである。この観点から、自治会・町内会の特質を位置づけ直し、次回以降の理論形成につなげる。

第 8 回	「地域的まとまり」と「領域団体」の理論史	初めに直感的理解に基づいて端的に設定した「地域的まとまり」論を精緻化していく。まず理論史をたどるべく、19世紀ドイツの法学派であるゲルマニストの「領域団体」概念から、マックス・ヴェーバーによるその社会的再構成までの理論史をたどる。
第 9 回	領域団体論の理論的構成	ゲルマニストたちやマックス・ヴェーバーなどの西欧人にとって、民間組織（自治会・町内会）だけの力で地域社会に秩序がもたらされるとは想定外であったろう。そうしたことが可能であるというアジアの観点から、「領域団体」概念をより普遍的な枠組へと構成する。
第 10 回	福祉国家体制の動揺とドイツ都市内分権の変容	現代福祉国家体制の危機は、都市内分権にも影響を及ぼしている。特にボランティアと市民活動を奨励し始めたドイツの政策がコミュニティにどのような変化をもたらす、都市内分権の権威がどのように動揺しているかを、具体的事例に即して見る。
第 11 回	都市内分権の国際比較	ドイツ以外の諸国の都市内分権やエアリアマネジメントの仕組みを総括的に比較し、日本及びドイツそれぞれの特殊性を見とく。
第 12 回	エアリアマネジメントとドイツの修復型まちづくり	ブレーメン市テネヴァー地区などを題材に、前回のテーマをもう少し実証的に掘り下げる。
第 13 回	コミュニティと法人制度	イギリスのパリッシュなど、市町村の中の一部に公法人を置く仕組みが、エアリアマネジメントとの関係で、再び注目されている。日本での議論状況をも視野に入れて考える。
第 14 回	コミュニティと住民組織	都市内分権とコミュニティのあり方の違いは、市民社会の側にある地域の基礎的な組織のあり方の違いによるのではないかと仮説に基づき、コミュニティの類型化を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習をしっかりとすることが基本ですが、授業支援システムを通じて教材を事前に配布した場合には、これを前もって読んで検討しておくことが求められます。

復習をするためには、講義の最中にノートをしっかり取る必要があります。今の学生は、受講態度はまじめなのですが、教員が心配になるくらいノートを取っていません。人の言っていることを克明にメモするというのは、単に大学でだけではなく、職業生活など社会の他の局面でも必ず役に立つスキルです。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

講義の各回に扱うテーマについての文献はその都度示しますが、全体に関わる私の著作として次のものを挙げておきます。

名和田是彦『コミュニティの法理論』（創文社）

名和田是彦編著『コミュニティの自治』（日本評論社）

特に後者は、共同研究者とともに作った本で、欧米やアジアのコミュニティについても論じています。やや高価ですが図書館で読むことができます。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行うことを基本とします。市町村というコミュニティ運営の基本的な近代的仕組みが、市町村合併を経てどのように「コミュニティ政策」に置き換わったかを理解すること、この置き換わりの国際比較の中の日本の特殊性を理解すること、そしてこれを表現する理論枠組である「地域的まとまり」論を理解すること、がポイントです。

【学生の意見等からの気づき】

外国のことや理論的なことを扱うので、「コミュニティ論Ⅰ」よりもとっつきが悪いようですので、工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. In this lecture I focus on an international comparison of Japanese community policy with that in European, American and Asian countries, especially Germany so that students can understand the characteristics of the Japanese community policy as well as the Japanese society itself.

POL200AD

公共哲学 I

名和田 是彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科の科目の中で「理論・歴史・思想系」に属します。「公共」と「公共哲学」はともに最近注目されてきた言葉です。「公共」についての関心が深くならざるを得ない社会背景があると考えられます。そうした社会背景も含めて「公共」というものの基本的な考え方を理解することがこの授業のテーマです。

今年度は、4月27日月曜日を第1回目とし、オンライン授業を開始します。前日までに学習支援システムに資料をアップロードします。電子会議システムによるリアルタイム双方向の動画授業を少なくとも一部において導入したいと考えていますが、受講者のそれぞれのネット環境を確認してからとします。

【到達目標】

「公共」の基本的な意味、社会における「公共」の現象形態、歴史的变化、現代における「公共」の構造、「市民社会」という概念との関連、を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

当面オンライン授業を行います。上記の通り、電子会議システムによるリアルタイム双方向動画授業を導入したいと思っていますが、受講者のネット環境を確認してからとします。

原則として、通常の授業日（月曜日）の前の日に資料を学習支援システムにアップロードします。受講者はそれを学習し、課題を課している場合は原則としてその週の水曜日までに学習支援システムを通じて提出するものとします。

提出された課題に対しては、メールによって提出者個人に、又は学習支援システムを通じて受講者全体に、コメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	命題について	公共哲学的議論で使用される実践的規範的命題の性格について考え、この授業の入り口のウォーミングアップとする。
第2回	近代国家の基本原理 その1 ホッブズの政治思想	ホッブズの政治思想を見ることによって、今日の国家の基本原理の基礎を考えていく。通常の授業の2回分くらいの学習内容と考えている。
第3回	近代国家の基本原理 その2 ロックの政治思想	ロックの政治思想を見ることによって、今日の国家の基本原理の基礎を考えていく。
第4回	大衆民主主義政治体制と福祉国家	ホッブズやロックの考えた近代国家の基本的枠組みを基礎としながら、その後西欧型の民主主義国家がどのような様相を持つに至ったかを見る。通常の授業の2回分程度の内容であると考えている。
第5回	ジョン・ロールズの正義論	現代の福祉国家体制の正統性を論証する代表的な政治理論としてロールズの正義論を見る。

第6回	ハーバーマスの「市民的公共」分析	「市民的公共」の成立と変容過程についてのハーバーマスの議論を検討する。
第7回	古典古代的公共の構造とハンナ・アレント	近代とは異なった社会構造のもとで、政治的自由や公共がどのような姿を示すかを、アリストテレスに沿って考え、こうした枠組みに共感したアレントの公共論について考える。
第8回	国家と市民社会	西欧古代・中世の政治構造から、市場社会の展開によって近代的な構造へと変化する様を、「国家」とは区別された「市民社会」という概念が生成する歴史に沿って考える。
第9回	市民社会概念の現代的変容	ヘーゲル以後の「市民社会」概念の変容（あるいは衰退）と1980年代における再生を考える。
第10回	カント『啓蒙とは何か』を読む	カントの有名な論文である「啓蒙とは何か」の全文を読んでみたい。「理性の公的使用」とはなんであるかを考えるのが主たる狙いであるが、名作の全体を読む経験を持つことも重視したい。
第11回	現代日本の公共の状況	再び現代日本の状況に戻り、「新しい公共」という言説と政策理念について考える。
第12回	公共の場の再建の試み	「公共」の根源的意味を「公共の場」に見る立場から、現代日本のその方向の実践として交流拠点づくりを考察する。
第13回	質疑応答	学習支援システムを通じて適宜行う。
第14回	全体講評	個々の課題へのコメントのほか、全体を通じて今期の受講者の理解の仕方を踏まえて、補足的なコメントを行うことを考えている。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文書資料のみによるオンライン授業の場合は、アップされた資料をよく読み、課題が課されている場合はこれに取り組んでください。電子会議システムによるリアルタイム双方向動画授業の場合は、通常の授業と同様に、毎回授業後に復習をしてほしい。そのためには授業で克明にノートを取る必要があります。今の学生を見ていると、まじめに聞いているがほとんどノートを取っていない人が多いのが気になります。

事前に授業支援システムを通じて教材をアップロードした場合は、予習としてこれを読んで検討してください。

それから、下に挙げた参考文献のうち一冊は読んでみてほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

以下のものを挙げておきます。少なくとも一冊は読んでみてください。

これ以外の参考書は、授業中に適宜紹介します。
ユルゲン・ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）
リチャード・セネット『公共性の喪失』（晶文社）
ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫）
斎藤純一『公共性』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

各回に課題を課します（課題のない回もありうるものとします）ので、課題が月曜日に出されたら、その週の水曜日までに学習支援システムを通じて提出してください。これを採点することによって成績を評価します。提出物の内容的正しさよりも、よく調べよく考えたかどうかのほうをより重視して採点します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学的な議論はどうしても抽象的に感じられて難しいと受け止められるようです。公共論と市民社会の概念史とを分離してⅠとⅡに区分してきましたが、これを再編成しているところです。すなわち、Ⅰでは、Ⅱとの区別をあまりにも強く意識しすぎて、「市民社会」概念について深入りすることを避けてきましたが、もう少し相互浸透的に構成したいと思います。

【Outline and objectives】

One of the most fundamental concepts of political philosophy "public" has been recently much discussed not only in the academic but also in the political context. The social and political background of this situation as well as some fundamental concepts of public philosophy are to be lectured and discussed with the students.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
ドイツ連邦共和国基本法についての基本的な理解を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

内容としては、演習形式で、ドイツ語の文章を精読します。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関する文法事項およびまたは訳を述べることを求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	3.1 節「予備考察」	および講読
	3.2 節「基本法の構成」	講読
第3回	3.3.1 節「前文および基本法1条」	講読
第4回	3.3.2.1 節「防衛権」	講読
第5回	3.3.2.2 節「人格の自由」	講読
第6回	3.3.3 節「その他の自由の保障」	講読
第7回	3.4.1 節「民主主義国家としての連邦共和国」	講読
第8回	3.4.2 節「社会国家としての連邦共和国」	講読
第9回	3.4.3 節「法治国家としての連邦共和国」	講読
第10回	3.4.4 節「連邦国家としてのドイツ」	講読
第11回	3.5 節前半「ドイツ再統一」	講読
第12回	3.5 節後半「ドイツ再統一」	講読
第13回	3.6 節「基本法と欧州連合」	講読
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を予習することが必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Michael Becker 『Grundstrukturen der Politik in der Bundesrepublik』(Verlag Barbara Budrich, 2011) の第3章「基本法」を購読します。該当箇所は、プリントして配布する予定です。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on political science.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎に関わるドイツ語の教科書を読み、学術的なドイツ語の読解力を身につける。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。
ドイツの社会における意志形成のプロセスについて基本的な理解を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

演習形式で、ドイツ語の文章を精読します。
担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名されたものは、その文章に関する文法事項および/または訳を述べることを求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび 4.1 「利益、組織化された利害および政治」	オリエンテーション
第 2 回	4.1.1.1 「利益、組織および組織化された利益」	講読
第 3 回	4.1.1.2 「組織化された利益の機能」 および 4.1.2 「歴史的観点」 前半	講読
第 4 回	4.1.2 「歴史的観点」 後半 および 4.1.3.1 「経済と労働」	講読
第 5 回	4.1.3.2 「社会分野」 および 4.1.3.3 「文化、政治および宗教分野」	講読
第 6 回	4.1.3.4 「余暇分野」 および 4.1.4.1. 「利益団体と政治制度」	講読
第 7 回	4.1.4.2 「組織化された利益の政治制度への取り込み」 および 4.1.5 「国家の利益団体と欧州連合」	講読
第 8 回	4.2.1 「政党の法律上の制度および政党の組織」	講読
第 9 回	4.2.2 「社会におけるコンフリクトおよび政党制度」	講読
第 10 回	4.2.3 「ドイツ連邦共和国で重要な諸政党」 前半	講読
第 11 回	4.2.3 「ドイツ連邦共和国で重要な諸政党」 後半	講読
第 12 回	4.2.4 「意志形成と政党における政治」	講読
第 13 回	4.2.5 「連邦共和国は政党国家なのか」	講読
第 14 回	まとめ	講読およびまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習を行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Michael Becker 『Grundstrukturen der Politik in der Bundesrepublik』 (Verlag Barbara Budrich, 2011) の第 4 章「諸団体および社会的意志形成のプロセス」を購読します。
該当箇所は、プリントして配布する予定です。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。
独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価 100 %

平常点には、予習・準備の出来具合が大きな割合を占めます。

課題となるテキスト、独和辞典、文法書は必ず持ってきてください。平常点の構成要件になります。

また積極的な参加も平常点の加算要素とします。

出席要件：

特段の事情（インフルエンザなど）なしに 5 回欠席すると自動で単位を取得できなくなります。

また、独和辞典および教科書を持参してください。持参しない場合は、欠席したものとみなします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading a German textbook on political science.

POL300AD

アメリカ政治外交史

森 聡

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面上における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。本授業の開始日は、4月21日とする。具体的な授業方法などは、学習支援システムで提示する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は、学習支援システムで告知する。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、今回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," *Asia Pacific Review*, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号(2016年4月)、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年(日本アメリカ学会清水博賞受賞)。
など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL300AD

現代のアメリカと世界

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦以降のアメリカの世界戦略や外交に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。ハリー・トルーマン政権からドナルド・トランプ政権までのアメリカ外交の歴史的展開を辿り、各政権の世界観がどのように変遷してきたのかを解説する。

【到達目標】

・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できる能力を身につける。
・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多元的なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できる能力を身につける。
・また、歴代政権の対外政策の連続性と変化を理解し、その要因について仮説を立てられる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による授業とする。(なお、履修者数が少ない場合には、教員の判断でゼミに準じた形式を導入する可能性もある。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカの対外関与	アメリカの対外関与のパターン
第2回	アメリカの国際秩序観	一国主義とリベラル国際主義の起源と融合
第3回	冷戦の起源とアメリカ	アメリカによる戦後秩序構想
第4回	冷戦期の封じ込め戦略(その1)	トルーマン政権の初期封じ込め戦略と NSC68
第5回	冷戦期の封じ込め戦略(その2)	アイゼンハワー政権のニュールック戦略と、ケネディ・ジョンソン政権の柔軟反応戦略
第6回	冷戦期の封じ込め戦略(その3)	ニクソン・フォード政権のデタント外交と、カーター政権の対外政策
第7回	冷戦期の封じ込め戦略(その4)	レーガン政権の巻き返しと、ブッシュ I 政権の対外政策
第8回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略(その1)	クリントン政権の対外政策
第9回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略(その2)	ブッシュ II 政権の対外政策
第10回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略(その1)	オバマ政権の対外政策
第11回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略(その2)	オバマ政権の対アジア戦略
第12回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略(その3)	トランプ政権登場の背景
第13回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略(その4)	トランプ政権の対外政策
第14回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略(その5)	トランプ外交の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)により評価する。(履修者数が20名に満たない場合には、レポート課題に切り替える可能性がある。)

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭で、前回の要点を振り返る。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
 <研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
 <主要研究業績>
 ・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
 ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
 ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
 ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。
 ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
 ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）など

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide class participants with specialized knowledge relating to U.S. foreign policy after the Second World War, and thereby enable them to deepen their understanding of the politics of foreign policy-making, and gain practical knowledge related to decision-making and implementation of U.S. foreign policy. The course will illustrate U.S. diplomacy from the Truman administration to the Trump administration, and point out the global outlook of successive postwar U.S. administrations.

POL100AC

A Short Introduction to Japanese Politics

衛藤 幹子

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to study an overview of contemporary Japanese politics. The course will teach you the basic knowledge of Japanese politics, focusing on the legislative system, legislators/lawmakers, elections, political parties and policy-making. It will also discuss Japan's democracy from gender perspectives. Japan has advanced socio-economically since surrendering to the Allies in August 1945. Amongst non-Western nations, Japan is the most successful in terms of building a stable democratic regime, modernizing society, and achieving high economic growth. Democracy in Japan has developed steadily. However, the Japanese project of democracy is not yet fully done. There are many flaws in Japan's democratic regime. Of them, here, two problems will be highlighted: one is an extremely low turnout of young Japanese; and the other is that the proportion of Japanese female legislators lags far behind many other countries including non-Western developing countries. Why are younger generations inactive in visiting polling stations? What causes women's under-representation? In this class, I encourage you to look for the answers to these questions in your ways, though I will give you some hints. You are further expected to find solutions to these problems and to consider a way of developing Japanese democracy more. With these regards in mind, I attempt to provide you with fresh viewpoints of Japanese politics and society.

【到達目標】

The course pursues three goals. First, you will acquire knowledge and information about part of Japanese politics — unfortunately, it will be able to cover only a part of Japanese politics. The second goal is to learn a way of thinking socio-political circumstances surrounding Japanese people, specifically women and young people, through political lens. Finally, the course attempts to stimulate your interests in Japanese politics. Hopefully, the course could open up a door to your further study of Japanese politics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

The course will employ the so-called participatory style of learning, where you need to be actively involved in the class discussion. I will first talk about the subject for 60 minutes. Subsequently, you will discuss a topic that I give you with your fellow students for 20 minutes. The discussion will be conducted by group or pair. The remaining time will be used for your presentation. I distribute you materials that I will use in advance, so that you should read it before the class to make a preparation of the discussion. I hope you are ready for your questions and comments on my talk.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outline, Procedure, Assignment
2	Legislative System	Brief History, International Comparison, National and Local Legislatures
3	Legislators/Lawmakers	Roles of legislators, Representatives and the Represented, How to be a legislator
4	Elections, Part 1	Electoral Rules, Brief History, International Comparison, Reforms
5	Elections, Part 2	Effects of Electoral Rules
6	Effects of Electoral Rules	Roles of Political Parties, Brief History, International Comparison
7	Political Parties, Part 2	Party Politics, Incumbency, Ruling Party, Oppositions
8	Policy-Making Process, Part 1	Procedure of Policy-Making, Ministry, Bureaucracy
9	Policy-Making Process, Part 2	Lawmakers vs. Bureaucrats, Controversial History, International Comparison
10	Level of Japanese Democracy	International Comparison, Identification of the level of Japanese Democracy

11	Turnout	International Comparison, Low Level of Japanese Younger Generations, What Causes the Problems
12	Women's Presence in Legislature	International Comparison, Changes of the Proportion of Female Legislators at the National and local Levels
13	Ideas for Problem-Solving	Providing your Ideas to improve the low turnout of young Japanese and the underrepresentation of women
14	Questions and Answers	Summing up all the topics, Asking Questions, Introducing your Essay's Subject

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Carefully read the distributed materials in advance and think about your questions and comments. Review what you have studied in the class. I recommend you to take more than two hours for your preparations and revisions for the course.

【テキスト（教科書）】

There is no special text book for this lecture. However, I will use slides that show outlines of my talk, together with statistical materials, i.e. tables and graphs and then. If necessary or available, I will distribute their hard copies to you

【参考書】

1. Mikiko Eto, "Women and Representation in Japan: The Causes of Political Inequality", International Feminist Journal of Politics, Vol. 12: No. 2, June 2010.
2. Mikiko Eto, "Making a Difference in Japanese Politics: Women Legislators Acting for Gender Equality", Harvard Asian Quarterly, Vol. XIV: No. 1&2, Spring/Summer 2012.
3. Mikiko Eto, "Gender Problems in Japanese Politics: A Dispute over a Socio-Cultural Change towards Increasing Equality", Japanese Journal of political Science, Vol. 17: No. 3, August 2016)
4. Mikiko Eto, "Diverse Voices and Democratic Policymaking: What Causes Japan's Nuclear Phase-Out Plan to Fail?", Journalism and Mass Communication, Vol. 6: No. 6, June 2016.

【成績評価の方法と基準】

Presentation and discussion (30 %)
Essay (70%)

【学生の意見等からの気づき】

The students in the previous semester enjoyed discussing with one another. I will continuously stimulate you to be involved in class discussions.

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study an overview of contemporary Japanese politics. The course will teach you the basic knowledge of Japanese politics, focusing on the legislative system, legislators/lawmakers, elections, political parties and policy-making. It will also discuss Japan's democracy from gender perspectives. Japan has advanced socio-economically since surrendering to the Allies in August 1945. Amongst non-Western nations, Japan is the most successful in terms of building a stable democratic regime, modernizing society, and achieving high economic growth. Democracy in Japan has developed steadily. However, the Japanese project of democracy is not yet fully done. There are many flaws in Japan's democratic regime. Of them, here, two problems will be highlighted: one is an extremely low turnout of young Japanese; and the other is that the proportion of Japanese female legislators lags far behind many other countries including non-Western developing countries. Why are younger generations inactive in visiting polling stations? What causes women's under-representation? In this class, I encourage you to look for the answers to these questions in your ways, though I will give you some hints. You are further expected to find solutions to these problems and to consider a way of developing Japanese democracy more. With these regards in mind, I attempt to provide you with fresh viewpoints of Japanese politics and society.

LAW200AB

法学特講（現代中国の法と社会 I）

牟 憲魁

授業形式：講義 | 開講セメスター：サマーセッション/Summer Session

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業・経営と法コース（商法中心）、企業・経営と法コース（労働法中心）、裁判と法コース、行政・公共政策と法コース、国際社会と法コースおよび文化・社会と法コースの選択科目であり、憲法、民法法を中心として現代中国の法と社会の特徴を解説する。授業の目的は、中国の政治、経済、社会、文化などについての基礎的な知識を学ぶことである。

【到達目標】

到達目標は、中国の社会について法の側面から理解を深め、所属コースを履修するための基礎となる能力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメ・資料を配布する予定。質問応答と議論も交えながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本的人権	人権の観念、少子高齢化対策
第 2 回	憲法の解釈と適用	憲法解釈権、憲法と裁判
第 3 回	統治システム	国家構造、地方制度
第 4 回	全人代と国務院の関係	全人代、常務委員会、国務院
第 5 回	民法の編纂	民法総則、人格権法
第 6 回	物権法	物権変動のルールと不動産取引、不動産税と地方財政
第 7 回	債権法	債権総則の要否、契約法、不法行為法
第 8 回	家族法	婚姻慣行、夫婦財産制、親子、相続
第 9 回	会社法	コーポレートガバナンス、個人の創業
第 10 回	労働法	シェアリングエコノミー時代の労使関係
第 11 回	知的財産法	知財裁判、知財法学部
第 12 回	メディアと法	ファン経済、個人による生放送、SNS と電子商取引
第 13 回	刑事法	犯罪構成要件、刑事政策、治安・防犯対策
第 14 回	教育と法	大学の運営、法曹養成、外国人留学生支援策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国法入門（第 8 版）』（高見澤磨・鈴木賢・宇田川幸則・坂口一成 有斐閣、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（1 回）40 % 及び平常点 60 % により行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture introduces basic knowledge of Chinese law focusing on constitutional law and civil law, and explains the law and society of modern China.

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2020 spring semester, classes will start on 22 April (Wednesday)(4th period). Please register using 学習支援システム（履修するためには、4月20日までに学習支援システムで仮登録して下さい）。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム（教材や授業のやり方などについては学習支援システムを見て下さい - お知らせ、教材などを参照）。

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance

6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance
10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.

・Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.

・United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2013: The Rise of the South, Human Progress in a Diverse World. New York: UNDP, 2013

・鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017

・笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治—文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016年

・鈴木佑司・後藤一美（編著）『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』（法政大学現代法研究所叢書30）、法政大学出版局、2009年

・国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書 2013：南の台頭—多様な世界における人間開発」、2013年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【Outline and objectives】

As written above.

POL200AD

国際協力講座

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

この授業は国際社会の平和と安定および持続可能な開発を推進するための日本政府や各国政府、国際機関、市民社会団体、民間企業、メディアなどを含むアクターによる協力・協調における様々な役割と活動について理解を深める。また、国際社会でのアクター同士の対話や連携を通じての国際協力活動についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は毎回異なる講師によるオムニバス形式の授業である。講義は講師によって、日本語、英語のどちらかで行われる。近年の国際協力活動は従来に比べ、より多様なアクターが関わっており、アクター間の連携によるグローバル・パートナーシップも推進されてきている。国連総会で 2015 年に採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」および持続可能な開発のための目標 (SDGs) の実施と達成においても、多様なアクターの連携が重要となる。この授業では、日本政府、国際機関、市民社会団体・NGO、民間企業、メディアなどから講師を迎え、それぞれの立場から国際協力に關する役割・活動と課題および他のアクターとの協力・連携についての講義を行う。これらを通じて、現在の国際協力・国際協調の在り方や課題を総合的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第 2 回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第 3 回	持続可能な開発のための 2030 アジェンダと Sustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第 4 回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODA の実務家による講義と質疑応答
第 5 回	国際協力機構 (JICA)	JICA 職員による講義と質疑応答の役割、活動と課題
第 6 回	国際協力機構 (JICA)	JICA 職員による講義と質疑応答の緊急援助活動と課題
第 7 回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第 8 回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答

第 9 回	国際協力における市民社会団体・NGO の役割、活動と課題 (保健衛生分野)	保健衛生分野の NGO の職員による講義と質疑応答
第 10 回	国際協力における市民社会団体・NGO の役割、活動と課題 (ジェンダー平等分野)	ジェンダー平等と女性のエンパワメント分野の NGO の職員による講義と質疑応答
第 11 回	国際協力における民間企業	民間企業による講義と質疑応答
第 12 回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第 13 回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第 14 回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメ、資料を適宜配布する。

【参考書】

- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしの SDGs への取り組み』国際書院、2018 年
- ・勝間靖（編著）『入門 国際開発論、貧困をなくすためのミレニアム開発目標へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2012 年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第 3 版』有斐閣選書、2016 年
- ・外務省『開発協力大綱』、2015 年
- ・西垣昭・下村泰民・辻一人『開発援助の経済学—共生の世界と日本の ODA』第四版、有斐閣、2009 年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODA の終焉』勁草書房、2017 年
- ・ブルース・ジェンクス、ブルース・ジョーンズ（編著）『岐路に立つ国連開発、変容する国際協力の枠組み』、人間と歴史社、2014 年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Bruce Jenks and Bruce Jones, United Nations Development at Crossroads, New York University Center on International Cooperation, 2014

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) と筆記試験 (80%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL100AD

グローバル・ガバナンス

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐる議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に応用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた「分野」、ガバナンスに参加する「行為主体（アクター）」、ガバナンスの「手段」に注目する。そして、グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

現在のところ、5月連休明けまでは支援システムを用いて授業を行う。詳しくは、学習支援システム上にあるこの科目の「お知らせ」を読んでください。

【到達目標】

- ・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付けることができる。
- ・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進める。毎回の授業後にリアクション・ペーパーの提出を求める。

現在のところ、5月連休明けまでは支援システムを用いて授業を行う。詳しくは、学習支援システム上にあるこの科目の「お知らせ」を読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス	授業の目的と進め方、グローバリゼーションとは？
2	ガバナンスの概念の登場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効な分析概念	国際規範、価値、視座とは？
4	ガバナンスの実践①国	開発ガバナンス I 際開発援助分野 (1)
5	ガバナンスの実践②国	開発ガバナンス II 際開発援助分野 (2)
6	ガバナンスの実践③人	人権ガバナンス 権分野
7	ガバナンスの実践④地	環境ガバナンス I 球環境分野 (2)
8	ガバナンスの実践⑤地	環境ガバナンス II 球環境分野 (2)

9	ガバナンスの実践⑥保 健全分野	感染症ガバナンス
10	ガバナンスの実践⑦人	人の移動をめぐるガバナンスの移動
11	ガバナンスの実践⑧安 全保障分野 (1)	集団安全保障体制
12	ガバナンスの実践⑨安 全保障分野 (2)	軍縮ガバナンス I
13	ガバナンスの実践⑩安 全保障分野 (3)	軍縮ガバナンス II
14	まとめ	ガバナンスの有効性、限界、課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を寄せること。授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料は毎回配布する。

【参考書】

- ・山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。
 - ・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010年。
 - ・山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
 - ・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年。
 - ・世界地図。
 - ・Rosenau, James N. and Ernst-Otto Czempiel, eds., *Governance Without Government: Order and Change in World Politics*, Cambridge University Press, 1992.
 - ・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., *The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance*, Columbia University Press, 2013.
- その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するコメントペーパー 20%と学期末試験 80%のウエイトで成績評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究
 <研究テーマ>
 国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
 <主要研究業績>
 主な著書として、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：「スマート・サンクション」の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,」 *East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues* (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。

【Outline and objectives】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with “global issues” and learn that many diversified international actors have made efforts to solve these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called “global governance.” Students will understand how the international community tries to formulate, keep, and manage “global governance” today.

POL300AD

地球環境論Ⅱ

授業形式： | 開講セメスター：秋学期

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）と期末試験（90％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、今後の世界のあり方を激変させると言われている。世界の片隅で起きた感染が日本を含む先進国に大きな打撃を与えたことで、国際社会が一致団結してこの困難に立ち向かうことの重要性は明白になったが、米中の対立や先進諸国間の思惑の違いなどで、国際社会が一致できるかはますます不確実となっている。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月8日（金）とする。具体的なオンライン授業の進め方などを、5月1日までに学習支援システムで提示する。

制約はあるが、出来るだけインターアクティブな授業としたい。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：	講義の目的と概要、成績評価方法等の説明
2	途上国問題とは何か①	「途上国」とはどのような国々なのか、そこでは、何が、なぜ問題になっているのかを、「先進国」と対照しながら考える。
3	途上国問題とは何か②	「途上国」と総称される国々は非常に多様な存在である。途上国をいろいろな視点からカテゴリ分け（新興国や低所得国等の経済力による分類、地域による分類、紛争後からの復興を目指す諸国等の課題による分類等）しながら、途上国が直面する多様な課題を掘り下げて分析する。
4	途上国問題の歴史①	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、米ソ冷戦終結前までの国際政治経済史に位置づけながら考える。
5	途上国問題の歴史②	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、冷戦終結以降の国際政治経済史に位置づけながら考える。

6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を旨とした技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	ロールプレイング・ゲーム：途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	授業内容の振り返りと総括	これまでに学習したことを振り返ったうえで、今後学習すべきことを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の採用に伴い、成績評価の方法・基準を変更する必要があるの、具体的な内容を授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生参加の度合いを高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権誕生やブレグジットに象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争の続発と環境問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考へ、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性がある（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36%という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。

- | | | |
|----|------------------------|--|
| 5 | 途上国が直面する多様な課題④ | 1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。 |
| 6 | 開発思想と援助手法① | 「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。 |
| 7 | 開発思想と援助手法② | 「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。 |
| 8 | 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序① | これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。 |
| 9 | 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序② | 2015年に採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を読み、2000年に策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。 |
| 10 | 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③ | 「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行(AIIB)等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。 |
| 11 | 日本の政府開発援助(ODA)の特徴① | 第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。 |
| 12 | 日本の政府開発援助(ODA)の特徴② | 日本のODAは借金を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。 |
| 13 | 日本の政府開発援助(ODA)の特徴③ | 2015年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱(1992年制定、2003年改訂)」と比較しながら読み解く。 |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括 | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。 |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー(A4サイズで2枚以内)を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する(シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開:途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊:開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題(70%)およびディスカッションへの積極的参加の度合い(30%)によって成績を評定する予定であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

オセアニアの政治と社会 I

長島 怜央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアにおける人類進出や植民地主義・グローバル化の展開を確認したあと、現代のオセアニアの人びとが経験しているさまざまな社会問題や社会現象を取り上げる。オセアニア（とくに太平洋の島々）は日本に暮らす私たちとは縁遠い地域であり、そこには私たちとかなり異なる生活や考え方をしている人びとがいると思われるかもしれない。そうした考えを完全に覆すことはできないが、ある程度は否定していくことが本科目の目的である。単に文化の違いとして片付けられがちなことを、歴史的な背景も踏まえて理解する。また、植民地主義やグローバル化のなかでオセアニアの人びとが抱えている諸問題を見ていくことを通して、私たち自身に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・オセアニアの歴史に関する基本的知識を身につける。
- ・オセアニアに関する学習を通して、グローバル化や植民地主義に関する理解を深める。
- ・オセアニアにおける個々の社会問題や社会現象を歴史的背景から理解する。
- ・日本社会においてオセアニアの島々がどのように表象・認識されてきたかを批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに：オセアニアとは何か	オセアニア（太平洋地域）の地理・歴史・政治・経済
2	オセアニアへの人類の進出と暮らし①	人類はなぜ、どのようにして海に出て、広がっていったのか。どのような社会や文化があったのか／あるのか
3	オセアニアへの人類の進出と暮らし②	オセアニアの人びとはどのように暮らしているか。食・嗜好品、海との関わりはどのようなものか（映像を交える）
4	オセアニアからみた大航海時代	オセアニアはヨーロッパ人によって「発見」されたのか。海と島は誰のものか。探検家や宣教師たちはどのようにやってきたのか
5	近代世界システムのなかのオセアニア	ハワイはなぜアメリカになったのか。太平洋におけるプランテーションや捕鯨船を生き抜いた人びとについて考える
6	開発と先住民・移民	先住民と移住者にとっての植民地主義とレイシズム
7	先住民のアイデンティティと権利	人びとの意識がなぜ、どのように変わったのか。先住民の権利とは何か。それに対するバックラッシュをどう考えるか
8	娯楽	文化と植民地主義の問題について考える
9	踊りと歌	なぜフラを踊るのか。「伝統的」なダンスやチャント（詠唱）は本物か、偽物か。太平洋芸術祭も取り上げる
10	言語復興運動	先住民言語の衰退と復興。なぜ衰退した言語を再び用いるのか
11	タトゥー（イレズミ）①	なぜタトゥーをするのか（入れるのか）
12	タトゥー（イレズミ）②	日本におけるタトゥー文化の受容や観光への影響について考える
13	日本における表象、イメージ	私たちはオセアニアの島々をどのように認識してきたか。おもに観光とメディアについて考える
14	まとめ	授業の総括を行うとともに、参加者の考えや理解を改めて共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習・復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・石原俊『〈群島〉の歴史社会学——小笠原諸島・硫黄島、日本・アメリカ、そして太平洋世界』（弘文堂、2013年）
 - ・井上昭洋『ハワイ人とキリスト教——文化の混淆とアイデンティティの再創造』（春風社、2014年）
 - ・小林泉ほか監修『[新版] オセアニアを知る事典』（平凡社、2010年）
 - ・中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための58章』（明石書店、2012年）
 - ・増田義郎『太平洋——開かれた海の歴史』（集英社、2004年）
 - ・矢口祐人『ハワイの歴史と文化——悲劇と埃のモザイクの中で』（中央公論新社、2002年）
 - ・山本真鳥編『オセアニア史』（山川出版社、2000年）
 - ・山本真鳥・山田亨編『ハワイを知るための60章』（明石書店、2013年）
 - ・山中速人『ハワイ』（岩波書店、1993年）
 - ・山中速人『ヨーロッパからみた太平洋』（山川出版社、2004年）
 - ・吉岡政徳監修『オセアニア学』（京都大学学術出版会、2009年）
 - ・吉岡政徳・石森大知編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』（明石書店、2010年）
- ※その他のものは授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を、試験前だけでなく、予習・復習でしっかりと読むことによるような仕組みを考えます。

【Outline and objectives】

This class will study the history of colonialism and globalization in Oceania and examine contemporary social problems and phenomena the people of Oceania have experienced. The major objective of this class is to develop an understanding of society, culture and politics in Oceania from the perspective of colonialism and globalization.

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅱ

長島 怜央

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オセアニアのなかでも、日本のすぐ南に広がるミクロネシアと呼ばれる地域をおもな対象とする。前半では、日本の植民地支配やアジア太平洋戦争の歴史を確認し、戦後日本社会におけるそれらの記憶の問題を取り上げる。後半では、戦後に軍事基地や核実験場となっていくオセアニア、とくに太平洋の「アメリカの湖」としての側面に注目する。アメリカの政治的・経済的な支配のもと、ミクロネシアは軍事的に重要な役割を担わされていく。ミクロネシアについて学ぶことは、日本との深い歴史的関係性や、アジア太平洋地域における安全保障や軍事に関する諸問題の理解を深める点から重要である。

【到達目標】

- ・ミクロネシアと日本の歴史的関係を深く知る。
- ・戦後日本社会における記憶の観点からミクロネシアを理解する。
- ・冷戦期・ポスト冷戦期におけるアメリカの安全保障政策のなかにミクロネシアを位置づけることができる。
- ・軍事基地・核実験場となった地域の人びとの経験を理解するように努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で資料やレジュメを配布し、映像資料を活用しながら進める。参加者には毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業への積極的な参加（発言等）を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オセアニアのなかの「ミクロネシア」	ミクロネシアとはどのような地域か（その歴史や日本との関わり）。近年の日本との関わり深い出来事について紹介する
2	日本とアメリカの太平洋進出	「南洋」とは何か。アメリカはなぜ海洋帝国となったか
3	日本の南洋群島統治のはじまり	日本は太平洋の島々をどのように統治したか
4	南洋群島統治の実態①	産業、教育
5	南洋群島統治の実態②	移民と現地住民の関係
6	アジア・太平洋戦争のなかのミクロネシア	戦場となった島々における現地住民と日本人移住者の経験はどのようなものだったか。なぜ多くの犠牲者が生まれたのか
7	戦場の体験と記憶	戦後の人びとの南洋群島やグアムへの関心から、植民地支配や戦争の記憶の問題を考える
8	残留日本兵	戦後、元兵士たちはどのように経験を語ったか。残留日本兵たちはどのような経験をしたか。元兵士たちは、現地社会や日本社会でどのように受け止められたか
9	収容所と引揚げ	引揚者や復員兵の戦後
10	「アメリカの湖」、核の海	国際連合の戦略的信託統治領となったあと、脱植民地化に向かっていくミクロネシアを見ていく。「アメリカの湖」となったオセアニアにおける植民地主義と軍事の関係について考える
11	社会の軍事化	グアム、ハワイ、沖縄に見られるように、太平洋の島々では軍事基地化が進められてきた。社会の軍事化という観点から、軍事基地と人びとの暮らしについて考える。
12	米軍の現在	21世紀に入って、米軍は太平洋における存在感をますます高めようとしている。沖縄からオセアニア各地への海兵隊移転などについて考える
13	「アメリカの湖」における中国	近年の中国の海洋進出でオセアニアにどのような変化が生じているか
14	まとめ	授業の総括を行うとともに、参加者の考えや理解を改めて共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習・復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・印東道子編『ミクロネシアを知るための60章【第2版】』（明石書店、2015年）
 - ・中原聖乃・竹峰誠一郎『核時代のマーシャル諸島』（凱風社、2013年）
 - ・竹峰誠一郎『マーシャル諸島 終わりになき核被害を生きる』（新泉社、2015年）
 - ・長島怜央『アメリカとグアム——植民地主義、レイシズム、先住民』（有信堂高文社、2015年）
 - ・前田哲男『非核太平洋 被爆太平洋——新編 棄民の群島』（筑摩書房、1991年）
 - ・松島泰勝『ミクロネシア——小さな島々の自立への挑戦』（早稲田大学出版部、2007年）
 - ・キース・L. カマチヨ『戦禍を記念する——グアム・サイパンの歴史と記憶』（岩波書店、2016年）
 - ・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック『転換期の日本へ——「パックス・アメリカナ」か「パックス・アジア」か』（NHK出版、2014年）
 - ・チャルマーズ・ジョンソン『アメリカ帝国の悲劇』（文藝春秋、2004年）
 - ・デイヴィッド・ヴァイン『米軍基地がやってきたこと』（原書房、2016年）
- ※その他のものは授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を、試験前だけでなく、予習・復習でしっかりと読むことになるような仕組みを考えます。

【Outline and objectives】

The main field of this class is a region called Micronesia in Oceania. In the first half we will study the history of Japanese colonial rule in Micronesia and the Asia-Pacific War, and examine memories of colonial rule and war in Micronesia. We will then look at how Oceania became military bases and nuclear test sites. The major objectives of this class are to develop a critical understanding of the relationship between Micronesia and Japan, and issues of security and military in the Asia-Pacific region.

POL300AD

国際機構論 I

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations I”, students will learn about the definition, roles, categories, functions, and history of international organizations. They will learn about the role of the United Nations (UN) and how various UN agencies tackle key global issues, including international peace and security, economic and social development, human rights, and humanitarian assistance. UN’s activities to support the achievement of the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) will be examined. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the conditions and circumstances that led to the creation of international organizations as well as their role in the world. Their understanding will be particularly enhanced on the unique role of the UN as well as their strengths and limitations by examining the function of its principal organs and various UN agencies. The students will also understand how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2020 spring semester, classes will start on 21 April (Tuesday)(3rd period). Please register using 学習支援システム (履修するためには、4月20日までに学習支援システムで仮登録をして下さい)。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム (教材や授業のやり方などについては学習支援システムにアップロードしますので見て下さい - お知らせ、教材、課題などのセクションを参照)。

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to international organizations	Definition and roles of international organizations

2	Types of international organizations	Different categories and functions of international organizations
3	Background of international organizations	History of international organizations
4	The League of Nations	The League of Nations, success and shortcomings
5	Foundation of the United Nations (UN) System	Charter of the UN; purposes and principles of the UN
6	UN System and its structure	UN structure, its principal organs and decision making
7	UN General Assembly	Role of UN General Assembly
8	Conflict prevention and Security Council	UN’s role in conflict prevention
9	Peacekeeping and Security Council	UN’s role in peacekeeping
10	Peacebuilding	UN’s role in peacebuilding
11	Economic and social development	UN’s role in economic and social development
12	Humanitarian assistance	UN’s role in humanitarian assistance
13	Human rights	UN’s role in human rights, Human Rights Council
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations (42nd Edition). United Nations Publication, New York, 2017.

・ Clive Archer, International Organizations, Fourth edition. London and New York: Routledge, 2015.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、関西学院出版会、2018

【参考書】

・ 植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018年）

・ 横田洋三（監修）『入門 国際機構』（法律文化社、2016年）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵（編著）『国際機構論 総合編』（国際書院、2015）

・ 内田孟男（編著）『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, second edition. Palgrave MacMillan, 2012.

【成績評価の方法と基準】

Class participation(30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

POL300AD

国際機構論Ⅱ

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations II” (which follows “International Organizations I”), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Role of international organizations (IO)	IO as global actors
2	Role of Member States	Relationship between Member States and UN
3	Role of civil society	Relationship between civil society and UN
4	Role of private sector	Relationship between the private sector and UN
5	Regional organizations	Relationship between regional organizations and UN
6	Sustainable development	2030 Agenda and SDGs
7	UN Secretariat	Role of UN Secretariat
8	Global governance	UN and global governance

9	Human security	Role of UN in human security
10	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
11	UN and Japan	Japan's role in the UN
12	Multilateralism	Multilateralism and UN
13	UN reform	Progress and issues in UN reform
14	Summary and review	Review of course contents

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Besides those listed below, other materials will be assigned in class.

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations, 42nd Edition. United Nations Publication, New York, 2017.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2018

【参考書】

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.

・ 植木安弘 『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018）

・ 山田哲也『国際機構論 入門』（東大出版会、2018）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵 編著『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）

・ 内田孟男 編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 I

朴 廷鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、朝鮮半島の歴史を古代から現代に至るまで概説することで、韓国と北朝鮮の成り立ちについて説明を行う。また、日本をはじめ周辺国との関連性も言及することで、朝鮮半島という「空間」を歴史的な観点から浮き彫りにする。

【到達目標】

本講義を通じて、韓国と北朝鮮に対する基本的な史実を習得することを第一目的とする。最終的には、相対的な観点をもつことで相手を理解し、建設的な議論ができるような素養を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月29日とし、この日までに具体的なオンライン作業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	開講にあつて	韓国・北朝鮮とは
第2回	古代史	古朝鮮、三国時代、統一新羅
第3回	中世史	高麗
第4回	近世史	朝鮮
第5回	近代史	大韓帝国、植民地
第6回	分断体制の成立	軍政、大韓民国・北朝鮮の誕生
第7回	東アジアの冷戦	朝鮮戦争
第8回	戦後の南北体制	李承晩政権、金日成体制
第9回	政治体制の転換	4・19革命、5.16軍事クーデター
第10回	権威主義体制 1	朴正熙政権
第11回	権威主義体制 2	全斗煥政権
第12回	民主化と文民政府	盧泰愚・金泳三政権
第13回	進歩政権	金大中・盧武鉉政権
第14回	保守政権	李明博・朴槿恵政権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画など）を見てくるように求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊明編『朝鮮の歴史：先史から現代』昭和堂、2008年。

【参考書】

1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年。
2. 『(新版) 韓国 朝鮮を知る事典』平凡社、2014年。
3. 韓国史事典編纂会・金容権編著『(第3版) 朝鮮韓国近現代史事典 1860～2012』日本評論社、2012年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

This course aims to help students understand the political system and it situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 II

朴 廷鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、韓国と北朝鮮の政治、経済、社会システムの基礎的な知識を概説することにする。基礎的な知識を得ることで、韓国・北朝鮮を総体的に見ることが出来る。

【到達目標】

本講義を通じて、韓国と北朝鮮に対する基礎的な知識を習得することを第一目的とする。最終的には、相対的な観点をもつことで相手を理解し、建設的な議論ができるような素養を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の政治制度、経済制度、社会問題、文化などを分析する。主に講義による授業を行うが、場合によっては、写真、動画などの映像記録物を用いて、講義の内容の理解を深めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	韓国の政治 1	特徴、構成、役割
第2回	韓国の政治 2	大統領・国政・地方選挙
第3回	韓国の経済 1	特徴、歴史、構造
第4回	韓国の経済 2	政府・財閥の役割
第5回	韓国の文化	ハングル、年中行事、食文化
第6回	韓国の社会問題 1	教育問題、不動産問題
第7回	韓国の社会問題 2	地域対立、格差問題、多文化社会
第8回	韓国の安全保障	徴兵制、米韓同盟、武器開発と輸出
第9回	北朝鮮の政治	特徴、構成、役割
第10回	北朝鮮の経済	特徴、歴史、経済開発と特区
第11回	北朝鮮の社会問題	食料事情、脱北者問題
第12回	北朝鮮の安全保障	徴兵制、通常戦力、核・ミサイル開発
第13回	南北関係	歴史認識の問題、領土問題、慰安婦・徴用工問題
第14回	日韓問題	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 森山茂徳『韓国現代政治』東京大学出版会、1998年。
2. 磯崎敦仁、澤田克己『(新版) 北朝鮮入門』東洋経済新報社、2017年。

【参考書】

『(新版) 韓国 朝鮮を知る事典』平凡社、2014年。
授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the economic, social and culture system of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AC

現代政策学特講 I（千代田区）

宮崎 伸光

授業形式：講義 | 開講semester：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、「政策・都市・行政」分野に属し、実習を中心とする 2 単位科目である。法政大学市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて沖縄大学（那覇市）・名桜大学（名護市）および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（略称「千代田区キャンパスコンソ」）に参加する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学で受講を希望する学生とともに発見し、考察する。

本講の受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅱ（沖縄）」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎的な知識を身につける。

そして現地実習や課題解決型授業によって地域の特性や魅力を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は宮崎が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。オータムセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査を実施した後は、グループごとのプレゼンテーションを予定し、最終的には、各受講生が調査実習報告レポートを取りまとめて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	授業の進め方および目的を理解する。
①		
第 2 回	オンデマンド事前学習	オンデマンド授業を活用し、現地調査に必要な知識に関する講義を受講する。
②③		
第 3 回	現地実習（千代田区内 ④⑤：初日）	・千代田区内の調査対象地を訪ねるとともに「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等に関する講義を受講する。
第 4 回	現地実習（千代田区内 ⑥⑦：2 日目）	・千代田区内の調査対象地を訪ねるとともに、千代田区の政策と取組みに関する講義を受講する。
第 5 回	現地実習（千代田区内 ⑧⑨：3 日目）	・千代田区内の調査対象地を訪ねるとともに、都市開発について東京と沖縄の比較に関する講義を受講する。
第 6 回	現地実習（千代田区内 ⑩⑪：4 日目）	・千代田区内の調査対象地を訪ね、グループ別にそれぞれの課題に応じた聞き取り調査を実施する。

第 7 回 グループワーク・プレゼンテーション（法政大学）

グループごとに、地域の課題解決や発展に関するプレゼンテーションを行う。

第 8 回 事後実習

⑭

・各自調査実習報告レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間ではおそらく足りない。現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題 (30%)、現地調査における積極性 (20%) や、調査実習報告レポートの内容 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（沖縄）

宮崎 伸光

授業形式：講義 | 開講semester：スプリングセッション/Spring Session

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、「政策・都市・行政」分野に属し、実習を中心とする2単位科目である。本講は、沖縄大学（那覇市）・名城大学（名護市）および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（略称「千代田区キャンパスコンソ」）に参加する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学で受講を希望する学生とともに、沖縄でフィールドワーク（現地調査）を行う。調査は、沖縄本島に離島を加えて実施し、それぞれの歴史・文化を理解し、地域社会の政策課題を考察するとともに、本島と離島の文化・産業の違い等を体感して比較の視点をもって研究を進めることを目指す。

本講の受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎的な知識を身につける。

そして現地実習や課題解決型授業によって地域の特性や魅力を理解し、さらに自ら政策課題を発見して解決策を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は宮崎が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。スプリングセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査を実施した後は、グループごとのプレゼンテーションを予定し、最終的には、各受講生が調査実習報告レポートを取りまとめて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前学習	授業の進め方および目的を理解する。
①		
第2回	オンデマンド事前学習	オンデマンド授業や課題図書を活用し現地調査に必要な知識に関する講義を受講し、課題レポートを提出する。
②		
第3回	現地実習（沖縄本島：初日）	・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義を受講する。
③		
第4回	現地実習（沖縄本島：2日目）	・調査対象地を訪ねるとともに「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義を受講する。
④⑤		
第5回	現地実習（沖縄本島：3日目）	・那覇周辺や戦跡をフィールドとした現地調査を行う。
⑥⑦		
第6回	現地実習（離島・未定：4日目）	・離島に移動し「歴史と政策」に関する講義を受講する。
⑧		

第7回 現地実習（離島・未定：5日目）

・調査対象地を訪ねるとともに、当該離島の「商業・観光振興の課題と取り組み」に関する講義を受講する。

第8回 現地実習（未定6日）

⑪⑫ 日）

・グループワーク

・グループ別に調査結果をとりまとめ、報告の準備をする。

第9回 現地実習（未定7日）

⑬ 日）

・グループごとに、沖縄の魅力創出ないし政策課題の解決をテーマとするプレゼンテーションを行う。

第10回 事後学習

⑭

・各自調査実習報告レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間ではおそらく不足する。現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題（30%）、現地調査における積極性（20%）や、調査報告レポートの内容（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Okinawa Prefecture.

LAW200AB

法律学特講（現代中国の法と社会Ⅱ）

解 志勇

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は裁判と法コース、行政・公共政策と法コース、企業・経営と法コース（商法中心）、企業・経営と法コース（労働法中心）、国際社会と法コースおよび文化・社会と法コースの選択科目であり、行政法を中心として現代中国の法と社会の特徴を解説する。

授業の目的は、中国の裁判、行政、社会、文化などについての基礎的な知識を学び、司法改革と行政改革の動態を捉えることである。

【到達目標】

到達目標は、中国の社会について法の側面から理解を深め、所属コースを履修するための基礎となる能力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代中国法の入門講義であるが、できるだけ、社会事情や判例・事例も適宜に紹介し、質問応答と議論も交えながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	司法改革	裁判所、検察庁、弁護士
第 2 回	行政不服審査法の改革	審査機関、審査手続
第 3 回	行政訴訟	行政訴訟の運用、行政裁判所、国家賠償
第 4 回	陳情制度の改革	陳情の受付機関、陳情の手続き
第 5 回	監察制度の改革	監察機関、監察手続
第 6 回	立法法	行政立法権、地方立法権、経済特区の立法権
第 7 回	法による行政	行政許可、行政指導、行政手続
第 8 回	土地法の改革	土地所有権、土地使用権、不動産市場
第 9 回	農村と法	三権分離への農地改革、戸籍制度の改革
第 10 回	都市と法	高速鉄道、地下鉄、ホテル、文化財と名所
第 11 回	携帯電話と法	Wechat、支付宝
第 12 回	医療と法	医師紛争、感染症対策、医療費
第 13 回	インターネットと法	インターネット運営にかかわる企業責任、個人情報保護
第 14 回	社会福祉と法	児童と高齢者の権利保護、スポーツ法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国法入門（第 8 版）』（高見澤磨・鈴木賢・宇田川幸則・坂口一成 有斐閣、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（1 回）40 % 及び平常点 60 % により行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture introduces basic knowledge of Chinese law focusing on administrative law, and explains the law and society of modern China.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学教科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Ernst Cassirer: Die Philosophie der Aufklärung (カッシーラー『啓蒙主義の哲学』) の購読を予定している。同書でカッシーラーは、ヨーロッパ近代における啓蒙主義の顕現について、幅広い領域において記している。本購読では政治領域における啓蒙主義について述べている同書の第六章 Recht, Staat und Gesellschaft (「法、国家および社会」) をさしあたり読むこととする (I ではその第一節 Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte (「法の理念と不可譲な基本権の原理」)。II ではその第二節 Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften (「社会契約の思想と社会科学の方法」)。
その際に、死後に英語の草稿を刊行した『国家の神話』をも、副読本としてとりあげる。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備情報	導入
2	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
3	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
4	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
5	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
6	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
7	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte	購読
8	前半の内容	ふりかえり

9	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte 法の理念と不可譲な基本権の原理	購読
10	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte 法の理念と不可譲な基本権の原理	購読
11	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte 法の理念と不可譲な基本権の原理	購読
12	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte 法の理念と不可譲な基本権の原理	購読
13	Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte 法の理念と不可譲な基本権の原理	購読
14	後半の内容	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、ドイツ語を母語とする者が著した同分野についての文献を購読する。その際、ドイツ語のテキストを主とするか、和訳を主とするかは、受講者のドイツ語力によって決める。

現時点では Ernst Cassirer: Die Philosophie der Aufklärung (カッシーラー『啓蒙主義の哲学』) の購読を予定している。同書でカッシーラーは、ヨーロッパ近代における啓蒙主義の顕現について、幅広い領域において記している。本購読では政治領域における啓蒙主義について述べている同書の第六章 Recht, Staat und Gesellschaft (「法、国家および社会」) をさしあたり読むこととする (I ではその第一節 Die Idee des Rechts und das Prinzip der unveräußerlichen Rechte (「法の理念と不可譲な基本権の原理」)。II ではその第二節 Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften (「社会契約の思想と社会科学の方法」)。

その際に、死後に英語の草稿を刊行した『国家の神話』をも、副読本としてとりあげる。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備情報	導入
2	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
3	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
4	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
5	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
6	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
7	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
8	前半の内容	ふりかえり
9	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読

10	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
11	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
12	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
13	Der Vertragsgedanke und die Methodik der Sozialwissenschaften 社会契約の思想と社会科学の方法」	購読
14	後半の内容	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture

POL300AC

外国書講読（仏語） I

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語と評論、文章のタイプは論述文です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあります。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

重要：授業開始は 4 月 27 日です。第 1 回の課題や教材については学習支援システム上で指示します。

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいきます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら、日本語訳の出していない原書の文章を読めるようにします。

尚、授業の最初に単語集によって発音練習と動詞活用の復習を行います（教室授業が可能になった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論の抜粋	講読
8	評論の抜粋	講読
9	評論の抜粋	講読
10	評論の抜粋	講読
11	演説文の抜粋	講読
12	演説文の抜粋	講読
13	演説文の抜粋	講読
14	総括	到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配信します。受講者の関心が一致すれば教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。同時にフランスが日本の社会、歴史、文化をどのように捉えているのかを理解します。

【到達目標】

春学期と同様、中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本について書かれたフランス語のエッセイ、評論、新聞記事の抜粋を訳読します。初めはゆっくりしたペースで進め、少しずつ読むペースを上げていきます。

尚、授業の最初に単語集によって発音練習と動詞活用の復習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	エッセイ	講読
3	エッセイ	講読
4	エッセイ	講読
5	説明文	講読
6	説明文	講読
7	説明文	講読
8	評論文	講読
9	評論文	講読
10	評論文	講読
11	新聞記事	講読
12	新聞記事	講読
13	新聞記事	講読
14	総括	到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
 ・文章を音読する練習も行うこと。
 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。受講者の関心が一致すれば教科書を指定することもあります。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AD

日本の政治と社会Ⅰ

平良 好利

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1940 年代から 1960 年代までの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、敗戦から復興、政党政治の始動、55 年体制の成立、天皇制と日本社会、大衆運動の高揚、高度経済成長と日本社会の変容、アメリカ統治下の沖縄社会などを詳しく検討し、戦後システムの形成を考察する。

【到達目標】

1940 年代から 1960 年代までの日本の政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は春学期期間中すべてオンデマンド型で実施します（但し、状況によっては対面授業に切り替えます）。教材は毎週土曜日 3 限の少し前（12 時 50 頃）に学習支援システムにアップロードします。教材はレジュメ（PDF）とそのレジュメに沿った講義の音声データ（MP3 ファイル）を使用します。詳しくは、4 月 25 日（12 時 50 分頃）に授業の進め方に関する音声データを学習支援システムにアップロードします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（4 月 25 日）に教材をアップロード。以下、同じ	本授業の全体的概要と授業の進め方等について説明する。
第 2 回	敗戦国日本の出発（5 月 2 日）	敗戦を機に日本の政治と社会がどのように始動したのかを考察する。
第 3 回	天皇退位問題（5 月 9 日）	天皇の退位問題から日本の政治と社会を考える。
第 4 回	日本国憲法の制定（5 月 16 日）	日本国憲法の制定プロセスから日本政治を考える。
第 5 回	占領期の政治と社会（5 月 23 日）	占領期の政治と社会を多角的に考察する。
第 6 回	講和と日本の独立（5 月 30 日）	講和・安保条約の締結と日本政治の展開について考察する。
第 7 回	1950 年代の日本社会（* 課題研究、5 月 30 日に教材をアップロード）	1950 年代の日本社会を多角的に考察する。
第 8 回	保守合同（6 月 6 日）	自由民主党の結成プロセスを考察する。
第 9 回	日本社会党の再統一（6 月 13 日）	講和期に分裂した日本社会党の再統一プロセスを考察する。
第 10 回	安保改定と政党政治（6 月 20 日）	安保改定をめぐる自民党内派閥闘争を考察する。
第 11 回	60 年安保闘争（6 月 27 日）	安保闘争を多角的に考察する。
第 12 回	高度経済成長期の政治と社会（* 課題研究、6 月 27 日に教材をアップロード）	高度経済成長期の政治と社会を多角的に考察する。
第 13 回	米軍統治下の沖縄社会（7 月 4 日）	米軍統治下の沖縄社会を考察する。
第 14 回	沖縄における日本復帰運動（7 月 11 日）	1960 年代に沖縄で展開された日本復帰運動を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、毎回、授業の最後に次の授業に備えた準備学習について提示するので、それを行うこと。2、授業が終わったら復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回教材を配布する。

【参考書】

教材の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（42 %）、平常点（42 %）、レポート（16 %）
 詳しくは、4 月 25 日（12 時 50 分頃）にアップロードする音声データで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will consider Japanese politics and society between the 1940s and the 1960s from multiple viewpoints. In particular, we will examine in detail Japan's defeat and recovery, the start of politics with political parties, the establishment of the 1955 system, the emperor system and the Japanese society, the rise of mass movement, the high economic growth and the transformation of Japanese society, and the society of Okinawa under American rule, and examine the formation of Post-war System in Japan.

POL300AD

日本の政治と社会Ⅱ

平良 好利

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1970年代から現在に至るまでの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、55年体制の崩壊と日本政治の流動化、低成長時代の政治と社会、日本政治の保守化、自民党政治の持続と変容、民主党政権、人口減少と日本社会、沖縄と本土の溝などを詳しく検討し、戦後システムのゆらぎを考察する。

【到達目標】

1970年代から現代までの政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等について説明する。
第2回	自民党と派閥	自民党の派閥について多角的に考察する。
第3回	自民党の組織構造	自民党の組織構造と意思決定プロセスを多角的に考察する。
第4回	日本復帰後の沖縄社会	日本復帰後の沖縄社会の展開を考察する。
第5回	55年体制の崩壊	55年体制の崩壊プロセスとその意味を考える。
第6回	自社連立政権	自社連立政権の成立とその意味を考察する。
第7回	1990年代の政治と社会	1990年代の政治と社会を多角的に考察する。
第8回	自民党政治の変容	小泉純一郎の政治行動に焦点をあてながら自民党政治の変容を考える。
第9回	民主党政権と政治主導	民主党政権と政治主導について多角的に考察する。
第10回	民主党政権とマニフェスト	民主党政権とマニフェストについて多角的に考察する。
第11回	日本政治の保守化	日本政治の保守化について多角的に考察する。
第12回	沖縄と本土の溝	米軍基地問題から沖縄と本土の関係を考察する。
第13回	人口減少時代の政治と社会	人口減少時代の政治と社会の諸課題を検討する。
第14回	戦後システムのゆらぎとポスト戦後システム	戦後システムのゆらぎとポスト戦後システムを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、指定された文献等を事前に読んでおくこと。2、授業が終わったら復習をすること。3、レポートの作成を求める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、レポート（30%）、期末試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will examine Japanese politics and society from the 1970s to the present from multiple viewpoints. In particular, we will examine in detail the collapse of the 1955 system and the mobilization of Japanese politics, politics and society in the low growth era, conservative shift of Japanese politics, the continuation and transformation of the Liberal Democratic Party politics, the Democratic Party of Japan Government, population decline and Japanese society, and the political gap between Okinawa and mainland Japan, and examine the swaying of Post-war System in Japan.

POL200AC

協同組合論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学教科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバル化が加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か—協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心とした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 01 回	①開催あいさつ ②ガイダンス	①主催者の開催あいさつ ②本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ③世界の多様な協同組合、社会的連帯経済の実践例と生活クラブ運動に触れ、営利企業や行政が解決できぬ課題、公共政策への挑戦を学びます。
第 02 回	協同組合法制の変遷と今日的課題	1948 年に制定された生活協同組合法は 2008 年に大きな改正がされました。しかしその後も社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	食を取巻く課題と協同組合の役割	生活クラブ生協の事業と運動の取り組みを、具体的な食品問題（添加物、農業、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。さらに、消費者、生産者の立場から、食の安全、農業保護などについてグローバル経済システムの視点を踏まえた問題提起を行います。
第 04 回	地域づくりを拓く協同組合	働く人たちがつくる協同組合であるワーカーズ・コレクティブ実践と協同組合地域協議会の連系を学びます。
第 05 回	地域福祉における非営利・協同の可能性	地域が主体的にまちづくりに取り組むこと目的とした、「市民版地域福祉計画」の策定を地域協議会に呼びかけ、必要なしくみづくりに自ら問題意識を持って取り組む主体を広げるために地域の活動を支援している活動を紹介します。

第 06 回 女性たちが担う新しい働き方の可能性—サブシステムズ・ワーカーとは—

労働組合でも NPO 法人でもアンペイドワークでもない、ワーカーズ・コレクティブとは何か。世界的にも、人間らしい働き方ディーセント・ワークが求められていて、いのちの維持をベースにおいて、労働の自由度をひろげながら生産と流通、そして地域の共生の関係を紡ぎ直す「サブシステムズ」の概念を踏まえ、その理論と意義を学びます。

第 07 回 食を中心とした生活提案とまちづくり

日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きい。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりを学びます。

第 08 回 貧困とまちづくりへの挑戦—空き室調査から

貧困と福祉課題を背景とした空室調査とまちづくり課題を紹介します。

第 09 回 市民によりエネルギー自給の可能性を探る—エネルギーの共同購入

生活クラブのエネルギー自給の取り組みの背景と課題を研究者の立場から論じます。

第 10 回 市民金融によるコミュニティ・エンパワーメント

お金に意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取り組みを紹介します。

第 11 回 協同組合と若者——韓国の事例から

韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、その現状を紹介します。

第 12 回 市民の政治参加とインターネット選挙

生活クラブ・生活者ネットの政治運動の経験と実践、インターネット選挙の実験を学びます。

第 13 回 市民による公共政策実現のプロセス—食品安全条例の直接請求と制定過程

1 人の市民・生活者として石けん運動や地下水の保全運動を進めているなかで、生協活動の仲間によるボランティア選挙で都議に当選し、都議会で「食品安全条例」制定などを経験し、現在市民参加型の社会を創るための福祉、環境、自治の分野における調査研究活動に取り組むなど、生活者運動と政策実現に向けた政治参加の経験と実践を紹介します。

第 14 回 全体まとめワークショップ

13 回の諸座を踏まえ、協同組合のビジョンおよび問題提起を受け、非営利・協同セクターへの理解、見識を深めることを目的に、グループに分かれてワークショップを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布します。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

①ミニレポートによる評価：講座の感想、意見をもとにミニレポート（100 字～200 字程度）の作成を毎回、講座終了前に行い、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木曜5限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルティン・ハイデガーの思想の形成過程について学びます。彼はキリスト教の信仰のあり方を問い直すことから出発し、キリスト教への古代ギリシア哲学の影響を見極めるべく、まずはアリストテレス研究へと向かいました。そしてそのなかで、西洋形而上学の歴史がある隠された基礎をもっていることに気づき、主著『存在と時間』でそのことを明らかにしようとした。しかもこの一連の過程においてハイデガーは、一貫して、同時代の有力な哲学潮流の一つであった現象学の手法を用いています。

このように、ハイデガーの『存在と時間』へと至る道は、複数の要素が独特な仕方一つになることによって形成されています。この授業では、その形成過程を見届けることを通じて、ハイデガーがいかにして同書を著すに至ったかを理解することを目指します。

【到達目標】

(A) ハイデガーの思想において、キリスト教、アリストテレス哲学、現象学という三つの要素がいかに結びついているかを理解する。

(B) ハイデガーがいかにして主著『存在と時間』を著すに至ったのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

追記（4月13日）：春学期の少なくとも前半は、オンラインで授業を行います。具体的な授業の進め方は学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、必ず仮登録をして、その説明を読んでから受講してください。なお本授業の開始日は4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方と概要の説明
第2回	リッカート批判①	新カント派のリッカートの認識論
第3回	リッカート批判②	それへのハイデガーの批判
第4回	ハイデガー I	リッカート批判から見てとれるハイデガーの最初期の現象学的哲学
第5回	フッサール	フッサールの現象学との比較
第6回	ハイデガー II	ハイデガーが得たいくつかの成果
第7回	アウグスティヌス①	ハイデガーの『告白』第10巻解釈
第8回	アウグスティヌス②	ハイデガーがアウグスティヌスから受け取ったもの
第9回	アリストテレス①	ハイデガーのアリストテレス解釈
第10回	アリストテレス②	ハイデガーのアリストテレスにたいするアンビヴァレントな立場
第11回	デカルト	ハイデガーのデカルト解釈
第12回	ハイデガー III ①	『存在と時間』の哲学
第13回	ハイデガー III ②	これまでの歩みがいかに結実しているか
第14回	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業中に指示される参考書に目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末レポートが50%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問や発言を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。

追記（4月13日）：オンラインで授業を行う期間は、成績評価の仕方も変更します。こちらも学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で説明していますので、そちらをご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の関心にも配慮した説明を心がけます。

【Outline and objectives】

We will study the early history of the formation of Martin Heidegger's thought. He departs from the problem of Christian faith and heads for the study of Aristotle in order to investigate the influence of ancient philosophy on Christianity. In this investigation, Heidegger finds out that the history of Western metaphysics is based on a hidden ground, and goes on to attempt to lay bare it in his main book Being and Time. Moreover, throughout these early stages of development, Heidegger consistently uses the method of phenomenology, one of the most influential contemporary schools of philosophy at that time. In summary, Heidegger's way to Being and Time is formed by several elements uniquely merged together. In this course, by seeing this process of development, we aim to understand how Heidegger's early attempt ends up Being and Time.

PHL200BB

科学哲学 1

中釜 浩一

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相（必然、偶然、可能、不可能）の概念は、現代の哲学の理解にとって必須の概念上の装置である。科学哲学 1 では、様相概念の意味の理解と、それに関わる論理に習熟することを目指す。

【到達目標】

様相論理学の基本的概念、タブロー法を用いた証明のテクニックを学び、様相概念とそれに関わる哲学的議論との理解を深める。この講義では通常の命題論理 P C と様相論理体系 K と T とを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

P C と K に関する基本的概念を説明する。タブロー法による証明の方法に習熟するため、多数の練習問題を解く。

4 月 23 日より、ネット等を用いて授業を開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と様相論理	通常の論理と様相論理の違い
第 2 回	命題論理とタブロー法 (その 1)	命題論理の形式化
第 3 回	命題論理とタブロー法 (その 2)	論証の妥当性
第 4 回	命題論理とタブロー法 (その 3)	論証の妥当性に関するタブロー法による解法
第 5 回	体系 K (その 1)	体系 K の基本概念の説明
第 6 回	体系 K (その 2)	体系 K のモデル
第 7 回	体系 K (その 3)	推理規則 K への拡張
第 8 回	体系 K (その 4)	タブロー法の K への拡張
第 9 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 10 回	体系 T (その 1)	体系 T の基本概念の説明
第 11 回	体系 T (その 2)	体系 T のモデル
第 12 回	体系 T (その 3)	推理規則 T
第 13 回	体系 T (その 4)	体系 T へのタブロー法の拡張
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題として出される練習問題を自分で解く。
論理学概論程度の内容を理解しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】

授業時の練習問題 20 %
中間試験 35 %
期末の試験 45 %

【学生の意見等からの気づき】

現行の方式で効果が得られている。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 と合わせることで、様相命題論理を一通り理解することになるので、科学哲学 2 を合わせて受講すること。

【Outline and objectives】

To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to acquire some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

科学哲学2

中釜 浩一

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様相（必然、偶然、可能、不可能）は、現代の哲学の理解にとって必須の概念的装置である。科学哲学2では、科学哲学1に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 S4、S5 と、時制論理への応用を扱う。

【到達目標】

科学哲学1の十分な理解を前提とし、タブローの方法の様相論理の体系 S4、S5 までの拡張、および時制論理についての同様の取り扱いを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

様相体系 S4 と S5 および時制論理に関する基本的概念を説明し、タブロー法による証明の方法に習熟するため、多数の練習問題を解く。さらに同様の方法が時制論理に拡張できることを説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	体系K, T, およびタブロー法に関する復習	科学哲学Iの内容の復習
第2回	体系S4（その1）	体系S4の概念の説明
第3回	体系S4（その2）	S4のモデル
第4回	体系S4（その3）	推理規則 S4 の導入
第5回	体系S4（その4）	タブロー法のS4への拡張
第6回	体系S5（その1）	体系S5の概念の説明
第7回	体系S5（その2）	S5のモデル
第8回	体系S5（その3）	推理規則 S5 の導入
第9回	体系S5（その4）	タブロー法のS5への拡張
第10回	中間まとめ	練習問題の解答と解説
第11回	時制論理（その1）	体系 Kt とタブロー法
第12回	時制論理（その2）	体系 Kt4 とタブロー法
第13回	時制論理（その3）	体系 Ct とタブロー法
第14回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題として出される練習問題を自分で解く。
論理学概論・科学哲学1の内容を理解しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】

練習問題の回答：20%

中間試験：35%

期末の試験：45%

【学生の意見等からの気づき】

現行の方式で効果が得られている。

【その他の重要事項】

科学哲学1の内容の理解を前提とするので、科学哲学1を受講しておくこと。

【Outline and objectives】

To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to master some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想） 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：金曜5限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルクス・ガブリエルや分析系哲学者など、近年、様々な方面から実存哲学の見直しが行われています。そうした状況を踏まえつつ、この授業では20世紀フランスの実存主義をあらためて読み直し、その可能性や問題点がどこにあったのかを考察します。最初に近年の実存論をいくつか参照し、実存哲学が自然主義哲学や心の哲学に対してどのような特徴を持つかを確認した上で、J.-P.サルトルの『存在と無』（L'Être et le néant, 1943）を講読します。サルトルの言う「現象学的実在論」と近年の実在論との違いをよく理解しながら、20世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性を学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

- (1) 20世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
- (2) 発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
- (3) 単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加します。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成します。授業では、まず担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行います。授業で用いるテキストについては教員が用意します。

【更新 20.04.16】春学期（少なくとも前半）はオンラインでの開講となる（Zoomなどを用いた双方向型ではなく、各自が教材や課題をダウンロードして行うオンデマンド式）。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムを通じて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	「実存主義とは何か」	ハンナ・アレントの視点から
第2回	「新実存主義」の論点(1)	自然主義との差異
第3回	「新実存主義」の論点(2)	心と脳の関係の争点
第4回	サルトルの実存主義	サルトル実存哲学の概説
第5回	『存在と無』講読 1	「反省以前の Cogito」という仮説
第6回	『存在と無』講読 2	「即自存在」について
第7回	『存在と無』講読 3	否定の起源とは何か
第8回	『存在と無』講読 4	「無」について
第9回	『存在と無』講読 5	「自己欺瞞」について
第10回	『存在と無』講読 6	「対自」の事実性
第11回	『存在と無』講読 7	「対自」と自己性の関係について
第12回	『存在と無』講読 8	時間の現象学的解釈
第13回	『存在と無』講読 9	根源的時間性と心的時間性
第14回	『存在と無』講読 10	「超越」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参加者は、指定された著作や文献をあらかじめよく読んだ上で授業に参加します。各自、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

マルクス・ガブリエル『新実存主義』（岩波新書、2020年、800円）、ジャン＝ポール・サルトル『存在と無 現象学的実在論の試み I、II、III』（ちくま学芸文庫、2008年、各1800円）

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価します（ただし平常的な出席者の数が7人以下だった場合は、発表・参加のみで評価します）。

評価は以下の基準で行います。

- (1) 20世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができてくるか。
- (2) 発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。

(3) 単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できているか。

【更新 20.04.16】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to reconsider the sartrian existential philosophy, compared to recent "new existentialism". We read mainly Sartre's monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today's philosophical discourses concerning the "existence", human or not.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：金曜5限

秋学期・2単位

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to reconsider the sartrian existential philosophy, compared to recent "new existentialism". We read mainly Sartre's monumental work, Being and Nothingness: An Essay on Phenomenological Ontology (1943), to examine some possibilities and problems of sartrian existentialism from the point of view of today's philosophical discourses concerning the "existence", human or not.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、J.-P.サルトルの『存在と無』（L'Être et le néant, 1943）を講読します。実存哲学は自然主義哲学や「心の哲学」と比べてどのような特徴を持つ哲学なのか、サルトルの実存主義は現在見直されている実存論・実在論の議論とどのような点で共通し、あるいは異なるのか、といった問いを念頭に置き講読を進めることで、サルトルの「現象学的実在論」について理解を深めます。全体を通じて、フランス実存哲学の争点、射程、問題点、可能性を学ぶことが授業の目的です。

【到達目標】

- (1) 20世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
- (2) 発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深める方法を学ぶこと。
- (3) 単に読んだ本の知識をそのまままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

参加者全員が指定されたテキストを読んだ上で授業に参加します。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成します。授業では、まず担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行います。授業で用いるテキストについては教員が用意します。できるだけ前期科目も履修することが望まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	前学期の復習	実存主義を捉え直す
第2回	『存在と無』講読 1 1	他者の存在の現象学的理解
第3回	『存在と無』講読 1 2	「まなざし」について
第4回	『存在と無』講読 1 3	身体の三つの次元
第5回	『存在と無』講読 1 4	実存論とエロティシズム
第6回	『存在と無』講読 1 5	「われわれ」の存在論
第7回	『存在と無』講読 1 6	「自由」の条件
第8回	『存在と無』講読 1 7	「在る」と自由
第9回	『存在と無』講読 1 8	「為す」と自由
第10回	『存在と無』講読 1 9	自由と死の関係について
第11回	『存在と無』講読 2 0	「実存的精神分析」について
第12回	『存在と無』講読 2 1	「為す」と「持つ」
第13回	『存在と無』講読 2 2	実存論と形而上学
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参加者は、指定された著作や文献をあらかじめよく読んだ上で授業に参加します。各自、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨むことが求められます。

【テキスト（教科書）】

ジャン＝ポール・サルトル『存在と無 現象学的実在論の試み I、II、III』（ちくま学芸文庫、2008年、各1800円）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価します（ただし平常的な出席者の数が8人以下だった場合は、発表・参加のみで評価します）。

評価は以下の基準で行います。

- (1) 20世紀の実存哲学の争点、射程、問題点、可能性について、一定程度の水準で批評的な考察ができていますか。
- (2) 発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。
- (3) 単に読んだ本の知識をそのまままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだ発表またはレポートを作成できているか。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

PHL200BB

宗教学 1 (伝統宗教) 1

杉本 隆司

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

※【重要 (4.10 付)】：履修予定の皆さんへのお知らせ。新型コロナの影響に伴う変更があります。このシラバスの最後の欄「その他の重要事項」を必ず参照してください

※【重要：4.17 付変更】「授業の進め方と方法」の欄を参照してください。21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】

世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ 2 世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

※【重要：4.17 付変更】5 月 7 日の対面授業再開を模索してきましたが、昨今の社会的状況に鑑み、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講としたと思います。すでに【4.10 付変更】でお知らせしたように、5 月 7 日まで「課題」レポート (中間テストの代替) に取り組んでもらい、5 月 7 日 (木) の授業 (4 月 30 日は休講) からオンデマンド型授業 (録画配信視聴) を予定している。動画と資料は毎週授業日当日までに「学習支援システム」にアップロード (予定) するので、必ずチェックするようにお願いします。以上
中世までもつばらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。1. 古代異教の復活 (ルネサンス)。2. カトリック=異教論の登場 (宗教改革)。3. 新大陸の異教との遭遇 (大航海時代)。おもに西洋が経験したこの 3 つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です (授業計画参照)。

なお、この授業は秋学期の「宗教学 1 (伝統宗教) 2」と連動しているのので、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション※ 【変更 → シラバス最下段「その他の重要事項」参照】	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代 (1)	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代 (2)	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ=キリスト教史 (1)	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ=キリスト教史 (2)	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教 (1)	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教 (2)	教父の偶像崇拜批判
第 8 回	宗教改革と異教批判 (1)	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判 (2)	異教=教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判 (3)	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判 (4)	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服 (1)	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服 (2)	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ジル・ケベル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拜—その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
木崎喜代治『信仰の運命—フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2 つの試験 (目安は中間 30 %、期末 70 %) の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【その他の重要事項】

※新型コロナの影響に伴う措置として、第 1 回授業 (4.23) をレポート課題に差し替えます。その代わりに、そのレポートをもって、学期半ばに予定していた中間テストの代替とします。

授業初日からイレギュラーな授業となりますが、昨今の事情によりどうか了解のほどよろしく願います。具体的な課題の内容、期限、今後の予定などについては、近日中 (4.10~) に大学の「学習支援システム (Hoppii)」(<https://hoppii.hosei.ac.jp>) に、「課題」としてアップするので必ずそれを見るようにしてください。

以上

【Outline and objectives】

In the 21st century, as symbolized by the Western world and the Islamic world, the issue of friction and secularization among religions is getting political attention. In recent years, violence over religious values has become visible around the world, and it is becoming not an issue unrelated to us either. This course introduces the history of "the beliefs of others" in Western Europe to students taking this course, and the aim of course is to help students acquire knowledge to consider the religious problems of the international community from a broad perspective.

PHL200BB

宗教学 1（伝統宗教） 2

杉本 隆司

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木曜3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して19世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】

宗教学の誕生は、19世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」がいわば空気のごとく自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として立ち現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗的思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な（ライクな）国民国家の形成を、キリスト教（教会権力）の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし17世紀以降、異教問題は世俗的思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、19世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。

なお、この授業は春学期の「宗教学1（伝統宗教）1」と連動しているため、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第2回	ルネサンスとユマニスム (1)	モアのユートピア宗教
第3回	ルネサンスとユマニスム (2)	新プラトン主義と合理主義神学
第4回	理神論と自然宗教 (1)	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第5回	理神論と自然宗教 (2)	スピノザの汎神論
第6回	理神論と自然宗教 (3)	ロックの生得観念批判
第7回	啓蒙思想と宗教批判 (1)	フランス啓蒙の自然宗教論
第8回	啓蒙思想と宗教批判 (2)	ヒュームの理神論批判
第9回	啓蒙思想と宗教批判 (3)	ド・ブロスのフェティシズム論
第10回	仏革命とロマン主義 (1)	革命宗教と非キリスト教化運動
第11回	仏革命とロマン主義 (2)	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第12回	実証主義と人間の宗教 (1)	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第13回	実証主義と人間の宗教 (2)	デュルケムと宗教学の制度化
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見—宗教学と近代』岩波書店、2005年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2つの試験（目安は中間30%、期末70%）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical aspects of criticism of "religion". Continuing from the semester of the spring semester, this course deals with the historical issues such as "beliefs of others" and religious tolerance. In the autumn semester, while also considering the political dynamics between secular state and church authority, the goals of this course are to understand the current from the Renaissance through the enlightenment thought to the establishment of the science of religion of the 19th century, and to obtain basic knowledge about the principle of contemporary separation of church and state.

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：火曜 4 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってまいります。教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。

なお、授業開始日は4月21日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題 1,2 第3課～第5課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題 3,5,7 引用句 1	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1)
第4回	第6課～第8課の説明 練習問題 9,11,13 引用句 2,3	動詞未完了過去形 名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2)
第5回	第9課～第11課の説明 練習問題 15,17,19 引用句 4,5	動詞未来形 前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化 i 音幹名詞
第6回	第12課～第14課の説明 練習問題 21,23,25 引用句 6,7	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	第15課～第17課の説明 練習問題 27,29,31 引用句 8,9	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	第18課・第19課の説明 練習問題 33,35 引用句 10	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	第20課・第21課の説明 練習問題 37,39 引用句 11,12	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	第22課・第23課の説明 練習問題 41,43 引用句 13,14	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo, malo の変化
第11回	練習問題 45,47 引用句 15	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio, fero の変化
第12回	第26課・第27課の説明 練習問題 49,51 引用句 16	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	第28課・第29課の説明 練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくるとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、授業中に行ってもらう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席や遅刻は減点しますので、理由があつて欠席や遅刻をするときには、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：火曜4限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってまいります。教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 引用句 19,20 第32課・第33課の説明	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、 間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 引用句 21 第34課・第35課の説明	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 引用句 22,23 第36課・第37課の説明	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 引用句 24 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 第40課・第41課の説明	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞
第7回	練習問題 77,79 文例1 第42課・第43課の説明	バエドルスの寓話「人の欠点」を読む。 奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級
第8回	練習問題 81,83 引用句 25,26 文例2 第44課・第45課の説明	バエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。 形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題 85,87 第46課・第47課の説明	動名詞 動形容詞
第10回	文例3 練習問題 89,91 引用句 27 第48課・第49課の説明	カエサル『ガリア戦記』を読む。 動名詞の代わりに用いられる動形容詞 動詞命令法
第11回	練習問題 93,95 文例4,5 第50課・第51課の説明	キケロ『善と悪の究極について』を読む。 デカルト『省察』を読む。 能動相（能動態）欠如動詞の命令法、 主文における接続法 目的分詞
第12回	練習問題 97,99 引用句 28,29 文例6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第13回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に扱った練習問題、引用句、文例、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくるとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、授業中に行ってもらおう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席や遅刻は減点しますので、理由があつて欠席や遅刻をするときには、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえようようにしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木曜5限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主としてB.C. 5世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma\pi\gamma\beta\theta\mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道999のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

★授業の開始日は4月30日をめどとしますが、学習支援にログインできない状況なので、5月6日となるかも知れません。また再度お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	古典ギリシア語の概要	文字の読み方
第2回	文字を知る	文字と発音
第3回	読み方の規則	発音と朗読
第4回	名詞・形容詞の変化1	格変化の基礎
第5回	冠詞・形容詞の位置	練習問題 3
第6回	名詞・形容詞の変化2	練習問題 4
第7回	動詞変化1 現在・未来	練習問題 5
第8回	動詞変化2 過去	練習問題 6
第9回	動詞変化3 不定法	練習問題 6-2
第10回	動詞変化4 アオリスト	練習問題 7
第11回	動詞変化の整理	練習問題 7-2
第12回	代名詞の用法	練習問題 8
第13回	動詞変化5	練習問題 8-2
第14回	第3変化の名詞	練習問題 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席30%、ギリシア語の読み書きや暗証30%、毎回の解答40%）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を課せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIN200BB

ギリシア語Ⅱ

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメートル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようにすることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞変化の基礎
第2回	第3変化の名詞 2	練習問題 10-11
第3回	関係代名詞	練習問題 11
第4回	指示・強意代名詞	練習問題 12
第5回	比較級・約音動詞	練習問題 13-14
第6回	不規則な形容詞	練習問題 15-17
第7回	動詞変化 6	練習問題 18-19
第8回	分詞の用法	練習問題 20-21
第9回	接続法と条件文	練習問題 22
第10回	希求法と条件文	練習問題 23-24
第11回	中・受動相	練習問題 25-26
第12回	条件文（接続法・希求法）	練習問題 27-29
第13回	受動相・完了	練習問題 30-32
第14回	命令法・数詞	練習問題 33-36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30%、ギリシア語の読み書きや暗証 30%、毎回の解答 40%）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けたい者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ギリシア語という未知の言語に触れることのできる数少ない機会で、難しいが、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。教科書の最後までやりとおすために、なお一層、計画を立ててじっくり進めたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋 義一

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金曜 3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批評だの評論だのというものは、一体、なんでしょうか？ それは文学原論ともいべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。

要するに鶴外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。

ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というものもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなるも批評ってなんだと考えると、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。

ということでの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということ小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したことないことを描けるのか？」ということ有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……というんな批評に聞いてみましょう。

そういつた難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すのではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。

上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということ、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を1本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを5講（6作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

春学期は『小説神髓』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第2回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」(抄)：近代文学の言語
第3回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」(抄)：近代文学の内容
第4回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第5回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解と発展的考察
第6回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第7回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第8回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景

第9回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第10回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第11回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第12回	春学期総括	春学期総括
第13回	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)
第14回	(2020年度に限り、なし)	(2020年度に限り、なし)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%

平常点：10%

春学期は対面形式の授業がいつからできるか不明なので、状況によってはレポート100%になる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年で受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋 義一

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金曜 3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたたかいかから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。

秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。

したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。

それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。

昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。

秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろいろな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	その文学史・思想上の意義

- 第 9 回 戦後左翼の分岐点 小田切 秀雄「文学における戦争責任の追求」 『新日本文学』について
- 第 10 回 戦後左翼の分岐点 平野謙 「近代文学」について 「政治と文学」
- 第 11 回 戦後左翼の分岐点 平野謙 「政治と文学」論争 「政治と文学」
- 第 12 回 『近代文学』から吉本隆明へ 本多文読解 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」
- 第 13 回 『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」 吉本文読解
- 第 14 回 春学期総括 春学期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%
平常点：10%

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【中国古典小説史】

中国の古典小説について講義をする。中国でフィクションとしての本格的な小説が書かれるようになるのは唐代のことであり、それは「伝奇」と呼ばれた。本授業では、中国文学史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）に書かれた「小説」（正確には小説的なもの）について講義を行う。唐代伝奇の源泉となった、先秦から南北朝時代までの「小説」およびその土壌となった各時代の文化的背景について学ぶ。

【到達目標】

中国の先秦時代から南北朝時代までの古典小説史のアウトラインを把握する。また、当時の人々が小説をどのようなものと認識していたのか、現代の私たちが考える小説と当時の小説は何が異なっているのかという点について理解を深め、唐より前の時代に書かれた小説の歴史の変遷について、当時の文化的背景と関連づけながら、具体例に即して人に説明できるようになる。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回「教材」として学習支援システムにアップロードし、それらを参照しながらオンデマンドの動画で解説を加える。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国の古典小説と「小説」の原義についての概説
第2回	白話小説概説	明・清の時代に書かれた口語体の小説についての概説
第3回	小説前史(1)	神話(上)：中国の天地開闢神話とその特徴について
第4回	小説前史(2)	神話(下)：神話の時代の大洪水と大旱魃
第5回	小説前史(3)	諸子百家と漢代の賦：諸子百家による寓話と漢代の賦における小説的要素について
第6回	小説前史(4)	漢代の作とされる「小説」：中国古代の空想的地理書『山海経』をはじめとする、漢代の書を読む
第7回	小説前史(5)	史伝の小説的要素：歴史文学として司馬遷の『史記』を読む
第8回	志怪小説(1)	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第9回	志怪小説(2)	志怪小説に見られる仙界訪問譚について
第10回	志怪小説(3)	志怪小説に見られる冥界訪問譚と仏教の影響
第11回	民間の物語詩	漢代から南北朝時代にかけて民間で歌われた、叙事的な物語詩を読む
第12回	志人小説	六朝時代に記録された著名人のエピソード集「志人小説」についての概説
第13回	男装の麗人の物語男装の麗人の物語	木蘭従軍故事について
第14回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業日より前に、各回の教材が学習支援システムにアップロードされるので、あらかじめダウンロードして目を通し、授業内容の大まかなイメージを掴んでおくこと。同時に、問題点・疑問点も明確にしておくこと。オンデマンドの動画は授業日にアップロードされ、その後も閲覧が可能なので、授業日以後も折に触れて観なおし、教材と合わせて復習することで内容を記憶に定着させること。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した教材を、学習支援システムを通じて配布する。

【参考書】

・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史の変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出して頂く小さな課題（過度な負担にならないよう配慮する）60%、学期末レポート40%の配分で評価する。もし学期中に教室での対面授業が可能となれば、学期末レポートを教室での筆記試験に変更する可能性もある。その場合、試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインによる授業は今回が初めてのため、フィードバックが難しい。今回の経験を次回に生かしたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。

【その他の重要事項】

・毎回の課題の提出をもって、その回の出席とみなす。
・全授業回数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失うので注意すること。

【Outline and objectives】

This lecture is focused on Chinese classical novels. It is not until the Tang dynasty that people started writing serious novels as fictional tales in China. They were called chuan-qi. In this course, the lecture will be given on novels (more accurately quasi novels) from the most ancient periods in the history of Chinese literature covering the periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and the Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). We will learn "novels" from Pre-Qin to the Northern and Southern dynasties and the underlying cultural background for each period, which formed the foundation for chuan-qi during the Tang period.

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【中国古典小説史】

中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

【到達目標】

唐代伝奇が全体的にどのような特徴を有し、それまでの中国の「小説」とどのように異なるのかを把握する。また、個々の作品がそれぞれどのような意義を有しているかを、唐代の社会的・文化的背景と関連づけながら、具体例に対して人に説明できるようにする。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第2回	唐代伝奇 (1)	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第3回	唐代伝奇 (2)	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第4回	唐代伝奇 (3)	象の恩返しの話「安南錫者」を読む
第5回	唐代伝奇 (4)	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第6回	唐代伝奇 (5)	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「醉偉」を読む
第7回	唐代伝奇 (6)	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第8回	唐代伝奇 (7)	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第9回	唐代伝奇 (8)	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第10回	唐代伝奇 (9)	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇 (10)	科挙の受験生と堅気の女性との恋愛譚「鶯鶯伝」を読む
第12回	唐代伝奇 (11)	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第13回	唐代伝奇 (12)	トイレの神様に取り憑かれた男の話「李赤伝」を読む
第14回	春学期総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをあらかじめ購入し、各回で取り上げる作品を読んでおく。また、授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなげれば、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

今村与志雄訳『唐宋伝奇集』上・下（岩波文庫、1988）

【参考書】

・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭 唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）

・溝部良忠著『中国古典小説選6 広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
 ・黒田真美子著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他』（明治書院、2006）
 ・成瀬哲生著『中国古典小説選4 古鏡記 補江総白猿伝 遊仙窟』（明治書院、2005）
 ・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
 ・魯迅著；中島長文訳『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
 ・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史的変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called chuan-qi written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, chuan-qi stories were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. Chuan-qi stories during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in chuan-qi stories during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古C

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2663 | 曜日・時限：金曜6限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【4/24 加筆修正 ↓】

★授業開始日は、5月8日（金）といたします。ただし、ライブ配信（リアルタイム授業）ではありませんから、毎週、金曜夜～土曜日曜、よろしき時間に、Hoppiiの「お知らせ」欄・「教材」欄を確認していただければ幸いです。

★“教室授業不可能”“図書館閉館”“書店休業”という現況を鑑みまして、今回、春学期「中古C」と秋学期「中古D」の授業内容を、まるごと入れ替えることといたしました。取り上げる作品や成績評価の方法なども、改変いたしました。

★仮登録中の皆さんには申し訳なく、お詫びいたします。“受講者が自由に本を入手できない中、インターネットだけで何ができるか／できないか”を熟考した結果です。新しいシラバスを改めて御覧いただき、そのうえで、「日本文芸研究特講（2）中古C・D」（金曜6限）の受講／不受講を検討していただきたく、お願い申し上げます。[加藤昌嘉]

◆春学期「中古C」のテーマは、《和歌》《短歌》です。

◆20世紀の《短歌》を出発点しながら、『古今和歌集』（平安時代）から『新古今和歌集』（鎌倉時代）に至る、さまざまな《和歌》《歌人》《歌集》を取り上げ、その表現のしくみを考察してゆきます。

【到達目標】

【4/24 加筆修正 ↓】

1. 《和歌》《短歌》の表現技法・ことばの仕掛けを学ぶ。
2. 自分で《短歌》(5,7,5,7,7)を作る。
3. 自分で《歌集》(アンソロジー)を編む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【4/24 加筆修正 ↓】

★授業開始日は、5月8日（金）といたします。ただし、ライブ配信（リアルタイム授業）ではありません。毎週、金曜の夜、Hoppiiの「教材」欄に、プリント（PDFファイル）や、動画（現在、作成中）を、少しずつ、upしてゆく予定しております。

★わたくしはテクノロジーに疎く、現在、七転八倒しながら、動画の作成に取り組んでおります。受講者の皆さんも、今のうちに、自身のパソコン、通信制限のないインターネット環境、プリンターなどを整えておいてくださりたく、お願い申し上げます。

★下記【授業計画】は、あくまでも“未定の予定”です。受講者の皆さんの様子を見て、臨機応変に組み替えてゆきます。[加藤昌嘉]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	4月10日、全学休講	履修の準備
2	4月17日、全学休講	履修の準備
3	4月24日	授業内容&進め方の説明
4	5月8日	現代短歌はとってもアバンギャルド
5	5月15日	和歌が詠まれるシチュエーションは様々
6	5月22日	和歌を翻訳するのはかなり自由

7	5月29日	植物、地名には、特有のイメージがある
8	6月5日	歌集（アンソロジー）を編むにはセンスが必要
9	6月12日	課題①：短歌を作る、和歌を訳す、など
10	6月19日	和泉式部の恋の和歌など
11	6月26日	西行法師の月・花の和歌など
12	7月3日	藤原定家のシュールな言語実験など
13	7月10日	物語・小説（フィクション）の中に嵌め込まれた和歌など
14	7月17日	春学期総括、課題②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【4/24 加筆修正 ↓】

◆授業で取り上げられた作品のうち、面白いと思ったものを、各自、読んでみてください。なるべく入手しやすい本を紹介してゆく予定です。

【テキスト（教科書）】

【4/24 加筆修正 ↓】

★Hoppii「教材」欄に、プリント（PDFファイル）などをupしてゆきます。

【参考書】

【4/24 加筆修正 ↓】

★もし、書店・古書店・ネット書店、あるいは電子書籍で入手可能であるなら、以下のうちのいずれかを読んで、《和歌》《短歌》の魅力に触れて欲しいと思っています。

▼近現代の《短歌》について

- ◎徳村弘『短歌の友人』（河出文庫）
- ◎東直子&徳村弘『しびれる短歌』（ちくまプリマー新書）
- ◎倉阪鬼一郎『怖い短歌』（幻冬舎新書）

▼平安～鎌倉時代の《和歌》について

- ◎渡部泰明『古典和歌入門』（岩波ジュニア新書）
- ◎渡部泰明 編『和歌のルール』（笠間書院）
- ◎谷知子『和歌文学の基礎知識』（角川選書）
- ◎出雲路修『古文表現法講義』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

【4/24 加筆修正 ↓】

◆春学期中に、2回、「課題」を出します。《和歌》を分析したり、《短歌》を作ったり、《歌集》を編んだりする、というような課題を予定しています。課題①40%、課題②60%。

【学生の意見等からの気づき】

◆日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り挙げます。

【学生が準備すべき機器他】

【4/24 加筆修正 ↓】

★自分用のパソコン（通信制限のかからないインターネット環境）を整えておいてください。今後、レポートや卒業論文を書くとき、スマホだけでは対応不可能ですから。

【Outline and objectives】

This course deals with "WAKA", the classical Japanese 31syllable verse.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古D

加藤 昌嘉

夜間時間帯

授業コード：A2664 | 曜日・時限：金曜6限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【4/24 加筆修正 ↓】

★今回、秋学期「中古D」と春学期「中古C」の授業内容を、まるごと入れ替えることといたしました。

★仮登録中の皆さんには申し訳なく、お詫びいたします。新しいシラバスを改めて御覧いただき、そのうえで、「日本文芸研究特講（2）中古C・D」（金曜6限）の受講／不受講を検討していただきたく、お願い申し上げます。

★秋学期「特講、中古D」は、9月18日（金）スタート予定です。もし、図書館閉館・書店休業が続くようなら、以下の授業内容も変更する可能性があります。[加藤昌嘉]

◆秋学期「中古D」のテーマは、《怪奇》《靈異》《幻想》《不条理》です。

◆『今昔物語集』（平安時代末期）を出発点にしつつ、中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の説話・物語・史書を取り上げ、「霊」「鬼」「往生」「奇瑞」など、不可思議な話を解説してゆきます。

◆なお、近世（江戸時代）～近現代（20世紀）の文学も、取り上げます。

【到達目標】

【4/24 修正 ↓】

◆物語・説話の表現技法を知る。

◆中古～中世の思想・宗教を知る。

◆作劇法（ドラマトゥルギー）を分析する方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	死体	『今昔物語集』
2	謎の女	『今昔物語集』
3	鬼	『今昔物語集』
4	怨霊、祟り	崇徳天皇など
5	狂気	陽成天皇など
6	蛇	『沙石集』など
7	仏罰	『日本霊異記』など
8	往生	『平家物語』など
9	偽悪	『発心集』など
10	腐乱	『閑居友』など
11	音楽、奇瑞	『うつほ物語』など
12	妖美、不条理	泉鏡花など
13	各自の分析	まとめ&論述試験
14	秋学期総括	試験のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【4/24 一部修正 ↓】

◆授業で取り上げられた作品のうち、興味を惹かれたものを、読んでみてください。論述試験では、受講者各自に、作品の分析をしてもらう予定です。

【テキスト（教科書）】

◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

【4/24 修正 ↓】

◆以下の「入門書」を推薦します。「面白そうだな」と思うものを、各自、読んでみてください。

◎小峯和明 編『図説あらすじでわかる！ 今昔物語集と日本の神と仏』（青春新書）

◎伊藤比呂美・福永武彦・町田康 訳『日本文学全集 日本霊異記・今昔物語・宇治拾遺物語・発心集』（河出書房新社）

◎須永朝彦『日本幻想文学史』（平凡社ライブラリー）

◎水木しげる『今昔物語』上下（中公文庫）

◎ichida『本当はこわい仏教むかし話』（メディアファクトリー）

【成績評価の方法と基準】

◆筆記試験の出来（74%）。授業で取り上げられた作品を熟読した上で、小論文を書いてもらいます。

◆リアクションペーパー（26%）。質問やアイデアを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

【4/24 修正 ↓】

◆日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り上げます。

【Outline and objectives】

This course deals with many strange stories in the Japanese classics.

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 A

小秋元 段

授業コード：A2665 | 曜日・時限：金曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『平家物語』を読む。

『平家物語』は日本文学に入ってからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典である。この授業を通じて『平家物語』に接し、その作品を深く理解してみよう。

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容（虚構性や表現の特徴等）を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を養い、そこから『平家物語』に描かれた諸事象を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。〔以下、4月21日加筆〕授業は4月28日以降、動画配信により行う。詳細は「学習支援システム」のうち、「お知らせ：『日本文学研究特講（3）中世 A』の授業の進め方について」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 6 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～	巻 4「競」を講読し、平重盛・宗盛兄弟の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 7 回	いくさ語りの諸相～巻 4「橋合戦」～	巻 4「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係をを中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～	巻 7「忠教都落」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 10 回	木曾義仲の入京～巻 8「猫間」～	巻 8「猫間」を講読し、木曾義仲の人物像の特徴を中心に講義する。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恋愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	扇の的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 13 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」を講読し、平知盛の役割を中心に講義する。
第 14 回	宗盛の最期～巻 11「大臣殿被斬」～	巻 11「大臣殿被斬」を講読し、浄土思想的価値観とそれに対する作品の姿勢を中心に講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81年）
新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93年）
新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994年）
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000年）大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）
王新禧訳『全訳本平家物語』（上海訳文出版社、2011年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメントカード…… 30 %

期末試験…… 70 %

〔以下、4月21日加筆〕教室授業が開始できず、全回の授業が動画配信による場合、コメントカード 50 %、学期末レポート 50 %とする（「学習支援システム」のうち、「お知らせ：『日本文学研究特講（3）中世 A』の授業の進め方について」を参照）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世B

小秋元 段

授業コード：A2666 | 曜日・時限：金曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世の説話と和歌

日本文学の歴史を深く理解するために、この授業では中世の説話と和歌について講義する。そこから中世文学の特徴について実感し、日本文学史を俯瞰する目を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身につける。
2. 説話と和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。中世という時代の概説。
第2回	『今昔物語集』1	『今昔物語集』の解題・講読。
第3回	『今昔物語集』2	『今昔物語集』の講読。
第4回	『宇治拾遺物語』1	『宇治拾遺物語』の解題・講読。
第5回	『宇治拾遺物語』2	『宇治拾遺物語』の講読。
第6回	『十訓抄』	『十訓抄』の解題・講読。
第7回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第8回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第9回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第10回	和歌の基礎知識	和歌および和歌集に関する解説。
第11回	院政期和歌の展開	院政期（平安時代末期）の歌風の変遷に関する解説。
第12回	本歌取りの誕生	本歌取りの誕生、理念、方法についての解説。
第13回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第14回	歌書の世界	『無名抄』の解題・講読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自信のない学生は、個々に自習することを望む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント使用。

【参考書】

『日本古典文学大辞典』全6巻（岩波書店、1983～85年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998年）
小山弘志編『日本文学新史（中世）』（至文堂、1990年）

【成績評価の方法と基準】

毎時のコメントカード……30%
期末試験……70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, we will read Setsuwa and Waka.

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世D

阿部 真弓

夜間時間帯

授業コード：A2668 | 曜日・時限：木曜5限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『方丈記』を講読します。時代背景や作者鴨長明の事績を押さえてつづ読解し、文学史的位置づけを考察します。

【到達目標】

- ①中世文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②文化的背景、歴史的背景を踏まえて、作品を読解する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	鴨長明について	経歴
第3回	鴨長明について	歌壇での活動
第4回	『方丈記』講読	概説
第5回	『方丈記』講読	序文
第6回	『方丈記』講読	五大災厄
第7回	『方丈記』講読	方丈の庵での生活
第8回	『方丈記』講読	特質について
第9回	『方丈記』講読	まとめ
第10回	『無名抄』講読	概説
第11回	『無名抄』講読	特質について
第12回	『発心集』講読	概説
第13回	『発心集』講読	特質について
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ちくま学芸文庫『方丈記』（浅見和彦 校訂・訳、筑摩書房、2011年）。
その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 角川ソフィア文庫『方丈記』（角川学芸出版、2007年）。

その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）によって評価します。試験は【授業の到達目標】に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに書かれた質問や感想に対し、できるだけ丁寧に解説を行っていきます。

【Outline and objectives】

This course deals with *Hōjōki* (方丈記), *Mumyō shō* (無名抄), *Hosshinshū* (発心集). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature.

LIT200BC

日本文学研究特講（４）近世 A

眞島 望

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世文学のみならず、本邦の古典を代表する詩人たる芭蕉。その手になる『おくのほそ道』の読解を手がかりに、日本文学の潮流の一つである紀行文学や地誌への理解を深めるとともに、江戸時代の新興文芸である俳諧の特質と、そこに底流する和歌・謡曲をはじめとする日本文化のエッセンス、特に名所や歌枕の概念を学ぶ。また、その主な経路となった東北地方の歴史的な位置づけについて知ることを通して、東国文化の特質や「日本」とはいかなる文化なのかを考える。

【到達目標】

- 1、紀行文学や地誌の歴史や、他の散文・韻文文芸との関係を理解する。
- 2、俳諧という文芸の特質や、その代表者の一人である芭蕉の生涯とその芸術について理解する。
- 3、『おくのほそ道』の文学作品としての特色を説明できるようになる。
- 4、我々も現在その一部に属している東（あずま）という土地の歴史性に興味をもち、そのことについて自分なりの意見を述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【感染症対策による変更点】

本授業は開講日を4月25日（土）とする。なお、受講生のwifi環境などに配慮し、データ量の重いビデオ・音声を用いたリアルタイムでの授業は行わず、学習支援システムを通じて資料・課題を配信し、学生はそれを提出するという形式で行う。第2回以降の資料・課題の配信日時は、原則として毎週火曜日の授業時間を目安とする（4/22 13:00 改訂）。

【通常授業時の進め方・方法】

主に質疑応答を含めた講義形式（適宜資料を配付する）で進めるが、必要に応じて討論や作業（授業内課題など）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概説	授業の概要の説明 芭蕉の図像としてのイメージに触れる。
第2回	俳諧の歴史と展開	俳諧文芸の史的展開と、そこに芭蕉がいかに位置付けられるかを知る。
第3回	俳人芭蕉の生涯①	芭蕉の前半生について解説し、その作品（談林時代）を鑑賞する。
第4回	俳人芭蕉の生涯②	芭蕉の後半生について解説し、その作品（漢詩文調～蕉風開眼以後）を鑑賞して、俳風の変遷を学ぶ。
第5回	『おくのほそ道』の諸本とその形態	『おくのほそ道』の諸本とその関係を確認し、紀行文としての特色を知る。
第6回	読解①（発端・出立）	旅の目的となっている歌枕とは何かを知る。
第7回	読解②（第一夜）	江戸時代の「日本」認識と「東国」・「奥羽」の歴史とイメージを知る。
第8回	読解③（室の八鳥）	歌枕「室の八鳥」の変遷とその背景に見える当地の歴史を学ぶ。
第9回	読解④（日光1）	能・謡曲からの影響と、「東国」の聖地としての日光の歴史を学ぶ。
第10回	読解⑤（日光2）	同行者である曾良の経歴と謎の多い半生について知り、日光との関わりを探る。
第11回	読解⑥（白河の関）	歌枕「白河の関」の和歌における本意を学び、本文に見える芭蕉の作意を知る。
第12回	読解⑦（壺の碑）	東北各藩の歌枕に対する眼差しと、「壺の碑」の来訪で芭蕉が得た芸術理論について知る。
第13回	読解⑨（平泉1）	平泉の古戦場としての歴史を知り、芭蕉の歴史観を考察する。
第14回	読解⑩（平泉2）・全体のまとめ	後半部を中心に、不易流行論との関係を主題に読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に『おくのほそ道』全文を読み通しておくこと。また、毎授業前に該当箇所の本文・語釈・現代語訳などを確認しておく。授業後には、配布資料や板書事項を中心に復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

頼原退蔵・尾形仿訳注『新版おくのほそ道』（角川ソフィア文庫）（角川書店、2003年3月）¥760

※同出版社・同レーベルの「ビギナーズ・クラシックス」版は避けて下さい（内容に差異があります）。

【参考書】

阿部喜三男・久富哲雄著『増訂版 詳考奥の細道』（日栄社、1979年11月）
堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』（東京堂出版、2003年7月）

上野洋三・櫻井武次郎校注『芭蕉自筆 奥の細道』（岩波文庫）（2017年7月）
※そのほか多数。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%・小テスト 30%・平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, students will understand the art of "Haikai" that was new style poetry in the Edo period, and the essence of Japanese traditional culture by reading famous travel literature "Oku no Hosomichi" written by Matsuo Basho. And, students will learn the historical background of the Tohoku Region in Japan.

For that purpose, it is necessary to come into contact with the classical texts of Japan and China, for example, 31-syllable Japanese poems, Noh songs, or Chinese poetry, because "Oku no Hosomichi" is based on a lot of the different classics.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世B

小林 ふみ子

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。

18世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単元ごとに、概説ののち、グループで作品読解に取り組み、そのあとに全体で共有する形式で進める。戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入 時代背景 短詩系文学①	江戸っ子の時代概説 川柳のうがちに触れる。
第2回	黄表紙の奇想①	子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙の概説。
第3回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第4回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下
第5回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本の概説。
第6回	見立絵本のしかけ②	妖怪見立て絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第7回	ここまでのまとめ 中間試験	ここまでの振りかえった講義ののち、前半の理解を確認する試験を実施する。
第8回	試験の振り返り 短詩系文学②	技巧を凝らして笑う狂歌と漢詩型に俗語を盛り込んで笑う狂詩を知る。
第9回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説。
第10回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解。
第11回	滑稽本の表現力まとめ 合巻の情緒①	前回のまとめと創作課題の発表ののち、黄表紙から筋立て重視に変化した合巻について概説。
第12回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く。－上
第13回	合巻の情緒③	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎源氏』を読み解く。－下

第14回 まとめと最終試験 全体のまとめのあと、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週に配る各回の予習資料にもとづいて事前に作品を読解し、ときに創作の課題にとりくみ作品を持ちよる。
中間と最終2回の試験のために課す、事前課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付する。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル、2019）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 50 % ・最終試験 50 % を基本とし（手書きメモのみ持ち込み可の予定）
授業内で課す課題などのパフォーマンスで加点する。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸芸芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。
講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

作品読解のため『広辞苑』『精選版日本国語大辞典』など電子辞書やアプリ、または前田勇『江戸語の辞典』（講談社学術文庫、品切れのため古書のみ入手可）の持ち込みを推奨。

【その他の重要事項】

受講生の理解を確認し、質問をうけつけるためにリアクションペーパーは回収しますが、集計して成績に反映させることはしません。

【Outline and objectives】

Reading and analyzing the comic works from the late 18th century Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代B

中丸 宣明

授業コード：A2674 | 曜日・時限：水曜1限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

二十世紀初頭に成立した日本「自然主義小説」の形成過程を論ずる。島崎藤村・田山花袋・徳田秋声らの出発機からの文学的展開を社会情勢などとの関連においてとらえ、「蒲団」「生」「妻」（花袋）、「破戒」「春」「家」（藤村）、「雲のゆくえ」「儼」などの諸作品の解析を通じて明らかにする。

【到達目標】

日本の自然主義小説の形成過程・特質を理解することによって、日本近代の文学や文化についての見識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義内容についての概説
第2回	十九世紀文学の構想	立身出世主義の文学
第3回	田山花袋1	「少女小説」の時代
第4回	田山花袋2	外国文学の受容
第5回	田山花袋3	「蒲団」の意味
第6回	田山花袋4	「生」から「妻」へ
第7回	島崎藤村1	叙情詩の時代
第8回	島崎藤村2	「破戒」論
第9回	島崎藤村3	「春」の試み
第10回	島崎藤村4	「家」の方法
第11回	徳田秋声1	「雲のゆくえ」模索の時代
第12回	徳田秋声2	「新世帯」、家庭の自覚
第13回	徳田秋声3	「儼」、その達成
第14回	総括	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱う作品は全部とは言えないが、指示された作品のうち4分の3は講義前に読了しておくこと。上記に挙げた作品は、前期・夏期休暇時なるべく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

上記作品であれば文庫や文学全集、ネット上の青空文庫や国会図書館のNDLライブラリなどでも、何でもかまわない。

【参考書】

適宜、講義時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 40 %、期末テスト 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、ピンチヒッターによる登板につき、事前に学生の意見なし。授業開始後は受講生の意見聴取にこれ努める、つもり。

【Outline and objectives】

See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIN100BD

英語学概論 A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：火曜3限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるようにします。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月21日です。毎週、HOPPII「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしいことを入れます。できればテキストを手に入れてください。授業日が火曜日3限ですので、必ず、その日、その時間に覗いてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。少し慣れてきたら、zoomを使って皆さんと繋がります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。

英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、必ず提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション HOPPIIを見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語(1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語(2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論(1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論(2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論(1)	意味論の概説
第8回	意味論(2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論(1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論(2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論(1)	文体論の概説
第12回	文体論(2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、配付されたハンドアウトは必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、ハンドアウト等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、「学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。」ですが、今年度は遠隔授業になったので、検討します。決まったら、お知らせしますので、情報をよく見ておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的にハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要場合は、授業後に授業支援システムにアップします。

・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

LIN100BD

英語学概論 B

大沢 ふよう

授業コード：A2805 | 曜日・時限：火曜3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最新の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究的基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最新の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第3回	音声・音韻論(1)	音韻論の演習：母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説：子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析(1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	言語構造の解析(2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第11回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第12回	言語習得(2)	言語習得を説明する主な理論
第13回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第14回	学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きな がらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。準備・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩】

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

初回の授業で詳しい文献リストを配布する予定です。

また、指定した教科書以外からの文献も利用する場合があります。その場合は、該当箇所をこちらで用意して配布します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。試験は基本的に記述式で行います。選択肢から答えを選ぶような方式の試験は極力行わない方針です。

試験 80%

平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの展開の速度が速く、ノートが取りづらいと言う指摘があったので、その点を改善したいと思います。

【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。また、授業の内容をまとめた資料などを配布しますが、それ以外に自分でもきちんとノートを取る習慣を身につけてください。話を聞きながら、あるいは画面を見ながら、重要だと思ったことを記録できる能力は一生役に立ちます。

授業の構成は順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。

出席は毎回とります。

【Outline and objectives】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといふより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、授業計画そのものはオンライン化によっては大幅に変更されない見込みです（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。

本授業の開始日は、4月22日を予定しています。「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信、学習支援システムでのテスト」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。初回は、授業内容のオリエンテーションや動画ファイルの見方の解説の pdf ファイルを配信する予定です。初回以降の見込みについても、その際、pdf ファイルに記入しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業の紹介
第2回	「音素」その1（音声学・音韻論）	party はカタカナで何と言うべき？
第3回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第4回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第5回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第6回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第7回	今日の文法理論その1（統語論）	「5文型」のアホさ
第8回	今日の文法理論その2（統語論）	統語論「研究」実体験
第9回	今日の文法理論その3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第10回	今日の文法理論その4（統語論）	新たな(?)潮流
第11回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第12回	今日の文法理論その6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第13回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第14回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その2	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

「オンラインでの提出課題」+期末試験、または「オンラインでの提出課題+期末課題」（現状ではまだよくわかりません）。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を上げるべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは学習支援システムにて配布。学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】

ハンドアウト類は学習支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。

私語は厳禁。
その他、<http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/> を参照のこと。
なお、この授業は「言語学概論B」とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水曜 3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 言語的な事実の気付きに敏感になる、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式ですが、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く時間を設ける授業回もあります。教員は具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもつもらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介していくつもりです。なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。さらに、配布されたハンドアウトに次回の授業内容が含まれている場合、その部分にもあらかじめ目を通しておくと、次回の内容理解の助けとなるでしょう。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）

その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 100%
2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】

1. 一昨年度の「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という学生からの意見に基づき、昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めました。それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返されてくどい」という相反する意見が出されました。また、1つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、一昨年度は終わらせることができた予定学習範囲を昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従い、本年度は授業中に学生の理解度をより細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した昨年度の問題を解消するように努めていきます。
2. 昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、本年度も昨年度と同様に、練習問題を解く時間を授業内に積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは学習支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は学習支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを学習支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics on these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：火曜3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

互いに日本語で話をしていながら、なにを言いたいかわからない時があります。外国語だとおさらそうです。原因の多くは「意味論的意味」と「語用論的意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPTを使った講義形式です。テキストは英語なので、予習・復習が必要です。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第2回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第3回	第1章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第4回	第1章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第5回	第2章：ブラウン&レヴィンソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第6回	第2章：ブラウン&レヴィンソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第7回	第3章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第8回	第3章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第9回	第4章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第10回	第4章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第11回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第12回	第5章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第13回	第6章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第14回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思えます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜日4限です。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline and objectives】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および、訳や作文の実習。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	巷の日本語論の嘘（その1）	うなぎ文（その1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第2回	巷の日本語論の嘘（その2）	うなぎ文（その2）：奥津説、菅井説
第3回	「訳」についての誤解（その1）	代名詞と役割語
第4回	「訳」についての誤解（その2）	意味と文法的手段
第5回	ハとガ、英語の冠詞（その1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第6回	ハとガ、英語の冠詞（その2）	情報の新旧説……日本語の助詞、および英語の倒置構文
第7回	ハとガ、英語の冠詞（その3）	ハとガは、本当はもっとややこしい……
第8回	「黒人」英語（その1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第9回	「黒人」英語（その2）	無意識の規則
第10回	「黒人」英語（その3）	必要な（意味論的）概念の整備
第11回	「黒人」英語（その4）	細かい意味的な区別
第12回	強形・弱形・再強勢形	doの3単現（その1）
第13回	音節量	doの3単現（その2）
第14回	外来語での音節量調整	doの3単現（その3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えて（書いて）きてください。

また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。
なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%。
公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーのあり方に賛否両論ありました。良い側面を残しつつ悪い側面をなくす（減らす）方策を考えたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段アクセスするアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】

Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 | 曜日・時限：木曜1限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティ／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを全般的に射程に入れつつ、日本語社会を対象とした「近年の言語変化」「近年のことばの地域差」について重点的に取り上げる。毎回の課題準備と学生どうしの意見交換を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【4/21 更新】講義時間帯には、PC（あるいは wifi につないだタブレット・スマホ）を使うことができるのであれば、そちらを用いるようにしたほうがさらに望ましい（ただし、wifi 接続のために学校や無料 wifi スポットに行く必要はない）。講義の質を確保しつつ、できるかぎりデータ通信量を要しない進行方法を検討中である。

【4/17 更新】春学期はすべてオンラインでの開講になる可能性あり。授業計画の変更および各種指示は、4/22 まではこのシラバス上で、4/23 以降は学習支援システム上で提示する予定なので、注意されたい。本授業の開始（講義全般の説明）は 4/23（木）8:50 とする。この時刻に、学習支援システムの「お知らせ」を参照するようにすること。

▼基本的に、春学期毎週1限（8:50 開始）の実施とする。履修にあたっては、この時間帯に落ち着いて PC(あるいはスマホ)の前にいられる環境が整えられることを前提としておくこと。

▼オンラインでの講義にあたっては、できるかぎりデータ容量を要しない方法を検討している。

▼テキストは当初予定のものを用いる予定なので、必ず購入すること。大学構内の書店に発注済み（通信販売可）だが、履修を決めた学生はほかのルートで早めに入手しておいてもよい（予習しておくことさらによい）。5月初旬までは毎回のテキストの部分的コピーを学習支援システム上にアップすることも検討しているが、履修登録（本登録）期間終了後は各自がテキストを持っていることを前提に講義を進める。

【以下は旧情報のため取り消し】講師による講義形式のものだけではなく、毎回、小グループに分かれての学生どうしでの意見交換の実施を検討している。また、スマホ・タブレット・PCを用いたアンケートや意見収集を講義中におこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全般の説明
第2回	ことばの多様性	現代におけることばの地域差 ほか
第3回	ことばの年齢差	「やらせていただきます」はおかしい?」「自分の呼び方は『うち』『わたし』『わたくし』?」 ほか
第4回	ことばの変化を把握する	いまある「年齢差」から将来の言語変化を推測できるか ほか
第5回	さまざまな資料の活用	ネット上の諸情報を社会言語学的なデータとして扱うためには ほか
第6回	発音の変化	演歌と J-POP の発音はどう違うのか ほか
第7回	アクセントの変化①	アクセントの平板化 ほか
第8回	アクセントの変化②	方言での変化、英語での変化 ほか
第9回	動詞可能表現の変遷・変化	「何かを信じてこれたかなあ」はだめなのか ほか
第10回	形容詞・形容動詞の変遷・変化	「このカレーまじヤバイ」「ピンクなシャツ」はおかしいか ほか
第11回	副詞の変遷・変化	「全然OK」はOKか ほか
第12回	配慮表現	「この講義では何を教えるつもりですか」は失礼か ほか

第13回 レポート検討 各自のレポートについて検討する。
第14回 まとめ 講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【4/17 更新】課題の事前準備として、テキストの批判的検討と、各章末の「練習問題」の回答を求める予定である。

【以下は旧情報のため部分的に取り消し】課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には、課題対応・予習・関連書籍閱讀で合計4時間以上）がかかるはずなので、その旨お知らせしたい。

【テキスト（教科書）】

【はじめて学ぶ社会言語学】（日比谷潤子編著、ミネルヴァ書房、2012年、2,800円＋税）

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b96144.html>

専門的な内容も含まれているため必ずしも安価ではないが、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後には三千円以上の損をすることになる。

- (1) 『新世代の言語学 - 社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003年、1,800円＋税）
- (2) 『新版 日本語用論入門』（山岡政紀・牧原功・小野正樹、明治書院、2018年、1,600円＋税）
- (3) 『朝倉日英対照言語学シリーズ [発展編] 1 社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017年、3,200円＋税）
- (4) 『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013年、840円＋税）
- (5) 『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013年、800円＋税）
- (6) 『日本語の配慮表現の多様性』（野田高史ほか、くろしお出版、2017年、3,700円＋税）

【成績評価の方法と基準】

【4/17 更新】オンラインでのスタートとなったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【以下は旧情報のため取り消し】毎回の事前準備課題 30%

意見交換での議論活性化への寄与度 10%

最終レポート 60%

講義への全出席を求めるものではないが、ほぼ欠かさず出席して頭を慣らし、自分なりに考える習慣をつけていかない限り、最終レポートが及第点に至ることはおそろくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は優秀な学生も多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

【4/17 更新】オンラインでの開講にともない、各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【以下は旧情報のため部分的に取り消し】「ふだんよく見るメールアドレス」【wordが使える環境】「配布資料を綴じするためのA4縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。

連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（SNSアカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。

また、レポートの執筆は word を用いることを原則とする（添削を加えるため）。word 以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。

本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。留学生の受講も歓迎する。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. diversity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range generally, while the themes of "language change in recent years" "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis.

LIN200BD

応用言語学

福田 純也

授業コード：A2811 | 曜日・時限：水曜3限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、応用言語学のうち言語習得にかかわる基本的問題についてとりあげる。まず、言語研究を通して解明される心の問題にはどのようなものがあるのかを理解し、その問題を解き明かすために使用される言語の分析方法や心理学的実験手法に関する基礎的知識を身につける。

【到達目標】

- (1) 言語研究を通して解明される心の問題にはどのようなものがあるのかを理解する
- (2) 先行研究ではどのような言語の分析方法や心理学的実験手法が用いられてきたかを理解する
- (3) 当研究分野でどのような研究が行われてきたのかを俯瞰し、研究における問いの立て方・解決の仕方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

4/22より開始。授業支援システムに資料と課題を掲載するので、それを参照し、指示に従ってください。資料と授業支援システム内の掲示板を使用して、演習方式で授業を展開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要および応用言語学という学問の紹介
第2回	心の問題 1	言語一般と習得にかかわる問題について
第3回	心の問題 2	第二言語習得に特徴的な／特有の問題について
第4回	生成的アプローチによる言語習得	生成文法に基づく言語習得論を概観する
第5回	UG 原理から言語獲得への予測	第4回目に学んだ理論をもとに、言語獲得に関してどのような予測が成り立ち、どのように検証されてきたのかを知る
第6回	認知的アプローチによる言語習得論 1	認知言語学およびその関連分野の知見
第7回	認知的アプローチによる言語習得論 2	特に第二言語の習得に焦点を当て、認知的アプローチによる言語習得が生成的アプローチとどのように異なるかを知る
第8回	語彙獲得 1	語彙獲得において、どのような論理的問題があるのかを学ぶ
第9回	語彙獲得 2	語彙の形式・概念の近年の研究をとりあげる
第10回	意識的・無意識的言語習得 1	意識的・無意識的な言語習得において、何が問題なのかを知る
第11回	意識的・無意識的言語習得 2	意識的・無意識的な言語習得において、どのような調査がなされ、なにがわかっているのかを把握する
第12回	意識的・無意識的言語習得 2	言語習得における意識の現象論的側面にかかわる問題についてとりあげる
第13回	復習・総括	これまでに学んだことを復習・総括する
第14回	到達度確認	到達度確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の学習のみで本演習の扱う基礎的知識を身につけることは極めて困難であることを理解し、講師が授業内で示したポイントについて毎授業後に復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない。ハンドアウト等を配布する。

【参考書】

『外国語学習に潜む意識と無意識』開拓社、2018年

『詳説第二言語習得研究-理論から研究法まで』研究社、2010年

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート・到達度確認70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lesson focuses on the fundamental issues related to language acquisition in applied linguistics. Students are required to understand what kind of mental problems can be elucidated through linguistic research, and to gain basic knowledge on methods for linguistic analysis and for psychological experiment to address these issues.

LIT200BD

比較文学 A

松枝 佳奈

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木曜5限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代から現代までの日本におけるロシア文学の影響・受容関係を、二葉亭四迷と内田魯庵、およびチェーホフの文学作品を中心に学ぶ。「ロシアをめぐる比較文学」を学ぶことで、近代日本文学の成立の過程や、その国際性、複雑な日露関係の歴史を理解し、さまざまな側面から日本の文学や文化を捉え、再考する観点を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ・近代から現代までの日本でロシア文学がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
- ・文学作品の読解方法や比較文学の基礎を学び、自ら日本語や英語で書かれた文学作品を読み、形式や文体、表現、技法を解釈して、その魅力を味わうことができる。
- ・自国の文学や文化を相対化して、柔軟に考える力を養う。
- ・ロシアの文学や文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とする。具体的なオンライン授業の方法などについては、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第2回	比較文学とは何か	比較文学の歴史——影響・受容研究、対比研究、クロス・ジャンル研究について
第3回	文章解読の方法（1）	夏目漱石『永日小品』を例に
第4回	文章解読の方法（2）	作品の構造分析——俳句と英語詩を例に
第5回	二葉亭四迷とロシア文学（1）	『浮雲』に見るロシア文学の受容
第6回	二葉亭四迷とロシア文学（2）	「あひゞき」「めぐりあひ」の文体と音調——トゥルゲーネフ『獵人日記』の翻訳
第7回	二葉亭四迷とロシア文学（3）	二葉亭のロシア文学観——近代日本文学と言文一致の成立
第8回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第9回	内田魯庵とロシア文学（1）	二葉亭四迷との共同訳——ドストエフスキー『罪と罰』
第10回	内田魯庵とロシア文学（2）	二葉亭四迷との共同訳——トルストイ『復活』
第11回	内田魯庵とロシア文学（3）	「革命婦人」とオスカー・ワイルド『ヴェラ、実は虚無主義者たち』
第12回	イギリスにおけるチェーホフ受容	コンスタンス・ガーネットの英訳版を中心に
第13回	近代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと日本文学——芥川龍之介に対するチェーホフの影響
第14回	現代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと村上春樹

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱う作品の抜粋（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに読む。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。
 - ・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。
 - ・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要な教科書テキスト：特になし

担当教員が作成した印刷物を授業内で配布する。

【参考書】

指定の参考書：特になし

必要があれば授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。授業の進度により、授業内容が変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of comparative literature, translation studies and the history of the reception of Russian literature in modern Japan. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative literature and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the literary history from the 19th to the 21st centuries.

LIT200BD

比較文学B

松枝 佳奈

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシアをめぐる比較文学から比較文化、比較芸術へ」を主題に、比較文学に隣接する比較文化や比較芸術に焦点を当てる。

特に近代日本におけるロシアの文化と芸術の影響・受容関係や、近代から現代までのロシア文学と他の文化・芸術分野との関係、ロシア芸術と他の文化領域との影響・受容関係を多角的に学ぶ。それにより、近現代のロシア文化や日本文化の多様性や、異文化理解、文化ジャンルの越境性を考察する観点を持つことを目的とする。

【到達目標】

- ・近代から現代までの日本でロシア文化・芸術がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
- ・ロシアの文学や芸術と他の国や地域、文化領域との影響・受容関係を理解し、述べることができる。
- ・文化や芸術作品の解釈方法や比較文化と比較芸術の基礎を学び、自ら作品の形式や表現、技法を分析して、その魅力を味わうことができる。
- ・ロシアの文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

扱う資料・作品（日本語または英語）を事前に配布する。予習を前提に、講義形式で授業を行う。毎回、受講者がリアクション・ペーパーに書いた考察や感想、質問に対して、翌週の授業で教員から適宜フィードバックがなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第2回	比較文化研究・比較芸術研究の概要	文学・芸術のクロス・エリア研究と芸術のクロス・ジャンル研究
第3回	江戸時代の日本とロシアの文化交流(1)	漂流民から見る日露交流の様相
第4回	江戸時代の日本とロシアの文化交流(2)	大黒屋光太夫と『北槎聞略』を中心に
第5回	ロシアの宗教絵画アイコンと日本(1)	アイコンとは何か——アンドレイ・ルブリョフを中心に
第6回	ロシアの宗教絵画アイコンと日本(2)	明治のアイコン画家・山下りん
第7回	ロシア・バレエに見る比較芸術(1)	19世紀ロシアにおけるクラシック・バレエの発展——《白鳥の湖》を中心に
第8回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第9回	ロシア・バレエに見る比較芸術(2)	バレエ・リュスと二十世紀のバレエの展開
第10回	香水《シャネル N° 5》に見るロシアとフランスの文化関係(1)	ココ・シャネルと亡命ロシア人たちの交流
第11回	香水《シャネル N° 5》に見るロシアとフランスの文化関係(2)	ロシアの香水文化と《シャネル N° 5》の誕生
第12回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と社会(1)	1910年代のロシア(ソ連)におけるアヴァンギャルド・ポスター芸術の発展
第13回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と社会(2)	1920年代のソ連におけるモダニズム・ポスター芸術の隆盛と終焉
第14回	バレエから見た明治～昭和期の日本とロシア文化	アンナ・パヴロワとエリアナ・パブロバを中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品・文章の抜粋や資料（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに内容を十分に把握しておく。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。

・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。

・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書：特になし

担当教員が作成した印刷物を授業内で配布する。

【参考書】

指定のものはないが、毎回の授業のテーマや取り上げた作品・作家に関する書籍や資料を読み、視聴することは関心と理解を深める。適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパー）：20%

中間試験：40%

学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパー等を通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。授業の進度にあわせて授業内容が変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of comparative culture, comparative arts and the history of the reception of Russian culture in modern Japan.

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative culture and arts and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the cultural history from the 19th to the 21th centuries.

LIT200BD

米文学史A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期Aは、植民地時代の文学から19世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。が、その前に1960年代以降の現代文学について概説する。

いっぽう今年からはじめて教科書を使用する（絶版の本なのでプリントを配布）。少なくとも二つの異なった視点からアメリカ文学のヴィジョンめいたものをこしらえてみたい。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なバースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに取り扱われるのか、どんなふうに興味があるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期のAでは17世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。

講義。教科書の一章を読んできて、アバウトにはそれぞれの章におよそ2週間をかけて講義をする（該当しない内容も語る）。春学期はボルヘスの本の全14章の[1]～[7]章までと[13]章を行きつ戻りつする。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は601研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうなどの努力をしていただきたい。なるべく時間をおかずに学習支援システムに上げられるものはあげるけれども。）

【4/20 追記】春学期の少なくとも前半以上が「オンライン」での開講となります。それにとまなう各回の授業計画（シラバス）の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日はいよいよ4月27日ですけれども、教室授業の時間（月曜2時限）にいわゆる双方向型Web会議システムの授業をするにはいたらず、読書用作品リストや課題レポートの提示や、教科書（今年からの変更で、指定テキストを使用することにしちゃった——Jorge Luis Borgesの英訳本とそれへの注釈）のpdfのアップロード→ダウンロードなどの作業をおこなってもらうべく、イントロダクションの言葉を、これもプリントとしてアップロードして責をふたぎたいと考えます。そんなかたちが初回のみならず数回は続く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ボルヘスと（北）アメリカ文学	イントロダクション：授業の進め方と課題について/教科書プリントの配布
第2回	アメリカ文学とSF、探偵小説、ウェスタン	1960年代以降のアメリカ現代文学① / [13]The Detective Story, Science Fiction, & the Far West
第3回	ポストモダンの文学	1960年代以降のアメリカ現代文学② / ペンション、バース、ボルヘス
第4回	植民地時代の文学	エレジーと名前の重要性/ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力 / [1] Origins
第5回	ベンジャミン・フランクリンとアメリカの夢 / チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について / プロテスタントティズムと資本主義の精神 / 自伝とフィクション / ヴェル対ロマンス / [2] Franklin, Cooper, & the Historians

- 第 6 回 ジェイムズ・フェニモア・クーバー "Leather-Stocking Tales"とウェスタンの英雄像／フロンティアと文学的想像力／ [2] Franklin, Cooper, & the Historians
- 第 7 回 ワシントン・アーヴィングとエドガー・アラン・ポー ゴシックの変容とアメリカのユーモア／アメリカの短篇小说／ [2] Franklin, Cooper, & the Historians
- 第 8 回 ボーとナサニエル・ホーソーン ロマン主義とゴシック／ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義／ホーソーンの小説論／ [3] Hawthorne & Poe
- 第 9 回 エマソンとアメリカ超絶主義 アメリカのロマン主義と自己信頼／ [4] Transcendentalism
- 第 10 回 超絶主義とホイットマン ソノーとホイットマン／ [5] Whitman & Herman Melville
- 第 11 回 メルヴィルの思想小説 小説の極限について／長篇・短篇・詩／ [5] Whitman & Herman Melville
- 第 12 回 感傷小説の伝統 大衆小説、高級小説／プロット、ストーリー、キャラクター／女性読者・女性作家・男性作家
- 第 13 回 ロングフェローとエミリー・ディキンソン 詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統 [4] Transcendentalism
- 第 14 回 南北戦争その他 19 世紀の文化と社会／ [6] The West

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記「授業計画」の「内容」の【番号】はボルヘスの本の章番号を示している。教室でも予告するが、該当する箇所を前もって読んでおくことが求められる（確認の小テストをおこなうこともある）。

積極的に作品も読むこと。代表的作品のリストを初回に配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としますが、予習（読書）に力を注いでいただきたい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。可能な限り学習支援システムにファイルをアップロードする。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史【全 4 巻】』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）である。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思ふ。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたいので詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている ⇒ これ [英訳本] を今年教科書にしてみる）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewart の *American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス＝ノヴェルとした Richard Chase の *The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20%)、(2) アメリカ文学作品を読んだレポート (20%)、(3) 期末試験 (60%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【4/20 追記】春学期の少なくとも前半が「オンライン」開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も修正があり得ます。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

こわくならないようにやさしく話すこと。むつかしくなりすぎないようにやさしく話すこと。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月曜 2 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心されるのか、どんなふうに関心されるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

秋学期も春学期に引き続き、ボルヘスのアメリカ文学講義のプリントを使用する（[6] 章の The West に戻って南北戦争とアメリカ文学のリアリズムの話から）。教科書とプリントを併用・補完する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体／教科書プリントや資料の再配布／ [6] The West
第 2 回	ルイーザ・メイ・オルコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について／ [6] The West
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊と視点の問題	小説の視点 (point of view) / [9] The Expatriates
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学 / [8] The Narrators
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学 / [8] The Narrators / [9] The Expatriates
第 8 回	SF と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題 / [13] The Detective Story, Science Fiction, & the Far West
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩 / [10] The Poets / [9] The Expatriates
第 10 回	アメリカン・シアター	演劇とミュージカル／メロドラマと大衆演劇 / [12] The Theater
第 11 回	1930 年代・1940 年代から戦後へ	[11] The Novel
第 12 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学
第 13 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学 / ピンチオンとバース	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える / ポスト=モダンな意識とは何か

第 14 回 アメリカ・インディアン [14] The Oral Poetry of the Indians
とアメリカ文学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントを読んで考えること。積極的に作品も読むこと。代表的作品リストを初回に配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20%)、(2) 作品 1 冊を読んでのレポート (20%)、(3) 期末試験 (60%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金曜 4 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

【4/20 追記】春学期の少なくとも前半以上が「オンライン」での開講となります。それにとまなう各回の授業計画（シラバス）の変更については、学習支援システムでその都度か、ある程度まとめてか、提示・説明します。本授業の開始日はいちおう 4 月 24 日ですけれども、教室授業の時間（金曜 4 時限）にいわゆる双方向型 Web 会議システムの授業をするにはすぐにはいたらず、イントロダクションの言葉を pdf にしてアップロードし、読んでもらい、質問を掲示板を使って受けることにします。映画は観られそうもないので、課題のレポートとそれに関する文献紹介や解説を 5 月にかけて集中的におこないたいと考えます（いろいろな文献を pdf にして学習支援システムにあげ、講義的な原稿をこしらえて併せて読んでもらうかたちを考えています。いちおうは Web シラバスに載っている授業内容を映画以外は消化してゆくつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	スタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリスとアメリカの特性。
第 7 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカ短篇小説
第 8 回	話法について	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 10 回	イギリスの短篇小説を読む（1）	19 世紀イギリス短篇小説。
第 11 回	Voice について	「態」と声。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	スタイルについて	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）

豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）

E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）

英米の文学史（教室でリストを配布する）

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【4/20 追記】春学期の少なくとも前半が「オンライン」開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も修正があります。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金曜4限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	英語の辞書のはなし(2)	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第2回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルドランス。
第3回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第4回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第5回	アメリカの短篇小説を読む(2)	20世紀アメリカの短篇小説。
第6回	注釈について	注釈について。
第7回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と“text”の多様な意味について。
第8回	語法について	とりわけ中間語法について
第9回	翻訳について	誤訳、直訳、意識。
第10回	英詩の構造	versification, rhyme, meter, foot。
第11回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第12回	キャラクターについて	round character と flat character。
第13回	イギリスの短篇小説を読む(2)	20世紀のイギリス短篇小説を読む。
第14回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義ⅡA

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

[今年度は、家にいる時間が多くなりそうです。その間に、なるべくたくさん作品を実際に読んでもらいたいと思っています。今学期あつかう作品のなかで、読んでおもしろいのは、スウィフトの『ガリヴァー旅行記』第4部、オーステインの『ノーサンガー・アビー』、シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』、ディケンズの『クリスマス・キャロル』でしょうか。がんばって多読を楽しんでみませんか。]

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

18世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870年以前）までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講義することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

授業開始日、4月21日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第2回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> とピカレスク小説	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ピカレスク小説について学習する。
第3回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第4回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第5回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第6回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称の語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第7回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第8回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第9回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第10回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第11回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第12回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第13回	Dickens, <i>Oliver Twist</i>	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第14回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書く。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料
授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史8 小説Ⅰ』『講座英米文学史9 小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)

The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点50%
期末試験あるいは期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19世紀末から21世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

19世紀末から21世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（19世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして19世紀末までの小説の展開を概観する。
第2回	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見てディスカッション	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見て、その内容を議論する。
第3回	世紀末のゴシック（1） 恐怖小説とファンタジー — <i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> , <i>Dracula</i> , <i>The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第4回	世紀末のゴシック（2） ミステリーとSF— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーとSFについて学習する。
第5回	唯美主義— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第6回	主観的・内的リアリズム — <i>Heart of Darkness</i> , <i>The Secret Agent</i> , <i>Mrs Dalloway</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第7回	芸術家小説— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> , <i>Sons and Lovers</i> , <i>To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第8回	アンチユートピア— <i>Nineteen Eighty-Four</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> をテキストにして、アンチユートピアについて学習する。
第9回	怒れる若者たち— "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner" をテキストにして1950年代の小説について学習する。
第10回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション— <i>The French Lieutenant's Woman</i>	<i>The French Lieutenant's Woman</i> などをテキストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第11回	マジック・リアリズム— <i>Midnight's Children</i>	<i>Midnight's Children</i> などをテキストにして、マジック・リアリズムについて学習する。
第12回	映画 <i>Atonement</i> を見て ディスカッション	映画 <i>Atonement</i> を見て、その内容について議論する。
第13回	ポストモダン・メタフィクション— <i>Atonement</i>	<i>Atonement</i> をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。

第14回 期末試験とまとめ

全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料
授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史9 小説Ⅱ』『講座英米文学史10 小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点50%
期末試験あるいは期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義 A

大沢 ふよう

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火曜2限
春学期・2単位**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。理解度を把握して授業内容に活かします。

授業開始日は、4月21日です。ここに日の前までに、必要な情報は学習支援システムにあげておきます。

ただ、通信事情などで、この日に学習支援システムにアクセスできない人が資料を受信したりできない場合もあると思いますので、その辺の事情は考慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第3回	基本的な概念について	学校英文法の見直し
第4回	構造とは何か	1年次で学習してきたことの復習
第5回	統語構造の基本	主要部、補部、付加詞について
第6回	句構造について	じつは名詞句、動詞句は内部構造は同じである
第7回	パラメーター	英語と日本語の違いについてー主要部パラメーターの違い
第8回	構造には2種類ある	深層構造と表層構造
第9回	統語構造を作り出す操作ー(1)	どのような基本的操作があるのか
第10回	統語構造を作り出す操作ー(2)	どのように、表層構造を作り出すのか
第11回	英語の基本的構造ー(1)	深層構造を設定することで説明が可能な構文
第12回	英語の基本的構造ー(2)	意味の違いは構造の違いによる
第13回	構造と意味の関係	言語は構造が命であるが、そこには意味も関わること
第14回	春学期のまとめ	総括としての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。

辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

研究社新大英和辞典

ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】

最終試験が60%

授業中に行う小テストなどの結果 30%

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

説明をわかりやすく工夫したいと思います。授業の冒頭では、前回の講義のまとめを簡単に行います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていただきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義 B

大沢 ふよう

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火曜 2 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題をとく機会を設けたいと思います。リアクション・ペーパーの提出も時々してもらいます。理解度や興味を把握し、授業の内容に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の特徴	現代英語は習得しやすい言語ではない
第 3 回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	英語の動詞	非定形動詞について
第 5 回	形容詞 + to 不定詞構文	現代英語の形容詞 + to 不定詞構文の多様さ
第 6 回	to 不定詞を使った構文ー	現代英語の to 不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第 7 回	to 不定詞を使った構文ー	共通の性質を持つ不定詞構文について
第 8 回	to 不定詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第 9 回	深層構造から見た違い	同じ表層構造でも、深層構造が違う文
第 10 回	統語操作	どのような統語操作が適用されているか
第 11 回	移動分析	移動分析が適用されている構文
第 12 回	形式主語を使った構文	深層構造が同じでも、表層構造が違う構文
第 13 回	理論を使った分析	理論を使うことで、意味の違いが構造によるものであることが理解できる
第 14 回	理論分析の利点	従来の伝統的な考え方との違い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。

辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

研究社新大英和辞典

ジーニアス大英和辞典

【成績評価の方法と基準】

最終試験が 60%

授業中に行う小テストなどの結果 30%

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行う小テストの返却時の説明を丁寧に行いたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

LIN200BD

言語学講義 I A

石川 潔

授業コード：A2913 | 曜日・時限：月曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、音声および統語論の面から比較します。

【到達目標】

母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少なくとも前半はオンラインでの開講となります。オンライン化されなくても、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、現状では、授業計画そのものはオンライン化によってはどの程度の変更が生じるかは不明です（変更が生じたら、必要に応じて学習支援システムでお知らせします）。

本授業の開始日は、4月27日を予定しています。「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信、学習支援システムでのテスト」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。初回は、授業内容のオリエンテーションや動画ファイルの見方の解説の pdf ファイルを配信する予定です。初回以降の見込みについても、その際、pdf ファイルに記入しておきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業全体の説明
第2回	音声1	鼻音についての誤解
第3回	音声2	母音挿入
第4回	音声3	「半母音」って何？
第5回	音声4	「音節」についての誤解
第6回	音声5	音声、強勢、母音挿入の音楽におけるあらわれ
第7回	音声6	母音・子音の長さの話
第8回	音声7	母音の弱化
第9回	音声8	英語の聞き取り実習1
第10回	音声9	英語の聞き取り実習2
第11回	統語論1	wh 構文の伝統的な分析
第12回	音声と統語論	gonna / wanna の分析
第13回	統語論2	受動態
第14回	まとめ	まとめ、秋学期に向けての指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。

また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの返信について良い評価をいただきましたが……あれ、めちゃくちゃ時間を取られました。もう少し現実的に効率的な方法を模索したいと思います。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese phonetics and syntax.

LIN200BD

言語学講義 I B

石川 潔

授業コード：A2914 | 曜日・時限：月曜3限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】

・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	春学期後半の復習と秋学期の指針
第2回	時制とアスペクト1	述語の2分類
第3回	時制とアスペクト2	英語の進行形の基本
第4回	時制とアスペクト4	英語の進行形の応用
第5回	時制とアスペクト5	英語の完了形
第6回	時制とアスペクト6	日本語に「現在形・過去形」はない？
第7回	時制とアスペクト7	日本語だって「現在形・過去形」だ！
第8回	時制とアスペクト8	日英で共通の重要な概念
第9回	時制とアスペクト9	従属節の日英比較
第10回	時制とアスペクト10	「～している」の意味（基本編）
第11回	時制とアスペクト11	「～している」の意味（応用編）
第12回	文理解1	文中における曖昧語の理解の仕方
第13回	文理解2	文中における曖昧語の理解の仕方
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてくださいませ。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはずですよ。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしていただければ、平常点に大幅加点となります）。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

(理解度を上げるといって観点から言っても) リアクションペーパーへの返信には良い評価をいただきましたが……前年度の方式は時間がかりすぎるので、もう少し現実的に効率的な方法を模索したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月曜4限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は言語学の入門コースです。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。授業は4月27日から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	形態論(1)	形態素の種類
第3回	形態論(2)	派生と語の内部構造
第4回	形態論(3)	造語
第5回	統語論(1)	文の構成要素分析
第6回	統語論(2)	句構造規則で文を作る
第7回	統語論(3)	変形規則で文を変える
第8回	第2回から第7回のみ まとめ	まとめ
第9回	意味論	さまざまな意味関係
第10回	語用論(1)	協調の原理と会話の公理
第11回	語用論(2)	発話行為、ポライトネス
第12回	社会言語学(1)	地域や人種による言語の変異
第13回	社会言語学(2)	ジェンダーと言語
第14回	第9回から第13回のみ まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイラー英語学概論』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と期末試験(70%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】

This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は一般言語学のコースです。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第2回	音声学(1)	子音
第3回	音声学(2)	母音
第4回	音韻論(1)	音素と異音
第5回	音韻論(2)	音素の同定
第6回	音韻論(3)	音韻規則
第7回	歴史言語学(1)	語彙変化
第8回	第2回から第7回のみ まとめ	まとめ
第9回	歴史言語学(2)	音韻変化、統語変化、意味変化
第10回	歴史言語学(3)	言語の系統
第11回	心理言語学(1)	文理解
第12回	心理言語学(2)	子供の言語習得の過程
第13回	心理言語学(3)	言語の生得性理論
第14回	第9回から第13回のみ まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各2時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイラー英語学概論』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と期末試験(70%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】

This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

若澤 佑典

授業コード：A2965 | 曜日・時限：金曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

感情の歴史と文学研究：

本講義では「感情の歴史」という学問領域から、文学研究・英語圏文学史について再考する。私たちは日々、笑ったり怒ったりする中で自身の感情を言葉にしている。また、本を読んだり映画を見たりする際は泣いたり怖がったりと、言葉によって特定の感情が呼び起こされたりする。私たちの言語表現と感情の関わり、すなわち文学と感情の相補的な関係について考えたい。18世紀イギリスのテキストを中心に、「感情」に関わる語彙／表現／主題／ジャンルを読み解いていく。最終的には授業で提示した枠組みとケーススタディをもとにして、各自の専門分野・研究テキストが論じられるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・「驚き」や「笑い」といった感情の在り方について、文学・歴史・哲学的な観点から理論的に考察することができる。
- ・個々の英文学作品について、その感情表現や主題化に着目して解釈することができる。
- ・感情をテーマとした18世紀英文学に親しみ、その概容や個々の作品の特徴が理解できる。
- ・英文学研究の方法と実践について、思想史・文化人類学・精神分析といった隣接領域との関わりに注意を払い、学際的な視点を持つことができる。
- ・講義で提示されたテーマ・事例について、自身の研究関心と結び付け論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で進めるが、アクティヴ・ラーニングを活用して対話的かつ双方向的な授業を目指す。例えばキーコンセプトを説明する際は、理解した内容を履修者にパラフレーズしてもらったり、各人の専門分野や興味関心とのかわりかを考えて話してもらったりする。毎回ではないが、課題文献を指定して授業前に読んできてもらったり、授業内でレスポンスペーパーを書いてもらったりする。履修者には春学期内に1回、10分～20分程度の研究発表を行ってもらう。

【授業開始日】

第1回講義資料+音声ファイルは4月23日（木）頃、学習支援システムにアップロード予定です。履修者のみなさんはご自身の状況に合わせて、それぞれのペースで内容確認・自宅学習を進めてください。4月末日までに第1回分の学習が完了できれば問題ありません。健康を第一に、新学期を過ごしてください。

また、学習支援システムへのアクセスが混雑するかもしれません。学習環境やインターネット接続の関係などで履修が遅れた方たちには、授業スピードの調整や課題提出日の延長、追加サポートなどを行います。履修にあたって心配なことがある方は、適宜メールでご相談ください。連絡先は第1回講義資料に載っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：近代イギリスと泣く人々	ミル『自伝』を読む
第2回	「感情の歴史」という学問領域の成立	ロンドン大学「感情の歴史研究センター」のマニフェストを読む
第3回	「怖がる／恐れる」①：生存の危機における叫び	ホップズの社会契約説を検討する
第4回	「怖がる／恐れる」②：ホラーの悦び	ウォルポールのゴシック小説を読む
第5回	「不安になる」：未来への想像力と感情	ヒュームの懐疑論とその言語表現を検討する
第6回	「失望する／嘆く」：過去への視点と感情	・ゴドウィン『ケイレブ・ウィリアムズ』を読む ・クリッチリー「哲学は失望から始まる」というテーゼを検討する
第7回	「笑う」：体系化からの逸脱	エーコ『薔薇の名前』の一場面（笑いをめぐる教義問答）を取り上げる
第8回	「笑う」②：劇場という空間	・シェイクスピアとシェリダンを取り上げる ・パフォーマンズ（演じる）と感情表現について考える

第9回	「驚く」：推理とその裏切られ方	・「哲学は驚きから始まる」というテーゼを検討する ・ミステリーというジャンルについて考える
第10回	中間総括：感情の「分類」というアプローチをめぐって	個々の感情をピックアップする方法について、そのアプローチの有効性と限界を考える
第11回	感情の伝染①：「共感」	・18世紀イギリスの道徳感情論（ヒュームおよびスミス）を検討する ・感傷文学を読む
第12回	感情の伝染②：「転移」	精神分析の知見から道徳感情論をアップデートする
第13回	感情は誰のものか？：個人・無意識・集団心理	精神分析から「感情の歴史」をめぐる方法と実践を検討する
第14回	「感情の歴史」というフロンティア	春学期講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・指定された文献を数ページでいいので目を通し、重要な点や気になる点メモする。授業でどのようなコメントをするか考える。（2時間）
- ・授業で提示した研究テーマや方法について、各自の興味関心とのかかわりを考える。（1時間）
- ・講義内容をまとめ、そこで疑問に思ったことや興味を惹かれたことを軸に、授業内発表の準備を進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

The Queen Mary Centre for the History of the Emotions
<https://projects.history.qmul.ac.uk/emotions/>
Thomas Dixon “Feelings, and feelings, and feelings” (BBC Radio 3 Freethinking)
<https://www.bbc.co.uk/programmes/m0003rsw>
Emotion in History (Oxford University Press)
<https://global.oup.com/academic/content/series/e/emotions-in-history-eih/?cc=gb&lang=en&>
『痛みと感情のイギリス史』と Early English Books Online
<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/denhan/chadwyck/umi/eebotalk.htm>

【成績評価の方法と基準】

授業内発表（10分～20分程度のプレゼンテーション+質疑応答） 50%
毎週の授業課題に対する取り組みとレスポンスペーパー 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The History of Emotions and Literary Studies:

This course explores the history of emotions and its contribution to understanding literary texts. This is an emerging field of academic inquiry across disciplinary boundaries including social and cultural history, philosophy, anthropology, psychoanalysis and behavior science. Historians of emotions emphasize that human feelings are embedded in social and cultural practice, and therefore, each emotion has its own “history.” Instead of reducing various feelings into a simplified theoretical model, they focus on the diverse embodiments and expressions of emotions in everyday life, as the product of interactions between feeling and other human activities.

As part of locating literary studies in the history of emotions (and vice versa), we will examine the intersection between feeling and writing/reading/narrating by exploring eighteenth-century literature and related texts produced in the “age of sensibility.” The primary texts of this course include Laurence Sterne’s *A Sentimental Journey* (1768), Horace Walpole’s *The Castle of Otranto* (1764), William Godwin’s *Caleb Williams* (1794), Mary Wollstonecraft’s *Letters Written in Sweden, Norway, and Denmark* (1796), Adam Smith’s *The Theory of Moral Sentiments* (1759), and David Hume’s *A Treatise of Human Nature* (1739-40).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

小島 尚人

授業コード：A2966 | 曜日・時限：金曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「ハードボイルド探偵小説とフィルム・ノワール」を主題とし、20世紀前半のアメリカの小説と映画について学ぶ。米国特有の推理小説がどのような文化的・歴史的背景の中から生まれてきたのか、どのような形式・内容上の新しさを備えていたのか、そして何を問題としてきたのかを、ダシール・ハメット『マルタの鷹』（1930年／映画版1941年）とレイモンド・チャンドラー『大いなる眠り』（1939年／映画版1946年）という代表的な2作品およびその映画版の読解を通じて理解することを目指す。

【到達目標】

- ①ハードボイルド探偵小説が誕生するに至ったアメリカの文化的・歴史的背景の概略について理解し、説明できるようになる。
- ②ハードボイルド探偵小説の形式的・内容的特徴を、『マルタの鷹』と『大いなる眠り』の二作の具体的内容に即して丁寧に理解し、自分なりに説明できるようになる。
- ③小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。
- ④作品の一部を英語でも講読することを通して英語読解能力を、また能動的な映画視聴を通じてリスニング力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①授業は講義形式で進める。ハードボイルド探偵小説が誕生するに至ったアメリカの文化的・歴史的背景を学んだ上で、当該ジャンルの方向性を決定づけた代表作『マルタの鷹』および『大いなる眠り』の2作品を、それぞれの映画版と合わせて詳しく分析する。
- ②上記2つの小説については、指定された版の翻訳を教科書として各自購入し、翌週で扱う範囲を予習として読んできた上で授業に臨む。講義は予習を前提として進められる。予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストが計6回課される。
- ③毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述する形で、講義へのレスポンスや作品解釈をおこなう。
- ④そのような実践の積み重ねを通じて、小説や映画がアメリカの社会・文化の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明、学習内容の概観
第2回	ハードボイルド探偵小説の起源①：英米探偵小説史	英米それぞれの系譜と特徴：ポー、家庭探偵小説、コリンズ、ドイル、クリスティ、パルプ・マガジン
第3回	ハードボイルド探偵小説の起源②：ウエスタン	西部のアメリカン・ヒーローたち、ダ임・ノヴェル、西部劇映画
第4回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む①	形式と内容における「ハードボイルド」：語りの技法と文体、舞台設定と物語展開、主人公の造形、警察と私立探偵
第5回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む②	物語の重層性：冒険小説、恋愛小説、推理小説
第6回	ジャンルの確立：『マルタの鷹』を読む③	ファム・ファタールと私立探偵の詩学：サム・スベードの決断
第7回	フィルム・ノワールとは：『マルタの鷹』を観る①	映像における形式・視点・描写の技法とその効果
第8回	フィルム・ノワールとは：『マルタの鷹』を観る②	小説と映画の比較
第9回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む①	形式と内容における「ハードボイルド」：語りの技法と文体、舞台設定と物語展開、主人公の造形、警察と私立探偵
第10回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む②	物語の重層性：冒険小説、恋愛小説、推理小説
第11回	ジャンルの展開：『大いなる眠り』を読む③	ファム・ファタールと私立探偵の詩学：フィリップ・マーロウの孤独
第12回	フィルム・ノワールとは：『三つ数えろ』を観る①	映像における形式・視点・描写の技法とその効果

第13回 フィルム・ノワールとは 小説と映画の比較
：『三つ数えろ』を観る

②
第14回 ジャンルの多様化： 内省的探偵、暴力的探偵、女性探偵、
「ハードボイルド探偵」その後 黒人探偵、21世紀のハードボイルド探偵

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で扱う作品を事前に読む。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での小テストや課題に対応できるようにしておく。(3時間)
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んで観たりする。(1時間)

【テキスト（教科書）】

- ①ダシール・ハメット『マルタの鷹 [改訂決定版]』小鷹信光訳、ハヤカワ文庫、2012年 (ISBN: 97841507730761)
- ②レイモンド・チャンドラー『大いなる眠り』村上春樹訳、ハヤカワ文庫、2014年 (ISBN: 9784150704643)

【参考書】

- 小鷹信光『ハードボイルド以前』（草思社、1980年）
小鷹信光『ハードボイルド・アメリカ』（河出書房新社、1983年）
亀井俊介『アメリカン・ヒーローの系譜』（研究社、1993年）
野崎六助『北米探偵小説論』（河出書房新社、1998年）
諏訪部浩一『「マルタの鷹」講義』（研究社、2012年）
諏訪部浩一『ノワール文学講義』（研究社、2014年）
John T. Irwin, *Unless the Threat of Death Is Behind Them: Hard-Boiled Fiction and Film Noir* (Johns Hopkins UP, 2009)

【成績評価の方法と基準】

- ①授業内小テスト（計6回）およびワークシート（ほぼ毎週）：35%
予習ができていないか（ちゃんと作品を読んできているか）、授業内容を理解しているか、ワークシートを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
- ②学期末定期試験：65%
教科書2冊を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできませんが、ワークシートへのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】

必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline and objectives】

This is a special topics course focusing on hardboiled fiction and film noir. Beginning with a historical survey of the origins of the genres, the course offers a close reading of *The Maltese Falcon* and *The Big Sleep*, two of the founding works of the hardboiled detective fiction. Through an intensive discussion on the novels and their film adaptations, students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, and in-class writing assignments.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水曜1限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問う視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第2回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第3回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第4回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第5回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第6回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第7回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第8回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第9回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第10回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第11回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第12回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第13回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第14回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）

ウエルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19世紀末から20世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日です。オンライン授業の方法や課題は、学習支援システムでお知らせします。

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。
毎回アクションペーパーを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	帝国主義とは
第2回	<i>Black Narcissus</i>	イギリスの植民地政策
第3回	<i>Black Narcissus</i>	映画分析入門
第4回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』と帝国主義の歪み
第5回	戦争詩人	第一次世界大戦と帝国
第6回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第7回	<i>The King's Speech</i>	帝国の崩壊
第8回	中間テスト	テストと前半のまとめ
第9回	アイルランド詩	アイルランドにおける植民地政策
第10回	<i>Hunger</i>	北アイルランド問題
第11回	<i>Hunger</i>	アイルランドの今
第12回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第13回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと人種
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ・コンラッド（著）、黒原敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%（出席は毎回とる）

中間テスト30%

期末テスト40%

4回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月曜3限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くなるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。
毎回アクションペーパーを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第2回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第3回	<i>Stagecoach</i>	民主主義の夢
第4回	<i>Stagecoach</i>	西部劇と民主主義
第5回	Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第6回	<i>The Man Who Shot Liberty Valance</i>	自治と法律
第7回	<i>The Man Who Shot Liberty Valance</i>	西部劇の終焉
第8回	中間テスト	これまでのまとめ
第9回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第10回	<i>Easy Rider</i>	60年代のアメリカ
第11回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第12回	<i>Moonlight</i>	マイノリティの夢
第13回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第14回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎孝（翻訳）
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト30%（出席は毎回とる）

中間テスト30%

期末テスト40%

4回以上の欠席で単位取得資格を失う

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

HIS200BE

日本考古学

小倉 淳一

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進歩が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第3回	旧石器時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第4回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第5回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第6回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第7回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第8回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第9回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第10回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第11回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第12回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第13回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第14回	原始・古代の技術革新	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。レポートを課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】

白石太郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史 第1巻 原始・古代1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30%）、提出されたレポートの成績（70%）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館で考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を十分に養ってほしい。授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。板書はあまり行わないので、画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成する必要があることを念頭に置いてほしい。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。図や表、活字史料のプリントを配布して授業を進める。ただし、ときに教師は問いを發し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	都市とは何か
第2回	江戸前史	地層と地形
第3回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第4回	マチの支配	町奉行と町年寄
第5回	マチとチヨウ	大江戸八百八町
第6回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第7回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第8回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第9回	武家拝領屋敷の相對替	主従関係と内実売買
第10回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第11回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第12回	公共空間の支配	道奉行
第13回	公共負担の行方	道造組合と上水組合
第14回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門 I～Ⅲ』（東京大学出版会）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）、平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

考古学概論

小倉 淳一

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。

考古学的方法が発達する過程が理解できる。

考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第2回	考古学とは何か	考古学の本質
第3回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たちの認識
第4回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第5回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第6回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第7回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第8回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第9回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第10回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第11回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第12回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第13回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第14回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

【成績評価の方法と基準】

当初は論述式の筆記試験を予定していたが、期末試験を通常通り行えない可能性がある。このため、授業内に課す小レポートによる評価を50%とし、期末レポートによる評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水曜5限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業のテーマ：徳川吉宗と書物

8代将軍・徳川吉宗は、いわゆる享保改革の実施者として著名である。その歴史的評価は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が、徳川宗家相続のため江戸城へ入城して真っ先に着手したのは将軍家蔵書の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、将軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20年以上にわたって古典をはじめとするあらゆる種類の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】

権力が文字知識に拠る文化といかに関係しているかという観点から、いわゆる享保改革期の特質、画期性について論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。文献資料の初歩的読解を前提とした講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	当授業の目的
第2回	徳川吉宗の人物像(1)	吉宗と幕政改革
第3回	徳川吉宗の人物像(2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第4回	将軍家の文庫(1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第5回	将軍家の文庫(2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第6回	将軍家の文庫(3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第7回	吉宗と書物(1)	『御代々文事表』を読む
第8回	吉宗と書物(2)	『御代々文事表』を読む(続)
第9回	吉宗と書物(3)	『御代々文事表』を読む(続)
第10回	吉宗と書物(4)	『御代々文事表』を読む(続)
第11回	吉宗の目的(1)	吉宗の指令の内実
第12回	吉宗の目的(2)	吉宗の指令の内実(続)
第13回	吉宗の目的(3)	吉宗の指令の内実(続)
第14回	まとめ	将軍家蔵書の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しません（プリントを配布します）。

【参考書】

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）
小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline and objectives】

Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国经济史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末レポート 70%
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水曜2限
春学期・2単位

【Outline and objectives】

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視点から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追い、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。
☆4月22日から授業支援システムを用いて授業をすすめます。お知らせ、課題など見落としがないようにきをつけてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第7回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第8回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第9回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第10回	緊張と排除（1）	魔女
第11回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第12回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第13回	ディスカッション（2）	近代と排除
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、受講生はあまり活用していないことに気がきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思えます。

【その他の重要事項】

☆4月22日から授業支援システムを用いて授業をすすめます。お知らせ、課題など見落としがないようにきをつけてください。

HIS200BE

西洋史特講 V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水曜 2 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2020 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、見えないもの（信仰）の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「ボリス」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つ目は、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	市庁舎を歴史する
第 8 回	建物を読む（2）	市庁舎でなぜ闘う？
第 9 回	建物を読む（3）	市庁舎でなぜ祝う？
第 10 回	建物を読む（4）	市庁舎をなぜ守る？
第 11 回	ディスカッション	自治と公共性をめぐって
第 12 回	見えないものを読む（1）	都市と信仰、都市の信仰
第 13 回	見えないものを読む（2）	秩序維持と信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之・伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアリティと秩序』岩波書店、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度のクラスでは、ディスカッションに際して多くの学生がよく考えて準備してくれたと思いますが、2020 年度は短時間のディスカッションを頻繁に行うスタイルと組み合わせることで、より能動的に学生が参加できる授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, police, religion, and labor. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知敏

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金曜 2 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国・香港・台湾からみる東アジア近現代史」をテーマとする。現在「兩岸三地」と総称される中国・香港・台湾は、それぞれ歴史的に異なる背景を持った地域である。特に近代以降は、植民地統治や政治的対立の時代を経て、互いに複雑な関係の下に置かれてきた。それは今日の日本を含む東アジア全体の国際関係にも、大きな影響を及ぼしている。

本授業では、こうした近現代における中国・香港・台湾の交流と対立の歴史をたどりながら、現在の東アジアの国際関係がどのように形成されてきたのか概観する。その上で、昨今の三地域および東アジア全体をめぐる諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国・香港・台湾の歴史をたどり、東アジア近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の東アジアの国際関係について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。（オンライン授業実施にともなう変更）

第 1 回はオンライン授業を行い、以後状況に合わせてオンライン授業を継続する。

オンライン授業の進め方は、学習支援システムによる講義動画・資料の配信、およびレポート課題とリアクションペーパーの提出を基本とする。

本授業の開始日は、4 月 24 日（金曜 2 時限）とし、この日までに授業方法の詳細を、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジア近現代史入門	東アジア近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	東アジアの近代	A へん戦争とイギリスの香港統治
第 3 回	清朝の衰退	日清戦争と日本の台湾統治
第 4 回	中華民国の成立	辛亥革命と民族主義の高揚
第 5 回	南京国民政府の樹立	国民党の中国統一と国家建設
第 6 回	日本の対中進出	満州事変と日本帝国圏の拡大
第 7 回	日中戦争の勃発	戦時下の中国・香港・台湾社会
第 8 回	戦後の冷戦突入	国共内戦と国民政府の台湾遷移
第 9 回	中華人民共和国の成立	共産党の一方独裁と社会主義体制
第 10 回	冷戦下の台湾	台湾海峡危機と白色テロ
第 11 回	冷戦下の中国	大躍進運動と文化大革命
第 12 回	冷戦体制の終結	中国の改革開放と台湾民主化
第 13 回	現在の東アジア	香港返還と中台関係の変化
第 14 回	東アジア近現代史の課題と展望	中国・香港・台湾をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国・香港・台湾に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会、2019 年。
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑤』岩波書店（岩波新書）、2010～14 年。
倉田徹・張域馨『香港——中国と向き合う自由都市』岩波書店（岩波新書）、2015 年。
若林正文『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』筑摩書房（ちくま新書）、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末試験 70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。（オンライン授業実施にともなう変更）

成績評価の方法と基準も一部変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of the modern east Asia focusing on China, Hong Kong and Taiwan area. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and current issues about international relations of east Asia.

HIS100BE

日本史序説 I

川上 真理

授業コード：A3212 | 曜日・時限：月曜3限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、芸能と儀礼の場に注目して日本の歴史を学び、それを東アジアとの関係性の中で理解します。その際に、歴史史料の読解を通じて、歴史を多面的に見る目を養います。

【到達目標】

日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになります。
事実を検証する姿勢と手法が身につくようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に基づいてプリントを配布して、その内容を説明しながら授業を行います。各回とも、授業の感想・意見・質問等を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容を次回の授業で紹介し、課題や関心を受講生の間で共有して進めていきます。また、中間まとめでは、歴史史料を用いて受講生全員での質疑応答を行います。

上記の方法で進める予定でしたが、春学期の開講当初はオンライン授業となるため、授業計画も変更します。変更の内容については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス/歴史とは何か、芸能とは何か
第2回	入門(1)	日本の文字社会
第3回	入門(2)	日記を読む
第4回	古代(1)	在来楽と外来楽
第5回	古代(2)	笛をめぐる宮廷の秩序化
第6回	中世(1)	琵琶をめぐる天皇の権威化
第7回	中世(2)	笙をめぐる家の分立
第8回	中世(3)	民間芸能の展開
第9回	中間まとめ	史料講読と質疑応答
第10回	近世(1)	芸能者と身分制
第11回	近世(2)	儀式と芸能
第12回	近世(3)	庶民と芸能
第13回	近代(1)	儀式と「文明国」
第14回	試験・まとめと解説等	授業のまとめ/授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習します。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館見学等）によって得られた知見を補足します。
・史料を選択し分析します。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布します。

【参考書】

○『岩波ジュニア新書 日本史』全9巻、岩波書店、1999～2000年、¥780＋税。
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000年、¥700＋税
○網野善彦『日本とは何か』（日本の歴史00）講談社、2000年、¥2,200＋税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017年、¥2,500＋税。
その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、中間まとめ（25%）、試験（50%）で評価します。
上記の予定でしたが、春学期の開講当初がオンライン授業となることにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の目的を明瞭に示します。

【その他の重要事項】

著しい遅刻は欠席とみなします。
質問は授業の前後に教室で受け付けます。

【Outline and objectives】

We learn the Japanese history by the performing art and ritual, on relationship with east Asia. So, we'll have multifaceted points of view by reading documents.

HIS100BE

日本史序説Ⅱ

齋藤 智志

授業コード：A3213 | 曜日・時限：月曜1限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際に、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代の特徴がどのような視点から描かれてきたかを考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業（第2回～第12回）は前半・後半に分けます。前半は時代の概観をおこない、後半はテーマを定めてそれぞれの時代の多角的な捉え方について学びます。
プリントとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する課題に取り組みます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	授業方針について 歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	日本列島における文化の黎明 日本の黎明の描かれ方
第3回	古代の国家と社会	律令国家の成立と変容 復元される古代
第4回	中世社会の成立	院政から武家政権へ 絵巻物から見る中世社会
第5回	中世社会の諸相	室町・戦国時代の動乱 戦乱の時代の英雄像と庶民像
第6回	幕藩体制の成立	江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 江戸ブームの歴史と現在
第7回	幕藩体制の動揺	社会の変動と幕政改革 村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第8回	近代国家の形成	明治維新と立憲国家の成立 明治イメージの諸相
第9回	近代国家の展開	デモクラシーと帝国主義 帝国を見せる：第五回内国勲業博覧会
第10回	近代の社会と文化	明治・大正期の文化変容と工業化 伝統文化の発見：文化財保護前史
第11回	第二次世界大戦と日本	軍部の台頭と総力戦 戦時下の雑誌を読む
第12回	戦後日本の歩み	戦後改革と高度経済成長 戦後の戦争観
第13回	歴史叙述の歴史と現在	日本の歴史はどのように描かれてきたか 現代社会のなかの歴史
第14回	まとめと試験	授業全体のまとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるプリントは、原則として前の回の授業で配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。授業終了後はプリントを読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。配布するプリント等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田寛・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
藤井譲司・伊藤之雄編著『日本の歴史 近世・近現代編』ミネルヴァ書房、2010年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・島海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、試験 60 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より双方向的な授業となるよう工夫します。

【その他の重要事項】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

HIS100BE

東洋史序説

塩沢 裕仁

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木曜4限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界史的な視点から東洋の独自性と人類社会の普遍的な営みを概観・考察することで、21世紀の世界において極めて重要な役割を果たすことになるアジアという地域の歴史、民族などに対する知識の拡大を図り当該地域に対する理解を促進することができます。

【到達目標】

アジアという地域の歴史に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては世界史上の新たな歴史認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、世界史の流れの中にあるアジア世界、特に東アジアの歴史とその問題点への理解を深めてもらいたいと思います。

本年度は、5月7日（木）より、授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業のねらいと参考書などの紹介
第2回	文明発生論と新石器時代の文化	文明の一元・多元発生論、並びに新石器時代の諸問題
第3回	草創期の国家	夏・殷・周三代王朝の性格と研究の現状
第4回	春秋戦国時代の意義	封建制度の問題と文化変革期としての春秋戦国時代
第5回	統一王朝の成立	秦始皇帝の統一と崩壊、並びに漢帝国の成立と拡大
第6回	東アジアが経験した最初の民族問題	三国世界の崩壊、並びに五胡十六国、南北朝の盛衰と諸問題
第7回	東アジアの国際化	隋唐王朝の盛衰と大運河・シルクロードをめぐる流通問題
第8回	経済国家宋の登場	時代区分論における宋登場の意義と宋の経済・文化
第9回	北アジア遊牧民族Ⅰ	モンゴル帝国登場以前の草原遊牧騎馬民族の興亡
第10回	ベトナム王朝国家の成立	秦漢から唐までの中国支配とベトナム独立王朝の成立
第11回	中央アジアオアシス国家の興亡	タクラマカン砂漠におけるオアシス国家の興亡とその性格
第12回	朝鮮半島の諸王朝	朝鮮半島における王朝興亡史（渤海を含む）と現在の朝鮮半島
第13回	北アジア遊牧民族Ⅱ	モンゴル帝国の盛衰と北京
第14回	明・清と東アジアの近代社会	中国近代社会の様相と西洋世界との接触

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の教科書は使用しませんが、講談社『ビジュアル版世界史』シリーズの内、『5、中国文明の成立』『8、東アジアの世界帝国』『17、東アジアの近代』『12、東南アジア世界の形成』などには目を通していただきたいと思います。写真や図版が多用されており比較的的理解しやすい参考書であると思いますので。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜教材としてプリントは配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして講談社『ビジュアル版世界史』シリーズや『東アジア史入門』（布目潮瀧・山田信夫著、法律文化社、1995年改訂版）、『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）を紹介しておきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。欠席は理由の如何を問わず自己責任とします。欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

On a survey of the Oriental identity and development from perspectives of the World History, we will be able to understand the various issues on the Chinese History, the Asian Peoples and Culture.

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木曜1限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概観的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかねながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようにすることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようにすることを目指します。

また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、第2週（4 / 30）の開始を目指して準備を進めています。

授業の進め方については、方針が固まり次第またお伝えします。

「学習支援システム」に「お知らせ」として掲示する予定です。

毎回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。毎回リアクションペーパーを配布しますので、質問やみずからの考えを記してください。随時授業内小レポートを課すこともあります。その内容に応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第2回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエンタル文明から、地中海文明へ
第3回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第4回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第5回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：付 歴史的事実の解釈について
第6回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」「アナル学派」
第7回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第8回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第9回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第10回	文明の衝突？：中世シリア王国と「12世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第11回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第12回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える

第 13 回 16 世紀：ハプスブルク 中世から、近世・近代への転換
の時代

第 14 回 授業の総括 授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価（40%）、および学期末の筆記試験ないしレポート（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuchi@rku.ac.jp までメールをください。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the modern era. The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

久野 美樹

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木曜 1 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア美術史。インド、中央アジア、中国の文化を絵画を中心とした造形から読み解きます。

【到達目標】

アジアの物質文化を視覚的、思想的に学ぶことで、現在の各国の人々の考え方の理解につなげることができます。また日本文化がアジアからいかに影響を受けているかを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

4月23日更新。本日、東洋史特講Ⅶの授業資料3点を配布しました。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	上座部仏教と大乘仏教、その美術	仏教というアジアの精神世界の根幹を学びます
第 2 回	古代インド絵画史	アジャンタ石窟壁画
第 3 回	中央アジア絵画史	キジル、ホータンの壁画
第 4 回	古代中国の死生観	漢・三国の出土物と壁画
第 5 回	魏晉の絵画と理論	魏晉の絵画と絵画理論
第 6 回	南北朝期の墓葬美術	南北朝期の出土物と壁画
第 7 回	敦煌の美術：北魏	北魏の美術と思想
第 8 回	敦煌の美術：西魏	莫高窟第 285 窟の造形に中国人の精神世界をみます
第 9 回	敦煌の美術：大乘仏教の世界へ	画卷形式から大画面形式へ
第 10 回	敦煌の美術：極楽浄土の世界	日本の精神世界にも大きな影響を与えた阿弥陀信仰の美術
第 11 回	密教美術	曼荼羅の世界
第 12 回	大唐長安の栄華	唐の墓室からの出土物、壁画、日本の正倉院宝物から唐の文化を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記した参考図書で各 2 時間の準備学習・復習時間をしてください。物質文化の学習は本物の作品を観察することが重要です。新型コロナの流行が去った後、東京国立博物館等を見学してください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全 18 巻各国・時代別有 小学館 1997～2001、
『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局 2016、
『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『中国石窟 キジル石窟』全 3 巻 平凡社 1983～1985、『中国石窟 敦煌莫高窟』1 巻～3 巻 1980～1981、高田修『アジャンタ』平凡社 1971、久野美樹『中国の仏教美術』東信堂 1999、『日本美術全集 3 東大寺・正倉院と興福寺』小学館 2013

【成績評価の方法と基準】

期末に提出するレポート 100%。評価の内訳は、造形の観察ができていないか 50%、学習した内容に基づき論理の構築をして造形についての理解を示しているか 50%。

4月23日更新。レポートはテストに近い記述式です。授業の中でお見せした画像数点について記述式で解説していただくと考えています。

【学生の意見等からの気づき】

より分かり易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

どのようなことでも遠慮なく質問メールをください。

【Outline and objectives】

Art History of Asia(India,Central Asia and China).

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

小澤 一郎

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、サファヴィー朝（1500-1722）から20世紀初頭までのイランの歴史を、主に「近代」にあたるガージャール朝（1798-1925）に力点を置いて学んでいきます。イランについてはイスラーム共和制という特異な政治体制や反米的外交姿勢が強調される傾向がありますが、そのような状況がいかにして生まれたのかは一般にほとんど注目されていません。この授業では現代の直接となる近代のイランの歴史を深く掘り下げることで、現代イランがいかにして成立したのか、その背景を明らかにします。また、イランの経験した近代はその歴史的前提から、おのずと日本の近代とは異なるものになりました。近代イランの歴史を学ぶことで、我々が当たり前だと思っている「近代」という時代を再検討することも目指します。

【到達目標】

この授業によって、高校の世界史レベルでは断片的な情報しか得られないイランの歴史について、一つの明確な像を描けるようになることを目指します。これは現代のイランや中東地域を理解する助けになります。欧米中心の見方を乗り越え、現地の視点からイランの歴史を見ることができるようになることを目指します。このことはイランだけでなく日本を含めた他地域の歴史を見直すうえでも大きな力となります。イランを語るうえで不可欠なイスラーム・シーア派に関する知識を深め、イスラームに関する理解を広げ、深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の授業は、当面の間オンデマンドでの教材配信による遠隔授業とし、既定の日時までに①テキストの該当部分を読み、②毎回の教材を視聴したうえで、③オンラインでリアクションペーパーを提出する、という手順で行います。質問がある場合もリアクションペーパーに記入してください。今回の授業の際に取りまとめてフィードバックします。また、授業の出欠もリアクションペーパーの提出をもって代えるので、忘れずに提出してください。なお、教材を配信する本格的な授業開始は5月1日（金）からとしますが、4月26日（日）に授業実施方法に関する詳細を学習支援システムにアップロードしますので、よく読んでおいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イランの自然・人文地理	授業の進め方を説明したのち、イラン高原を中心とする地域の自然・人文地理を概説する。
第2回	前提：シーア派①	イランで現在多数派となっているイスラームの宗派シーア派についてその成り立ちと特徴を抑える。
第3回	前提：シーア派②	イランで現在多数派となっているイスラームの宗派シーア派についてその成り立ちと特徴を抑える。
第4回	サファヴィー朝	サファヴィー朝の国家体制とその意義・問題点について扱う。
第5回	18世紀のイラン	サファヴィー朝滅亡後、「地方の時代」とも評価される18世紀のイランについて扱う。
第6回	ガージャール朝①	サファヴィー朝滅亡後、「地方の時代」とも評価される18世紀のイランについて扱う。
第7回	ガージャール朝②	ガージャール朝前半期における対外関係について扱う。
第8回	ガージャール朝③	ガージャール朝の後半期の概要と、イランを取り巻く国際関係の変化について扱う。
第9回	ガージャール朝④	ガージャール朝後半期に試みられた国家体制の改革の試みとその問題点について扱う。
第10回	ガージャール朝⑤	ガージャール朝におけるイスラーム知識人と西欧的知識人について扱う。
第11回	ガージャール朝⑥	ガージャール朝後半期におけるイギリス・ロシアのイランへの進出と、それに対する抵抗運動を扱う。
第12回	まとめ	一連の授業を総括するとともに、近代日本との比較を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業のテキストと授業教材を使用して復習し、合わせて参考文献を読んで授業内容を整理してください。疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次の授業のコメントシートで質問できるようにまとめておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

永田雄三編『イラン・トルコ』（世界各国史9・西アジア史2）、山川出版社、2002。

吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の100年』、有志舎、2011。 など各回に該当する箇所のPDFファイルを事前に学習支援システムにアップロードします。

これに加え、パワーポイントによる授業教材を使用します。

【参考書】

その他の参考書はダウンロードリンクを指定するか、該当箇所をPDFファイルで学習支援システムにアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のリアクションペーパー（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

イランの歴史のみならず、現代情勢などについても適宜触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配信する教材は最初の数回についてはパワーポイントのスライドショーを基本とし、大容量の動画教材などは使用しない予定です（受講者の通信環境やデバイスの保有状況によっては変更の可能性あり）。そのため、PCやタブレットがあれば受講可能です。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to grasp the historical development of modern Iran. It mainly covers the history of Iran during the Qajar era (1798-1925), making reference to such important topics as the modernization reforms attempted by the Qajar government, the Great Power's Iranian policies, and the role of the Twelver Shia Islam in the history. Students will not only learn deeply about the history of modern Iran, but also develop their understanding about "modern" era in general, through the comparison between the Iranian case and that of the other country, e.g. Japan.

HIS200BE

西洋史特講区

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水曜4限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の西洋史において重要な論点の一つは、福祉や慈善、あるいは社会政策である。そこでは、国家による政策のみでなく、社会状況や市民による自主的な活動など、多様な角度から貧困や失業に取り組もうとする人々の姿が取りあげられてきている。本講義では、特に20世紀半ばにいわゆる「福祉国家」を提唱して実現し、そののちサッチャー主義を始めとする改革を受けて現在に至るイギリスの事例から、福祉国家を軸に、人々の生活や国家のあり方を含めて、近現代における市民社会の性格に迫っていききたい。

【到達目標】

講義をつうじて、イギリス史を中心に、西洋近現代の状況についての知見を得ることができます。また、近現代イギリスについては、政治・経済・社会についての歴史的経緯をふまえた説明や、国際比較における議論をすることができます。とくに、社会政策などについての基本的な知見を得、福祉政策や財源などについての一般的な考え方を踏まえた議論ができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、各回ごとにプリントを配布し、その内容に沿った講義を行います。またスライドやパワーポイントで映像資料によるイギリスの紹介なども随時おこないます。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布し、質問などをいただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	イギリスの現在の地理について
第2回	イギリスの歴史と地理1 近世	宗教改革から名誉革命まで
第3回	イギリスの歴史と地理2 近代	産業革命と大英帝国、EUまで
第4回	イギリスにおける福祉国家の起源1 近世	救貧法から18世紀における慈善まで
第5回	イギリスにおける福祉国家の起源2 産業革命以後	19世紀における慈善活動と、貧困とのたたかい
第6回	イギリスにおける福祉国家の起源3 20世紀初頭	チャーチルとロイド＝ジョージを中心に
第7回	イギリスにおける福祉国家の起源4 20世紀中葉	二度の世界大戦と社会変容
第8回	イギリスにおける福祉国家1 構想	ベバレッジ報告を中心に
第9回	イギリスにおける福祉国家2 政策と実現	ケインズ主義と福祉国家について
第10回	イギリスにおける福祉国家3 停滞	イギリス病と福祉国家について
第11回	イギリスにおける福祉国家4 破綻から改良へ	サッチャー主義の挑戦
第12回	イギリスにおける福祉国家5 見直し	ブレア政権の改革と現在
第13回	ブレグジット前後の社会と福祉	イギリスの現在の経済・社会と福祉政策について
第14回	福祉国家論の現状と課題	これまでのまとめと今後の課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必須ではありませんが、事前に世界史、とくに西洋近現代史についての予習をしておくことを推奨します。授業後は、プリントに掲載した参考文献を図書館などで読むことを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

イギリス現代史の概説書としては、長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。ピーター・クラーク著、市橋秀夫他訳『イギリス現代史 1900-2000』名古屋大学出版会、2004年、など。イギリスの福祉国家については、パット・セイン著、深沢和子、深沢敦監訳、『イギリス福祉国家の社会史 経済・社会・政治・文化的背景 (MINERVA 福祉ライブラリー)』ミネルヴァ書房、2000年。二宮元『福祉国家と新自由主義 イギリス現代国家の構造とその再編』旬報社 2014年、など。また、授業内で適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、期末試験 40%（平常点は授業内で配布するコメントシートの内容を含む）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

Welfare policy is so important in British history, and also for Japanese. In this lecture, I will discuss the process of making and changing of welfare-state in Britain, especially in 20th century. From New Liberalism in early 1900s to Beveridge Report and Keynesian economic model in WWII, and British welfare state after the war. After that, we will talk about the changing of welfare state itself, so discuss situation of "winter of discontent" in 1970s, and the rise of Thatcherism in 1980s to 1990s, also so-called globalization in 1990s to 21st century. With analysis of social and cultural situation in each era, we will consider the political and economic character of 20th century.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火曜 1 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ、その成因について気候や地質、地形などとの関係から考える。また植生分布は、その地域に見られる動物や人間などにも関わりがあるため、植生のみ話題ではなく、動物の形態や人間の生活や文化、習慣との関係についても扱う。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていけば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴がある。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。以上のように、植生地理学的な考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な植生分布があることを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから植生分布を考えられるようになること、あるいは植生分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

植生地理学を学ぶ上で重要な理論を、日本を含む各地域の植生分布の事例をもとに紹介する。授業は講義形式のみではなく、観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションを行う。毎回の授業の終わりには、内容に関連した課題の小レポートを作成してもらい、野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地でその成因についてディスカッションしてもらい、講義資料も事前にアップする。

[4月17日追記] 授業開始は4月21日(火)1限(8:50~10:30)からとする。詳細は「学習支援システム」上でお知らせする。授業はミーティングアプリ ZOOM を使用してオンライン配信するが、その後に公開する録画を視聴してもよい、講義資料も事前にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか。
第2回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候、地質、地形が植生分布に及ぼす要因を解説する。
第3回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第4回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴。世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第5回	野外実習【2020年度は中止】	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する。
第6回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する。
第7回	アジアの植生④ 沖縄島、台湾、香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第8回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴。フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第9回	ヨーロッパの植生① 北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第10回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第11回	ヨーロッパの植生③ 南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第12回	ヨーロッパの植生④ スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に、海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する。
第13回	オセアニアの植生 ニューゼaland	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。
第14回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をする。次回、どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと。準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

[4月17日追記] 今後の状況次第で変更が予想されるが、期末試験あるいは代替レポート+小レポートで採点する。小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習は5月中に行う【2020年度は中止】。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火曜1限

秋学期・2単位

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。
実験実習：11月中旬に東京近郊あるいは室内で行う。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質や構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。

土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだと理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業の内容は、「土壌とは何か」、「土壌の分布」、「土壌と農業」、「野菜の地理学」の4部構成で解説する。

講義形式のみではなく、実際に観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションをしてもらう。野外実習は、授業で紹介した事例を実際に野外で観察や簡単な実験して、現地でその要因について考えてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか。講義の内容と目標を紹介。
第2回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第3回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第4回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第5回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第6回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第7回	土壌と農業①	農地の土壌環境、土壌の状態を診断する方法とは。
第8回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第9回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第10回	実験実習①	土壌の性質と構成を野外で観察。
第11回	実験実習②	様々な土壌を診断。
第12回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは、東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第13回	野菜の地理学	野菜は、どのように生まれて、どこから来たのか。野菜の伝播について解説。
第14回	まとめ	重要ポイントを再確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回の内容について予告を行う。事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。
小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に出題して終了までに提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：火曜 1 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、pp1 - 261。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、pp1 - 144。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会、pp1 - 320。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年生に開講されている「地学実験」（気候・気象）を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 64 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 II

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：火曜 1 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日の課題を理解出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 2 回	世界の気圧分布と地上風系	大気大循環、偏西風
第 3 回	モンスーン	季節風
第 4 回	世界の海流	風成循環と熱塩循環
第 5 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 6 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 7 回	世界の気候区分	ケッペンの気候区分
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	酸性雨	大気汚染
第 11 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 12 回	気候変動	第四紀の気候変化
第 13 回	古気候	歴史時代以降の気候変化
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、pp1 - 261。
 仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院、pp1 - 144。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会、pp1 - 320。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70 % 課題：30 %

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 64 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験 I

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二 (2019) : 『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編 (1995) : 新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』, 東海大学出版会, 211p, ¥2,625.
・新井 正 (1994) : 『水環境調査の基礎』, 古今書院, 168p, ¥2,625.
その他 授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席 3 割・課題 4 割・試験 3 割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習 (2)・地学実験・地理情報システム (GIS) などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。

特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果のGISを用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第2回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第3回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第6回	雪水学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第7回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第8回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第9回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第10回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第11回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第12回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全磷
第13回	水質分析結果整理解析	シュティブダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第14回	総合的な解析・考察	GISによる分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2019):『自然地理学(海洋・陸水)』.法政大学通信教育部

【参考書】

・地学団体研究会編(1995):『新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』,東海大学出版会,211p,¥2,625
・新井 正(1994):『水環境調査の基辞』,古今書院,168p,¥2,625.
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験3割、課題4割、試験3割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回PowerPointや映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーとGISに関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習(2)・地学実験・地理情報システム(GIS)などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：火曜3限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は「地域の資源」をテーマとします。自然環境や風土をはじめとして、どのようなモノが資源として活用されているのか、そしてその利活用にどのような問題があるのかを考えます。

【到達目標】

本授業を通じて、地理学の立場から地域の問題や「地域の資源」について理解できるようになります。また、それらの様々な資源が社会経済的にどのように活用されているのかを把握し、その有効性や問題点を考察することで、地域が直面する現状や今後の動向について考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、自然環境の減少や過疎など地域の現状・問題点を整理・把握します。その上で、自然環境や文化、歴史、景観を活かした産業・活性化・観光について理解します。そして、それらの事象の有効性や問題点を考察し、地域の今後の動向について考えます。

講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業内ならびに授業外で課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地域の資源とは？	講義の方針・進め方について／自然環境・文化・歴史・景観など
第2回	地域の現状①	自然環境の変化
第3回	地域の現状②	農村地域における問題点
第4回	地域の現状③	地方都市における問題点
第5回	地域と産業①	「衣」に関する地場産業
第6回	地域と産業②	「食」に関する地場産業
第7回	地域と産業③	「住」に関する地場産業
第8回	地域の活性化①	「景観」を活かしたまちおこし
第9回	地域の活性化②	「文化」・「歴史」を活かしたまちおこし
第10回	地域の活性化③	「食」を活かしたまちおこし
第11回	地域と観光①	自然環境・風土の観光利用（グリーン・ツーリズム）
第12回	地域と観光②	自然環境・風土の観光利用（エコ・ツーリズム、ジオパーク）
第13回	地域と観光③	施設・作品の観光利用
第14回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示する課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外の課題では、簡単な調査を行っていただきます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・石川義孝・井上 孝・田原裕子編（2011）：『地域と人口からみる日本の姿』古今書院。
- ・伊藤喜栄・藤塚吉浩編（2008）：『図説 21世紀日本の地域問題』古今書院。
- ・伊藤 実（2011）：『成功する地域資源活用ビジネス—農山漁村の仕事おこし—』学芸出版社。
- ・大野 晃（2008）：『限界集落と地域再生』京都新聞出版センター。
- ・片柳 勉・小松陽介編著（2013）：『地域資源とまちづくり—地理学の視点から—』古今書院。
- ・加藤正明（2010）：『成功する「地域ブランド」戦略』PHP 研究所。
- ・橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編（2011）：『都市と農村—交流から協働へ—』日本経済評論社。
- ・藤塚吉浩・高柳長直編（2016）：『図説 日本の都市問題』古今書院。
- ・矢作 弘・小泉秀樹編（2005）：『シリーズ都市再生 3 定住型都市への模索—地方都市の苦闘—』日本経済評論社。
- ・『日本の地誌 1～10』朝倉書店。 など

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30%、期末試験（持ち込み不可）：70%。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えていくことがあります。また、課題に対する受講生の成果をフィードバックできるように授業を組み立てるようにします。

【Outline and objectives】

This course introduces various regional problems and efforts towards regional revitalization to students taking this course.

The goals of this course are to understand the causes of regional problems, and the merits and demerits of the efforts from the point of view of geography.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

中川 秀一

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資源の分布とその利用は、人々の活動の地域に影響を与え、それぞれの地域に固有の社会文化や経済活動の基盤となってきました。また、時に重要なコンフリクトの一因となり、紛争や戦争の要因になってきました。他方、資源の不均衡な利用は、地域の格差を生む要因となって特定の国や地域に貧困を生み出しており、地球規模で環境問題の深刻化とともに、これまでの資源利用のあり方を国際的な課題として見直すことを迫っています。偏在する資源がグローバルな経済システムの展開の下でどのように利用されてきたのか、「資源と環境」をテーマに、日本の産業経済、地域及び地球的課題を講義します。受講生のみなさんが、未来の世界に思いをはせる、考える手がかりを得ることを目指します。

【到達目標】

身のまわりの生活を成り立たせている資源の検討を通じ、地球規模の課題や日本の産業を考える手がかりを得ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前に Web システムから資料を配布します。
準備し、目を通して講義に臨むようにして下さい。
講義内容に関連したショートレポートを課すことがあります。
成績評価には直接関連しませんが、取り組むことで講義内容についてより深く理解することができるので、できるだけ作成するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションショー ン-資源論と地理学	本講義のねらいと構成を説明
第2回	資源の定義をめぐって	本講義で扱う対象について説明
第3回	資源と産業	資源と人類社会との関係を概説
第4回	希少性と必要性	資源概念のもつ属性を通じて資源問題を考察する。
第5回	工業立地と原料の性質	工業立地論を通じて、資源の偏在と産業の空間性との関係を考察する。
第6回	地球の人口可能容量	食糧問題をグローバルな観点で概説
第7回	食糧問題とフードシステム	フードシステムの観点から諸 k ル酔う問題を考える
第8回	グローバル化と地域森林管理	グローバル化と限界化から日本の森林資源問題の構図を概説
第9回	水産資源問題とその課題	日本の水産資源をめぐる状況を概説
第10回	エネルギーとコンフリクト	エネルギー資源をめぐる世界のコンフリクトについて検討
第11回	エネルギー問題の新局面	新エネルギーの社会に対する影響を検討
第12回	資源の循環利用	循環の観点から資源利用の問題と課題を検討
第13回	水資源政策と水資源問題	水資源政策の件渡欧を通じて、水資源御性質を考える
第14回	資源問題としての土地利用	土地が資源としてどう捉えられるかを検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子力発電、産業廃棄物、遺伝子組み換え作物やバイオマスや自然エネルギー利用への注目、埋蔵エネルギー資源をめぐる国際関係…。「資源と環境」をめぐる報道などにふだんから目を向けるように心がけて欲しいと思います。また、講義についての連絡を Web 上で行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中藤康俊・松原 宏編『現代日本の資源問題』古今書院

【参考書】

石井素介『国土保全の思想』古今書院
伊藤達也『水資源開発の論理』成文堂
山本健児『経済地理学入門』原書房
高柳長直ほか編『グローバル化に対抗する農林水産業』農林統計

【成績評価の方法と基準】

論述形式の定期試験に基づいて成績評価をします。また、講義内容の理解度を把握するためにショート・レポートを課すことがあり、優れた内容のレポートについては、成績評価に加味することがあります。

定期試験（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していないため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

大学の授業支援システムから講義に関する情報を取り出せるようにしておいで下さい。また、テキストに即して解説する講義の時もあります。必ず準備しておくこと。

【Outline and objectives】

I will lecture on industry, economy and regional problems of Japan and global issues of the earth under the theme of "resources and environment".

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡 義晴

授業コード：A3428 | 曜日・時限：月曜3限

秋学期・2単位

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Rural Problems in Japan.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「山村」を対象にして、その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】

山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくりなど、日本の「山村」が抱える問題点に関する客観的な理解度が深化し、それを通して日本社会の構造（＝仕組み）の一端が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。

【授業の方法】

講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	日本の山村の現局面(1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第2回	日本の山村の現局面(2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第3回	過疎化の進展と山村振興策(1)	過疎化の進展過程 山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第4回	日本の山村の現局面(3) 過疎化の進展と山村振興策(2)	山村振興法、過疎法
第5回	限界集落・消滅集落(1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第6回	限界集落・消滅集落(2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第7回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第8回	山村の産業(1)	日本林業の動向
第9回	山村の産業(2)	環境問題への注目と林業振興策
第10回	山村の産業(3)	中山間地域農業の現状
第11回	山村の産業(4)	中山間地域等直接支払制度
第12回	地域づくり(1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第13回	地域づくり(2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を越えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述式試験）100%で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはず。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずはです。

GEO300BF

地理情報システム（GIS）I

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う。

新型コロナウイルス対応のため、学習支援システム上での授業開始日を 5 月 8 日とします。また、5 月 1 日までにこの実習のオンライン授業方針に関するお知らせを学習支援システム上に公開します。

Google Classroom のクラスコードは

bxwo4f6

です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ArcGIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	ArcGIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』、古今書院。

佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』、古今書院。

高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』、古今書院。

村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』、日本測量協会。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70% 以下の学生に対しては成績をつけない。レポートは ArcGIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないよう、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけた授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the principles and basic techniques of Geographic Information Systems (GIS) using ArcGIS.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

ArcGIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

数名でグループを作り、PBL (Problem Based Learning) を行う。グループごとにある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時にグループごとの計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながらグループワークを行う。グループワーク時には毎回作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを持ちいた避難圏の人口推定
第 3 回	グループワーク計画書の作成	グループの作業方針を決定
第 4 回	グループワーク 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	グループワーク 2	必要なデータの入手 1（位置情報取得することにより、避難所データを入手・作成する）
第 6 回	グループワーク 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	グループワーク 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第 8 回	グループワーク 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	グループワーク 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	グループワーク 7	キャッチアップ
第 11 回	グループワーク 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	グループワーク 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	グループワーク 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	グループワーク 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

参考書については地理情報システム (GIS)Ⅱを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないよう、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑を掛け授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS.

HUG200BF

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域の特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまともな使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第2回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光の要素や構造を解説します
第3回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第4回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第5回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第6回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第7回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第8回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第9回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第10回	ジオツーリズムの特徴と展望 —ヨーロッパアルプスのジオツーリズム	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、ヨーロッパアルプスの事例をもとに解説します
第11回	日本の自然ツーリズム (1) —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第12回	日本の自然ツーリズム (2) —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本の自然ツーリズム (3) —リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第14回	日本のルーラル・ツーリズム —ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用される図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
 溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
 (財)日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
 真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
 ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
 江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
 呉羽正昭 2017『スキースポーツの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店。
 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の60%）で評価します。また、毎時間提出してもらったリアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金曜 1 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の主流である（と私は考える）文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の主流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするバークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史 (1)	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史 (2)	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史 (3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史 (4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖繩八重山のマリアア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金曜 1 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の主流である（と私は考える）文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

(人文) 地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解説
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果（100%）により成績を評価する。なお、ここ数年、出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約 70 % (昨年度までは 80 % と書いていたものだった！) にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

1 限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオやDVDなどの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。アクティブラーニングをできるだけ取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第11回	自我の発達	一生継続「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。

第12回 性役割の発達

ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達的に違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

第13回 道徳性の発達

第14回 発達障害の理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確しておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレビューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。予習復習には、各2時間かけるようにする。

【テキスト（教科書）】

『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）
『発達心理学（シリーズ 心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）
『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提として、レポート（40%）と学期末の筆記試験（60%）で評価する。

*これについては、2020年の春学期は、学習支援システムのお知らせで対応の変更を知らせています。必ずそちらをみて、登録ください。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline and objectives】

From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

CUA200BA

民俗学 I

室井 康成

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木曜 1 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 - 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】

「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【オンライン授業に関する特例措置】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」でその都度提示するので、適宜ご確認ください。本授業の開始日は4月23日（木）1限とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD「柳田国男—民俗の心を探る旅」の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見開いた原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的な位置づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。

第 13 回 「公民」養成論としての民俗学へ
戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。

第 14 回 試験と総括
本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】

室井康成「柳田国男の民俗学構想」（森話社）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験 100 %）。
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【オンライン授業時の注意事項】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまなない、成績評価の方法と基準も変更する場合があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示しますので、ご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の実施にとまなない、受信機器の準備が必要な場合があります。詳しくは「学習支援システム」の本科目サイトで通知します。

【その他の重要事項】

【オンライン授業について】

授業開始予定日は4月23日（木）1限です。その前日までに、「学習支援システム」の本科目サイトにおいて、詳しい進め方をお知らせします。また、本科目に関わる情報は、講師の Twitter (@ MuroiKosei) でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木曜1限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本人」「日本文化」のイメージが、どのように形成されたのかを、民俗学の立場から考えていく。具体的には、「事大主義」という言葉の意味の変遷を手掛かりに、通常、私たちが抱くであろう「日本」や「東アジア」のイメージが、どのような時代背景のもとに構築されてきたのか、歴史的に確かめていく。

【到達目標】

近代以降の日本と東アジアをめぐる国際情勢を押さえながら、当時の人々が、「日本人」という自画像を、当時身近な他者であった沖縄や朝鮮を「鏡」として形成させてきた軌跡を追う。最終的には、そうした国家的な自画像・他者像を相対化し、今一度「日本文化」を内省することを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	「事大主義」という見方	テキスト講読。
第3回	福沢諭吉「造語説」の真偽	テキスト講読。
第4回	朝鮮に対する全体表象へ	テキスト講読。
第5回	韓国併合と反転する「事大主義」観	テキスト講読。
第6回	日本＝「島国」の国民性	テキスト講読。
第7回	大正デモクラシーと事大主義批判	テキスト講読。
第8回	沖縄「事大主義」言説を追う	テキスト講読。
第9回	敗戦前後の「事大主義」観	テキスト講読。
第10回	「良き選挙民」を育てるために	テキスト講読。
第11回	朝鮮半島への「輸出」	テキスト講読。
第12回	南北朝鮮いざれが「事大主義」か	テキスト講読。
第13回	「鏡」としての近現代東アジア	テキスト講読。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義ではテキストの講読を行なう。そのため予習・復習は、各回で取り上げる教科書の該当箇所を通読しておくこと。また教科書の巻末には多数の参考文献が列記されており、その中の重要文献は講義中に指示するので、図書館等で調べること（テキスト通読で2時間、必要文献の調査で2時間の合計4時間程度）。

【テキスト（教科書）】

室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）

【参考書】

教科書の巻末に記された文献一覧を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。
・試験は実質的には机上レポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will take a look at the image of "Japanese" and "Japanese culture" in modern times, using as an example the transition of the meaning of the word "JIDAISHUGI = toadyism".

HIS200BA

イスラム世界論Ⅰ

小澤 一郎

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のイスラムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、イスラムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。

今年度の授業は、当面の間オンデマンドでの教材配信による遠隔授業とし、既定の日時までに①毎回の授業教材を視聴したうえで、②オンラインでリアクションペーパーを提出する、という手順で行う。質問がある場合もリアクションペーパーに記入してもらい、次回の授業の際に取りまとめてフィードバックする。また、授業の出欠もリアクションペーパーの提出をもって代えるので、忘れずに提出すること。

なお、教材を配信する本格的な授業開始は5月1日（金）からとするが、4月26日（日）に授業実施方法に関する詳細を学習支援システムにアップロードするので、よく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第3回	イスラムの教義	六信五行など
第4回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第5回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第6回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第7回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第8回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第9回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第10回	20世紀のイスラム①	第1次世界大戦後の国際社会とイスラム
第11回	20世紀のイスラム②	第2次世界大戦後の国際社会とイスラム
第12回	総括	授業全体のため

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008

佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993

鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993

その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)と毎回の授業教材視聴後に提出するコメントシート(40%)で評価する。レポートではイスラーム世界に関する諸問題について、講義で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

イスラーム世界の歴史だけではなく、社会や文化についても詳しく紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

配信する教材は最初の数回についてはパワーポイントのスライドショーとし、大容量の動画教材などは使用しない予定である(受講者の通信環境やデバイスの保有状況によっては変更の可能性あり)。そのため、PCやタブレットがあれば受講可能である。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is three-fold: 1) to provide students with knowledge about the basics of Islam, such as the prophet Muhammad and Qur'an, the concept of God (Allah) in Islam, religious acts and law, etc.; 2) to learn the concise history of Islam, including Islam's rise and expansion, Islam in the pre-modern era and its relation with Europe, and Islam in the face of modern era; and 3) to understand Islam in the contemporary world, focusing on such topics as the rise of Islamism, the activities of the "extremists," etc. Through this lecture, students will grasp various aspects of Islam, setting aside bias surrounding it.

HIS200BA

イスラーム世界論Ⅱ

小澤 一郎

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

春学期の「イスラーム世界論Ⅰ」では、イスラーム世界の多様な在り方について解説するが、この授業では、イスラーム世界の中でも特にイランを中心とする地域に焦点を当てる。1979年のイラン・イスラーム革命以降、イスラーム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化の実態についてはあまり知られていない。前近代において、イスラーム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラームという宗教やその文化を考える上で看過できない重要な位置をしめる。この授業では、イスラーム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラームの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラーム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

【到達目標】

この授業は、イランを中心とする地域の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム(イスラーム教徒)の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、イランをはじめとする現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラーム諸国の中から、一般的なイスラーム像ではなく、くくることができない、イランの歴史を扱う。授業の前半部では、現代のイラン・イスラーム共和国の社会と文化に関する基礎的知識について、後半部では、イランにおけるイスラームの受容から現代に至るまでの歴史について、政治史だけではなく、文化史にも焦点を当てながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イランという国やイラン人を体感できる場としたい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	イランに対するイメージ
第2回	イランとイラン人	イランにおける多様な民族と言語
第3回	シーア派とは何か?	イランの国教イスラーム教シーア派
第4回	イランの暦と祝祭	イランに特有の暦と祝祭
第5回	ペルシア語とペルシア語文化圏	イランの国語ペルシア語
第6回	イラン高原のイスラーム	イラン高原におけるイスラームの受容
第7回	イラン高原におけるトルコ人	トルコ系ムスリム諸王朝の支配
第8回	モンゴル帝国とイラン	モンゴル系イルハーン朝の支配
第9回	サファヴィー朝とイラン	シーア派の国教化
第10回	ガージャール朝	ガージャール朝時代のイラン社会と列強の進出
第11回	パフラヴィー朝	パフラヴィー朝時代のイラン社会と国際社会
第12回	イラン・イスラーム革命	イラン革命が国際社会に与えたインパクト
第13回	現代のイラン	革命後のイランと国際社会
第14回	総括	総括、試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

この授業では、西アジア・中央アジア地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書(各テーマごとに紹介します)を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

永田雄三編『西アジア史Ⅱ(イラン・トルコ)』山川出版社、2002
坂本勉・鈴木董編『イスラーム復興はなるか』講談社現代新書、1993
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。イランに関する諸問題について、授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

画像や映像を多用して、イランの社会や文化についても詳しく紹介する。

【その他の重要事項】

「イスラム世界論 II」は春学期に開講される「イスラム世界論 I」の内容を踏まえて解説するので、春学期と併せて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This lecture deals with the culture, religion, and history of Iran, particularly focusing on the influences brought about, and the role played, by Islam. Students will understand the way how Islam and indigenous cultural and religious elements merged together to create the particular type of Islam in Iran, and relativize the ordinary image of Islam constructed based on the information from the Arab world. In addition, the biased image of Iran, with such labels as “theocracy” and “religious fanaticism,” will be revised based on adequate knowledge.

CAR200BA

現代のコモンセンス

中沢 けい、丹治 愛、高橋 敏治

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。

この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答を行い、最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出する。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。また、受講希望者数が過剰と判断された場合には選抜を行なうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範 1	LGBT の動向とメンタルヘルス
第 3 回	対人問題 1	依存症とメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範 2	身近なハラスメントと DV 問題
第 5 回	対人問題 2	パーソナリティ障害と発達障害
第 6 回	実践と倫理 1	減胎手術は許されるか
第 7 回	社会と規範 3	若者をねらう悪質商法と、SNS の注意点紹介
第 8 回	社会と規範 4	職業モラルと社会人のマナー
第 9 回	社会と規範 5	ビジネス・コンプライアンス（職場と法令遵守）
第 10 回	社会と文化 1	都市開発・まちづくりにおけるジレンマ
第 11 回	実践と倫理 2	「耐える」「辞める」以外の「職場を改善する」という選択肢を考える
第 12 回	社会と文化 2	イサム・ノグチの庭園文化論
第 13 回	実践と倫理 3	著作権の現在
第 14 回	まとめ	総括 レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にはなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静かつ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①小レポート（10～15分程度でまとめるもの）（80%）
- ②学期末試験（レポート形式）（20%）

なお、4 回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E 評価とする。また、遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を履修して良かった人の割合は 76%でした。様々な専門分野からの話を「どう自分の生活や学習に役立てるのか？」そんな視点で授業を受けると、より得られるものが多いのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

- ①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
- ②担当者が全授業に同席し、担当する。
- ③成績評価の仕方や授業進め方等について、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。初回欠席も欠席 1 回とカウントします。

【Outline and objectives】

コモンセンス

The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today. A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水曜 1 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理

本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観覧もしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり
第 14 回	歴史観光都市・観光地の取り組み①	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。各自で積極的に旅行して、地域と観光の在り方を体験してください。テレビの旅行番組を見たり、旅行記なども読んで、様々な国や地域の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。授業内で配布したプリントは持ち込み不可ですが、あらかじめ、試験のテーマは予告します。欠席者には、最終授業日に今までの余ったプリントがあれば、まとめて配布します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水曜 1限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。

授業内で北方領土問題やアイヌ民族に関するビデオ観賞をしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明, 成績評価の方法
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHK スペシャルのビデオ鑑賞を通して、北方領土問題を考える
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題の歴史を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第14回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世日本と蝦夷地-古地図からみる北海道』2021年予定、法政大学出版局から出版予定。のなかから適宜、必要な箇所を配布します。

発行日：2020/5/1

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

MAN100FA

経営学総論Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA

経営学総論Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブンイレブン、トヨタ自動車、任天堂といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中にはさまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに焦点をあて、どのようにすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】4月22日(水)16時50分(ZOOM授業)

4月22日16時45分からZOOMミーティングルームに入室していただけます。

授業形式その① オンデマンド授業(1週間の間にいつでも受けられる)
授業形式その② 顔出し双方向型オンライン授業(水曜日5限：16時50分～18時30分)

この授業は、一部の授業回をオンデマンド形式(配信期間中に自宅で受講)で行います。

コロナウイルス感染の状況によりオンライン授業が大学での教室授業に変更される場合があります。

顔出し双方向型ZOOM授業は、水曜日5限(16時50分～18時30分)にZOOMを用いて行います。

(1)ZOOM受講条件

オンライン授業を履修するための条件は6つあります。

- ①自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
- ②遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛にZOOMミーティングのIDとパスワードが送られてくるので16時30分までに入室し待機(着席)する。16時40分から18時30分まで受講する。
- ③ZOOMを用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
- ④特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
- ⑤毎週レポート課題を18時30分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。締切後や後日の提出は不可
- ⑥著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。

(2)オンライン授業のセッティング

4月22日の第1回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。

- ①学習支援システム(hoppii)のアドレスは大学のメールアドレスである。
- ②学習支援システム(hoppii)に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。
- ③ZOOMのアカウントを作った。ZOOMアカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」)出席確認をするために学生番号を付けて下さい。
- ④オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人とZOOMのミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)
- ⑤Google Classroomを使えるように設定した。
- ⑥法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば5月6日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)

オンデマンド授業の視聴方法

1. 法政ポータルサイト(Hoppii) ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス

(統合認証IDとパスワードを入力)

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp/>

または、<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>

2. クラス一覧から「経営学総論Ⅰ」を選びクリック、

教科一覧から「経営学総論Ⅰ」をクリック、

章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴

3. 「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
4月22日	ZOOMによるガイダンス	授業の進め方
ZOOMオンデマンドによるオリエンテーション		受講生の活動など
ZOOM授業①とオンデマンド①とオンデマンド②	オンデマンドによる第1章	
5月6日	第1章：企業経営の全体像	企業経営とは？：企業、企業と各市場、情動的経営資源①
5月13日	第2章：経営学の全体像	事例：産地偽装
5月20日	第2章：経営学の全体像	経営学とは？：広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
5月27日	第4章：企業とインプット	事例：ブロードリーチヘルスケア
6月3日	第4章：企業とインプット	会社とは？：株式会社の基本的な仕組み
6月10日	第5章：企業とアウトプット	事例：松下電器産業
6月17日	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)	経営戦略とは？：製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
6月24日	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5つの競争要因
ZOOM授業④	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	SWOT分析、セグメンテーション
7月1日	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
7月8日	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	多角化戦略、M&Aと戦略的提携：理論枠組み
第2回	第8章「多角化戦略のマネジメント」	多角化戦略、M&Aと戦略的提携：事例
第3回	第9章「国際化のマネジメント」	グローバル化の理由、国際化：理論枠組み
第4回	第9章「国際化のマネジメント」	グローバル化の理由、国際化：事例
第5回	第10章「マクロ組織のマネジメント」	組織構造のバリエーション、ユニークな組織：理論枠組み
第6回	第11章「ミクロ組織のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：理論枠組み
第7回	第11章「ミクロ組織のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：事例
第8回	第12章「キャリアデザイン」	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：理論枠組み
第9回	第12章「キャリアデザイン」	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：事例

第 10 回 オンデマ ンド⑥	第 13 章「経営学の広が り Part 1: ファミリービ ジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミ リービジネスに関わる研究の面白さ： 理論枠組み
第 11 回 教室⑤	第 13 章「経営学の広が り Part 1: ファミリービ ジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミ リービジネスに関わる研究の面白さ： 事例
第 12 回 オンデマ ンド⑦	第 14 章「経営学の広が り Part 2: 病院組織のマ ネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づ け再考：理論枠組み
第 13 回 教室⑥	第 14 章「経営学の広が り Part 2: 病院組織のマ ネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づ け再考：事例
第 14 回 教室⑦	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが勧められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著 (2012) 『1 からの経営学（第 2 版）』中央経済社の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

オンデマンド授業のエクササイズ課題レポートと授業内レポート 100 %
オンデマンド授業で出題されるエクササイズ用紙は、そのオンデマンド授業
回の次の教室授業開始時に提出してください。
授業欠席は 3 回まで。4 回の欠席で不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイ
プの授業です。前年度の受講生のリクエストを反映させ、インタラクティブ
な授業スタイルを取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業は以下にアクセス（統合認証 ID でログイン）し受講してく
ださい。

=====
PC <https://lms.hosei.ac.jp>
スマートフォン/タブレット <https://lms.hosei.ac.jp/rpv>
=====

【注意!】

友人のパソコンやスマートフォンと一緒に視聴すると自分の閲覧履歴が残り
ません。自分のアカウントにログインして視聴してください。
動画コンテンツ視聴終了後はかならず「終了」ボタンを押してください。ブ
ラウザの「X」で画面を閉じってしまうと、受講履歴が残らないため欠席扱いと
なります。

【LMS(ラーニングマネジメントシステム)に関するお問い合わせ】

学務部教育支援課 ondemand@ml.hosei.ac.jp

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。
詳細は、春学期は第 1 回授業の際に指示します。秋学期は、第 1 回授業がオ
ンデマンド形式となりますので、事前に授業支援システムの指示を必ず確認
の上、受講してください。
履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更す
る場合があります。
授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病
気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の
試合（書類をご提出ください）
関連科目：経営学、社会学、心理学の科目
プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを
禁止します。

【Outline and objectives】

社会科学は自然と対比される社会についての科学的な認識活動とその活動に
よって生み出された知識の体系です。社会は、家族、学校、企業といった小さ
な単位から国家や国際機関までたくさんの組織で構成されています。社会科
学者としてみなさんはこの社会の姿をさまざまな角度から研究していきます。

MAN100FA

経営学総論Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA

経営学総論Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブンイレブン、トヨタ自動車、任天堂といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中にはさまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに焦点をあて、どのようにすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】4月22日(水)16時50分(ZOOM授業)

4月22日16時45分からZOOMミーティングルームに入室していただけます。

授業形式その① オンデマンド授業(1週間の間にいつでも受けられる)
授業形式その② 顔出し双方向型オンライン授業(水曜日5限：16時50分～18時30分)

この授業は、一部の授業回をオンデマンド形式(配信期間中に自宅で受講)で行います。

コロナウイルス感染の状況によりオンライン授業が大学での教室授業に変更される場合があります。

顔出し双方向型ZOOM授業は、水曜日5限(16時50分～18時30分)にZOOMを用いて行います。

(1)ZOOM受講条件

オンライン授業を履修するための条件は6つあります。

- ①自宅での受講が前提である。友人と画面の共有はできない。
- ②遅刻厳禁。毎週金曜日、メールアドレス宛にZOOMミーティングのIDとパスワードが送られてくるので16時30分までに入室し待機(着席)する。16時40分から18時30分まで受講する。
- ③ZOOMを用いたリアルタイムのオンライン授業であり、受講生自身も画面に映る。お互いの氏名、顔、動作が見える。
- ④特定の人が指名され発言を促されたり質問に答えたりする。
- ⑤毎週レポート課題を18時30分までに添付ファイルで学習支援システムに提出する。締切後や後日の提出は不可
- ⑥著作権と肖像権の問題から講義資料やビデオ映像のあらゆる撮影と録音をしない。

(2)オンライン授業のセッティング

4月22日の第1回授業に先立ち、受講するための環境を整えてください。

①学習支援システム(hoppii)のアドレスは大学のメールアドレスである。

②学習支援システム(hoppii)に自分の証明写真をプロフィール画像としてアップロードした。

③ZOOMのアカウントを作った。ZOOMアカウント名に学生番号を付ける。(例えば「20F3333 松下幸之助」)出席確認をするために学生番号を付けて下さい。

④オンライン授業を受講するためにパソコンあるいはスマートフォンのカメラと音声を使えるようにした。(友人とZOOMのミーティングをテストして音声等設定できているか試してみた。)

⑤Google Classroomを使えるように設定した。

⑥法政大学試験用紙のファイルを毎週自分でダウンロードしてパソコンに保存した。ファイル名は「学生番号氏名授業日」をつけた。(例えば5月6日のレポートのファイル名は「20F3333 松下幸之助 0506」)

オンデマンド授業の視聴方法

1. 法政ポータルサイト(Hoppii) ページ → 左下の【オンデマンドシステム】にアクセス

(統合認証IDとパスワードを入力)

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp/>または、<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>

2. クラス一覧から「経営学総論Ⅰ」を選びクリック、

教科一覧から「経営学総論Ⅰ」をクリック、

章/単元を選択し、「授業開始」をクリックして視聴

3. 「終了」ボタンを押して視聴終了

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
4月22日	ZOOMによるガイダンス	授業の進め方
22日	オンデマンドによるオリエンテーション	受講生の活動など
ZOOM授業①とオンデマンド①とオンデマンド②	オンデマンドによる第1章	
5月6日	第1章：企業経営の全体像	企業経営とは？：企業、企業と各市場、情動的経営資源①
ZOOM①		事例：産地偽装
5月13日	第2章：経営学の全体像	経営学とは？：広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
オンデマンド③		
5月20日	第2章：経営学の全体像	事例：ブロードリーチヘルスケア
ZOOM②		
5月27日	第4章：企業とインプット	会社とは？：株式会社の基本的な仕組み
オンデマンド④		
6月3日	第4章：企業とインプット	事例：松下電器産業
ZOOM③		
オンデマンド③		
6月10日	第5章：企業とアウトプット	経営戦略とは？：製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
オンデマンド⑤		市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5つの競争要因
6月17日	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)	SWOT分析、セグメンテーション
オンデマンド⑥		基本的な考え方
6月24日	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
ZOOM④		
第10回	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
ZOOM授業⑤		
7月1日	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：理論枠組み
オンデマンド⑦		
7月8日	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：事例
ZOOM⑤		組織構造のバリエーション、ユニークな組織：理論枠組み
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	多角化戦略、M&Aと戦略的提携：理論枠組み
オンデマンド①		
第2回	第8章「多角化戦略のマネジメント」	多角化戦略、M&Aと戦略的提携：事例
教室①		グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：理論枠組み
第3回	第9章「国際化のマネジメント」	グローバリゼーション、企業が国境を超える理由、国際化：事例
オンデマンド②		組織構造のバリエーション、ユニークな組織：理論枠組み
第4回	第9章「国際化のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：理論枠組み
教室②		
第5回	第10章「マクロ組織のマネジメント」	インセンティブ・システムの設計、リーダーシップ：事例
オンデマンド③		キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：理論枠組み
第6回	第11章「ミクロ組織のマネジメント」	キャリアとキャリアデザイン、キャリアをデザインする、能力形成：事例
オンデマンド④		
第7回	第11章「ミクロ組織のマネジメント」	
教室③		
第8回	第12章「キャリアデザイン」	
オンデマンド⑤		
第9回	第12章「キャリアデザイン」	
教室④		

第 10 回 オンデマ ンド⑥	第 13 章「経営学の広がり Part 1: ファミリービジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミリービジネスに関わる研究の面白さ：理論枠組み
第 11 回 教室⑤	第 13 章「経営学の広がり Part 1: ファミリービジネス」	ファミリービジネスの存在感、ファミリービジネスに関わる研究の面白さ：事例
第 12 回 オンデマ ンド⑦	第 14 章「経営学の広がり Part 2: 病院組織のマネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づけ再考：理論枠組み
第 13 回 教室⑥	第 14 章「経営学の広がり Part 2: 病院組織のマネジメント」	病院とは、医療従事者の管理：動機づけ再考：事例
第 14 回 教室⑦	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが勧められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著 (2012) 『1 からの経営学（第 2 版）』中央経済社の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

オンデマンド授業のエクササイズ課題レポートと授業内レポート 100 %
オンデマンド授業で出題されるエクササイズ用紙は、そのオンデマンド授業回の次の教室授業開始時に提出してください。
授業欠席は 3 回まで。4 回の欠席で不合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイプの授業です。前年度の受講生のリクエストを反映させ、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業は以下にアクセス（統合認証 ID でログイン）し受講してください。

=====
PC <https://lms.hosei.ac.jp>
スマートフォン/タブレット <https://lms.hosei.ac.jp/rpv>
=====

【注意!】

友人のパソコンやスマートフォンと一緒に視聴すると自分の閲覧履歴が残りません。自分のアカウントにログインして視聴してください。
動画コンテンツ視聴終了後はかならず「終了」ボタンを押してください。ブラウザの「X」で画面を閉じってしまうと、受講履歴が残らないため欠席扱いとなります。

【LMS(ラーニングマネジメントシステム)に関するお問い合わせ】

学務部教育支援課 ondemand@ml.hosei.ac.jp

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。
詳細は、春学期は第 1 回授業の際に指示します。秋学期は、第 1 回授業がオンデマンド形式となりますので、事前に授業支援システムの指示を必ず確認の上、受講してください。
履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。
授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合（書類をご提出ください）
関連科目：経営学、社会学、心理学の科目
プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

【Outline and objectives】

社会科学は自然と対比される社会についての科学的な認識活動とその活動によって生み出された知識の体系です。社会は、家族、学校、企業といった小さな単位から国家や国際機関までたくさんの組織で構成されています。社会科学者としてみなさんはこの社会の姿をさまざまな角度から研究していきます。

ECN300FB

組織経済学 I

3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小課題、それらの解説や議論等を行う(授業中または自宅での予習・復習として、授業支援システムの利用を予定)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

II 秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	まとめ、復習	・講義全体の総括 ・講義の進捗や受講者数によっては授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものである。

【成績評価の方法と基準】

・学期末に行う筆記試験(参照不可。マークシートと記述式を併用)の結果を 80%、授業期間中の平常点(アンケートや小課題の回答状況)を 20%のウェイトで足し合わせた総合点(100 点が満点)の点数によって評価する。

・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2015 年度、2016 年度の結果を総合すると(2017 年度は休講)、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。

・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】

・本科目は I、II の通年開講授業だったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の HRM I/II (I は秋学期、II は春学期)でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学入門 I/II、組織行動論 I/II、人的資源管理 I/II 等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN300FD

日本経営論Ⅰ

MAN300FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度春学期の日本経営論Ⅰはオンデマンド形式の映像講義を配信する（全 12 講）。第 1 講の配信開始日は 4 月 22 日である。配信日程、アクセスの URL などについては、学習支援システムの「お知らせ」と「教材」で案内する。評価のために、①毎講レポート（10 回）と、②期末レポートの課題・設問は「学習支援システム」の「レポート」に設定する。

①の毎講レポートは、第 2 講～第 11 講のメディア講義の各講配信期間中に提出される設問を指定された締切内に『学習支援システム』の「レポート」を提出すること。各レポートの締切のスケジュールは、メディア配信スケジュールと一緒に『学習支援システム』の「お知らせ」で案内する。

②の期末レポートも、5 月中に『学習支援システム』の「レポート」で課題を提示する。7 月 17 日が締切である。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較 1(労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較 2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較 3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較 4(1980 年代以降の米企業システム①)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較 5(1980 年代以降の米企業システム②)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較 6(1980 年代以降の米企業システム③)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の企業経営、企業家についての海外での議論の概観	日本の企業経営、企業家についての海外研究者の研究の流れを概観する。
11	日本の企業経営についての海外での議論 1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論 2(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論 3(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	鉄鋼の企業間関係	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
8	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
9	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
10	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
11	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
12	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
13	自動車部品の企業間取引 5(日韓比較)	韓国と日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
14	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「学習支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、毎回の動画講義資料中で提示し、その一部は学習支援システムにも掲載する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

- ①ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004 年
 - ②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年（第 1 版）及び、2005 年（第 3 版）
 - ③ウィリアム・オオウチ『セオリー Z』CBS ソニー出版、1981 年
 - ④ William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009
 - ⑤鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年
 - ⑥橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 4 版』有斐閣、2018 年
- <日本経営論Ⅱの参考文献>
- ① Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015
 - ②金容度『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年
 - ③浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム: 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】

春学期の日本経営論Ⅰの成績評価基準は毎週レポート課題 50%(10 回 × 5% = 50%)、期末レポート 50%である。日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 (70%)、授業内小試験 (30%) である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる (1 回 10%)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文 (学期に 1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

日本経営史 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、中小企業論 I/II

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

MAN300FD

日本経営論Ⅱ

MAN300FD

日本経営論Ⅰ

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

今年度春学期の日本経営論Ⅰはオンデマンド形式の映像講義を配信する（全 12 講）。第 1 講の配信開始日は 4 月 22 日である。配信日程、アクセスの URL などについては、学習支援システムの「お知らせ」と「教材」で案内する。評価のために、①毎講レポート（10 回）と、②期末レポートの課題・設問は「学習支援システム」の「レポート」に設定する。

①の毎講レポートは、第 2 講～第 11 講のメディア講義の各講配信期間中に提出される設問を指定された締切内に『学習支援システム』の「レポート」を提出すること。各レポートの締切のスケジュールは、メディア配信スケジュールと一緒に『学習支援システム』の「お知らせ」で案内する。

②の期末レポートも、5 月中に『学習支援システム』の「レポート」で課題を提示する。7 月 17 日が締切である。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツ、韓国である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較 1(労使関係)	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較 2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較 3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較 4(1980 年代以降の米企業システム①)	1980 年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較 5(1980 年代以降の米企業システム②)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較 6(1980 年代以降の米企業システム③)	1980 年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の企業経営、企業家についての海外での議論の概観	日本の企業経営、企業家についての海外研究者の研究の流れを概観する。
11	日本の企業経営についての海外での議論 1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論 2(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論 3(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

市場経営学科専門科目 200 番台3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	鉄鋼の企業間関係	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
8	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
9	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
10	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
11	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
12	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
13	自動車部品の企業間取引 5(日韓比較)	韓国と日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
14	半導体の企業間関係	半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「学習支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。参考文献は、毎回の動画講義資料中で提示し、その一部は学習支援システムにも掲載する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

- ①ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004 年
 - ②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年（第 1 版）及び、2005 年（第 3 版）
 - ③ウィリアム・オオウチ『セオリー Z』CBS ソニー出版、1981 年
 - ④ William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009
 - ⑤鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年
 - ⑥橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済第 4 版』有斐閣、2018 年
- <日本経営論Ⅱの参考文献>
- ① Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015
 - ②金容度『日本 I C 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006 年
 - ③浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム: 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997 年

【成績評価の方法と基準】

春学期の日本経営論Ⅰの成績評価基準は毎週レポート課題 50%(10 回 × 5% = 50%)、期末レポート 50%である。

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 (70%)、授業内小試験 (30%) である。授業内小試験は学期ごとに 3 回行われる (1 回 10%)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文 (学期に 1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

日本経営史 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、中小企業論 I/II

【Outline and objectives】

The objective of this course is to understand more deeply business management, business strategy and organizational structure in Japan on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures and discussions.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。

この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】

- ① 「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題、授業内小テストを併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。(授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	(ゲスト講師) 事業会社	事業会社における広告業務 (昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 メディア統括部長 高橋 満氏)
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	(ゲスト講師) 広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション (昨年度は (株) 電通ライブ シニア・クリエイティブディレクター 原田 和明氏)
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型化

第 11 回	(ゲスト講師) 広告会社	広告表現制作の実際 (昨年度は (株) 電通 エグゼクティブクリエイティブディレクター 佐藤 義浩氏)
第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第 3 版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聡 (編) 有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。
授業内課題 30 % 授業内小テスト 70 % の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話ししたいと思います。
- ・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは授業終了後、授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、(株) 電通 IMC プランニングセンター長、(株) 電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Marketing and advertising

This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on

"advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and practical knowledge.

ECN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

鷲田 賢一郎

特殊講義

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。

【授業の目的・意義】生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】

- ・金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- ・「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- ・自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

野村グループの各講師による講義を主軸に進めていきます。適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやりとりが発生することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に着けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。
第 2 回	経済情報の捉え方	我々の周りには様々な経済情報を通じて、どのように経済というもの成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第 3 回	金融資本市場の役割とその変化	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第 4 回	証券投資のリスク・リターン	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的手法を学ぶ。
第 5 回	ポートフォリオ・マネジメント	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第 6 回	外国為替相場とその変動要因について	「外国為替」の基本的な事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 7 回	債券市場の役割と投資の考え方	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 8 回	株式市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 9 回	投資信託の役割とその仕組み	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第 10 回 グローバル化する世界と資本主義の果たす役割

野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。

第 11 回 資本市場における投資家心理

証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。

第 12 回 産業展望と投資の考え方

成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。

第 13 回 ライフプランニングと資産形成

なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となる NISA 等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。

第 14 回 資産形成と非課税制度、並びに「期末試験」

授業内に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第 3 版」
榊原 茂樹、城下 賢吾、姜 喜永、福田 司文、岡村 秀夫 著 / 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点・小レポート 30 %（リアクションペーパーを参考とする。当日の講義内容のポイントや感想などを簡単に記述し提出）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしております。

【学生が準備すべき機器他】

講義の 1 週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【実務経験のある教員による授業】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M&A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】

Role of the Capital Markets and the Securities Investment

ART300ZA

Advanced Topics in Contemporary Art

Akiko Mizoguchi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

[Outline and objectives]

Since the early 20th century we have witnessed a number of artistic movements: the birth of conceptual art, abstract expressionism, the rise of pop art and minimalism, the extension into earth, body, the movement toward performance, video, installation, and public art. Amidst all these transformations, how does contemporary art continue to make meanings, communicate, become significant to us? This course looks at various topics in contemporary art and closely examines how art functions in our society. Artistic practices in Europe, North America, Japan and other Asian countries are mainly examined.

[Goal]

Students will learn major movements, artists and terms in contemporary art.

Students will become active and discerning participants/viewers of contemporary art, equipped with basic analytical frameworks.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes combine lectures, video clips, discussions, and student presentations. In addition, students are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the class (determined by the instructor). Students will then make presentations and write their research papers. Students need to be aware that some works shown in class may address controversial issues such as homophobia, racial prejudice, and may include nudity.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course (A selection process may occur)
2	Is This Art?	(1) Group discussions on "The Way Things Go" (2) Modern to contemporary: challenges to perspective & duchamp
3	Art Movements:1960s-	Conceptual art, Fluxus, Minimalism
4	Art Movements: 1950s-	Abstract Expressionism, Action Painting, Postwar Figurative Art
5	Art Movements: 1960s-	Pop Art, Neo Pop, Simulationism
6	Art Movements: 1960s-	Video Art
7	Art Movements: 1960s-	Body Art & Performance
8	Art Movements: 1970s-	Feminism, gender as fiction
9	Art Movements: 1980s-	New Painting (Neo Expressionist Painting), Relational Art, Participatory Art
10	Art Movements: 1990-	Transbody (prosthetics, rubber suits, plastic surgery & sports)
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Summary	Summary and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students need to keep up with the readings and must be prepared for class discussions. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Readings will be made available on Hosei course management system or distributed as handouts.

[References]

References will be made available on H'etudes.

[Grading criteria]

Final grades are determined by contribution to class discussions (30%), a project paper based on a field trip to an art exhibition and research (30%), a presentation of the project (10%) and the final exam (image identification and essay questions) (30%).

In the presentation, each student will introduce two artworks they encountered at the exhibition and explain why they liked them. S/he will conduct research on these works to write the paper. The duration of the presentation is usually between 6 and 8 minutes but this will depend on the enrollment and will be decided in class.

[Changes following student comments]

More art movements have been added.

[Others]

Do not miss the first class as a selection process may occur.

[Prerequisite]

None.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

鈴木 敦

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の身体やこころに関する知識を深め、日常生活やスポーツ実践場面、スポーツ指導場面で生かすことを目的とする。

【到達目標】

- ・自分の心身について、理解を深める
- ・心身のトレーニングの理論について、理解を深める
- ・スポーツ実践者としての活動に役立てるようになる
- ・指導者としての活動に役立てるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツでは身体と同時に、心理面を理解し、コントロールすることが求められる。この授業では自分の身体やこころの理解を目指し、身体のトレーニングやメンタルトレーニングの理論の理解と実践を内容とする。将来のスポーツ実践やスポーツ指導に活かせるようになることを目指す。講義中心であるが、テーマによってはディスカッションや実践も取り入れる。毎授業、リアクションペーパーの提出を義務付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する
2	体力とは	体力について説明する
3	フィットネスの基礎及び発育発達とトレーニング	フィットネス及び発育発達とトレーニングについて説明する
4	トレーニングの理論	トレーニング理論の3原理5原則について説明する
5	トレーニング計画	トレーニング計画の重要性について理解し、トレーニング計画を立てる
6	メンタルトレーニングとは	メンタルトレーニングについて説明する
7	心理テストの実施・解説	心理テストを実施し、その評価について説明する
8	認知再構成法の説明・実施	自分の苦手な場面を取り出し、その時の心身の反応や考え方の特徴を知り、対策を練る
9	目標設定の説明・実施	目標設定の方法やポイントを学び、目標設定を体験する
10	リラクゼーション技法の説明・実施	リラクゼーション技法について学び、体験的に理解する
11	イメージ技法の説明・実施	イメージ技法について学び、体験的に理解する
12	チームビルディングの説明・実施	チームビルディングについて学び、体験的に理解する
13	スポーツ指導に必要なスキル	スポーツ指導に必要なスキルについて説明する
14	まとめ	授業内容をまとめる レポート課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。次週のテーマについて準備すること
各自が日々の生活で感じたことについて日誌等をつけ、自身の考え方の特徴などを把握しておくこと

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は以下の配分とし、総合的に評価する。

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 50 %
- 2) 課題・レポート・発表 50 %

長期遠征や合宿等で欠席が多くなる受講者は、別途レポート課題等を課して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時に授業で知りたいことについてアンケート形式で記入を求める。それをもとに学生のニーズに合った授業を作成するため、講義内容に変更を加える場合もある。

【その他の重要事項】

スポーツに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。授業の進捗状況により授業計画を変更する場合があります。長期の合宿や遠征、病欠等で欠席する予定のある者は、早めに申し出ること。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide students with better understanding of physical and psychological theory, and students makes use of it in daily life, playing sport, and coaching.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

※授業は、4月28日から開始とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP座	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【追記】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な基準は、授業開始日に学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course isto understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品と なったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、学期末の課題 20%、プレゼンテーション 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

HSS216LB

スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪がそこまで来た。予想以上に多くの課題を抱えつつ、本番を迎える。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が大事だ。傍らメディアの側の変貌は予測を超える速さだ。文字・映像を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、「メディア」を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】

既存のマスメディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。ツールこそ違え取材の理念は共通である筈だ。その理念、扱う情報の選択方法を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を知ること、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨くことが可能になる。さらにメディアの表現方法を吟味することが自らの表現力を高めることにつながる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業の開始日は5月7日。具体的な方法は学習支援システムでそれまでに提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリウウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる場だ。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、なお発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響	放送はスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。視聴率から何が見えるか。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。
11	オリンピックとメディア	メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。20年大会を前に、その歴史を辿る。

12	受け手の反応	大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
13	ニューメディア①	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。
14	ニューメディア②	誰でもが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの将来とこれからのスポーツ界は。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。シラバスの内容に毎回目を通してきて欲しい。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

「オリンピック秘史」ジュールズ・ボイコフ 早川書房
「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社
「オリンピック経済幻想論」アンドリュー・ジンバリスト ブックマン社

【成績評価の方法と基準】

対面授業が不可能な場合、学期中5本のレポートを課し評価の対象とする。4月27日に学習支援システムで5月分の課題を提示した。6月分は追って提示する。

【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

【その他の重要事項】

五輪直前。スポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の分野にも大きく影響する。五輪後を見据える視点も必要だ。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

【Outline and objectives】

The mass media has been changing because of the spreads of social media.

The aim of this course is to acquire the knowledge of the mass media to study the Olympic reports from the past to the present.

HSS218LB

アスリートキャリア論

笠井 淳

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について理解を深める。

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

①在学中、何頃頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか

②自分の道、職業を決定づけたものは何か

③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか

④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。

⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。

第2回～14回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する
第2回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か、経験の中から得られた教訓等について講義
第3回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第4回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第5回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第6回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第7回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第8回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本スポーツ協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第9回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第10回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第11回	特別講師/トレーナーとは	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第12回	特別講師/世界を目指す指導②	トップチームの世界への挑戦、選手育成と指導の厳しさについて
第13回	学生の考え（ディスカッション）	自分のキャリア形成についてディスカッションする
第14回	授業のまとめ	レポート課題 授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

【参考書】

・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況 60%
 - 2) 各回のレポート 20%
 - 3) 課題レポート 20%
- この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義における話のスピードが速や過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

【その他の重要事項】

- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】

This course has been designed to enhance student awareness on career opportunities as athletes and members of society.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

佐藤 祐輔

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおいてより高いパフォーマンスを発揮するためには、アスリート自身がスポーツ障害・外傷への対応や身体のコンディショニング方法を身につけることが重要である。本講義では、スポーツで好発する各関節の障害・外傷におけるリスク因子やメカニズムを学び、受傷直後から復帰までのコンディショニングやトレーニング方法および予防方法を身につける。つまり、アスリート自身が障害・外傷からの復帰過程や障害・外傷の発生を予防する過程を学習し、自己管理能力を養うことが本講義の目的である。

【到達目標】

- ・自らのスポーツにおいて好発する障害・外傷に関する理解を深める。
- ・急性期のスポーツ障害・外傷の対処法に関する理解を深める。
- ・スポーツ障害・外傷からの復帰または発生を予防するためのコンディショニングやトレーニング方法に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】**【4/20 追記】**

皆さん、新型コロナウイルスの影響で大変な思いをされていると思います。加えて、罹患した方の一刻も早い回復を願っております。さて、こうした緊急時ですので、授業の進め方を少々臨機応変にしていかなければなりません。

ただ同時にオンラインでなければできないこと、また今しかできないことも多々あるのではないかと考えています。

是非、積極的に時間を上手に活用しながら、多くを学んでもらえると嬉しいです。

当面の間はオンラインでの授業が基本になると思います。

授業の進め方に関しては初回授業日である4/27(月)から1週間、学習支援システムに教材として掲げるので、確認するようにしてください。

では皆さん、どうぞご自愛し、くれぐれも元気にお過ごしください。

【追記以上】

基本的に授業は講義中心で行う。内容によっては講義の中に一部実技も取り入れる。

毎回、授業の終わりに、授業内で学んだ内容に関する簡易的な筆記テストを行い、筆記テストの解答用紙とリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する。
2	スポーツ障害・外傷の基礎知識と応急処置方法	スポーツ障害・外傷に関する基礎的な知識とスポーツ現場で行う応急処置法について学習する。

3	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷、特に脳震盪に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
4	脊椎のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	脊椎のスポーツ障害・外傷、特に腰部障害に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
5	肩のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肩のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
6	肘・手のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肘・手のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肘・テニス肘に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
7	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷、特にグロインペインに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
8	膝のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	膝のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
9	下腿・足のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	下腿・足のスポーツ障害・外傷、特に足関節捻挫・シンスプリントに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
10	骨折・疲労骨折・肉離れの基礎知識と対処法	スポーツ障害・外傷に好発する骨折・疲労骨折・肉離れに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
11	スポーツ復帰・予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法	スポーツ障害・外傷からの競技復帰や発症予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
12	腰部のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	腰部のスポーツ障害・外傷、特に腰椎椎間板ヘルニア・腰椎分離症に関する競技復帰や発症予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
13	上肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	上肢のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する競技復帰や発症予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
14	下肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	下肢のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する競技復帰や発症予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。次週のテーマについて参考書などを用いて事前に学習すること
しっかりと健康管理を行なうこと

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- ・スポーツ医学検定公式テキスト 2 級・3 級 東洋館出版社
- ・スポーツ医学検定公式テキスト 1 級 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況：45% 2) 課題・期末レポートの内容：35%
3) 授業態度：20%

授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含めます。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待します。

簡易テスト・期末レポートについて：毎授業の終わりに簡易的なテストを実施します。期末レポート提出は締切期限厳守の上、点数は非公開とします。

なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

【学生が準備すべき機器他】

身体を動かす実習をする場合がある。その際には運動着および室内履きを用意して貰う。授業内で実習の日は指示をする。

【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

<< 受講について >>

2014 年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論 I」となります。

【Outline and objectives】

In order to show maximum performance in sports, it is important for athletes themselves to cope with sports injuries/trauma and to learn how to condition their bodies. In this lecture, you will learn the risk factors and mechanisms of injuries and trauma of each joint that are common in sports, and acquire prevention methods and conditioning, training method from immediately after an injury to returning. In other words, the purpose of this lecture is that athletes themselves learn the process of recovering from injuries/trauma, preventing injuries/trauma, and enhance self-management skills.

HSS209LB

リーダーシップ論 I

浅井 玲子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、優れたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのビジョンを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月28日とし、4月25日までに授業の狙いや授業計画、授業の方法などを、学習支援システムで提示していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論①	・コームスの理論 ・優れたリーダーの共通点 ・リーダーシップと人間観
3	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論②	・自己概念とは ・ジョハリの窓
4	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論③	・資質アプローチ ・行動アプローチ
5	【リーダーシップに関わる行動】 オハイオ州立大学の研究	・配慮と構造づくり
6	【リーダーシップに関わる行動】 リーダーシップと動機づけ	・動機づけとパフォーマンスの関係 ・動機づけを高めるリーダーシップとは
7	【特別講演】 リーダーシップのモデル	・スポーツ指導におけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップと対象理解】 エリクソンの心理社会的発達論	・発達段階に関する理解 ・発達段階に応じたリーダーシップとは
9	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）

11	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・チームとは何か ・集団規範 ・「場の理論」
12	【リーダーシップとチームビルディング】	・チームビルディング実習
13	まとめ①	まとめ、リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
14	まとめ②	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求められることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークや自己分析により気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるような活動を取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS210LB

リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考えます。

リーダーシップについて心理学的観点から理解を深め、「シェアードリーダーシップ」について、講義やグループワークなどの体験を通じて学びます。リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

【到達目標】

- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める
- ・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する
- ・所属する組織において、自身のリーダーシップを活かす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学部：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。授業内では、講義によってリーダーシップについての見識を深めるとともに、自分自身のスタイルを確認するための測定や、それぞれの体験を分かち合うためのグループワーク（発表を含む）を多く予定しています。また、さまざまなスポーツの時事事象に関する考察や、ゲスト講師による特別講義も予定しています。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことをリアクションペーパーに記入し、毎回提出をします。授業内でチームで取り組む課題の成果と合わせて、最終授業において、論述形式の授業内試験を行い、評価に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究】 ジョン・P・コッターの理論	・リーダーシップとは ・組織が変わるためのリーダーの行動
3	【リーダーシップに関する研究】 マックス・ウェーバーの理論	・支配の種類 ・官僚制の特徴
4	【リーダーシップに関する研究】 PM リーダーシップ理論	・PM リーダーシップ理論とは ・P 行動と M 行動 ・グループワーク「課題解決と P/M 行動」
5	【リーダーシップに関する研究】 4つのリーダーシップ	・4つのリーダーシップスタイル ・実習「あなたのリーダーシップスタイルは？」
6	【リーダーシップとリーダー哲学】 価値観	・リーダー哲学とは ・リーダー哲学を支える価値観 ・グループワーク「価値観について」
7	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 (外部講師招聘予定)
8	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	・「聴く」スキル ・「伝える」スキル ・実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」
9	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	コミュニケーションスタイルの評価・診断
10	【リーダーシップと関係性】 影響力	グループワーク「あなたの影響力とは」

11	【リーダーシップに関する実践】	グループワーク「課題解決実習」
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフボディスン
13	まとめ①	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	まとめ②	論述形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

特にありません。

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での活動における達成度や参加姿勢として、授業内で行うグループ課題への取り組みを重視します（30%）。

リアクションペーパーによるミニレポート（20%）、最終講義での論述形式の試験（50%）によって総合的に成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学年や部の単位をこえたグループによる活動を通じて、より交流や自己理解が深まったという感想を毎年受けています。また、自分自身のチームに持ち帰り、活用したいという意見が多かったことを受けて、より活用しやすい内容を目指します。

本年度も様々な履修生との交流を通じて学びあうことができる環境を整えるように努力します。

【その他の重要事項】

・各回の授業順序、特別講師は講師の特別の事情等により変更する場合があります。その際には事前にお知らせします。

・忌引き、感染症、競技における試合の為の欠席等については、所定の用紙に必要事項を記入したものを担当教員に提出し指示を受けてください。

・リーダーシップ論Ⅰで扱う内容を習得後に履修することが望ましいですが、履修に関してこの点における制限はありません。

【Outline and objectives】

This course introduces the psychological theories on leadership, and also consider about shared leadership. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain knowledge about leadership
 - ・ Practice individual ideal leadership style in your team
- Your final grade will be calculated according to the following process:
- ・ Contribution to group work: 20%
 - ・ Short report in classes: 30%
 - ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
- ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
- ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
- ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
- ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第2回～13回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合があります。ご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第2回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第3回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第4回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第5回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第6回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第7回	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
第8回	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
第9回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第10回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第11回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第12回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第13回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第14回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでを振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決りません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 25%
 - 2) 各回のレポート 50%
 - 3) 課題レポート 25%
- この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】

This is a course on the career consciousness of athletes and working adults.

HSS216LB

スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪がそこまで来た。予想以上に多くの課題を抱えつつ、本番を迎える。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が大事だ。傍らメディアの側の変貌は予測を超える速さだ。文字・映像を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、「メディア」を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】

既存のマスメディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。ツールこそ違え取材の理念は共通である筈だ。その理念、扱う情報の選択方法を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を知ることで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨くことが可能になる。さらにメディアの表現方法を吟味することが自らの表現力を高めることにつながる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニケーション学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツ世界の幅広い知識を得る目的で講義を主体とする。五輪直前のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組も素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。講義では「今、スポーツは、五輪は」という日常の動きを敏感に感じ取って貰い、随時ミニレポートを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリュウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる場だ。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特微的個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、なお発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響力	放送はスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。視聴率から何が見えるか。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。

- | | | |
|----|-------------|---|
| 11 | オリンピックとメディア | メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。20年大会を前に、その歴史を辿る。 |
| 12 | 受け手の反応 | 大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。 |
| 13 | ニューメディア① | メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。 |
| 14 | ニューメディア② | 誰もが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの将来とこれからのスポーツ界は。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。シラバスの内容に毎回目を通してきて欲しい。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

「オリンピック秘史」ジュールズ・ボイコフ 早川書房
「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社
「オリンピック経済幻想論」アンドリュー・ジンバリスト ブックマン社

【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見る授業後のミニレポート、期末のレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

【その他の重要事項】

五輪直前。スポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の分野にも大きく影響する。五輪後を見据える視点も必要だ。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

【Outline and objectives】

The mass media has been changing because of the spreads of social media.

The aim of this course is to acquire the knowledge of the mass media to study the Olympic reports from the past to the present.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新 一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新 一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新 一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文眞堂、2018年
境 新 一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20％ レポート40％ 期末試験（持込可）40％の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新 一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新 一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新 一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新 一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新 一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新 一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20％ レポート40％ 期末試験（持込可）40％の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力の養成を目指します。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | 25% |
| (G) コミュニケーション能力 | 25% |
| (H) 継続的学習能力 | 25% |
| (I) 業務遂行能力 | 25% |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。
*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。
*GWのグループ分けは第3回授業で行います。
*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。

9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場どのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<グループワーク（GW）について>

*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。
*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。

*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。

*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ④指示通りに記入されていない場合 - は減点になるか、もしくは成績評価をしません。

*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。
*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。

<その他>

*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書の提出の必要はありません。

*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。

*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）

①授業内容のインターネットなどによる公開。

②他学生の受講に差し障ると判断される私語。

③食事（飲物は可）。

[Outline and objectives]

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。

*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。

*GWのグループ分けは第3回授業で行います。

*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。

12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フリーリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<グループワーク（GW）について>

*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。

*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。

*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。

*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ⑧指示通りに記入されていない場合 - は減点になるか、もしくは成績評価をしません。

*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。
*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。

<その他>

*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書の提出の必要はありません。

*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。

*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）

①授業内容のインターネットなどによる公開。

②他学生の受講に差し障ると判断される私語。

③食事（飲物は可）。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ③仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。
*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。
*GWのグループ分けは第3回授業で行います。
*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発 ①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発 ②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
9	市場の細分化	

10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。（GW）
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<グループワーク（GW）について>

*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。
*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。

*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。
*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ④指示通りに記入されていない場合 - は減点になるか、もしくは成績評価をしません。
*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。
*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。

<その他>

*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書の提出の必要はありません。

*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。

*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）

①授業内容のインターネットなどによる公開。

②他学生の受講に差し障ると判断される私語。

③食事（飲物は可）。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

発行日：2020/5/1

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この「エコノミクス」では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力（高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分））の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに 対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○			◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。

6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上の関係を学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11 回目の講義の続きで Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13 回目の講義の続きで Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2 回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 改定版』（成文堂）多部田直樹 [2016 年 3 月]
適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25 - 30 %、◎
期末試験：70 - 75 %

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

[Outline and objectives]

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 45% |
| (B) 技術者倫理 | 30% |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | 25% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的に物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上の関係について学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ。
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 12 | ミクロ経済理論の応用
(その2) | 11 回目の講義の続きで Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。 |
| 13 | マクロ経済理論の応用
(その1) | 授業で配布する英文の問題、 Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。 |
| 14 | マクロ経済理論の応用
(その2) | 13 回目の講義の続きで Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2 回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の **Multiple choice, True/False** の問題（**Sample Question 1, Sample Question 2**）に沿って復習をすることが重要となる。

講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 改定版』（成文堂）多部田直樹 [2016 年 3 月]
適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25 - 30%、◎期末試験：70 - 75%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【Outline and objectives】

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

ECN100NA

エコノミクス

多部田 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考える上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやイデオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは統計的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えると何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上の関係について市場構造について
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ。
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11回目の講義の続きで Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13回目の講義の続きで Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。

講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25－30％、◎期末試験：70－75％

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立ったとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【Outline and objectives】

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の特徴	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の特徴	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

ADE200NA

サステイナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステイナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキユラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキユラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測を行う演習を通し、体験しながら環境工学の特性を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	高温・乾燥環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい日干しレンガ造住居の住まい方と環境工学的特徴を知る。
6回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダスイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる。
11回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14回	総合復習	講義・実験をとして得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関するプリントを毎回配布する

【参考書】

「理科年表」（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を20%、試験またはレポートを80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について、原理や計画手法を習得しながら、環境保全に関する知識を身につける。

【到達目標】

- 1) 自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法の原理を理解する。
 - 2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
 - 3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
 - 4) 簡易な模型を用いて温熱環境の原理を理解する。
- これらを通して、様々な分野に応用できるサステイナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを、を到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として、授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測を行う演習から、環境工学的特性を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・低湿度環境に住まう	砂漠気候の熱容量の大きい住居の住まい方と効果。カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6 回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。加湿冷却の特性を演習により習得する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画を立てる
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境の計測について、実験計画に基づき実験を行う。
13 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験結果	建物模型を用いた温熱環境の実験結果から、考察と対策について考える。
14 回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関するプリントを配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。
村上周三著、『ヴァナキュラー建築の居住環境性能』（慶応技術大学出版会）、
木村健一（編著）『民家の自然エネルギー技術』（彰国社）、
磯田憲生ほか（編）『CDブック ハウスクリマ』（海青社）など

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20%、試験またはレポートを 80% 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキューラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキューラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介する。簡易な建物模型を用いて温湿度の計測を行う演習から、その環境工学的特性を知る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2 回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3 回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4 回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5 回	高温・乾燥環境に住まう	査僕気候の熱容量の大きい日干し煉瓦造住宅から、断熱・熱容量の特性を知る。
6 回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7 回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
8 回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する
9 回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
10 回	建物模型を用いた温熱環境の計測計画	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画を立てる。
11 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（1）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
12 回	建物模型を用いた温熱環境の計測実験（2）	建物模型を用いた温熱環境について、実験計画にも続き実験を行う。
13 回	設備技術の歴史と変化	設備の歴史の変遷と現代的技術の比較を、演習を通して習得する。
14 回	総合復習	講義・実験を通して得られた知見について報告し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関する資料を事前にWebにアップする。

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を 20%、試験またはレポートを 80% 程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE300NB

建築フォーラム

渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。

構造分野の最先端の問題は何か？
世界の中で建築家という制度はどのように定められているのか？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパーソンタイプを形成するには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
 - 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
 - 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
- 以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

○

◎

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回の講演の繰り返し特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身につける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの無意味な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

授業参加とレポート内容による。フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10%）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

建築学科所属の学生は授業レポートを授業支援システムのほか I A E サーバーに提出することで、個人の e ポートフォリオ作成および Slideshare への開示が可能となる。詳しくは以下の I A E サーバーの URL で確認のこと。
<https://iae.hosei.ac.jp/>
実務経験との関連：現役の建築家でもある複数の教員が建築をとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 7 名の講師を選定し招聘している。

【Outline and objectives】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What are the latest problems in structures?
How are architect organizations formed around the world?
How much effort is required to complete an entire building?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What gap exists between a house and its planning?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」では、21世紀に入り大きなテーマとなっている社会と芸術の関係に焦点を当てていきます。現代美術やパフォーマンス・アート、音楽、建築などの多様な表象の世界についての事例から、芸術と社会との接点や関係性について学びます。

みなさんが接する機会の少ない新しい美術の世界についての見方や考え方に関するきっかけとなる様な入門的な内容の講義となります。

「芸術史と理論」「社会と美術」「メディアと表象」の2つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

1. 芸術史と理論（前半）

社会と芸術について学ぶ上での基礎となる18世紀から21世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

2. 社会と美術（後半）

社会や時代を映す鏡としてのメディアと芸術表現との関係について、具体例を交えながら学びます。

【到達目標】

講義では、過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解することと、身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（20分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（20分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャー・パフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4/22	ガイダンス 社会と美術について	講義内容について、進め方と方法、準備方法と基準
5/6	芸術史と理論 1 近代美術の誕生（写実主義、印象派）	市民革命、産業革命とアート レクチャー・パフォーマンス 印象派のはじまり
5/13	芸術史と理論 2 アバンギャルドの時代 I（フォービズム、表現主義、キュビズム）	第一次世界大戦前のアート レクチャー・パフォーマンス ピカソとブラック
5/20	芸術史と理論 3 アバンギャルドの時代 II（未来派、ダダイズム、シュルレアリスム）	第一次世界大戦とアート レクチャー・パフォーマンス マルセル・デュシャン
5/27	芸術史と理論 4 アメリカの時代	戦後のアメリカ美術 抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート
6/3	芸術史と理論 5 多文化の時代	多文化主義とアート YBA とリレーショナル・アート ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist とリレーショナルアート）についての理解を深める。 レクチャー・パフォーマンス 多文化主義とアート

6/10	芸術史と理論 6 コミュニケーションの時代	参加型アート ソーシャリー・エンゲージド・アート レクチャー・パフォーマンス ヨーゼフ・ボイス パウハウスとブラックマウンテンカレッジ ABR（教育と美術） アートベースリサーチ レクチャー・パフォーマンス ブラックマウンテンカレッジの芸術教育
6/17	社会と美術 1 美術と教育	美術批評の起源 戦後の美術批評 美術批評の現在 レクチャー・パフォーマンス 批評家について 文化と法律 文化を支える仕事 レクチャー・パフォーマンス ミュージオロジー 第二次世界大戦中の文化政策 プロパガンダ 社会主義と美術 レクチャー・パフォーマンス 社会主義美術
6/24	社会と美術 2 美術と批評	ジェンダー、トランスジェンダーの課題 レクチャー・パフォーマンス マリーナ・アブラモビッチ 環境問題とアート ランドアート エコロジー レクチャー・パフォーマンス アンディ・ゴールズワージー
7/1	社会と美術 3 文化政策とアート	
7/8	社会と美術 4 政治とアート	
7/15	社会と美術 5 ジェンダーとアート	
補講	社会と美術 6 環境とアート	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・美術を学ぶには、実際の作品鑑賞することがとても重要になります。
・美術館やギャラリーなどでなるべく多くの作品に触れてください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・毎回授業内容に関連した資料を配布します。
・授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】

『社会の芸術/芸術という社会—社会とアートの関係、その再創造に向けて』フィルムアート社、2016年
『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年
高階秀爾『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年
辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点（50%）
 2. 授業内レポート（50%）
- 評価の具体的な指針についてはループブックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

美術を学ぶためには、体験的かつ分析的な物の見方が必要でしょう。

【その他の重要事項】

オンライン授業へ向けての変更点

こんにちは。
社会と美術を担当する国際文化学部の稲垣です。
受講方法について説明します。

学習環境

PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。また、インターネット環境を心配されている方も多くいらっしゃいましたので、当初はZoomなどでのライブ・ストリーミングは任意参加以外では基本的には行わず、ウェブサイトを閲覧してもらう方式にしました。

授業の形式

みなさんの受講環境が一定でないためオンタイムでの授業は行わず、ウェブサイト授業コンテンツを全て掲載して一定期間（一週間程度）公開、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。

授業の方法

授業時間になると授業支援システムを通じてGoogle site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、5-10分程度のを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

対面授業とオンライン授業では内容は同一です。ただし、今年度の授業はそもそも去年までの授業内容と大きく変更されています。まずはシラバスを確認してください。第一回目の授業で、もう少し詳しい説明をします。

授業内レポート

受講後、Google Form で小テストと授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了後の一週間程度です。

評価

小テストと授業内レポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問

質問については Google Classroom に投稿してください。また、授業時間内であれば Google hangout Meet (<https://meet.google.com/lookup/b5qowoci2n>) を使い対面で通話できます。
個人的な相談についてはメールを送ってください。
リクエストがありましたら、数回に一回程度 Zoom などを使った任意参加のトークも行いたいと思います。
質問がありましたら、いつでもお応えしていきます。
では、みなさんお元気でお過ごしください。

【Outline and objectives】

This course studies experientially about the world of unique and diverse expressions such as contemporary art, music, architecture. Each lecture will focus on the relationship between society and artistic expression. Introductory lectures will be given the opportunity to learn the way of thinking and to think about the world of art that has never been touched so far.

ART200GA

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：席数を越えた場合選抜

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。

国際文化学部基幹科目「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディアと社会」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

・メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

・メディアと社会

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

・メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

授業では、過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（20分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（20分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/23	オリエンテーション	講義内容 教科書・参考書 評価基準など
9/30	メディアの歴史 1 絵画から文字へ	文字の誕生とその発達の歴史について
10/7	メディアの歴史 2 文字の進化	活字（印刷）の発明と近代文化に与えた影響について
10/14	ワークショップ 1	ワークショップ・絵画と文字
10/21	メディアの歴史 3 印刷の誕生	印刷技術のもたらす社会の変化 レクチャーパフォーマンス 「Helvetica」
10/28	メディアの歴史 4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	マスメディアについて レクチャーパフォーマンス 「テレビの世界」
11/11	ワークショップ 2	ワークショップ・マスメディアについて
11/18	メディアの課題 1 マクルーハンのメディア論	マクルーハンの理論 レクチャーパフォーマンス 「メディアはメッセージ」
11/25	メディアの課題 2 インターネット	地域社会を取り巻くメディアの役割と課題
12/2	ワークショップ 3	モダンアートと新しいメディア
12/9	メディアと社会 1 企業とメディア	建築とメディア、デザインとメディアについて
12/16	メディアと社会 2 戦争とメディア	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて

12/23 メディアと社会 3 料理をめぐるメディア論
メディアとアミューズメント 日本におけるクリスマスについて

1/13 メディアと社会のまとめ ワークショップ 4 メディアと社会をめぐるディスカッション
ワークショップ・メディア批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に様々なメディアに接して、体験的に学ぶことが大切です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内容に関連した資料を配布します。

授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点（50%）

2. 授業内レポート（50%）

評価の具体的な指針についてはループブックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して課題を提出してもらう可能性があります。

【Outline and objectives】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接ななかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。またグループに分かれてのディスカッションや復習を兼ねたミニレポートの提出をおこなってもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認+ことばから文化・社会を捉える視点（テキスト第1章）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化(1)	ヤコブソン、レヴィ＝ストロースと構造主義革命（テキスト第5章）
6	ことばとしての文化(2)	バルトと一般記号学（テキスト第5章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
13	現代に求められる「人文知」	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
14	学期末試験+学期授業の総括	筆記試験および解説・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）
 ・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014年）
 ※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもっているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストや資料について具体的な事例を通じたわかりやすい解説をおこなう、履修者による主体的な問題発見・取り組みをさらに促すよう心がけたい。
 ・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元することに加えて、クラス規模を考慮しながら、出席者による議論や意見交換の機会をできるだけ取り入れたい。

【その他の重要事項】

・クラス規模などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。
 ・配付資料として英語資料を用いることがあります。
 ・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

【Outline and objectives】

In this course, we will outline the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities, and think about how to confront the issues of the contemporary world.

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸と考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

2020年度春学期の授業は5月7日（木）に開始します。

対面による授業が行えない間は、以下の方法で授業を行う予定です。大変申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。

【授業の方法】

- 授業支援システムの「教材」にアップロードされたレジュメ、パワー・ポイント資料、参考資料、文献をダウンロードして各自で学習してください。
- 授業支援システムの「課題」にアップロードされた問いについて、A4一枚程度（序・本論・結論がある文章）のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウロジーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャルリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クィア・スタディーズの新たな視点について検討する。

7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ボルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関するディスカッション	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。
伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）。
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学・ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %
期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】

・受講希望者が200名を越える場合は、初回授業において選抜を行います。
・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できること
- (4) 関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/23の3限（13時）を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化と何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国（IS）を通して考える
8	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
9	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
10	政府開発援助（ODA）と文化影響	ODAの基礎を学ぶとともにそれが文化に与える影響を考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初の授業で具体的に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

最初の授業で提示した上で、毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート40%、期末課題（レポートもしくは口頭発表）40%

【学生の意見等からの気づき】

1年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに必ず事前登録して下さい。

【その他の重要事項】

- ・2018年度の代講教員から元の担当教員に変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際には留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に1、2年生には将来どのような専門を学びたいか、SAで何を学んだらいいか、3年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。
- ・3、4年生で履修する人は、論理的思考の基礎を改めて修得して下さい。
- ・NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義します。

【Outline and objectives】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 平和学で取り上げられる方法を理解し事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート40%、期末レポート（もしくは口頭発表）40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。
- ・受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある。

【Outline and objectives】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

SOC200GA

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

2020年度春学期は5月13日（水）に開始します。

対面による授業が行えない間は、以下の方法で授業を行う予定です。大変申し訳ありませんが、どうぞ宜しくお願いいたします。

【授業の方法】

●授業支援システムの「教材」にアップロードされた文献資料をダウンロードして予習をしておいてください。

●受講方法

①授業支援システムの「教材」にアップロードされたレジュメとパワー・ポイントをダウンロードして各自で学習する。

②水曜3限に行う60分間の双方向オンライン授業（パワー・ポイントを用いた教員による講義）に参加する。

のいずれか、もしくは両方で受講するようにしてください。

●授業支援システムの「課題」にアップロードされた問いについて、A4一枚程度（序・本論・結論がある文章）のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

・毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、A4一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。

6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教の持つ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）
 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）
 島藺進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）
 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）
 タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）
 ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）
 ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）
 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）
 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）
 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）
 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー	40%
期末レポート	60%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者が150名を越える場合は、初回授業において選抜を行います。
- ・大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

クレグ ジョンストン

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to accomplish the following: 1. Develop the student's knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics. 2. Understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically. 3. Analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The first day of class will be held on April 23, 2020 via Zoom at the normal class time: 3:00 pm. Please refer to the announcement on Hoppii for the URL and login details.

1. Students read assigned chapter in book
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter
3. Student-led discussions in small groups of self-check questions, review questions, critical thinking questions
4. End of chapter quizzes
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter)
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture on why it is important for everyone to be able to understand Economics
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic systems	English reading, discussion and written assignment on Economic systems
Week 4	Choice in a world of scarcity: Choice & Budget constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets
Week 5	Choice in a world of scarcity: Social Choices & Objections to the Economic approach	English reading, discussion and written assignment on Economic & Social Choices
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of Supply and Demand

Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with Demand & Supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures
Week 8	Elasticity: Price elasticity of demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand
Week 9	Elasticity: Price elasticity of supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply
Week 10	Cost & Industry structure: Explicit & Implicit costs/ Accounting & Economic profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit
Week 11	Cost & Industry structure: The structure of costs in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm output decisions	English reading and lecture on the concepts of Market Competition
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit decisions in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
5. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 55%
- Participation 15%
- Homework 15%
- Written assignments 15%

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The first day of class will be handled online on April 21, 2020.

Students are expected to watch an intro video, read the project/report information, and take the test.

The test answers along with your country choices for the report or project need to be emailed to walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

Please refer to the announcements on Hoppii for other details.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth employment: where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and employment: Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research habits: Conducting group research- different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.

Week 6	Alternative career tracks: Unusual fields for employment Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.
Week 7	Medical advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Medical research — Big pharma: how medicine changes our reality Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.
Week 9	Health issues: Diet considerations for life stages Presentation tip — use of slides: slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Mental Health considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.
Week 11	Technology in our blood: Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	Youth trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes	Student Group presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes	Student Group presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course overview discussions — Discussion of life themes used in the semester	Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

発行日：2020/5/1

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター カズマー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The first day of class will be handled online on April 21, 2020.

Students are expected to watch an intro video, read the project/report information, and take the test.

The test answers along with your country choices for the report or project need to be emailed to walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

Please refer to the announcements on Hoppii for other details.

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing your life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing other lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining customs in your country: holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries: holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7 Discussion of Asian and Western national differences: National holidays, national/regional habits
Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion

English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.

Week 8 Discussion of South American customs in selected countries: Discussing cultural difference
Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language
dos and don'ts for English public speaking

English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.

Week 9 Discussing food habits: Diet and how it affects customs
Presentation tip — use of slides: slide making
dos and don'ts

English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.

Week 10 Habits of selected parts of Africa: national holidays, national/regional habits
Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together

English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.

Week 11 Examination of sports by continent- selected countries: Sports comparison by types, number of players
Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit

English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.

Week 12 African presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What would you do? — Culture clash examples

Student Group presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 13 South American Presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs
What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules

Student Group presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course overview discussion of contrasting presentation themes — discussion of cultural contrasts from country to country and region to region

Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.
This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションV

ジョナサン・エーブル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

This class will start on Monday, April 27, 2020 in its regularly scheduled period using the online HOPPII Learning Management System. Students should try to self-register into the class student roster using the Romanized version (ローマ字) of their Given and Family names and their university email address.

The class will be conducted online using the HOPPII Learning Management System until further notice. The HOPPII System will be used as the initial meeting point and communication platform, but students will be expected to branch out and use other technology platforms and/or websites as the course progresses.

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1

Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2
Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if ...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8

Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9
Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam - 30%
- ・ Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests - 40%
- ・ Class Participation - 20%
- ・ Word-up Tests - 10%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

アンドリュー・ジョーンズ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.

Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

リービ 英雄

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第2回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第3回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第4回	Traditional Culture: Pre-modern Cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第5回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第6回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第7回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第8回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第9回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第10回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第11回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment

第12回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第13回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第14回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read about Japanese culture. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

50% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Presentations, etc.)

50% Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

日本だけでなく外国文化を課題にしてもいい、と分った。

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル・ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentations	Individual Student Presentations to the class.

Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint.
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition.
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework
20% In class work
30% Midterm Presentation
30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学で伸ばしたドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話すを楽しむを存分に味わいましょう。

【到達目標】

・ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、ドイツ語で表現・説明することができる。
 ・抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ、議論に加わることができる。
 ・まとまった分量の作文をドイツ語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

(4月20日修正)

授業開始日：4月27日

*指定テキスト"Dreimal Deutsch"の36ページ以降を読み進めていきます。予定していた教科書の使用箇所とは違う部分です。

*基本は添削+ポイント解説（動画ないし音声メモ視聴）の方法を繰り返し、受講者の意向次第では双方向型ビデオオンラインミーティング（Zoom）によるプレゼンテーションを1、2回程度取り入れます。

*以後、授業内容・方法の変更は全て Hoppii ないし履修者の法政 G メール宛連絡します。

*場合によっては Google Classroom をツールとして使用します。

各回、指定されたテキストの箇所を前もって読んでおきます。授業ではペアワーク・グループワークも取り入れつつ、テキストの内容と重要概念（語彙）を確認しながら、ドイツ語でアウトプット（作文）し議論します。この作業を繰り返しながら、自分の言いたいことが適切なドイツ語の表現でスムーズにドイツ語で言えるように練習します。

各回のテーマはドイツ語圏それぞれに共通する話題、異なる話題のバリエーションを用意し、参加者それぞれの滞在体験と比較しながら理解の内容を深められるよう配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整、ドイツ語で留学・ドイツ語圏滞在の思い出を語ってみよう！
2	日常生活（1）－住まい	留学中・滞在先での生活についてドイツ語で説明する
3	日常生活（2）－食文化	土地ごとに違う表現・同じ食べ物でも土地ごとに名前が違うことについて
4	日常生活（3）－ドイツ人はきれい好きで心配性？	あなたが見聞きしたもの、あるいは見聞きできなかったこと
5	学校・大学生生活（1）	教育の目標・ドイツ語圏の人々にとって大切な価値とは？
6	学校・大学生生活（2）	大学に行く目的とは？日本とドイツ語圏では何が違う？
7	社会の様相（1）－環境政策	ドイツ語圏の環境政策・脱原発の取り組みについて
8	社会の様相（2）－移民政策、難民の流入	ドイツはどんな風に"multikulti"だと思う？
9	社会の様相（3）－教育と大学制度	教育制度に関する語彙・概念を整理してみよう
10	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史で知っていることは？神聖ローマ帝国の崩壊からドイツ連邦へ
11	ドイツ語圏の歴史と政治（2）	3月革命とドイツ帝国の成立・オーストリア＝ハンガリー二重帝国の成立から第一次世界大戦まで
12	ドイツ語圏の歴史と政治（3）	ヴァイマル共和国からナチス・ドイツ政権の奪取、第二次世界大戦から絶滅政策の果てに

13	ドイツ語圏の歴史と政治（4）	敗戦と冷戦の始まり・東西分断とドイツ再統一へ
14	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

・所定の予習・復習課題を出します。

・新聞（日刊紙）を読むこと。国際政治を自分の身近な問題として引き受け思考するため、「何を話すか」のブラッシュアップにも文章によるニュースメディアは必要です。ドイツ語圏のメディアにはインターネットや SNS 等を効果的に利用してアクセスするクセをつけるとういでしょう。

【テキスト（教科書）】

・"Dreimal Deutsch" (Klett, 2003/2005/2009)

・他に"Themen aktuell 1" (Hueber, 2003) を持っている場合は持参してください。

【参考書】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver2.』（朝日出版社、2011年）(1,2 年次使用教科書)

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）

その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(4月20日修正)

平常点（課題への積極的な取り組みとその成果、場合によってはオンライン上のプレゼンテーションを含む）100%

平常点（授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題）60%、期末試験 40%を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはいけません。

【その他の重要事項】

・この授業はドイツ語圏の留学・滞在経験者が対象です。これからドイツ語圏の留学に行く予定がある、ないしこれからドイツ語の語学研修を計画・予定している方には、市ヶ谷リベラルアーツ (ILAC) 開講の「留学ドイツ語 A/B」や「ドイツ語アプリケーション A/B」等の履修を推奨します。

・授業内容（テーマ）と順序は変更されることがあります。

・受講者には「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」、あるいは「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」の受験を推奨します。Goethe Zertifikat については割引料金適応が適用されるので、受験希望者はぜひ担当者に知らせて下さい。以上の受験結果については、2020年7月15日の時点で担当者が合否を正確に確認できた場合のみ、上記「成績評価の方法と基準」の「平常点」に加算します。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking societies. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

辻 朋季

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ留学を通して身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。ドイツ語検定試験の2級相当のレベルに到達することを一つの目標に、ドイツ語テキストの正確な読解に取り組みます。授業の前半では、辞書なしで文意を捉えられるよう速読の力を養い、後半ではドイツ語の構文を正しく理解し精緻に読み解けるよう、精読の訓練をしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く（著者が何を言いたいのか、メッセージを読み解く）。辞書なしで文章の大意を把握できるようにする。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。独検2級に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、テキストの大まかな方向性を把握する練習をします。後半では、事前に配布した教材（ドイツ語圏の文化や歴史に関するテキストやニュース記事）などを精読します。文章の和訳をしながら、内容を正確に読み解くとともに、テキストが扱っているテーマについての議論も行います。

【4/21 追加：オンライン授業の実施に伴い、授業の進め方を大幅に変更しました。基本的に、和訳課題の提出と添削により授業を行います。初回授業日は5/1(課題は4/21に公開)、第2回目は5/8です(課題は4/24に公開)。その後の詳細は、Hoppiiのお知らせ欄「担当教員より、オンライン授業の進め方についてのご案内」を参照のこと】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	ドイツ留学をふり返る	2019年にドイツ語圏で起きたことや社会情勢、トレンドに関するテキストを読む。自身の留学体験とも重ね合わせて、どんな年だったのかをふり返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	ドイツ語圏のいまを知る。ドイツの社会や政治制度について、日本とも比較しながら学ぶ。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	ドイツの隣国オーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて	EU諸外国とは大いに異なるスイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）AfD 台頭とドイツ社会	要人の殺害やシナゴーク襲撃など、ドイツにおける排外主義の高まりについて考える。
7	ドイツ語圏を知る（5）ドイツの選挙制度	似ているようで大きく異なる日独の選挙制度や政治システムの相違について考察する。
8	ドイツ語圏を知る（6）ドイツと日本の交流史を知る	1861年に修好通商条約が締結されて間もなく160年となる日本とドイツの関係について学ぶ。
9	ドイツ語圏を知る（7）ドイツとEU諸国との関係	戦後ドイツが諸外国とどのような関係を築いてきたのかを知る。
10	独検に挑戦（1）	ドイツ語検定2級で出題された文章を正確に読み解いていく。
11	独検に挑戦（2）	ドイツ語検定2級で出題された文法問題を解いて、初級・中級文法の定着を図る。
12	独検に挑戦（3）	ドイツ語検定の聞き取り試験を解きながら、リスニングの力を養っていく。
13	ドイツのいま（1）	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、ドイツの最新の情勢を知る。

14 ドイツのいま（2） ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、スイスの最新の情勢を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後半で読むテキストは事前に配布しますので、辞書を用いて予習して授業に臨んで下さい。予習に際しては、ただ単語の意味を調べるだけではなく、著者がどのようなスタンスで何を述べようとしているのかを読み解く努力をしていきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを毎回配布します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著：『ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）。ドイツ語の文法がコンパクトながら網羅的に解説されていて、ドイツ語学習者の「必携の書」と言えます。まだ持っていない学生は用意してください。また中級文法のトレーニングには、以下の参考書もお勧めします。辻朋季：『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』（三修社、2015年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加 40%。課題への取り組み 40%。小テスト 20%。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語で話す機会を増やしてほしいという意見があったので、授業で扱うテーマに関して、ドイツ語で議論する場を設けていく。接続法などの中級・上級文法についても、履修者の求めに応じて適宜解説していきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to make progress our German language skills acquired by staying and studying in Germany or in Switzerland. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

NOTA BENE: The course is mainly held in Japanese, partially in German. Students who are not proficient in these languages are requested to ask the course lecturer beforehand (q.v. also curriculum vitae in Japanese).

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

ウテ・シュミット

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum

ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう。

この授業では身近なテーマから時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分または日本の実情と比較し、各テーマについて意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいと思います。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。Goethe-Institut等のドイツ語検定試験の準備として役に立つと思います。

【到達目標】

- 1) 中級以上のテキストを理解できる。
- 2) 様々な領域の語彙を習得する。
- 3) 基本的な文法事項を復習し、中級以上の文法事項を習得する。
- 4) 幅広いテーマについて、明確に意見を述べ、時事的な問題への見解を表明し、長所、短所を挙げるができる。
- 5) 簡単なコメントやショートエッセイが書ける。
- 6) 簡単なプレゼンテーションを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストブック、新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介	Einstufung Selbstvorstellung
第2回	統計でみるドイツ語圏	Statistiken und Grafiken beschreiben
第3回	ドイツ語圏のイメージ	Bildbeschreibung
第4回	国と国民:典型的とは何か?	Was ist typisch?
第5回	ドイツ人と動物 1	Die Tierliebe der Deutschen
第6回	ドイツ人と動物 2	Tierschutz
第7回	音楽 1	Deutsche Hits Liedtexte verstehen
第8回	音楽 2	Meine Lieblingsgruppe vorstellen
第9回	食生活	Essen und Ernährung
第10回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第11回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第12回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第13回	年間行事と祭り 1	Traditionelle Feste Weihnachtenquiz
第14回	年間行事と祭り 2	Weihnachten in Deutschland und Neujahr in Japan - Feste von gestern?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。単語の復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加50%、宿題50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日：2020年4月23日（木）

ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests - Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 4 : Date limite de consommation (1)	pp.59-60 & p.62 : la France vue par les étrangers ; expression de l'opinion
3	Unité 4 : Date limite de consommation (2)	p.61 & pp.63-65 : mode et consommation ; expression de l'opinion (suite)
4	Unité 4 : Date limite de consommation (3)	pp.66-68 : l'économie de partage ; comparatif et superlatif
5	Unité 4 : Date limite de consommation (4)	pp.69-73 : place de l'adjectif ; la consommation collaborative
6	Unité 5 : Le français dans le monde (1)	pp.75-78 : la langue française ; le plus-que-parfait
7	Unité 5 : Le français dans le monde (2)	pp.78-82 : évolution du français ; pronoms en & y ; la double pronominalisation
8	Unité 5 : Le français dans le monde (3)	pp.83-87 : les francophones ; indicateurs de temps ; TEST INTERMEDIAIRE
9	Unité 6 : Médias en masse (1)	pp.91-94 : l'ère numérique ; la nominalisation de la phrase verbale
10	Unité 6 : Médias en masse (2)	pp.95-98 : journalisme et médias sociaux ; le passif
11	Unité 6 : Médias en masse (3)	pp.99-103 : presse et fausses informations ; les adverbes de manière
12	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	pp.107-111 : bien voyager ; le futur
13	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	pp.112-114 : préparer ses vacances ; la condition, l'hypothèse
14	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	p.116 & p.119 : voyages et assurances ; le conditionnel passé ; TEST FINAL ; Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、
成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL

Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryūgaku").

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1 voire B2) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

EDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 8 : La planète en héritage (1)	Consignes pour ce second semestre ; pp.123-125 : livres et papiers recyclés
2	Unité 8 : La planète en héritage (2)	pp.125-129 : verbes et adjectifs suivis de prépositions ; le recyclage
3	Unité 8 : La planète en héritage (3)	pp.130-133 : le gérondif ; la ville écologique
4	Unité 8 : La planète en héritage (4)	pp.134-136 : l'ordre du discours ; solutions pour l'environnement
5	Unité 9 : Un tour en ville (1)	pp.139-143 : actions écologiques citoyennes ; le discours rapporté
6	Unité 9 : Un tour en ville (2)	pp.144-147 : propreté et bien-être en ville ; l'interrogation
7	Unité 9 : Un tour en ville (3)	pp.148-151 : l'art urbain ; les indéfinis (la quantité) ; TEST INTERMÉDIAIRE
8	Unité 10 : Soif d'apprendre (1)	pp.155-159 : les études en France ; la cause et la conséquence
9	Unité 10 : Soif d'apprendre (2)	pp.160-163 : les études ; le participe présent
10	Unité 10 : Soif d'apprendre (3)	pp.164-167 : wikipedia et les connaissances ; les pronoms relatifs composés
11	Unité 11 : du sport (1)	pp.171-175 : temps libre et loisirs ; les doubles pronoms
12	Unité 11 : du sport (2)	pp.177-183 : santé et sport ; la mise en relief ; le futur antérieur
13	Unité 12 : cultiver les talents (1)	pp.187-191 & p.198 : lecture et littérature ; l'opposition et la concession ; le passé simple
14	Unité 12 : cultiver les talents (2)	pp.192-197 & p.199 : arts et artistes ; les indicateurs de temps ; TEST FINAL ; suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire; structurer un devoir, préparer un exposé).

予習・復習・積極性厳守。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

EDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé (仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 50%
Tests et devoirs : 50%

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL
Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryūgaku").

【Prerequisite】

Un bon niveau de français (A2 au minimum) est nécessaire pour participer à ce cours.

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with a B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi". Dans le cas d'un dysfonctionnement du système de soutien à distance "Hoppii" veuillez joindre la classe Google Application 1 avec le code suivant : rb2mivf

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	Prise de contact (questions et révisions générales). Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières.
②	L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L2 p12 Passer une commande Prépositions "à" et "de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L6 p24 A la banque Complément de nom "de"	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire

⑧	L7 p26 Echanger, se faire rembourser expressions de temps + passé composé)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L12(2)p 46 Parler des lieux 2 Richesses d'une région (valoir, avoir à)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Révisions Test final	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Correction test Culture française	Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive Du Francais - 2eme Edition: Livre De Leleve + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2090381634)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

Préparation ou devoirs : 15%

Participation en classe: 15%

Tests et devoirs: 70%

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/bb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

カレンス・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (B1). Son programme est la suite du cours « Application » de la session de printemps. A travers différents types d'exercices, les compétences de compréhension et de production à l'oral seront aiguisées afin de renforcer le niveau de communication et d'expression non seulement orale mais aussi écrite.

Les thèmes étudiés à ce niveau permettront de compléter et même d'élargir encore davantage vos connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif. Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante. S'il y a des modifications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode. Evaluation du niveau de la classe
②	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
③	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
④	UL17 p66 A l'université Présent et futur immédiat, La recherche p68 Subjonctif	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑤	L18 p72 Téléphoner Pronoms compléments +verbes semi-auxiliaires Doubles pronoms)	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑥	L21 p86,88 Donner des instructions Impératif avec pronoms Expression de l'ordre	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑦	Test intermédiaire	Révisions
⑧	L22 p90 Insister Dont Trop / assez Hypothèses improbables "si"	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles

⑨	L24 p96 Les plaintes Imparfait/ passé composé, Opposition	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑩	L27p 110 Vérifier, contrôler Indicatif ou subjonctif à la négation	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑪	L35 p148 Exprimer la surprise Futur antérieur de probabilité Plus que Parfait	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑫	L36 p152 Regretter, reprocher Plus-que- parfait/conditionnel passé Concordance des temps	Exercices en relation avec le thème du jour et jeux de rôles
⑬	Test final	Révisions
⑭	Correction du test	Culture française

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive Du Francais - 2eme Edition: Livre De L'eleve + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-2090381634)

【参考書】

La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】

Tests et devoirs: 70%

Préparation: 15% Participation en classe: 15%

【学生の意見等からの気づき】

Des exercices spécifiques supplémentaires seront proposés en adéquation avec le niveau réel de chaque étudiant.

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French for intermediate level (B1). This program is the prolongation of the "Application" course of the spring term.

Through many kind of drills (listening, ask and answer questions, reading, writing), we will sharpen comprehension and will strengthen production capacities in order to develop both oral and writing expression. The different topics studied in class will also give many opportunities to widen your knowledge about French culture.

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ロシアで培ったロシア語の文法と読解力を維持・向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めることが目的となります。ロシア語テキストの読解を通して、ロシアの文化や慣習をさらに深く知る楽しみも分かち合いたいと思います。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）、あるいはロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

文法と読解に重点をおきます。教材には、ТРКИやロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や習慣をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握し、設問に答える練習を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ТРКИ文法と読解（第1レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第3回	ТРКИ文法と読解（第1レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第4回	ТРКИ文法と読解（第1レベル）。	ТРКИのテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第5回	ТРКИ文法と読解（第1レベル）。	ТРКИのテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第6回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第7回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第8回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第9回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第10回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第11回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第12回	ТРКИ文法と読解（第2レベル）。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第13回	ロシア映画鑑賞（1）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第14回	ロシア映画鑑賞（2）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ТРКИの練習問題やロシア語能力検定試験の過去問題を通して、本番に臨む準備を各人でも重ねて行ってください。

【テキスト（教科書）】

適宜、学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

学習支援システムを介して紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。授業開始日は4月27日（月）、学習支援システムにて。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞への希望があったので、両者に応じような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はロシア語の読解力に加え、リスニングの向上にも力を入れます。次年度のロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の希望する級の合格を目標に掲げます。

【到達目標】

読解力と聴解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の読解問題やロシア語雑誌のコラム、ロシア文化に関する文献を教材としてリーディングの力を養います。また、ТРКИのリスニング問題を利用して聴解力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。
第2回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИのリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第3回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИのリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第4回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第5回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第6回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第7回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第8回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第9回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第10回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第11回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第12回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第13回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第14回	映画鑑賞	ロシア映画を鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシアの文化、社会を知るために読むテキストの予習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でテキストのコピーを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を含む授業への取り組み（50%）と出席率（50%）に基づき判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの要望に基づき、これまでどおり、ТРКИおよびロシア語能力検定試験に向けた対策、およびロシア語のコラムの読解を続けていきます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve reading comprehension and listening in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading and listening texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANc300GA

中国語アプリケーション I

曾 士才

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布。
第 2 回	プリント 1 ①	政治関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント 2 ①	経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 3 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 3 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 4 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 4 ②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント 4 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 14 回	読解力テストと講評	テスト後の講評と関連語彙の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになる。受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。また、参考図書・三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳する。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010 年

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の学習（20％）と学期末に実施する読解力テスト（80％）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。

中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に e-Learning を利用した「聞く」能力とロールプレイによる「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

e-Learning を使ってドラマの中で俳優たちが話す自然な中国語を聞く力を身につけるとともに、俳優たちの演技を手本にドラマの一部をロールプレイすることによってより自然な中国語を話す力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業時間を有効に利用するため、e-Learningによる予習と教室での学習を組み合わせたブレンド型学習を行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う

【授業の進め方と方法】

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）
- ②単語・表現・語法の解説と作文練習
- ③ドラマのロールプレイ練習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方を説明した後、事前学習に使用する教材の利用方法を解説と実習を行う
第2回	「愛是一颗幸福的子弹」第1集	第1集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第3回	「愛是一颗幸福的子弹」第2集	第2集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第4回	「愛是一颗幸福的子弹」第3集	第3集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第5回	「愛是一颗幸福的子弹」第4集	第4集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第6回	「愛是一颗幸福的子弹」第5集	第5集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第7回	「愛是一颗幸福的子弹」第6集	第6集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第8回	「愛是一颗幸福的子弹」第7集	第7集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第9回	「愛是一颗幸福的子弹」第8集	第8集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第10回	「愛是一颗幸福的子弹」第9集	第9集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第11回	「愛是一颗幸福的子弹」第10集	第10集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第12回	「愛是一颗幸福的子弹」第11集	第11集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第13回	「愛是一颗幸福的子弹」第12集	第12集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第14回	「愛是一颗幸福的子弹」第13集	第13集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①パソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う
- ②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、ロールプレイができるよう準備する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回各回のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

- ①授業のはじめに行う小テスト（60%）
- ②事前学習（ディクテーション）の実施状況（20%）
- ③ロールプレイの内容（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのロールプレイによる練習時間を増やし、より自然な中国語を話す力を身につけられるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

教材の利用には、インターネットの接続できるパソコンまたはスマートフォンが必要である。自宅でこれらの環境がない場合は、学内の情報カフェテリアなどを活用してほしい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve listening and speaking skills through the use of e-Learning and roll playing.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

*4月21日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	ピンイン・日常用語（1）	1、ピンインを復習する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の朗読・日常用語（2）	1、短い文章を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	会話パターン（1）	買い物する時の会話パターンをチェックする
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	会話パターン（2）	レストランでの会話パターンをチェックする
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	会話パターン（3）	ものの尋ね方をチェックする
第9回	授業内発表（3）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで問答する
第10回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第11回	授業内発表（4）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第13回	授業内発表（5）	個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布。

【参考書】

劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験の点数（50点）と平常点（50点）の合計点で評価する。平常点の場合は、学習態度のほか、最初には会話力の個人差があるため、どれほど進歩が見られるかも参考となる。

*オンライン授業の場合は、課題の完成度が平常点として評価の対象とされる。

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。また、会話以外の質問も受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline and objectives】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

渡辺 昭太

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※ 2020.04.18 追記：オンライン授業開始に伴い、授業計画や成績評価が一部変更になる可能性があります。詳しくは、学習支援システムを確認してください。

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
- (3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

※ 2020.04.20 追記：授業開始日は4月24日です。授業計画の変更などは、学習支援システムでその都度連絡します。

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動目」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”

11	第19課、第20課	補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
12	第21課、第22課	“被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
13	第23課、第24課	授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す“で”、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
14	全体のまとめ	試験とその解説、学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業開始後は、テキストの予習／復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・劉月華（他）2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹 2017『中国語はじめての一步（新版）』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

※ 2020.04.20 追記：オンライン授業実施に伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。期末試験を50%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を50%として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。
- ・適宜、補足資料を配付することもあるが、指定したテキストは必ず購入の上、毎回持参すること。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

神谷 丹路

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「SA韓国」から帰国した学生をはじめ、朝鮮語中上級向けのクラスである。朝鮮語・韓国語の児童文学を読み進めることで、朝鮮語の世界の広がりやを体験する。日本語への翻訳する力の伸長を目指し、また内容について朝鮮語でディスカッションしたり、関連事項について調べて朝鮮語で発表したりする。これまで学習してきた「話す力」「書く力」などの定着を図り、自らの力で、朝鮮語・韓国語の世界を渡り歩いていける力を身に着ける。

【到達目標】

韓国の児童文学を読むことで、朝鮮語の易しい長文を読み進める力を身に着ける。内容を読み解いたり、未知の事項を説明したりする力を養成し、日本語への翻訳についても実践学習する。同時に、内容に関する関連事項を調べ、より深い理解へとつながるような探求心を養成する。内容について、クラスの仲間と朝鮮語で意見交換などできる力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

身の回りの題材で簡単な日常会話のウォーミングアップをしたのち、テキストに沿ってリーディング、翻訳実践練習などを行う。文章や内容について、疑問点、関連事項などについて話し合い、その場で解決できない場合は、それぞれ調べ、次の回に朝鮮語で報告し、互いの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	テキストリーディング①	受講生の発表と質疑応答。
3	テキストリーディング②	受講生の発表と質疑応答。
4	テキストリーディング③	受講生の発表と質疑応答。
5	テキストリーディング④	受講生の発表と質疑応答。
6	テキストリーディング⑤	受講生の発表と質疑応答。
7	テキストリーディング⑥	受講生の発表と質疑応答。
8	テキストリーディング⑦	受講生の発表と質疑応答。
9	テキストリーディング⑧	受講生の発表と質疑応答。
10	テキストリーディング⑨	受講生の発表と質疑応答。
11	テキストリーディング⑩	受講生の発表と質疑応答。
12	テキストリーディング⑪	受講生の発表と質疑応答。
13	テキストリーディング⑫	受講生の発表と質疑応答。
14	まとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、課題を読み日本語に翻訳する予習が必要です。本授業の準備、復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

日韓・韓日辞書。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画度 80 %、プレゼンテーション 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with Korean intermediate level. It also enhances the development of students' skill in reading, writing, listening and talking.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着させていきます。

授業は、ほとんど朝鮮語で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のテレビ、新聞、小説などを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネット、ビデオなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。
発表・レポート・平常点を総合して(50%)期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

DVDなどの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション**梁 禮先**

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

DES200GA

情報コミュニケーションⅢ

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：席数を越えた場合選抜

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報コミュニケーションⅢ」は、情報デザインに関する入門的、実験的な実習授業です。ロゴタイプやシンボルマーク、ピクトグラムやイラストレーションなどのデザインやアートに関わる基本的なトレーニングを行います。作品制作と並行して行う毎回のレクチャーを通じて、デザイン概念と視覚言語に関する理解を深めます。

【到達目標】

作品制作を通じて、コミュニケーションに必要な視覚表現の基礎的なトレーニングを行います。加えて創作全般に通じるクリエイティブな造形表現に必要な感覚や技術を養います。絵を描くことに苦手意識のある人や、PCでの写真加工やデザイン制作が初めての人もあまり難しく考えずに手や体を動かすことを優先して、作ることの楽しさを体験します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、

1. ロゴタイプとシンボル（タイポグラフィについて）
2. ピクトグラム（インフォグラフィックスについて）
3. イラストレーションとレイアウト（グラフィックデザイン）の3つのテーマで、課題制作を進めます。

課題に取り組む際には課題の意義及び各ソフトの使い方について講義をします。各課題の最後にはお互いの作品を鑑賞し（プレゼンテーション）、講評会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
資料	Google Classroom	で授業を進めます。
4/27	オリエンテーション	学習支援システムの指示を確認してください。実習内容の説明 教科書・参考資料について 評価基準
5/6	ロゴタイプとシンボル 1	講義 ロゴタイプとシンボルマーク ワークショップ イラストレーターによる基本的な図形の書き方
5/11	ロゴタイプとシンボル 2	課題制作 ロゴタイプの制作
5/18	ロゴタイプとシンボル 3	課題制作 シンボルマークの制作
5/25	ピクトグラム 1	講義 ピクトグラムとは ワークショップ ピクトグラムの模写
6/1	ピクトグラム 2	課題制作 大学構内の案内用サイン
6/8	ピクトグラム 3	課題制作 オリンピックのピクトグラム
6/15	インフォグラフィック 1	講義 インフォグラフィックとは ワークショップ ZINEのデザインをコピーする
6/22	インフォグラフィック 2	課題制作 ZINEの制作 1
6/29	インフォグラフィック 3	課題制作 ZINEの制作 2
7/6	レイアウト 1	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 1 アイデア
7/13	レイアウト 2	課題制作 パンフレット表紙レイアウト 2 インフォグラフィックを元としたイラストの作成

補講 レイアウト 3

課題制作

パンフレット表紙レイアウト 3

課題作品のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

街の中のサインやポスター、本や雑誌、様々なプロダクトなどについて、視覚的な情報伝達の方法やデザインの工夫などを意識して読み解いてください。大学近郊の美術館やギャラリーなどで、さまざまな作品を鑑賞するのも良いと思います。また、人工物だけでなく自然物にも目を向け、美しいと思う物をスマホやデジタルカメラ等で撮影しストックしておいて下さい。制作の材料として使用します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する教科書はありませんが、授業中にプリントを配布します。

【参考書】

参考書、参考作品については授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

課題提出（50%）

評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

ソフトの操作や専門用語などをわかりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

使用するソフトは以下の通りです。

Adobe Illustrator（イラストレーションを描くためのソフト）

Adobe Photoshop（写真を加工するためのソフト）

課題提出に授業支援システムを使いますので登録しておいてください。

また、スケッチブック（ノート可）や鉛筆など、絵を描くための材料が必要となります。

【その他の重要事項】

初心者の方には、各ソフトを使っての作品制作のコツをまず掴んで、さらに完成度を高めていく方法をお伝えします。技術的な経験は問いませんので、アートやデザインの作品制作に自信のない人も是非チャレンジしてみてください。

※課題制作については各受講者の能力やそれぞれがやりやすい進め方などを考慮して、毎回の内容や目標を掲げていません。ディスカッションを通じて各自の課題を見極め、柔軟に取り組んでください。

初回のガイダンスに必ず出席してください。登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

重要

オンライン授業に向けての変更点

こんにちは。

情報コミュニケーションⅢを担当する国際文化学部の稲垣です。

受講方法について説明します。

学習環境

PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。また、インターネット環境を心配されている方も多くいらっしゃいましたので、当初はZoomなどでのライブ・ストリーミングは任意参加以外では基本的には行わず、ウェブサイトを開覧してもらう方式にしました。

授業の形式

みなさんの受講環境が一定でないためオンタイムでの授業は行わず、ウェブサイト授業コンテンツを全て掲載して一定期間（一週間程度）公開、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。

授業の方法

授業時間になると授業支援システムを通じてGoogle site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、5-10分程度のものを2、3本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは春学期の間は公開しておきます。対面授業とオンライン授業内容の違い

対面授業とオンライン授業では内容は同一です。ただし、今年度の授業はそもそも去年までの授業内容と大きく変更しています。まずはシラバスを確認してください。第一回目の授業で、もう少し詳しい説明をします。

授業内レポート

授業後、Google Formで小テストと授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了後の一週間程度です。

評価

小テストと授業内レポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問

質問についてはGoogle Classroomに投稿してください。また、授業時間内であればGoogle hangout Meet (<https://meet.google.com/lookup/exobknnrjnl>) を使って対面で通話できます。

個人的な相談についてはメールを送ってください。

リクエストがありましたら、数回に一回程度Zoomなどを使った任意参加のトークも行いたいと思います。

質問がありましたら、いつでもお答えしていきます。

では、みなさんお元気で過ごしてください。

【Outline and objectives】

Information Communication III is an introductory and experimental training class on information design. Basic training on design and art, such as logotypes, symbol marks, pictograms and illustrations.

Through every lecture given in parallel with the creation of the work, students will deepen their understanding of design concepts and visual languages.

SES300GA

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティスあるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる環境や政治、あるいはコミュニティやジェンダーなど、様々な社会的問題に直接働きかける美術の分野について学びます。社会と直接関わるような現代美術のアプローチに関する理論と実践についてのワークショップ形式の実習を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. コミュニティ
3. ポリティカル・イシュー

自分たちを取り巻く様々な社会的な課題を捉え直し、調査を基に自分なりに課題を設定して作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

実習では、いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施、グループワークでの調査やディスカッションを経て、様々な発表形式による作品制作を行います。ワークショップの冒頭に課題と関連した社会的課題に関する解説と、美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。次に資料や大学内外のフィールドワークを通じて問題を探ります。最後に各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要
9/28	ワークショップ 1 環境と社会-1	ソーシャル・プラクティスについて 講義とディスカッション
10/5	ワークショップ 1 環境と社会-2	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など 調査とプレゼンテーション
10/12	ワークショップ 1 環境と社会-3	パワーポイントによる作品のプレゼンテーション 作品制作 1
10/19	ワークショップ 1 環境と社会-4	レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション 作品制作 2
10/26	ワークショップ 2 コミュニティ-1	レクチャー・パフォーマンスによる作品制作とディスカッション 講義とディスカッション
11/2	ワークショップ 2 コミュニティ-2	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など 調査とプレゼンテーション
11/9	ワークショップ 2 コミュニティ-3	ポスターによるプレゼンテーション 作品制作 1
11/16	ワークショップ 2 コミュニティ-4	映像による作品制作とディスカッション 作品制作 2
11/30	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-1	映像による作品制作とディスカッション 講義とディスカッション
12/7	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-2	ジェンダー、貧困問題、表現の自由など 調査とプレゼンテーション
12/14	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-3	企画書によるプレゼンテーション 作品制作 1
12/21	ワークショップ 3 ポリティカル・イシュー-4	パフォーマンス、インスタレーションによる作品制作とディスカッション 作品制作 2

1/18 フィードバック

授業全体を俯瞰し、各課題の意義についてディスカッションします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュースや新聞で話題となる時事問題、地域社会の問題、個人と社会の問題など、様々な社会問題について関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内容に関連した資料を配布します。

授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA 研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点 (50%)
2. 授業内レポート (50%)

評価の具体的な指針についてはループブックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through groupwork surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この授業では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの基本となる考え方やアイデアについて学びます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

導入（20分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（20分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/22	オリエンテーション	授業計画について
9/29	現代美術の基礎知識 1	未来派・ダダ、シュルレアリズム
10/6	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
10/13	現代美術の基礎知識 3	単元のまとめ
	ワークショップ 1	ワークショップ・ドローイング
10/20	パフォーマンス・アート	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
10/27	身体とパフォーマンス	コンテンポラリーダンス、舞踏
11/10	パフォーマンス・アート	単元のまとめ
	身体とパフォーマンス	ワークショップ・ハプニング、パフォーマンス
11/17	音とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
11/24	言葉とパフォーマンス	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
12/1	音とパフォーマンス	単元のまとめ
	言葉とパフォーマンス	ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス
12/8	絵画・彫刻・ドローイング	ブランクシスな実践としての芸術作品について
	メディアとアート	写真・映像・インスタレーション
12/15	関係性の美術	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ
	ソーシャル・エンゲージドアート	ソーシャル・プラクティス
12/22	現代美術	単元のまとめ
	ワークショップ 4	ワークショップ・コラボレーション
1/12	フィードバックとディスカッション	ワーク 現代美術論テーマ全体に関するディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内容に関連した資料を配布します。

授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】

『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点 (50%)
 2. 授業内レポート (50%)
- 評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【Outline and objectives】

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

ART300GA

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しようものについて、自ら考えを深めていきます。あなたのガッカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- ・さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
- ・「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
- ・美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論のテーゼの真意を理解すること。
- ・「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
- ・この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
- ・その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しく思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。毎授業ごと、自分の考えをまとめ、小レポートとして記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたもの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995年、映画 2001年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その1	時間芸術と「タイムトラベル」、身体感覚の記憶の表現、人物と背景を構成するためのメディア（1）
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年）その2	学校という大切なもの、「ラブシーン」の成立条件、科学と私たちの未来
5	R. ブラッドベリ『華氏 451度』／F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953年、映画 1966年）	「書物の神話」とメディア批判の古典、インターネットの時代の焚書の危機
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006年、映画 2009年）	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）というエンターテインメント、コンピューターゲームは私たちと世界をどう変えたのか
7	S. フィτζェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 1974年）その1	キラークンテンツとしての「悩める若者たち」、人物と背景を構成するためのメディア（2）

8	S. フィツェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 2013年）その2	「時代を超えた真実」V.S.「現代風にアレンジ」、作品解釈の歴史が映画化に与える影響
9	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その1	「私の想像した自然」を描く、人物と背景を構成するためのメディア（3）
10	堀辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その2	「ない」ものをどうやって視覚で表現するか、個人の運命と戦争に翻弄される人間
11	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その1	「私」の記憶と真実の複数性、「西洋 V.S. 東洋」という二項対立
12	L.v.d. ポスト『獄の影にて』／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その2	「もう一人の私」を受け止める、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体
13	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その1	ミレニアル世代のリアリティ、人物と背景を構成するためのメディア（4）
14	W. ヘルンドルフ／F. アキン『14歳、僕らの疾走／50年後のボクたちは』（小説 2010年、映画 2016年）その2	ロードムービーの快感、読者・観者に「語りかける」物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・毎授業終了後、小レポートを作成し提出します。
- ・授業で扱う文学作品について、配布済みの抜粋テキストをあらかじめ読んでおきます。

【テキスト（教科書）】

- ・授業で扱う作品について、文学作品についてはプリントで配布します。
- ・授業中に扱う映画の DVD 等はこちらで用意します。（最終レポートで扱う作品はご自分でも用意してもらいます）

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
- ・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
- ・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史—ビッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
- ・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
- ・R・バルト（運實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005年
- ・運實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
- ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
- ・杉野健太郎編著『[映画学叢書] 交錯する映画—アニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と毎授業ごとの課題（小レポート）65%、最終レポート課題 35%を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ペンや鉛筆等の筆記用具を準備してください。授業内でのスマホや PC 等の電子デバイスの使用は一切認めません（自宅での小レポート・学期末レポートの執筆には使用可）。
- ・なんらかの事情で授業中に電子デバイスの使用が不可欠だと言う場合は、あらかじめ申し出てください。

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・授業に参加し考えたことを書くのが「小レポート」です。「出席していない授業内容についてレポートを提出する」ということは認められません。
- ・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは原則行いません。考えうるいくつかのケースを除けば、あなたが今何をするか決めているのはあなた自身だからです。
- ・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者が重視するのは、授業参加時の態度とその成果の表現である提出課題です。
- ・教室内での携帯電話や PC 等の電子デバイスの使用は厳禁です。特に理由もないのに途中退室するような行動も容認しません。「映画を観て、文学作品を読み、授業担当者の話を聞いて自ら考える」という 100 分間の授業に集中できない履修者は、評価の対象外です。

[Outline and objectives]

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

LANj300GA

世界の中の日本語

リービ 英雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より 200 名を抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。

その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十一世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】

実際の翻訳を通して、言葉のレベルで「日本と世界」を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第 2 回	ノーベル文学賞と「日本」	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第 3 回	ノーベル文学賞と「日本」	川端康成と「美しい日本の私」
第 4 回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第 5 回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第 6 回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第 7 回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第 8 回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第 9 回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第 10 回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第 11 回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第 12 回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第 13 回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけて」
第 14 回	期末試験・まとめと結論	期末試験・まとめと結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代日本文学を自分で読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気のある授業だと分りました。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will deal with passages from modern and contemporary literature.

ARSe200GA

中国の文化 I（現代中国社会）

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第2回	都市と農村 (1)	北と南の違い、水問題、南水北調
第3回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第4回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、人権意識
第5回	人の移動 (1)	経済特区、郷鎮企業、留守児童
第6回	人の移動 (2)	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第7回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、都市の家族
第8回	家族と婚姻 (2)	一人っ子政策、新人類の若者たち「80後」「90後」
第9回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第10回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第11回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第12回	日本と中国 (1)	日中協力
第13回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第14回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。また、授業内容の理解度を測るために、授業支援システムを使ったクイズに回答することになる。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための40章【第4版】』明石書店 2012年

藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための44章第5版（エリア・スタディーズ）』明石書店 2016年

高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための50章』明石書店 2008年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、円滑な授業運営に努めたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan. At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.

ARSe200GA

中国の文化Ⅱ（多民族社会中国）

曾 士才

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文明は、多様な風土のなかでそれぞれ独自の歴史と文化を築いてきた諸民族と漢族との、古くからの交流によって形成されてきた。この授業では、民族の多様性を紹介するとともに、20世紀以降、国家統合を進めるなか、各少数民族社会において生じた変化を通して、中国における国家と民族集団との関係、民族間関係、民族意識、民族文化の現状などを紹介する。

【到達目標】

「民族」をキーワードにして中国を読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、中国における民族集団とその文化の多様性について論じ、後半では、政治的統一性と文化的多様性との折り合いのつけ方に主眼を置いて論じる。授業の進め方は講義を主体とするが、テーマごとに映像資料を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	多民族国家中国を概観、授業および授業外学習の説明
第2回	民族文化の多様性（1）	森林地帯の狩猟民オロチン族の伝統と現状
第3回	民族文化の多様性（2）	草原地帯の遊牧民モンゴル族の伝統と現状
第4回	民族文化の多様性（3）	シルクロードの民ウイグル族の伝統と現状
第5回	民族文化の多様性（4）	西南中国山の民イ族の伝統と現状
第6回	民族文化の多様性（5）	照葉樹林の民タイ族の伝統と現状
第7回	前半のまとめ	前半のまとめとレスポンスシートへの応答
第8回	国家と民族（1）	進化論・人種観と民族政策
第9回	国家と民族（2）	メディアにおける民族表象
第10回	国家と民族（3）	民族エリートとエスニック・シンボル
第11回	国家と民族（4）	国民教育と民族教育
第12回	国家と民族（5）	観光文化と民族文化
第13回	チベット問題の読み方（1）	民族問題の分析の視点
第14回	チベット問題の読み方（2）	関係報道の読解のコツ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の理解度を測るために、授業支援システムを使って出されるクイズに回答する。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

末成道男・曾士才編『世界の先住民—ファースト・ピープルの現在—01 東アジア』明石書店 2005年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。レポート課題は事前に説明するが、評価の基準は主に授業内容の理解度である。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

私語によって周りの学生が迷惑を蒙らないように、円滑な授業運営に努めたい。

【Outline and objectives】

This course deals with ethnic diversity in China, especially focusing on the changing lifestyle and values of them under the nation-state of China. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about ethnic minorities in China, and also to be able to evaluate the relationship between ethnic diversity and national integration in China.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※ 2020.04.18 追記：オンライン授業開始に伴い、授業計画や成績評価が一部変更になる可能性があります。詳しくは、学習支援システムを確認してください。

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

※ 2020.04.20 追記：授業開始日は4月23日です。授業計画の変更などは、学習支援システムでその都度連絡します。

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。

14 まとめ

授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・木村英樹 2017『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019『やさしくくわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・劉月華 他 2019『实用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・朱德熙（著）、杉村博文・木村英樹（訳）1995『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

※ 2020.04.20 追記：オンライン授業実施に伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。期末レポートを50%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を50%として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）がおり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ばない「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

LANc300GA

中国の文化Ⅴ（中国語と日本語）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、中級段階に進んだ際に、難易度の高い中国語の意味を取り違えたり、中国語作文において間違っただけの表現を使った経験がある人は多いだろう。また、留学先で中国人日本語学習者の日本語に触れた時、その日本語が不自然だと思いがちながらもその理由をうまく説明できないという経験をした人もいるかもしれない。本授業では、このような誤用例にスポットをあて、なぜそのような誤用が起きるのか、どのような表現にすれば適切な中国語／日本語表現になるのかを的確に分析できる力を養う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 中国語／日本語学習者の誤用例の検討を通じて、その原因を自分なりに説明できる。
- (2) 関連する論考や資料の講読を通じて日中両言語の文法的諸特徴を適切に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	動詞関連表現 1	中国語／日本語のアスペクト表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
3	動詞関連表現 2	中国語／日本語の助動詞、副詞的表現、否定表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
4	形容詞関連表現 1	中国語／日本語の形容詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
5	形容詞関連表現 2	中国語／日本語の比較表現に関する誤用例の分析と考察を行う。
6	名詞関連表現 1	中国語／日本語の名詞、数量詞に関する誤用例の分析と考察を行う。
7	名詞関連表現 2	中国語／日本語の連体修飾に関する誤用例の分析と考察を行う。
8	補語 1	中国語の結果補語、方向補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
9	補語 2	中国語の可能補語、数量補語に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
10	様々な構文 1	中国語の把構文、受身文、使役文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
11	様々な構文 2	中国語の存現文、是…的構文に関する誤用例と関連する日本語表現の分析と考察を行う。
12	日本語と中国語の表現論的特徴 1	日本語と中国語の表現論的相違（相対的表現と絶対的表現など）に関して考察する。
13	日本語と中国語の表現論的特徴 2	日本語と中国語の表現論的相違（言語と文化など）に関して考察する。
14	まとめ	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

・大石智良 他 2010 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
・相原茂 他 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同書社
・木村英樹 2017 『中国語はじめての一步 [新版] (ちくま学芸文庫)』東京：筑摩書房
・三宅登之 2012 『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
・守屋宏則 他 2019 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店
・寺村秀夫 1982, 1984, 1991 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』東京：くろしお出版
・寺村秀夫 1992, 1993 『寺村秀夫論文集Ⅰ, Ⅱ』東京：くろしお出版
・劉月華 他 2019 『实用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
・朱德熙 (著) 杉村博文・木村英樹 (訳) 1995 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 50%、平常点（誤用例分析への取り組み状況や考察内容、発表・質疑応答内容など）を 50%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・本授業は、誤用例の分析を手がかりに、日中両言語の諸特徴を考察する授業である。そのため、会話等を学ばない「語学の授業」とは性質が異なる。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire the basic skills of contrastive study of Chinese and Japanese. Especially, through analyzing various misuses of Japanese and Chinese, we will try to explain why learners took the mistakes and consider how to correct them.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読み解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

- *中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯
- *中国古典を現代語訳で読むときの注意点
- *中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

※4月25日(土)の第1回を4月28日(火)に変更して、学習支援システムによる授業を開始します。

※オンライン授業による授業内容の変更は学習支援システムで適宜お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いをを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）40%、期末試験60%で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀初め、中国でも言文一致運動（「文学革命」）が提唱され、「近代文学」が誕生します。中国近代文学は、近代以前の文学のあり方をどのように変革しようとしたのでしょうか。またそれは、欧米や日本の近代文学とどのような点で共通し、どのような点で異なっていたのでしょうか。本授業では、そうした問いを通して、中国近代（社会・文化）の歩みを文学の視点から考えます。

【到達目標】

中国近代文学とその歴史的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国近代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	中国「近代文学」の変革を考える前提として、近代以前の中国文学のあり方についてお話しします
2	近代文学の誕生 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の誕生 2	魯迅「狂人日記」
4	近代文学の誕生 3	魯迅「阿 Q 正伝」
5	近代文学の誕生 4	周作人と日本
6	新世代の作家たち 1	文学研究会
7	新世代の作家たち 2	創造社
8	近代中国のモダニズム 1	新月社
9	近代中国のモダニズム 2	新感覚派
10	1930年代、注目すべき作家と作品 1	茅盾「子夜」、巴金「家」ほか
11	1930年代、注目すべき作家と作品 2	沈從文「辺城」ほか
12	解放区の「人民文学」	「文芸講話」と趙樹理「小二黒の結婚」
13	淪陷区の文学	張愛玲「傾城の恋」
14	おわりに	中国近代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ2時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995 年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011 年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%

コメントペーパー・平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

桑島 道夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1949 年「新中国」建国後から現在までの文学を振り返ります。中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾などの文学を含みます。

【到達目標】

中国現代文学とその時代的・社会的な背景への認識を深めるなかで、中国現代の社会と文化を理解する重要な手がかりを獲得していただければ、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の節目節目で作品を配布し、課題を出します。履修者は課題に沿って作品を熟読したうえで授業に出席してください。

授業でコメントを求めることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせてコメントペーパーに記入し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに——中華人民共和国建国後の政治と文学	胡風批判、反右派闘争ほか
2	文化大革命	白毛女の表象——民間伝承、集団創作歌舞劇、映画、そして革命現代京劇へ
3	みずからの言葉を取り戻す文学者たち	1970 年代の傷痕文学から新時期文学へ
4	中国的な不条理の表現——モダニズムの復活	王蒙「胡蝶」、高行建「ある男の聖書」、残雪「黄泥街」ほか
5	土着の習俗や民間伝承を取り込む意味——ルーツ文学派	莫言「赤い高粱」
6	もの言う農民作家	閻連科「人民に奉仕する」「丁庄の夢」ほか
7	中国の前衛作家群像——先鋒派	余華、蘇童、格非ほか
8	女性が自己を語るの意味——女性作家の作品に表現された内面 1	鉄凝「大浴女」
9	女性が自己を語るの意味——女性作家の作品に表現された内面 2	林白「たったひとりの戦争」、陳染「プライベートライフ」
10	女性が自己を語るの意味——女性作家の作品に表現された内面 3	衛慧「上海バイビー」、棉棉「上海キャンディ」、アニー・バイビー「さよなら、ピピアン」「蓮の花」
11	「80 後」（80 年代生まれ）の青春小説	韓寒「三重の門」、郭敬明「悲しみは逆流して河になる」
12	香港文学	李碧華「ルージュ」「さらばわが愛——霸王別姫」ほか
13	台湾文学	李昂「夫殺し」ほか
14	おわりに	中国現代文学の普遍性と特殊性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおいてください。また、授業後に関連する課題をこなして（調べて）もらうことがあります。それぞれ 2 時間程度でしょうか。

【テキスト（教科書）】

随時配布。

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会、白帝社、1995 年）、『中国語圏文学史』（藤井省三著、東京大学出版会、2011 年）、『「規範」からの離脱——中国同時代作家たちの探索』（尾崎文昭編、山川出版社、2006 年）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%

コメントペーパー・平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course introduces contemporary Chinese literatures. The range covers PRC, Hong Kong, and Taiwan.

LIT300GA

中国の文化区（中国俗文学）

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせる。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料を授業用の専用 web サイト fixi を通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、準備学習の資料と授業で使用使用するスライドを PDF ファイルとして fixi にアップしていく。

【参考書】

各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80 %）
- ②期末レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多く、教室が狭いとの意見が寄せられたため、今年度は大きめの教室に変更することにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

【Outline and objectives】

Understanding how the Chinese culture influenced the development of the Japanese culture.

How Kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries.

How Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries.

How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries.

When paper and printing were invented and how they changed the world.

How Chinese Popular literature was born and influenced the Japanese literature?

HIS200GA

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮半島は、日本にとって地理的、歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域です。この授業では、朝鮮半島の文化や歴史についての基礎事項を学びます。東アジアにおいて、中国の影響を受けつつも、独自の文化と歴史を形成し、さらには日本へ大きな影響を与えてきた朝鮮半島の風土や独自性について、常識ともいべき基本的な知識をひとつお身につけることを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、その上で各項目についてみていきます。朝鮮半島と日本とのあいだの文化的影響や共通点に着目するとともに、あることがらについて、日本と朝鮮半島とのとらえかたの相違点などにも注目して学びます。視覚資料をあわせてみながら、理解を深めます。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つです。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入/朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百濟・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮 (王宮の再建から王妃虐殺事件まで) ・徳寿宮 (大韓帝国の近代) ・昌徳宮 (最後の国王、植物園、動物園)
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労働動員

8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族 ・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成 ・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明 (歴史の再評価)
9	1960 年代	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女 ・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
10	1970、80、90 年代	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン ・期末試験
11	朝鮮沿岸漁業の百年	
12	歴史の和解とは	
13	世界のコリアン・韓国の外国人	
14	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回プリントを作成して配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』(平凡社) 2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』(明石書店) 2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』(青木書店) 2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』(明石書店) 2013 年

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。小テスト及び課題の提出で評価する方針である。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回プリントを配布するので、学期中の配布物をきちんとまとめてファイルリングをすること。

【その他の重要事項】

SA 韓国2年生はかならず受講してください (韓国人に「こんなことも知らない?」と驚かれないように)。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

ARSb300GA

ロシア・中央アジアの文化

油本 真理

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中央アジアの過去と現在について、特にロシアとの関係性に注目して学ぶ。

【到達目標】

(1) ロシアおよび中央アジア諸国の歴史と現状に関わる様々な事項を説明できる。(2) ロシアと中央アジアの類似点及び相違点について自分なりに考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では主に近代以降の歴史を振り返ったのち、文化と社会に関わる様々なテーマを取り上げて検討を加える。また、ロシア・中央アジアをめぐる国際関係についても考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の分析視角
2	中央アジア地域の概要	民族・宗教・文化
3	ロシア・中央アジアの歴史①	帝政期
4	ロシア・中央アジアの歴史②	ロシア革命
5	ロシア・中央アジアの歴史③	ソ連時代
6	ロシア・中央アジアの歴史④	体制転換とその後
7	ロシア・中央アジアの現在①	国家と社会
8	ロシア・中央アジアの現在②	市場と社会
9	ロシア・中央アジアの現在③	宗教
10	ロシア・中央アジアの現在④	家族・ジェンダー
11	ロシア・中央アジアの現在⑤	ナショナリズム
12	ロシア・中央アジアと世界①	旧ソ連圏内の国際関係
13	ロシア・中央アジアと世界②	対米欧・対中関係
14	まとめと確認	講義内容のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前にアップロードする。

【参考書】

小松久男（編）『世界各国史 4 中央ユーラシア史』山川出版社、2000年。
宇山智彦・樋渡雅人（編）『現代中央アジア 政治・経済・社会』日本評論社、2018年。

湯浅剛『現代中央アジアの国際政治 ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は2020年度が初年度となるため該当しない。

【Outline and objectives】

This course aims to gain a good understanding of the history and various current affairs concerning Central Asia. Special attention will be paid to its relationship with Russia. After reviewing the modern history of Central Asia, we will explore various key topics regarding the culture and society of the region. We will also consider the international relations surrounding Central Asia.

AR5b300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きすぎに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアに向かう予定の2年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレビューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視覚的資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとてもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。なお、春学期は遠隔授業の実施に伴い、毎週、レジュメを授業時間までにアップし、視聴すべき映像、動画の URL を提示するので、次週までに必ずこれらを視聴しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教／日本と東欧の関係の一断面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ビクニック事件の映像を鑑賞。
第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説。映像で紹介。
第4回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土／世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。

第7回 ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって

伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイド作品を鑑賞しながら検討。

第8回 ポーランド：映画と文学をめぐって

ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンケヴィチ、シュルツ、ミウォシユ、シンボルスカ、レムラ作家や詩人を紹介。

第9回 チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係

被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。

第10回 チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に

プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。

第11回 チェコ：文学と映画をめぐって

プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、プラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリヤ、愛のプラハ』を紹介。

第12回 チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界

チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くバヴァートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。

第13回 ソ連・ロシア：歴史概観

被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。

第14回 まとめ

これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。春学期は遠隔授業となりますが、視聴すべき映像や動画の URL を学習支援システムにて提示しますので、必ず視聴すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を学習支援システムで配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。授業開始日は4月27日（月）、15時～ 学習支援システムにて。

【学生の意見等からの気づき】

大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、何よりも皆さんの協力に期待します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process we will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

ARSA300GA

ドイツ語圏の文化 I

林 志津江

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近現代ドイツの歴史と文化】

ドイツ語圏のうち、主に近現代のドイツとオーストリアを扱います。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。ドイツ帝国の成立から二度の大戦、東西冷戦と分断国家の成立、ドイツ再統一とその後に至る歴史を、文化と芸術を通じて概観します。

【到達目標】

第1の目標は、近現代ドイツ語圏の文化と歴史に関する理解を深めるとともに、抽象的概念や文化に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。第2の目標は、アイデンティティの実体や困難に対する思考・反省能力の涵養です。「ドイツっばい」ものの不確かさと同程度には「日本ならでは…」の正体はあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの価値とその面白さを、「ドイツ語圏」を通じて体験してみてください。第3の目標は、表象文化や芸術の形式分析を通じて、抽象的な議論になれることです。文化現象を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

(4月20日修正)

授業開始日：4月23日

*4月30日以降3回程度、「明治期日本の知識人がドイツで学びもたらした衛生学と細菌学」（日本の西洋医学受容史）に内容を変更します。

*以後、授業内容・方法の変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。

*Google Classroom をツールとして使用する可能性があります。

19世紀末～20世紀のドイツ語圏の文化現象・表象芸術を、時系列に沿って扱います。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、参加者が相互に授業内容の理解を深める機会とします。各授業後には一定量のコメント（小レポート）を書き提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	「国歌」を歌う — 「ドイツ人」としての誇り?!	ハイドン『弦楽四重奏曲第77番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランスを守り給え」（1797年）、H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841年）
第3回	歴史を伝える絵画 — 都市化するベルリン	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947年）／『サンスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）／『鉄匠延機工場』（1872-1875年）
第4回	揺れるオーストリア — ヴィーンのワルツ・ビジネス	「父と息子の確執」? J. シュトラウス2世『青き美しきドナウ』（1867年）、ヴィーン工房と分離派
第5回	「若者の時代」の到来 — ドイツ発「イズム」の誕生	E.L. キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）／『ポツダム広場』（1914年）ほか
第6回	戦争と「反芸術」 — 言葉の無力をめぐる音	H. バル『ダダ宣言』（1916年）、K. シュヴィッターズ『メルツ絵画』（1919年～）ほか
第7回	審美力から機能主義へ — 「バウハウス」の誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919年）／デッサウのバウハウス校舎（1925年）、O. シュレンマー『トリアディック・パレエ』（1922年）

第8回	ハイパーインフレと虚無の後で — 機械の時代の芸術	O. デュックス『大都会』（1927/28年）、C. シャート『ソーニャ』（1929年）、A. ザンダー『20世紀の人々』（1929年）
第9回	ナチスの権力掌握 — ダダと表現主義とバウハウスの行方	バウハウスの終焉とニュー・バウハウス、「頽廃芸術展」「大ドイツ芸術展」（1937年）
第10回	余暇を支配する — 「ユダヤ系」の人々の行方	「私は音楽がやりたいだけなので」、フルトヴェングラーと近衛秀麿のベルリン・フィル
第11回	ドイツにモダニズムを取り戻す — 「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」（アドルフ）	第1回～第5回ドクメンタ、J. ボイス『7000本の樫の木』（1982-1987年）ほか
第12回	経済の奇跡と「過去の克服」 — 「お父さんとお母さんはナチだったの?」	G. リヒター『1977年10月18日』（1989年）／ケルン大聖堂のステンドグラス（2006年）ほか
第13回	闘争の音・ベルリンの壁 — 「聴いてはいけない音楽」そしてクラブカルチャー	Th. プルスィヒ『太陽通り』（1999年）、ベルリンの「ラブ・パレード」（1989-2010）
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読み、次授業に備えて準備すること。
・首都圏近郊の美術館（「キャンパス・メンバース」を活用）等で実際に様々な作品に触れること。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
・宮田真治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加と貢献・小レポート（リアクションペーパー）（50%）
・学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era: It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

LIT200GA

フランス語圏の文化Ⅲ（文学）

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世時代から現代にいたるまでのフランス語圏の文学の概説。

【到達目標】

フランス語圏の文学の基礎知識を深める。

さまざまな仏文学潮流の代表的な作品の抜粋を読み、分析研究をする。十九世紀から非常に盛んになった大衆文学の研究も主に探偵・ミステリー小説を通して行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

豊かなフランス語圏の文学の概説をするのは容易ではないが、いくつかの名作の抜粋を通して、この探検を試みる。

フランス語圏の文学の様々な潮流やその歴史的な背景の概説も必要であるが、なるべく原文に没入し解読を試み、その芸術的な喜びを味わう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中世の文学	授業紹介 フランス文学の最初の作品
②	ルネッサンスの文学	詩とエッセー
③	十七世紀の文学	寓話詩と芝居
④	十七世紀の文学	芝居と小説
⑤	十八世紀の文学	エッセーと小説
⑥	十八世紀の文学	小説と芝居
⑦	十九世紀の文学	エッセーと小説
⑧	十九世紀の文学	小説と詩
⑨	十九世紀の文学	詩と芝居
⑩	二十世紀の文学	エッセーと小説
⑪	二十世紀の文学	小説と詩
⑫	二十世紀の文学	詩と芝居
⑬	二十一世紀の文学	小説
⑭	現代大衆文学	ミステリー小説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書は限定するので（莫大な読書量にはならない）、あらかじめ

指定された箇所はしっかり読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、2時間～を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示

【参考書】

開講時指示

【成績評価の方法と基準】

1) フランス語や日本語による発表：50%

2) 期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

この授業はフランス語または日本語で行う（英語も可）。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが、パソコン、録音機の持参推奨

【Prerequisite】

一定のレベル（2年間学習済、DELTA A2以上）の仏語学力が望ましい。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

Overview of French literature from middle-age to 20th century. Some representative works from each period will be studied closely.

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

佐々木 直美

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。ラテンアメリカと総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちている。本授業では、特にインカ帝国が栄えたペルーの歴史や文化を中心的なテーマに据えながらも、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得て、各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。

なお、受講生の関心に応じて各回のテーマについては変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「インカ王国の生成」 「古代帝国の成熟と崩壊」	『インカとスペイン帝国の交錯』1～2章の輪講と解説
3	「中世スペインの共生する文化」 「排除の思想 異端審問と帝国」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』3～4章の輪講と解説
4	「交錯する植民地社会」 「世界帝国に生きた人々」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』5～6章の輪講と解説
5	「帝国の内なる敵 ユダヤ人とインディオ」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』7章の輪講と解説
6	「女たちのアンデス史」 「インカへの欲望」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』8～9章の輪講と解説
7	「インカとスペインの決別」	テキスト『インカとスペイン帝国の交錯』10章の輪講と解説
8	ラテンアメリカの絵本	ラテンアメリカ出身作家の絵本を通じて、その背景にある歴史と文化を学ぶ。
9	ラテンアメリカの文学	ラテンアメリカ出身の作家と作品について紹介する。

10	ラテンアメリカの食文化	ラテンアメリカの食の歴史をたどりながら、その多様性について学ぶ。
11	ラテンアメリカの音楽	ラテンアメリカの音楽について、音源や映像を活用しながら学ぶ。
12	ラテンアメリカの映画（キューバ）	キューバの映画を題材に、その背景について学ぶ。
13	ラテンアメリカの映画（チリ）	チリの映画を題材に、その背景について学ぶ。
14	ラテンアメリカの映画（メキシコ）	メキシコの映画を題材に、その背景について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。またAV資料の視聴が指示された場合にも必ず従い、事前に準備しておくこと。

復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』講談社、2008年。
- ハイロ ブイトラゴ(著), ラファエル ジョクテング(イラスト), 『エロイサと虫たち』 さえら書房、2011年。
- メネナ・コティン(著), ロサナ・ファリア(イラスト), 『くろはおうさま』 サウザンブックス社、2019年。

【参考書】

- 寺尾隆吉『ラテンアメリカ文学入門 - ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで』中公新書、2016年。
 - 高橋均、網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年。
- その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加度：30%、プレゼンテーション：20%、学期末レポート：50%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。AV資料を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPCは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の2回ずつ（合計4回）は、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて 概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴史状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第14回 総括

- ・本授業の全体のまとめ
- ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
- ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
- ・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

- ・各分野の参考書は、各授業において提示する。
- ・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』エリアスタディーズ・72巻、明石書店、2009年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40%
②期末レポート：60%
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内容について、より多様性が富んだものにする。
- ・質疑応答の時間を出来るだけ設けるようにする。

【その他の重要事項】

- ・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
- ・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありうる。

【Outline and objectives】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

LANs300GA

カタルーニャの文化 I (言語 A)

ヴィラ・ラケル

配当年次/単位：3~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】

簡単なカタルーニャ語会話ができるようになります。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から (スペイン語やフランス語同様に) どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月23日 (木)

授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介一名前を伝える [カタルーニャ語とは?]	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la... カタルーニャ語とは?
2	アルファベットと発音	アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字0-100 年齢、電話番号を伝える	数字 0-100 Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介-出身を伝える	国の名前/国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 [カタルーニャ語の歴史]	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史 [Historia de la llengua]
6	自己紹介-趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介-職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする [現在のカタルーニャ語]	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介-お住まいの話をする	住所 On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
11	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima. Quina hora és?
12	時間を尋ねる	今何時ですか A quina hora ...? 何時に... 日常生活の話

13 日常活動

Activitats quotidianes.
Què fas normalment?
普段は何をしていますか。
期末試験

14 試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」(白水社)
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%
宿題提出 10%
小テストと期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的の小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II」の受講もお勧めです。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

ヴァイラ・ラケル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャの文化Ⅱはカタルーニャ語についての授業です。カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】

簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになります。また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活の話をする	日常生活 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩
2	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	物体	Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
4	買い物	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物の会話
5	天気のお話	Demà plourà. 天気のお話 【未来形】
6	レストランで I	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する
7	レストランで II	Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER、VOLER 動詞 命令形
8	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現 Haver de その他の表現：Passa, passa. Seu, seu.
9	調子、感情を伝える I	Té mal de coll. 喉が痛い。
10	調子、感情を伝える II	Ha tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
11	自分の過去の話をする	生年月日 数字 100～ 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
12	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema.La pel·lícula no em va agradar gens.
13	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をすること。

カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにてできるだけ触れるようにしてください。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）

「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat

「Passos 1」 Octaedro Editorial

www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」と一緒に受講することを勧めます。

進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それもちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものも少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ（ジュゼップ）・カレラスやムンセラ・カバリエ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の80%がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがありません。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思えます。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅲでは、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化をやります。カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月23日（木）

授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができますと思います。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民謡; カタルーニャの音楽家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが分かるものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田澤耕（著）2013年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
プリントなどを授業中にも渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）
田澤耕（著）2013年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】

発表をもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化Ⅲ かⅣ どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでの カタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independetismo e identidat.
4.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかる カタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 La sociedad catalana (movilidad)	社会 - Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかる カタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかる カタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語 La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表

14.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表
-----	--------------------------------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

平常点 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化ⅢかⅣどちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですよ。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture, paying special attention to the latest news.

ARSk300GA

英語圏の文化 I (文化史)

宇治谷 義英

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世イギリス演劇の事情について、基本的な情報を学んだ後、英語で書かれた論文を読むことで、各時代状況の中で、英米のみならず日本などの異文化圏においても、それらの演劇作品がどのように変化をして大衆に受け入れられてきたか、そしてその今日性について、他者とのディスカッションもおこなうことによって、学生一人一人が確認していく。

【到達目標】

異文化間における交流、つまり異文化間コミュニケーションを図るためには、異なる文化的背景を持った者同士が、お互いの文化を理解し合うことが必須である。そして、異なる文化的背景を持つ他者の文化的生産物 (cultural products) を受容、理解するためには、その異文化間に横たわる文化的境界を越境するもの、つまり架け橋のような要素の存在が重要である。

本授業では、時代を超えて英語圏を代表する作家である William Shakespeare の演劇を中心とした近世イギリス演劇を、「異文化圏間」、「異時代間」を縦横に巡る「越境性」、「今日性」をキーワードに、変化する時代、そして異文化圏、特に日本の文化と関連させて把握できるようになること、そして演劇のみならず、時代の変革期における大衆文化と社会を関連づけて考えられるようになることを目指す。

さらには、英文で書かれた関連する論考を自分で読み解くこと、また特定の Shakespeare 作品の「越境性」「今日性」について受講生同士、そして外国人等との異なる文化的背景を持った人とのディスカッションを通して、自身による異文化の「越境」を体験することも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/24 正式授業開始です

基本的な事項の講義の後、あらかじめ割り当てられた受講生に劇作品および論文について発表をしてもらう。毎回アクションペーパーの提出は必須とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「演劇から始める異文化理解」	その目的、今日まで廃れない理由について、日本における歌舞伎、新劇、小劇場文化、同時に各受講者の身近な演劇体験と比較しながら考察する
第 2 回	「劇場」	近世イギリスの劇場と現代との違い、そして日本の劇場との類似性について
第 3 回	「テキスト」	近世イギリス演劇の上演台本の事情と現代との違いと類似性について
第 4 回	「文化と社会」	文化的生産物 (cultural products) から当時の社会状況を割り出す意義
第 5 回	「近世イギリス演劇の今日性」	文化的生産物 (cultural products) が持つ、異文化間、異なる時代と場所を越える要素を見つける方法について
第 6 回	異文化間交流の実体験 (1)	事前に決めた Shakespeare 作品に関して、第 1 回から 5 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える
第 7 回	論文の解説 A(1)	Shakespeare の「越境性」について、劇団と劇場から考える
第 8 回	論文の解説 A(2)	Shakespeare の「越境性」について、演劇性から考える
第 9 回	論文の解説 A(3)	Shakespeare の「越境性」について、大衆及び社会秩序との関連性から考える
第 10 回	論文の解説 A(4)	Shakespeare の「越境性」について、メディアの問題から考える

第 11 回 論考の解説 A(5)

第 12 回 論考の解説 B(1)

第 13 回 論考の解説 B(2)

第 14 回 異文化間交流の実体験 (2)

Shakespeare の「越境性」について、文学作品の観点から考える

文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について、第二次大戦前から 1960 年代以前の Shakespeare 作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える

文化的生産物 (cultural products) の異文化圏における受容の課題と意義について、1960 年代以降の

Shakespeare 作品を題材にした米ブロードウェイ・ミュージカルから考える

事前に決めた Shakespeare 作品に関して、第 7 回から 13 回までの授業を踏まえて留学生や日本に滞在する外国人とディスカッションをおこなうことによって、お互いの文化的背景の違いが作品の受容方法に与える影響について実際に体験する。そこから受講生自身も含めて、異文化間を「越境」することの意義とは何かについて改めて考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義形式の授業では内容に関して毎回課題を与えられるので、週週提出する。論考を扱う授業では前もって当てられた範囲について発表できるように準備する。グループ発表では前もってテーマを決めてグループ内で準備しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

The Cambridge Companion to Shakespeare and Popular Culture, ed. Robert Shaughnessy (Cambridge: Cambridge University Press, 2007).

The Cambridge Companion to English Renaissance Drama, eds. A.R. Braunmuller, Michael Hattaway (Cambridge: Cambridge University Press, 1990).

【成績評価の方法と基準】

オンライン開講になったので成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

リアクションペーパー等課題の提出およびプレゼンによる平常点 (30%) と試験 (70%)。なお、教員による講義中および受講生による発表中の私語、やむを得ない場合を除く教室の出入りは厳禁。

【学生の意見等からの気づき】

担当した文献の英語について、教員から前もってある程度の道しるべ的な助言を与えるようにしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about early modern English drama and how it was/is received through reading academic criticism and discussion with others.

ARSk300GA

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

栗飯原 文子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含む。したがって、英語圏世界について学ぶことは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視点から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

- ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
- ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
- ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更や授業方法については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月24日（金）。この日までに具体的な進め方を学習支援システムで案内するので確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。 英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第2回	第一次世界大戦後の世界ー民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第3回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった1927年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第4回	第二次世界大戦後の世界ー独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第5回	アジア・アフリカ会議	1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第6回	アフリカ諸国独立	1957年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第7回	非同盟諸国運動	1961年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第8回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第9回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第10回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第11回	構造調整の時代ー第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。

- 第12回 映画のなかの第三世界 映画の全編を鑑賞し、旧植民地が直面する現代的な問題を学ぶ。
- 第13回 現代の諸問題と全体の総括 現在の英語圏および旧植民地地域について概観し、これまでの総括をおこなう。
- 第14回 試験と解説 全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に変更となるため、成績評価の方法と基準は次の通りに変更する。

- ・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60%）
- ・期末課題（40%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。

受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第 1 回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第 2 回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第 3 回	怖いものはなに	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者における恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第 5 回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から 20 世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第 6 回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。
第 7 回	時間、都市、産業化	19 世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダニズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。
第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。

第 9 回 「黒人」というステレオタイプ

白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考察する。

第 10 回 観念としての「黒人」は誰のものか

20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。

第 11 回 メディアと消費文化の拡張

アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。第 11 回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。

第 13 回 ジェンダー観の変容

アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20 世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する。併せて、彼女たちの作品と 20 世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。

第 14 回 まとめ

講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。

また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003 年
 亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006 年
 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 % とする。
 なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同様、映像資料も用いる。
 例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on other cultural fields such as picture, film, and music.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

菊池 かおり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀から20世紀の変わり目に特有の「不安」——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蠻から文明への逆侵略の恐怖——にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 19～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	退化の恐怖—『ジキル博士とハイド氏』を中心に（『タイムマシン』）	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』	演習
4	小説中盤 『ジキル博士とハイド氏』	演習
5	小説後半 文明と野蠻—『闇の奥』	演習
6	小説前半 『闇の奥』	演習
7	小説中盤 『闇の奥』	演習
8	小説後半 女性化、逆侵略の恐怖— 『灯台へ』を中心に（『四つの署名』）	演習
9	『灯台へ』	演習
10	小説中盤 『灯台へ』	演習
11	小説後半 文明とは—『オーランド』	演習
12	小説前半 『オーランド』	演習
13	小説中盤 『オーランド』	演習
14	小説後半 <まとめ> 19世紀から 20世紀、そして21世紀 へ	演習、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。
指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。
具体的な方法については、第一回授業で説明する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、使用テキストも変更する。詳細は、授業開始日に学習支援システムで提示するが、以下（1）から選択する可能性が高い。

(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。

- ① 田内志文訳『ジキル博士とハイド氏』角川文庫、2017、
- ② 黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009、
- ③ 御興哲也訳『灯台へ』岩波文庫、2004、
- ④ 杉山洋子訳『オーランド』ちくま文庫、1998、

(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久朗編集『イギリス文学入門』三修社、2014。
その他、随時紹介予定。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

“Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will read some representative British literary works published around the turn of the 20th century analytically and critically, and also be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方（構造主義）。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇（品詞論）。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本来水曜日の授業であるため、本科目の授業開始日は2020年4月22日です。

履修者の数、知識のレベルなど未知数が多いため、現時点で具体的なことをすべて決定することはできない状況にあります。現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 当面の間は学習支援システムを用いて学習に必要な資料を配布していきますが、質問、コメント等を受け付けることによって可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思えます。
2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。

- 8 英語の文法について（1） 英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
- 9 英語の文法について（2） 英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
- 10 英語の文法について（3） 英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
- 11 英語の文法について（4） 英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
- 12 英語の文法について（5） 英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
- 13 英語の文法について（6） 英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
- 14 まとめ～今後につなげて これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

- 授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・加島祥造(1976).『英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載。】
 - ・加島祥造(1983).『新・英語の辞書の話』。東京：講談社【のちに講談社学術文庫に収載。】
 - ・竹林滋・齊藤弘子(1998).『改訂新版 英語音声学入門』。東京：大修館書店。
 - ・中島文雄(1991).『英語学とは何か』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
 - ・田中菊雄(1992).『英語研究者のために』。東京：講談社【講談社学術文庫】。
 - ・竹林滋(1991).『英語発音に強くなる』。東京：岩波書店【岩波ジュニア新書】。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。（プロジェクトについては、課さないこともありえます。その場合は、最終試験 60%、平常点 40%とします。）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の Structure of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 初回授業に必ず参加してください。
4. かなり速いペースで進みますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期ですので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English should be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) immediate constituent analysis, phrase structural analysis

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

齊藤 雄介

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語になっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業では、テキストを読みながら、演習方式で英語の歴史について学んでいきます。履修者は、必ずテキストを読んでください。授業では、教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり、付加的な情報を加えたりして、履修者の参考になるべく努めます。その後、復習をして固めれば、理解力が高まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English - Vowel Sounds
5	OLD ENGLISH 2	- Consonant Sounds - Consonant Sounds（続き） - Word Stress - Gender Not Based on Meaning - Case
6	OLD ENGLISH 3	- Case（続き） - The Development of the Personal Pronouns - The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns - Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	- Verbs - Word Order
8	OLD ENGLISH 5	- The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels - Spelling Practices - Changes in Stressed Vowels - The Blurring of Older Inflectional Distinctions
10	MIDDLE ENGLISH 2	- The Blurring of Older Inflectional Distinctions（続き） - Loan Words - French - Latin - Greek - Eastern Languages

11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing（続き） - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century（続き） - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、まず、テキストを読んでくることから始めてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、を意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英文パイルズ『英語の歴史』（1973）。この本はずいぶん古い本ですが、英語で読めるものとしては、それなりにいい本であると思います。元来、米国の高校生向けの教科書であるため、発音表記が分かりにくかったり、最近の英語についての説明がなかつたりするのは欠点ですが、Mode までの説明はともよくまとまっています。

【参考書】

授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

- ・北村達三（1980）。『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。）
- ・寺沢浩（2008）。『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社【中公新書】。
- ・中尾俊夫、寺島廸子（1988）。『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。
- ・ブラッドリ、H. 寺澤芳男訳（1982）。『英語発達小史』。東京：岩波書店【岩波文庫】。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めます。
2. 本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。
3. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
4. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業です。
5. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身につける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

従って、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
4	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『M. バタフライ』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『M. バタフライ』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」分析
9	ジェンダー論 II	バレエ『シンデレラ』鑑賞、分析
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』鑑賞
11	ジェンダー論 IV	アニメ『シンデレラ』分析
12	ジェンダー論 V	実写版映画『エバーアフター』鑑賞
13	ジェンダー論 VI	実写版映画『エバーアフター』分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

『オリエンタリズム』（上）（下）、サイド、平凡社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（積極的な授業参加）20パーセント
- ・課題（SQ）40パーセント
- ・定期試験 40パーセント

【学生の意見等からの気づき】

板書を多用します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、普段チェックするメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

第一回目の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<< 2020 年 4 月 9 日変更 >>

<< 授業実施方法の変更により、各回の授業は、当面の間、学習支援システムで教材・課題を示し、参加学生は教材を熟読し、課題をワード文書に記載して提出することで行います。

学習支援システムを確認してください。>>

翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。

実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テキストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。

サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。

星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのではないでしょうか。小生意気な小さい大人なのか、めそめそした幼児なのか、元気一杯のわんぱくなのか、テキストに忠実に分析します。日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】

翻訳についての基本的学術用語を理解する。

翻訳の原理と可能性・限界を知る。

私たちが日常的に行っている他言語テキストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

<< 2020 年 4 月 13 日追加 >>

<< 春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とする。授業開始時に用いる教材・課題は、すでに 4 月 7 日に学習支援システムにアップロードしているので、確認すること。>>

翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテキスト実例は、学生による分析に付する。学生による分析レポート提出、そのプレゼンテーションも随時行なう。

1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。

その課題：『星の王子さま』という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	『星の王子さま』という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテキスト分析 シニフィアン・シニフィエ ミニレポート 1	基本概念の説明 1： シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテキスト分析 恣意性 ミニレポート 2	基本概念の説明 2： 恣意性
4	基本概念の説明とテキスト分析 共時的・通時的 ミニレポート 3	基本概念の説明 3： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテキスト分析 間文化性 ミニレポート 4	基本概念の説明 4： 間文化性
6	基本概念の説明とテキスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート 5	基本概念の説明 5： 固有名詞と代名詞

7	基本概念の説明とテキスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート 6	基本概念の説明 6： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテキスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート 7	基本概念の説明 7： 社会制度と翻訳
9	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート 8	基本概念の説明 8： 翻訳と言語変容
10	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と文化変容 ミニレポート 9	基本概念の説明 9： 翻訳と文化変容
11	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート 10	基本概念の説明 10： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテキスト分析 解釈学的循環 ミニレポート 11	基本概念の説明 11： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテキスト分析 複合的テキスト ミニレポート 12	基本概念の説明 12： 複合的テキスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入・用意してください：

1. 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか 1 冊。

2. 加えて、英語、フランス語などのどれか 1 冊。

（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）

毎回の授業に持参してください。

最終レポートでも参照する。

【参考書】

熊田泰章編『国際文化研究への道—共生と連帯を求めて—』彩流社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

<< 2020 年 4 月 13 日追加 >>

<< 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、今後の授業方法確定とともに、改めて定めるが、基本的には、各授業で提出の課題と学期末に課す最終課題によって評価する。>>

毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。

その上で、最後に最終レポートを書く。

ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。
ミニレポート 50 % ・最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを活用して、授業資料を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによって、授業資料を入手すること。

【Outline and objectives】

Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.

In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.

We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as many languages as possible.

When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way?

The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important Begriff "Interculturality".

LIT300GA

日英翻訳論

前川 裕

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より200名を抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】

日本語と英語の本質を実際の翻訳を通じて考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりも各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

毎回、教授のレクチャーと、学生全員による英訳。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義
第2回	俳句の翻訳 「古池や」	発表 イメージを表す日本語
第3回	俳句の翻訳 「荒海や」	発表 イメージと英語のイメージズム
第4回	俳句の翻訳 「夏草や」	発表 短詩形の「戦争文学」
第5回	俳句の翻訳 「おくの細道」I	発表 移動と表現
第6回	俳句の翻訳 「おくの細道」II	発表 多義性と翻訳
第7回	俳句の翻訳 その他	発表 翻訳の技法
第8回	和歌の翻訳 万葉集	発表 「万葉集の世界」入門
第9回	和歌の翻訳 奈良の京	発表 文法と翻訳
第10回	和歌の翻訳 天の香具山	発表 枕詞の英訳
第11回	和歌の翻訳 富士山のイメージ	発表 イメージの極み、その英訳
第12回	和歌の翻訳 万葉仮名等	発表 文字の交流
第13回	和歌の翻訳 山上憶良等	発表 古代文学の国際性
第14回	期末試験・まとめと結論	期末試験・まとめと結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気がある授業だと分りました。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will center on haiku and tanka.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

佐々木 一恵

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。各回ごとに、関連する一次史料の分析を、A4一枚程度のリアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を減らす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。

9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	試験（1）	試験・まとめと解説
14	試験（2）	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに使用しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
アリストター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
ミラ・ズンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（20%）
2. 期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

史料分析の文書を、もう少し少しわかりやすいものにします。

【Outline and objectives】

The course provides a historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

HIS300GA

宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）

江村 裕文

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このところアラブおよびイスラームへの関心が急速に高まってきている。だが、一言でアラブといっても、その内容はそう簡単ではない。ましてやイスラームとなると、さらに複雑である。第一に、アラブは三千年にわたる古い歴史を持ち、古典アラビア文化の華を咲かせた時期があり、それらは西欧文明の一部をさえなしている。第二に、今日のアラビア世界は純粋なアラビア民族ばかりでなく、政治的にアラブと呼ばれるにすぎない民族をも包含している。アラブあるいはアラビアという呼称は時代的にも地域的にも、かなり広い範囲にわたって使われるようになっている。イスラームはアラブのもとで生まれたが、アラビアの領域外に拡大し、今日ではきわめて多数の非アラビア民族のもとで活力を保っている。

本講では、イスラームを、宗教面と世界史の流れから概観したい。

【到達目標】

アラブ・アラビアないしイスラームについて基本的な知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストを使用する。受講者にテキスト内容を報告してもらい、その内容について質問を受けたり、補足のコメントを加えたりして、「イスラーム」全般を取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション・アラビアの国々	授業の進め方の解説、アラビア諸国の紹介
②	イスラームの発見へ・報告箇所の割当	イスラームに関する一般的な紹介、報告箇所の割当
③	「宗教」とは	イスラームに限らず一般的に「宗教」をどうとらえるか紹介
④	イスラームの誕生	テキストの該当箇所の報告と解説（以下同様）
⑤	経典と教義 I	クルアーンの内容の紹介
⑥	経典と教義 II	イスラームの教義の概要
⑦	共同体と社会生活	ウンマの成立とイスラーム社会について
⑧	ハディース	預言者ムハンマドの言行録について
⑨	知識の担い手と国家	ウラマーの位置づけについて
⑩	神を求める道	神秘主義と正統神学について
⑪	スンナ派とシーア派	はじまりと教義上の違いについて
⑫	現代世界とイスラーム	現代のイスラーム世界と、他の、特に西欧世界との諸問題について
⑬	まとめ	まとめ
⑭	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料を参考にして、理解をしておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

小杉泰『イスラームとは何か』講談社現代新書

【参考書】

井筒俊彦氏の（著作集を含む）一連の著作を推薦する。またその他の参考文献等は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点と、レポートあるいは試験の点 60 点、合計 100 点によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「パレスチナ問題」や「アラブの春」「イスラム国」「シリア内戦」「イエメン問題」「エルサレム問題」「アメリカとイランとの関係」等の現在進行中の出来事についても詳しく知りたいという要望がある。それらの問題にも可能な限り触れるようにしたい。

【Outline and objectives】

In this class, we learn ISLAM with a historical and religious approach.

POL200GA

国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

松本 悟

配当年次/単位：1～4年 / 2 単位

旧科目名：国際関係研究 1

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/22の2限(10時40分)を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます(視聴可能期間は授業の2日後の22時までとします)。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。なお、Hoppiiへのアクセスに問題が生じた場合に備えてGoogle Classroomをバックアップにします。第1回授業教材に参加登録の仕方を書いてありますので、万が一に備えて参加登録をしておいて下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム(アプローチ)であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans)のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ (プライベートレジーム)	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

【レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編(2013)『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。→オンライン授業に伴い変更します。詳しくは第1回授業のパワーポイントを参照して下さい。

【参考書】

毛利聡子(2011)『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

第1回授業のパワーポイントで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の議論の時間を確保する。→オンライン授業になったため今年度は難しい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

・「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を取り上げることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 「地域研究」の視点から国際関係を理解できるようになる。
- 「開発と社会・環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
- 「地域研究」や東南アジア半島部の「開発と社会・環境」を論じた論文を適切に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

14回のうち10回程度は演習形式で行う。事前に短い論文等を課題として出し、それをもとに担当者が授業の目的を踏まえて重要だと考えた点とその理由を発表する。それを受けて担当教員が論点を挙げグループ討議・発表を行うとともに、担当教員が関連する短い補足講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方、論点とは何かを説明する。事前に読む課題文献を提示する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	1つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	調査から見た国際関係	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
6	資金源と国際関係	資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える。
7	コモンスと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
8	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える。
9	国境を越える人	メコン地域の越境人身売買について考える。
10	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える。
11	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える。
12	国家間債務の機能	対ビルマODAの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える。
13	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
14	まとめ	解釈学、系譜学、考古学の視点から授業で扱った 이슈を再度検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（フィードバックシートで評価）20%、事前課題文献の理解度（発表で評価）20%、グループ討議への参加度（互評で評価）20%、期末レポート40%。授業内の発表は2-3人1組で行い事前課題文献から導いたこの授業の目的に照らして重要だと思う点とその理由を提示する。1人1回担当。事前課題文献は最初の授業で知らせる。期末レポートでは国際関係と地域研究について論理的な思考を求める。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの課題が難しいという指摘が過去にあったため、2019年度から事前課題文献を用いた授業内討論を導入した。一方で、学生が議論するに値する論点を提示することが難しいため、2020年度は担当教員が論点を示すことにした。

【学生が準備すべき機器他】

事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・事前課題文献についての発表を必ず1回担当するので、第1回もしくは第2回の授業には必ず出席すること。
- ・グループ討議を中心に行う授業であることを認識して出席して欲しい。
- ・必須ではないが、「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究1」を受講していることが望ましい。
- ・メコン河流域国で長年NGO活動をしていた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline and objectives】

What is "Area Studies"? How is it related to international studies? This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

ARSK300GA

人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

宮本 正明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮民族の国外・域外への移動および移動先での処遇・生活あるいは再移動について、日本への渡航者・在住者を対象として考察します。

日本に在住する韓国・朝鮮出身者（以下、在日韓国・朝鮮人）をめぐる現状・課題を考える際には歴史的経緯に関する理解が必要になるという前提のもと、日本の「戦前」・「戦後」の時期にわたる在日韓国・朝鮮人の歴史を学ぶという形になります。

【到達目標】

- ・在日韓国・朝鮮人の歴史に関する基礎的な知識を習得すること。
- ・在日韓国・朝鮮人の現状・課題に関わる情報などに接した時、歴史的経緯をふまえたうえで理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式とし、【授業計画】で設定した個別テーマについて1回あるいは1.5回でお話する予定です。あわせて映像作品の視聴も適宜織り込み、授業内容の補完を図るよう致します。

また、毎回の授業で「コメントシート」の記入・提出をしていただき、可能な範囲でその内容を次回以降の授業に組み込むように努めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の説明をおこない、ついで導入として、在日韓国・朝鮮人の現状を把握するとともに、その存在を呼び表す呼称について考える。
第2回	移動史の概況	19世紀末から20世紀半ばにわたる朝鮮の国外・域外への移動について概観する。
第3回	「戦前」期の在日朝鮮人①	朝鮮から日本本国への渡航をもたらした朝鮮側・日本側の要因について把握する。
第4回	「戦前」期の在日朝鮮人②	日本本国における生活状況について把握する。
第5回	「戦前」期の在日朝鮮人③	日本本国への渡航者・在住者に対する日本社会の認識について、関東大震災時の事態も含めて把握する。
第6回	「戦前」期の在日朝鮮人④	日中戦争・アジア太平洋戦争期における、朝鮮から日本本国への戦時動員について把握する。
第7回	「戦前」期の在日朝鮮人⑤	戦時動員関連で映像作品を視聴する。
第8回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人①	日本の敗戦に伴う日本在留者の移動・残留について把握する。
第9回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人②	日本敗戦直後の時期の帰還者・残留者をめぐる朝鮮側・日本側の認識・処遇を把握する。
第10回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人③	日本政府による法制度の沿革について概観する。
第11回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人④	戦時動員された当事者による補償運動について、軍事動員関係者の活動を中心に把握する。
第12回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑤	朝鮮学校の沿革について概観する。
第13回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑥	朝鮮民主主義人民共和国への「帰国事業」について把握する。
第14回	「戦後」期の在日韓国・朝鮮人⑦	「戦後」期を対象とした授業テーマに関連する映像作品を視聴する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「戦前」期の在日朝鮮人に関連では、樋口雄一『日本の朝鮮・韓国人』（同成社、2002年）・水野直樹・文京洙『在日朝鮮人一歴史と現在』（岩波新書、2015年）・趙景達編『植民地朝鮮—その現実と解放への道』（東京堂出版、2011年）・原尻秀樹・六反田豊・外村大『日本と朝鮮比較・交流史入門』（明石書店、2011年）の該当箇所をご参照ください。

「戦後」期の在日韓国・朝鮮人に関連では、樋口雄一『日本の朝鮮・韓国人』（同成社、2002年）・田中宏『在日外国人（第3版）』（岩波新書、2013年）・在日コリアン弁護士協会編者『裁判の中の在日コリアン』（現代人文社、2008年）・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2002年）をご参照ください。

この授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はありません。毎回、当方で作成・配布する史料プリントを用いて授業をおこないます。

【参考書】

在日韓国・朝鮮人関連の参考文献リストを教場で配布いたしますので、準備学習・復習、あるいは受講中に興味を持たれた個別テーマについての自習に役立てていただければと思います。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートおよび毎回の「コメントシート」を成績評価の資料と致します。

学期末レポートについては基礎知識や歴史的背景をふまえた内容であるかどうかを前提として問題意識・文献調査等の深度に応じて評価を考えると同時に、「コメントシート」からうかがえる受講姿勢や授業内容の把握の度合いを勘案して、成績の判断をさせていただきます。

両者の配分としては、学期末レポート70%、「コメントシート」30%という形でひとまず措置いたします。

【学生の意見等からの気づき】

（当該授業ご担当の高柳俊男先生の代講として当方が臨時で担当いたしますので、フィードバックができません。）

【その他の重要事項】

上記の【授業計画】につきましては、進行の都合により順序の変更やテーマの統合・割愛などがあり得ますので、ご諒承ください。

【Outline and objectives】

This course focuses on the history of Korean residents in Japan.

ARs400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2019年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方がありえます（「ヨーロッパ統合論」「EUの政治と社会」）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（「European Integration」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスを含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

※秋学期になっても遠隔授業が続いていた場合、Google Hangouts Meet などの双方向リアルタイムのビデオ会議を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入

9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画「最後の谷」）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラ 17世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。

【テキスト（教科書）】

授業支援システム上で PDF ファイルのかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末テストは行わない 0%
- ・小テストの受験。授業支援システム上で授業外実施 45%
- ・学生による発表、運営への協力 10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
- ・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識し、NHKの高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材の配布や小テストの受験など、すべてネット上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットの利用に習熟していることが望ましい。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。
- ・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	まとめと試験	13回の授業をまとめた上で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）30%、期末試験50%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
- ・遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第1回もしくは第2回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること。

【Outline and objectives】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

SOC300GA

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査については原則を学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など）を実践できる。
- (3) 研究発表の方法を理解・実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/24の4限（15時）を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む
2	問いと社会調査	研究や調査の前提である問いについて考える
3	ライフストーリー	ライフストーリー調査について実例をもとに学ぶ
4	ライフストーリー構想1	調査協力者の候補とテーマなどを発表し、その妥当性を議論する。調査協力者とテーマを確定する。
5	観察とドキュメント	調査方法としての観察・ドキュメント分析の目的は何か、具体的なケースを考えながら議論する。
6	半構造化インタビュー	半構造化インタビューの実践練習をする。
7	ライフストーリー構想2	先行研究と予備的聞き取り調査をもとに構想を立てて発表・討議する。
8	量的調査のリテラシー	アンケート調査の問題点を事例を挙げながら講義する。
9	観察結果の発表	宿題として課した観察の結果を発表する。
10	ドキュメント分析結果の発表	宿題として課したドキュメント分析の結果を発表する
11	ライフストーリー初稿	宿題として課したライフストーリー調査の初稿をグループで討議する
12	量的調査のリテラシー（グループA）	宿題として課した量的調査の分析についてAグループのメンバーが個々に発表する
13	量的調査のリテラシー（グループB）	宿題として課した量的調査の分析についてBグループのメンバーが個々に発表する
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題が多いが、その分まちがいがなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

「観察」か「ドキュメント分析」が20%、「量的調査のリテラシー」が20%、ライフストーリーが60%。

【学生の意見等からの気づき】

国際社会コースを選択する2、3年生の卒業研究の一助とすることを目的とした授業であるが、当初盛り込み過ぎて学生の負担が大き過ぎた。2019年度からは実習する研究方法を少し減らして、学びの質の向上を図った。2020年度はそれを踏襲する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. この授業は演習形式で行うため、履修者の上限を24人とする。希望者は必ず初回の授業を受けること。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から4日以内にWebおよび学部掲示板で学生証番号を発表する。なお、過去4回開講した中で選抜を実施したのは1回のみである。
2. この授業の位置づけは、卒業研究など実際の研究活動に必要な方法論を身につけることにある。
3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4. 選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

【Outline and objectives】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as Life-Story Interview, Observation or document analysis, and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

ARSi200GA

国際関係研究Ⅵ

粟飯原 文子

サブタイトル：アフリカから見る世界

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サハラ以南アフリカについて、主に歴史、社会、政治、国際関係というカテゴリーから学び、アフリカ研究の導入となる知識を身につける。それによって、変わりゆくアフリカ地域の「いま」を考え、アフリカを多面的に理解することを旨とする。

【到達目標】

- ・アフリカを学ぶための基礎知識を身につける。
- ・アフリカの多様性を理解し、アフリカ研究への関心を高める。
- ・世界史のなかのアフリカ地域をとらえ直す。国際関係におけるアフリカの位置について考える。
- ・アフリカについて学び、アフリカから「世界」を見ることで、欧米中心的な視点や思考を乗り越える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
 - ・授業の最後 10～15 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
 - ・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。
- 授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加してしっかりノートをとってもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションーアフリカを学ぶために	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。アフリカについて学ぶにあたり、いくつかの前提を共有する。
第 2 回	イメージとしてのアフリカ	長いあいだイメージとして構築されてきた「アフリカ」について、その歴史を批判的に振り返る。
第 3 回	アフリカ史の視点①	植民地支配以前の大陸の歴史を概観する。
第 4 回	アフリカ史の視点②	植民地支配以後のアフリカ諸国の歩みを振り返る。
第 5 回	アフリカの宗教①	大陸の信仰・宗教について概観し、「伝統信仰」や「呪術」について考察する。
第 6 回	アフリカの宗教②	イスラームの伝播、キリスト教の到来について学ぶ。
第 7 回	アフリカと移動①	アフリカ大陸の「移動」の歴史を振り返る。
第 8 回	アフリカと移動②	現代の大陸内外に広がる人びとの移動を考察する。
第 9 回	紛争を考える①	ポスト冷戦期のアフリカにおける武力紛争について、いくつかの文脈に位置づけて考える。
第 10 回	紛争を考える②	アフリカにおける平和構築について学ぶ。
第 11 回	アフリカと国際関係①	国際関係におけるアフリカの位置の変化を振り返る。
第 12 回	アフリカと国際関係②	アフリカから見た国際政治について考える。
第 13 回	アフリカのいま	「アフリカはほんとうに貧しいのか?」という問いを中心に、現在のアフリカを複数の視点から考察する。
第 14 回	まとめと試験	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど） 30 %
- ・期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。

受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce students to key concepts and debates in the discipline of African Studies. Over the course of the semester, we will examine important topics in 1) history, 2) society, 3) politics and 4) international relations.

CUA200GA

国際関係研究Ⅶ

石森 大知

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式とし、必要に応じて映像資料を用います。授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業の感想や質疑応答を求めるリアクションペーパーを課します。なお、遅刻、授業中の私語およびスマホ等の使用は原則厳禁（とくに他の受講生の迷惑にもなる私語については厳しく対処します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要および趣旨、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	民俗生殖理論①	生殖と性の分離
第6回	民俗生殖理論②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	婚外子差別をめぐって
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	現世から来世へ、死生観の現在
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括、授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

試験:70%、平常点(リアクションペーパーや授業参加態度など):30%として評価する。なお、試験では持ち込みは一切認められない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective.

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。教室での講義が可能になるまでの間、オンデマンドによるビデオ講義のほか、ZOOM による質疑応答を行う。詳細は、授業支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原則	国際法の基本原則、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承認、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%)
期末レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

国際法 II

土屋 志穂

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法 (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法 (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

履修者は国際法 I を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。成績評価の具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第2回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	わが国の環境法の歴史	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	土壌汚染対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	循環基本法・リサイクル法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	自然公園法	教科書等を用いて、国立公園の法制度について開設する
第13回	高レベル放射性廃棄物処理	最終処分場の立地選定について解説する
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当範囲を読んでください。授業後は、レジュメとノートを読み返しなが教科書を熟読してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。（本体 3,300円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っております。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn private environmental law, one of the legal fields of law that solves the current environmental problems.

LAW300HA

環境法Ⅲ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することも目指します。

【到達目標】

本講義は、「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、ときに教科書やスライドを利用しながら、授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第5回	環境アセスメント（4）	SEA等、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第6回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて廃棄物処理法の概要を解説
第7回	廃棄物処理法（2）	産廃処理施設設置に際する環境アセスメントのあり方について解説する
第8回	廃棄物処理法（3）	産廃処理施設設置に際する地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第9回	高レベル放射性廃棄物（1）	高レベル放射性廃棄物処理について解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物（2）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続について解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物（3）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続についてドイツの手続と比較しながら課題を検討する
第12回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論的問題について解説する
第13回	環境リスク制御法制（2）	環境リスク制御のあり方について、具体的な制度を題材として開設する
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法（第4版）』（弘文堂、2017年）。（本体3,300円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法的手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第 14 回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法 I」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

MAN300HA

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSV経営またはSDGs経営）の現状やその取組みについても触れていく。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事および映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の概要と、企業における環境経営やサステナビリティ経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営やサステナビリティ経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	従来の経営戦略や企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営のための戦略の特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	企業が策定すべき環境経営戦略やサステナビリティ経営戦略（CSV戦略、触媒的イノベーション戦略など）を説明する。
第6回	経営組織①	従来の経営組織や企業の実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（コラボレーション、パートナーシップなど）を説明する。
第8回	経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営と会計	環境経営やサステナビリティ経営を支援する会計システムを説明する。
第11回	ケーススタディ①	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第12回	ケーススタディ②	第11回での検討内容をもとに全員でディスカッションし、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏など）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配付資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の3点に基づいて評価します。

- ①事例分析・検討ペーパーの提出（40 %）
- ②ディスカッションへの参加（20 %）
- ③試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

MAN300HA

環境経営論 II

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、従業員の健康維持・増進、地域循環共生圏、地方創生のための経営）を、経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織、運営（管理））という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの現状とその特徴を理解することを目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 新たな環境・サステナビリティ経営の現状	講義の概要と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営またはサステナビリティ経営の現状を説明する。
第 2 回	新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法	SDGs（持続可能な開発目標）とともに、CSV（Creating Shared Value）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第 3 回	サプライチェーン・マネジメント（SCM）	SCM の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な SCM の概念と仕組みを説明する。
第 4 回	産業クラスター・マネジメント（ICM）	ICM の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な ICM の概念と仕組みを説明する。
第 5 回	バランス・スコアカード（BSC）	BSC の研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能な BSC の概念と仕組みを説明する。
第 6 回	再生可能エネルギー事業①	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念とともに、国内の動向や課題を説明する。
第 7 回	再生可能エネルギー事業②	再生可能エネルギー事業の先進事例（飯田市や下川町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 8 回	フードロス・マネジメント①	農林水産省、消費者庁、環境省におけるフードロスの取組を紹介しつつ、国内の動向や課題を説明する。
第 9 回	フードロス・マネジメント②	フードロス対策の実践例（サルベージ・パーティ、3010 運動など）について紹介し、その特徴を説明する。
第 10 回	健康経営①	経済産業省や厚生労働省の取組を紹介し、国内の動向や課題を説明する。
第 11 回	健康経営②	健康経営の先進企業の取組を紹介し、その特徴を説明する。
第 12 回	地域循環共生圏①	環境省の取組を紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。
第 13 回	地域循環共生圏②	内閣府・内閣官房の地方創生の取組を紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の3点に基づいて評価します。

- ①事例分析・検討ペーパーの提出（40 %）
- ②ディスカッションへの参加（20 %）
- ③試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

ECN300HA

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。

第10回	主要国／地域の社会と経済 (3)：香港およびシンガポール-小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国(都市)の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済 (4)：インドネシア-多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長 (経済発展) の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済 (5)：マレーシア-カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他 (2008 年)『経済発展の政治経済学』(日本評論社)
渡辺利夫編 (2007 年)『アジア経済読本 (第 4 版)』(東洋経済新報社)

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

SOC200HA

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具である。本科目では、講義、ディスカッション、その他のアクティビティを通して理論とその使い方を知り、「社会的に社会を見る」面白さを体験する。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討する。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とする。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「社会を社会的に考える」とは何か	社会的想像力、理論と概念の重要性、持続可能な社会の構築のために近代化により社会はどのように変化したのか。分業、連帯、支配の諸類型
第 2 回	個人とは何か	アイデンティティはどのように形成されるのか。自己と他者
第 3 回	個人と社会	社会的存在としての人間、社会化
第 4 回	資本主義	労働をめぐる諸問題
第 5 回	経済的格差と貧困	- 日本社会の現状と国際比較から考える
第 6 回	教育	格差との関係、文化資本、文化的再生産
第 7 回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第 8 回	ジェンダー	女らしさ、男らしさ、平等を考える
第 9 回	セクシュアリティ	異性愛規範と現代社会
第 10 回	人種とエスニシティ	日本社会における多様性と人権
第 11 回	ディアスポラとグローバル化	移民と難民
第 12 回	社会はどう変わるのか	民主主義と政治
第 13 回	試験、まとめ	内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知 2017『10 代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society. Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures, discussions, and activities, and it is essential that each student is prepared to participate actively.

SOC300HA

環境社会論 I

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別される。本講義では 2 つのアプローチを具体的な事例を用いて講義をしながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、広い視野から環境に関わる諸課題を把握する方法を学ぶ。

【到達目標】

社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチ、概念を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【本講義は、4/21（火）1 時限目から開講する。オンライン授業を実施する。詳細は学習支援システムの「お知らせ」などを参照すること】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とは何か？	社会的なアプローチの概要について講義する。
第 2 回	環境社会学とは何か？	環境社会学の 2 つのアプローチに関する概要を講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (1) - 先史から第二次世界大戦まで	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (2) - 公害問題から地球環境問題	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第 5 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (3) - 加害－被害構造	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	受益圏と受苦圏 (1) - 概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	受益圏と受苦圏 (2) - 事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ (1) - 社会的ジレンマ論の概要	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ (2) - 事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第 10 回	「水」と生活文化 (1) - 生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第 11 回	「水」と生活文化 (2) - 「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第 12 回	「水」と生活文化 (3) - 河川管理の変遷と公共性	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第 13 回	「水」と生活文化 (4) - 技術と災害	水害（災害）に対する技術のあり方について講義する。
第 14 回	「水」と生活文化 (5) - 災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（80%）＋平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（20%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to cultivate a better understanding of two approaches of environmental sociology, "sociology of environmental issues" and "sociology of environmental coexistence".

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という観点から整理し、講義を行う。そして、社会運動から見える現代社会や社会問題、環境問題への理解を深め、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを目的とする。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

日本におけるエネルギーと社会、市民との関係について歴史的な経緯と今後の関係性についての多様な知見の存在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的な公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）－リスク社会論	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）－反・脱原発運動の歴史	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（1）－水俣病	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（2）－水俣から福島へ	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。
第7回	運動のさまざまな形とその変化（1）－理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（2）－実証と事例研究	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第9回	どのように環境運動を展開するのか（1）－資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（2）－フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について講義する。
第11回	再生可能エネルギーと環境運動（1）－「市民風車」の誕生とその展開	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第12回	再生可能エネルギーと環境運動（2）－コミュニティパワーと社会的受容性	地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）の普及と社会的受容性について講義する。
第13回	再生可能エネルギーと環境運動（3）－3.11以降の環境運動の可能性	3.11以降の再生可能エネルギーを希求する市民の動きと、反原発運動などの環境運動との関連について講義する。

第14回 再生可能エネルギーと環境運動(4) - 世界の中の日本と今後の課題 日本での再生可能エネルギーの普及について世界的な潮流を踏まえて、課題と展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義中に参照した文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

【参考書】

西城戸誠『抗いの条件 - 社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー』ミネルヴァ書房（2015年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど）10%

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture provides the viewpoint of "social movements" as a citizen movement, NPO / NGO, and volunteer organization for solving environmental problems.

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展、課題を学んで理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。できるだけ豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回アクションペーパーに記入し、授業の冒頭には前回のアクションペーパーを振り返って、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害=社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象=人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第3回	身近な景観と災害=理科2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。	第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。	第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌になつたり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 東日本大震災とはなにか	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。	第 14 回	めざすべき社会と災害 = 授業のまとめおよび授業内レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでも OK。
第 7 回	近年の風水害から、課題を考える	2019 年台風 15 号や 19 号、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】	毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートの提出を求める。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。	
第 8 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大坂北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。	【テキスト（教科書）】	授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業で縮小印刷して配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。関連資料などもリストするので参考にして欲しい。	
第 9 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【参考書】	授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。	
第 10 回	これからの大災害への備え	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。14 回目の授業内レポートのために必要な、「地域防災計画の課題発見」の課題を出す。	【成績評価の方法と基準】	平常評価（リアベで授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20%、期末試験（最終講座内レポート）評価 40%。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にリアベ代わりの授業レポートをメールで提出することで一定の評価対象とする。	
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【学生の意見等からの気づき】	災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。	
第 12 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【学生が準備すべき機器他】	最終授業の際には、スマホやネット環境を備えた PC の持ち込みは可能。	
第 13 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【関連の深いコース】	履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。	
第 14 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【実務経験のある教員による授業】	通信社記者として、1984 年の長野県西部地震や 1995 年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を 10 年以上担当している。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。	
第 15 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【Outline and objectives】	1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster. 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree. 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.	

PHL200HA

仏教思想

小島敬裕

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講 semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上座仏教は、東南アジアの大陸部諸国（タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナムの一部）を中心に、スリランカ、中国雲南省の西双版纳州や徳宏州でも信仰されている。上座仏教徒社会においては、男子の大部分が一時出家を経験し、托鉢する出家者に対して在家者が食物を寄進する姿も毎朝のように見られる。仏教が世俗の人々の生活に根ざして「生きられて」いるのである。こうした人々によって生きられる仏教思想のあり方について、本講義では写真や映像資料を用いながら具体的に説明する。それによって、上座仏教の経典に書かれた思想とその現実を、地域社会とのかかわりから理解することを目的とする。さらに、日本人と上座仏教徒の歴史的な交流と断絶に焦点を当てることにより、国境を越える仏教思想の変容過程を考察する。

【到達目標】

上座仏教の教理と地域に生きる仏教徒の思想について、具体的な事例をもとに論じることができる。

また上座仏教徒社会との比較から、日本人の「仏教思想」に対する認識を自ら深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

リアクションペーパーには、コメントとともに必ず質問を記入し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	上座仏教教団の成立と東南アジアへの普及	ブッダの人生ならびに上座仏教教団成立の経緯、そして東南アジアへの普及の歴史的過程
第2回	出家者の仏教	石井米雄『タイ仏教入門』『出家者の仏教』の章を中心に
第3回	在家者の仏教	石井米雄『タイ仏教入門』『在家者の仏教』の章を中心に
第4回	タイの王権・近代国家と仏教	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 4 タイの僧院にて一生涯を生きる仏教』(1)
第5回	タイの現代社会と仏教	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 4 タイの僧院にて一生涯を生きる仏教』(2)
第6回	ミャンマー村落部における出家者と在家者(1)	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 2 黄金のパゴダミャンマー・祭りと葬送の日々』(1)
第7回	ミャンマー村落部における出家者と在家者(2)	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 2 黄金のパゴダミャンマー・祭りと葬送の日々』(2)
第8回	現代ミャンマーにおける上座仏教の実態(1)	The Monk (1)
第9回	現代ミャンマーにおける上座仏教の実態(2)	The Monk (2)
第10回	ミャンマーへの日本軍の進駐	ビルマの堅琴 (1)
第11回	戦争に動員された日本人仏教僧	ビルマの堅琴 (2)
第12回	戦中期における日本人のミャンマー上座仏教に対する視線	ビルマの堅琴 (3)
第13回	日本人による戦後の遺骨収集活動と戦没者慰霊パゴダの建立	ビルマの堅琴 (4)
第14回	日本と欧米における上座仏教瞑想の受容	「マインドフルネス」の概念の成立と普及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

石井米雄.1975.『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社.

石井米雄.1991.『タイ仏教入門』めこん.

NHK「ブッダ」プロジェクト編.1998.『ブッダー大いなる旅路 2』日本放送出版協会.

竹山道雄.1959(1948).『ビルマの堅琴』新潮文庫.

奈良康明・下田正弘編.2011.『新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア—静と動の仏教』佼成出版社.

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%)、平常点 (50%)

平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

毎回、レジュメを配布するので、欠席した場合は、次週以降の講義の際に受け取る。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will focus on the Theravada Buddhist thoughts in everyday life. Theravada Buddhist societies are located in mainland Southeast Asia, Sri Lanka and southwest China. In these lectures, we will focus not only on the Buddhist philosophy written in texts, but also on ideas of Theravada Buddhists by paying close attention to how they practice themselves every day. Furthermore, we will explore the relationship between Japanese society and Theravada Buddhism through visual materials including photos and documentary videos.

PHL200HA

環境倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学の基礎：功利主義、義務論、徳倫理学	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	正義論の基礎	環境問題を「正義論」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	アメリカの環境倫理学：土地倫理を中心に	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	アメリカの環境倫理学：動物倫理を中心に	環境倫理から動物倫理へと分岐していった経緯を紹介する
6	アメリカの環境倫理学：環境プラグマティズム	アメリカの最近の潮流である環境プラグマティズムの主張を紹介する
7	日本の環境倫理学：加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	日本の環境倫理学：鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題について映像資料を参考に議論する
10	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題の歴史と現在の状況について紹介する
11	環境倫理学の新動向：都市の環境倫理	最新の動向である「都市の環境倫理」について紹介する
12	災害後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興について映像資料を参考に議論する
13	災害後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電について映像資料を参考に議論する
14	未来の環境倫理学	環境倫理学の今後の姿について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験（50点）とレポート（50点）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand history and contents of environmental ethics.

PHL300HA

環境哲学基礎論

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。
この授業は4月27日（月）から行います。
連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ環境を哲学するのか	「環境とは何か」となぜ問う必要があるのかを説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論：和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論：ベルク	オグユスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論：ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明し、過去のマップを紹介する
10	アメニティマップ製作	実際にアメニティマップをつくってみる
11	アメニティまとめ	作成したアメニティマップを用いて議論する
12	対話型講義	アメニティマップの有効な使い方について議論する
13	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、マップ製作（20%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような画像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第8回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第9回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第10回	20世紀の都市問題	20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第11回	田園都市と郊外の開発	20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第12回	20世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。

第13回 現代における都市の再生 1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。

第14回 まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境 ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

学期末の筆記試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の持続可能な発展のためには、その社会の集団アイデンティティが重要な役割を演じる。集団アイデンティティは、歴史や文化・自然などに関して成員の間で保有される共通のイメージや認識に基づいて形成され、その社会が全体としておこなうさまざまな決定に影響を与える。

この授業では、とくに過去の歴史に対する認識の確立に大きな努力を払ってきたドイツの事例を学ぶことを通じて、集団アイデンティティが作り出される上での重要な要素や問題点について理解し、またこの領域における日本の問題点について考察する。

【到達目標】

この授業では、近現代のドイツを中心に、ヨーロッパの他国や日本と比較しながら、この集団アイデンティティの問題に取り組む。ドイツにおいて歴史や文化、伝統、自然などがどのように認識されイメージされていたのかを時代を追って明らかにし、それによって各時代にどのような集団アイデンティティが形成されていったのかを時代状況とともに理解する。

その際、集団アイデンティティは決して単一のものではなく、複数のそれらが競合して社会内外の対立を増幅したりあるいは和解させたりする作用を持つこと、また特定の政治勢力や集団の利益のために利用される可能性もあることにふれ、その可能性と危険について理解することもまた本授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回資料として同時代文献や統計を用いるほか、理解の助けとなる文化遺産や芸術作品の図像・写真・映像などを紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：集合記憶と集団アイデンティティ	テーマに関する理論的な説明と、予備知識の解説を行う。
第2回	国民意識の誕生と集合記憶の創造	近世において小国分立状態の中でドイツ人意識と国民アイデンティティがつけられるまで。
第3回	19世紀ドイツの集合アイデンティティ①	19世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。まず過去の歴史に対する認識をあつかう。
第4回	19世紀ドイツの集合アイデンティティ②	19世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。続いて文化や自然、芸術をあつかう。
第5回	20世紀初頭の歴史認識をめぐる政治的闘争	第一次世界大戦期から戦間期にかけての国内外での政治的対立が激しくなった時期におけるアイデンティティ間の葛藤をあつかう。
第6回	ナチスによる「政治的美学化」と過去の利用	1933年に政権を獲得したナチスは集団アイデンティティを巧みに構築し利用した。その手法を分析する。
第7回	第二次世界大戦後の東西ドイツにおける集合アイデンティティ	第二次世界大戦後成立した東西ドイツにおける、それぞれの集団アイデンティティをめぐる状況を明らかにする。
第8回	ナチズムの過去をめぐる東西ドイツの取り組み	ナチスや第二次大戦に関する過去への認識が戦後ドイツの中でどのように集団アイデンティティとなっていったかを明らかにする。
第9回	68年運動とドイツ人のアイデンティティの変動	ドイツ社会を大きく変えたと言われる学生運動後の西ドイツ社会の変容と、それによる集団アイデンティティの変化を検証する。
第10回	統一後のドイツ社会における東ドイツの過去の位置づけ	1990年の東西再統一後は東ドイツという過去をどのように集団アイデンティティの中に位置づけるかという問題が生じた。
第11回	地域社会とその集団的アイデンティティ	ドイツの多様な地域社会と、その住民の集団アイデンティティとの関係について。

第12回	ドイツの自然保護と景観	開発規制と記念物保護、自然保護など、現代ドイツの自然景観を守る運動が、集団アイデンティティにどのように影響を与えているか。
第13回	過去の記憶に関する新しいプロジェクトと論争	近年ドイツ社会のなかで見られるようになった、ナチズムの過去への反省の姿勢を修正しようとする傾向と、それに反対する動きを取りあげる。
第14回	結論：ドイツと日本における集団アイデンティティのあり方との比較	日本における集団アイデンティティの作られ方や過去のイメージについて考え、ドイツのそれらと対照する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途指示する参考書のほか、授業の進度に応じて『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読んでおく、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも受講可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

This course provides an overview about the history of national identity in modern Germany. It explains the long struggle to build the German nation state inventing collective memories and self images through their own past from the 18th to 21th century.

GEO200HA

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本授業では、いかなる社会もその大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。
土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を総合的に見渡しながら、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島(1)	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島(2)	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と表示項目、空中写真、1:25,000地形図、時系列比較
第5回	地理院地図	電子国土基本図、基盤地図情報、基盤地図情報数値標高モデル、GNSSと電子基準点、GIS、地理院地図の掲載情報と活用
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用(1)	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用(2)	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、水河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。(1) 大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できるか、(2) 土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The land is our stage of life, on which our human societies stand. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to our human societies.

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、III のいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。

4 月 23 日 5 時限から Zoom 利用のオンラインで開始します。Zoom のアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）と期末試験（90％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

4月25日1時限からZoom利用のオンラインで開始します。Zoomのアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良(2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト50%、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関与しました。その経験を踏まえて講義を進めます。

ENV300HA

公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止の基本手法を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会で役立つ実務知識を本講座で習得することができる。

公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講により、国家試験や民間の環境検定の受験に役立ち、企業や行政の環境担当者によって日常使用される BOD/COD など技術用語や環境管理の基本が理解できるようになる。

【到達目標】

新聞や TV などマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど浄化手法の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害防止管理者国家試験（公害総論や水質概論など）や ECO 検定等の水環境に関する問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では環境の専門用語や基本概念を問う基本レベルの問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してパワーポイントで説明する。必要に応じて映像を利用。各論では、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実態、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。

テーマは 1 回の授業でなるべく完結させるので、欠席しても次回授業がスムーズに理解できるようにする。難解かつ苦手なテーマは何度も説明して理解できるようにする。毎回学生のコメントや要望などを聞いて次回講義になるべく反映する。なお成績評価は、授業内に行う簡単な小テストと平常点で行う。

【春学期の少なくとも前半はオンライン開講となる。授業計画の変更は、学習支援システムでその都度提示する。教材をアップするので授業開始日は 4 月 24 日を予定。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講座全体の概要 地球温暖化と水環境、廃棄物問題、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国・欧州の環境事情など	当講座の概要と授業方法について説明。国内外取材の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜板、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等最新技術も解説。

第 9 回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。
第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD、pH、DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習とまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記 3 冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業終了後にリアクションペーパーを提出し、その記載内容を評価する (30%)。最終試験及び小テスト (70%) と合わせて総合点で判定する。60 点以上が合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業をする。過去に経済・経営・法学など他学部の学生も多数受講している。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

講師は大規模な汚水処理事業所の責任者も経験しており、その経験と知識で複数の海外政府向けに環境教育をしている（JICA 専門家派遣など）。そういった世界レベルのトピックスや教材も授業で利用する。

【Outline and objectives】

This course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on environmental laws and regulations will be provided in this course.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, and international activities, etc. The class will also provide introductory-level knowledge useful for acquiring National qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically. By this course, you can gain useful knowledge for taking the national and private exams. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, that are used by pollution control managers etc.

ENV300HA

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、日本を襲う集中豪雨や大型台風等の異常気象が増えており、気候変動への関心が高まっています。16歳の環境活動家のグレタさんに触発され、自分に何かできることはないかと考えている人も多くいるのではないのでしょうか。

公害防止管理論Ⅱでは、企業における大気関連の環境管理について学びます。現在の企業の環境管理は従来の公害防止管理だけではなく、気候変動の緩和や適応にまで範囲が広がっています。COP21でパリ協定が採択されて以降は企業への投融資において、ESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が重要視されてきています。そのため、企業は従来の大気、水質、土壌の汚染防止、騒音・振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

現代の環境問題を解決するには、革新的科学技術だけに頼るのではなく、経済や社会が連動して低炭素社会に向けて移行していく必要があります。

本講義は、現在、我々が直面している環境問題をより深く思考できるようなことになることを目的として、幅広い視点から企業の大気汚染管理について学びます。大気汚染問題の原因、対策、課題について、地球温暖化問題、PM2.5汚染等の国内外の大気汚染の状況について学びます。また、大気汚染防止のための法律や行政施策及び、硫酸酸化物やばいじん等の大気汚染物質の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄について学びます。公害防止管理者国家資格（大気）取得のための基礎知識を学びます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物質を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は気候変動への国際的な取組、国内外における大気汚染問題、大気汚染の発生メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの知識を学ぶ。後半は企業の生産活動において発生する大気汚染物質の種類や発生機構、その処理技術及び測定方法を学ぶ。また、企業の環境管理について、グループディスカッションを行い、問題定義や課題解決の方法を学ぶ。

成績は、授業内で行う試験とアクティブラーニングでの2つの課題についてレポートを提出してもらい、その両者の総合で評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史と公害対策について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題	国際的な気候変動への取組、国内の大気環境問題について学ぶ。
第3回	大気保全のための各種法律及び大気の状態	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第4回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズムについて学ぶ。
第5回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第6回	アクティブラーニング① 企業の環境管理活動	企業内における公害防止管理者の役割を調べる。不祥事等の事例を調査し、その原因と改善策について考える。レポート提出。
第7回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃料計算について。効率的な燃焼管理方法及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術及び有害物質の除去	排ガス中の窒素酸化物及びその有害物質（カドミウム、鉛、塩化水素等）の排出低減方法及び処理技術について学ぶ。

第10回	除じん集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	アクティブラーニング② 企業の環境管理活動	各業種における、大気環境保全のための活動を調査し、その特徴を比較する。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第12回	アクティブラーニング③ 企業の環境管理活動 調査結果発表と意見交換	各グループで企業の大気環境管理について調査した結果を発表し、意見交換を行う。レポート提出。
第13回	大気のモニタリング技術 と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリング方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第14回	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくと講義の内容が理解し易い。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所（社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート（20%）、筆記試験（80%）の総合点で判定する。

【学生の意見等からの気づき】

企業の大気汚染に関する非財務情報から読み解く、環境管理への取組の調査と発表に関するグループワークが勉強になったとの意見が多かった。排ガス処理技術等で化学式や計算が出てくると、理解が難しいとの意見が多くあり、できるだけ、それらを用いずに、図や写真を多用し、説明をするよう工夫したいと思った。受講生は環境問題と社会のつながりに関心が高いため、企業の経済活動が環境に与える影響について重点を置き、授業内容を組み立てるようにする必要があると感じた。

【学生が準備すべき機器他】

特にない。

【その他の重要事項】

事前に環境関連法規の科目を受講しておくことを推奨する。

担当教員はアジア諸国への公害防止管理の技術や環境法制度構築支援、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格ISOのエキスパートとして規格作成を行っている。これらの実務経験に関連し、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題対応の最新動向を講義に織り交ぜることで、学生が企業人として働く際に、環境に配慮した経済活動を自ら考え行動できるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Recently, the climate change is becoming our awareness, because of attacking serious floods and super big typhoons to Japanese is increasing. And someone was stimulated by the sixteen years old environmental activist, Ms. Greta, and then thinks how I take actions against this issue.

In the lecture of the pollution control II, you study about the environmental management related to air pollution prevention in enterprises. Recent environmental managements of enterprises should take not only conventional pollution controls but also climate change mitigation and adaptation. After Paris agreement in COP21, tackles for ESG (Environment, Social, Governance) have been becoming more significant for financing to the enterprises. Therefore, enterprise is taking various actions for reduction of GHG such as CO₂, in addition to pollution controls such as prevention of qualities of air, water and soil, prevention of sound and waste managements.

Recent environmental issues can't be resolved by only innovative science technologies. It is necessary to transfer to low carbon society by linking with economy and society also.

This lecture is structured from a wide viewpoint concerning air pollution managements of enterprise to aim for making students consider environmental problems deeply which we are facing now. You can learn causes and challenges of air pollution subjects from global warming problems to PM2.5 pollution, structure of laws and regulations related to prevention of air pollution, treatments and measurements of pollutants such as sulfur oxide and dust.

The student who will take the national examination of pollution control manager can study fundamental knowledge to provision for the examination.

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育) について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なか、自分自身の考えを深めていきます。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。学習支援システム（Hoppi）によるオンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月30日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の歴史（1）	環境教育の歴史や重要な点を概説します。
第3回	環境教育の歴史（2）	1990年代の日本の環境教育について映像資料とともに解説します。
第4回	環境教育の歴史（3）	最近の環境教育の在り方と様々な場所で行われる環境教育について学びます。
第5回	ゲストスピーカー	環境活動を行っている人の話を聞きます。
第6回	自然と関わる環境教育（1）	都市部でも手軽にできる自然体験を実際にやってみましょう。後半は、自然系環境教育の歴史的展開を講義します。
第7回	自然と関わる環境教育（2）	自然体験型環境教育の実践について学びます。（ゲストスピーカー来訪予定）
第8回	公害教育（1）ワークショップ	ロールプレイ型の公害教育教材を体験してみます。
第9回	公害教育（2）	公害と公害教育について講義します。
第10回	気候変動について学ぶ（1）（ワークショップ）	気候変動を学ぶ参加型教材を体験します。
第11回	気候変動について学ぶ（2）	学校の気候変動について学ぶ教材について取り上げ、意義や課題などを考えます。
第12回	これからの環境教育；SDGsとソーシャルアクション	これからの環境教育の役割や在り方について考えます。
第13回	これからの環境教育；環境教育の可能性と課題	環境教育の可能性及び課題、社会を変えることと教育の役割について考えます。
第14回	筆記試験とまとめ	成績評価に関わる試験となります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業への変更に伴い、成績評価は学習支援システムを通じた評価を基本とします（テスト、コメントペーパー、最終レポートなどの課題を学習支援システムで提出）。

要素ごとの配分は

- ・最終レポート（6000文字程度、50%）
- ・授業ごとに課題を提出（50%）
- ・授業貢献を加点

詳細については第1回目のガイダンスで説明を行うので受講する方は必ず第1回のガイダンスに参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点▶成績評価の方法が変更になっています。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

CAR100MA

職業選択論Ⅰ

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・4 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

本授業の開始日は4月23日とします。

当面の間、各回の授業では、レジュメにより解説や問題提起を行います。適宜、参照すべき文献や映像資料などを提示します。

授業に沿って、4回のミニ・レポートを課します。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容はその後の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。さらに、中間と期末、2回のレポート課題を出します。それぞれの課題は、学習支援システムの「課題」提出システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス／各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介／各自の問題意識の論述
2	大卒労働市場を考える（1）	各自の問題意識の共有／現下の情勢をめぐって
3	大卒労働市場を考える（2）	卒業生の進路状況／新規採用と中途採用の違い／早期離職
4	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	それぞれの特徴／ワークライフバランス上の課題
5	キャリア教育とインターンシップ	キャリア教育と職業希望／インターンシップの目的・現状・課題
6	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
7	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
8	職場の問題への向き合い方	問題のある働き方とその改善方法／労働組合とは
9	就職活動と労働条件	就職プロセスと就職情報会社の役割、労働条件への着目の必要性
10	就職活動における客観情報の活用	「就職四季報」の活用、職場実態情報の活用
11	内定・就職をめぐるトラブル／初期キャリアとリアリティショック	トラブルと関係法令、対処法／初期キャリアの課題
12	セーフティネットと転職	雇用保障、失業保険、職業紹介、積極的労働市場政策、転職
13	.	.
14	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に平日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読も可）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの「教材」欄にレジュメを掲示します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/

・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社

・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

4回実施するミニ・レポート（配点40点）と中間レポート（配点20点）、期末レポート（配点40点）により評価します。なお、それぞれのレポートの代筆・盗用・剽窃が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられます。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて情報の提供、レジュメの掲示、課題の提出などを行いますので、パソコンや通信環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

初回の授業レジュメで授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行いますので、必ず確認してください。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代も存在するが、子どもへのまなざしや把握の仕方は、時代や社会により異なる。同じように、子どもにどのような学びが促され、それをどこでどう行うかも多様であり、例えば、西洋や日本において学校がその中心を担うようになるのは、近代になってからのことである。この授業では、西洋教育史をベースに、どのようなまなざしが子どもに向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し、発展してきたかを検討する。そして、それらの歴史と私たちの社会で常態化している子ども観や教育、及び、それらが抱える問題との関わりへ考察をすすめ、各自がその意味を相対化し、未来を構想する視点を得ることを目指す。

【到達目標】

西洋における子ども観や学びのありかたの変化を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。

授業で学んだことと関連付けて、現在の教育問題を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・指定教科書は使わないが、適宜提示する関連文献と配布資料をもとに講義する。

・必要に応じてグループディスカッション等も行う。

・テーマの終わりにはワークシートで知識の定着をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子どもと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第 14 回	振り返りとまとめ、試験	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で紹介する参考文献や配布プリントを読み、理解を深める。

必要に応じて、ワークシートを宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、適宜提示する。

【参考書】

特に指定しないが、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点 20 %、ワークシート 20 %、筆記試験 60 % を基準に、総合的に評価する。なお、総授業回数 2 / 3 以上の出席を単位取得の要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートから、受講生からのフィードバックを重視した授業運営を引き続き工夫していきます。

【Outline and objectives】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水、金山 喜昭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学校教育と社会教育に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

あらかじめ指定した文献や資料をもとに、学習支援システムを活用したオンデマンド型の講義を行います。

日本史、日本教育史の基礎的な知識の確認および講義内容の復習を兼ねて、あらかじめ予告した回の授業内で、学習支援システムのテスト機能を用いた小テストを行います。初回授業は4月22日です。

学校教育を中心とした事象については寺崎が、社会教育を中心とした事象については金山が担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのか考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことは手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	大衆と教育①	学習する集団の誕生について、博物館を事例に思想や制度の誕生について学ぶ。
第 11 回	大衆と教育②	学習する集団の誕生について、日本の博物館史を学ぶ。
第 12 回	大衆と教育③	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 13 回	大衆と教育④	日本の博物館の制度と発展について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々なぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上に PDF でアップされた指定文献の精読が必須です。また、日本史の基礎的な知識が必要なので、各自で高校までの内容を復習しておいてください。

この科目は、新しい概念やものの考え方、背景となる歴史的な事象に関する知識の修得を目的としているため、講義内容に関する復習が欠かせません。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返り小テスト、課題等 60 %、試験もしくは最終レポート 40 %（試験を予定していますが、社会状況により、レポート提出に変更されることがあります。その場合は授業内でアナウンスします。）

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, community and family.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自分がかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を理解する。
<まともな働き方>を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では現在の若年労働市場や働き方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。定期試験では持ち込み不可の論述試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介、春学期の論点の整理
2	若年労働市場の現状	学歴別・男女別に見た若年者の就業状況
3	正規雇用と非正規雇用（1）	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
4	正規雇用と非正規雇用（2）	多様な働き方の現状と課題／雇用ポートフォリオ／有期雇用から無期雇用への転換の動き
5	派遣労働の特徴と問題点	間接雇用である派遣労働の特徴と問題点
6	派遣労働の歴史と現在	派遣労働の歴史的経緯／紹介予定派遣
7	長時間労働の現状と背景	長時間労働の現状と背景／労働時間規制の法制度
8	長時間労働の改善に向けた動き	事例から見る長時間労働と考えられる対策
9	長時間労働と組合の役割	法制度と労働組合の役割の関係
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）：夫婦の生活時間と仕事時間	女性の就業継続をめぐる意識と現状、夫婦の生活時間と仕事時間
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）：法制度と現状	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）：企業の実情	コース別雇用管理、企業の就業継続支援策、就業継続をめぐる課題
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。

授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。

期末試験に向けて、授業内容を復習し、論述の準備を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書

- ・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・久原穂（2018）『働き方改革』の嘘』集英社新書
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点40点）と定期試験（配点60点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートの代筆が判明した学生、定期試験で不正行為が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

身近な内容でありながらアカデミックな講義で充実した内容だったとのコメントをいただきました。働き方をめぐる現在の変化は、皆さんの働き方にも直結してきます。その関係をより理解できるように、努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、定期試験について等の説明を行いますので、必ず出席してください。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれます。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

【2013年度以前入学者用】ア 展開科目
ントレプレナーシップ論Ⅰ

MAN200MA

【2014年度以降入学者用】ア 展開科目
ントレプレナーシップ論Ⅰ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創出に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第2回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第3回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第4回	ワークショップ1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第5回	ワークショップ1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第6回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第7回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第8回	ワークショップ2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第9回	ワークショップ2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第10回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第11回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第12回	ワークショップ3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第13回	ワークショップ3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第14回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社のHP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60%
- ②ミニレポート 20%
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20%

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのためにPCを利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2014年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

MAN200MA

【2013年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創出に必要なイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to foster entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurial managers who start new businesses at large companies). In this class students will understand the abilities required as an entrepreneur by going through the case of new business creation.

For those seeking employment at major companies or to become an entrepreneur, this class, through group working, will also cultivate the mindset and learn how new businesses are created.

MAN200MA

【2013年度以前入学者用】ア 展開科目
ントレプレナーシップ論Ⅱ

MAN200MA

【2014年度以降入学者用】ア 展開科目
ントレプレナーシップ論Ⅱ

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業した社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第2回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第3回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第4回	ワークショップ1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第5回	ワークショップ1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第6回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第7回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第8回	ワークショップ2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第9回	ワークショップ2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第10回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第11回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第12回	ワークショップ3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第13回	ワークショップ3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第14回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社のHP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60%
- ②ミニレポート 20%
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20%

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのためにPCを利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies).

This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.

Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

MAN200MA

【2014年度以降入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

MAN200MA

【2013年度以前入学者用】アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業した社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第2回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第3回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第4回	ワークショップ1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第5回	ワークショップ1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第6回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第7回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第8回	ワークショップ2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第9回	ワークショップ2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第10回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第11回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第12回	ワークショップ3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第13回	ワークショップ3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第14回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社のHP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60%
- ②ミニレポート 20%
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20%

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのためにPCを利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

In this class, practical classes will be conducted with the aim of training entrepreneurs (human resources, entrepreneurs, and entrepreneurs who are responsible for launching new businesses in large companies).

This class will help students acquire the skills required as an entrepreneur and enhance the behavioral and cognitive skills necessary for new business creation and venture management through practical group work.

Students acquire the skills necessary by understanding the framework for creating new businesses, formulating business models, creating business plans, and making presentations as a group.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF A などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学び、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・新型コロナウイルスの影響で、講義・討論中心の授業から学習支援システムによる授業に切り替えます。（授業回数も 14 回から 12 回に変更）
- ・授業日程は変更後の日程通り（第 1 回 4/22、第 2 回 5/6、第 3 回 5/13、第 4 回 5/20、第 5 回 5/27、第 6 回 6/3、第 7 回 6/10、第 8 回 6/17、第 9 回 6/24、第 10 回 7/1、第 11 回 7/8、第 12 回 7/15）で、授業日にその日の講義資料を学習支援システムにアップロードします。
- ・授業は、学習支援システムを通じて講義用資料と解説資料を配布し、それを学習して課題レポートを提出してもらうことで進行していきます。そのほか、学習支援システムを通じた双方向の議論など、適宜試行していきます。初めての試みですので試行錯誤になりますが、よろしくお願ひいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化

第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：RESAS、シビックテック、スマートシティなど	地域・社会の課題を発見するツールの登場、技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 13 回	第 12 回に統合	第 12 回に統合
第 14 回	第 12 回に統合	第 12 回に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 3 回から第 6 回は講義用資料のほか、『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキスト（教科書）を事前に学習してください。

【テキスト（教科書）】

・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン, K. ウォレッシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014 年 8 月

【参考書】

- ・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995 年
 - ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育てるアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996 年
 - ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007 年
 - ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006 年
 - ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002 年
 - ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
 - ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS ブリタニカ 1986 年
- そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 % を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は、講義ごとに毎回提出してもらう簡単な課題レポートの提出状況で評価します。また、最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは第 12 回（最後の講義）で指示しますが、これを提出しないと合格にはなりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。ただし、他校での学生からのフィードバック経験から、学生の関心に沿った授業の進め方をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題レポートの提出等で PC が使用可能であること（Word、電子メールなど）。新型コロナウイルスの影響により対面授業ができないため、学習支援システムを使用して授業を進行していきます。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容となるはず。

【Outline and objectives】

In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAF A begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

The objectives are the followings.

- ・ Understand the citizenship
- ・ Learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ Be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつづらしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2020 年 4 月 20 日追記

春学期はオンラインでの開講となります。

学習支援システムに資料を掲示し、資料の理解度や自習の成果を小レポート等の課題で確認するといった方法で、オンライン授業を実施します。

初回授業日は5月4日（月）です。

成績評価方法は、期末レポート（70%）、小レポート（30%）に変更します。

講義形式の授業です。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。

正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワークワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する

- 第 11 回 歴史と社会を見る目 (1) コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
- 第 12 回 歴史と社会を見る目 (2) 伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
- 第 13 回 歴史と社会を見る目 (3) ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
- 第 14 回 まとめ・総括 歴史的比较社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比较社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思えます。

【Outline and objectives】

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・3 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

(1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。

正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点 (1)	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点 (2)	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点 (4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第13回 歴史と社会の再生産

第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第14回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

アート・マネジメント論

展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとり生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンライン授業での開講に伴い、動画＋パワーポイント＋小テスト or 小レポートの形式で行うことを予定しています。人数の多いクラスですので、zoomなどのリアルタイムでの参加形式の講義は今のところ予定していません。質問等は個別に随時受付しています。4/27に初回ガイダンスとアンケートを行いますので、当日15時以降にクラスにアクセスして、指示に従ってください。講義は、毎回テーマを決めて実施する予定です。なお、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、ヴァーチャルでのフィールドワークやゲスト講師などのオンライン講義の動画配信を検討しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第3回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第4回	フィールドワーク	オンラインにより、劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第8回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第9回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第10回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第11回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第12回	授業内試験	試験・まとめと解説
.	.	.
.	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールドワークはすべてオンラインになります）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの講義のスタートとなったため、成績評価の方法と基準の変更が生じます。最終試験（40%）と授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（60%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思いますが、オンライン授業への変更により、web 掲示板等を用いてディスカッションなどを行うことを検討しています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline and objectives】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・2 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな仕事について考えるとともに、現代社会における産業や企業のある方について学びます。

企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から考えます。日々変化する企業の最新情報にふれることで、自らのキャリアをデザインする力を身につけるとともに、就業機会におけるキャリア選択を考えるきっかけを提供します。

【到達目標】

①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、③自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を到達目標に授業を実施します。

様々な業界や企業、キャリアに対する偏見や先入観をなくして、しっかりと自分自身の力で業界や企業を分析し理解できる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 80 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。講義日が祝日にあたった場合には、ゲストを呼ぶことは困難ですので、中間レポートの作成にあてることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	人材派遣業界	人材業界の仕事学びます。企業の採用活動、学生の就職活動についても情報を提供していただきます。
3	流通産業	我々にとって大変身近な業界である流通産業における働き方を学びます
4	IT 産業	社会基盤を担う IT 産業での働き方や生き方を学びます。
5	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
6	政府系企業	国と密接に関係しつつも公務員でもない機関について、その仕事を紹介いただきます。
7	エンターテインメント産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるエンターテインメント産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	広告産業	テレビだけではなくインターネットへの接触が増加して、産業が変容しつつある広告産業での働き方を学びます。
11	ベンチャー	組織で働く、雇用者として働く以外の選択肢である起業について、ベンチャー起業の経営者の実体験を語っていただきます。
12	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
13	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	まとめ	ゲストの話を総括して、これからのキャリアについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特段の準備を求めることはしませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

全体を通じてのテキストはありません。

資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】

とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業内で提出する小レポートの評価 60 %、まとめ、中間のレポート 40 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

1. レポートを書く時間を確保します。
2. 幅広い業界からゲストを招聘し、授業をアレンジします。

【その他の重要事項】

学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。昨年度は、博報堂、ソニーミュージックエンターテイメント、リクルートキャリア、公文教育研究会、マツモトキヨシホールディングス、DHL サプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、キョーリン製薬ホールディングス、日本政策金融公庫、富士通、マクアケ（サイバーエージェント）、東京証券取引所の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。また、お話しいただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will consider various tasks and learn about industries and companies in modern society.

From the lecture of the guest speaker, we think about what kind of persons are required in society, working on organization.

By acquiring up-to-date information on companies and societies that change everyday, we will acquire the ability to design our own careers. Also, through this lesson, you will have the opportunity to think career selection.

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

梅崎 修、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：火・4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師と調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、初回授業で予定を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から「労働組合とは何か」を説明します。
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと	「働くということ」の意義と労働組合がめざす社会像を説明してもらおう。
3	【課題提起】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	連合に寄せられる労働相談事例をもとに、若者が抱える悩みとそれらへの対応を説明してもらおう。
4	【ケーススタディ①】 ワークルール確立に向けた取り組み	長時間労働の是正、労働時間短縮に向けた取り組みを説明してもらおう。
5	【ケーススタディ②】 賃金をはじめとする労働諸条件の改善 労働条件の維持・向上に向けた取り組み	賃金をはじめとする労働諸条件の改善に向けた取り組みを説明してもらおう。
6	【ケーススタディ③】 ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女平等参画などの取り組みを説明してもらおう。
7	【ケーススタディ④】 賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制 公正・公平な処遇とキャリア形成に向けた取り組み	賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制をめぐり課題や取り組みを説明してもらおう。
8	【ケーススタディ⑤】 産業空洞化への対応を中心に、雇用と 雇用と生活を守る取り組み	産業空洞化への対応を中心に、雇用と生活を守る取り組みを説明してもらおう。
9	【ケーススタディ⑥】 正社員と非正社員間の処遇格差是正に 向けた取り組み	正社員と非正社員間の処遇格差是正に向けた取り組みを説明してもらおう。
10	【ケーススタディ⑦】 公務員の仕事内容と労働組合活動の特 徴を説明してもらおう。	公務員の仕事内容と労働組合活動の特徴を説明してもらおう。
11	【課題への対応①】 いままぜ、働き方の変革が求められて いるのかを説明してもらおう。	いままぜ、働き方の変革が求められているのかを説明してもらおう。
12	【課題への対応②】 進行するグローバリゼーションに労働 組合がどのように対応しているかを説 明してもらおう。	進行するグローバリゼーションに労働組合がどのように対応しているかを説明してもらおう。

- 13 ゲスト講義の振り返り ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。
- 14 「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて 連合がめざす社会像を説明してもらい、担当教員によるまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内記入のコメントシート（30 点）+ レポート（70 点）

【学生の意見等からの気づき】

労働用語を随時説明していきます。

【Outline and objectives】

This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.

Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期
曜日・時限：水・1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

*当授業は、4月22日（水）1限を開講日とします。今学期の特殊事情を鑑み、初回は多くの大学のオンライン授業に採用されている「Zoom」というグループディスカッション用のツールを使い、ガイダンスの講義と受講者の皆さんのネットワークの接続状況を確認します。受講希望者は、以下の要領で私までメールにてご連絡下さい。授業の開催通知（参加用のIDとパスワード）を送付します。

・メールタイトル：「就業応用力養成 I」受講希望

・本文に、学生番号、学部名、氏名を記載

例：08L0452 法学部 鈴木美伸

・送信先メールアドレス：yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

*Zoomは初心者でも使いやすいですが、授業時間に自分のPCから接続して下さい。初回に参加できない方は、事情を書いて上記メールアドレスまで送信して下さい。初回授業後に進め方を検討致します。

最後に、今学期は授業内容を開講後に相当見直す予定ですので、ご理解下さい。この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりませんが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力 グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレンストーミング
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリースーツ解析
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは 起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション ・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア 授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ プロジェクトベースラーニング（PBL）－1	資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講話
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
- ・期末テスト ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が60点以上を合格とします。
(欠席が3回以上の者は成績評価対象外)
就職活動での欠席は認めませんが、代替手段（補講等）は用意します。
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・1 | 配当年次：3～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行いません。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループ ワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法

8	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリア モデル 夢を形にして社会課題に 取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルに よる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラー ニング (PBL) - 1 広告代理店の事例 大学をプロデュースする には	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラー ニング (PBL) - 2 学生日線が採用担当者 を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショップ (一部英語で実施)	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼン テーション - 2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラー ニング (PBL) - 3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査 (質問票調査)、定性調査 (企業訪問調査) では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮 (チームワークへの貢献) は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度 (発言数・発言内容)	⇒ 30点
・毎回の小レポート (リアクション・ペーパー)	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末テスト	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール (初回授業で配付) 違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が 60 点以上を合格とします。

(欠席が 3 回以上の者は成績評価対象外)

就職活動での欠席は認めませんが、代替手段 (補講等) は用意します。

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意の PC を理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

LANk200LA

朝鮮語 4 B - I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。
語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

1 韓国の小説・ドラマ・歌・スピーチ・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の数・レベル・ニーズを見て小説・ドラマを適宜変更する。
候補：シークレットガーデン（逆転の女王、二度目の二十歳）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
2 小説・ドラマの一場面を読み、日本語訳する。
3 文型・表現を学び、発音練習をする。
4 読解・暗唱等の課題をする。
5 翌週、単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さん とオモニ ①② シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さん とオモニ ③④ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さん とオモニ ⑤⑥ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さん とオモニ ⑦⑧ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さん とオモニ ⑨⑩	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	インタビュー聞き取り、歌など 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さん とオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

8	サランバンのお客さん とオモニ ⑬⑭ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さん とオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さん とオモニ ⑰⑱ 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と 100 分会話する 聞き取り
12	サランバンのお客さん とオモニ ⑲⑳	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さん とオモニ 最終回 シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	8 期末試験	8 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。
本授業の準備・復習時間は各 1 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
シークレットガーデン DVD
二度目の二十歳 DVD
逆転の女王 DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極性、課題含む）50%、テスト 50%
3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できるもの（スマホでも可）

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。
課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 4 B - II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。

韓国人留学生との会話も行う予定。

一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

1 韓国のドラマ・歌・ニュース・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。

2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。

3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

学生の数・レベル・ニーズを見てドラマを適宜変更する。

候補：華麗なる遺産（逆転の女王、二度目の二十歳）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。

2 ドラマ・ニュースなどを読み、日本語訳する。

3 文型・表現を学び、発音練習をする。

4 読解・音読等の課題をする。

5 単語や音読・暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	華麗なる遺産 3 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 5	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	華麗なる遺産 8 アナウンス	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

10	華麗なる遺産 9 会話練習 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と 100 分会話する
12	華麗なる遺産 10	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 11 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。

本授業の準備・復習時間は 1 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %

3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できる録音機（スマホも可）

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占の大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身につけることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。当面の間、教室での授業ができませんので、オンライン授業を導入します。具体的な方法などは、4 月 23 日の第一回授業日に学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観。現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度、指示する参考文献などは積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して、深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。そのため、毎回必要なレジュメや資料を配布しようと思います。詳しくは、4 月 23 日の第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。
- ・レーニン『帝国主義』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。成績評価の方法については、4 月 23 日の第一回授業日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占の大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身につけることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでのそ都度提示します。当面の間、教室での授業ができないので、オンライン授業を導入します。具体的な方法などは、4 月 23 日の第一回授業日に学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

第 14 回 復習

これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。そのため、毎回必要なレジュメや資料を配布しようと思います。詳しくは、4 月 23 日の第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【参考書】

・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
 ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
 ・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988 年。
 ・レーニン『帝国主義』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となります。そのため、成績評価の方法については、4 月 23 日の第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係について を取り上げる視点
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総 需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積 メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展 開を確認する
第4回	スタグフレーション (1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨 危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション (2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサ イ化
第6回	福祉国家の変容 (1)	小さな政府と新自由主義・新保守 主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容 (2)	サッチャーリズムとレーガノミッ クス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容 (1)	労働分配率の動向、非正規労働、 副業
第9回	労働市場の動向 (2)	労働時間の二分化、労働時間の二 つの統計
第10回	家族の経済学 (1)	ワークライフバランス。 日本、ドイツ、スウェーデン。
第11回	家族の経済学 (2)	保育と介護の政治経済学。ケア労 働の意味を考える。
第12回	労働と生活の調和 (1)	家族の経済学、家族の性別分業と 男女賃金格差、ジェンダー
第13回	労働と生活の調和 (2)	各国のワークライフバランスの比 較と論理
第14回	復習	これまでの講義の内容を整理して 理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは用いない。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（マークシート方式）80%、平常点20%。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題ととりあげて、それを理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係についてをとり上げる視点
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第4回	スタグフレーション(1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション(2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第6回	福祉国家の変容(1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容(2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容(1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第9回	労働市場の動向(2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第10回	家族の経済学(1)	「新家庭経済学」、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー
第11回	家族の経済学(2)	ケアの経済学。保育と介護の社会化。アンペイドワーク評価
第12回	労働と生活の調和(1)	ワークライフバランスをめぐる論争
第13回	労働と生活の調和(2)	各国のワークライフバランスの比較と論理
第14回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは用いない。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（マークシート方式）80%、平常点20%。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済学の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅井和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マンキュー経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済を「人口減少」という側面から捉え、戦後の日本経済を概観する。

1960年代から現在までの経済を回顧することからはじめる。本講義の「日本経済論A」では、日本経済全体を浅く・広く考察し、「日本経済論B」でより深掘しながら講義を行う。ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎知識があることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事に興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少（1）	講義の枠組み、わが国の総人口の動向
2	わが国の人口減少（2）	わが国の人口 3 区分の動向とその含意
3	日本経済の歴史	1960年～2018年までの名目・実質の経済成長
4	高度経済成長	経済成長の理論、成長会計
5	失われてた 30 年	1991 年以降の経済バブル崩壊
6	日本経済と国際経済	人口減少と日本経済 世界の GDP 成長率 世界の財・サービス貿易量 貿易収支
7	金融政策（1）	日本の金融の足取り 金利 物価
8	金融政策（2）	金融政策の理論 貨幣数量説 流動性のわな 流動性の罫のもとでの実質金利
9	財政政策（1）	日本財政の現状 2019 年度・2020 年度の一般会計の歳出・歳入
10	財政政策（2）	財政と社会保障 債務残高の国際比較 国民負担率 MMT 理論
11	労働政策（1）	人口減少と労働政策 産業構造の変化 完全失業率の推移 賃金格差
12	労働政策（2）	解雇の規制緩和 最低賃金 入職・離職率の推移 フリーター 外国人労働

13	地域政策（1）	人口減少と地域政策 都道府県別人口の自然増減と社会増減
14	地域政策（2）	地方創生と地域政策 都道府県別の地域活性化政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①小崎敏男『労働力不足の経済学』日本評論社。
 - ②宮川・細野・細谷・川上『日本経済論』中央経済社。
 - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の最後に質問用紙を配布し、相互対話を深めたい。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

本講義は、遠隔授業で行います。資料はパワーポイント（音声付）を教材の欄に張り付けておきますので、ご利用ください。それとテキスト小崎敏男『労働力不足の経済学』日本評論社を熟読してください。

課題等は授業の 7 回目および 1 4 回目近辺でアナウンスいたします。

【Outline and objectives】

Economic development of Japan after WWII

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15講』新世社

配布資料

【参考書】

ステイグリッツ『公共経済学上』東洋経済
ステイグリッツ『公共経済学下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国の経済を「労働力不足」をキーワードとして講義を行う。本講義は「日本経済論A」で、日本経済全体を浅く・広く講義行ったものをより深く掘り下げて講義を行う。

【到達目標】

新聞の経済ニュースを読みこなすことが出来ることを授業の目標とする。

経済ニュースを読みこなすとは、単に経済の出来事を読むのではなく、その記事を経済理論と結び付けて、理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で、授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、少子化に関する現状と理論 (1)	ガイダンスおよび少子化に関する現状と将来展望
2	少子化に関する現状と理論 (2)	少子化に関する理論的考察 結婚の経済学 子どもの数の決定理論
3	既婚女性の働き方と子どもの数 (1)	女性の働き方と少子化 理論的考察
4	既婚女性の働き方と子どもの数 (2)	既婚女性の働き方と出生数の実証 分析結果
5	超高齢社会への対応策 (1)	高齢化のメカニズム 人口高齢化の問題点
6	超高齢社会への対応策 (2)	高齢者就業対策 超高齢社会の医療・介護システム
7	労働力不足の労働市場 (1)	わが国の労働市場の趨勢と現状 失業率・有効求人倍率からの考察
8	労働力不足の労働市場 (2)	地域別失業率と労働力不足 U V 曲線とミスマッチ失業
9	労働力不足と外国人労働 (1)	外国人労働者の受け入れの現状 特定技能 技能実習生
10	労働力不足と外国人労働 (2)	外国人労働受入れの経済学的検討 賃金・雇用の動向
11	労働力不足と日本的雇用慣行 (1)	日本的雇用慣行とは？ 理論と現実
12	労働力不足と日本的雇用慣行 (2)	労働力不足と日本的雇用システム
13	労働力不足と地方創生	都道府県の少子・高齢化の現状と将来展望
14	労働力不足と技術革新	2000年以降の賃金・雇用動向 労働需要関数と賃金関数 ロボット・AI・IoT

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男『労働力不足の経済学』日本評論社。2900 円+税

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

定期試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の後に質問用紙を配布し、相互対話の機会を増やしたい。

【Outline and objectives】

Labor Shortage of the Japanese Economy

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例年は「国際経済論B」で講義している国際金融論の基礎を「国際経済論A」で講義します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や經常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、マクロ経済との関係を説明できる。為替レートの決定要因から、為替レートの動きと為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日（4月22日）に、学習支援システム（教材）で、授業内容や進め方についてパワーポイント配布資料で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方	配布資料によるガイダンス
第2回	国民所得と国際収支	貯蓄・投資バランス
第3回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第4回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第5回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第6回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第7回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第8回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第9回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第10回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第11回	国際通貨システム	最適通貨圏の理論
第12回	通貨危機のモデル	通貨危機はなぜ起こるか
第13回	授業のまとめ	練習問題の復習
第14回	授業についての質問	授業内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習を行う。毎回の授業を復習する練習問題を解き、配布資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Krugman, Obstfeld & Melitz, International Economics: Theory and Policy, 11th edition, Global edition, Pearson Education, 2017年（翻訳：クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』丸善出版、2017年）清水順子他著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（10回を予定）（30%）と、期末に行う定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Finance and Open Economy Macroeconomics. Students study the determination of exchange rates, then consider the problem of international monetary systems. Students also learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。オンライン学習・課題などについて、正式に学習支援システムで授業が開始されるのは4月21日になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（エクササイズ）および期末試験（もしくはレポート）の結果の合計により成績の評価をします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline and objectives】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例年は「国際経済論A」で講義している国際貿易の基礎理論を「国際経済論B」で講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。英文の資料も配布します。授業内容を復習する練習問題を毎回解き、次回授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第8回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第9回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第10回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第11回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第12回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第13回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配布資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）上：貿易編』丸善出版、2017年
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（12回を予定）（30%）と、期末に行う定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

進捗を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する (All course materials will be distributed through the course website.)

【Outline and objectives】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

4月20日追記：22日の初回の授業についてはプリント配布と課題提出となるが、課題提出は5月14日午前9時としている。学習支援システムにアクセスが難しくてもあまり焦らずに、そのときまでに初回の内容を理解した上で課題をこなして提出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能(1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能(2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能(3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入(1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入(2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
11	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。第1回目：(1)1年次必修の経済学の科目の復習4時間、第2～14回：(1)授業の復習(2時間)、(2)新聞やデータの読み取り(2時間)

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料とレジュメを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
- (2)畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ 新版』有斐閣、2015年、2,750円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。学期の終わりに教室での（対面状態での）定期試験が可能な場合には、提出した課題内容40%、定期試験60%で評価する。また、学期の終わりに教室での（対面状態での）定期試験が不可能な場合には、提出した課題内容により100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（授業コード：K6062）を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。なお、PDFの閲覧とWordを使えるように準備すること。また今後の課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮ってWordに貼り付けて提出という形も想定している。

【Outline and objectives】

Currently, there are many financial problems in Japan, such as huge government debt, increasing social security costs due to the aging and low birth rate, and low growth. In this course, students understand issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

4月20日追記：22日の初回の授業についてはプリント配布と課題提出となるが、課題提出は5月13日午前9時としている。学習支援システムにアクセスが難しくてもあまり焦らずに、そのときまでに初回の内容を理解した上で課題をこなして提出してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の働き	価格機構の働き
第3回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第4回	財政の三つの機能(1)	資源配分機能
第5回	財政の三つの機能(2)	所得再分配機能
第6回	財政の三つの機能(3)	経済安定化機能
第7回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第8回	一般会計歳入(1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第9回	一般会計歳入(2)：国債	国債の規模、累積赤字
第10回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第11回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第12回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第13回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第14回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。第1回目：1年次必修の経済学の科目の復習（4時間）、第2-14回：(1)授業の復習（2時間）、(2)新聞やデータの読み取り（2時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料とレジュメを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

(2)畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ 新版』有斐閣、2015年、2,750円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。学期の終わりに教室での（対面状態での）定期試験が可能な場合には、提出した課題内容40%、定期試験60%で評価する。また、学期の終わりに教室での（対面状態での）定期試験が不可能な場合には、提出した課題内容により100%評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（授業コード：K6063）を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。なお、PDFの閲覧とWordを使えるように準備すること。また今後の課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮ってWordに貼り付けて提出という形も想定している。

【Outline and objectives】

Currently, there are many financial problems in Japan, such as huge government debt, increasing social security costs due to the aging and low birth rate, and low growth. In this course, students understand issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義に加え、理解を深めるため、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
2	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
3	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
4	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
5	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
6	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
7	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
8	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
9	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
10	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
11	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
12	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
13	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。第 1 回目：(1)1 年次必修の経済学の科目および財政学 A の復習（4 時間）、第 2～14 回：(1) 授業の復習（2 時間）、(2) 新聞やデータの読み取り（2 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料とレジュメを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1)『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
- (2)畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ新版』有斐閣、2015 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the impact of taxation, public debt, and public investment on the economy.

ECN200CA
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義に加え、理解を深めるため、演習問題を授業内でおこなうとともに、課題を課す。なお、廣川担当と小林担当の財政学は同一内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

第 1 回目：1 年次必修の経済学の科目および財政学 A の復習（4 時間）、第 2~14 回：(1) 授業の復習（2 時間）、(2) 新聞やデータの読み取り（2 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料とレジュメを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1) 『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ 新版』有斐閣、2015 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the impact of taxation, public debt, and public investment on the economy.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つしてくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、当分の間、オンライン講義を行います。

4月21日の第1回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上でオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義の履修を検討する学生は、仮登録の上でガイダンス資料を閲覧して、履修するかどうかを検討してください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した **up-to-date** な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。教室での講義はプロジェクターを使って行いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について

第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで評価します。

教室授業が行われ、学期末の定期試験も実施されることになった場合には、学期末に定期試験（参照不可）を行い、オンライン授業での小テストやレポート評価と合わせて成績を評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 A
鈴木 誠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインによる開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日を予定している。具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムにて提示するので参照してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインによる授業の進め方、および金融取引	オンラインを活用した授業の進め方を説明し、金融論の授業のイントロダクションとして金融取引における経済主体をテーマとする
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では始め金融について学ぶ学生も少なくないと思われる。従って、授業の有無を問わず、日ごろから金融経済に馴染むことを勧めたい。そのためには日本経済新聞を 30 分以上毎日読むことである。授業の予習については、当該個所について教科書を事前に読み、不明な点が無いように調べるなどの準備が求められる。(120 分程度) また、事後的な復習については、自分で内容を咀嚼し理解できるようにすることが求められる。(90 分程度)

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰著「新エコノミクスシリーズ 金融」 日本評論社、ISBN 4-535-04117-2、2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』 (Pearson Education, 2009)

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムに提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義はプロジェクターを使って行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第2回	金融市場	短期金融市場について
第3回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第4回	外国為替市場	外国為替市場について
第5回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第6回	資産証券化	資産証券化とは何か
第7回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第8回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第9回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルース政策について
第10回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第11回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第12回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第13回	企業金融	企業の資金調達について
第14回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 B
鈴木 誠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。本講義で扱うテーマが金融論Aに比べて複雑になるため、電卓等を利用する頻度は下がる。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融の機能	金融市場概要
2	金融仲介機関	金融仲介の機能
3	不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習 1	情報の非対称性
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	問題演習 2	契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報の経済学に基づく金融論は、初めて学ぶ学生も少なくないと考える。金融論A同様に金融経済に広く知識を得て、その問題意識の解決法を探るために、モデル化を行っている。皆さんが学ぶ対象が出口のモデルだけでは、今後、現実問題の解決につながりません。そこで、授業の有無にかかわらず日本経済新聞やF T等による経済情報の摂取が不可欠です。(60分以上) 授業の前には教科書の該当箇所を予習しておく必要があります。(120分程度)、授業後では復習により知識の定着と判らなかつた箇所を再度整理し、理解しなおす作業がもとめられます。(90分)

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006年）
ISBN 4-535-04117-2, 2000 円（税別）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100%として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義中の問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートホン。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance.

Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課す。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。

『春学期の少なくとも5月連休前はオンラインでの開講となる。それにとまなう変更については、学習支援システムでその都度提示する。具体的な方法などは、4月21日に学習支援システムで提示する。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社

中室牧子・津川友介 (2017) 「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take thi course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応
10	操作変数法	操作変数のモデル 誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」 有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析—回帰分析から因果分析へ」 オーム社
中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を比較することにより、望ましい金融システムが備えるべき要件を学び、望ましい金融システムとは何かを考察する。この講義を受講することにより、金融システム全体の機能や役割について理解でき、個々の金融機関（銀行・証券・損保など）が金融市場の中でどのような役割を担っているのか理解することができる。

【到達目標】

- ・ファイナンス理論の基礎を習得する。
- ・金融取引を阻害する要因とその解決策を理解する。
- ・「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を行う。

（以下追加事項）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムの「お知らせ」を使用し、その都度提示する。授業開始日：5月11日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融とは	金融が経済で果たす役割
2	金融取引の阻害要因	情報の非対称性、逆選択、モラルハザード
3	金融取引の阻害要因	情報開示、情報生産、担保、資金調達手段の選択
4	金融取引の阻害要因	契約の不完備性、コントロール権の配分と所有権の取引
5	金融取引の阻害要因	企業統治の構造、企業買収の仕組み（レバレッジド・バイアウト）
6	金融取引の阻害要因	企業統治における負債契約の活用、事後的な競争の創出
7	金融市場と金融機関	一次市場と二次市場、流動性、証券会社、投資銀行、格付け機関
8	金融市場と金融機関	保険会社、年金基金、銀行、金融システムの型
9	銀行中心のシステム	委託された「モニター・交渉者・保険提供者」としての銀行
10	銀行中心のシステム	流動性創出者としての銀行
11	銀行中心のシステム	「銀行中心のシステム」の特徴と課題
12	市場中心のシステム	情報開示制度、投資家保護、コントロール権市場の活性化
13	市場中心のシステム	証券価格の「情報集計・伝達」機能、分散投資とデリバティブ
14	市場中心のシステム	市場の流動性、市場中心のシステムの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読んでおくこと。
- ・講義後しっかり復習すること。
- ・予習時間は1時間、復習時間は3時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「金融論 第2版」村瀬英彰、日本評論社、2016年

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

（以下追加事項）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】

秋学期の「企業と経済・応用B」を履修する場合、春学期に「企業と経済・応用A」を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

With the comparison of "bank-centered financial system" and "market-centered system", we can consider what the desirable financial system is and its requirements in this lecture. You can understand the functions and roles of the financial system as a whole and the roles of individual financial institutions (banks, securities, non-life insurers etc.) in the financial market.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
檜野 智子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、従来型の銀行を中心とした金融システム（銀行中心のシステム）から、市場メカニズムをより効果的に機能させる資本市場を中心とした金融システム（市場中心のシステム）への移行が進んでいる。この授業では、市場中心のシステムの中で、金融に関わるプレーヤーがどのような影響を受け、どのように金融システムに関わっていくのかを中心に、望ましい金融システム改革を考察する。

【到達目標】

- 金融システム改革が必要な理由を理解する。
- 金融システムが変化の中で、金融機関の果たす役割を理解する。
- 株価の変動が経営者の意思決定に与える影響を理解する。
- 資産運用と金融システムの関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融システムの改革	投資機会の質的变化
2	金融機関と市場	証券化
3	金融機関と市場	資金調達手段の多様化
4	企業経営と市場	評価指標としての株価
5	企業経営と市場	市場との対話
6	資産運用と市場	戦略的代替性・補完性
7	資産運用と市場	依頼人・代理人問題
8	バブル	サブプライム・ローン問題とバブル
9	バブル	バブルの生成原因
10	バブル	バブルが実体経済にもたらす影響
11	バブル	バブルに依存しない金融の構築
12	ルールの多様性と内生性	法と金融
13	ルールの多様性と内生性	投資家保護
14	システム改革をめざして	市場の公正化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 講義前に教科書を読んでおくこと。
- 講義後しっかり復習すること。
- 予習時間は1時間、復習時間は3時間を標準とする。
- 「企業と経済・応用A」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は、講義開始前に「金融論 第2版」の1章から6章を自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「金融論 第2版」村瀬英彰、日本評論社、2016年

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】

「企業と経済・応用A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

In recent years, the financial system is changing from the conventional "bank-centered financial system" to "market-centered system", which increase the function of the market mechanism more effectively. This lecture mainly deals with how financial players will be involved in the new financial system, and we will consider desirable financial system reforms.

ECN200CA
現代ファイナンス入門 A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン授業を導入します。そのため、一部内容に変更の可能性があります。また、評価方法に変更の可能性があります。授業開始日は4月21日です。

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「授業支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ることが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン授業を導入します。そのため、一部内容に変更の可能性があります。また、評価方法に変更の可能性があります。

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデクス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割引距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「授業支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
経済データ分析 A
名城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ
 ※本年度は情報処理室が利用できないため、オンラインでの動画視聴と自宅での自習形式にて講義を行います。
 講義資料を学習支援システムで配布するので、受講生は解説動画を見ながら各自自分の PC で演習を行ってまいります。
 詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で Excel を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・ 講義概要の説明 ・ Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・ 時系列データの表・グラフ作成 ・ 成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・ 度数分布表 ・ 分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・ 平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・ 格差の定量化 ・ ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・ 散布図 ・ 相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・ 移動平均 ・ 循環的な特性と季節調整 ・ 異常値
8	統計的推測	・ 確率、確率変数、確率分布 ・ 正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・ 仮説検定と有意水準 ・ 1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・ 2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・ 分散分析 ・ 1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・ 2 元配置法 ・ 相互効果
13	単回帰分析	・ 単回帰分析 ・ 系列相関とダービーワトソン統計量

- 14 重回帰分析
- ・重回帰分析
 - ・ダミー変数
 - ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

統計学の参考書としては
 ・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会
EXCEL の使い方やデータ分析については
 ・滝川好夫・前田洋樹「経済学のための Excel 入門」日本評論社

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用します。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ **R** を用いた演習を行います。**R** の特徴は **Excel** よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と **R** の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・ R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・ K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・ R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 **A** に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容を復習しておいてください。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店
 - ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社
- 統計学の参考書としては
- ・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使います。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。授業開始日（ガイダンス資料配付）は4月27日、初回のレポート課題は5月11日の予定である。適宜、学習支援システムで進め方等の指示をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第3回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第4回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第5回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第6回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第7回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第8回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第9回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第10回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第11回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第12回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第13回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の日本の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料と板書を基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	繊維からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローカル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
 松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, localization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 4 月 27 日である。インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第 14 回	グループ課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊

【成績評価の方法と基準】

平常点とグループ期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点(30%)＋期末グループ課題レポート(70%)で評価。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA

コーポレートガバナンス論B

胥 鵬

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Bの学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	監査役	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第6回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第7回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第8回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第9回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第10回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第11回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第14回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートをネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点 (30%) + 期末グループ課題レポート (70%) で評価。最初の 1 回目や 2 回目で受講者をグループ分けする。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

CAR200CA
企業実務研究 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、当分の間、オンライン講義を行う。

4 月 23 日の第 1 回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。学習支援システム上でオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義の履修を検討する学生は、仮登録の上でガイダンス資料を閲覧して、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムで配布する国際ビジネスに関する資料を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定である。学習用に配布される教材の形式は文書が基本になるが、一部の講義では受講者が動画コンテンツを視聴する形式となる予定である。受講者は各回の国際ビジネスに関する講義の際に学習支援システム上で課題として提示されるレポート課題に従って提出期限までにレポートを学習支援システムの各課題のページでアップロードすることによって提出することを求められる。

教室での講義では、毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設けるので、積極的に発言しなければならない。その上で、質疑応答と小レポートも毎回提出しなければならない。実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、私語や授業態度の悪い学生は論外である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情

第6回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第7回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第8回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第9回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第10回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第11回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第12回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第13回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第14回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、各自学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘を受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にするのを心がける。

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第1回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討議することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。

参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討議する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第2回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第3回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第4回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第5回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第6回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第7回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第8回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第9回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第10回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第11回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第12回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪

第13回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第3版、日経BP社、2019年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

未手続き者は不可となる。

また、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

同一企業のインターンシップ参加者が多数の場合のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business. Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

POL200CA
国際関係論A
富永 靖敏
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

当面の間、教室での対面式の授業は困難であるため、本講義では、以下のような形で授業を進める予定である。(1) 基本的には、指定したテキスト、教員作成の講義資料を使った学習を促すとともに、(2) 適宜動画資料を用いて内容を補足していく。(3) さらに、適宜授業内容の理解度チェックを学習支援システムを通じて行うことで、授業内容の理解促進を促す。講義は教員が作成したスライド(PDF)を用いて進める。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておく。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性がある。変更がある場合は、学習支援システムを通じてアナウンスする。国際関係論Aは、予定通り、4月22日に開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第2回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第3回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション、冷戦の終結
第4回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第5回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第6回	なぜ戦争は起こるのか I	データで見る戦争、交渉理論の導入（交渉の失敗としての戦争）
第7回	なぜ戦争は起こるのか II	第一次湾岸戦争、情報の非対称性
第8回	なぜ戦争は起こるのか III	イラク戦争、予防戦争論
第9回	戦争の持続期間、終結の仕方、戦後平和の持続期間	情報の非対称性、コミットメントの問題
第10回	国内政治と戦争 I	リーダーの生き残り戦争、観衆費用、結集効果、キューバ危機
第11回	国内政治と戦争 II	政治システムと政治的コスト、民主主義的平和論、陽動理論

第12回 同盟と戦争	他国間戦争への介入条件、同盟の効果（シグナリング、コミットメント）
第13回 国際機関	国際連盟と国際連合、集団安全保障体制、集合行為問題
第14回 復習	学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳（2020）『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6。

【参考書】

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

通常、本授業は期末試験（選択式・記述式）によって 100% の評価をする（試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする）が、現在の状況では教室での試験が行われるか不透明な状況である。したがって、評価方法を現時点で確定できないため、今後の状況次第で判断することとする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human cost, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate those concepts through the actual cases such as the Gulf war and Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に非国家主体を中心とした非伝統的安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主に国家間関係に起因する安全保障問題を対象としたが、国際関係論 B では、内戦やテロリズム、国際犯罪といった国内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第2回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第3回	内戦をめぐる様々な議論	(1) 内戦とは何か：統計資料でみる内戦 (2) どこで起こっているのか (3) 誰が当事者なのか (誰が参加するのか) (4) 何を目的とするのか (何を巡って争っているのか) (5) どのような条件のもとで内戦が起こるのか
第4回	内戦の原因論	(1) 反政府勢力のタイプ (2) 政府のタイプ (3) 情報の非対称性とコミットメント問題
第5回	内戦の持続性と終結	(1) 情報の非対称性とコミットメント問題 (2) 国際仲介と成熟理論
第6回	内戦の再戦と PKO	(1) 絶対戦争と限定的戦争 (2) PKO とは何か：統計資料でみる PKO
第7回	PKO の効果	(1) 国連 PKO の形成・発展 (2) コミットメント問題 (3) 実証分析とセレクション・バイアス
第8回	テロリズムとは	(1) テロリズムとは何か：統計資料でみるテロ、(2) テロの歴史的発展
第9回	テロリズムのメカニズム	(1) 交渉の失敗としてのテロリズム (2) テロリストの戦略

- 第10回 テロリズムと政治体制 (1) 政治体制：民主主義と権威主義 (2) 報道の自由とテロリズム (3) 民主主義体制におけるテロ (4) 実証分析における過小報告バイアス
- 第11回 対テロ戦略 (1) 軍事的アプローチ (2) 法的アプローチ (3) 対テロ戦略の効果測定と実証分析
- 第12回 国際規範 (1) 人権規定 (2) 国家による人権の蹂躪 (3) 人権をめぐる国際合意国際規範の生成と伝播 (4) 非国家主体の影響
- 第13回 貧困と開発 (1) 資源の呪い（統計資料でみる天然資源） (2) 国連の持続可能な開発
- 第14回 復習と試験 講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020) 『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

東大作 (2020) 『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0
 砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩 (有斐閣ストゥディア)』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
 鈴木基史・岡田章 (2013) 『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将 (2015) 『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
 山本吉宣・河野勝 (2005) 『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

期末試験（選択式・記述式）によって 100% の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は、「国際関係論 A」を履修していることを前提としています。

【Outline and objectives】

This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, so-called, traditional security issues, this course largely focuses on "non-traditional security issues". Topics, particularly, include civil wars, terrorism, and transnational organized crimes. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA

経済人類学 A

山本 真鳥

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貨幣や市場が発達した社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 A では、3 つのサブシステム社会の暮らし方とその経済のあり方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の基礎概念を用いて社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。オンライン授業期間中は、講義の代わりに音声の入ったパワーポイントファイルをダウンロードできるようにするので、そのファイルを使って自宅等で学習すること。授業時間が終わっても 2 週間程度はそのままダウンロード可能としておくが、あまりため込まないで学習するようにしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の考え方	貨幣と市場のない経済
第 2 回	サブシステム経済①	採集狩猟民の技術と食料獲得
第 3 回	サブシステム経済②	焼畑農耕民の技術と食料生産
第 4 回	サブシステム経済③	牧畜民の技術と食料生産
第 5 回	労働と生産組織	サブシステムのかたちに応じて異なる生産組織
第 6 回	ジェンダー役割分担	もっとも古い家族内分業のひとつ
第 7 回	生産財の所有と相続	土地制度と社会制度
第 8 回	贈与	贈り物の社会 = 経済学
第 9 回	互酬性	お互い様で作る社会関係、経済関係
第 10 回	経済システムと社会構造	互酬性、再分配、市場交換
第 11 回	未開人は合理的か？	経済人モデルの普遍性を問う
第 12 回	農民社会の経済	コモンズ、労働交換、つきあい等々を検討
第 13 回	モラル・エコノミー	友愛の経済活動
第 14 回	経済人類学の基礎	基礎概念の理解と持続的発展のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの教材箇所アップした教科書の関連部分を読む。それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで、予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材の教科書の箇所アップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】

授業支援システムの教材の箇所アップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 5 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。小テストは、通常授業を想定したもので、授業再開後に行う。オンライン授業が長く続く場合には、別のやり方を考えるので、後日指示をまつこと。学期末試験については、期日が近づいてから指示する。

【学生の意見等からの気づき】

開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question what is economy, examining economy of non-market societies where money and market are underdeveloped. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life and economy in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA

経済人類学 B

山本 真鳥

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貨幣や市場が未発達な社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考える。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 B では、前半は歴史上の社会も含めて非市場経済の経済現象を春学期で学んだ基礎概念を用いて分析する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて、非市場社会や現代社会の事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の4日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	儀礼交換の諸形態①	西太平洋のクラ交換の VTR
第2回	儀礼交換の諸形態②	経済的に意味のない交換はなぜ？
第3回	再分配と酋長制／王権	トンガ王国の構造
第4回	貨幣と交換財①	特定目的貨幣・全目的貨幣
第5回	貨幣と交換財②	タバコと貝貨の資本主義
第6回	市場（いちば）の経済人類学	バザール経済論
第7回	長距離交易	市場交換の原初形態
第8回	植民地主義と開発	辺境社会の開発とその障がい
第9回	開発とジェンダー	貧困の女性化と女性の開発参加
第10回	資本主義経済と文化	企業文化と労働の組み立て
第11回	地域通貨と疑似通貨	コミュニティと通貨
第12回	移民コミュニティの経済①	アメリカ合衆国のエスニック集団形成史
第13回	移民コミュニティの経済②	エスニック・ビジネス
第14回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの教材の箇所に教科書と各回に対応する予習復習資料をアップしてあるので、これらを用いて予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】

授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第6回に出題、締切厳守2週間半後）は20%。随時行う授業内小テストで20%（不定期に4回）。総計60%以上を合格とする。小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】

開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了30分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】

The purpose is to consider what is economy, examining economy of non-market societies. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies. In Economic Anthropology B, economic phenomena of historical non-market societies will be analyzed, while modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

開講日は4月23日（木）である。当面はオンライン講義（Hoppii）で進める。随時、Hoppiiにアクセスすること。動画配信が可能となる段階で、オンデマンド講義に移行する予定である。

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】

ターナー・ピアス・バイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

開講日は4月23日（木）である。当面はオンライン講義（Hoppii）で進める。随時、Hoppiiにアクセスすること。動画配信が可能となる段階で、オンデマンド講義に移行する予定である。

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第2回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第3回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第4回	外部性②	課税政策。
第5回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第6回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第7回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第8回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第9回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】

ターナー・ピアス・バイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策、中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシヤティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任

第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II- E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社。

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策、中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシヤティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任

第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II- E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社。

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

授業開始日（ガイダンス資料配付）は4月27日、動画配信は5月4日開始となる。動画視聴の期間は各回3週間なので、計画的に視聴して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド①		
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
オンデマンド②		
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
オンデマンド③		
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
オンデマンド④		
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
オンデマンド⑤		

第9回 経済の空間構造② 都市発展と都市システム

オンデ

マンド

⑥

第10回 経済の空間構造③ 都市の理論・モデルと実際

第11回 国土政策と地域経済① 日本の地域構造と地域間格差

回 オン

デマン

ド⑦

第12回 国土政策と地域経済② 国土政策と地域政策の系譜と現状

回 オン

デマン

ド⑧

第13回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

第14回 都市・地域開発と政策 都市・地域問題の現状と新たな政策

回 オン

デマン

ド⑨

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野綱果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパー（平常点20%）、オンデマンド授業の課題（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
オンデマンド⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド⑥		
第 10 回	産業集積のダイナミズム	産業のグローカル化

第 11 回	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT 生産システム
オンデマンド⑦		
第 12 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
オンデマンド⑧		
第 13 回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在
第 14 回	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
オンデマンド⑨		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
 川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
 藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
 山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパー（平常点 20%）、オンデマンド授業の課題（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA
アメリカ経済論 A
河村 哲二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、A、Bを通して、バックス・アメリカナンの盛衰という長期的視点に立って、第二次大戦後、世界経済をリードしたアメリカ経済の発展構造の特質と問題点を解明し、そうした長期的・総合的な視点にたつて、2000年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機、さらに最近の「トランプ現象」など、日本経済・世界経済の動向の理解に不可欠なアメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済論 A では、アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970年代を境にした戦後バックス・アメリカナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、スライドを掲示し、テキスト『現代アメリカ経済』と『アメリカ経済入門』を随時使用して進める。受講生は WEB 公開される講義スライド・その他の資料をダウンロードし、テキスト・参考書とともに、講義中および予習・復習に利用して学習する。

※【学習支援システム】による授業開始：4月27日(月)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第2回	序論 アメリカの社会経済的特質と歴史過程	歴史的発展過程にみるアメリカの特質。
第3回	第1章 第一次大戦前の経済発展とその特徴	植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴。
第4回	1. 初期の経済発展 2. 国民経済の発展	南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）。
第5回	3. 工業・農業発展と「ビッグビジネス」の登場	南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグ・ビジネス」の登場。
第6回	第2章 戦間期 1. 第一次大戦と1920年代	戦間期前半期の経済発展（「永遠の繁栄」と「大恐慌」）。
第7回	2. 株式ブームの発展と世界経済的不均衡	耐久消費財ブームの限界・「株式ブーム」の発展と崩壊。
第8回	3. 世界大恐慌とニュー・ディール	世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場。
第9回	(1) ニュー・ディール (2) ニュー・ディールの限界と1937年恐慌	ニューディール政策の限界。
第10回	第3章 戦後バックス・アメリカナンの形成	第二次大戦戦時経済と戦後バックス・アメリカナンの形成。
第11回	1. 第二次大戦期戦時経済	戦時経済システムの概要とその特徴。
第12回	(1) 戦時経済システム (2) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換	戦時経済下の制度構造・システム転換。
第13回	2. 戦後バックス・アメリカナシステム (1) 「持続的成長」の国内システムの登場	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成（国内体制）。
第14回	(2) 「持続的成長」の世界政治経済システムの形成 講義内容のまとめ	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成（バックス・アメリカナの世界政治経済体制）。 戦後バックス・アメリカナンの確立の歴史的意義。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web 掲載される講義スライドを事前に入手し、指定テキスト（『現代アメリカ経済』など）とともに、必ず予習・復習する。課題レポートに対応する。本授業の準備・復習時間として、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）。

【参考書】

テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献一覧、その他から適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、主に期末筆記試験によって評価する（90%）。これに課題レポートの評価を加味する（10～20点の範囲で筆記試験結果に加点）（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化が、大きく理解を助けるとして好評なため、引き続き拡充を図る。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

理論経済学 アメリカ経済論・グローバル経済論

【Outline and objectives】

This lecture elucidates the specific futures of the U.S. post-war economy that lead the world economy, from a long-term perspective of its historical development. Through the whole lecture of A and B, it aims at deepening the understanding of the contemporary states and problems of the U.S. economy in the 2000s. It discusses the important topics of the current issues of the U.S. economy, including the global financial and economic crisis in the late 2000s and the "Trump phenomenon".

ECN200CA
アメリカ経済論 B
河村 哲二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後パックス・アメリカナの衰退・転換とアメリカ経済の「グローバル資本主義化」という視角から、1980年代以降のアメリカ経済の現状と問題点を解明し、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題、さらに「トランプ現象」と関連したパックス・アメリカナの变容の行方を展望する。

【到達目標】

春学期のアメリカ経済論 A の講義を受けて、1970年代を境にグローバル化を通じた「グローバル成長連関」の出現によって新しい経済発展の構造が登場したアメリカ経済が、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機によってさらに大きな変容を遂げようとしていることを、歴史的な背景とともに学び、アメリカおよび世界経済の現状と今後の行方を展望することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、講義計画にそって、スライドを提示しながら進める。受講生は、アップロードされたスライド講義資料とその他参考文献を講義中および予習・復習に利用して学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論 戦後パックス・アメリカナの衰退と転換	戦後パックス・アメリカナの衰退と転換と経済グローバル化の意義。
第2回	第1章 戦後パックス・アメリカナ 1. 戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	戦後パックス・アメリカナの「持続的成長」のシステムの特徴：戦後企業体制と政府機能/世界編成。
第3回	(2) 戦後世界の政治経済システム	国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み。
第4回	2. 戦後パックス・アメリカナの衰退と転換	内在的問題の発展と衰退。
第5回	(1) 「レーガノミクス」	1980年代以降のアメリカ経済の変容と「レーガノミクス」。
第6回	(2) 金融の変容	金融革新・「ファイナンシャルイノベーション」の展開。
第7回	(3) 企業体制・労使関係の転換	戦後企業体制の転換とグローバル化。
第8回	3. 「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティ」の重層的発展。
第9回	(2) 「新帝国循環」と金融的発展	アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴。
第10回	4. 1990年代の長期好況 (1) IT革命とニューエコノミー	1990年代長期好況・「ITブーム」とその限界。
第11回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ① 「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブーム」のメカニズムと「サブプライム問題」の発展。
第12回	② グローバル金融危機の展開	グローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響。
第13回	③ 緊急景気対策	緊急景気対策の特徴と限界。
第14回	5. 経済回復過程の特徴と問題点 まとめと展望	アメリカ経済の回復過程の現状。講義の総括とパックス・アメリカナの行方の展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Web掲載される講義スライドを事前に入手し、指定テキスト（『現代アメリカ経済』など）とともに、必ず予習・復習する。課題レポートに対応する。本授業の準備・復習時間として、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）／河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）／河村哲二編『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変容』（ナカニシヤ出版、2018年）。

【参考書】

『現代経済の解説（第3版）』（御茶の水書房、2017年）、『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変容』（ナカニシヤ出版、2018年）、および、テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献・その他から講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主に期末筆記試験によって評価する（90%）。これに課題レポートの評価を加味する（10～20点の範囲で筆記試験結果に加点）（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料における各種画像資料の提示や図式化を引き続き拡充する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline and objectives】

Following the discussions in the lecture of the U.S. Economy A, this lecture aims at elucidating specific features and the problems of the U.S. economy after the 1980s, from a perspective of the decline and transfiguration of the postwar Pax Americana system and its transformation into the "Global Capitalism", including the U.S. centered global financial and economic crisis and the "Trump Phenomenon", thereby giving a prospect of the future of the Pax Americana system.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦の敗戦後、東西分断という困難の下で復興を遂げたドイツは、1990年の再統一を経て今日欧州トップの経済大国へと成長した。本講は欧州経済統合の礎となる1945年から80年代半までのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

第二次大戦後の世界情勢、とりわけ米ソ冷戦体制とヨーロッパ経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日の欧州連合に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
- ・春学期は状況が安定するまで学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信しますので、4月22日の授業時間にあわせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	現代欧州社会におけるドイツの位置	ドイツ問題を中心に戦後ヨーロッパの発展を学ぶ意義について。
第2回	第二次大戦終結と連合国占領政策	連合国によるドイツ分割統治と占領政策、ニュルンベルク裁判を学ぶ。
第3回	マーシャルプランとヨーロッパの経済復興	アメリカ主導の復興支援、トルーマン・ドクトリンと東西陣営形成を見る。
第4回	通貨改革と東西ドイツ	通貨改革、政治経済的分断。
第5回	ドイツ連邦共和国アデナウアー政権と冷戦体制	西ドイツ国際社会への復帰と安全保障問題、冷戦体制。
第6回	西ドイツ社会的市場経済と経済相エアハルト	社会的市場経済、理論的背景と実践。
第7回	西ドイツ経済の奇跡	高度経済成長、大衆消費社会と生活水準の向上について見る。
第8回	石炭・鉄鋼問題とヨーロッパの協調	欧州石炭鉄鋼共同体と独仏関係。
第9回	ヨーロッパ市場統合の模索	欧州経済共同体と欧州自由貿易連合。
第10回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの福祉政策。
第11回	ドイツ民主共和国とベルリンの壁	ソ連・東欧社会主義体制。
第12回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策	西ドイツ新東方外交から全欧安全保障協力会議へ。
第13回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	高度経済成長の終焉、1970年代世界経済の停滞と西欧、東欧の状況を見る。
第14回	ケインズ主義から新自由主義へ	1980年代新自由主義的政策の潮流。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学期に一回、レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間の合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】

- ・W・アーベルスハウザー著、酒井昌美訳『現代ドイツ経済論：一九四五―八〇年代にいたる経済史的構造分析』朝日出版社、1994年
- ・猪木武徳『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社、2009年
- ・戸原四郎、加藤栄一編『現代のドイツ経済：統一への経済過程』有斐閣、1992年
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会、2007年

【成績評価の方法と基準】

平時の成績評価の原則は、試験50%、レポート50%。レポート未提出者は試験受験資格無し、としてきた。しかし、本年度春学期は特殊事情のため、状況が落ちつくまで、過渡的措置として、学習支援システムを通じた授業形態となることに合わせ、学習確認として定期的に小課題を出しその提出と達成度を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は 1980 年代後半から現在に至るヨーロッパ情勢に関し、東欧平和革命、冷戦の終結、ソ連型社会主義の終焉、ドイツ再統一からヨーロッパ連合の成立、EU 東方拡大の流れにおいて跡付けつつ、今日なお変容を続ける EU の政策と実践に関し考察する。

【到達目標】

冷戦の終焉が世界経済に及ぼした影響を理解する。欧州連合（EU）の成立に関し欧州単一市場形成・通貨統合、EU 独自のガバナンスならびに域内及び域外に対する EU の役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会主義体制、停滞から改革へ	ソ連のグラスノスチとペレストロイカ、チェルノブイリ原発事故を学ぶ。
第 2 回	1989 年東欧革命	社会主義諸国の民主化運動から冷戦終結まで。
第 3 回	東ドイツ平和革命	東ドイツ民主化運動とベルリンの壁崩壊。
第 4 回	ドイツ再統一と国際関係	ドイツ最終規定条約、東部国境問題など。
第 5 回	ドイツ東西経済格差と統一の負担	移行期の負担、旧東独の政治的清算など。
第 6 回	ソ連・東欧社会主義崩壊後の展開	旧社会主義諸国の体制転換と移行経済について。
第 7 回	ヨーロッパ共同体からヨーロッパ連合へ	マーストリヒト条約、単一市場問題について。
第 8 回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について。
第 9 回	ヨーロッパ連合の機構と運営	EU の諸組織と EU 独自のガバナンスを学ぶ。
第 10 回	ヨーロッパ連合加盟諸国の経済・社会構造	EU 各国の特色、均一性と多様性について。
第 11 回	ヨーロッパ連合の通商と農業問題	共通通商政策、共通農業政策について。
第 12 回	ヨーロッパ連合のエネルギー・環境問題	主要国のエネルギー問題と環境政策に関し。
第 13 回	ヨーロッパ連合の共通外交、安全保障問題	国際紛争への対応、国連及び NATO との関係。
第 14 回	ヨーロッパ連合の労働市場と難民問題	移民・難民流入と労働・社会問題について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・数回に一回、レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】

・工藤章・藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房、2019 年
・小川和男『東欧：再生への模索』岩波書店、1995 年
・庄司克宏『欧州連合：統治の論理とゆくえ』岩波書店、2007 年
・田中・長部・久保・岩田『現代ヨーロッパ経済』第 5 版、有斐閣、2018 年
・NHK スペシャル社会主義の 20 世紀』日本放送出版協会、全 6 巻、1990/91 年

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、レポート 50 %。レポート未提出者は試験受験資格無し。

【学生の意見等からの気づき】

対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日（火曜）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーター産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。成績評価の方法についてはオリエンテーション、および授業中で提示する

【学生の意見等からの気づき】

まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は席移動、または退出などの処置をとる。

【学生が準備すべき機器他】

講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ 1	各経済統計による概観
6	タイ 2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア 1	各経済統計による概観
8	マレーシア 2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア 1	各経済統計による概観
10	インドネシア 2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン 1	各経済統計による概観
12	フィリピン 2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験によって評価を行う（70～100 %）。授業中のミニテスト、授業態度などを平常点として加減する場合もある（最大 30 % 前後まで考慮する予定）。受講学生の大多数がミニテストによる加点を望まない場合はミニテストを実施しないこともありうる。

【学生の意見等からの気づき】

まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は席移動、または退出などの処置をとる。

【学生が準備すべき機器他】

講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA
中国経済論 A
多田 稔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国におけるマクロ経済の成長動向とその要因を改革・開放政策の歴史を通して理解した上で、高度成長をもたらしてきた要因を移行経済論および開発経済論のフレームワークを利用して検討します。

特に「国家資本主義」とも形容される現体制について、国家・企業間関係を中心とする「中国モデル」という視点での新たな分析、検討に取り組みたいと考えています。

以上の分析、検討を通じて中国経済のマクロ動向、成長要因の分析、さらには、今後の課題を検討することが本講義の最終的な目的です。

【到達目標】

1978年12月に改革・開放政策が実施されて以降の中国におけるマクロ経済の動向および現状について正確に把握すると共に、今後の中国経済の見通しについて各自、自身の見解を整理し、他の人々に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

Hoppii 学習支援システム内の「お知らせ」にアップロードしている下記文書を参照してください。

「4/22 水曜日の初回講義について」

詳細については、初回講義日（4/22 水曜日）にオンラインにてお伝えする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction -世界の 中の中国経済-	現代中国の経済、社会の現状と 今後について、いくつかの Topics および Keyword を紹介 すると同時に、それらを利用した 講義の進め方について紹介。
第2回	改革・開放政策と移行 経済論① -改革・開 放政策史（導入）-	改革・開放政策の前史としての旧 社会主義システムの分析および移 行経済論の紹介。
第3回	改革・開放政策と移行 経済論② -改革・開 放政策史（前編）-	中国経済の飛躍的發展を実現した 改革・開放政策史（前編）の分析。
第4回	改革・開放政策と移行 経済論③ -改革・開 放政策史（後編）-	中国経済の飛躍的發展を実現した 改革・開放政策史（後編）の分析。
第5回	改革・開放政策と移行 経済論④ -アジアの 移行国としての中国-	中国が選択した移行プロセスの手 法としての「Gradualism（漸進 主義）」とその到達点としての 「社会主義市場経済体制」の検討。
第6回	改革・開放政策と移行 経済論⑤ -「五ヶ年 計画」と産業政策&ク ラスタの形成-	「五ヶ年計画」から「五ヶ年計画」 への転換と各種産業政策の分析。 加えて、その結果としてのクラス ターの形成と現状の分析。
第7回	改革・開放政策と移行 経済論⑥ -「引進來」 から「走出去」へ	「輸入代替工業化戦略」から「輸 出志向型工業化戦略」への転換と 経済發展との関係性についての分 析。

第8回	改革・開放政策と移行 経済論⑦ -「盲流」、 「民工潮」から「民工 荒」へ	労働市場における農民工の現状、 その果たす役割、さらには、同存 在と密接不可分の制度としての戸 籍制度等に関する分析。
第9回	国際金融と人民元① -米中貿易摩擦と人 民元-	米中貿易摩擦と中国における通貨 (人民元) および為替管理制度の 分析。
第10回	国際金融と人民元② -「一带一路」政策 とアジアインフラ投資 銀行・BRICs 銀行・ シルクロード基金-	「一带一路」政策の現状と中国が 主導する各種国際金融機関の分 析、検討。
第11回	国際金融と人民元③ -「一带一路」政策 と人民元-	人民元の国際化に関する現状と 「一带一路」政策の果たす役割に ついての分析。
第12回	中国型成長モデルとそ の転換① -「中所得 国の罫」と「移行国の 罫」-	中国経済が今後直面する可能性の ある（既に直面している？）「2 つの罫」に関する分析。
第13回	中国型成長モデルとそ の転換② -「国家資 本主義論」と「開発独 裁体制論」-	中国型成長モデルとしての「国家 資本主義論」、「北京コンセンサ ス」および「開発独裁体制論」の 妥当性、また、その普遍性につい ての検討。
第14回	中国型成長モデルとそ の転換③ -新たな分 析フレームワーク-	これまでの分析フレームワークの 整理、検討と新たなフレームワー クの提言。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第6回、第13回講義終了後に特に関心を持ったテーマについてレポートを提出して頂きます。また、経済・経営に限定することなく、中国に関する様々な情報に積極的に接するように努めてください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、復習を中心に各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストを指定せず、毎回、当方が作成したオリジナルのパワーポイントに基づき講義を進めます。

【参考書】

上原 一慶 『民衆にとっての社会主義』（青木書店）、加藤 弘之編著 『二重の罫を超えて進む中国型資本主義』（ミネルヴァ書房）、ドナルド・コース・王寧 『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）、その他、講義内において適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 %
課題の提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will study the development trend and factors of China's macroeconomic through the history of Reform and Opening Up policies using the framework of development economics and transition economic theory.

Specifically, we will consider the existing system being defined "state capitalism" in the view point called "the Chinese model" being based on the relationship between the state and enterprises.

Finally, the following points will be the major issues to be examined — Market economy system under the socialist system, Transition to the Chinese economy, Macroeconomic control system, role of government, regional development and disparity, trap of middle income country, relation between economic growth and political system.

ECN200CA
中国経済論 B
多田 稔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国における高度経済成長のミクロ要因としての企業組織について、国家・企業間関係を中心とする「中国モデル」という視点で所有形態別に理解すると共に、その今後の活動、成長に影響を及ぼすであろう人口（労働力）、農業、環境問題等について具体的なデータを用いて明らかにし、今後の問題点を検討することが本講義の最終的な目的です。

【到達目標】

中国企業の組織上の諸特徴、少子高齢化を含む人口（労働市場）の動向、農業、環境問題等について、経済学の基礎知識をもとに正確に理解した上で、今後の見通しに関する自身の見解を整理し、他の人々に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、当方が作成したオリジナルのパワーポイントを用いて各回ごとの要点および付随事項を説明します。半期毎に2回、特に関心を持ったテーマについてレポートを提出して頂きます。

なお、適宜、なおDVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国家・企業間関係① -国有企業改革のプロセスと民間企業育成政策の実施-	改革・開放政策の実施に伴う国有企業を中心とした企業改革の動向と多様な企業組織の実情紹介。
第2回	国家・企業間関係② -国家・国有企業群間関係論-	国有企業群の形成、再編とその経済発展に果たす役割、さらには国家との関係性についての検討。
第3回	国家・企業間関係③ -国有企業の成長事例- 「海信集团有限公司」	山東省青島市政府管轄の優良地方国有企業である「海信集团有限公司」をとりあげ、組織上の特徴に関する分析および日本の経営との比較。
第4回	国家・企業間関係④ -国家・民間企業群間関係論-	民間企業群の形成とその経済発展に果たす役割、また、国家との関係性についての検討。
第5回	国家・企業間関係⑤ -民間企業の成長事例- 「華為技術有限公司」	著名な中国の民間企業であり、今話題の「華為技術有限公司」をとりあげ、その組織上の特徴に関する先進国企業との比較。
第6回	国家・企業間関係⑥ -外資系企業群による投資の展開と現状-	外資系企業群による分野毎における投資額推移の概観、経済成長に及ぼした影響および最近の実情等についての検討。
第7回	経済発展と人口問題① -「一人っ子政策」の背景-	「一人っ子政策」を採用するに至った事情について、当時の人口動態を中心とした諸事情を踏まえた考察。
第8回	経済発展と人口問題② -「一人っ子政策」の展開とその転換-	「一人っ子政策」が経済成長に及ぼしてきた影響およびその政策転換の背景についての検討。

第9回	経済発展と人口問題③ -「人口紅利」の終焉と労働力不足-	経済成長を促進する要因であった生産年齢人口の減少傾向を論証したうえで、日本など他国との比較に基づく今後の見通しについての検討。
第10回	経済発展と人口問題④ -「未富先老」時代の到来と少子高齢化-	年金、医療保険等の社会保障制度の現状と少子高齢化についての検討。
第11回	中国経済と農業問題① -農業生産の動向と農業政策-	農業生産動向とその問題点を概観した上で農業の産業化という新たな動向についての検討。
第12回	中国経済と農業問題② -食糧問題の推移と現状-	レスター・ブラウンの問題提起、中国の新たな食糧問題についての検討。
第13回	中国経済と農業問題③ -「三農」問題と中国農業の行方-	農民の貧困、農業の低迷、農村と都市の間の格差問題についての分析。
第14回	経済成長と環境問題 -環境汚染の現状と政府の対応-	経済成長に伴う環境問題の発生と現状、また政府の対応、政策の変遷等についての紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第6回、第13回講義終了後に特に関心を持ったテーマについてレポートを提出して頂きます。「中国経済論 A」同様、経済・経営に限定することなく、中国に関する様々な情報に積極的に接するように努めてください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、復習を中心に各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストを指定せず、毎回、当方が作成したオリジナルのパワーポイントに基づき講義を進めます。

【参考書】

佐々木 信彰編著『現代中国の産業と企業』（晃洋書房）、渡邊 真理子編著『中国の産業はどのように発展してきたのか』（勁草書房）、定方正毅『中国で環境問題にとりくむ』（岩波新書）、その他、講義内において適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 %

課題の提出 30 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will study the company organization as the micro-factor of the rapid economic growth in China according to ownership structures in the view point called "China model" being based on the relationship between the state and enterprises.

And we will clarify about population(work force), agriculture, the environmental problem that will have an influence on the future activity, growth. It is the final purpose of this lecture that examines future problems.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語をすでに学んだ人を対象に、日常生活に身近な話題についてドイツ語で理解したり、表現できることを目標にします。今回オンラインで授業することになりましたが、私が持っているドイツ語の結晶をみなさんに伝えたいと思っています。

【到達目標】

1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して、ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について、簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化、社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】**【新型コロナウイルス感染症により変更】**

授業の開始日は、4月22日（水）です。毎回の授業は、法政大学の学習支援システム（Hoppii）に、授業資料 PDF と音声データをアップします。また以下の授業計画通りには行えないこともご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	旅行 (1)	「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第 3 回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第 4 回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第 5 回	都市 (1)	現在完了で表現する
第 6 回	都市 (2)	道を尋ねる
第 7 回	都市 (3)	交通手段
第 8 回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第 9 回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第 10 回	ドイツの大学	進学率
第 11 回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第 12 回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第 13 回	天気	脱炭素社会のフロントランナーを突き進むドイツ
第 14 回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**【新型コロナウイルス感染症により変更】**

授業はオンラインで行い、課題提出などがあります。オンデマンド方式なので、自分の好きな時間に受講できます。ただし、課題は「期限内」に提出をお願いします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-。三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】**【新型コロナウイルス感染症により変更】**

1. 大学への登校が許可されない場合
課題および小テスト (70%) オンラインによる試験 (30%)

2. 大学への登校が許可された場合

課題および小テスト (50%) 教室での筆記試験 (50%)
課題、小テストは 2 回目以降から採点対象にします。毎回の得点を加算し、上の基準に換算します。試験も同様に換算します。
いずれも 60%以上の得点で単位を認定します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。より楽しい授業を目指します。

【その他の重要事項】

原則、ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

This course aims to understand and express in German the topics that are familiar to everyday life. In addition, using videos and the latest data, we will compare cities, work styles, lifestyles and customs in Germany and Japan. This course requires that participants have learned German for at least one year.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語をすでに学んだ人を対象に、日常生活に身近な話題についてドイツ語で理解したり、表現できることを目標にします。さらに、映像や最新のデータを使って都市、働き方、暮らし、慣習についてもドイツと日本の比較をします。

【到達目標】

1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して、ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について、簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化、社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

4 技能（読む、書く、聞く、話す）が身につくように、各単元はゆっくりに進めます。文法の説明も詳しく行います。授業の最後にリアクションペーパーの提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決
第 7 回	サービス業 (3)	学生のバイト事情
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	総復習	秋学期のまとめ
第 14 回	授業内試験と解説	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学習得には予習・復習が重要なため、毎回課題があります。勉強の手順がわかるように、授業で説明します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-。三修社

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 (40%)、筆記試験 (60%) で 60% 以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は、原則単位を認定しません。なお、遅刻は 30 分を 1 単位として、3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明は、基本からいねいに行います。進度をゆっくりにして無理なく学べるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、タブレット等で、教科書の音声を聞く必要があります。

【その他の重要事項】

原則、ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

This course aims to understand and express in German the topics that are familiar to everyday life. In addition, using videos and the latest data, we will compare cities, work styles, lifestyles and customs in Germany and Japan. This course requires that participants have learned German for at least one year.

LANf200CA
フランス語セミナー B
前之園 春奈
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】

・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	道路、道筋のやりとり	田舎で迷って道を尋ねる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第2回	第1回の復習、落とし物、探し物	落とし物をした場合の会話、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第3回	第2回の復習、話に条件を交える（～だったら、なら）	前回の復習／条件を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第4回	第3回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第5回	挨拶、紹介するとき	挨拶・紹介する、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第6回	第5回の復習、赦す、弁解するとき	前回の復習／赦す・詫げる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第7回	第6回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第8回	招待したり、受けたり、断るとき	招待をする／受ける／断る、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第9回	第8回の復習、体調について述べ、薬を買い求める	前回の復習／（薬局で）健康状態について。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第10回	第9回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第11回	意見を尋ねたり、述べる	意見を尋ねる、意見を述べる、文法的な知識・語彙の習得
第12回	第11回の復習、慰めたり、励ます	前回の復習／慰める、励ます。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第13回	第12回の練習の復習	前回の継続ならびに復習
第14回	第13回の練習と復習、学期末まとめ試験	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

テキストの会話部分はあらかじめ目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次回授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスの情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français, 2e édition, Niveau débutant,
ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 67% 平常点 33%

【学生の意見等からの気づき】

テキストの音声はノーマルスピードで早い臨場感がある。テキストはすべてフランス語だが、設問の指示などは見て感覚的にわかるようになったという感想を聞かされている。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA
フランス語セミナー A
前之園 春奈
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】

・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拓げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくつかの応用を考える。一冊以上のフランスに関係する書籍について、レポートをまとめ学期末までに提出する。

↓

春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となります。それにとまなう授業計画の変更については学習支援システムでお知らせします。本授業の開始日は4月22日を予定しています。この日までにオンライン授業の方法などを学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	パン屋と買い物表現	店舗（パン屋）での商品の求め方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第2回	第1回の復習、マルシェと数量表現。	前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第3回	第2回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習。
第4回	カフェ（店）と、注文の表現	カフェでの注文の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第5回	第4回の復習、駅とチケット予約の表現	前回の復習／駅での予約の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第6回	第5回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第7回	衣料品（店）と、商品選択の表現	衣料品店での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第8回	第7回の復習、靴屋、商品非購入の表現	前回の復習／靴屋での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第9回	第8回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第10回	診療所と診察申し込みの表現	医師の予約について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第11回	第10回の復習、歯医者者と予約変更	前回の復習／歯医者者の予約（の変更）について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第12回	第11回の練習と復習。	前回の継続ならびに復習
第13回	地下鉄、問い合わせの仕方	地下鉄での問い合わせ、文化背景、文法的な知識・語彙の習得

第14回 第13回の復習、学期 前回の継続ならびに復習／ふりか
末まとめ試験 A えりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant,

ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 67%、平常点（含むレポート）33%

↓

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。変更点については学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引き訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインで^{*}の開講となります。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで^{*}その都度提示します。本授業の開始日は4月22日（水2）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス：春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させる。対策過去問などを解く。また、生きたロシア語を身近なものとするために、CDやDVDでロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級）1	関係代名詞
第12回	ロシア語能力検定試験対策（3級）2	数詞（数詞と名詞の変化）

第13回 テキスト読解と視聴覚 テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習

第14回 テキスト読解 テキスト読解、検定試験対策
検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2017年
- ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620
- ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
- ・その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合、テストではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み姿勢、課題の提出）で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This course is for students who finished basic Russian course
The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary; 3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

・10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。
 ・さらに中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第6回	中級文法（被動形動詞1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞1）、会話練習
第7回	中級文法（被動形動詞2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞2）、会話練習
第8回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第9回	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第10回	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））
第11回	テキスト読解とその映像資料のリスニング1	テキスト読解（ロシア文学作品：チャーホフ）、映像資料のリスニング
第12回	テキスト読解とその映像資料のリスニング2	（ロシア文学作品：プーシキン）、映像資料（映画）のリスニング

第13回 テキスト読解とその映像資料のリスニング3
（ロシア文学作品：ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング

第14回 テキスト読解とその映像資料のリスニング4
（ロシア文学作品：トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620

・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））
 ・その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013年
 『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70%、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが30%で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点50%、ミニテスト等20%、学期末試験が30%の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】

First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
若林 ゆりん
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
授業開始日は4月30日になります、初回のガイダンスとなりますので、是非参加してください。参加方法は後日お知らせいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課 程永華大使より日本の若者へ贈る言葉	本文の読解 文法説明
第3回	第2課 二大「国民的料理」は今	本文の読解 文法説明
第4回	1、2課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第5回	第3課 AIが学校にやってきた	本文の読解 文法説明
第6回	第4課 仕事に生きるか、人として生きるか	本文の読解 文法説明
第7回	3、4課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第8回	第5課 宅配便で中国人の暮らしが一変	本文の読解 文法説明
第9回	第6課 仮面家族がなぜ人気？	本文の読解 文法説明
第10回	5、6課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第11回	第7課 呼び名に見る人間関係と社会の変化	本文の読解 文法説明
第12回	第8課 茶葉古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ	本文の読解 文法説明
第13回	7、8課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2020年度版』朝日出版社、2020年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%

【学生の意見等からの気づき】

日本人学生と留学生の文化交流も意識して授業を進めていきたい、

【その他の重要事項】

2年間程度中国語を学習した人を対象とします。
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回の授業で面接を行います。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課 都市こぼれ話	本文の読解 文法説明
第 3 回	第 10 課 中国マネーが日本の中 小企業を救う	本文の読解 文法説明
第 4 回	9、10 課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第 5 回	第 11 課 北京を悩ませるヤナギ の綿毛	本文の読解 文法説明
第 6 回	第 12 課 中国、総フィットネス 時代へ	本文の読解 文法説明
第 7 回	11、12 課のまとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第 8 回	第 13 課 内モンゴルのネットア イドル	本文の読解 文法説明
第 9 回	第 14 課 北朝鮮へのノスタル ジー・ツアー	本文の読解 文法説明
第 10 回	第 15 課 雄安新区、まもなく満 3 歳	本文の読解 文法説明
第 11 回	13、14、15 課の まとめ	関連記事の紹介 学生によるディスカッション
第 12 回	補助教材（新聞記事）	本文の読解 文法説明 ディスカッション
第 13 回	補助教材（新聞記事）	本文の読解 文法説明 ディスカッション
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2020 年度版』朝日出版社、2020 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

日本人学生と留学生の文化交流も意識して授業を進めていきたい、

【その他の重要事項】

2 年間程度中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回の授業で面接を行います。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、(可能な限りスペイン語で)発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【4/19 追記：新型コロナウイルス問題による変更について】

本授業の開始日は 4 月 23 日とする。春学期の少なくとも前半はオンライン授業となる。それともなう授業計画や方法等の変更については、学習支援システムでその都度提示するので、適宜確認すること。まずは、すみやかに学習支援システムの「仮登録」を行うこと (情報システムの履修登録とは別に必要なので要注意)。https://www.hosei.ac.jp/keizai/important/article-20200401182844/ を読み、Web 掲示板にログインし、表示される指示に従うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等から選出して和訳する。同テーマについてリサーチし、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。 ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨、復習②	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①該当スペイン語文の和訳 (グループで 10 行～1 ページ程度)、②発表準備 (リサーチ、資料作成等)。準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店 (2012)
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社 (2013)
『ペルー (ARC レポート) 経済、貿易、産業報告書』ARC 国別情勢研究会 (2013)
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)
ペルー国家統計情報局 (https://www.inei.gob.pe/)

【成績評価の方法と基準】

和訳と発表 50%、平常点 40%、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【4/19 追記：新型コロナウイルス問題による変更について】

オンライン授業化に伴い、成績評価の方法と基準も変更する。現時点では下記の通り (A または B)。再変更がある場合は、学習支援システムで提示する。
A. 春学期中に登校が再開されない場合：オンラインでの和訳と発表 80%、オンラインでの質疑応答等による授業参加 10%、オンラインでの期末口頭試験 10%で総合的に評価する。
B. 春学期途中で登校が再開される場合：オンライン+教室での和訳と発表 80%、授業参加 10%、期末口頭試験 10%。

【学生の意見等からの気づき】

自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。教員による概説的講義を増やした。実験的に実施したミニフィールドワークが好評だったため、本年度も 1 回実施予定 (キャンパス内を歩きながらスペイン語会話を実習する)

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと (例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修)。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。辞書必携。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、(可能な限りスペイン語で)発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルによって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等から選出して和訳する。同テーマについてリサーチし、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義を適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識	ラテンアメリカとペルーの概説的講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習②	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習①該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～数ページ程度）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（発表内容次第で更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー（ARC レポート）-経済・貿易・産業報告書』ARC 国別情勢研究会（2013）
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）
ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）
エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）

【成績評価の方法と基準】

和訳と発表 50%、平常点 40%、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。概説的講義を増やした。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。辞書必携。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN200CA
開発経済入門 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析を学びます。また、伝統的な農業から工業化までの経済発展のプロセスを概説します。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部学生 1 年生向けの経済学入門の補足として、労働需要と所得分配を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。労働需要 1	生産関数、等利潤線
第 2 回	労働需要 2	利順最大化
第 3 回	労働需要 3	所得分配
第 4 回	経済成長の指標	国民総生産、購買力平価
第 5 回	経済成長の理論 1	ソロー・モデル
第 6 回	まとめと解説、中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 7 回	経済成長の理論 2	貯蓄率、労働成長率、技術水準の変化
第 8 回	経済成長の実証分析 1	成長会計
第 9 回	経済成長の実証分析 2	発展会計
第 10 回	産業構造	コーリン・クラークの法則、労働生産性
第 11 回	二重構造、労働移動 1	ルイス・モデル
第 12 回	まとめと解説、期末試験	前回までの内容を復習。試験。
第 13 回	二重構造、労働移動 2	ハリス＝トダロ・モデル
第 14 回	二重構造、労働移動 3	トダロの逆説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、学生が演習問題を解く、教員が回答を解説する、試験は演習問題に基づく、という形式を今年度も継続します。その形式をふまえた上で履修した学生達の意見なので、ランダムサンプルではありませんが、昨年度は、その形式に関して賛成多数、反対少数でした。

【Outline and objectives】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand and income allocation, which most of students do not study in introductory economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA

開発経済入門 B

池上 宗信

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A では、経済成長、産業構造という経済発展の過程を学びました。開発経済入門 B では、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融を学びます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を概説します。また、貧困の罨と信用制約や産業集積なども学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化や産業の集積も進んでいるのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易 1	比較優位、絶対優位
第 2 回	貿易 2	2 財 1 時点モデル
第 3 回	貿易 3	国際価格比と比較優位
第 4 回	貿易 4	貿易政策下の予算制約線
第 5 回	貿易 5	輸入代替工業化、実証分析
第 6 回	金融 1	金融仲介の便益、1 財 2 時点モデル
第 7 回	まとめと解説、中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	金融 2	割引現在価値、異時点間の予算制約線
第 9 回	金融 3	貿易と国際資本移動の便益
第 10 回	金融 4	貧困の罨と信用制約
第 11 回	金融 5	マクドゥーガル=ケンブ・モデル、実証分析
第 12 回	企業と雇用	国際競争力
第 13 回	産業集積	集積の利益、規模の経済
第 14 回	まとめと解説、期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】

戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、学生が演習問題を解く、教員が回答を解説する、試験は演習問題に基づく、という形式を今年度も継続します。その形式をふまえた上で履修した学生達の意見なので、ランダムサンプルではありませんが、昨年度は、その形式に関して賛成多数、反対少数でした。

【Outline and objectives】

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade and finance as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies. We will study poverty trap, financial constraint, and industrial agglomeration as well.

SES200CA

環境科学 A

岡部 雅史

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は 4 月 21 日・ガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1 - 環境を構成する要因、2 - 環境の変動、3 - テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4 - 環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の 4 つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・変更などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行的に進みます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス印刷持参のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスタール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）。及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。

総合計の得点分布順に上位60%以内の受験者に単位を認める。試験の配分が100%となります。

例えば150名の受験者がいた場合、得点分布上位90名に単位を認めます。

【学生の意見等からの気づき】

プロジェクター利用の改善

【その他の重要事項】

最初の数回はオンライン講義になります。

毎週講義時刻に支援システムにてその週の教材を配信しますので、受講生は毎週講義時刻に教材を閲覧し、学習する事。

小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

通常の講義に戻るタイミングは支援システムにてお知らせします。シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA

環境科学B

岡部 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること（シラバス印刷持参のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックベレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用事例）
第13回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点:配分77%）。及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う（配分23%）。総合計の得点順に上位60%に単位を認める。試験の配分が100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

プロジェクター利用の改善

【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。くわえて、環境経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。

ただし、当面はオンライン授業として、毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。授業開始は4月27日（月）とする。下記の授業計画を適宜見直す。具体的には学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ピグー税、ボーモル・オーツ税、汚染者負担原則、二重の配当
第11回	排出取引	仕組み、税との比較、EUの制度
第12回	環境補助金・デポジット制度	助成金、特別償却、長期の効率性、課税と補助金の組み合わせ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木(2016)『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣
一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。いかなる理由であれ、試験(追試を含む)を受けない者の単位は認めない。なお、状況に応じて、オンライン授業での課題の提出を評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

私語がうるさいという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、濃度規制と総量規制、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法、交通需要マネジメント
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法、スーパーファンダ法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 8 回	自然環境保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	環境税の政策過程、政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント、環境報告書
第 14 回	企業と環境問題②	環境会計、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

西尾哲茂 (2019) 『わか～る 環境法 増補改訂版』 信山社
 神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』 文眞堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

私語がうるさいという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

ECN200CA
社会経済思想史 A
鳴子 博子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長と格差の拡大をめぐる現代の問題群。これらの難問、問題の核心はどこにあるのか、問題解決の糸口はどこに見出されるのか。根源に立ち戻って考える力、ヒントを得るために、経済・社会・政治の思想、理論について言説プリントを用いて講義する。講義では、毎回、言説プリントによって、2組の対になる思想家4人の言説に直接、触れてもらう。思想家の思想、理論を対にするのは、対比、対照を通して思想の特徴を把握しやすくするねらいがある。言説をどこまで深く捉えることができるか、コメントや示唆、助言を与えて、履修者の主体的な学修を促すことを目標とする。

【到達目標】

受け身的に知識を得るだけでなく、自分の問題意識を高めて、言説プリントやテキストからそれぞれの思想家が彼らの時代といかに格闘したのか、何を掴み取ったのかを主体的に学び、私たち自身の時代の問題を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。本授業では言説プリントとテキストを使用するが、言説プリントについては学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の内容や進め方について	マンデヴィル・ルソー・スマス
第2回	ロックとルソー（1）	必要制限・腐敗制限（L）
第3回	ロックとルソー（2）	貨幣の発明（L）
第4回	ロックとルソー（3）	信託的権力と抵抗権・革命権（L）
第5回	ロックとルソー（4）	2種類の不平等（R）
第6回	ロックとルソー（5）	自由と自己完成能力（R）
第7回	ロックとルソー（6）	大きな革命・不平等の拡大（R）
第8回	ロックとルソー（7）	「アソシエーション=国家」の創設（R）
第9回	スマスとヘーゲル（1）	自愛心と交換性向（S）
第10回	スマスとヘーゲル（2）	分業と商業社会（S）
第11回	スマスとヘーゲル（3）	経済と政治の関係（見えざる手）（S）
第12回	スマスとヘーゲル（4）	家族・市民社会・国家（H）
第13回	スマスとヘーゲル（5）	欲求の体系（H）
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布された言説プリントやテキストに目を通した上で出席すること。授業後に改めて言説プリントやテキストを再読すること。1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。

【テキスト（教科書）】

鳴子博子『ルソーと現代政治—正義・民意・ジェンダー・権力』ヒルトップ出版、2012年

【参考書】

鳴子博子編著『ジェンダー・暴力・権力—水平関係から水平・垂直関係へ』晃洋書房、2020年

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

“The development of Political Economy in Europe”

A modern group of problems over economic growth and widening inequality.

Where is the core of these problems? Where can we find the clues to solving them?

This lecture encourages students to go back to the roots of these issues. Students read discourse prints in every lecture. First, the thoughts of John Locke and J.-J. Rousseau are compared. Next, the thoughts of Adam Smith and Hegel are taken up. The purpose of pairing is to make it easier to grasp the characteristics of thoughts through comparison and contrast. How deeply their discourses can be captured? This lecture provides comments and suggestions to consider them independently for students.

ECN200CA
社会経済思想史 B
鳴子 博子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長と格差の拡大をめぐる現代の問題群。これらの難問、問題の核心はどこにあるのか、問題解決の糸口はどこに見出されるのか。根源に立ち戻って考える力、ヒントを得るために、経済・社会・政治の思想、理論について言説プリントを用いて講義する。講義では、毎回、言説プリントによって、2組の対になる思想家4人の言説に直接、触れてもらう。思想家の思想、理論を対にするのは、対比、対照を通して思想の特徴を把握しやすくするねらいがある。言説をどこまで深く捉えることができるか、コメントや示唆、助言を与えて、履修者の主体的な学修を促すことを目標とする。

【到達目標】

受け身的に知識を得るだけでなく、自分の問題意識を高めて、言説プリントやテキストからそれぞれの思想家が彼らの時代といかに格闘したのか、何を掴み取ったのかを主体的に学び、私たち自身の時代の問題を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

言説プリントを配布し、それをもとに講義形式で進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の内容や進め方について	社会経済思想を学ぶ意義
第2回	J.S. ミルとマルクス（1）	効用と自由（J.S.M）
第3回	J.S. ミルとマルクス（2）	討議と多数者の専制（J.S.M）
第4回	J.S. ミルとマルクス（3）	人類史の発展段階（K.M）
第5回	J.S. ミルとマルクス（4）	共産主義社会の二段階と国家の死滅（K.M）
第6回	ウェーバーとフーコー	思想と時代
第7回	ウェーバー（1）	資本主義の「精神」(W)
第8回	ウェーバー（2）	支配の3類型(W)
第9回	フーコー（1）	規律・訓練と一望監視施設（F）
第10回	フーコー（2）	関係概念的権力（F）
第11回	社会思想と現代（1）	ルソーの政治構想
第12回	社会思想と現代（2）	ルソー vs J.S. ミル（ジェンダー視点）
第13回	社会思想と現代（3）	男女の水平関係から水平・垂直関係へ
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布された言説プリントやテキストに目を通した上で出席すること。授業後に改めて言説プリントやテキストを再読すること。1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。

【テキスト（教科書）】

鳴子博子『ルソーと現代政治—正義・民意・ジェンダー・権力』ヒルトップ出版、2012年

【参考書】

鳴子博子編著『ジェンダー・暴力・権力—水平関係から水平・垂直関係へ』晃洋書房、2020年

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度） 30%、学期末試験の成績 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

“Political Economy in the nineteenth and twentieth centuries”
A modern group of problems over economic growth and widening inequality.
Where is the core of these problems? Where can we find the clues to solving them?
This lecture encourages students to go back to the roots of these issues. Students read discourse prints in every lecture. First, the thoughts of J.S.Mill and K.Marx are compared. Next, the thoughts of M.Weber and M.Foucault are taken up. The purpose of pairing is to make it easier to grasp the characteristics of thoughts through comparison and contrast. How deeply their discourses can be captured? This lecture provides comments and suggestions to consider them independently for students.

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、ミクロ経済学の考え方に基づき、外部性の問題、望ましい公共財の供給、及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成したパワーポイント資料を受講者各自が読んで上で復習問題と宿題を解くことで理解を深める。パワーポイント資料の内容について質問があれば学習支援システムを通じて受け付ける。また、受講者から要望があれば、オンライン会議システムを通じて個別の質問に答える。初回の授業については、4月22日（水）までに学習支援システムにアップロードするガイダンス資料を受講者各自が読むという形とする。ガイダンス資料の最後のページに「履修者のことを知るための質問」があるので、学習支援システムを通じて回答すること（回答方法などはガイダンス資料の最後のページを見てください）。その後は順次授業資料と付随する復習問題を学習支援システムにアップロードしていく。授業資料には必要に応じて（たとえば、グラフの説明等）音声による説明等を埋め込む予定である。

2020年4月20日修正

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場における需要曲線と供給曲線
3	市場の働き 2	消費者余剰と生産者余剰の概念、社会的余剰と市場の効率性
4	市場の働き 3	弾力性の概念、価格弾力性
5	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
6	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	企業行動と生産者余剰 3	総収入と可変費用の差としての生産者余剰
8	外部性 1	外部性の概念
9	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
10	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
11	公共財 1	排除可能性と消費の競合性、公共財の供給とフリーライダー問題
12	公共財 2	非競合財の価格設定、公共財の投資基準、共有地の悲劇の解決策
13	税制の設計 1	課税の死荷重
14	税制の設計 2	効率性と公平性から望ましい税制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編【第3版】』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3回の宿題（40%）、授業資料に付随する復習問題の提出（10%）によって評価する。

ただし、教室での期末試験を行えるか不明なため、期末試験の方法は未定。

2020年4月20日修正

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業内容に即した復習問題を行う。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

授業資料や宿題をアップロードした際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、学習支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。また、復習問題や宿題には回答期限が設定され、期限後は如何なる理由でも回答を一切受け付けないので注意すること（期限ぎりぎりに回答するのではなく、時間に余裕を持って回答することを勧める）。

2020年4月20日追加

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター）、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	古典派とケインジアン
9	IS-LM モデルの構築 2	ケインジアンとの交差図、乗数効果、IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール、LM 曲線の導出
11	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
12	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
13	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 4	非伝統的金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレイゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義、2015、『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業内容に即した復習問題を行う。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

【本講義は当面、オンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供を通じて実施する。ただし、教室での一斉講義が可能となるなど状況が変わり次第、授業の進め方も変更する場合がある。】
社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	少子高齢化社会の動向と社会保障	
4	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
5	老齢年金制度の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
6	障害年金・遺族年金の概要	
7	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
8	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
9	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
10	わが国の医療提供体制	医療提供体制の概要
11	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療
12	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
13	雇用保険事業の沿革・課題	雇用保険二事業の概要
14	労働者災害補償保険の概要と課題	労働者災害補償保険の意義と体系
15	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
16	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
17	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
18	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 16 版）』有斐閣、2019 年

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（適宜実施される確認小テストやコンテンツ教材の視聴状況等）が 60 %、期末試験を 40 %とする（ただし、期末試験の一斉実施が困難な場合には、それを課題レポート等、別の方法に変更する事がある）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したい。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせて当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではこれらのトピックスを進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義概要と課題	社会政策の意義、対象領域の復習
2	雇用・労働政策の今日的課題	労働基準、最低賃金、雇用形態、若年労働、女性労働、外国人労働
3	児童・高齢者・障害者の福祉	待機児童、成年後見、障害者自立支援
4	貧困・格差・不平等	現代日本の貧困・格差・不平等
5	生活保護の課題	制度の方向性（自立支援、就労支援）
6	医療提供体制と医療政策	医療提供制度、医師・看護師不足
7	医療財政と医療政策	医療財政と負担のあり方
8	医療の国際比較	医療制度、政策の国際比較
9	介護問題と介護提供体制	介護提供体制にかかる諸問題
10	介護の財政問題	介護財政にかかる諸問題
11	介護の国際比較	介護制度、政策の国際比較
12	年金問題の概要	年金問題の論点整理
13	年金制度改革	持続可能な年金制度と制度改革
14	これからの日本社会と社会政策（全体総括）	少子高齢化社会への対応、財政規律と制度の持続可能性、グローバル化への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて 2 時間、講義後に講義資料を参考に 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義で必要な資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】

駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011 年
島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011 年
大竹文雄『格差と希望－誰が損をしているか？』筑摩書房、2008 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（70 %）、課題レポート（30 %）による。
定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスについて正確な基礎知識をベースに論理的に自分の考えを展開できるかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭における新聞記事を用いた時事、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせて、当該分野の現状や課題について解説する。
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline and objectives】

Based on the basic knowledge of Social Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現下の状況で教室での授業をおこなうことができないため、当面の間は、学習支援システムによる資料の配布等を通じておこなう。授業開始日（最初の資料のアップロード日）は、4月27日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特長的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業の資料や板書をノートしたものを中心に復習をおこなう必要がある。また、授業内で指示された小課題や文献予習にも取り組む。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017年）
Borjas, G『Labor Economics 7th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2015年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（90%）+授業内演習（10%）。

（教室での授業が再開できなかった場合には、学習支援システムを通じて提出してもらった課題を基に評価する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

・コメント・ペーパー等によって、受講者の考えを把握するように心掛ける。
・試験問題は、選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクター資料を用いた講義形式によって進める。講義内容の理解を確認するため、演習問題を行うことがある。プロジェクター資料については、要約版のみを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担	事業主負担の帰着に関する理論との帰着問題、その他 実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での演習をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（90%）+ 授業内演習（10%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

・コメント・ペーパーによって、授業で扱うトピックに関する受講者の考えを聞きたい。
・試験問題は、選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度2	年金制度の問題点
第6回	年金制度3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
 鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
 西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学15講』新世社
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	VTRと演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は授業支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1) 『地球環境学入門 第2版』 山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1) 『環境・エネルギー・健康 20 講』 今中利信・廣瀬良樹（化学同人）

2) 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』 Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内でレポートや小試験 (40%) を行い、期末筆記試験 (60%) を行う。合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見等からの気づき】

理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に授業支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN200CA
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講すれば、

- 1) 初級レベルのマクロ経済学を説明でき、
- 2) 日本経済の現状がより深く理解でき、
- 3) 公務員採用試験問題（マクロ経済学）が解けるようになる。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

『春学期の少なくとも5月連休前はオンラインでの開講となる。それにもなう変更については、学習支援システムでその都度提示する。具体的な方法などは、4月21日に学習支援システムで提示する。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
3	GDP(2)	景気循環の考え方
4	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
5	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
6	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性、資本の使用費用、望ましい資本ストック
7	設備投資と在庫投資 (2)	新古典派の投資理論、ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンのq理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利子率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論、財市場と IS 曲線
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析、財政・金融政策
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第5版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016年

【参考書】

「演習式 マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講すれば、

- 1) 初級レベルのマクロ経済学を説明でき、
- 2) 日本経済の現状がより深く理解でき、
- 3) 公務員採用試験問題（マクロ経済学）が解けるようになる。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
3	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム、非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ダイヤモンド・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長理論、成長会計
11	経済成長理論 (2)	収束の概念、内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
12	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
13	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】

「演習式 マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
ミクロ経済学A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（＝ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。
新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大への対処のため、教室での講義が禁止されている間は、オンライン教材を用いて講義を行う。教材の視聴に関する指示や補助資料の配布は、すべて学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論(1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論(2)	企業の意思決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論(3)	限界費用と平均費用、企業の意思決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論(4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論(5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論(6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論(7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定(1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定(2)	リスクに対する態度(危険回避、中立、愛好)について。
11	戦略形ゲーム(1)	戦略形ゲームについて(さまざまな例の提示)。
12	戦略形ゲーム(2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム(3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とします。各自、講義の前で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

・「需要と供給の理論」の講義資料は、授業支援システムに掲載する。
・第9回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年

【参考書】

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019年

1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年

2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000年

【成績評価の方法と基準】

試験100%で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門(基礎)」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. First, the students learn the standard theory of market transactions (that is, the theory of demand and supply). Second, the students learn the game theory, which examines the interactions among economic players. In this course, the students particularly study some economic applications of the strategic games and the way to derive the Nash equilibrium.

ECN200CA
ミクロ経済学B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学Aに引き続き、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

【到達目標】

ミクロ経済学Aに引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学Aの講義内容を前提として、講義を行う。

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大への対処のため、教室での講義が禁止されている間は、オンライン教材を用いて講義を行う。教材の視聴に関する指示や補助資料の配布は、すべて学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学Aとの関連について。
2	戦略形ゲームの応用(1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用(2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調(1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調(2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム(1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム(2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム(1)	2回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム(2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。
12	繰り返しゲーム(3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1。

13	繰り返しゲーム(4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年

【参考書】

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019年

1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年

2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000年

【成績評価の方法と基準】

試験100%で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. The contents of this course are as follows:

- 1) Economic applications of the strategic games: the Cournot oligopoly game and the public good provision game.
- 2) The theory of sequential games and its application to the oligopoly market (the Stackelberg oligopoly games)
- 3) Repeated games of the prisoners' dilemma.

ECN200CA
マクロ経済学 A
森田 裕史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の進め方、授業計画、及び、成績評価はオンライン授業の導入に伴い大幅に変更されています。詳細は、学習支援システムを参照して下さい。 <https://hoppii.hosei.ac.jp:443/x/NlALzF>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マクロ経済学とは
第 2 回	GDP について（1）	名目値と実質値、三面等価の原則
第 3 回	GDP について（2）	支出面から見た GDP、フロー変数とストック変数
第 4 回	「GDP について」の復習	「GDP について」に関連する問題演習と解説
第 5 回	物価指数について（1）	GDP デフレーターと消費者物価指数
第 6 回	物価指数について（2）	消費者の効用最大化問題
第 7 回	「物価指数について」の復習	「物価指数について」に関連する問題演習と解説
第 8 回	中間試験	試験・まとめと解説
第 9 回	長期モデル 1（1）	短期と長期、総供給と総需要
第 10 回	長期モデル 1（2）	財市場の均衡
第 11 回	長期モデル 2（1）	貨幣市場の均衡
第 12 回	長期モデル 2（2）	長期モデルに基づく政策効果
第 13 回	「長期モデル」の復習	「長期モデル」に関連する問題演習と解説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018 年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（50%）と期末試験（50%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに問題演習と解説の回を設けることで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿って講義を行うため、できる限り教科書を購入するようにして下さい。授業内で丁寧に説明するつもりですが、微分や指数の計算などの数学的手法を使用しますので、履修にあたり留意して下さい。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
マクロ経済学B
森田 裕史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	前期の復習
第2回	短期モデル（1）	短期モデルにおける財市場
第3回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第4回	「短期モデル」の復習	「短期モデル」に関連する問題演習と解説
第5回	人々の将来予想と経済変動（1）	財政政策と将来予想
第6回	人々の将来予想と経済変動2）	価格設定と将来予想
第7回	「人々の将来予想と経済変動」の復習	「人々の将来予想と経済変動」に関連する問題演習と解説
第8回	中間試験	試験・まとめと解説
第9回	ソロー経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造
第10回	ソロー経済成長モデル（2）	ソローモデルの基本方程式の導出
第11回	ソロー経済成長モデル（3）	技術進歩と人口成長が入った経済成長モデル
第12回	「ソロー経済成長モデル」の復習	「ソロー経済成長モデル」に関連する問題演習と解説
第13回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年の原因
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（50%）と期末試験（50%）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに問題演習と解説の回を設けることで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

教科書の内容に沿って講義を行うため、できる限り教科書を購入するようにして下さい。授業内で丁寧に説明するつもりですが、微分や指数の計算などの数学的手法を使用しますので、履修にあたり留意して下さい。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とするが、第2回目までの講義資料は早めに掲示しておくようにするので履修の参考にしていただきたい。それ以降の講義方法は学習支援システムへ提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説と講義の進め方。
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析。
4	部分均衡分析 (3)	課税の影響。
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現。予算制約線。
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出。
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果。上級財・下級財、代替財・補完財。
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係。
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の導出。
11	生産者行動 (3)	供給の導出。
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア。
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各2時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット、S、ゲルズビー、A、サイヴァーソン、C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税
- ③ レヴィット、S、ゲルズビー、A、サイヴァーソン、C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りのタイミングに気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
 ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
 ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。適宜演習の時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略。
4	ゲーム理論 (3)	最適反応戦略とナッシュ均衡。
5	不完全競争市場 (1)	独占市場。
6	不完全競争市場 (2)	同一財寡占市場。
7	不完全競争市場 (3)	差別化財寡占市場。
8	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
9	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
10	ゲーム理論 (6)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
12	外部性 (2)	公共財の自発的供給と効率的な供給。
13	外部性 (3)	メカニズムデザイン。VCG メカニズム。
14	まとめ	講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%.

【学生の意見等からの気づき】

スライド送りのタイミングに気を付けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations. Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ① 金融商品市場の機能と役割を理解する。
- ② 金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
- ③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。

講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

GW明けを予定しています。

進め方としては、資料を熟読し、15～20 分程度の小テストをして頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M & A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第 14 回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として 4 時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施 (50%)
 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

- 1.To understand the function and role of the financial products on the market.
- 2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.
- 3.To understand the current trend of the market such as M&A. We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

ECN200CA
特別講義（OBOG から学ぶ自由を生き抜く実践知）
田中 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※ 2020 年 4 月 18 日更新※

本講義の開始日は 4 月 23 日（木）です。講義に関する連絡は「学習支援システム」を通じて行います。

経済学部 100 周年を記念して、本年度のみ開講される特別講義です。さまざまな業界で活躍する経済学部 OBOG が、毎回ゲストスピーカーとして登壇します。

先輩方の生き生きとしたお話から、自身のキャリアやライフプランについて大いに考えてください。

【到達目標】

個人ではなかなか会えない多くの企業・業界の知識を得ること。受講生自身のキャリアやライフプランについて具体化すること。短期的・長期的な目標を設定し、その達成に必要な行動を記述できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

OBOG の講演と、企業や業界ならでのクイズ、ロールプレイング、ケーススタディ、商材を実際に使った体験など、多彩な内容を予定しています。

講義前後の時間には OBOG の方々と交流できる時間を設けます。OBOG 訪問やインターンといった将来に向けた繋がりを作る機会としても、ぜひ役立ててください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義説明 来校するゲストスピーカーの紹介 質問募集
第 2 回	同期それぞれのキャリアパス	OBOG の所属 ・ Land Land（アプリ開発） ・ アビームコンサルティング（会計コンサル） ・ LIXIL（メーカー） ・ 太陽有限監査法人（会計士） ： 田中ゼミ OB
第 3 回	製造業と起業	・ 文化シャッター（メーカー） ・ 愛花創業 ： 法政大学経済学部同窓会
第 4 回	超人スポーツとパラリンピック	・ AXERREAL（スポーツビジネス） ： 鶴見ゼミ OB
第 5 回	大手都銀で働くキャリア	・ デロイトトーマツ ・ 三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 ： 宮崎ゼミ OB
第 6 回	化粧品メーカーで働くということ	資生堂 ： 佐藤ゼミ OG
第 7 回	ベンチャーから英国大学院留学	Air Aroma Japan（香りマーケティング） ： 中谷ゼミ OG
第 8 回	マスコミ業界の実際	宮崎日日新聞 ： 宮脇ゼミ OB
第 9 回	前半 小売の覇者セブンイレブン 後半 金融リテラシー	セブン&アイ・ホールディングス 野村証券 ： 法政大学経済学部同窓会

第10回	大手から新興企業への 転職 食品業	SHOWROOM (ストリーミング) サントリーフーズ ヤフー ：竹口ゼミ OBOG
第11回	大手商社から投資ファ ンド	三菱商事 UBS リアルティ (投資 ファンド) ：鶴見ゼミ OB
第12回	途上国課題と SDGs	JICA (国際協力機構) ：絵所ゼミ OB
第13回	調整中	調整中
第14回	講義のまとめ	今後のキャリアを考えよう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講準備として OBOG に対する質問を募ります。
講義後には、質問や感想を募ります。それぞれ 1、2 時間程度を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義のなかで指定します。

【参考書】

講義のなかで指定します。

【成績評価の方法と基準】

※ 2020 年 4 月 18 日更新※

- ①事前に募集する講師への質問投稿 (30%)
 - ②講義後のコメントカード (50%)
 - ③および講義時の平常点 (20%) で総合的に評価します。
- 現時点では、①②はオンラインの回答フォームで実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度のみの開講なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用します。
そのほかに必要なものは、講義のなかで指示します。

【その他の重要事項】

講演スケジュールは変更となる可能性があります。
初回講義のほか、専用サイトも確認してください。
専用サイト URL
<https://obog2020.wordpress.com/>

【Outline and objectives】

This special lecture is held only this year to commemorate the 100th anniversary of the Faculty of Economics. The alumni of the Faculty of Economics, who active in various industries, will be on stage as guest speakers every lectures. Please think about your career and life plan from their lively stories.

ECN200CA
寄付講座 わが国金融の現状と課題
寄付講座担当教員
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

金融をとりまく環境は、経済社会の構造変化 (少子高齢化等) だけでなくデジタル化によって、加速度的に変化しています。本講義では、経済・企業の持続的成長や家計の安定的資産形成のために、これからの金融はどうあるべきなのか、といった政策的なテーマについて考察していきます。実際に政策を担当する金融庁職員による講義を通じ、政策形成の現実やダイナミズムについても学びます。

【到達目標】

- ①社会に出るにあたって不可欠となる金融リテラシー (お金との賢い付き合い方) を身につけることができる。
- ②金融の世界で何が起きているのか、金融はこれからどう変わっていくのかというトピカルなテーマについて、現実的な視点から理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドの資料を用いて講義形式で進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義のねらい
2	お金との賢い付き合い方①	お金を「使う」
3	お金との賢い付き合い方②	お金を「ためる」、「借りの」「備える」
4	お金との賢い付き合い方③	払った税金の使いみち
5	金融 × デジタル	デジタルライゼーションのインパクト
6	銀行	銀行業をめぐる現状と課題
7	証券市場	証券市場をめぐる現状と課題
8	保険	保険業をめぐる現状と課題
9	金融 × 地方創生	地域金融機関に期待される役割
10	金融 × 環境	SDGs
11	金融行政当局	金融庁の業務と役割
12	金融 × 企業	企業会計・コーポレートガバナンス
13	金融 × 外交	金融をめぐる国際的な協力
14	試験・まとめ	試験・まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容の大半は現下の政策課題に関するものになりますので、理解を深めるためには、新聞等のメディアのニュースについて、日頃からアンテナを高く張って自分なりに咀嚼することが求められます。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。毎回の講義資料を学習支援システムでアップロードします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

講義のテーマとなる政策課題を金融庁で実際に担当している現役職員（含む本学OBOG）によるオムニバス形式の授業となります。

【Outline and objectives】

The course is designed to help students understand the issues of Japanese financial system. Each lecture is given by an FSA (Financial Services Agency) official who is in charge of corresponding policy issues, so that students will be able to grasp priorities and challenges ahead.

LANj300CA

特別講義（ビジネス日本語 A）**李 址遠**

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本で就職する上で必要になる知識と基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。テキストをベースとした講義や、ロールプレイ、グループ・ディスカッションなどの実践的な活動を通して、就活能力、社会文化能力、社会人基礎能力、仕事の日本語力を総合的に育成することを目指す。

【到達目標】

- ①日本における就職事情とプロセスを理解し、計画的に準備できる。
- ②ビジネス場面にふさわしい表現を状況に応じて適切に用いることができる。
- ③履歴書、ビジネスメールなど、就職活動や仕事に関連する書類を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月24日とする。この日に具体的なオンライン授業の方法およびそれに伴う授業計画の変更などを学習支援システムで提示する。なお、本授業は主な情報の提示・共有の手段として Google Classroom を用いる。Google Classroom への参加のためのクラスコードは、学習支援システムおよび法政大学の個人メールを通して通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 就活能力	授業運営に関する説明／ 自己紹介、自己分析
2	就活能力	自己 PR、志望動機
3	就活能力	履歴書・エントリーシート
4	就活能力	面接
5	社会文化能力	異文化理解、日本の地理
6	社会人基礎能力	プレゼンテーション
7	社会人基礎能力	チームビルディング
8	社会人基礎能力	ほう・れん・そう
9	仕事の日本語力	敬語と挨拶
10	仕事の日本語力	電話の受け方
11	仕事の日本語力	電話のかけ方
12	仕事の日本語力	訪問、会議
13	仕事の日本語力	ビジネスメールの書き方
14	まとめと振り返り	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・準備：テキストの内容把握、事前課題

・復習：授業内容や活動の振り返り、課題・提出物の作成

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2021』日本学生支援機構
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/fieldfile/2019/12/17/guide2021_all.pdf)

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとめない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students acquire the knowledge and basic communication skills necessary for getting a job in Japan. Through lectures and various practical activities, this course aims to help students enhance their understanding and competence of job hunting and working in Japan.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
李 址遠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、外国人として日本で働く上で生じ得る様々な問題を、具体的なケースを通して検討していく。他の学生との話し合いを通して、問題を発見し、批判的に分析する力、立場や考えの違いを理解し、柔軟に解決策を見出す力を身につけることを目指す。

【到達目標】

- ①職場で起こり得る様々な問題を複数の視点や立場から理解することができる。
- ②問題を解決または改善するための方法を他者と共に見出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業はグループでの話し合いを中心に進める。毎回の授業でグループを決め、ケースを読んで議論する時間を持つ。授業後は振り返りシートを作成する。学期末には日本の企業文化に関するプレゼンテーションを行い、最終レポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業運営に関する説明 就職に関する希望や計画についての話し合い
2	CASE01 仕事の進め方	読解&ディスカッション
3	CASE02 指示の仕方	読解&ディスカッション
4	CASE03 断り方	読解&ディスカッション
5	CASE04 期待と常識	読解&ディスカッション
6	CASE05 ほう・れん・そう	読解&ディスカッション
7	CASE06 あいまいさ	読解&ディスカッション
8	CASE07 完成度	読解&ディスカッション
9	CASE08 異動	読解&ディスカッション
10	CASE09 空気を読む	読解&ディスカッション
11	CASE10 否定的な回答の伝え方	読解&ディスカッション
12	プレゼンテーション準備	ケースの選定と分析
13	プレゼンテーション準備	資料作成
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
準備学習：テキストの読解、ワークシートの記入、プレゼンテーションの準備など
復習：内省シートの記入、レポートの作成など

【テキスト（教科書）】

『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習：職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』近藤彩他（著）、ココ出版、2013 年、1,600 円＋税

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2021』日本学生支援機構
(https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/afeldfile/2019/12/17/guide2021_all.pdf)

【成績評価の方法と基準】

平常点：30%、振り返りシート：30%、プレゼンテーション：20%、最終レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

【Outline and objectives】

This course is mainly conducted with case studies in which students discuss various problems that might occur in intercultural workplaces. This course aims to help students enhance their capabilities to discover, analyze and solve problems in intercultural business communication.

ECN300CA
特別講義（中央官庁の政策研究）
菅田 洋一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中央省庁の所管はあらゆる経済社会システム等と関連付けられ、その分野は多岐にわたる。個別の政策や規制の立案過程は各省庁の役割や経緯等により若干異なるが、法令改正や予算要求、政策の検討は概ね共通した過程を経る。本講義では、情報通信政策を題材として、身近なインターネットやスマートフォンに纏わる政策や規制、5G（第 5 世代移動通信システム）、AI など先端 ICT（情報通信技術）の開発及び利活用の推進、さらに、超高齢化社会、地域活性化、災害対策など社会課題の解決に向けた個別の政策について、その内容や企画立案の過程について具体的に学ぶ。そして、このような政策研究を通じ、行政機関の役割やその政策の立案機構について理解を深め、自らの将来設計や経済社会活動の参考に資する。

【到達目標】

情報通信政策を題材に、行政機関が行う法令改正や予算要求、個別政策の検討など、企画立案の大まかな流れを理解する。また、事業政策や ICT の開発・利活用の推進、地方創生、国際戦略など各回の具体的なテーマを例に、社会課題等の背景や政策の概要について基礎知識を習得する。さらに、こうした政策がどのような考えに基づき、どのような手段が講じられたか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	行政組織と情報通信政策（総論）	行政機関として総務省を例に法令改正や予算要求など大まかな流れを把握する。
2	電気通信事業と競争政策	電気通信事業の概要とともに電気通信事業の外資規制や競争政策の在り方について考察する。
3	消費者行政と個人情報保護	消費者保護ルールや違法・有害情報対策、プライバシーの保護について概要を学ぶ。
4	電波政策と周波数の有効利用	電波システムの仕組みや様々な無線システムの態様、新たな周波数の開拓等について理解する。
5	第 5 世代移動通信システム（5 G）と新たな展開	5 G サービス開始に至る経緯やその利用動向、5 G 活用に生まれる社会像について考察する。
6	ICT 研究開発と AI の活用	先端 ICT の研究開発の動向や近年注目される AI を活用した社会像について考察する。
7	情報セキュリティの政策動向	情報通信の負の側面として情報セキュリティの課題や対策の検討について概要を把握する。
8	IT 戦略とシェアリングエコノミー	内閣官房が主導する IT 戦略とシェアリングエコノミーの普及推進について概略を学ぶ。

9	Society5.0の実現と地方創生	Society5.0の目指す将来像を理解するとともに、地方創生での活用について考察する。
10	ICT国際標準化の役割と国際競争力	ICT標準化の役割について理解し、国際展開や国際貢献を通じた国際競争力強化の動向を学ぶ。
11	宇宙の開発利用と安全保障	衛星通信や観測衛星の役割や宇宙基本法成立後の宇宙安全保障の動向について理解する
12	レポート作成	前11回のまとめとしてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

<https://www.soumu.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The jurisdictions of the central governments are related to all economic and social systems, etc., and their fields are diverse. The process of their formulating policies and regulations differs slightly depending on the role and background of each ministry and agency, but revisions of laws and regulations, budget requirements, and making policies generally follow a common process. In this lecture, on the subject of information and communication policy, students will learn about policies and regulations on the familiar Internet and smartphones, the promotion of development and utilization of advanced ICT (Info-Communication Technology) such as 5G (5th generation mobile communication system) and AI, and further, specific policies for solving social issues such as super-aging society, regional revitalization and disaster countermeasures, and the details of the planning process. Through such policy research, students will not only deepen their understanding of the role of administrative agencies and their policy-making mechanisms, but utilize the knowledge to their own future plans and economic and social activities.

LAW200CA

日本国憲法 A

履 透

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは「憲法とは何のために存在するか」「日本国憲法に定められた国の仕組みとはどのようなものか」である。この授業では、まず、西欧の立憲主義思想や憲法規範の特徴を概観し、憲法は公権力を制限する法であることを講じる。ついで、日本国憲法の定める国民主権、民主政治の仕組みおよび平和主義について解説する。

この授業は、憲法やそれに基づく民主政治を手がかりに現代社会を主体的に考察するための素材を提示する。本科目の学習によって、主権者に必要な資質を身につけることができるようになる。

【到達目標】

- (1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
- (2) 日本国憲法の定める統治機構の特徴を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	憲法とは何か (1) 国家・法律・憲法の役割	国家の役割、法律の役割、憲法の役割について学ぶ。
第2回	憲法とは何か (2) 憲法の内容と特質	立憲主義に基づく憲法の内容と特質について学ぶ。
第3回	日本憲法史	憲法の内容と特質を確認しつつ、日本憲法史を学ぶ。
第4回	統治のメカニズム総論	国民主権、権力分立、国民の政治参加・選挙の仕組みについて学ぶ。
第5回	国会の地位と役割	国会の地位、組織、権限について学ぶ。
第6回	内閣の役割	内閣の組織・権能、内閣総理大臣の権能について学ぶ。
第7回	裁判所の役割	裁判所の組織、司法権の概念と範囲、司法権の独立について学ぶ。
第8回	違憲審査制	違憲審査制について学ぶ。
第9回	財政と地方自治	財政と地方自治について学ぶ。
第10回	天皇制	憲法の定める天皇制度について学ぶ。
第11回	平和主義	日本国憲法9条の解釈論を学ぶ。
第12回	憲法改正の仕組み	憲法改正の仕組みと限界について学ぶ。
第13回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第14回	総合	試験と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメを読んで予習・復習する。特に授業で指示した事項については、念入りに復習し小テストに備える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

憲法の条文または六法（六法は『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験を実施する（70％）。期末試験は、到達目標(1)(2)に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
- ・授業中に複数回小テストを実施する（30％）。小テストは、到達目標(1)(2)に対応して、憲法に関する基礎知識の理解を測る問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には難しく感じる内容であるので、具体例を示すなどして理解しやすい講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の資料の配布に授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

The theme of this class is "What is the Constitution?" and "What is the structure of the government defined in the Constitution of Japan?" In this class, we first outline the features of the Constitutionalism and the Constitutional law. We can understand that the Constitution is the law which restricts government. Next, we can understand the sovereignty of the people, the mechanism of democratic politics, and pacifism, as stipulated by the Constitution of Japan.

In this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA
日本国憲法 B
履 透
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、「憲法の定める基本的人権とはどのようなものか」である。この授業では「憲法とはどのような法であるか」を常に意識しながら、日本国憲法の定める基本的人権について説明する。

この授業は、現代社会について幅広い視野に立って考察できるようにするための素材を提示する。本科目の学習によって、市民社会における公民として必要な資質を身につけることができる。

【到達目標】

- (1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
- (2) 日本国憲法の定める人権について、その意義・内容を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人権総論 (1) 基本的人権とは何か	憲法の定める人権と、世間で流通する「人権」との違いを学ぶ。
第 2 回	人権総論 (2) 個人の尊重と基本的人権の概要、人権の限界	人権の根底にある「個人の尊重」という考え方を学ぶ。その上で、自由権と社会権、人権の限界について学ぶ。
第 3 回	思想・良心の自由	思想および良心の自由について学ぶ。
第 4 回	信教の自由	信教の自由と政教分離について学ぶ。
第 5 回	表現の自由 (1) 意義、政治的言論、報道の自由	表現の自由の意義・重要性、特に民主主義社会における表現の重要性を学ぶ。
第 6 回	表現の自由 (2) わいせつ表現、ヘイトスピーチ	わいせつ表現、ヘイトスピーチを素材として、表現の自由を規制する意味や問題点を学ぶ。
第 7 回	表現の自由 (3) 多様な表現方法と表現の自由	ネット、ビラ配布、集会・結社など多様な表現行為が表現の自由で保障される意味を学ぶ。
第 8 回	経済的自由 (1) 職業の自由	経済活動に不可欠である、職業の自由について学ぶ。
第 9 回	経済的自由 (2) 財産権	経済活動に不可欠である、財産権について学ぶ。
第 10 回	社会権、参政権	社会権（特に生存権）、参政権について学ぶ。
第 11 回	法の下での平等	法の下での平等について学ぶ。
第 12 回	教育現場における人権	校則と人権の問題を考える。
第 13 回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第 14 回	総合	試験と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメを読んで予習・復習する。特に授業で指示した事項については、念入りに復習し小テストに備える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

憲法の条文または六法（六法は『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第 7 版）』（岩波書店、2019 年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第 7 版）』（有斐閣、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

・期末試験を実施する（70 %）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・授業中に複数回小テストを実施する（30 %）。小テストは、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する基礎知識の理解を測る問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

経済学部の学生には難しく感じる内容であるので、具体例を示すなどして理解しやすい講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の資料の配布に授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

The theme of this class is "What is constitutional human rights?" In this class, we can understand the characteristic of the constitutional law and human rights as stipulated by the Constitution of Japan.

In this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA
民法一部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

民法総則（民法典第 1 編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主に復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法総論	民法とは何か
第 2 回	総則①	契約の成立
第 3 回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第 4 回	総則③	意思表示（2）錯誤
第 5 回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第 6 回	総則⑤	権利の主体：「人」
第 7 回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第 8 回	総則⑦	代理（2）無権代理
第 9 回	総則⑧	代理（3）表見代理
第 10 回	総則⑨	法人
第 11 回	総則⑩	契約の有効性
第 12 回	総則⑪	契約の効力発生時期、時効
第 13 回	総則⑫	時効制度
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15 %）と学期末試験による評価（85 %）

【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、黒板の活用に関心。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to property law. During the course, interrelationship with contract law should be always kept in mind.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第2編第1、2、3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主として復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	物権法序説	「物」の概念
第2回	物権①	所有権（1）所有権の内容、効力
第3回	物権②	所有権（2）所有権の取得
第4回	物権③	所有権（3）共同所有関係
第5回	物権④	占有権
第6回	物権⑤	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第7回	物権⑥	物権変動（2）対抗要件主義
第8回	物権⑦	物権変動（3）契約による動産物権変動の対抗要件
第9回	物権⑧	物権変動（4）公信の原則
第10回	物権⑨	問題演習（1）不動産物権変動
第11回	物権⑩	問題演習（2）動産物権変動
第12回	物権⑪	問題演習（3）所有権、建物の区分所有権
第13回	物権⑫	物権と債権の区別
第14回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15%）と学期末試験による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【重要】

オンライン授業を4月28日（火曜日）から開始します。授業開始日に学習支援システム（Hoppii）にアクセスして下さい。

【重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月28日（火曜日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、
	会社法 総論	前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役 3	代表取締役の解説
第9回	取締役 4	取締役の義務の解説
第10回	取締役 5	取締役の責任の解説
第11回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第12回	監査役・会計監査人	監査役・会計監査人の解説
第13回	指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社に関する解説
第14回	監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）

・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

【重要】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後に学習支援システム等で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。本授業の受講者は、できれば春学期の「商法一部A」を受講しておいてほしい（もちろん秋学期から受講してもかまわない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	会社法 総論	前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第2回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第3回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第4回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式 1	株主の権利の解説
第6回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第7回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第8回	株式 4	株式譲渡の解説
第9回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第10回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第11回	募集株式 2	発行等の瑕疵等の解説
第12回	新株予約権 1	新株予約権の概要の解説
第13回	新株予約権 2	発行等の瑕疵等の解説
第14回	組織再編	組織再編の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【注意】2020年春頃に改訂版である「第3版」が刊行される可能性があるため、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）

・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。【注意】テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	商品売買取引	分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、値引・返品・割戻・割引の会計処理
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務取引	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第5回	有価証券取引（1）	有価証券の種類と購入時の会計処理
第6回	有価証券取引（2）	有価証券の売却時の会計処理、期末評価
第7回	中間試験	第1回～第6回までの内容に関する中間試験
第8回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第9回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費	特許権、商標権、研究開発費の会計処理
第12回	引当金	貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金、商品保証引当金、賞与引当金、役員賞与引当金、売上割戻引当金、返品調整引当金の会計処理
第13回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理
第14回	株式会社の税金	株式会社の税金の種類、法人税の申告と納税、消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価します。

欠席1回につき2点を、試験の得点から減点します。

欠席3回以上5回以下（中間試験を含む）の者はB評価を最高評価とします。

欠席6回以上、もしくは期末試験を受けなかった者はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

MAN200CA
簿記Ⅱ B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B および簿記Ⅱ A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	株式の発行	株式会社における純資産の構成、株式の発行時における会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続、利益準備金の積立、株主資本等変動計算書の作成
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役員収益と役員原価の計上
第 4 回	税効果会計（1）	課税所得の算定方法、一時差異と永久差異、税効果会計の基礎
第 5 回	税効果会計（2）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上、法人税等調整額の計上方法
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間テスト	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	本支店会計（1）	本支店会計の意義、本支店間取引、支店間取引に関する会計処理
第 9 回	本支店会計（2）	本支店会計における決算手続、本支店合併財務諸表の作成方法
第 10 回	連結会計（1）	連結財務諸表の意義と特徴、連結会計における連結修正仕訳の意義、支配獲得日の連結（資本連結）
第 11 回	連結会計（2）	資本と投資の相殺消去、部分所有の会計処理、連結精算表の作成方法
第 12 回	連結会計（3）	支配獲得後の連結修正仕訳、開始仕訳と期中仕訳の意義と方法
第 13 回	連結会計（4）	成果連結と連結修正仕訳、内部取引と債権債務の相殺消去、未実現利益の消去（ダウンストリーム、アップストリーム）
第 14 回	期末試験	第 13 回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。

欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。

欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry of corporate economic activities and events, and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。先行研究の探索と研究計画の立案、実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を実践する。この学期は、文献研究、研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、データ収集と結果の予想までを行う。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初回は、4月23日（月）です。実施方法は授業支援システムHoppiのお知らせ等で確認して下さい。シラバス上の授業回数はシラバスよりも少なくなりますが、課題等で14回分の内容になるように調整します。

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation.

(1) Choose a research theme, search the related literature and create research purposes .

(2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal

(3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 月23日 Online	4 Guidance	What is research? Structure of a paper. Overview of the works done by former students
2	Decide the topic and the the problem you want to focus on	Finding previous research and examine them, Hosei Library Guidance
3	Compile the previous research	List up the findings of studies and categorize them
4	Create research questions	Start to write a research proposal: the background of the topic and what has been commonly known
5	Write a research proposal	What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	Make a title and Write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction	Definition of the terminology and previous research
9	Write Introduction	Research issue and the goal of your research
10	Write Method	Participants, materials, and procedure

11	Write Method	How to summarize the collected information,
12	Write predicted Results	How to make tables and figures, appendices
13	Write potential Discussion based on predicted results	How to write discussion part, referring the previous research
14	Write Discussion and hypothetical Conclusion	How to write conclusion part

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語研究論文の書き方』 ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】

『やさしく書ける英語論文』 松柏社 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第2版』 医学書院 (2011)[邦訳版]

『はじめての英語教育研究』 研究社 (2016)

【成績評価の方法と基準】

40% In-class participation in activities

60% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline and objectives】

This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal, practice data collection, compile the results and analyze them, as they write a paper step by step.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper
2	Introduction 1:	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Introduction 2:	briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Review of literature in paragraph writing:	How to cite previous studies
5	Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Method 1:	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Method 2:	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary
9	Results 2:	Qualitative data summary and its citation
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Through submitted works, feedback is provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語研究論文の書き方』 ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

40% In-class activities

60% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修したい人は、日本語による研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階に匹敵するような論文の一部を 2 週目までに準備し持参する。

【Outline and objectives】

This course aims to write a paper in English based on the research proposal and data summary made in the previous semester.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
寺内 正典
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習者自身の英語の習得を効率的に高めるに役立つ第2言語習得論の基礎的な知識を習得し、それらの理解や方法論を基に、高度な英語コミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

学習者個々人が各自、英語の到達目標を決め、それらの目標の達成を目指して課題解決学習を行う。英語の専門書から得た知識を踏まえ、英語学習や第2言語習得に関する諸問題を批判的に検討し、発展的に英語で議論する能力を育成する。各自が選択した課題に関して統計的処理を用いた実証的研究法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 参加者は、グループごとに自分たちの発表課題を選択し、課題を理解、要約し、自分たちで調べた関連情報を加え、レジュメを作成し、英語でグループ発表を行う。次に発表内容や発表方法の是非に関して参加者全員で議論し、改善策を考察する。

(2) 参加者は担当箇所を予習し、発表する。担当箇所に関してパラグラフ構成型・展開型なども正確に捉え、英文を作成し、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明・自己紹介	授業方法、予習方法、発表方法、課題、学習法などの説明を行う。
2	異文化理解に関するビデオ視聴と議論	異文化間コミュニケーションに関するビデオ視聴して問題点に関して議論する。
3	第2言語習得に関する実証的研究の方法(1)	第2言語習得研究の主要な研究方法の概要を理解する。
4	第2言語習得に関する実証的研究の方法(2)	アンケート調査方法
5	第2言語習得に関する実証的研究の方法(3)	データ収集の方法
6	第2言語習得に関する実証的研究の方法(4)	統計処理の方法（t検定）
7	文処理研究(a)	文処理研究の基礎を理解する。
8	文処理研究(b)	文処理研究に関する諸問題を検討する。
9	談話処理研究(a)	談話処理研究の基礎を理解する。
10	談話処理研究(b)	文処理研究と談話処理研究の関連性を検討する。
11	心理言語学(a)	第2言語処理のメカニズムを検討する。
12	心理言語学(b)	言語処理研究のプロセスとストラテジーを検討する。
13	英語教育(a)	英語教育の諸問題を検討する。
14	英語教育(b)	英語教育の実態と成果を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 研究論文や専門書の該当の章を読み、ハンドアウトにまとめる。

(2) 原書は該当箇所を全員が毎回予習する。

(3) 課題に関してグループごとにハンドアウトとプレゼン資料を作成する。

(4) Advanced1000 を課題自習し、習得する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) Second Language Acquisition (1998)(OUP) Ellis, Rod

(2) Phoenix from the Flames (2015)(CENGAGE Learning) Masanori, Terauchi, et al

(3) 『英文法難問 500』 寺内正典（2016）秀和システム

【参考書】

(1) 『第二言語習得研究の現在』（2004）（大修館書店）小池生夫、寺内正典、木下耕児、成田真澄 編著

(2) 『言語科学の百著科事典』（2006）（丸善）鈴木良次、島山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 編著

(3) 『英語教育学の実証的研究入門』（2013）寺内正典、中谷安男編著（研究社）

【成績評価の方法と基準】

(1) 「研究発表・プレゼン」[40%] (2) 「レポート A4 版」：40行×40字×3枚×2回[30%] (3) 「テスト」[30%]

【学生の意見等からの気づき】

学習者個々人の英語力、適性、ニーズを的確に理解するとともに個々人の学習者要因に応じて英語力を向上させていくために授業における発問を適宜変えていくことの重要性を再認識している。

【学生が準備すべき機器他】

DVD, PC,

【その他の重要事項】

春学期、秋学期の合わせての履修を奨励します。

【Outline and objectives】

In this course, the students will study and acquire research findings of second language acquisition theories which have a great contribution to effective and efficient acquisition of the students' English language abilities.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で積極的學生に適する）。英語で考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。英語の話し合いは積極的に参加して自分の意見を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は英語と日本語で行う。少人数なら学生の英語プレゼンを行う（自分の写真の説明など発表）。☞ 受講希望者 15 名以上の場合、初回選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	テキスト問題演習 1	* U1 GUNNING FOR GLORY("Before You Watch"- "Understand the News")
3	テキスト問題演習 2	* U1 ("Discussion Questions 等") * 資格試験 (TOEIC 等)
4	テキスト問題演習 3	* U2 VIDEO BINGEING "Watch the News"等) * 新聞記事
5	テキスト問題演習 4	* U2 ("DQs"等) * 資格試験
6	テキスト問題演習 5	* U3 SPEAKING THEIR LANGUAGE("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 1
7	テキスト問題演習 6	* U3 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 2
8	テキスト問題演習 7	* U4 CREATIVITY FROM THE CAMPUS("Watch the News"等) * 新聞、プレゼン 3
9	テキスト問題演習 8	* U4 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 4
10	テキスト問題演習 9	* U5 PLASTIC POLLUTION ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 5
11	テキスト問題演習 10	* U5 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 6
12	テキスト問題演習 11	* U6 FOREIGN STUDENTS ("Watch the News"等) * 新聞
13	テキスト問題演習 12	* U6 ("DQs"等) * 資格試験
14	テキスト問題演習 13	* 試験 (既習範囲、配布資料、応用) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習、復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWSLINE 3 (金星堂), 2020, ¥2,400+税. (初回必ず出席し履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 定期試験 = 70%, 授業積極参加 (= 解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で積極的學生に適する）。英語で考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養う。新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。英語の話し合いは積極的に参加して自分の意見を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は英語と日本語で行う。少人数なら学生の英語プレゼン（自分の写真など発表）。☞ 受講希望者 15 名以上の場合、初回授業時に選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容の説明 * U7 FOOD WASTE "Before You Watch"他)
2	テキスト問題演習 1	* U7 ("Discussion Questions >"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
3	テキスト問題演習 2	* U8 INSULATOR("Watch the News"等) * 新聞記事
4	テキスト問題演習 3	* U8 ("DQs"等) * 資格試験
5	テキスト問題演習 4	* U9 THE FIGHT OF THEIR LIFE("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 1
6	テキスト問題演習 5	* U9 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 2
7	テキスト問題演習 6	* U10 NOT-SO-HUMAN("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 3
8	テキスト問題演習 7	* U10 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 4
9	テキスト問題演習 8	* U11 ADAPTING ... (Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 5
10	テキスト問題演習 9	* U11 ("DQs"等) * 資格試験、プレゼン 6
11	テキスト問題演習 10	* U12 CREATIVE ... ("Watch the News"等) * 新聞記事
12	テキスト問題演習 11	* U12 ("DQs"等) * 資格試験
13	テキスト問題演習 12	* U13 NEW SPIN ("Watch the News"等) * 新聞記事
14	テキスト問題演習 13	* 試験 (既習範囲、配布資料、応用) と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習（毎週計 4 時間）

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWS LINE 3 (金星堂), 2020, ¥2,400+税. (秋学期のみの人は履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 定期試験 = 70%, 授業積極参加 (= 解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの講義となります。それにとりまう授業方法の変更については随時、学習支援システムで提示します。授業は4月22日から始まります。初回講義はガイダンスとし、オンライン授業の進め方と方法、教科書等についてお知らせします。各自、学習支援システムで確認してください。

【従来の授業の進め方】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算（ABC）の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算（ABC）の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

小川洵・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価方法を変更します。具体的には初回に学習支援システムで提示します。

【従来の評価方法】

期末試験 90%、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日の課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価、連産品と副産物の区別
第 11 回	標準原価計算①	実際原価の問題点、標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

小川洵・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
会计学入門 A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション形式で講義を行います。なお、春学期の少なくとも前半は Zoom で行います。Zoom の URL、ID、パスワードは Hoppii に掲載します。また、4 月 21 日に Zoom で講義のガイダンスを行いますので、受講を希望する学生は参加するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会計の目的	会計の目的
2	財務会計のシステム	財務会計のシステム
3	複式簿記の構造	複式簿記の構造
4	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則
5	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
6	仕入・生産活動	仕入・生産活動
7	販売活動	販売活動
8	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
9	資金の管理と運用	資金の管理と運用
10	国際活動	国際活動
11	税金と配当	税金と配当
12	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
13	まとめ	まとめ
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必要ありませんが、必ず復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業資料を授業前にアップロードします。各自印刷のうえ持参するようお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門 I B も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN200CA
会計学入門 B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析	相互関係比による収益性分析
8	効率性分析	効率性分析
9	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
10	損益分岐点分析	損益分岐点分析
11	成長性分析	成長性分析
12	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
13	まとめ	まとめ
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必要ありませんが、必ず復習が必要となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業資料を授業前にアップロードします。各自印刷のうえ持参するようお願いします。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

【その他の重要事項】

会計学入門 I A も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会計画論 I

湯浅 陽一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題の領域におけるさまざまな社会問題の解決をめぐる成功事例と失敗事例について学び、問題解決の成否の意味と、成否を左右した要因連関について検討する。2. 社会制御の過程を把握する社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」論を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会計画が関与した社会問題の解決過程の事例についての知識を得る。
2. 社会制御過程についての社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」を理解する。
3. 社会計画についての規範理論的問題群について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営システムと支配システムという視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

なお、とくに指示がないかぎり、春学期の授業はオンラインで実施する。これに伴う授業計画の変更については随時、学習支援システム（Hoppii）にアップロードしていく。授業は5月8日より開始するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと導入	受講上の注意と授業の導入
2	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析①	事例①：沼津市におけるゴミ問題
3	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-1	事例②-1：名古屋新幹線公害問題
4	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-2	事例②-2：名古屋新幹線公害問題（ビデオ）
5	地域問題・環境問題の解決過程③	事例③：東北・上越新幹線建設問題
6	地域問題・環境問題の解決過程④	事例④：フランスにおける新幹線の建設過程
7	地域問題・環境問題の解決過程⑤	事例⑤：静岡県コンビナート立地問題
8	地域問題・環境問題の解決過程⑥	事例⑥：東京ごみ戦争
9	地域問題・環境問題の解決過程⑦	事例⑦：高レベル放射性廃棄物問題
10	事例分析の整理と協働連関の両義性論	これまで取り上げてきた事例の整理を行い、協働連関の両義性論と結びつける
11	協働連関の両義性論①—経営システム・支配システムによる分析	協働連関の両義性と経営システム・支配システムについて解説する。
12	協働連関の両義性論②—2つのシステムの正連動と逆連動	経営システムと支配システムの正連動と逆連動について解説する
13	社会問題解決の成立条件と規範理論的検討	問題解決過程の基本サイクルと社会問題解決の基本的公準について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

船橋晴俊、2012、『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

【参考書】

船橋晴俊他編、1985、『新幹線公害—高速文明の社会問題』有斐閣
 船橋晴俊他編、1988、『高速文明の地域問題—東北新幹線の建設・紛争と社会的影響』有斐閣
 船橋晴俊、2010、『組織の存立構造論と両義性論—社会学理論の重層的探究』東信堂
 船橋晴俊、2018、『社会制御過程の社会学』東信堂
 他の文献については開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの授業実施に伴い、成績評価の方法も変更する。具体的な内容は授業開始日に合わせて Hoppii 上に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論を組み合わせた講義内容により、深い理解を促すことができる。

【Outline and objectives】

Taking case studies of environmental and other social problems, this lecture aims to analyze key factors for resolution.

The relationship between Management and domination is a basic theoretical perspective for us.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会計画論Ⅱ

湯浅 陽一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題、エネルギー問題の領域に関して、さまざまな社会問題や政策的課題の解決努力の成功や失敗を規定している要因を検討する。2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みに対する理解を深める。

【到達目標】

1. 社会問題の解決過程について、事例の理解を通して知識を得る
2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みとしての社会制御システム論と公共圏の機能について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会制御システムや公共圏の機能という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要と導入	本講義の進め方、主題と導入
2	鉄道政策の事例分析①-1	事例①-1：整備新幹線建設－問題の概要
3	鉄道政策の事例分析①-2	事例①-2：並行在来線問題
4	鉄道政策の事例分析①-3	事例①-3：ミニ新幹線
5	鉄道政策の事例分析②	事例②：旧国鉄長期債務問題
6	エネルギー政策の事例分析①	事例①：日本の電力システム
7	エネルギー政策の事例分析②	事例②：原子力エネルギーと地域社会
8	エネルギー政策の事例分析③	事例③：再生可能エネルギーと地域社会
9	エネルギー政策の事例分析④	事例④：再生可能エネルギーと市民活動
10	エネルギー政策の事例分析⑤	事例⑤：再生可能エネルギー導入の国際比較
11	エネルギー政策の事例分析⑥	事例⑥：核燃サイクル問題
12	事例の整理、社会制御システム論と公共圏の機能	事例の整理を行い、社会制御システム論と公共圏の機能の視点から解説する
13	社会問題の制御に向けて	公共圏の機能と民主主義、社会問題の解決について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

松橋晴俊他編，2001，『政府の失敗の社会学』ハーベスト社

【参考書】

松橋晴俊，2010，『組織の存立構造論と両義性論－社会学理論の重層的探究』東信堂

松橋晴俊，2012，『核燃料サイクル施設の社会学－青森県六ヶ所村』有斐閣

松橋晴俊・壽福眞美編，2013，『公共圏と熟議民主主義－現代社会の問題解決』法政大学出版局

松橋晴俊，2018，『社会制御過程の社会学』東信堂

【成績評価の方法と基準】

読書ノート（25%）、期末テスト（75%）による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

事例と関連づけることによる理論的説明は、理解を促進するので、その方法を基本とする。

【その他の重要事項】

この講義を単独で履修することも可能であるが、社会計画論Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In the field of environmental and energy problems, this lecture aims to analyze key factors for making good policy.

The social control theory and public sphere are basic theoretical perspectives for us.

PHL200EB, PHL200EC, PHL200ED

環境倫理

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものであるから、様々な現実の社会問題を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】

科学的合理性は「時」の概念から説明される。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。まとめの講義で15分グループディスカッションを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ークロスロードー	寄生、共生、侵略とは何か
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境ー ダム	ハツ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境ー 原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境ー ドイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音ー新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	生態学における生産者と 消費者	ストロマトライトから哺乳類の誕生、農耕民族と侵略民族
8	交通と土壌汚染ー豊洲市場 問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事ー沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事ー辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興ー阪神淡路大震災 と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何かを考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何かーキリスト 教と侵略	旧約聖書 申命記7章を考える
14	まとめ ー時を超えるー	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。当初は講義録画（ビデオクリップ）をアップする。

【テキスト（教科書）】

テキスト、参考書は授業内に配布する。（購入不要）

【参考書】

・『人間とは何かーその誕生からネット化社会まで』、ボルツ,2009年、法政大学出版局
・『境界線を破る!: エコ・フェミニズム社会主義に向かって』、メアリ・メラー、壽福・後藤訳,1993、新評論

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間のレポート提出による。

②レポート課題は、第14回講義内で示す。

*講義で言及した主題から10項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する(30%)、自分の意見とその論拠を記述する(50%)、課題論文についての感想を記述する(20%)の3点である。

③評価基準は、主題把握的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆっくと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】

国や地方自治体の都市計画業務に25年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】

What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It have to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.

I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

環境法

井上 秀典

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題解決のために環境法・政策がどのような役割を果たしているのかについて学ぶ。

【到達目標】

環境に関する国内外の基本的な法制度の理解を目指すとともに、問題点を理解する。国内環境法と国際環境法の密接な関係を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最近、有害化学物質、土壌汚染、廃棄物・リサイクル、環境影響評価、気候変動、

遺伝子組換え生物などの問題が話題となっている。講義では、このような環境問題に対する法が現在どのような状況にあるのか、さらに、法が問題解決のためにどのような役割を果たしているのかを考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	受講ガイダンス	受講にあたってのガイダンスを行う。
第2回	環境法の歴史	足尾鉍毒事件から現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。
第3回	環境基本法と環境基本計画	環境基本法とそれに基づく環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。
第4回	大気汚染・水質汚濁	大気汚染および水質汚濁に関する国内法制度を検討する。
第5回	廃棄物問題と法	廃棄物問題に対し、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、各種リサイクル法について解説する。
第6回	有害廃棄物の越境移動	有害廃棄物の越境移動問題をめぐる国内法・国際法上の枠組みについて解説する。
第7回	環境影響評価	環境影響評価制度について説明し、その役割および問題点を探る。
第8回	土壌汚染・化学物質	土壌汚染対策法を中心に近年の土壌汚染問題を検討する。また、化学物質関連法にも触れる。
第9回	被害者救済制度、環境紛争の調停	被害者救済制度ならびに環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。
第10回	環境訴訟と法（1）	環境分野の民事訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解決する。
第11回	環境訴訟と法（2）	環境分野の行政訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解説する。
第12回	地球規模の環境問題と法（総論）	地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みおよび特徴を検討する。
第13回	気候変動 1	気候変動に関して条約および国内法について検討する。京都議定書採択までを扱う。
第14回	気候変動 2	京都議定書採択以降、パリ協定採択から現在までを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事やインターネットを通じて環境法に関連する事項の学習をすること。環境法関連書籍を図書館等で学習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版を使用し、さらに関連資料を配付する。

【参考書】

大塚直『環境法 Basic』有斐閣、北村喜宣『環境法』弘文堂、『環境白書』（環境省）、『環境法辞典』（有斐閣）、『環境法判例百選』第3版（有斐閣）、『ベーシック環境六法』（ぎょうせい）

【成績評価の方法と基準】

試験（80%）および平常点（20%）によって成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書について改善工夫をする。

【Outline and objectives】

Learning the role of environmental law and Policy to solve environmental Problems.

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

平野 寛弥

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「雇用と社会保障」をキーワードに日本の産業を取り巻く現状と課題を学ぶ。

【到達目標】

日本型雇用と呼ばれる日本独自の雇用慣行や労働を取り巻く現状、社会保障の概要を学ぶとともに、女性、非正規労働者、高齢者、外国人労働者など周辺化された労働者の実態と関連する政策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本型雇用と呼ばれる伝統的な雇用慣行など、雇用を取り巻く現状を解説したあと、社会保障制度について概説する。あわせて、社会サービスの産業化やベーシックインカム構想への注目の高まりなど、政府と市場の新しい関係が生まれつつある状況についても触れることで、今後の日本社会における雇用と社会保障の関係を再検討する。

なおコロナウイルスの感染拡大により、対面での授業ができないことから、本科目はオンライン方式での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会において雇用と社会保障を学ぶ意味とは
第2回	日本型雇用とその功罪	日本型雇用の概要とその特殊性、およびそれがもたらした影響（サービス残業、長時間労働）
第3回	労働組合と労使関係	労働組合の役割とその衰退、労使関係の変遷
第4回	女性の労働	女性の労働を取り巻く状況（就労率、就労形態、給与等の待遇、労働条件）
第5回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワーク・ライフ・バランスの目的と実態、働き方改革の現状
第6回	高齢社会の到来が産業にもたらす影響	定年制の意義、退職年齢の引き上げの影響、高齢化が産業にもたらす影響
第7回	外国人労働者とその受け入れ	日本の外国人労働者の実態（人数、役割、産業別分布）、受け入れ政策の概要と課題
第8回	企業の社会的役割	企業の社会的責任（CSR）、地域社会との関係構築
第9回	社会サービスの産業化	介護サービス供給、生活困窮者支援における民間団体の進出
第10回	諸外国における社会サービスの産業化	イギリスの就労支援の外部委託（コントラクト・アウト）の現状
第11回	社会保障制度の現状と課題	社会保障制度の目的とそ p の概要、直面する課題
第12回	企業の福利厚生と社会保障制度	生活保障に果たす企業の役割と公的社会保障制度との関連
第13回	雇用と社会保障の再検討	雇用のフレキシブル化、AI の発達、ベーシックインカム
第14回	今後の日本社会と産業	秋学期後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用や社会保障について関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。予習・復習にはそれぞれ2時間程度の時間をかけて、キーワードの下調べや疑問点についての確認をすること。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

各授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義でのリアクションレポート（50%）、および期末レポート（50%）で評価する。

なお、期末レポートの提出は単位取得にとって必須である。

ポスターライン層については各講義でのリアクションレポートの提出状況や内容を勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにし、共有を図る。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更となる可能性があるのでご了承願いたい。

【Outline and objectives】

In this class, you can understand the current state and issues of Japanese industry, focusing on employment and social security.

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

鈴木 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業社会学は、「働くこと」とは何か、「働くこと」が時代の変化でどのように変化したのかを学ぶ学問である。この授業は、1990年代以降の経済や社会情勢の変化のもと、働く人たち（労働者）がどのような課題を抱えているのか、そのような課題についてどのような解決策が模索されているのかなどの「労働問題」について考える。具体的には、長時間労働、不安定雇用、雇用の多様化、労働運動の変化の模索などについて検討する。

【到達目標】

学生は、労働者が直面している問題についての実態や具体的事例を理解し、労働問題が起きる社会的、制度的構造や労働問題を解決するために何が求められるのかを、社会学的な分析枠組みから把握・分析できるようにする。また、様々な雇用形態、属性、出身地をもつ労働者が働くうえで直面する諸問題を理解できる「想像力」をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各テーマに関するレジュメを配布し、それに基づいた講義を行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働者が現在おかれた状況について統計などを使い概観する
第2回	労働時間(1)	労働時間の諸統計の検討、この30年でどのように変化したのか、長時間労働の弊害
第3回	労働時間(2)	長時間労働問題に対してどのような解決策が検討されてきたのか、また対策は効果があったのか
第4回	正規雇用と非正規雇用(2)	従来の「日本的雇用関係」の下での正規雇用と非正規雇用のあり方
第5回	正規雇用と非正規雇用(2)	90年代以降の「日本的雇用関係」の変化に伴う正規雇用のあり方の変容、非正規雇用の拡大
第6回	労働組合(1)	「日本的雇用関係」と企業別組合
第7回	労働組合(2)	企業別組合の「機能不全」とユニオン運動
第8回	中間テスト	授業前半のまとめ
第9回	女性労働(1)	女性労働者が直面する賃金や雇用上の差別について
第10回	女性労働(2)	賃金や雇用上の差別に対する女性労働者の運動
第11回	外国人労働者(1)	90年代以降の日本で働く外国人労働者の状況の推移
第12回	外国人労働者(2)	技能実習制度、特定技能などの日本の外国人労働者政策の問題点
第13回	近年の労働問題	コンビニオーナーなどの個人事業主の広がりや労働問題

第14回 授業内試験

授業後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で指示された新聞記事や本の一部を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

法政大学大原社会問題研究所『日本労働年鑑』旬報社（各年）
竹信三恵子『企業ファースト化する日本』岩波書店（2019年）
熊澤誠『働きすぎに斃れて』岩波書店（2010年）
その他、授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストで各50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対して提出されたリアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにする。

【Outline and objectives】

Industrial sociology examines the meaning of labor and how modes of labor have changed from an industrial to post-industrial era. This course focuses on issues faced by workers (labor issues) and policies and social movements that sought to address these issues under changing social and economic contexts in Japan since the 1990s. Specific topics include long working hours, precarious employment, diversity of workforce, and new trends in the labor movement.

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実践的な知識を身につける。

また、金融システムに応用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーム効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第4版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・ペイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、どうしても数理的な説明をせざるを得ない箇所があります。

【Outline and objectives】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

SES200EB

環境経済学 I

信澤 由之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）について、どのような効果があるのか、について考える。とりわけ、環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、地球温暖化、原子力政策と放射性廃棄物の問題と政策効果について学ぶ。

【到達目標】

環境経済学 I では、問題解決型学習を実施する。履修者が環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗の観点から環境問題の関係について説明できるようにする。特に、外部性以外にも、独占や情報の非対称性、公共財においてもケーススタディからなぜこの問題が起こったのか考えるままとめられることを目標とする。「身近な環境問題」ないし、「地球環境問題」に関心を持ち、地球環境問題を通じて問題提を起し、考察し、文章にまとめる力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に
関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画に変更がある場合には、授業資料に記載してまいります。また、学習支援システムで提示するガイダンス資料をもとに、準備・事後学習、オンライン授業に取り組んでください。本授業の開始日は5月11日（月）とする。オンライン授業の方法は、授業資料を読み、その内容を理解した上で、レジュメの中から課題を出題するので、それに取り組む、提出してください。教室授業再開の場合、毎回配布する資料を用いた講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオ教材などを活用することで、授業内容を理解しやすいうようにしていく。また、授業内容をベースとした課題を出し、授業内容の理解度を小テストで確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／地球環境破壊の現状	シラバスの内容確認／9つの地球環境問題とその影響について考える。
第2回	環境破壊のメカニズム	なぜ、環境は破壊されるのか、事例を用いてそのメカニズムを考える。
第3回	市場メカニズムと市場の失敗	市場メカニズムは万能か、市場の失敗は、何が問題かを考える。
第4回	環境問題と経済	環境問題と経済学の関係について考える。
第5回	外部性・情報の非対称性と環境問題	外部性と情報の非対称性の観点から環境問題を考える。
第6回	地球温暖化とエネルギー資源	地球温暖化の発生メカニズムを把握し、どのエネルギー資源が、温暖化防止に望ましいのかを考える。

第7回	独占と環境問題	独占の視点から再生可能エネルギー固定価格買取制度の欠陥を考える。
第8回	日本の原子力政策	日本における原子力政策について学び、今後、原発ゼロが可能かどうかを考える。
第9回	放射性廃棄物の処分問題－世代間の環境問題	放射性廃棄物とは何か、どのような影響を及ぼすかを学び、安全な処分方法について考える。
第10回	公共財と環境問題	地球公共財とグローバルコモンズの視点から環境破壊について考える。
第11回	外部不経済の理論的考察	経済学で環境問題を考える上で重要な外部不経済を費用の視点から理解する。
第12回	環境汚染の責任と費用負担	地球環境問題において汚染者とは誰か、誰が責任を負うべきか、環境に係わる費用は誰が負担すべきかを考える。
第13回	外部不経済の内部化のための方法	環境政策手法で用いられる規制的手法と経済的手法、奨励的手法について理解する。
第14回	試験・まとめと解説	環境経済学Ⅰの期末試験を実施し、試験終了後、解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストなどを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
講義内容の範囲が広いので、履修者から質問があれば、助言する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、平常点（30%）で評価をする。
期末試験については、論述試験を実施する（予定）。教室での試験が実施できない場合、レポートで評価する。レポートの出題及び評価方法については、期末試験と同様に行う（詳細については、ガイダンス資料を参照）。
平常点については、教室授業再開までは、小テストの代わりに、レポート課題を出題する。①第1回から第2回までの講義内容、②第3回から第5回までの講義内容、③第6回から第7回までの講義内容、④第8回から第9回までの講義内容、⑤第10回から第11回の講義内容、⑥第12回から第13回までの講義内容とする。ただし、この内容は予定であり、授業の進捗状況でレポート課題・小テストの回数は増減することはあるが、全体の比率としては、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの簡単な課題を出し（平常点には含めない）、解説をしていく。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES300EB

環境経済学Ⅱ

信澤 由之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）の事例を用いて、その効果について考える。とりわけ、ヒートアイランド、都市交通問題、ごみ問題、地方環境税を事例に考える。

【到達目標】

環境経済学Ⅱでは、問題解決型学習を実施する。履修者が個別の環境問題について政策効果のある政策手法を論理的に説明できるようにする。特に、廃棄物問題と資源問題、環境配慮型製品の普及と、その消費行動を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた施策を考える。「環境意識」を持ち、生活環境問題・地球環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する資料を用いた講義形式で実施する。必要に応じて、ビデオ教材などを活用することで、授業内容を理解しやすいようにしていく。また、授業内容をベースとした課題を出し、授業内容の理解度を小テストで確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス / SDGs について	シラバスの内容確認 SDGs、持続可能な社会について考える。
第2回	水俣病と国際条約	世界の水俣病問題の状況と水俣条約について理解する
第3回	廃棄物問題とその責任	廃棄物問題とは何か、誰が処理を処理・処分をするのか、その責任は誰にあるのかを考える。
第4回	家庭系一般廃棄物の削減施策	家庭ごみ有料化とその他廃棄物減量施策の効果を理論的に考察する。
第5回	先進国における食品ロス問題	日本の食品ロス問題を中心に、なぜ食品ロスが問題であるか、グローバルの視点で考える。
第6回	廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題	プラスチックやマイクロプラスチックが海洋生物に与える影響と、プラスチックの排出源からの排出抑制策を考える。
第7回	産業廃棄物問題とゼロ・エミッション	有害性の高い産業廃棄物の不法投棄問題と、ゼロ・エミッション工場について考える
第8回	産業廃棄物税とその効果	地方自治体が導入する産業廃棄物税の効果について理論的考察をする。
第9回	ヒートアイランド問題とその施策	ヒートアイランド問題に取り組み先進的自治体の事例からヒートアイランド対策を考える

第10回	森林保全と森林環境税	地方自治体が独自課税として導入した森林環境税について、その効果を考える。
第11回	環境配慮型技術・製品の普及と環境配慮型の消費行動	環境配慮型技術・製品を普及させるためには、消費者が環境配慮型の消費行動にならないといけない。そのための方策を考える。
第12回	途上国における環境問題	貧困問題からもたらされる環境破壊について考える。
第13回	コモングの悲劇と資源問題	コモングとは何か、水資源と生物資源の観点から考える。
第14回	試験・まとめと解説	環境経済学Ⅱの期末試験を実施し、試験終了後、解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
和田尚久『地域環境税』日本評論社、2002年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、平常点（30%）で評価をする。

平常点については、小テストとする。

小テストは、①第2回から第3回までの講義内容、②第4回から第5回までの講義内容、③第6回の講義内容、④第7回から第8回の講義内容、⑤第9回から第10回までの講義内容、⑥第11回から第13回までの講義内容とする。ただし、この内容は予定であり、授業の進捗状況で小テストの回数は増減することはあるが、全体の比率としては、平常点30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの簡単な課題出し（平常点には含めない）、解説をしていく。

環境経済学Ⅰを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を学ぶとともに、環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回アクションペーパーを記入、提出します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やコジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）30％、課題レポート 20％、期末試験 50％とします。
 ・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。アクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回につき 0～2 点）し、全回提出で 30 満点とします。
 ・課題レポートは 2 回（1 回を小テストに代える場合がある）行い、20 満点とします。
 ・授業のまとめとして 50 点満点の期末試験を行います。
 ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像視聴時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、エネルギー対策を事例として行政施策の条例・計画、環境マネジメント、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回アクションペーパーの提出を求めます。問題状況に対する理解を深めるため、環境問題の映像を視聴します。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介し ます。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、 問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状 と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水保の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水 保市の資源循環型地域づくりを学びま す。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条 例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、 環境と産業の調和を目指すエコタウン 構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題 の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とと もに、対策の柱である緩和策と適応策 について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例 とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとし て飯田市のマネジメントの取り組みを 学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民 参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策 マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として 風力発電を進める庄内町（旧立川町） を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境 自治体の概念、持続可能性のあり方を 学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・配分は、授業参加(平常点)30%、課題レポート20%、期末試験50%とします。
- ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点(1回につき0~2点)し、全回提出で満点30点とします。
- ・課題レポートは2回(うち1回を小テストに代える場合がある)行い、満点20点とします。
- ・授業のまとめとして満点50点の期末試験を行います。
- ・欠席の多い受講態度(概ね3割以上の欠席)は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
- ・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

LAW200EB

社会保障法 I

曾布川 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

日本の社会保障の制度、特に社会保険の制度と仕組みを理解し、法政策上の論点を検討する。

私たち生活者は、常に日常生活を脅かす病気やケガ、障害者になるリスク、失業あるいは高齢による稼働能力の減退というリスクと隣り合わせである。こうしたリスクが現実起こったとき、それを解消しあるいは最小限の負担に食い止めるためには、事態をあらかじめ想像してそれに備えておくことが必要となる。この備えを全て個人の貯蓄で賄いきることは困難であるため、集団による費用の持ち合いの手法を用いる。こうした手法を、少々乱雑な整理ではあるが「保険」と呼ぶことにすると、社会保障制度においては、社会全体で保険を行う「社会保険」がこれに該当することとなる。

2020年度の社会保障法Iでは、この社会保険を中心に据えて、基本的な制度のメカニズムを理解することを主眼とする。また、この講義で学修する社会保険の知識は、今すぐ使える情報でもあるので、実生活でも役立ててもらいたい。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室での講義ができなくなった。

そこで代替案として、指定教科書を徹底的に読み込むこととし、これにより授業の目的である「社会保険の制度と仕組みを理解し、法政策上の論点検討」を目指す。

講義はレジュメ(ツッコミレジュメと称する)で行う。教科書とツッコミレジュメを読み、時に参考書や資料を参照し理解を深めてもらう。ツッコミレジュメには、教科書を読む際のガイド、理解を助けるための補足説明や資料、法政策としての論点などを掲載する。また、授業内掲示板も利用する。補足的に短い動画で説明を行う場合もある。

2回の課題レポート作成・提出を義務とする。

・受講スタイル(受講生が行う内容)

①毎週教科書の指定範囲を読み、疑問点やわかりにくい箇所などを挙げておく

②必要に応じて参考書等で調べておく

③講義時に配布されるツッコミレジュメをダウンロードして読む

④掲示板に投稿し他の受講生との意見交換を行う

⑤2回のレポート作成と提出を行う

・授業内掲示板の利用方法

①講義を受けて理解したこと、疑問に思ったこと、自分で調べたこと、質問などを投稿する

②他の受講生の投稿に返信する

③投稿や質問に対して、教員が回答を投稿することもある

講義開始は4月22日11時10分

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総論	社会保険を理解するために、保険ということについて考えてみる
2	医療保険①	医療保険制度の仕組みを中心に
3	医療保険②	傷病手当金等現金給付を中心に
4	医療保険③	高齢者医療制度を中心に
5	介護保険	社会保険としての介護保険という観点で
6	雇用保険	失業したら支給される給付と失業させないために支給される給付がある
7	労災保険	業務災害・通勤災害。アルバイトをする大学生も対象
8	労働保険特別編	労働保険とは雇用保険と労災保険(合わせて労働保険)の実際を紹介する
9	公的年金①	公的年金のしくみを中心に
10	公的年金②	保険料と保険給付を中心に
11	公的年金③	障害年金・遺族年金を中心に
12	社会福祉、児童手当、その他	社会福祉を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週指定教科書を読んでおくことが必要。わからないところ、疑問に思ったことを参考書などを使って調べる。受講後は掲示板に自分が理解できたこと、考えたことを投稿する。他の受講者の投稿にも目を通す。

レポート作成 2 回。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂、2015 年）

【参考書】

岩村正彦、菊池馨実、高さやか、笠木映里編著『目で見る社会保険法教材 第 5 版』（有斐閣、2013 年）

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保険（第 17 版）』（有斐閣、2020 年）
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートにより評価する。

掲示板への積極的な投稿者へ加点がある。投稿をしないことによる減点はしない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットでのやり取りができる端末が必要。スマートフォンでも対応可能。ただし、レポート作成提出と短い動画を閲覧いただくこともある。したがって、入力が容易なキーボード等と可能な限り短い動画視聴に耐えうる通信量を準備されることが望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、現役の社会保険労務士で、専門は医療保障および年金保険。理論を踏まえたうえで実務の実際をも講義する。今すぐ生活に役立つ医療保険や年金保険、労災保険等の情報も得られる。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法 II

曾布川 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障があることで私たちは安心して生活できている。その一方で、制度への不信感や不満感が国民の間にくすぶっており、信頼が薄れてしまっている面もある。この信頼と安心感を取り戻すためにも、また社会保障制度が持続可能であるためにも、改革が必要であるとされている。

2020 年度の社会保障法 II では、社会保険各法における問題点を考察する。そこから、持続可能な社会保障制度構築のために克服すべき課題や必要な政策を探っていききたい。

受講に際し、春学期開講の社会保障法 I を受講されていることが望ましいが、単独でも受講は可能である。ただしその場合、参考書を読み、社会保険制度についての概要を把握しておくことをお勧めする。

【到達目標】

社会保障のうち主に社会保険にまつわる課題解決のために、今後必要とされる政策について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員からの一方講義形式を中心に進める。

リアクションペーパーを用いる。講義中に指定する課題について単語から短文レベルの簡単な記述をもらい、また、講義で取り上げた制度に対しての自由意見も記述してもらう。後日返答するかあるいは講義へフィードバックすることで、講義に奥行きを持たせていく。また、毎回ではないが、リアクションペーパーとは別に、受講生から意見を挙げてもらうことも予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	働くことと社会保障① 労働法と社会保障法	働くこと（労働）に関して、労働法と社会保障法においてどのような議論が行われてきたのか。特に社会保険を中心に概観し、第 2 回以降の課題提起を行うこととする。
2	働くことと社会保障② 労災保険	労働災害をめぐる争いを手掛かりに、働くことと労災保険について考察する。
3	働くことと社会保障③ 雇用保険・雇用対策	人手不足・売り手市場と言われる現在の雇用社会において、雇用保険、雇用政策あるいは失業対策の役割はどのようなものか。雇用保険にまつわる問題を考察する。
4	社会保障の諸問題① 医療保険	医療保険に関する諸問題を取り上げ考察する。 ※社会保障の諸問題は全 3 回を予定しているが、濃淡に差があるため講義内容が前後することがある。
5	社会保障の諸問題② 年金保険	所得保障たる年金制度について諸問題を取り上げ考察する。
6	社会保障の諸問題③ 生活保護・貧困問題	最低生活保障たる生活保護制度について諸問題、貧困問題を取り上げ考察する。
7	社会保障をめぐる争いの解決① 不服申立制度と裁判による解決	社会保険・労働保険の審査請求の仕組みと具体的な争いを検証する。さらに、社会保障法関係争訟から、国が行う社会保障内容の根拠について考える。
8	社会保障をめぐる争いの解決② 医療保険裁判事例	医療保険をめぐる裁判事例から、国民と国あるいは、被保険者と保険者の関係性を考える。
9	社会保障をめぐる争いの解決③ 年金保険裁判事例	障害年金をはじめ年金保険をめぐる裁判事例から、国が行う所得保障について考える。
10	社会保障の理論①	社会保障に関する政策を考える際の骨格となる、法学、経済学、政治学等の理論的アプローチ方法を考察する。
11	社会保障の理論②	第 10 回に引き続き、社会保障に関する政策を考える際の骨格となる、法学、経済学、政治学等の理論的アプローチ方法を考察する。

- | | | |
|----|------------|--------------------------|
| 12 | 社会保障の政策課題① | 近時の社会保障をめぐる政策課題について検討する。 |
| 13 | 社会保障の政策課題② | 近時の社会保障をめぐる政策課題について検討する。 |
| 14 | 試験・まとめと解説 | まとめ講義として社会保障とは何かを考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習を強く期待する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。事前に講義レジュメ等を入手する方法については講義時に指定する。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂、2015年）

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣、最新刊）
 岩村正彦、菊池馨実、嵩さやか、笠木映里編著『目で見る社会保障法教材 第5版』（有斐閣、2013年）
 その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（100%）。なお、リアクションペーパーを評価基準とはしないが、期末試験の出来が振るわなかった場合には加点要素とすることもある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

現役の社会保険労務士が講義する。課題提示および問題解決の理論的なアプローチだけでなく、端々に実務家としての問題のとらえ方も提示する。このことによって理論と実践の両方を学修できる。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	問題提起—正義のために資本を使う	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル・ベシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
9	アラスカ・モデルの意義—遺産相続の論理と株式配当収益による無条件現金移転	受講生の報告と教員を交えた議論
10	全グローバル企業の90%を包摂する株式所有ネットワーク形成の意義	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベシック・インカムの財源規模	受講生報告と教員を交えた議論
12	人類遺産相続基金の論理—全人類の相続回復による本源的蓄積暴力の匡正	受講生報告と教員を交えた議論
13	持ち分所有者全員による人類遺産の管理—透明性と熟議直接民主主義	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	持ち分所有者間紛争の非暴力的管理—歴史的正義回復審判所	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②自分自身の日常生活や国際協力の現状に関するニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年（9月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

提出された13回分の授業日誌の2項目について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレントリア国家：レントリア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論

- 11 イランのイスラーム統治体制の現状 受講生報告と教員を交えた議論
- 12 イラク「政治体制を巡る迷路」 受講生報告と教員を交えた議論
- 13 イスラエルの国家安全保障とパレスチナ問題の変遷 受講生報告と教員を交えた議論
- 14 ヨルダン-紛争との共生 受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の6項目を含むこと。まず授業前の準備として、次の5項目を書いて授業に参加します。①各回のテキスト部分を読んで、自分なりにわかったこと。②わからなかったこと。③知りたくなって調べてみてわかったこと。④調べてみてわからなかったこと。⑤授業で講師や他の学生と議論してみたこと。さらに授業の後には、その日の授業で、⑥議論してみてわかったこと。⑦やはりわからなかったこと。⑧これから自分で調べたり、考えたり、議論してみたくなったこと。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
 岡野内 正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
 ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、予習50%、復讐50%、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いため、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国の世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書）の渉猟
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. グループ発表、討論の準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとに行き渡るだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など20%+小論文50%=70%）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答「交換日記」）や発表=30%を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考量する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 齊

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステム的な見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会のシステム的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1 社会におけるネットワーク現象の理解する
2 企業や地域等のネットワーク現象と運営を考察
3 実験を通じスモールワールド等の社会現象を考察
4 システム概念を確認した上で、個人と社会のネットワーク的な関わりを考察

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示した後、ネットワーク上の主体の役割と相互関係を状況確認します。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク (2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク (1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
08	地域のネットワーク (2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25 %、レポート 25 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 齊

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を交えて授業を進めます。組織の中でのネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式の関係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果 1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果 2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果 3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の関係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

TRS100JB

ホスピタリティ論

野口 洋平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】

ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
2	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
3	ホスピタリティとサービス (1)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
4	ホスピタリティとサービス (2)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
5	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (1)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
6	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (2)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
7	ホスピタリティとサービスのマーケティング (1)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
8	ホスピタリティとサービスのマーケティング (2)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
9	消費者にとってのホスピタリティとサービス (1)	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
10	消費者にとってのホスピタリティとサービス (2)	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
11	国際観光とホスピタリティとサービス (1)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
12	国際観光とホスピタリティとサービス (2)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
13	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
14	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験（サービス提供、サービス享受）について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：100点春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進行方法や評価方法は、極端に履修者数が多い場合や少ない場合には変更する可能性がある。教員への連絡方法は授業内で提示する。

【Outline and objectives】

This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

CUA100JB

日本人の心理特性と文化

長山 恵一

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【Outline and objectives】

In this course, students will explore Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of depth psychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の童話（「だれも知らない小さな国」佐藤さとる）を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】

童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	講義の概要と童話「だれも知らない小さな国」の概説	童話の作られた時代的背景や講義の概要について説明する。
第2回目	第1章「いずみ」	第1章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第3回目	第2章「小さな黒いかげ」1～5節	第2章1-5節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第4回目	第2章「小さな黒いかげ」6～10節	第2章6-10節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第5回目	第3章「矢印の先っぽ」1～5節	第3章1-5節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第6回目	第3章「矢印の先っぽ」6～10節	第3章6-10節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第7回目	第4章「わるいゆめ」1～5節	第4章1-5節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第8回目	第4章「わるいゆめ」6～10節	第4章6-10節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第9回目	第5章「新しい味方」1-4節	第5章1-4節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第10回目	第5章「新しい味方」5-8節	第5章5-8節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第11回目	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のストーリーにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第12回目	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第13回目	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第14回目	授業内テスト（期末テスト）による授業全体の振り返り学習	期末テストを通して授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「だれも知らない小さな国」コロボックル物語 1 佐藤さとる 著（講談社 青い鳥文庫）670 円

【参考書】

その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（65%）と平常点（35%）を合計して最終的な成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト（童話）」を持参してください。

EDU100JB

教育学

藤本 典裕

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考えなのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4. 現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末に試験を実施するが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第6回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第7回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第8回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第9回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第10回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第11回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第13回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第14回	人間にとって教育とは何であるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋本俊昭『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%）を総合的に評価する（配点は目安）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとりまう、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることを主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。
昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline and objectives】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-beeing.

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-beeing have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the functions of schooling system.

Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, and why so, who guarantee the rights.

SOC100JB

社会学特講

左古 輝人

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の構造、その過去、現在、未来。

【到達目標】

社会学の基本的なキータームを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式。質問・感想は歓迎するが、専用の用紙を用いることが望ましい。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
2	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
3	産業社会の形成	18・19世紀における産業社会の歴史的形を概観する
4	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
5	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
6	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
7	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった20世紀初頭を概観する
8	消費社会の構造	20世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
9	消費社会の展開	消費化社会の歴史的形を概観する
10	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
11	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
12	脱工業化の進行	1970年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
13	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
14	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版2006年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書1992年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書1998年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房2011年。

【参考書】

適宜紹介する。ウェブリソースとしては「現代ビジネス」「東洋経済オンライン」「荒木優太(youtube)」「信州読書会(youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。面談したい場合は必ず事前に電子メールで問い合わせること。

【Outline and objectives】

The students learn the basic structure of modern society and its history.

MAN100JB

経営学

山藤 竜太郎

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は狭義の企業経営だけでなく、非営利組織や公的機関など幅広い分野に応用されるようになってきている。そのため、受講生が将来的にどのような進路を選択するとしても、経営学の基本的な考え方を理解していることには意味がある。また、現代福祉学部における経営学の授業の目的として、経営学の基本的な考え方を福祉の経営への応用についても理解する。

【到達目標】

- ①受講生が経営に関するニュースを理解できるようになる。
- ②受講生が福祉の経営について考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式である。
毎回小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要、資料の紹介、成績評価方法について。
2	経営学の全体像	経営学という学問の位置づけについて
3	企業のマネジメント	企業の経営の基本について
4	事業戦略のマネジメント	競争する市場の選定について
5	基本戦略のマネジメント	3つの基本戦略について
6	多角化戦略のマネジメント	多角化企業の全社戦略について
7	経営戦略の映像資料	経営戦略の映像資料について
8	組織構造のマネジメント	組織構造の基本設計について
9	モチベーションのマネジメント	モチベーションとリーダーシップについて
10	キャリアのマネジメント	就職後のキャリア・パスについて
11	日本の雇用制度のマネジメント	日本の雇用制度の特徴について
12	福祉の戦略的マネジメント	福祉のマネジメントの戦略面について
13	福祉の組織的マネジメント	福祉のマネジメントの組織面について
14	経営組織の映像資料	経営組織の映像資料について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からインターネットなどを通じて、経営に関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

加護野忠男、吉村典久『1からの経営学 第2版』碩学舎、2012年。

【成績評価の方法と基準】

小レポート100%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの内容に基づいて、単なるリアクション・ペーパーではなく、毎回小レポートを実施することで積極的な授業参加をうながす。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物ができるようにスマートフォンを持ち込むことが望ましい。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental thinking of business administration.
Apply the basic thinking of business administration to the management of welfare.

SOC100JB

老年学

新名 正弥

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢者を取り巻く環境変化と地域包括ケア	住宅、交通、商業施設、コミュニティの変化と包摂型ケアに向けての課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健帛社

【参考書】

東京大学高齢社会総合研究機構編（2017）「東大がつくった高齢社会の教科書：長寿時代の人生設計と社会創造」ベネッセコーポレーション（データ集として利用してください）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判定する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline and objectives】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the ageing of a human and society surrounding the elderly. The lecture aims at comprehensively describe the biological, psychological, social psychological and sociological perspectives of gerontology, as well as explaining the themes especially in the area of social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding ageing and its policy response.

HSS100JB

ヘルスプロモーション

熊坂 隆行

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。

本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL (Quality of Life) を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】

- 1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
- 2) 健康教育について理解し、説明できる。
- 3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
- 4) 健康増進法について理解し、説明できる。
- 5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行ないます。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成 1
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成 2
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 1
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少人数グループで考える健康づくりを計画・作成 2
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開。株式会社保健同人社、東京、2006。
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論。株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

リフレクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

【Outline and objectives】

This subject will pay attention to "health" "education" "medical treatment" "area", learn about the match to raise QOL and the environment and make the positive health one considers.

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

格差と貧困が拡大したもとで、福祉国家の存在意義が問われています。日本の社会保障制度の特徴を踏まえて、受講生各自の視点から、福祉国家が果たすべき役割と課題について学びます。

【到達目標】

福祉国家の日本の特徴を理解する。貧困の現状とそれへの対応策について、多様な側面からとらえ、論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①講義の単元ごとに、各自が小レポートをまとめ、意見交換をします。
- ②各自が自分の取り組みテーマを設定し、研究をまとめ、発表を行います。
- ③学生自身の視点から理解を深めますので、授業準備の時間を確保してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	福祉国家の概要	ガイダンス
2	福祉国家の機能	格差拡大の下での所得再分配機能
3	現代日本の貧困（1）	貧困基準について
4	現代日本の貧困（2）	社会的剥奪と社会的排除
5	日本の福祉国家（1）	皆保険・皆年金 社会手当、生活保護
6	日本の福祉国家（2）	自助と互助
7	日本の福祉国家（3）	生活困窮者自立支援事業の展開
8	貧困対策の課題（1）	子どもの貧困
9	貧困対策の課題（2）	シングルマザーの貧困
10	貧困対策の課題（3）	高齢者、8050 問題
11	貧困対策の課題（4）	失業者、ワーキングプア
12	貧困対策の課題（5）	住居喪失者・不安定者
13	福祉国家の行方	基礎単位、基底、保障水準、サービス体系、権利保障
14	まとめ	総括レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業の単元ごとに、小レポートの提出を求めます。
- ②また、各自が具体的なテーマを設定し、問題解決に向けた発表を行います。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート：30 % 発表：40 % 期末試験：30 %

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定に時間をかけることにします。

【Outline and objectives】

The expansion of disparity and poverty makes the role of the welfare state more important.

This lecture focuses on the characteristics of the social security system in Japan and aims to understand the roles and tasks of welfare state.

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支脈をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第 2 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 3 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 4 回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間の営為と基本的な人権保障の規定
第 5 回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第 6 回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第 7 回	エコミュージアムの機能と地域遺産保護	博物館、エコミュージアム
第 8 回	文化財の種類と保護の歩み	明治期・大正期・昭和戦前期の文化財保護、文化財保護法の制定
第 9 回	文化財の保存と活用 (1)	史跡の保存と活用の実態
第 10 回	文化財の保存と活用 (2)	伝統的建造物群の保存と活用の実態
第 11 回	文化財の保存と活用 (3)	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第 12 回	文化財の保存と活用 (4)	名勝・天然記念物・民俗文化財の保存と活用の実態
第 13 回	近年の文化財政策の同行	日本遺産事業、文化芸術基本法
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（出欠とアクションペーパー）30%、課題レポート 70 % により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline and objectives】

Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

サブタイトル：国際支援論 (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な事例の考察を中心に議論を交えて進めていく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当する曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGs、国際協力と現代福祉①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGs、国際協力と現代福祉②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGs、国際協力と現代福祉③
第5回	人間の安全保障とは	人間の安全保障と現代福祉
第6回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉
第7回	日本政府と国際協力	日本政府による現代福祉
第8回	NGOと国際協力	国際NGOによる現代福祉
第9回	民間企業と国際協力	民間企業による現代福祉
第10回	国際協力と実際の仕事	現代福祉に関わる具体的な仕事
第11回	国際協力課題検討①	アイデアの検討・紹介①
第12回	国際協力課題検討②	アイデアの検討・紹介②
第13回	国際協力課題検討③	アイデアの検討・紹介③
第14回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、レポート・アイデア紹介：50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」どの国にあっても、福祉国家の改革が焦点の課題である。本講義では、20世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】

・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
・社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になります。講義内容自体に大きな変更はありませんが、大きな変更がある場合には学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日を5月9日(土)とし、その日までに具体的なオンライン授業の進め方を学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義概要の説明
第2回	福祉国家への道	社会保険の導入
第3回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第4回	戦後の再建	1940年代の動向
第5回	50年代の改革	社会保険改革
第6回	福祉国家の「頂点」	1970年代の改革と停滞
第7回	新しい社会問題	貧困への再発見
第8回	高齢者問題	高齢者の貧困
第9回	家族の危機	80年代の改革
第10回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第11回	家族の変容と改革	1990年代の改革
第12回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第13回	移民と福祉	難民危機 (2015年)
第14回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ベースに合わせて、文献を読む。例えば、第2回と第3回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第4回から第12回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第9回から第13回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解すること。講義の予習に1時間、授業後の復習のために3時間の家庭学習を必要とする。
・山崎史郎『人口減少と社会保障』は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

菊池馨実『社会保障再考』(岩波新書 2019年)
田中拓道『福祉政治史』(勁草書房 2017年)
二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』(旬報社 2014年)
平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』(ミネルヴァ書房 2003年)
水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』(岩波書店 2012年)
山崎史郎『人口減少と社会保障』(中公新書 2017年)
バット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』(ミネルヴァ書房 2000年)

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2. 筆記試験の得点(7割)、平常点(3割)で成績評価を決定する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書があまりシステムテックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。

【Outline and objectives】

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare state in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare state.

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めていこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はP D C Aサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。

前半は、基本的な事項や考え、現在注目されているテーマを解説、多様な視角の存在、情報の収集や読み解き方などについて説明します。後半では、実践事例を学び、キャンパス周辺の環境に目を向け学習内容を実践してみましよう。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、ミニワークショップ	ガイダンス及び環境学習経験の確認、「人間をとりまく環境のイメージ」の共有
第2回	環境及び環境政策に関する基礎的知識、SDGsの概説とグループワーク	環境及び環境政策、SDGsの概説後、SDGsに関するGW（ディスカッション及び発表用資料作成作業）を行う
第3回	SDGsに関するグループワーク（発表）と解説	GW発表と講評、SDGs関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）解説
第4回	環境政策・環境学習の理念	環境政策及び環境教育の基本的な考え方。目的、目標、法体系など
第5回	環境政策・環境学習の歴史的経緯	環境問題の発生と環境政策の生成過程、自然保護/公害教育から環境教育へ、など歴史的経緯を把握
第6回	身近な環境に関する基礎知識1	持続可能性、循環型社会等
第7回	身近な環境に関する基礎知識2	アメニティ、生物多様性、センスオブワンダー等
第8回	身近な環境に関する基礎知識3（方法論）	野外体験、観察、調査等、実践的手法
第9回	前半のまとめと後半のガイダンス	前半で学んだ重要事項の確認と後半の進め方、フィールドワークに関するガイダンス
第10回	ミニフィールドワーク「あるもの探し歩き」	キャンパス周辺の身近な自然的・歴史的環境にふれる
第11回	企業による取り組み事例	身近な環境に関する企業の取り組み事例
第12回	市民による取り組み事例	身近な環境に関する市民の取り組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取り組み実践体験 ワーク1	※かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取り組み実践体験 ワーク2	※かるた制作（絵札づくり）と試用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史 (2014)『環境政策論 (第3版)』信山社、東京商工会議所編 (2019)『改訂7版 環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト』、日本環境教育学会編 (2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著 (2011)『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：中間に2回と期末に課題提出
3. 採点基準：平常点40%、課題60%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

後半、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワーク（ワークショップ）を行っています。過去9年間のワークは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺を改めて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、今年度も受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。
※印で示したグループワーク（第13～14回）の内容は昨年の例です。

【Outline and objectives】

Citizen's independent participation and voluntary activity are indispensable for the environmental policy to settle a global environmental problem.

The purpose of this lecture is to bring the citizen who works on a solution of a close environmental issue voluntarily up.

As a basis of citizen's voluntary activity, it's very important to learn about environment/environmental problem in a close area.

In this lecture, students learn basic knowledge of the environment/environmental problem and policy, and then will experience a few activity by the campus.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根付いた生活文化をも含めたもの／ことを指す。こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

Through many cases, we will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で行われています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中にも実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみてください。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）30%、課題レポート70%により総合的に評価します。2種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということに常に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	地域経営論の全体像 自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第3回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創（共創）型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI制度等の民間活用の施設整備）
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営
第13回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり ・リノベーションまちづくり
第14回	講義の総括	・レポートの提出と発表 ・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー50%

②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション50%（レポート課題は6月前半に提示）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マストツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	歴史的環境保全と地域ツーリズム	伝統文化の観光化①
第9回	民俗舞踊の「保全」と「公開」	伝統文化の観光化②
第10回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第11回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第12回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を記載しておく。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会（コミュニティ）の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	映像鑑賞	文化環境創造、民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】**①成績評価方法**

・平常点:毎回アクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法: 中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法: 平常点 (出欠とアクションペーパー) 30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート: 課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society.

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に授業を行う予定である。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディ等を用いて紹介する。事前学習とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	同上② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	富士ゼロックスの CSV、その光と影
9	ソーシャルマネジメント 実践例研究	キリン(株)の CSV
10	コミュニケーション技術 について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	SDGs またはソーシャルマネジメントに関するグループワーク
12	演習②	SDGs を掲げた企業経営と行政政策
13	演習③	法政大生の SDGs 研究と発表
14	まとめと展望	講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では事前レポート（A4 1枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGs の主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題レポート 50 %、グループ討議等での発表 20% 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦勞しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

ソーシャルファイナンスの概要を学ぶとともに、社会の課題解決に必要な資金の調達について、身近な事例をもとに具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは「学習支援システム」からダウンロード可能。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代までの事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の行動と心理の可視化
第 6 回	ドナーピラミッド	団体寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大や継続率を高める手法
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	コミュニティ財団とコレクティブインパクト	地域コミュニティ財団の概要と、多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念
第 13 回	社会的インパクト評価	説明責任と事業改善のために行う社会的インパクト評価の手法
第 14 回	エピローグ	まとめと理解度確認テスト（ノートや参考書など持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題などはありませんが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

理解度確認テスト（ノート、資料、参考書など持込可）の結果で評価。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに限らず、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしていきます。

【Outline and objectives】

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues.

In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

MAN300JB

NPO論

渡真利 絃一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

NPO 活動の意義や実践について考えることで、学生自身が、自分らしく安心していられる場を持つたり、仲間を持つこと、他者に対して寛容であったり、社会に対して本音で向き合うことの重要性を認識するとともに、そうした状態に近づけるために学生自らが NPO 活動に取り組んだり、NPO 活動に関わるための土台をつくることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は「社会と NPO」について事例を交えて考えを深め、後半は「NPO の運営」について体験を通じて学ぶことで NPO を立体的に捉えていきます。授業形態は講義を主とし、後半にはグループ演習を行う予定。毎回の授業におけるリアクションペーパーの提出及び中間レポートと最終講義での発表を実施する予定。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージや社会の状況を共有し、本講義の目的や目標、進め方を学生と決定する。
第 2 回	NPO の具体的事例	映像資料等を活用し、NPO の具体的な活動やその背景にある社会課題の構造について考える。
第 3 回	NPO の基礎知識	NPO の歴史的背景や NPO 法設立経緯を踏まえ、NPO 活動における文脈を辿る。
第 4 回	NPO の社会的意義	NPO の定義や行政・企業との比較を通じ、NPO の持つ社会的な意義について考える。
第 5 回	ボランティア活動の理解	NPO 活動におけるボランティアの位置づけやその意義について考える。
第 6 回	NPO の具体的事例紹介 1 「権利保障とアドボカシー」	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の具体的事例紹介 2 「仲間づくりとソーシャルインクルージョン」	NPO 活動に携わる者（ゲスト）から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO の組織運営	NPO の組織の立ち上げ方や運営の方法・課題について基本的な内容を理解する。
第 9 回	スタディサークルの実践 1	NPO 活動と関連する実践を紹介し、グループ毎に関心テーマを決め、活動の予定を立てる。
第 10 回	スタディサークルの実践 2	関心テーマの具体的な活動内容やその価値を検討するためにグループ毎に情報収集を行う。
第 11 回	市民活動と SDGs	国連が定める SDGs（持続可能な開発目標）の動向を把握し、前回検討した内容を更新する。
第 12 回	NPO と関係機関との協働	NPO と関係機関（行政・企業・中間支援組織等）との協働を考え、前回の検討内容を更新する。
第 13 回	これからの NPO とトレンド/まとめ	これからの NPO の形や社会で重要とされる観点を学ぶとともに、授業の振り返りやまとめを行う。
第 14 回	スタディサークル発表会	第 9 回以降グループで考えてきた関心テーマやその活動、大事にしたい価値などを発表し評価し合う場を持つ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を取ってください。具体的には授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事をあたってみたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを行うことを心がけてください。そうすることで自分なりの「観」を養うことを期待します。また、授業で紹介した NPO 活動の現場や NPO の主催するイベントへ足を運んだり、ボランティアなどから関わりを持つなど、NPO 活動に主体的に関わることを期待します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、中間レポート 30 点、発表 30 点。

平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。

また、優れたものについては加点を行います。

(実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。) 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

・前年度授業ではグループワークのねらいが伝わりにくかったため、事前に目的や方法を説明して実施します。

・リアクションペーパーや中間レポートに対する講師のフィードバックや授業内での共有は好評であったため、引き続き実施を予定します。

・学生が自己や他者との対話を深めながら、社会について考える時間を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なお、授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline and objectives】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定 3～2 級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週、第 2 回目以降は 2 時限続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第 1 回：4 月 9 日 4 時限

第 2・3 回：4 月 24 日 4・5 時限

第 4・5 回：5 月 7 日 4・5 時限

第 6・7 回：5 月 28 日 4・5 時限

第 8・9 回：6 月 4 日 4・5 時限

第 10・11 回：6 月 18 日 4・5 時限

第 12・13 回：7 月 2 日 4・5 時限

第 14 回：7 月 16 日 4 時限春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第 2 回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第 3 回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第 4 回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第 5 回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみた ICF の考え方
第 6 回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第 7 回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第 8 回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第 9 回	ハウスアダプテーション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第 10 回	福祉機器の活用	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第 11 回	高齢者福祉施設	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第 12 回	障害者福祉施設等	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第 13 回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第 14 回	くらしの先進国に学ぶ	北欧社会における福祉住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣
東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所
住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と小レポート（70%）、レポート（30%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行うと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline and objectives】

Learning the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされるとき、自動的に働くものの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	人間の心的機能について	「はくはくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第3回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第4回	アサーション・トレーニング (2)	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第5回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「バッチ・アダムス」視聴（解説付き）。
第6回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「バッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第7回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴（解説付き）。
第8回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第9回	文化的態度	映画「バッチギ」視聴（解説付き）。
第10回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「バッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第11回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き）。
第12回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第13回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き）。
第14回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %
期末レポート 60 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してほしいと思います。

【Outline and objectives】

The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries. Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it. I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

法文営国環キG 1年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立以来140年になる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

- ・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
- ・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎週金曜日に資料を提示し、1週間で課題（300字程度）を提出してもらってフィードバックする形式で進めます。

資料はスライド、文献、動画などさまざま。こんな時だからこそ、じっくりわれらが〈法政大学〉をみつめてみましょう。

詳細は Hoppi 上の添付ファイルをご覧ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・校歌を知ろう！	校歌の資料を提示し、法政大学について考えるヒントにします。
2	法政大学の歴史を大まかに知ろう！	今後の授業展開の指針となる大学のあゆみを把握します。（小林ふみ子）
3	法律学校・東京法学校としての草創期	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について（浜村彰）
4	大民法学者梅謙次郎のもとでの和仏法律学校としての発展と中国・韓国との関係	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わり、留学生受け入れなどについて（高柳俊男）
5	大正期のリベラリズムのなかでの文学者・哲学者たちの活躍	本学で教えた夏目漱石門下の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。（衣笠正晃）
6	法政大学にかかわる作家の小説・随筆を読む！	前週の作家・思想家たちの著述から
7	戦時下の日本と法政大生	戦時下の大学と学徒出陣について（古俣達郎）
8	戦後の総合大学としての大発展期	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える（横内正雄）
9	法政大学の学生文化	学生生活と文化の今昔を知る（古俣達郎）

10	改革と発展の時代へ	本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に新たに置かれた 4 学部について学ぶ。
11	法政大学における「自由」の概念と「法政大学憲章」	「法政らしさ」を考える
12	ふりかえり	この授業を受けてどう思ったか、これからの自身の学びや法政大学に期待したいことなどを共有する。
13	(なし)	*****
14	(なし)	*****

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は変わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。
4 月オープンの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

初回を除く各回の課題を 10 点満点で採点し、その集計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 10 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は後日、授業支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline and objectives】

Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded? We will trace the 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**金融リテラシー**

コーディネータ：**岩田和子、講師（ゲストスピーカー）：山本洋一郎氏他**

開講時期：**春学期授業/Spring** | 曜日・時限：**金 3/Fri.3**

単位数：**2 単位**

法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。
金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。
本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。
学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。授業の開始日は 4 月 24 日（金）からとし、全 12 回の講義とします。本講義は、複数回の動画配信（教材配布あり）と、教材のみ配布の方法にて実施します。成績評価の方法と基準については、変更ありません。
なお、今後授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。
オムニバス形式ですが、授業としての統一性を保てるよう、責任者の教員が同席します。そのコーディネートののもと、各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性 ・人生とお金	・生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ。 ・人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性などを学ぶ。
2	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
3	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
4	ライフプランを描く①	ライフプランの重要性、人生の 3 大費用などを学ぶ
5	ライフプランを描く②	キャッシュフローの分析演習など
6	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
7	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点

8	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ
9	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
10	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用などを学ぶ
11	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用などを学ぶ
12	・トラブルに強くなる ・全体総括	・学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ。 ・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

※リアクションペーパーは、学習支援システムのテスト/アンケート機能等を活用して実施いたします。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度より開講のため、なし。

【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
 - ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。小テスト、期末試験、課題の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

This course is an elementary Korean course. In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

・わからないことを放置しないようにしてください。
 ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コツコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／韓日辞典』

【成績評価の方法と基準】

・平常点 30 %
 ・期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

CD の活用

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについて	授業の進め方について説明します いと簡単な復習
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANj300LA

日本語コミュニケーションA

2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っていても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どういう要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際にあった例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

文化の異なりについて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・モデル」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位（単音）について i	コードの単位の一つである「音」の単位（単音）について紹介します
9	「音」の単位（音素）について ii	コードの単位の一つである「音」の単位（音素）について紹介します
10	「意味」の単位（形態素）について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します

以上で紹介・解説した内容について、理解度を判定するために試験をします。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な事例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is those who think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many cultural components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand what is communication, and can use the needs that are for how to communicate with those who has different cultures.

LANj300LA

日本語コミュニケーション B

2017 年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国 2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っけていても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どういう要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際の例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

この授業で培った知識と技能によってより日本人とよりスムーズなコミュニケーションができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
8	「宗教」について ii	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します

14 期末試験 講義の内容に関して試験を行います。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語という言語によるコミュニケーションについて、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方だけの問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is many students think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand What is communication, and can use the needs that are for communication with those who has different culture.

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【4月20日追記】

春学期の少なくとも前半は、オンラインで開講します。各回の授業については、学習支援システムでその都度提示するので注意。また時折課題を出すので、指示に従って期限内に提出すること。

4月27日15時に第一回の授業として、支援システムにガイダンス資料をあげます。受講を希望する学生は当日中にアクセスしてください。

【4月23日追記】

【授業開始日】4月27日15時（4限）に第1回授業として資料を配布します。受講を希望する学生は必ずその時間にアクセスしてください。春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講です。

【進め方】配布した資料を各自で読み進める自学自習形式です。確認のために、毎回課題を出すので指示に従って期限内に提出すること。詳細は第1回授業配布資料を見ること。

【教科書など】指定教科書はなし。適宜レジュメや関連資料をPDFで配布します。

【対象学年】2年生以上。1年生は受講不可。この授業を履修し単位を取得した学生も不可。

【通信環境】毎週月曜4限の時間帯に Hoppii へ安定してアクセスできるよう、インターネット環境を整えてください。資料のダウンロードや課題の提出は、各自で Hoppii にアクセスする必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩讖」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み

- 第10回 夢と恋愛文学
- ・夢での逢瀬
 - ・恋愛成就の神
 - ・夫婦の別離と再会
- 第11回 夢の世界の冒険
- ・怪異との接触
 - ・儂い栄達
 - ・動物への変身
- 第12回 他人と共有された夢
- ・「二人同夢」
 - ・危機の通達
 - ・夢での邂逅
- 第13回 日本における夢
- ・他人が見る夢
 - ・日本文学における夢
- 第14回 まとめ
- 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin to Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intend to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のテーマは、「フェミニズムと文芸創作」です。

この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて文章を書くための基礎的な方法について学びます。春学期と秋学期には連続性があり、春学期には批評的視座について学び、書評を書きます。北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か：不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019年。kindle版1,400円、単行本1,681円）を教科書とします。秋学期には文芸作品を書くことをメインにします。

*「2020年11月5日(木)から8日(日)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します」と書きましたが、現状をかんがみ、未定とします。

【到達目標】

- (1) フェミニズムという視座から文学を捉えることができるようになる。
- (2) 様々な文学ジャンルの作品を的確に分析できるようになる。
- (3) 限られた文字数で読書を惹きつけるような書評を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・春学期には批評的視座について学び、書評を書きます。春学期の成果として、ワードなどで書評集を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/17(木)15:00-4/25(土)23:55 選抜試験【講義はなし】	<p>・受講希望者は、以下の 3 つの「課題」に答えて、学習支援システムの「課題」から 4/17(木)15:00 から 4/25(金)23:55 までに提出してください。4/27(月)23:55 までには可否をお伝えします。</p> <p>1、この講義を受講したい理由 (800 文字)</p> <p>2、以下の二つの文章を読んだ感想 (800 文字程度)</p> <p>・「【特別掲載】大疫病の年に マイク・デイヴィス、コロナウィルスを語る」(重田園江訳、web ちくま、2020 年 4 月 7 日公開) http://www.webchikuma.jp/articles/-/2004</p> <p>・閻連科「アジアの作家たちは新型コロナ禍にどう向き合うのか。『文藝』夏季号で緊急特集。ノーベル文学賞有力候補にして現代中国の最重要作家・閻連科による書き下ろし手記を緊急全文公開」(谷川毅訳、『文藝』河出書房新社、2020 年 3 月 30 日) http://web.kawade.co.jp/bungei/3466/</p> <p>3、「人が生きるということ」というテーマで、詩、短歌、俳句、800 文字以内の小説、ラップのリリックなどを書いてください。</p> <p>*注意点</p> <p>・本科目は、春学期、秋学期連動ですので、秋学期からの登録ができません。その点注意してください。</p> <p>・試験結果は掲示板で発表するので、各自確認すること。</p>
第 2 回	5/7 フェミニズムと文芸創作【講義あり】	<p>・春学期の授業計画の説明、受講者の自己紹介。</p> <p>・LINE を用います。音声とチャット、両方で参加できるようにしたいと思います。授業連絡用とは別に授業用 LINE を作ろうと思います。</p> <p>・書記係、連絡係など役割を決定します。</p> <p>・書記 (少なくとも 10 名) 今年度は LINE を中心に授業をしますが、それを適宜まとめてほしいです。ただし、コピー・アンド・ペーストをすることが中心なので、大きな負担にはならないようにしたと思います。その授業内で、ローテーションでできればと思います。詳しくは相談しましょう。</p> <p>・連絡係 (3 名) こちらは LINE での連絡を行うときにまとめを行う係です。グループを作ったり、音声を用いるときに補佐してもらいます。</p> <p>・書評作成係 (3 名) 書評をとりまとめる係です。ワードファイルなどで完成させます。</p> <p>・LINE で連絡しますが、情報が流れてしまうので、必要なことは書記係が記録して、授業支援システムからファイルをアップロードします。</p> <p>・今学期に読む、北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か: 不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』(書肆侃侃房、2019 年。kindle 版 1,400 円、単行本 1,681 円) について説明します。5/14 に担当者を決定します。</p> <p>・フェミニズムと文学について講義。(レジュメの PDF を配布します)</p>

- 第3回 5/14 文芸創作と倫理
【講義あり】
- ヘイトスピーチとは何か。人権と文学の関係についてなど、文芸創作を行う上での倫理についてまとめます。授業がはじまるまでに、以下の冊子を読んでください。授業でも取り扱います。
・「ヘイトスピーチと人権—京都人権ナビ」（京都府、2017年発行）
https://kyoto-jinken.net/wp-kyoto-jinken/wp-content/uploads/2017/04/hatespeech_and_humanrights.pdf
・「川崎市の公的施設に「ヘイト年賀状」 視察した超党派議員「全力で事態打開を」」（『毎日新聞』2020年1月22日）→動画をみてください。
<https://mainichi.jp/articles/20200122/k00/00m/040/332000c>
・書評：『わたしもじだいのいちぶです—川崎桜本・ハルモニたちがつづった生活史』（康潤伊・鈴木宏子・丹野清人編著 日本評論社 2019年1月 2000円+税）
評者：佐々木有美（「レイバーネット」、2020年3月26日）
<http://www.labornetjp.org/news/2020/hon151>
・「世界人権宣言（全文）＊1948年12月10日、国連総会で採択」（Amnesty International）
https://www.amnesty.or.jp/human-rights/what_is_human_rights/udhr.html
- 第4回 5/21『お砂糖とスパイスと爆発的な何か—不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019年。kindle版1,400円、単行本1,681円）
- ・「まえがき 不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門」、Chapter1 自分の欲望を知ろう
・各チャプター2名、発表時間10分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどでA4用紙1-2枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までにwordなどのファイルで授業用LINEに提出。
- 第5回 5/28『お砂糖とスパイスと爆発的な何か—不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』
- ・Chapter2 男らしさについて考えてみよう、Chapter3 ヒロインたちと出会う
・各チャプター2名、発表時間10分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどでA4用紙1-2枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までにwordなどのファイルで授業用LINEに提出。
- 第6回 6/4『お砂糖とスパイスと爆発的な何か—不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』
- ・Chapter4 わたしたちの歴史を知ろう、Chapter5 ユートピアとディストピアについて考えよう
・各チャプター2名、発表時間10分。前半後半で分担してもいいです。ワードなどでA4用紙1-2枚で簡潔に内容をまとめる。発表週の月曜日までにwordなどのファイルで授業用LINEに提出。
- 第7回 6/11 ボーイズラブ(BL)を読む
- ・ボーイズラブが成立するまでの歴史的な経緯についてまとめ、文学との繋がりについて考えます。堀あきこ、守如子編著『BLの教科書』（有斐閣、2020）を参照します。
- 第8回 6/18 BL 短歌を読む/詠む
- ・BL 短歌やBL 読みできる詩歌をとりあげます。BL 短歌を詠みます。
- 第9回 6/25 書評集をつくる(1)
- ・受講生それぞれが書評を書いてゆきます。書評の分量は、800-1,600文字。7/16 23:55 締め切り。
・フェミニズムの視点から様々な作品を読み進めてゆきましょう。
・「読書サロン」というサイトの書籍リストはぜひとも参考にしてください。
「★書籍リストを見る★」というところから見られます。
<https://sites.google.com/site/yomuyomuutouto/eventpast?authuser=0>
- 第10回 7/2 書評集をつくる(2)
- 書評を書いてゆきます。個別相談。学習支援システムの「課題」機能を用いてファイルを提出してもらい、添削するという形をとります。
- 第11回 7/9 書評集をつくる(3)
- 書評を書いてゆきます。個別相談。学習支援システムの「課題」機能を用いてファイルを提出してもらい、添削するという形をとります。
- 第12回 7/16 書評集をつくる(4)
- 書評完成。書評係がとりまとめ、1冊のファイルにし、みんなが見られるようにします。
- 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
- ・文学作品を読んだり、書評を書いたり、グループやクラスのメンバーの書評を読むことが必要です。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- 【テキスト（教科書）】
- 変更あり！
北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か：不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書肆侃侃房、2019年。kindle版1,400円、単行本1,681円）
- 【参考書】
- 王谷晶『完璧じゃない、あたしたち』（ポプラ文庫、2019）
ルシア・ベルリン『掃除婦のための手引き書 ルシア・ベルリン作品集』（岸本佐知子訳、講談社、2019）
スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』（三浦みどり訳、岩波現代文庫、2016）
堀あきこ、守如子編著『BLの教科書』（有斐閣、2020）
- 【成績評価の方法と基準】
- 発表や役割分担など授業への参加（30%）、学期末までに完成させた書評（70%）で総合的に評価します。
- 【学生の意見等からの気づき】
- 毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。
- 【学生が準備すべき機器他】
- パソコンが必要です。
- 【その他の重要事項】
- ・受講希望者が多い場合、選抜試験を行います。
・この講義は、文芸創作講座A(春学期)と文芸創作講座B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
・初回講義に来られない場合は、受講できないので注意してください。
- 【Outline and objectives】
- This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度のテーマは、「フェミニズムと文芸創作」です。春学期と秋学期の授業には連続性があり、春学期には批評的視座について学び、書評を書きました。春学期の成果として書評集を作成し、2020 年 11 月 5 日（木）から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。秋学期には、詩歌、フィクション、ノンフィクションなど幅広い意味で、文芸創作にかかわる作品を仕上げることを目指します。

【到達目標】

- (1) グループワークを行い、書評集を編集することができる。
- (2) 自分の作品を客観的に見、改善することができる。
- (3) 相互批評を通じて、自分の作品をよいものにすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・秋学期前半では、春学期から夏休みを通じて作成した書評集を校正し、冊子にします。

・2020 年 11 月 5 日（木）から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。

・11 月半ばから、作品（小説、詩歌、ルポルタージュ、脚本、ラップなど）を書きはじめます。その後、相互批評を行い、リライトを行い、作品を洗練させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	(1) 秋学期の計画の説明、(2) 市ヶ谷キャンパス祭に向けて、(3) 校正の仕方について。
第 2 回	冊子の校正（予定）	冊子の校正を完了させます。印刷会社に依頼するので、 メ 切厳守です。
第 3 回	再校（予定）	校正ゲラ（初稿）が戻ってくるので、再度、誤字脱字がないか確認をし、校正を印刷会社に戻します。
第 4 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (1)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第 5 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (2)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第 6 回	市ヶ谷キャンパス祭の準備 (3)	市ヶ谷キャンパス祭のための準備を行います。冊子の完成見本ができてきます。
第 7 回	作品を書く (1)	・市ヶ谷キャンパス祭のフィードバックを行います。 ・今回から書くことにシフトします。自分が大切にしている世界観を言語化します。作品のジャンルは問いません。

第 8 回 作品を書く (2)

時間や場所の設定の仕方について学びます。物語において時間とは何か。プロットの作り方や時系列の作り方について学びます。

第 9 回 グループワーク (1)

グループ間でのアドバイスなどを行います。

第 10 回 グループワーク (2)

グループ間でのアドバイスなどを行います。

第 11 回 個別相談 (1)

個別での相談・アドバイスなどを行います。

第 12 回 個別相談 (2)

個別での相談・アドバイスなどを行います。

第 13 回 個別相談 (3)

個別での相談・アドバイスなどを行います。

第 14 回 まとめ

授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・2020 年 11 月 5 日（木）から 8 日（日）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

市ヶ谷祭への参加度 (40%)、学期末までに完成させた小説 (60%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。大学のパソコンを使用することなども可能です。

【その他の重要事項】

- ・この講義は、文芸創作講座 A(春学期)と文芸創作講座 B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間 3,000 円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

〈2020 年 4 月 17 日追記〉

オンライン授業実施にともない、以下のいくつかの項目について、追記または変更点があります。それも合わせて、よく確認してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流籠馬～」

「吉本新喜劇の歴史」

〈2020 年 4 月 17 日追記〉

教室での授業が始まるまで、学習支援システムを使った、教員によるオンライン授業が進めます。受講生による発表は、教室での授業が可能となり、かつ、発表希望者がいる場合に行います。そのため、【授業計画】は大幅に変更されることが予想されます。

〈2020 年 4 月 20 日追記〉

本授業の開始日は 4 月 28 日とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明

第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	グループ A の発表
第 9 回	受講生による発表・討論	グループ B の発表
第 10 回	受講生による発表・討論	グループ C の発表
第 11 回	受講生による発表・討論	グループ D の発表
第 12 回	受講生による発表・討論	グループ E の発表
第 13 回	受講生による発表・討論	グループ F の発表
第 14 回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

〈2020 年 4 月 17 日追記〉

教室での授業が始まるまでは、学習支援システムに教材をアップロードしますので、それをダウンロードしてください。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

〈2020 年 4 月 17 日追記〉

教室での授業が始まるまでは、学習支援システムにアップロードしますので、それをダウンロードしてください。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

〈2020 年 4 月 17 日追記〉

教室での授業が始まり、発表が行えた場合、発表者については発表内容 70 % (①②③)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。発表しなかった受講生はレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。

なお、オンライン授業実施中においては、学習支援システムを通じて課された課題の提出状況およびその内容を「平常点」として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

〈2020 年 4 月 17 日変更〉

受講希望の人は、4 月 20 日までに学習支援システムに仮登録してください。定員制の授業ですが、2020 年度に限り、受講希望者が定員を超えても抽選・選抜は行わず、全員に受講を許可する予定です。

また例年、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表してもらうことにしていますが、2020 年度に限り、発表でもレポートでもどちらでもかまわないことにします。

〈2020 年 4 月 16 日までの注意事項〉

受講希望の人は必ず第1回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第1回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡して下さい。なお、メールは必ず件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。

春学期「日本芸能論A」を履修せず、秋学期「日本芸能論B」のみ受講する予定の人も、春学期第1回授業までに、上記の要領でその旨をメールで連絡して下さい。

第1回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の方が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

なお、秋学期「日本芸能論B」を受講せず、春学期「日本芸能論A」のみを履修する場合は、必ず発表して下さい。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

日本芸能論B

2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録して下さい。

< 2020年4月17日追記 >

春学期のオンライン授業実施にともない、【その他の重要事項】について変更点がありますので、よく確認して下さい。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「落語の演技」「演目からみる宝塚歌劇」「書道パフォーマンス ～芸術から芸能へ～」「歌舞伎の見得とセーラムーン」「YOSAKOI ソーラン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループGの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループHの発表

- 第10回 受講生による発表・討論 グループIの発表
 第11回 受講生による発表・討論 グループJの発表
 第12回 受講生による発表・討論 グループKの発表
 第13回 受講生による発表・討論 グループLの発表
 第14回 まとめ 秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容70%（①②③）またはレポート70%（①②④）、平常点および討論への参加状況30%（③）という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

< 2020年4月17日変更 >

定員制の授業ですが、2020年度に限り、受講希望者が定員を超えても抽選・選抜は行わず、全員に受講を許可する予定です。

秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために春学期「日本芸能論A」の受講をおすすめします。なお例年、「日本芸能論B」のみを履修する場合は必ず発表してもらうことにしていますが、2020年度に限り、発表でもレポートでもどちらでもかまわないことにします。

< 2020年4月16日までの注意事項 >

春学期「日本芸能論A」を履修せず、秋学期「日本芸能論B」のみ履修する予定の人は、必ず、春学期第1回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。なお、メールで受講希望の連絡をしなかった人は、秋学期授業に出席しても、履修者数に余裕がない場合、受講を許可しないこともありますので、注意してください。

秋学期「日本芸能論B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために「日本芸能論A」の受講をおすすめします。「日本芸能論B」のみを履修する場合は、必ず発表してください。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・ブレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。

（追記）【授業開始日】4月27日

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia 』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について
13	モダン・ダンス（2）	ベジャール、パウシュ、フォーサイス等の実践について

14 まとめと試験 記述式の期末試験を実施。まともと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。（映像を含む）
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）
三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30 % : 適宜課される小テストや小レポートを通し、それまでの授業の理解度を評価。

期末試験 40 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

（追記）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。変更内容については、すでに「学習支援システム」にアップロード済のパワーポイント資料（第0回：ガイダンス）を参照のこと。

平常点：50%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアン身体表現について
3	レビュー	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカル（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカル（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	反リアリズム演劇	20世紀日本のアンクラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
8	映画（1）	男性的な英雄の系譜と英雄像について
9	映画（2）	ポップ・アイコンとしてのヘップバーンとモンローについて
10	事例研究（1）	『マイ・フェア・レディ』、『雨に唄えば』、『ファニー・ガール』
11	事例研究（2）	宝塚版『Me and My Girl』
12	事例研究（3）	『Cabin in the Sky』
13	事例研究（4）	『ムーラン・ルージュ』
14	まともと試験	記述式の期末試験を実施。まともと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から舞台鑑賞をするように努める。（映像を含む）

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
 岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
 ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
 リサ・アピニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリー）
 小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
 本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
 スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
 マイケル・チェーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
 鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
 蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
 浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）
 油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30%：適宜課される小テスト、小レポートを通して、それまでの講義の理解度を評価。

試験 40%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

- * 美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
- * 各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）について段階的に幅広く学んでいきます。
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

- * 西洋近代美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学ぶことができます。
- * 美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について学ぶことができます。
- * ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入（20分）

毎回の講義の冒頭にはレジュメ等の配布、授業の概要を伝えるとともに、最新の展覧会やアーティストの情報などを紹介します。

講義（40分）

その講義の中心となる内容の講義です。講義では、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。授業中の質問も歓迎しますので、みなさんの率直な意見や考えを述べてください。

レクチャー・パフォーマンス（20分）

その回の講義と関連したトピックを一つ取り上げ、レクチャー・パフォーマンスを行います。

授業内レポート（20分）

毎回の授業の最後に、講義やレクチャーパフォーマンスと関連したスケッチとテキストによる授業内レポートを書くことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
資料	Google Classroom	学習支援システムのインフォメーションをご覧ください。
4/27	オリエンテーション	授業の概要について美術史の学び方
5/4	古代美術 1	講義 原始美術/先史美術 メソポタミア美術 エジプト美術 ギリシャ美術 ローマ美術 レクチャーパフォーマンス 「ラスコーの壁画」

5/11	古代美術 2 ワークショップ 1	単元の復習 ワークショップ 「伝える方法・絵から文字へ」
5/18	中世美術	講義 初期キリスト美術 ビザンティン美術 初期中世美術 ロマネスク美術 ゴシック美術 レクチャー・パフォーマンス 「キリスト教と美術」
5/25	近世美術	講義 ルネサンス美術 バロック美術 ロココ美術 レクチャー・パフォーマンス 「レオナルド・ダ・ヴィンチ」
6/1	近代美術 1	新古典主義 ロマン主義 写実主義 レクチャー・パフォーマンス 「ギュスターヴ・クールベ 写実主義の思想」
6/8	中世、近世、近代美術 ワークショップ 2	単元の復習 ワークショップ 「デッサンの手法」
6/15	近代美術 2	印象主義 野獣派 キュビズム 表現主義 レクチャー・パフォーマンス 「ピカソとブラック」
6/22	近代美術 3	ロシア構成主義 未来派 ダダイズム シュルレアリズム レクチャー・パフォーマンス 「マルセル・デュシャン」
6/29	近代美術 4 ワークショップ 3	単元の復習 ワークショップ 「シュルレアリスムの実験」
7/6	現代美術 1	デ・ステイル バウハウス レクチャー・パフォーマンス 「第一次世界大戦前後」
7/13	現代美術 2	抽象表現主義 ネオダダ ポップアート ミニマルアート コンセプチュアルアート レクチャー・パフォーマンス 「スクールレポリチャーとアート」
補講	現代美術 3 ワークショップ 4	単元の復習 ワークショップ 「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。

参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点 (50%)
2. 授業内レポート (50%)

評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思います。

【その他の重要事項】

重要

こんにちは。

美術論 A を担当する国際文化学部の稲垣です。

受講方法について説明します。

学習環境

PC、スマートフォンどちらでも受講可能です。また、インターネット環境を心配されている方も多くいらっしゃいましたので、当初は Zoom などでのライブ・ストリーミングは任意参加以外では基本的には行わず、ウェブサイトを開覧してもらう方式にしました。

授業の形式

みなさんの受講環境が一定でないためオンタイムでの授業は行わず、ウェブサイトにて授業コンテンツを全て掲載して一定期間（一週間程度）公開、それをみながら授業を受講してもらう方式にします。

授業の方法

授業時間になると授業支援システムを通じて Google site（ウェブサイト）のリンク先を公開します。公開したウェブサイトにて授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、5-10 分程度のものを 2、3 本）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトでは春学期の間は公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

対面授業とオンライン授業では内容は同一です。ただし、今年度の授業はそもそも去年までの授業内容と大きく変更しています。まずはシラバスを確認してください。第一回目の授業で、もう少し詳しい説明をします。

授業内レポート

受講後、Google Form で小テストと授業内レポートを提出してもらいます。提出期限は授業終了後の一週間程度です。

評価

小テストと授業内レポートの提出を持って出席とし、採点を行います。

質問

質問については Google Classroom に投稿してください。また、授業時間内であれば Google hangout Meet (<https://meet.google.com/lookup/bsy7htarxc?authuser=1&hs=179>) を使い対面で通話できます。

個人的な相談についてはメールを送ってください。

リクエストがありましたら、数回に一回程度 Zoom などを使った任意参加のトークも行いたいと思います。

質問がありましたら、いつでもお応えしていきます。

では、みなさんお元気で過ごしてください。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容を、俯瞰的、実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『日本の美術』

古代から近代までの日本美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる日本美術史がテーマとなります。また、後半は現代美術の制作や美術館、美術批評の現場について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
9/21	オリエンテーション	授業の概要について 美術理論の学び方
9/28	現代美術史概論 1	アバンギャルドの芸術 未来派・ダダイズム・シュルレア リズム レクチャー・パフォーマンス 「未来派のパフォーマンス」
10/5	現代美術史概論 2	戦後美術 ポップアート・ミニマルアート・ コンセプチュアルアート レクチャー・パフォーマンス 「アンディ・ウォーホル」
10/12	現代美術史概論 3	90年代から現代まで リレーショナル・アート ソーシャリー・エンゲージド・ アート レクチャー・パフォーマンス 「パットイ」
10/19	近現代美術史 4 ワークショップ 1	単元のまとめ ワークショップ「現代美術の方法 1」

10/26	メディアとアート 1	絵画・彫刻・インスタレーション レクチャー・パフォーマンス 「文人画」
11/2	メディアとアート 2	写真・映像 レクチャー・パフォーマンス 「ナム・ジュン・パイクとビデオ アート」
11/9	メディアとアート 3	パフォーマンス レクチャー・パフォーマンス 「ハプニング」
11/16	メディアとアート 4 ワークショップ 2	単元のまとめ ワークショップ 「現代美術の方法 2」
11/30	社会と美術 1	環境とアート レクチャー・パフォーマンス 「エコロジーとアート」
12/7	社会と美術 2	教育とアート レクチャー・パフォーマンス 「ABR について」
12/14	社会と美術 3	フェミニズムとアート レクチャー・パフォーマンス 「Cut Piece」
12/21	社会と美術 4 ワークショップ 3	単元のまとめ ワークショップ 「現代美術の方法 3」
1/18	フィードバックとディ スカッション	「美術論 B」のテーマ全体に関す るディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。

参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019

【成績評価の方法と基準】

平常点と授業毎に行う授業内レポートにより成績を評価します。

1. 平常点 (50%)

2. 授業内レポート (50%)

評価の具体的な指針についてはルーブリックを参照してください。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art

2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、各々の映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期初回授業日：4月23日

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。

初回に、定員を50名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 エドウィン・S・ポーター アベル・ガンス
8	列車に乗る 2	アルフレッド・ヒッチコック 黒澤明
9	自動車に乗る	フランク・キャブラ ジャン＝リュック・ゴダール
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ 諏訪敦彦
11	壁の向うを聴く	アルフレッド・ヒッチコック ロバール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック マルグリット・デュラス
13	鏡を見る	ジョセフ・ロージー オーソン・ウェルズ
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点50%+レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価とする）。

ただし、春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、平常点の基準を変更する。それに関しては学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を实践し、受講資格を得た学生にも受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the space structure of classical films.

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を、長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、映画が都市や自然をどのように表象しているのかを学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を学ぶ。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を上げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、出席カードに感想を書いてもらったりすることになる。

初回に、50 名以上の受講希望者がいる場合、50 名以内に絞り込むための選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、必ずこれに出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	高層都市	フリッツ・ラング ポール・グリモー
3	迷宮都市	フェデリコ・フェリーニ ジェック・タチ
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	フリードリヒ・ムルナウ ジャン・ヴィゴ
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 相米慎二
10	水の宇宙	アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン 柳町光男
12	森と動物	宮崎駿 アビチャボン・ウィラセタクン
13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生にも受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline and objectives】

In this class, we study the space structure of classical films.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月8日とします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となりますので、それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示することとします。また、具体的なオンライン授業の方法などについては、授業開始日までに、これも学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」（1）
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「諸行無常」（2） 西洋の真理観との比較
第 7 回	仏教の基本思想（3）	「諸行無常」（3） 西洋の真理観との比較（続き）
第 8 回	仏教の基本思想（4）	「一切皆苦」（1） 苦と苦の因 十二支縁起
第 9 回	仏教の基本思想（5）	「一切皆苦」（2） 苦の減と苦の減に至る方法 八支聖道・中道
第 10 回	仏教の基本思想（6）	「一切皆苦」（3） 苦からの解放と生の充実

第 11 回 仏教の基本思想（7） 「諸法無我」

非我と無我

人無我と法無我

人無我論証

第 12 回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』

第 13 回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』

第 14 回 授業内試験・まとめ 筆記試験

まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：プリント資料の精読、発表の準備（課題担当者）

授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

資料はプリントで配布する。

【参考書】

中村元著『原始仏教 その思想と生活』、NHK ブックス、1970年
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK
出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

仏教思想を学ぶのが初めての学生がほとんどであるから、出来るだけ丁寧な指導・解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化してきたのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義と演習の両形態を採ります。演習では、担当者を決め、授業内に発表してもらいます。また、課題を出すこともあります。課題の担当者にも、調べたことを授業内で発表してもらいます。毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	原子（極微）論 仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第 6 回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苜経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苜経』・『稲苜経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観
第 13 回	大乘仏教（7）	修道階梯 哲学思想の序列化 一乗思想
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読、発表の準備（演習・課題担当者）

授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

テキスト・資料はプリントで配布する。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的
世界観』、Dojin 選書、2013年
桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析<アビダルマ>』、
角川ソフィア文庫、1996年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）

学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためず問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想を学び、その人生観等に新鮮な驚きを感じる学生が多いようでした。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

学生はインパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を受けることができます。また、高画質のDVD動画の投射により学習もできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は授業時間帯にとられないオンラインでの開講となります。それにとまう各回授業計画変更は学習支援システムでその都度お知らせします。この授業の開始日は5月7日として、4月23日

までに具体的なオンライン授業の方法などのオリエンテーションを学習支援システムでお知らせします。

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第2回	序論	自己をクリエートする21世紀精神へ
第3回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第4回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第5回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか?》
第6回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは?》
第7回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第8回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第9回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第10回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第11回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは?》
第12回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

Semester末試験を基準(70%)として、小レポート(15%)と出席回数(15%)も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、<クリエイティブな行為>を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは？	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12 回	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。

第 13 回 自己創造としての変身 ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。

第 14 回 まとめ 行為の理論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

毎回の授業で紹介しします。拙著『ニーチェとヘーゲル』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

セメスター末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC 接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：愛の労働——「ケアの倫理」の行方 (1)

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想 A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミ II」「現代思想 B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2020 年度は、「愛の労働——「ケアの倫理」の行方」というテーマで、エヴァ・フェダー・キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』（1999）を精読していく。キテイはニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校哲学科教授であり、フェミニズム倫理学の専門家である。また彼女は、障がいをもつ娘の母親でもあり、自分の経験を「ケアの倫理」にも反映させている。

キテイの哲学を学ぶことによって、私たちが誰かに依存していかなければならないことによどのような意味があるかを考えていく。

【到達目標】

- (1) キテイの思想を理解することで、「ケア労働」の哲学的な意味について考えることができる。
- (2) 21 世紀を生きる私たちにとって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (3) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本授業では、キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』を精読する。

【授業の方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【授業開始日】

4月27日（月）2時限（10:40-12:20）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序章 逃げていく平等	・担当者の発表と議論 ・フェミニストによる平等批判
3	第一部 愛の労働 第1章 依存と平等との関係	・担当者の発表と議論 ・「お母さんの子どもである」ということ
4	第1章 依存と平等との関係 (2)	・担当者の発表と議論 ・人間の条件としての平等
5	第2章 脆弱性と依存関係の道徳 (1)	・担当者の発表と議論 ・依存労働者の透明な自己

6	第2章 脆弱性と依存関係の道徳 (2)	・担当者の発表と議論 ・依存労働者の道徳的義務とケアの倫理
7	第二部 政治的リベリズムと人間の依存 第3章 平等の前提 (1)	・担当者の発表と議論 ・秩序だった社会のための正義の環境
8	第3章 平等の前提 (2)	・担当者の発表と議論 ・「すべての市民は十分に協働しうる構成員」という理念化
9	第4章 社会的協働の恩恵と負担 (1)	・担当者の発表と議論 ・道徳的人格を持つ二つの能力と基本財のリスト
10	第4章 社会的協働の恩恵と負担 (2)	・担当者の発表と議論 ・社会的協働という公共的構想
11	第三部 みな誰かお母さんの子どもでもある 第5章 政策とケアの公的倫理 (1)	・担当者の発表と議論 ・福祉改善
12	第5章 制作とケアの公的倫理 (2)	・担当者の発表と議論 ・福祉の正当化
13	第6章 「私のやり方じゃなくて、あなたのやり方でやればいい」	・担当者の発表と議論 ・母親業を可能にする条件
14	第7章 違いのある子供への母的思考	・担当者の発表と議論 ・生命を保護する愛 ・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は事前にレジュメを作成し、担当教員にメールに添付して送付しておくこと。
- ・担当者以外の受講者は事前にテキストを読んでおくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

エヴァ・フェダー・キテイ『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』、現代書館、2010年

Eva Feder Kitty, Love's Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency, Routledge, 1999.

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート (50%)
- ・平常点 (50%)

※要注意【変更】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

初回授業日に、その時点での成績評価の方針について、「学習支援システム」で受講者に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。
- ・本科目は、ILAC 科目「倫理学 L I・L II」と深い関係がある。「倫理学 L」では、「ケアと正義の倫理」を多角的に扱っている。

【受講上の注意】

本授業は、定員 (30 名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In 2020, we will read Eva Feder Kittay's "Love's Labor: Essays on Women, Equality, and Dependency," on the theme of "Love's Labor: The Future of Ethics of Care". Kittay is a professor of philosophy at State University of New York at Stony Brook and a specialist in feminist ethics. She also has a daughter with a disability. She reflects her experience on "ethics of care." By learning Kittay's philosophy, we consider what it means to have to depend on someone.

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：「共依存」の倫理——「ケアの倫理」の行方(2)

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2020年度秋学期は、小西真理子の『共依存の倫理——必要とされることを渴望する人びと』（2017）を精読していく。小西は、「共依存」の関係が否定的に捉えられてきた点を批判し、そこに幸福への可能性を見出そうとする。この点を踏まえて、本授業では「ケア」と「共依存」の関係について検討する。

【到達目標】

- (1) 「共依存」の心理的側面だけでなく、哲学的・倫理的側面があることを学ぶことができる。
- (2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

本授業では、キテイの『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』と小西の『共依存の倫理』を精読する。

【授業の方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など
2	序章 共依存という生き方	・担当者の発表と議論 ・共依存とは？
3	第一部 共依存の概念史	・担当者の発表と議論 1 共依存の前史
	第1章 共依存概念の誕生史(1)	
4	第1章 共依存概念の誕生史(2)	・担当者の発表と議論 2 共依存の誕生
5	第2章 共依存の病理化(1)	・担当者の発表と議論 1 共依存症
6	第2章 共依存の病理化(1)	・担当者の発表と議論 2 共依存関係
7	第2章 共依存の病理化(2)	・担当者の発表と議論 3 共依存病理の両義性

8	第3章 共依存と精神分析 (1)	・担当者の発表と議論 1 共依存概念の誕生に影響を与えた精神分析論
9	第3章 共依存と精神分析 (2)	・担当者の発表と議論 2 共依存言説において引用される精神分析理論
10	第二部 共依存の理論とその倫理観 第4章 共依存とフェミニズム (1)	・担当者の発表と議論 1 ラディカルフェミニズムからの批判
11	第4章 共依存とフェミニズム (2)	・担当者の発表と議論 2 フェミニスト心理学からの批判
12	第5章 共依存とトラウマ論 (1)	・担当者の発表と議論 1 共依存とアダルトチルドレン
13	第5章 共依存とトラウマ論 (2)	・担当者の発表と議論 ・共依存のトラウマ論
14	第6章 共依存の回復論 終章 「異常者」という「忘れられた存在」の総括	・まとめ ・回復者の統治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当者は事前にレジュメを作成し、担当教員にメールに添付して送付しておくこと。
- ・担当者以外の受講者は事前にテキストを読んでおくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小西真理子「共依存の倫理——必要とされることを渴望する人びと」、晃洋書房、2017年

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート（50%）
- ・平常点（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。
- ・本科目は、ILAC科目「倫理学 L I・L II」と深い関係がある。「倫理学 L」では、「ケアと正義の倫理」を多角的に扱っている。

【受講上の注意】

本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture".

In the fall semester of 2020, we will read carefully Mariko Konishi's "Ethics of Co-dependence: People who crave for what is needed" (2017). Konishi criticizes the negative relationship of "co-dependence" and seeks to discover the potential for happiness in the "co-dependence" relationship. Based on this point, this class will examine the relationship between "care" and "co-dependence".

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
単位数：2単位
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を行っていく。なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業を進めていく。

昨今の情勢のため、授業は学習支援システムかメールを用いて行いきます。学習支援システムと大学の割り当てたアドレス宛てのメールをこまめに確認するようにしてください。授業開始日は4月27日になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・假定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。

漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。なお、秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開	唐の太宗と『貞観政要』(1)
第10回	儒家思想と政治の展開	王安石と宋学(2)
第11回	儒家思想と民族・学問	朱子学と歴史学(1)
第12回	儒家思想と民族・学問	顧炎武の人生と明清交替(2)
第13回	儒家思想と民族・学問	顧炎武の学問と国家観(3)
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986年）
 末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
 仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
 藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
 礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

Comparative study of ancient nations and society between Japan and China using temples

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設を取り上げて説明する。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廃仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版局、1985年）
 林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961年）
 石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974年）
 速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004年）

道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957年）
 追塩千尋『国分寺の中世的展開』（吉川弘文館、1996年）
 勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54集、2003年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50％）、②レポート（授業時に指示する）（50％）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline and objectives】

A comparative study of social services by Buddhists in Japan and the Tang Dynasty

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する民意のあり方などについて学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる日本で最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。戦前は南方の島々などに、多くの移民を送り出した歴史もあります。沖縄について学ぶことは、アジア・太平洋島嶼と日本の関係を理解するためにも役立つでしょう。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
- ・琉球王国時代のアジア各国との関係や多くの移民を送り出した戦前の暮らし、戦時中の被害の実態などを知る。
- ・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【4月16日追記】

コロナ対応に鑑み、当面の授業は、オンライン会議システムの「Zoom」を使ったミーティングで実施します。

本来の授業時間である火曜日4時限の時間帯に合わせてミーティングを設定し、学習支援システムのお知らせで招待状を表示しますので、学生は各自で対応願います。

授業開始は4月28日（火）としますが、練習も兼ねて4月21日（火）にもミーティングを設定します。できるだけ参加するように心掛けてください。21日はシステムへの習熟が目的ですので、出席を含めて成績評価とは無関係です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	沖縄の置かれた現状、日本政府との関係、独自の文化、歴史的背景などの概説【授業全体の流れを説明】
2	沖縄の現状①基地	米軍基地の現状、なぜ辺野古への基地建設反対の民意が生まれるのか
3	沖縄の現状②経済	沖縄経済は米軍基地に依存しているのか。観光業の実態は
4	沖縄の現状③政治	基地反対の強い民意が生まれ、自民党が苦戦する政治情勢はいかにつくられたのか
5	グループディスカッションなど【振り返り】	沖縄の現状への理解度を確認する

- | | | |
|----|----------------------|--|
| 6 | 沖縄の歴史①沖縄戦 | 県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態、本土決戦の捨て石とされた背景 |
| 7 | 沖縄の歴史②琉球王国から沖縄県へ | 琉球王国時代から、多くの移民を送り出すようになった戦前まで |
| 8 | 沖縄の歴史③戦後の復興と米施政下の時代 | 過酷な戦争被害から沖縄はどのように復興したのか。米軍施政下の人々の暮らしは |
| 9 | 沖縄の歴史④日本復帰への思い | 米軍施政下から起きた日本への復帰運動 |
| 10 | 沖縄の歴史⑤復帰後の沖縄 | 沖縄県民が望んだはずの復帰への期待と失望 |
| 11 | 沖縄の歴史⑥復帰から現代まで | 沖縄の基地返還運動と観光を柱とした経済発展 |
| 12 | 沖縄の歴史⑦まとめ | 沖縄はどのような道を歩んで現在の状況に至ったか |
| 13 | グループディスカッションなど【振り返り】 | 沖縄の現状や歴史の理解度を確認する |
| 14 | 沖縄の現状と歴史【総括】 | 授業内容全体を踏まえた上で、今年前半の沖縄関係のニュースを取り上げて解説する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（40％）

期末レポート（60％）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当であるため情報なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。大学での授業は初めてですが上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史 B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline and objectives】

Through the current status and history of Okinawa, which still has many US military bases, we will learn about Japan's security policy, its relations with the Asian and Pacific islands, and the willingness to oppose the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the worst damage in Japan in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration until it returned to Japan in 1972. Before the war, there was a history of sending many immigrants to the southern islands. Learning about Okinawa will help you understand the relationship between Asia and the Pacific Islands and Japan.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A」で学んだ沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア各国・太平洋島嶼との関係、ジャーナリズムのあり方などについて、さらに学びを深めます。太平洋戦争で県民の4人に1人が犠牲になる過酷な被害を受け、日本に復帰するまで27年間も米国の施政下に置かれた沖縄の姿からは、日本の安全保障問題、アジア各国・太平洋島嶼との関係性などが垣間見えます。地元の新聞と全国紙の報道の違いなど、メディアの姿勢にも特徴があります。現在の沖縄が置かれた状況を学ぶことで、日本が進むべき道が見えてくると思います。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野野の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
- ・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。
- ・沖縄を報道するメディアの姿勢を通じて、ジャーナリズムのあるべき姿や役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッションを行う。
各講義ごとにリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A」で学んだ沖縄の現状や歴史を振り返る【授業全体の流れを説明】
2	メディアの役割①沖縄の地元紙	地元紙の沖縄タイムスと琉球新報は、米軍基地の問題をどのように報じているのか。全国紙との違いは何か
3	メディアの役割②戦争とメディア	戦時中に戦争賛美や翼賛報道に加担したメディアの歴史を学ぶ
4	グループディスカッション【振り返り】	沖縄の現状と報道のメディアの役割
5	沖縄とアジアの国々①	在韓米軍という形で、沖縄と同様に基地を抱える韓国の状況を学ぶ
6	沖縄とアジアの国々②	国際情勢の中で、日米韓の関係は、どのような役割を果たしているのか
7	沖縄とアジアの国々③	米国と対抗するまでに存在感を増した中国の海洋開発や国際戦略の意図は何か

8	沖縄とアジアの国々④	北朝鮮は近くて遠い国。なぜミサイルを飛ばすのか。人々の暮らしは。ペールに包まれた国の実状を学ぶ
9	グループディスカッション【振り返り】	アジア各国と日本は、どのような関係性を保つべきか
10	未解決の課題①従軍慰安婦	沖縄には戦時中、朝鮮半島から連れてこられた慰安婦がいた。証言を基に、今も議論が続く慰安婦問題を学ぶ
11	未解決の課題②徴用工	沖縄には戦時中、朝鮮半島から労働力として徴用された人々がいる。日韓で未決着の補償問題の本質は何か
12	未解決の課題③在日韓国・朝鮮人とヘイトスピーチ	日本人の差別意識の根底にあるのは何か。在日朝鮮人や沖縄に対するヘイトスピーチの現状と課題を学ぶ
13	グループディスカッション【振り返り】	未解決の課題への取り組みについて議論する
14	アジア・太平洋島嶼の沖縄と日本【総括】	さまざまな課題や外交から見える沖縄と日本の関係を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行 <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年

・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（40%）

期末レポート（60%）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当であるため情報なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界への就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。

大学での授業は初めてですが、上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

【Outline and objectives】

Through the current status and history of Okinawa learned in "International History of Asia and Pacific Islands A", we will further deepen the study of Japan's security policy, relations with Asian countries and Pacific islands, and journalism. Okinawa was severely damaged in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration for 27 years before returning to Japan. This gives a glimpse into Japan's security issues and its relationship with Asian countries and Pacific islands. There is also a distinctive media attitude, such as the differences between local newspapers and national newspapers. By learning about the current situation of Okinawa, we can think Japan will have a better way to go.

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 A

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第1章：在日朝鮮人世界の形成。1～3（併合前から関東大震災まで）	学生によるテキストの報告、映像
4	第1章：在日朝鮮人社会の形成。4～6（植民地支配と日本への定着化）	学生によるテキストの報告、映像
5	第2章：協和会体制と戦争動員。1～3（世界恐慌期の渡航・移民。協和会）	学生によるテキストの報告、映像
6	第2章：協和会体制と戦争動員4～5（強制連行、強制労働）	学生によるテキストの報告、映像

7	フィールドワーク	「在日朝鮮人歴史資料館」見学
8	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成1（戦後在日朝鮮人の出発）	学生によるテキストの報告、映像
9	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成2, 3（占領政策、朝鮮戦争と在日朝鮮人）	学生によるテキストの報告、映像
10	第3章：戦後在日朝鮮人社会の形成4（帰国運動）	学生によるテキストの報告、映像
11	第4章：2世たちの模索1（日韓会談と在日社会）	学生によるテキストの報告、映像
12	第4章：2世たちの模索2～4（在日社会の容容）	学生によるテキストの報告、映像
13	終章：グローバル化の中の在日朝鮮人	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人 歴史と現在』（岩波新書）860円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。輪読資料の精読、質問や意見の表明、課題などで、総合評価する方針。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 B

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち	学生によるテキストの報告、映像
3	在日コリアンと焼き肉文化	学生によるテキストの報告、映像
4	在日コリアンの民族教育	学生によるテキストの報告、映像
5	フィールドワーク	二八独立宣言記念碑、韓国 YMCA
6	在日コリアンとパチンコ産業	学生によるテキストの報告、映像
7	在米コリアンの社会史	学生によるテキストの報告、映像
8	ベトナム戦争とコリアン	学生によるテキストの報告、映像
9	まとめ①	映像（1）
10	済州島と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像
11	大震災と在日コリアン	学生によるテキストの報告、映像

12	在日コリアンとスポー	学生によるテキストの報告、映像 ツ選手
13	まとめ②	映像（2）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の 課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885 円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の濁集に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

GDR300LA

クィア・スタディーズA

2017 年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【4/16 更新】この授業では、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学び、普段の生活の中で「あたりまえ」のようにして触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につける。各回では、フェミニズムやレズビアン／ゲイ・スタディーズとクィア・スタディーズの繋がりについてまとめ、ヘテロセクシズム、性暴力、オルタナティブな家族といった重要なトピックを歴史的・社会的な文脈の中で考える力を培う。

【到達目標】

1、クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2、普段から何気なく触れている社会現象や表象を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4/23 授業開始です。Youtube の限定公開やパワーポイントなどを用いて講義形式で進めます。学習支援システムから課題やテスト/アンケートの提出が求められます。受講時には、講義を行なっているサイト、レジュメ PDF、学習支援システムにアクセスできるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	4/23 イントロダクション	【講義あり】ジェンダー、セクシュアリティという概念について説明します。 ・課題 ウイスペアの映像「【Whisper】Rewrite the Rules」2014 年 11 月 13 日公開 (https://youtu.be/-VlzSuot9h0) を見て、考えたことを 600 文字程度でまとめ、学習支援システムの「課題」から提出してください。5/4(月)23:55 締め切りです。(5 点)
第 2 回	5/7 クィア・スタディーズ (1)	【講義あり】ホモファイル運動、レズビアン・ゲイの解放運動、エイ・ライツ・ムーブメント、エイズ危機、2000 年代までの歴史的経緯について整理する。 ・課題 今回の講義を聞いて考えたことを 600 文字程度でまとめ、学習支援システムの「課題」から提出してください。5/11(月)23:55 締め切りです。(5 点)

- 第3回 5/14 クィア・スタ
ディーズ (2) 【講義あり】 演説と論文を読む。
・課題
2011年12月6日に、当時のア
メリカ合衆国の国務長官ヒラ
リー・クリントンが国連で国際人
権週間に LGBT をめぐる演説
(https://youtu.be/UHxjE_lqbEo) を行
いました。一方では、批判もあり
ます。動画を見、以下の論文を読
み、筆者の川坂の論旨を400-600
文字程度でまとめてください。そ
の上で、自分の意見を書いてくだ
さい。400-800文字程度。学習
支援システムから5/25(月)23:55
までに提出。(20点)
・川坂和義「アメリカ化される
LGBT の人権: 「ゲイの権利は人
権である」」『Gender and
Sexuality : Journal of the
Center for Gender Studies,』
ICU (8),pp.5-28, 2013
[http://subsite.icu.ac.jp/cgs/docs/
CGS_JNL08_01_kawasaka.pdf](http://subsite.icu.ac.jp/cgs/docs/CGS_JNL08_01_kawasaka.pdf)
* 質問は学習支援システムの掲示
板から寄せてください。
- 第4回 5/21 クィア・スタ
ディーズ (3) 【講義はありません。前回の課題
をしてください。】
- 第5回 5/28 トランスジェン
ダーとシスジェンダー 【講義あり】 トランスジェン
ダーとシスジェンダー トランスジェ
ンダーとシスジェンダーという概
念について整理し、性同一性障害
との違いについて学びます。ま
た、性別二元論やジェンダー規範
について問う視座について紹介
する。
・課題
「トランスジェンダーとして生き
ること」7歳の少女と母親の本音
トーク。| VOGUE JAPAN
(<https://youtu.be/e5DqR7fU2rk>) を見
て、考えたことを書いてくださ
い。800文字程度。学習支援シ
ステムから6/15(月)23:55ま
でに提出。(10点)
- 第6回 6/4 ジェンダーの表象
(1) 【講義はありません。課題にとり
くんでください。】
・課題
これまで学んだことをもとにし
て、ジェンダーに関連している
と思う作品(映画、アニメショ
ン、マンガ、小説など)やニュー
スを選び、その作品について自分
が考えたことについてレポートを
作成してください。1,200-1,800
文字程度。学習支援システムから
6/15(月)23:55までに提出。(20
点)
- 第7回 6/11 【講義はありません。前回の課題
をしてください。】
- 第8回 6/18 生命をめぐる倫
理 (1) 【講義あり】 優生思想、優生保護
法の歴史について学びます。
・課題
次の藤井克徳さんへのインタ
ビュー動画を見、熊谷晋一郎さん
さんへのインタビュー記事(2
本)を読み、優生思想について、
それが起こらない社会を作るため
に何ができるか書いてください。
1,200文字—2,000文字程度。
7/6(月)23:55締め切り。(20点)
・インタビューズ (2016年7月
27日) 藤井克徳氏(日本障害者
協議会代表)「障害者に安楽死を」
はナチスの優生思想そのもの・障
害者団体の代表が社会の風潮に懸
念を表明 (https://youtu.be/THdB2n_igOM 2016
年7月28日)
・「相模原障害者施設殺傷事件
第2回 熊谷晋一郎さんインタ
ビュー」(NHK Eテレ ハート
ネット
[https://www.nhk.or.jp/hearttv-
blog/3400/251180.html](https://www.nhk.or.jp/hearttv-blog/3400/251180.html)
・「自分の中の優生思想に気づい
たら、どうすべきか?」安田菜津
紀が相模原事件の判決の前に問
う」(熊谷晋一郎インタビュー、
聞き手・安田菜津紀。Huffpost
2020年3月14日)
[https://www.huffingtonpost.jp/
entry/story_jp_5e6b53ccc5b6dda30fc6ef25](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5e6b53ccc5b6dda30fc6ef25)
- 第9回 6/25 生命をめぐる倫
理 (2) 【講義はありません。前回の課題
をしてください。】
- 第10回 7/2 性暴力とトラウマ
(1) 【講義あり】 性暴力とトラウマに
ついて学びます。
課題
NHK「【特集】性暴力はいま」を
すべて読み、考えたことを書いて
ください。1,200文字程度。学習
支援システムから7/6(月)23:55
までに提出。(10点)
(1) デジタル性被害 終わりの
ない苦しみ
(2) 未成年が陥るデジタル性
被害
(3) 声を上げはじめた被害者
たち
(4) みんなに知ってほしいこと
(5) みんなに“もっと”知ってほ
しいこと
・NHK「【特集】性暴力はいま」
(1)(記事の一番下に(1)―(5)
までへのリンクがあります)
[https://www.nhk.or.jp/heart-
net/article/297/](https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/297/)
- 第11回 7/9 性暴力とトラウマ
(2) 【講義はありません。前回の課題
をしてください。】
- 第12回 7/16 まとめ 【講義はありません】
以下のレポート課題を提出して
ください。
・課題
本科目で印象に残ったテーマを
とりあげ、自分の考えをまとめて
ください。1,200文字程度。学習
支援システムから7/20(月)23:55
までに提出。(10点)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いて確認します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

要点をまとめたレジュメ PDF を学習支援システムの「教材」で配布します。

【参考書】

落ち着いたら、以下の書籍にも触れてみてください。
 河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 菊地夏野、堀江有里、飯野由里子編著『クイア・スタディーズをひらく1』晃洋書房、2019。
 ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』堀田碧訳、新水社、2003。
 竹村和子編『ポスト・フェミニズム』作品社、2003。
 高橋準『ジェンダー学への道案内 四訂版』北樹出版、2014〔2006〕。
 森山至貴『LGBTを読みとくクイア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 河口和也・風間孝編著『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018。

【成績評価の方法と基準】

各授業で課題を出します。各回の点数は授業計画に書いてありますので、必ず、確認してください。学期末試験はありませんので、間違えて教室にこないようにくれぐれも注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

私語や授業中の出入りが激しかった。すべての学生の学ぶ権利が保たれるように努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いるため、アクセスできる機器が必要。パソコンを推奨します。

【その他の重要事項】

・受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of important issues pertaining to gender and sexuality. They will examine social and historical problems of gender and sexuality independently.

GDR300LA

クイア・スタディーズB

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期のクイア・スタディーズAで学んだ内容を復習しながら、映画、ドラマ、マンガ、アニメーション、ボーイズラブ(BL)、2.5次元ミュージカルなど幅広い領域の表象文化作品をジェンダーやセクシュアリティと繋いで読み解くための分析方法や理論を学びます。各回では、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々なトピックをとりあげ、映像作品を読み解きながら、先行研究や歴史的な展開について概観します。それらと並行して、表象文化を受信したり発信したりするときの倫理について自ら考えることを目指します。

【到達目標】

- 1、クイア・スタディーズの理論や分析方法について学ぶ。
- 2、クイア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行いますが、具体的な表象分析を行いますので、積極的な参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	クイア・スタディーズの基礎について復習し、映像作品を読み解く視座についてまとめます。
第2回	「病」の表象	「病」をめぐる表象や言説の問題について考えます。
第3回	連帯とは何か？(1)	マシュー・ウォーチャス監督「パレードへようこそ」(2014)を通して、広範囲にわたる連帯の可能性について考えます。
第4回	連帯とは何か？(2)	前回に続いて、1980年代の政治的な保守化と新自由主義的な政治経済体制について考えます。
第5回	フェミニズムの視点から映像を読む(1)	「軽い男じゃないのよ」(エレノア・ポートリアット監督、2018)をフェミニズムの視座から読みときます。
第6回	フェミニズムの視点から映像を読む(2)	前回の授業に続き、フェミニズムの視座から表象作品について読み解きます。
第7回	フェミニズムの視点から映像を読む(3)	ヘテロセクシズムやホモソーシャルといった概念について学びます。
第8回	少女マンガ／BLスタディーズ	少女マンガ研究、BLスタディーズの成果について学びます。
第9回	ファンダムの成熟とクイア・リーディング	2.5次元ミュージカル、二次創作などについて触れ、クイア・リーディングとは何かについて学びます。

第10回	ともに生きるということ (1)	トラヴィス・ファイン監督「チョコレートドーナツ」(2012)を中心に、被傷性とケアをめぐる問題について考えます。
第11回	ともに生きるということ (2)	前回に引き続き、被傷性とケアをめぐる問題について考えます。
第12回	生命を支える (1)	生命を支えるセーフティネットが崩れる姿を描いた映画『わたしは、ダニエル・ブレイク』(ケン・ローチ監督、2017)を通して、社会においてケアすることの必要性について考える。
第13回	生命を支える (2)	前回に続き、社会においてケアすることの必要性について考える。
第14回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回ではありませんが、宿題として、論文を要約したり、表象分析をする学習を行います。
 ・内容を正確に把握できたかは、授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いて確認します。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

要点をまとめたプリントを授業支援システムの「教材」で配布する。

【参考書】

河口和也『クエア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 森山至貴『LGBTを読みとくクエア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 竹村和子『彼女は何を視ているのか』作品社、2012。
 中央大学人文科学研究所（編）『愛の技法—クエア・リーディングとは何か』中央大学出版部、2013。
 中央大学人文科学研究所（編）『読むことのクエア—続 愛の技法』中央大学出版部、2019。
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む—現代文学に描かれるく性の多様性？』晃洋書房、2016。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験70点、各授業での課題30点で総合的に評価する。各授業での課題は、初回の授業説明のプリントに課題を実施する回を示す。3点×10回=30点で換算する。ただし、科目登録が確定していない第1-2回の課題はない。

【学生の意見等からの気づき】

私語や授業中の出入りが激しかった。すべての学生の学ぶ権利が保たれるように努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に、授業支援システムの「課題」、「テスト／アンケート」、「クリッカー」などの機能を用いることがあるので、タブレット端末などを使用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うことになる。私語を注意されても改善されない場合、退室を求め、単位は認めない。
 ・受講者は必ず初回授業で授業支援システムの名簿登録をしてください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire an advanced understanding about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will examine social and historical issues of gender and sexuality independently. In this semester we will analyze some stereotypes of the representation of gender and sexuality.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 単位数：2単位
 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
 ②信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。
 毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。定員の25名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。
 なお今年度の開講は4月21日火曜日からとし、しばらくのあいだオン・ラインで行います。学習支援システムを頻繁にみておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第2回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第3回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第4回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教 (1) (律法主義に対するイエスの批判)
第5回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教 (2) (神殿主義に対するイエスの批判)
第6回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第7回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方 (1) (使徒とエルサレム初期共同体)
第8回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方 (2) (パウロの「十字架の神学」)
第9回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教 (1) (ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ) —
第10回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教 (2) (聖書の誕生)
第11回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教 (3) (信者の増加と迫害)
第12回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教 (4) (コンスタンティヌス大帝の政策)

第13回 国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教(5) (キリスト教の国教化とローマ教会の組織力)
第14回 試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて 論述試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

キリスト教関係の入門書を読んでおくこと。週に各2時間の学習を必要にする。
たとえば『キリスト教の真実』(竹下節子著、ちくま新書)など。

【テキスト(教科書)】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。

『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

●評価の基準

キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。

●評価の割合

50% = 期末の論述試験

50% = オンラインでの授業の実施にともなう、学習支援システムに掲載される課題への回答

●《到達目標との関連》 = 上記①と②に関して期末の論述試験において習熟度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in japanese their reaction after each lesson.

PHL300LA

キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

- ①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
- ②中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。定員の25名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第2回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第3回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第4回	キリスト教と修道院	修道士の活躍(1)(禁欲主義の問題)
第5回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍(2)(アイルランド系修道院と修道士の特徴)
第6回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス(シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策)
第7回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触(1)(西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教)
第8回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触(2)(十字軍の問題)
第9回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化(1)(西欧の地方へのキリスト教の伝播)
第10回	修道院の拡大	ロマネスク文化(2)(クリュニーク会とシトー会)
第11回	ゴシックとは何か	ゴシック文化(1)(大都市住民の感性と新たな大聖堂建築)
第12回	中世神学の本質	ゴシック文化(2)(光の神学)
第13回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化(キリスト教と芸術家)
第14回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な入門書を読んでおいてほしい。週に各2時間の学習を必要にする。

たとえば

『世界の歴史（9）、ヨーロッパ中世』 鯖田豊之著、河出文庫など

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。

『ゴシックとは何か』 酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

●中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。

●成績評価の割合

50% = 学期末の論述試験

50% = 平素の授業態度（毎回提出の論述の内容が具体的なデータになる）。

●《到達目標との関係》 = 上記①と②に関して習熟度を期末の論述試験において判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to continue to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in Japanese their reaction after each lesson.

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：アラビア語入門

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】アラビア語の基礎。具体的には、アラビア文字の習得。簡単な挨拶表現・自己紹介程度のアラビア語を話す。

【目的】アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」を身近に感じることになる。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身につけてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。 発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第0課	テキストのつくりについて解説する。 文字と発音のおさらい
5	第1課	こちらはムハンマドさんです
6	第2課	これは何ですか
7	第3課	彼は教師ですか、それともエンジニアですか
8	第4課	あなたのお名前は？
9	第5課	天気はどうですか
10	第6課	アラビア語は美しく、楽しいです
11	第7課	この作家は有名です
12	第8課	その本は机の上にあります
13	第9課	彼はサウジアラビア出身です
14	授業内試験	「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どういう文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。少なくとも2時間程度の復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついでいくのは不可能になります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is an official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：アラビア語入門

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】 アラビア語の基礎。具体的には、名詞・形容詞・前置詞・動詞の曲用・活用。辞書の使い方。

【目的】 アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」の概要を把握すること。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身につけてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第10課・第11課	私は日本人です 駅はここから遠いですか
4	第12課・第13課	このカバンは誰の？ 神戸には美しいモスクがあります
5	第14課・第15課	あなたには兄弟か姉妹がいますか ムハンマドがザイドをたたいた
6	第16課・第17課	私はあなたを愛しています この2人の通訳はプロです
7	第18課・第19課	この町にはたくさん大学の あります 彼らはサウジアラビア出身の先生 方です
8	第20課・第21課	これらのカバンはユースフの ですか ここにモロッコ料理店はありま すか
9	第22課・第23課	ムハンマドは学生ではありません ムハンマドは学生でした
10	第24課・第25課	私はその車の色が好きです 5冊の本を買いました
11	第27課・第28課	私たちはカイロ大学で学びました 飛行機は到着しましたか
12	第29課・第30課	誰がこの料理を作ったのですか フェズまで列車に乗りました

- 13 第32課・第33課 どちらにお住まいですか
お仕事は何をしていますか
- 14 まとめとレポート提出 アラビア語の動詞のまとめ（p. 88-97）とレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。各授業ごとに2時間以上をあてて完全にマスターしてください。単純な形の間に、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、竹田敏之『アラビア語とことんトレーニング』白水社を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おにも英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Arabic Culture.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・Google Classroom と ZOOM を使って授業を行う。
- ・連絡や課題/試験の提示も Google Classroom を使う。
- ・指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第2回	あなたが感じた異文化	アンケート結果をもとに ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	・日本と日本語の実像を考える ・日本語ってどんな言語 ・日本語の漢字使用について	・外から見た日本・日本語 ・日本語はどんな言語か ・漢字の読みはなぜややこしいのか
第4回	・ラジオ型言語とテレビ型言語	文字言語としての日本語と他言語との比較。 音声言語としての日本語と他言語との比較
第5回	・文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第6回	・カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由

- 第7回 ・文化によって異なる「恥かしさ」の基準
羞恥心
- 第8回 ・形容詞のかくれた基準
・有標性と無標性
- 第9回 ・新語の話
- 第10回 ・日本語の人称代名詞を巡る問題
・指示語と自己中心語
- 第11回 言語政策
- 第12回 期末試験
- ・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」
・形容詞の中身はなに？
－形容詞のかくれた基準
- ・江戸時代、「日本酒」はなかった
- ・身内の呼び方の方程式
・「人称」の本質は何か
- 日本語に対する考えを改めよう
・日本語に対する認識
・各国の言語政策
・外国語教育の必要性
・第1～11回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は30分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書 740円

【参考書】

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度、発表、小クイズ、期末試験の結果によって判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
・ZOOM M 授業内の発表にはPCが好ましい。(4/20現在、他の方法を模索中)
★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：mkqe6u4
★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前にZOOMのアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

★授業は、4月27日に開始する。
・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will read a book on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・第1・2・4回目は講義と教室内活動中心。
・第3回・第5～13回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ①	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について (学生発表と質疑応答。)
第4回	ステレオタイプ②	・ステレオタイプの真偽 ・ステレオタイプの流布と強化
第5回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテキスト (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第 6 回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテーキング ・パラ言語
第 7 回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第 8 回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第 9 回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第 10 回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第 11 回	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第 12 回	非言語コミュニケーション④	時間感覚
第 13 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暎・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
E. ホール『沈黙のこぼれ-文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アフロアジア入門 ー映像で見るアフロアジア世界ー

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本人にとって最も精神的に遠い「アフロアジア世界」について、テレビ番組や映画等の映像を媒介にして、広く浅く、まずは知識を得、親しみを感じてもらうことを目的としている。

【到達目標】

IS（イスラム国）の影響によるヨーロッパへの移民問題はまだ解決していない。イランとアメリカの問題はきっかけさえあれば「第三次世界大戦」へと導く恐れさえある。エネルギーの 80 パーセント以上を中東（アフロアジア世界）に依存しているのに、日本人にはあまりにも関心が低い。国連の公用語であるアラビア語の存在すらも視野に入らず、アメリカにくっついて英語ができればすべてうまくいくという根拠のない宗教を信仰するお花畑の住民が知識人と呼ばれる人の大半である。

このアフロアジア世界について少し視野が広くなり、連日の報道の内容が自分なりに理解できるようになること、これがこの授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にアフロアジア世界の歴史をたどりながら、まず基礎的な内容について講義し、次いで視覚的に情報を得られるような映像資料を用いて、アフロアジア世界への導入としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	事業の進め方および内容について概略を紹介する。
第 2 回	メソポタミアの古代史	アフロアジアの定義を紹介する。簡単な年表でシュメール・アッカド・バビロニアなどを紹介する。
第 3 回	古代メソポタミア	映像で紹介する。
	文明の誕生	
第 4 回	エジプトの古代史	王朝・ピラミッド・王家の谷・ブトレマイオス朝などを紹介する。
第 5 回	古代エジプト	映像で紹介する。
第 6 回	ツタンカーメンの謎	少年王ツタンカーメン、およびその墓の発掘など。
第 7 回	クレオパトラの時代	ブトレマイオス朝の女王、クレオパトラ、そのローマ帝国との関係など。
第 8 回	クレオパトラ	映像で紹介する。
第 9 回	聖書について	ユダヤ教・キリスト教・イスラームの經典である「聖書」について解説する。
第 10 回	「天地創造」	映像で紹介する。
第 11 回	ユダヤ教について	ユダヤ教の歴史・教義について解説する。

第12回 「十戒」	映像で紹介する。
第13回 「ダビデ王」	映像で紹介する。
第14回 試験	春学期での内容についての試験。 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

定まったテキスト（教科書）を使用する予定はない。

【参考書】

参考書は、学習者の関心と必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験の点60点で、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業をこの内容で行うのは今年度が初めてなので、記載すべき内容はない。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to know widely on the Afro-asiatic world, by means of a visual approach.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：アフロアジア入門 —映像で見るアフロアジア世界—

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本人にとって精神的に最も遠い「アフロアジア世界」について、テレビ番組や映画等の映像を媒介にして、広く浅く、まずは知識を得、親しみを感じてもらおうことを目的としている。

【到達目標】

IS（イスラム国）の影響によるヨーロッパの移民問題はまだ解決されていない。イランとアメリカの問題はきっかけさえあれば「第三次世界大戦」へと導く恐れさえある。エネルギーの80パーセント以上を中東（アフロアジア世界）に依存しているのに、日本人にはあまりにも関心が低い。国連の公用語であるアラビア語の存在すらも視野に入らず、アメリカにくっついて英語ができればすべてうまくいくという根拠のない宗教を信仰するお花畑の住人が知識人と呼ばれる人の大半である。

このアフロアジア世界について少しでも視野が広くなり、連日の報道の内容が自分なりに理解できるようになること、これがこの授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にアフロアジア世界の歴史をたどりながら、まず基礎的な内容について講義し、次いで視覚的に情報を得られるような映像資料を用いて、アフロアジア世界への導入としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エルサレム物語	聖地エルサレムがなぜ聖地か、その歴史をたどる。
第2回	「アンネの日記」	映像で紹介する。
第3回	「シンドラーのリスト」	映像で紹介する。
第4回	「栄光への脱出」	映像で紹介する。
第5回	キリスト教	イエスの生涯をたどる
第6回	「偉大なる生涯の物語」	映像で紹介する。
第7回	「ベン・ハー」	映像で紹介する。
第8回	「パッション」	映像で紹介する。
第9回	「ダヴィンチ・コード」	映像で紹介する。
第10回	イスラーム	ムハンマドの生涯・イスラームの教義について。
第11回	「メッセージ」	映像で紹介する。
第12回	「メッカ巡礼」	映像で紹介する。
第13回	「アルジェの戦い」	映像で紹介する。
第14回	試験、あるいはまとめ	授業内試験あるいは、レポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

定まったテキスト（教科書）を使用する予定はない。

【参考書】

参考書は、学習者の関心と必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験あるいはレポートの点60点で、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業をこの内容で行うのは今年度が初めてなので、記載すべき内容はない。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to know widely on the Afro-asiatic world, by means of a visual approach.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識で自由かつ活発な発言を期待します。

ただし、2020 年度は遠隔授業が中心になると予想されます。このため、各自でテキストを読み、教員の提起した問題を考察する、という作業が中心になると考えられます。

4/24 に授業を開始します。その日までに学習支援システムの資料、パワーポイントのファイルを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	白樺派にとっての他者とはどういうものか
3	他者とはなにか	武者小路実篤『友情』
4	他者とはなにか	志賀直哉「城の崎にて」
5	「大導寺伸介の半生」導入——芥川龍之介の生涯	「大導寺伸介の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺伸介の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺伸介の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	『人間失格』
9	他者へのまなざし	『人間失格』
10	自意識と他者	『人間失格』
11	吉本隆明について——導入	『転位のための十篇』
12	他者へのまなざし	『転位のための十篇』
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	『転位のための十篇』
14	他者論のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	半期の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

武者小路実篤『友情』（新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

志賀直哉「城の崎にて」（『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫 など当該作品の収録されているもの）

芥川龍之介「大導師仲介の半生」（『大導師信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）

太宰治『人間失格』新潮文庫ほか

吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末のレポート50%。
ただし、2020年度は遠隔授業が中心になると予想されます。このため、状況によってはレポート100%になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

※2020年度については、白樺派、芥川、太宰、吉本の4分野を学習するのは当初の予定どおりとしますが、全12回であるため、上記（14回分）の内容を間引きながら進めていきます。

また、当面は学習支援システムにアップロードされた資料、パワーポイントのファイルを各自学習する形式の遠隔授業とします。掲示板、メールなどで質問、意見を積極的に出してください。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考え、新たな視点を得ます。

秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。

秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式。

教員の講義が中心になりますが、各自の問題意識で自由かつ活発な発言を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	『供犠』
3	供犠とはなにか	『供犠』
4	放棄と交換	『供犠』
5	贈与とはなにか	『贈与論』
6	贈与と放棄と交換	『贈与論』
7	供犠とテロリズム	『贈与論』
8	宮澤賢治について——導入1	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入2	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノボーの意味	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「麩十公園林」「気のいい火山弾」
14	『供犠』のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	年間の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

モース／ユベール『供養』法政大学出版局

モース『贈与論 他二篇』岩波文庫

宮澤賢治

『グスコブドリの伝記』『虔十公園林』『気のいい火山弾』

『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末のレポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味に応じて授業計画の変更もあります。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当面の間、学習支援システムを通じた課題設定による代替措置を実施する。瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）をテキストとし、内容上のポイントごとに学習支援システムを通じて課題を出していく（例えば1000字程度の小論文課題など）。テキストを各自で入手しておくこと。

授業の進め方、成績評価の方法など、具体的な内容は学習支援システムに適宜掲載する。

授業開始日は4/22（水）とし、その後、一定の準備期間を設ける。詳細は学習支援システムの「お知らせ」で案内する。

本授業はもともと受講人数に25人の制限を設けているところ、受講希望者は、4/21（火）（この授業の開始日の前日）までに、必ず学習支援システムにて仮登録をすること。仮登録の状況に応じて受講者選抜を行う。その日までに仮登録をしていない学生の受講は認めないので十分に注意すること。

【注意】以下のすべての項目のシラバス内容は、代替措置以前の通常時のものであるが、授業のコンセプトを示すためにそのまま掲載しておく。通常授業が可能になった場合は適宜こちらの計画内容を反映させる。

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

*授業開始日は4/22（水）とし、その後、一定の準備期間を設ける。詳細は学習支援システムの「お知らせ」で案内する。

法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって 1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第 3 回	法哲学を学ぶにあたって 2	「もしも法がなかったら？」を考える
第 4 回	法哲学を学ぶにあたって 3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第 5 回	格差・不平等問題 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	格差・不平等問題 2	論点と問題点の検討・討論
第 7 回	格差・不平等問題 3	理論的立場の整理
第 8 回	法と道徳 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	法と道徳 2	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税 1	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税 2	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶 1	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶 2	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	人工妊娠中絶 3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019 年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010 年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007 年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009 年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 % 程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 % 程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、(単に知識を覚えるだけでなく)受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、履修希望者は、春学期初回の授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと(本シラバス後出「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して(表層にとどまらない)根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討(討論)を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第2回	死刑制度の是非1	基礎知識と論点の解説
第3回	死刑制度の是非2	論点と問題点の検討・討論
第4回	裁判員制度と死刑1	基礎知識と論点の解説
第5回	裁判員制度と死刑2	論点と問題点の検討・討論
第6回	一夫一婦制と契約婚1	基礎知識と論点の解説
第7回	一夫一婦制と契約婚2	論点と問題点の検討・討論
第8回	一夫一婦制と契約婚3	婚姻制度の意義の検討
第9回	代理出産と親子関係1	基礎知識と論点の解説
第10回	代理出産と親子関係2	論点と問題点の検討・討論
第11回	代理出産規制の是非1	基礎知識と論点の解説
第12回	代理出産規制の是非2	論点と問題点の検討・討論
第13回	代理出産規制の是非3	議論のまとめ
第14回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業内容を踏まえ、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2007年)
 竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2010年)
 龍川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)
 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：パーシックスからフロンティアまで』(法律文化社、2019年)
 森村進『法哲学講義』(筑摩書房、2015年)
 森村進編『法思想史の水脈』(法律文化社、2016年刊行予定)
 マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)
 内藤淳『自然主義の人権論』(勁草書房、2007年)
 内藤淳『進化倫理学入門』(光文社新書、2009年)
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文(レポート)の点数を中心に(評価割合80%程度を予定)、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して(評価割合20%程度を予定)上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行う。そのため、履修人数は25人を上限とし、原則として春学期の「法哲学 A」受講者を履修対象とする。ただし、受講人数に余裕がある場合には、過去に「法哲学 A」を履修済みの学生に関して個別事情を勘案した上で(4年生なので次年度以降の履修機会がないなど)、初回授業にて選抜を行い、例外的に履修を認める。(受講人数に余裕があっても、状況により、そうした例外措置をとらない場合がある。)

いずれにしろ、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと。

人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：USAにおける抵抗の思想

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1960年代の政治について、そして政治と音楽の関係について考察する。

文献やサウンド、映像を通して1960年代について知識を獲得するとともに、60年代の「文化革命」がその後の時代にもたらしたことを考えることを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

USAのルーツ・ミュージックについての考察

60年代の政治を、主としてUSAを対象にして理解すること

カウンター・カルチャーの思想と運動の特徴について理解すること

USAの広義のフォーク・ミュージックから生み出されたポピュラー・ミュージックの中から、特にサイケデリック・ロックについて考察する

カウンター・カルチャーがもたらした（と思われる）現代への影響について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン通じて行います。

具体的な方法は授業支援システムを通じてお知らせします。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読（ブルース）	ブルースに関する文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取（ブルース）	ブルースの特徴の確認
#4	映像視聴（ブルース）	ブルースに関する映像の内容確認と議論
#5	文献講読（フォーク）	フォークに関する文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取（フォーク）	フォークの特徴の確認
#7	映像視聴（フォーク）	フォークに関する映像の内容確認と議論
#8	文献講読（ロック）	ロックに関する文献の内容確認と議論
# 9	音楽聴取（ロック）	ロックの特徴の確認
#10	映像視聴（ロック）	ロックに関する映像の内容確認と議論
#11	文献講読（対抗文化）	対抗文化に関する文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取（サイケデリック・ロック）	サイケデリック・ロックの特徴の確認
#13	映像視聴（対抗文化）	対抗文化に関する映像の内容確認と議論

14 総括

ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミの内容の確認と復習を兼ねたペーパーの提出（50%）；
テーマに関する自己の考えを示す期末レポートの提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

ロック、特にサイケデリック・ロックの知識は必要ではありません。ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のことがあるかもしれません。

出席者の数によっては、チュートリアル方式を採用することがあります。

ゼミの内容に関しては、出席者の要望を最大限に尊重するつもりです。シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the 1960's

The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of politics in the 1960's and consider the interaction between politics and music of 60's.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：宗教、ナショナリズム、国家

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教、ナショナリズムと国家との関係について考察すること。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

宗教、ナショナリズムに関する基本的知識を習得し、これを踏まえて国家と宗教、ナショナリズムの関係について考察できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン通じて行います。

具体的な方法は授業支援システムを通じてお知らせします。

参加人数によっては、一対一のチュートリアル方式で行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認
# 2	文献講読（ナショナリズム1）	ナショナリズムの理論に関する文献を読む
#3	映像鑑賞（ナショナリズム1）	ナショナリズムと関連する映像について議論する
# 4	報告（1）	ナショナリズムに関する個人報告
# 5	文献講読（ナショナリズム2）	ナショナリズムの展開に関する文献を読む
# 6	文献講読（ナショナリズム3）	ナショナリズムの現状に関する文献を読む
# 7	報告（2）	ナショナリズムに関する個人報告
#8	文献講読（宗教1）	キリスト教における宗教と国家の関係に関する文献を読む
# 9	文献講読（宗教2）	イスラーム教における宗教と国家の関係に関する文献を読む
#10	報告（3）	宗教と国家の関係に関する個人報告
#11	文献講読（日本1）	前近代日本における宗教と国家に関する文献を読む
# 12	文献講読（日本2）	天皇制国家における宗教とナショナリズムに関する文献を読む
# 13	文献講読（日本3）	20世紀後半以降の日本のナショナリズムに関する文献を読む
# 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に与えられた課題に対応すること、演習で扱う文献に必ず目を通すこと、新聞などメディアを通じて情報を得ることなど、そしてゼミ終了後にゼミにおける議論を振り返ることなどを2時間程度行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度（50％）

個人報告を文書化したの提出（50％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

出席者の数によっては、チュートリアル方式を採用することがあります。

ゼミの内容に関しては、出席者の要望を最大限に尊重するつもりです。シラバスに関して興味・疑問がある場合には以下の著作を参照してください。佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）第1章 Syllabus とシラバスのあいだ

【Outline and objectives】

Theme: Relations between religion, nationalism and state

The fundamental aim of this seminar is to consider the relations between religion, nationalism and state.

ECN300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ゼロ金利と米中新冷戦

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はデフレ、ゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代＝成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領が 2018 年 9 月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」に突入し、世界経済の大きな不安定要因となっている。

いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、次の二つのテーマを通じて、現代社会が抱える問題点を探る。

テーマ I 「ゼロ金利の背景を考える」

テーマ II 「米中新冷戦の背景を考える」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で 1 ないし 2 回程度のプレゼンを行う予定。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となるため、各回の授業計画の変更については「学習支援システム」でその都度提示する。本授業のオンラインでの開始「学習支援システム」の「お知らせ」欄で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第 2 回	基礎的概念の説明 I	経常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第 3 回	基礎概念の説明 II	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第 4 回	基礎概念の説明 III	「例外」と「常態」、「例外がいっさいを証明する」（『政治神学』シュミット）
第 5 回	テーマ I 「ゼロ金利の背景を考える」①	「利子とはなにか」（利子説の紹介）、13 世紀、利子誕生の経緯
第 6 回	テーマ I 「ゼロ金利の背景を考える」②	「利子生活者の安楽死」とは、2030 年「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ、1930）
第 7 回	テーマ I 「ゼロ金利の背景を考える」③	異次元金融緩和（2013 年 4 月）の目的は

第 8 回 テーマ I 「ゼロ金利の背景を考える」④

第 9 回 テーマ II 「米中新冷戦の背景を考える」① 支配と被支配の正当性基準は何か、その変遷

第 10 回 テーマ II 「米中新冷戦の背景を考える」② 国際収支の発展段階説-中国は債権国か債務国か

第 11 回 テーマ II 「米中新冷戦の背景を考える」③ 帝国とは何か—マイケル・ドイルの「帝国」論、カフカ「皇帝の論旨」

第 12 回 テーマ II 「米中新冷戦の背景を考える」④

第 13 回 プレゼンテーション I テーマ I について発表

第 14 回 プレゼンテーション II テーマ II について発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジュメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジュメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010 年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『政治神学』（C・シュミット、原著 1934、未来社、田中浩・原田武雄訳、1971）

<http://www.miraisha.co.jp/np/isbn/9784624300135>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + プレゼン内容 50 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：グローバリゼーションと資本主義の課題

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代を招来させるのか、いわゆるグローバリゼーション論争を学ぶことで、グローバリゼーションの本質、およびグローバル資本主義が抱える課題を理解することができる。

【到達目標】

秋学期の具体的な到達目標は、次の2つのテーマを学び、グローバリゼーションが何をもたらすかを理解できるようになることである。テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」テーマⅡ「資本主義の課題」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で1ないし2回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期、この演習の目的と進め方を説明
第2回	テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」①	インターナショナルリゼーションとグローバリゼーションの定義と歴史—どちらが先か
第3回	テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」②	国民国家 VS. 帝国—マイケル・ドイルの『帝国論』
第4回	テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」③	グローバリゼーションのイデオロギー性
第5回	テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」④	グローバリゼーションの論争、グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代か
第6回	テーマⅠ「インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション」⑤	主権国家システムと資本主義を超えて—新中世主義
第7回	テーマⅡ「資本主義の課題」①	資本とは、富の集中と貧困問題（オックスファムレポート）、エルフアントカーブ
第8回	テーマⅡ「資本主義の課題」②	帝国の「過剰性」、「過剰・飽満・過多」

第9回 テーマⅡ「資本主義の課題」③ 「蒐集」の歴史と「歴史の危機」（ブルクハルト）

第10回 テーマⅡ「資本主義の課題」④ 資本主義と国民国家の関係

第11回 テーマⅡ「資本主義の課題」⑤ 主権国家システムと資本主義を超えて（一つの選択肢としての新中世主義）

第12回 テーマⅡ「資本主義の課題」⑥ テーマⅡのまとめと質疑応答

第13回 プレゼンテーション① テーマⅠの発表

第14回 プレゼンテーション② テーマⅡの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間が理想であるが、講義で利用したレジメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『変容する民主主義』（マッグルー、アントニー・G. 編、松下冽監訳、日本経済評論社、2003年）

<http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/1562>

『陸と海と—世界史の一考察』（カール・シュミット、生松敬三・前野光弘訳、慈学社出版、2006年）

<http://www.jigaku.jp/mokuroku13.htm>

『国際社会論—アナーキカル・ソサイエティ』（ヘドリー・ブル、白杵英一訳、岩波書店、2000年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b265180.html>

『帝国の研究』（山本有造、名古屋大学出版会、2003年）

<http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN4-8158-0473-7.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50% + プレゼン内容 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前にPCなどで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a nature of globalizaitin and internatinalization to students taking this course. Students can uenderstand the defference between internatinalization and globalizaitin and a issues of capitalism.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題を取り上げつつ、主に講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーを作成する。提出されたリアクションペーパーは、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の 3 分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	ジェンダー主流化と社会政策	ジェンダー視点とジェンダー平等
11	子ども・家庭と社会福祉	児童福祉、児童虐待
12	「障碍観」の転換と社会福祉	優生思想、自立生活運動
13	貧困と社会的排除	絶対的貧困と相対的貧困
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011 年）2,300 円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98 の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013 年）、『社会福祉学』平岡絢一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

We will learn basic ideas of social welfare by using textbooks and resume distributed at the time of class, and pick up the social issue which is regarded as the area of welfare. Learning mainly takes place in lecture form. Also, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, prepare a reaction paper. The submitted reaction paper is fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 4 巻～5 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む①	千代田区
第 4 回	地帯編を読む②	新宿区
第 5 回	地帯編を読む③	文京区
第 6 回	地帯編を読む④	港区
第 7 回	地帯編を読む⑤	中央区
第 8 回	地帯編を読む⑥	台東区
第 9 回	地帯編を読む⑦	墨田区
第 10 回	地帯編を読む⑧	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査の発表①	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 13 回	現地調査の発表②	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認した結果を発表する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年

『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年

B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『東京の歴史』第 6 巻～8 巻の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者の選抜、確認 担当個所の割り振りなど
第 2 回	地帯編を読む①	品川区
第 3 回	地帯編を読む②	大田区
第 4 回	地帯編を読む③	目黒区
第 5 回	地帯編を読む④	世田谷区
第 6 回	地帯編を読む⑤	渋谷区
第 7 回	地帯編を読む⑥	中野区・杉並区
第 8 回	地帯編を読む⑦	練馬区・板橋区
第 9 回	地帯編を読む⑧	豊島区・北区
第 10 回	地帯編を読む⑨	足立区・葛飾区
第 11 回	地帯編を読む⑩	荒川区・江戸川区
第 12 回	東京 23 区の歴史地理の特徴を議論する①	東京 23 区の歴史地理について、江戸期および江戸以前をおさえ、いままでの学習を振り返る。
第 13 回	京 23 区の歴史地理の特徴を議論する②	東京 23 区の歴史地理について、近代の状況をおさえ、いままでの学習を振り返る。
第 14 回	まとめ	江戸東京の歴史地理についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探ること、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 6 巻地帯編 3 品川区・大田区・目黒区・世田谷区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 7 巻地帯編 4 渋谷区・中野区・杉並区・板橋区・練馬区・豊島区・北区』吉川弘文館、2019 年

『東京の歴史第 8 巻地帯編 5 足立区・葛飾区・荒川区・江戸川区』吉川弘文館、2020 年

B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多く発表時間が長くなるため、次の授業への移動に支障がでます。昨年度は全員受講の許可をしましたが、今年度は、もし履修希望者が多いようならば履修者を選抜する予定です。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。なお、その際、春学期人文地理学セミナー A 履修者を優先いたします。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発援助や国際協力に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。文化人類学の基本的な理論や概念の習得を目標とするとともに、開発、貧困、紛争、災害などに関する現代的な諸テーマも取り上げながら、グローバル・イシューにアプローチするための基本的な視座を養います。

【到達目標】

- ・文化人類学、開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・世界の諸地域に暮らす人びとの文化や社会の多様性を認識し、グローバルな問題とローカルな問題のかかわり合いを看取する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業の開始日は4月22日とします。
- ・本授業は主に文献の輪読形式で行います。当面の間、「学習支援システム」を用いた授業とし、各自が自宅で文献を①「熟読」し、文献の②「要約」を行うとともに、③「ミニ課題」に答えるという形式をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、使用する文献の説明
第2回	開発援助の人類学	研究動向と近年の課題
第3回	開発援助の歴史的的位置づけ	「開発援助」の生成と変容
第4回	人類学と開発問題①	（文献の発表・討論）開発人類学の展開
第5回	人類学と開発問題②	（文献の発表・討論）文化人類学と開発のつながり／へだたり
第6回	開発実践の現場から①	（文献の発表・討論）フィールドワークと現地の視点
第7回	開発実践の現場から②	（文献の発表・討論）開発とジェンダー
第8回	開発実践の現場から③	（文献の発表・討論）公衆衛生・保健医療
第9回	援助と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第10回	援助と互酬性②	（文献の発表・討論）グローバルな互酬を構想する
第11回	アクターの多層性①	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第12回	アクターの多層性②	（文献の発表・討論）宗教者・宗教団体による開発
第13回	新たな関係性の構築	（文献の発表・討論）理念と実践の隔たりから考える

第14回 総括

春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

信田敏宏・白川千尋・宇田川妙子編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017 年。
佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません）

【参考書】

石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社、2019 年。
関根久雄編『実践と感情—開発人類学の新展開』春風社、2015 年。
小國和子ほか編『支援のフィールドワーカー—開発と福祉の現場から』世界思想社、2011 年。
佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

授業（オンラインを含む）の取り組みや各種課題を「平常点（70%）」として重視するとともに、学期末に出す予定の「レポート（30%）」を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

学期中にシラバスや授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of cultural anthropology. We also try to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and theories of anthropology. We also deepen our understanding on issues related to the global issues.

CUA300LA

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的には毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第2回	観光の形態①	観光+人類学とは何か
第3回	観光の形態②	観光のヴァリエーション
第4回	観光と文化	観光の現場で創られる文化
第5回	観光と開発	観光と地域開発の結びつき
第6回	日本人と海外観光	（文献の発表と討論）マストゥリズムの歴史
第7回	楽園と観光	（文献の発表と討論）楽園イメージの創造
第8回	ふるさと／都市観光	（文献の発表と討論）日本観光の一断面
第9回	環境と観光	（文献の発表と討論）エコツーリズムとは何か
第10回	宗教と観光①	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第11回	宗教と観光②	（文献の発表と討論）宗教／巡礼ツーリズム
第12回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）世界遺産、ロングステイ
第13回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）テーマパーク、アニメ
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山下晋司『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』講談社、2009年。
橋本和也『観光人類学の戦略—文化の売り方・売られ方』世界思想社、1999年。
（以上の文献を使用しますが、必ずしも購入する必要はありません）

【参考書】

岡本亮輔『聖地巡礼』中公新書、2015年。
山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012年。
鏡味治也ほか編『フィールドワーカーズ・ハンドブック』世界思想社、2011年。
綾部恒雄編『文化人類学 20 の理論』弘文堂、2006年。
橋本和也ほか編『観光開発と文化—南からの問いかけ』世界思想社、2003年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70%）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30%）も評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読：アメリカの独立を考える

上村 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独立宣言など、アメリカ合衆国第 3 代大統領トマス・ジェファソンが記した古典的テキストをゆっくりと読み、アメリカの建国の理由と意義を考える。それによって、現代の政治的事象を歴史の視座から相対化して思考する能力と、正確な他者理解の能力を身に付ける。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
- ・アメリカ合衆国の基礎にある政治的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。参加者は毎週課題（日本語数頁程度）を読み、300～500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【オンライン化に伴う追記：4/15】この授業はディスカッションを行うゼミ形式のため、なんらかの双方向型の web 会議システム（詳細は仮登録者に対して連絡します）を通じて行われます。従って、受講者の皆さんは、オンラインでディスカッションを行うことのできる環境（パソコン、インターネット環境など）を用意する必要があります（事前購入の必要な書籍はありません）。この授業はもともと予定通り、火曜日の 5 時間目の時間帯に行われます。授業開始日は 4/21（火）を予定していますので、前日までに仮登録を済ませておいて頂けるとありがたいです。仮登録がお済みの方には遅くとも 4/20 までには、初回の授業についての連絡をします。初回はイントロダクションですので、履修登録を迷っている方も参加可能です。授業の進め方についての要望があれば、初回に可能な限り受け付けますので相談できればと思います。実質的な議論は 4/28 から行う予定です。慣れないうちは皆どたばたするでしょうから、ご協力をお願いします。

【オンライン化に伴う追記その 2：4/21 14 時】本日より授業を開始しますが、教育支援システムへのアクセス集中によってまだ仮登録ができていないが履修したいという方は（本日以降であっても）kamimuratsuyoshi@gmail.com（◎をアットマークに変換すること）までご連絡をください。なんらかのトラブルにより本日の授業の参加がかなわらずとも、履修は基本的に認める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。
2	『意見の要約』(1)	アメリカの独立がどのようなきっかけで発生したのか議論する。

3	『意見の要約』(2)	ジェファソンはイギリスのどのような政策に不満を持っていたのか議論する。
4	『意見の要約』(3)	ジェファソンはイギリス側の政治理論についてどのような欠点を見出したかを議論する。
5	『意見の要約』(4)	ジェファソンはイギリス側の政治理論についてどのような反論を目指したかを議論する。
6	『意見の要約』(5)	ジェファソンはなぜ独立を支持したのか、どのような理由によってかを議論する。
7	『意見の要約』(6)	ジェファソンはどのような論拠によってアメリカの独立を支持したのかを議論する。
8	独立宣言(1)	独立宣言がどのような歴史的な意味を持つのか、どのような理由で出された政治的文書かを議論する。
9	独立宣言(2)	ジェファソンが用いた、自然の法、自然の神の法といった言葉が何を意味するか議論する。
10	独立宣言(3)	ジェファソンが用いた、生命、自由、幸福の追求といった言葉が何を意味するか議論する。
11	『独立宣言に対する短評』(1)	イングランドの政治思想家、ジェレミー・ベンサムは、なぜ独立宣言に反論を加えたかを議論する。
12	『独立宣言に対する短評』(2)	ベンサムは、どのようにして独立宣言に反論を加えたかを議論する。
13	『独立宣言に対する短評』(3)	ベンサムは、どのようなイングランド本国の主張を擁護したかを議論する。
14	『独立宣言に対する短評』(4)、まとめ	ジェファソンとベンサムの議論を合わせ、アメリカの独立がどのような意味を持っているか、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながるようなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2 時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

トマス・ジェファソン「イギリス領アメリカの諸権利についての意見の要約」（『世界の名著 33 フランクリン・ジェファソン・ハミルトン・ジェイ・マディソン・トクヴィル』所収）、「13 のアメリカ連合諸邦による全会一致の宣言（独立宣言）」（『史料で読む アメリカ文化史 2 独立から南北戦争まで 1770 年代-1850 年代』所収）、ジェレミー・ベンサム「独立宣言に対する短評」（D・アーミテージ『独立宣言の世界史』所収）を用いる。なお、入手が難しいものもあるため、こちらで PDF ないし紙による配布を予定している。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低 1 回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

配布された PDF の資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養ゼミ II(Q6214)」とこのゼミは関連するため、合わせての履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから、絶対に二つとも受講しなくてはならないわけではない）。

【Outline and objectives】

We will discuss reasons and meanings of the American founding through reading some classical texts such as the Declaration of Independence written by Thomas Jefferson, the third president of the United States. This serves to be able to think modern political phenomena from historical perspective and understand others correctly.

POL300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：政治思想史古典精読：ジェファソンの憲法思想を考える

上村 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国第 3 代大統領トマス・ジェファソンが記した『ヴァージニア覚え書』は、アメリカ合衆国憲法の制定にも大きな影響を与えた。この古典的な著作の、憲法論、法思想に関する箇所をゆっくりと読み、アメリカの憲法思想の意味を考える。それによって、現代の政治的事象を歴史の視座から相対化して思考する能力と、正確な他者理解の能力を身に付ける。

【到達目標】

- ・政治思想史の古典的なテキストを正確に理解する能力を身につける。
- ・現代の政治的事象を、歴史的な視角から相対化して推論する能力を身につける。
- ・アメリカ合衆国の基礎にある法・政治的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。参加者は毎週課題（日本語数頁程度）を読み、300～500 字を目安としたコメントペーパーを事前に送付する。（受講者の人数もよるが、）おおよそ各回 1 人の報告者が報告する。その後、受講者全員でディスカッションを行う。教員は可能な限り発言を控えるため、学生の積極的な議論への参加が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	古典を読むとはどういう行為か、どのような意味があるかを考え、ゼミの意義を押さえる。
2	『ヴァージニア覚え書』(1)	ジェファソンがこのテキストを記した意図について議論する。
3	『ヴァージニア覚え書』(2)	ジェファソンが憲法という語によってどのような理解をしていたかについて議論する。
4	『ヴァージニア覚え書』(3)	ジェファソンは、ヴァージニア州の歴史的起源についてどのように理解していたのか議論する。
5	『ヴァージニア覚え書』(4)	ジェファソンは、なぜヴァージニア州の歴史的起源について記したのかについて議論する。
6	『ヴァージニア覚え書』(5)	ジェファソンが記したヴァージニア州の起源とイングランドとの関係についての叙述は、どのような特徴があるかについて議論する。
7	『ヴァージニア覚え書』(6)	ジェファソンは憲法改正についてどのような論拠がありうると考えていたかについて議論する。
8	『ヴァージニア覚え書』(7)	ジェファソンは憲法と通常の法についてどのような意味の違いを見出したか、議論する。

- 9 『ヴァージニア覚え書』(8) ジェファソンが、立法府、立法権という語によって何を意味していたかを議論する。
- 10 『ヴァージニア覚え書』(9) ジェファソンは立法府が暴走することを恐れた。なぜそのような考え方を彼が持っていたかを、ヴァージニアの政治の文脈に即して議論する。
- 11 『ヴァージニア覚え書』(10) 立法府の暴走を食い止めるために、いかなる抑制が考えられるかについて、議論する。
- 12 『ヴァージニア覚え書』(11) ジェファソンは選挙についてのどのような理解をしていたか議論する。
- 13 『ヴァージニア覚え書』(12) ジェファソンの考えた憲法構想が、どのように制度的に反映されていたかについて議論する。
- 14 まとめ ジェファソンが考えた憲法論は、アメリカ合衆国憲法にどのような影響を与えたかを議論し、まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。各回の予習範囲を予め読み、議論につながりそうなコメントペーパーを執筆することが求められる。また、自分が担当する報告の準備は、他の文献にあたることも求められるため、2時間を大幅に超える予習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

トマス・ジェファソン『ヴァージニア覚え書』（中屋健一訳、岩波文庫、1972年）を用いる。ただし、このテキストは現在絶版であることから、こちらで用意し、配布する予定である。

【参考書】

イントロダクションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告（20%）と毎回のコメントペーパー、議論への参加状況（80%）によって評価する。期末レポートは課さない。ただし、単位習得には、必ず最低1回は報告を行うことが求められる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

配布されたPDFの資料をパソコンなどの電子機器で読めるようにすること。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養ゼミ I(Q6213)」とこのゼミは関連するため、合わせて履修を強く薦める（もちろん、他講義との都合もあるだろうから、絶対に二つとも受講しなくてはいけないわけではない）。

【Outline and objectives】

We will discuss meanings of the American constitutional thought through reading *Notes on the State of Virginia* written by Thomas Jefferson, the third president of the United States. This serves to be able to think modern political phenomena from historical perspective and understand others correctly.

PSY300LA

人間行動学 A

2017年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「こころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「正常と異常」もしくは「マジョリティとマイノリティ」との繋がり・絡みを学び合っていきます。

もはや手垢にまみれた(?)「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるでしょう。

当然(?)、現実的・合理的で正しい(はずの) AI (人工知能) やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる(ハマらざるを得ない) ヒト(こころ・いのち)との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する(しかない)自転車操業の実存・ヒトの「こころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故(why)・どのように(how)生きているのか。生きているということは、「こころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「こころ・いのち」はどこにあるのか。「こころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNSや動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「こころ・いのち」を考えてきました。「こころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表(現)れているからです。どうかすると、私(or 貴方)は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私(or 貴方)の「こころ・いのち」は、何かヘンなのでしょう。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【補足・改定】

4月23日(木)を「学習支援システム」での開始日とし、改めて告知します。

当面、集まることが不可能なので、同システムでも伝えましたが、できる手法と一緒に模索していきます。

なお、この科目は「定員制」で、「抽選」ではなく「選抜」の対象です。別途、「授業情報」で示した設問に対し（「課題」ではありませんが）、何らかのコメントなりを当方アドレス（kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp）宛てに送信ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	実質「休講」 実質「休講」 イントロダクション	同左 同左 参加者各々の興味・関心に基づき、討論の素材（教材）について検討
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

- (1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。
 - (2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
 - (3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
 - (4) 履修希望が多い場合、（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くとも第 2 回まで）に参加し、報告・発表ないし話題提供その他、論議に臨む確かな意思が示されたなかから選抜します（2019 年度は 100 名超より 30 名ほどを選抜）。
 - (5) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。
 - (6) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 時限に設ける予定です。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。
 - (7) 2019 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。
 - #01 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
 - #02 メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
 - #03 アスペルガー症候群の人には天才が多い？
 - #04 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
 - #05 漫画から読み解く行動心理学
 - #06 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
 - #07 「男」と「女」は別の生き物なのか
 - #08 バーナム効果：占いの必要性
 - #09 ADHD 型主人公の誕生と衰退
 - #10 『愛がなんだ』から見る恋愛依存
 - #11 あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
 - #12 なぜアイドルの沼にハマるのか
 - #13 Are You Righteous??
 - #14 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
 - #15 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
 - #16 観光旅行における心理学
 - #17 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
 - #18 「認められたい」、その感情は顔ありきなのか？
 - #19 何故、人は容姿に拘るのか？
 - #20 優生学とその心理的要因
 - #21 暴力のない子どもへの教育をしていくために
 - #22 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
 - #23 分人主義（dividualism）という生き方：「本当の自分」という幻想
 - #24 何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
 - #25 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
- なお、2018 年度の報告・発表テーマは、以下のとおり。
- #01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方
 - #02 「炎上」はなぜ起こるのか
 - #03 フェティシズムと犯罪者予備軍
 - #04 うつ病への理解
 - #05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか
 - #06 優生思想について
 - #07 返報性について
 - #08 安楽死からみる自己決定権について
 - #09 自己欺瞞
 - #10 「心の監禁」からの脱出
 - #11 バーナム効果とは
 - #12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
 - #13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
 - #14 承認欲求
 - #15 パーソナルスペース
 - #16 「ネタばれ」は悪くない？
 - #17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇氣

#19 自己成就予言効果

#20 ツァイガルニック効果

#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「ころ・いのち」を考えます。

【到達目標】

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」（from『山月記』by 中島敦）、『狂気の歴史』『性の歴史』（by M. フーコー）、『全体主義の起原』『人間の条件（活動的生）』『精神の生活』（by H. アレント）、『私の個人主義』（by 夏目漱石）、『この世は舞台（stage）、誰もが役者（player）』（from『As You Like It（お気に召すまま）』by シェイクスピア）…その他あれこれと『靈魂論』（by アリストテレス）以来の「心理学」、とりわけ「正常と異常」もしくは「マジョリティとマイノリティ」との繋がり・絡みを学び合っていきます。

もはや手垢にまみれた（？）「個性」だの「多様性」だの…についても突き詰め追いつめることができるでしょうか。

当然（？）、現実的・合理的で正しい（はずの）AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、レプリカント、あるいはクローンと、誤り・間違いだらけで、夢幻・観念・妄想・変態の沼にハマる（ハマらざるを得ない）ヒト（ころ・いのち）との差異をも感じ思います。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。社会・文化、歴史・時代、対人関係のもと、状況・相互作用・関係性を通して、絶えず生成・変化・展開する（しかない）自転車操業の実存・ヒトの「ころ」や「いのち」の意味は分かるのか。ヒトは何故（why）どのように（how）生きているのか。生きているということは、「ころ・いのち」と同じなのか否か。さて、「ころ・いのち」はどこにあるのか。「ころ・いのち」とは何か。改めて考えることが目標です。その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に「対話」を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出し出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「ころ・いのち」を考えてきました。「ころ・いのち」が、「行動」となって顕著に表（現）れているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「ころ・いのち」は、何かヘンなのでしょう。

良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

- (1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。
- (2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
- (3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
- (4) 履修希望が多い場合、（秋学期のみ参加予定者も含め）春学期初回（遅くても第2回まで）に参加し、報告・発表ないし話題提供その他、論議に臨む確かな意思が示されたなかから選抜します（2019年度は100名超より30名ほどを選抜）。
- (5) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。
- (6) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各6時限に設ける予定です。同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。
- (7) 2019年度の報告・発表テーマは、次のとおりです。
 - #01 相模原障害者施設殺傷事件に見る現代社会の問題
 - #02 メンヘラカルチャーと「病みかわいい」
 - #03 アスペルガー症候群の人には天才が多い!?
 - #04 日本における制度と行動規範の乖離：労働環境に焦点を当てて
 - #05 漫画から読み解く行動心理学
 - #06 川崎登戸事件から見る拡大自殺・間接自殺の背景
 - #07 「男」と「女」は別の生き物なのか
 - #08 バーナム効果：占いの必要性
 - #09 ADHD 型主人公の誕生と衰退
 - #10 『愛がなんだ』から見る恋愛依存
 - #11 あらゆる場面で嫉妬は害なのか？
 - #12 なぜアイドルの沼にハマるのか
 - #13 Are You Righteous??
 - #14 練馬区女子大生の死体遺棄事件から見るストーキング殺人事件に関する分類について
 - #15 陰キャと陽キャに優劣はあるのか
 - #16 観光旅行における心理学
 - #17 社会・文化におけるヒロイン像の変遷
 - #18 「認められたい」、その感情は顔ありきなのか？
 - #19 何故、人は容姿に拘るのか？
 - #20 優生学とその心理的要因
 - #21 暴力のない子どもへの教育をしていくために
 - #22 映画『パプリカ』に見られる夢表現について
 - #23 分人主義（dividualism）という生き方：「本当の自分」という幻想
 - #24 何故、人は映画版ジャイアンに惚れてしまうのか
 - #25 匿名によるネットバッシング：これからのファンのあり方とは
 なお、2018年度の報告・発表テーマは、以下のとおり。
 - #01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方
 - #02 「炎上」はなぜ起こるのか
 - #03 フェティシズムと犯罪者予備軍
 - #04 うつ病への理解
 - #05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか
 - #06 優生思想について
 - #07 返報性について
 - #08 安楽死からみる自己決定権について
 - #09 自己欺瞞
 - #10 「心の監禁」からの脱出
 - #11 バーナム効果とは
 - #12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
 - #13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
 - #14 承認欲求
 - #15 パーソナルスペース
 - #16 「ネタばれ」は悪くない？
 - #17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
 - #18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇氣
 - #19 自己成就予言効果
 - #20 ツァイガルニク効果
 - #21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/ II " and the advanced applied course "Psychology LA/LB". In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代社会の人権問題 A

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代社会における様々な人権問題を取りあげ、その現状、要因、解決策等について考えていく。ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、人権問題に関する知識を学ぶだけでなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。

【到達目標】

- ①現代社会における人権問題の現状を理解する。
- ②様々な人権問題の要因を分析する力を養う。
- ③人権問題の解決策を模索する力を養う。
- ④ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会の人権問題に関する基本文献を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、毎回1～2名の報告者を指定して報告を求め、その報告に対する質疑と議論を行うが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と取りあげるテーマの設定
第2回	女性の人権①	基本文献の輪読
第3回	女性の人権②	報告と討論
第4回	外国人の人権(1) - ニューカマー外国人①	基本文献の輪読
第5回	外国人の人権(1) - ニューカマー外国人②	報告と討論
第6回	外国人の人権(2) - オールドカマー外国人①	基本文献の輪読
第7回	外国人の人権(2) - オールドカマー外国人②	報告と討論
第8回	障害者の人権①	基本文献の輪読
第9回	障害者の人権②	報告と討論
第10回	労働者の人権①	基本文献の輪読
第11回	労働者の人権②	報告と討論
第12回	ハンセン病元患者の人権①	基本文献の輪読

第13回 ハンセン病患者の人 報告と討論
権②

第14回 全体のまとめ 全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50%）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50%）を合算して評価を行う。ただし、春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も適宜変更せざるを得ない。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will discuss various human rights issues in modern society and consider the situation, factors and solutions of those issues. Since this class is a seminar-style, you have to research, report and discuss by yourselves. The purpose of this lesson is not only to learn about human rights issues, but also to acquire the skills to participate in seminar.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：現代社会の人権問題B

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の教養ゼミⅠ（現代社会の人権問題A）に引き続き、現代社会における様々な人権問題を取りあげ、その現状、要因、解決策等について考えていく。ゼミ形式の授業であるため、通常の講義科目とは異なり、参加者が自主的に調べ、報告し、議論することによって授業を進めていく。そのため、この授業では、人権問題に関する知識を学ぶだけでなく、「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につけることも目的とする。なお、春学期の教養ゼミⅠを受講していなくても支障はない。

【到達目標】

- ①現代社会における人権問題の現状を理解する。
- ②様々な人権問題の要因を分析する力を養う。
- ③人権問題の解決策を模索する力を養う。
- ④ゼミナールで必要となる「調べる・報告する・議論する」というスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会の人権問題に関する基本文献を輪読することによって、基礎的な知識を身につけた上で、毎回1～2名の報告者を指定して報告を求め、その報告に対する質疑と議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と取りあげるテーマの設定
第2回	子どもの人権①	基本文献の輪読
第3回	子どもの人権②	報告と討論
第4回	消費者の人権①	基本文献の輪読
第5回	消費者の人権②	報告と討論
第6回	犯罪被害者の人権①	基本文献の輪読
第7回	犯罪被害者の人権②	報告と討論
第8回	被疑者・被告人の人権①	基本文献の輪読
第9回	被疑者・被告人の人権②	報告と討論
第10回	難民の人権①	基本文献の輪読
第11回	難民の人権②	報告と討論
第12回	生活困窮者の人権①	基本文献の輪読
第13回	生活困窮者の人権②	報告と討論
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと補充報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献の輪読に当たっては、受講者全員が事前に指定された文献を読み、問題点や疑問点をまとめておく。報告に当たっては、報告者は報告の準備を行うとともに、他の参加者は報告に対する質問を準備する。毎回の授業の後には、自分なりの気づきや考えを整理しておく。なお、本授業の準備学習・復習時間に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容に対する評価（50％）と、授業中の発言頻度および発言内容に対する評価（50％）を合算して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミに不慣れな1・2年生が受講者の大半を占めることを考慮し、文献の探し方やレジュメの作り方などの指導にも時間を割く予定である。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will discuss various human rights issues in modern society and consider the situation, factors and solutions of those issues. Since this class is a seminar-style, you have to research, report and discuss by yourselves. The purpose of this lesson is not only to learn about human rights issues, but also to acquire the skills to participate in seminar.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による変化とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって変化した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール	成層圏の気候からオゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。

8	人為による気候の改変 2（光化学スモッグ）	大気汚染物質が影響する光化学スモッグの原因と予測について説明する。
9	人為による気候の改変 3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全 まとめ	地球環境のパロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「オゾン層の保護」、「エルニーニョの成因と影響」について、レポートの作成を行う。更に、「ヒートアイランド」、「観光鍾乳洞」に関して課題論文のまとめを実施する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本、佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択、江守正多著、角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－、吉野正敏著、古今書院
- ・新百万人の天気教室、白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、今年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連するため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。

第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないと受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。更に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。

- | | | |
|----|--|--|
| 5 | 地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水） | 降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。特に、現在、温暖化が最も進んでいる北極について詳細に解説する。 |
| 6 | 海洋の役割と影響 | 地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。 |
| 7 | 生態系への影響 | 地球温暖化により動物、植物がどのような影響を受けているかを説明する。 |
| 8 | 緩和策1（国際的な取り組み） | IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。また、現状の課題について、検討する。 |
| 9 | 緩和策2（日本の取り組み） | 国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。 |
| 10 | 適応策1（産業分野） | 地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。 |
| 11 | 適応策2（災害対応） | 集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。 |
| 12 | 懐疑論への対応 | 地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。 |
| 13 | 地球温暖化の予測（気温、CO ₂ 、生態系へのリスク） | 気温、CO ₂ の予測と課題を説明する。また、生態系の変化とリスク、人間への影響について、解説する。 |
| 14 | 地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ | 地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「海洋汚染」及び「地球温暖化の緩和策と適応策」についてレポートを作成する。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象. 吉野正敏著. 成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－. 吉野正敏著. 古今書院
- ・異常気象と地球温暖化. 鬼頭昭雄著. 岩波新書
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－. 日本気象学会 地球環境問題委員会編. 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：30%
- ・小テスト・作図：20%
- ・レポート：10%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。（例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?）その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。（例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか?）こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日（概要資料のアップロード）は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	コンピュータの歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	機械と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組みについて解説する。
第 04 回	機械と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文が活用される事例を学ぶ。
第 05 回	機械と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰返し構文が活用される事例を学ぶ。
第 06 回	コンピュータの理論 (1)	チューリング機械の仕組みとその上で動作する計算を解説する。
第 07 回	コンピュータの理論 (2)	万能チューリング機械と現代計算機の関係について解説する。

第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数, 10 進数, 16 進数による正整数の表現方法を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	機械学習と自然言語 (1)	Google Colab 上で Python プログラムを実行する方法を学ぶ。
第 12 回	機械学習と自然言語 (2)	日本語の文章を品詞に分解する処理（分かち書き）を学ぶ。
第 13 回	機械学習と自然言語 (3)	青空文庫の小説を使って機械学習の方法を学ぶ。
第 14 回	機械学習と自然言語 (4)	既存の学習済みモデルを利用して大学シラバスの文章を分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外の予習・復習（各 2 時間程度）で完成させる必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。（この授業では試験は行いません。）具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りにはある問題はむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理を組み合わせた活用の勘を養うこと」を目標としている。各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないこととなります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、扱う事例数を少なくする可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」「個別に質問・相談を受ける時間」を十分とりたいと考えているので、授業は実験・実習の割合が 6～7 割程になる予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決をデモンストレーションする。
第 02 回	計算機による数学 (1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 03 回	計算機による数学 (2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第 04 回	計算機による数学 (3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第 05 回	行列計算の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 06 回	行列計算の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 07 回	行列計算の応用 (3)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第 08 回	行列計算の応用 (4)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第 09 回	線形計画法 (1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。
第 10 回	線形計画法 (2)	シンプレックス法と呼ばれる解法とそのプログラムを紹介する。

第 11 回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。
第 12 回	暗号の数理 (1)	基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。
第 13 回	暗号の数理 (2)	公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。
第 14 回	暗号の数理 (3)	実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外の予習・復習（各 2 時間程度）で完成させる必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、練習問題 (30%)、コンピュータを使った実験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（これまでに余り触れたことがない内容だと思うので、高度で細かな部分には踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく概要の理解・体験ができれば十分とっています。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら気軽に進める予定です。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れなくて欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れなくて欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

MAT300LA

集合論 A

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

・無限集合を持つ、有限集合とは異なる性質とは？

・無限にも大小はあるか。1 個、2 個、…の先は？

具体例を一つ以下に挙げよう。

～～～

普通のサッカーは 1 チーム 11 人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手がいる 2 つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号 1、2、3、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号 2、4、6、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤 2 が白 1、赤 4 が白 2 という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

(4 月 20 日追記)

教室使用ができない期間については、学習支援システムを通じた授業となり、その開始日は 4 月 28 日とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	無限の不思議	概要説明
第 2 回	集合の表記	外延と内包
第 3 回	部分の全体	冪集合
第 4 回	対応関係	写像の定義
第 5 回	特別な対応	全射と単射
第 6 回	「3」とは	全単射
第 7 回	無限の大きさ	濃度の定義
第 8 回	最小の無限	可算集合
第 9 回	真に大きい？	有理数全体
第 10 回	色々な単語	可算な文字列
第 11 回	真に大きい！	対角線論法
第 12 回	小数表記	実数全体
第 13 回	無限に大きく	冪集合再考
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（なお、この科目は「講義及び演習」に分類されます。講義及び演習 1 回の準備・復習時間は各 2 時間が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

・志賀浩二『集合への 30 講』（朝倉書店）1988 年
 ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004 年、増訂版 2013 年
 ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

(1) 秋期科目「集合論 B」の予備知識となる内容を含む。
 (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 3（集合論）A」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

MAT300LA

集合論 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を理解する。

【到達目標】

次のような疑問に対して答えることができる。

・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？

・無限の物を並べられるか。1 番、2 番、…の先は？

具体例を一つ以下に挙げよう。

～～～

長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一行に並べるとき、並べ方は全部で 6 通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、6 通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数 n に対して n 男の n 郎がいるような無限の兄弟で行うとどういことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが、では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	二種類の数	基数と序数
第 2 回	派閥分け	同値関係
第 3 回	順序とは	順序集合
第 4 回	順序の練習	有限順序集合
第 5 回	順序の形	同型写像
第 6 回	比較可能性	線形順序
第 7 回	無限に降下？	整列順序
第 8 回	順序の順序	順序数
第 9 回	直線上の表現	実数の部分順序
第 10 回	順序をつなぐ	順序数の和
第 11 回	順序上の順序	順序数の積
第 12 回	順序と写像	順序数の冪
第 13 回	日常の順序	順序数の実例
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（なお、この科目は「講義及び演習」に分類されます。講義及び演習 1 回の準備・復習時間は各 2 時間が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

・志賀浩二『集合への 30 講』（朝倉書店）1988 年
 ・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004 年、増訂版 2013 年
 ・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

(1) 春期科目「集合論 A」で扱う内容を既知として授業を進める。
 (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 3（集合論）B」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
- ・現実の我々が感じる常識的な理解の元になっている古典物理学の基礎から出発して、アインシュタインが特殊相対性理論の着想を得るに至った光の性質を説明し、特殊相対性理論の基礎を説明する。
- ・数学の利用は出来るだけ最小限にとどめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて学ぶ。 エーテルとは何か理解する。
[3]	動いている？	自分の乗った乗り物（地球も含む）が動いているとどうしたらわかるか考える。
[4]	相対性原理 (1)	ガリレオの意味での相対性原理について学ぶ。 天動説から地動説、ニュートンの運動法則について学ぶ。
[5]	相対性原理 (2)	アインシュタインの考えた相対性原理について学ぶ。
[6]	同時性について	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[7]	時間の遅れ	時間の遅れについて定性的に考える。
[8]	速さの足し算	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考える。

[9]	ローレンツ短縮	空間が縮むとはどういうことか考える。
[10]	質量	質量の意味について考える。
[11]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[12]	恒星の一生と元素合成	我々を作っているものは何かについて学ぶ。
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について学ぶ。
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の学習と復習をしておくこと。

相対性理論は論理的に難しくないので、ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。すべて自分で反芻して考える習慣が必要である。納得するまで簡単な宿題などを課すから反芻する習慣をつけること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

- ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・現実の我々が感じる常識的な理解の元になっている古典物理学の基礎から出発して、アインシュタインが一般相対性理論の着想を得るに至った重力の性質を説明し、一般相対性理論の基礎を説明する。
- ・数学の利用は出来るだけ最小限にとどめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について考える。
[4]	重力と空間、時間	重力が作用しているときの光の進み方について考える。
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	重力レンズ効果	重力レンズ効果を利用した天体の観測について学ぶ。
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙膨張の発見と相対論	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について学ぶ
[9]	ビッグバンと元素合成	宇宙が誕生した時の元素合成について学ぶ。
[10]	星の進化と相対論	ブラックホールとは何か、その観測方法について学ぶ。
[11]	双子のパラドックス	時間の進み方に対する重力の影響について考える。
[12]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

[13] 宇宙の理解と相対論 我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっているのか考える。

[14] まとめ 一般相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の学習と復習をしておくこと。

相対性理論は論理的に難しくない。ただ結論が日常経験とすごく離れているので、納得するには時間がかかる。すべて自分で反芻して考える習慣が必要である。納得するまで簡単な宿題などを課すから反芻する習慣をつけること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として：

・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、授業参加（20%）、レポート（40%）を基本とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第 2 回	古代の物質観	四元素説を中心とした古代の物質観・自然観や、中世の錬金術の試みについて
第 3 回	原子は存在するのか？（1）	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第 4 回	原子は存在するのか？（2）	気体の法則と分子運動論について
第 5 回	原子は存在するのか？（3）	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第 6 回	原子は構造を持つのか？（1）	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第 7 回	原子は構造を持つのか？（2）	第 6 回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第 8 回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第 9 回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第 10 回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて

第 11 回	原子構造（1）	主にボーアの原子模型について
第 12 回	原子構造（2）	主に電子配置について
第 13 回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第 14 回	まとめと期末試験	春学期授業のまとめを行う。期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と期末試験（約 50 %）により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関した課題を出題する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素と、元素の歴史や宇宙の歴史などの最先端の現代物理学のテーマとがどのように関連するのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。授業の資料として、毎回プリントを配布する。高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の反応について
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験について解説する

第 10 回 宇宙における元素合成 (1) 元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。

第 11 回 宇宙における元素合成 (2) 恒星の一生と恒星内部での元素合成について

第 12 回 宇宙における元素合成 (3) 恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について

第 13 回 現代の錬金術 人工的に元素を生成する方法について

第 14 回 まとめと期末試験 秋学期のまとめを行う。期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・次回以降の授業内容の理解を助けるためにも、配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と期末試験（約 50 %）により評価する。期末試験は、配布プリントなどの資料を参照可として実施し、授業で扱った知識やその理解度を見る。期末レポートは、授業内容に関する身近な例や具体例に関する課題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム” に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 21 日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。

第 10 回 原子の構造（前期量子論）

ボーアによる原子構造研究について、紹介する。

第 11 回 原子の構造（電子配置）

第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつメカニズムについて、解説する。

第 12 回 ミクロの世界の不思議

ミクロの世界における不思議な現象について解説する。

第 13 回 原子核の構造

原子核の構造について紹介する。

第 14 回 まとめ

まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 70% と授業への積極的な貢献度 30% で評価する。なお、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムにて提示します。

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

PHY300LA

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいつたいたどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第 5 回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第 12 回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。
第 13 回	宇宙の大規模構造と宇宙論	最新の研究について紹介する。

第 14 回 まとめ

全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 70%と授業への積極的な貢献度 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：自然史 ～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の間を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

※ 4月21日からの週の授業は練習（＝ガイダンス）として、授業開始は来週（4月28日からの週）を予定しています。システムが少し不安定な面が残されているためです。来週には落ち着くとおもいますので、それから始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第2回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第3回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第4回	生物地理学とは	生物地理学概論
第5回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第6回	グループワーク (1)	沖縄県の抱える問題 (1)
第7回	グループワーク (2)	沖縄県の抱える問題 (2)
第8回	グループワーク (3)	沖縄県の抱える問題 (3)
第9回	グループ調査 (1)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第10回	グループ調査 (2)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備

第11回	グループ調査 (3)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第12回	発表 (1)	事前調査の発表 (1)
第13回	発表 (2)	事前調査の発表 (2)
第14回	まとめ	各自の発表に基づいたまとめ、フィールドワークのガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート（50%）および授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（50%）を主たる評価とします。試験は行いません。

※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミ I」]、「教養ゼミ II」として履修する学生[半期のみ履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。]
- 4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：自然史～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の間を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、フィールドワーク (1) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域で行うフィールドワークについて;
第 2 回	ガイダンス、フィールドワーク (2) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域概説
第 3 回	ガイダンス、フィールドワーク (3) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域概説
第 4 回	ガイダンス、フィールドワーク (4) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	森林ツアー。森林の生物多様性

第 5 回	ガイダンス、フィールドワーク (5) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	森林ツアー。湿地の生物多様性
第 6 回	ガイダンス、フィールドワーク (6) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	森林ツアー。夜の森林の生物多様性
第 7 回	ガイダンス、フィールドワーク (7) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 8 回	ガイダンス、フィールドワーク (8) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第 9 回	ガイダンス、フィールドワーク (9) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	イノリの生物多様性
第 10 回	ガイダンス、フィールドワーク (10) (沖縄県沖縄島 (沖縄本島北部) ヤンバル地域) 【現地フィールドワーク】	ヤンバルの森林保護
第 11 回	討議 (1) 【現地フィールドワーク】	世界遺産指定について。
第 12 回	討議 (2) 【現地フィールドワーク】	エコツーリズムについて
第 13 回	発表 【現地フィールドワーク】	各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。
第 14 回	まとめとガイダンス 【現地フィールドワーク】	発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのまませず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判別することが可能です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポート (50%) および授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (50%) を主たる評価とします。試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行うのではなく、積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です (約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。). ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。

3) [半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。

教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。

年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生き物研究会

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を 1 から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・ヒマワリ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませんが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

【到達目標】

1. 「生き方」撮影技術の修得
生きている様子を記録に残すために、拡大マクロ撮影・高速スローモーション撮影・インターバル撮影の方法を学びます。きれいに撮影するための、照明法なども同時に学びます。
2. 基本的「生き方」観察
①植物の種子（ソバやヒマワリ）の発芽、②粘菌の移動と成長、③アリの歩行、④ダンゴムシの歩行パターン、⑤テントウムシの飛翔、⑥プラナリアの再生、等の観察法を習得します。
3. 班単位の共同作業の進め方を学びます、
4. 授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 22 日（水）から ZOOM を使った授業を行います。学習支援システムのお知らせに書かれた、ZOOM 会議へのアクセス法を参照して下さい。

全ての班が同じ約 6 種類の基礎的観察を行います。

- ①植物の種子（ソバやヒマワリ）の発芽、②粘菌の移動と成長、③アリの歩行、④ダンゴムシの歩行パターン、⑤テントウムシの飛翔、⑥プラナリアの再生

順番は材料調達のタイミングを見ながら約 2 週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。

- ⑥ アリの歩行① ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
- ⑦ アリの歩行② 昆虫の6本足歩行について、画像解析します。
- ⑧ ダンゴムシの歩行パターン① ダンゴムシのレーストラックを作成します。
- ⑨ ダンゴムシの歩行パターン② 作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
- ⑩ テントウムシの飛翔① 高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
- ⑪ テントウムシの飛翔② アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
- ⑫ プラナリアの再生① プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
- ⑬ プラナリアの再生② プラナリアの再生結果の解析を行います。
- ⑭ 班活動の総括・発表 班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間では、実験・観察を行います。そのための事前調査や、事後のプレゼン準備などは自宅で行う事になります。各時限について、最低2時間以上の復習と、それに伴うノート整理を行って下さい。また、事前調査を毎回2時間以上かけて行って来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。

成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。

評価の基準は、授業内の活動の評価が50%、ノートの充実度が50%になります。

単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。

なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っているMacintoshは画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：生き物研究会

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、教養ゼミⅠ「生き物研究会」で学んだ知識を元に、生き物のしくみを実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を学びます。教養ゼミⅠ「生き物研究会」を既に履修していることを前提に授業を進めますので、注意して下さい。

本授業では、班ごとに独自のテーマを設定して、その問題を解決するための計画立案、実験観察、データ解析、結果発表までの全ての研究過程を体験し学んで頂きます。

【これまでの実績】

ヒマワリの人工光栽培と太陽に対する反応の観察、メダカの体色変化の観察、ダンゴムシの交替性転向反応、様々な液体による植物の発芽、夜行性のダンゴムシ、光・温度がプラナリアに及ぼす影響及び刺激に対する反応、プラナリアの成長（奇形プラナリアの作成）、プラナリアの行動解析、アリとダンゴムシの歩行から見る規則性について、植物の根はどのように伸びるのか、ダンゴムシの壁認識実験、光の色による光屈性の有無等

【到達目標】

生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。

1. 実験の計画立案とその企画書の作成能力
2. 計画実施能力
3. 完遂力
4. プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。

全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。

最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。

- | | | |
|---|------------|-----------------------|
| ⑧ | 中間発表 | 各班による中間発表と討論を行います。 |
| ⑨ | 実験日④ | 班ごとに、実験観察を行います。 |
| ⑩ | 実験日⑤ | 班ごとに、実験観察を行います。 |
| ⑪ | データ整理・画像処理 | 主として画像関係のデータの解析を行います。 |
| ⑫ | ポスター作成 | 研究結果をポスターとして発表します。 |
| ⑬ | プレゼン準備 | 最終プレゼンの準備をします。 |
| ⑭ | 班活動の総括・発表 | 最終プレゼンを行います。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間では、実験・観察を行います。そのための事前調査や、事後のプレゼン準備などは自宅で行う事になります。各時限について、最低2時間以上の復習と、それに伴うノート整理を行って下さい。また、事前調査を毎回2時間以上かけて行って来て下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。

成績は、授業内の活動（50%）と、最後に提出するレポート（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望がありますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline and objectives】

In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planing to the final presentation. In those precess, students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	原子の構造	原子の構造と性質
第3回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第4回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第5回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第6回	炎色反応	各種原子固有の光について
第7回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第8回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第9回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第10回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第11回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第12回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート(配分 70%)と学期末試験(配分 30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

2018 年度は抽選を実施しましたが、2019 年度は抽選を実施しませんでした。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変化する仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。

席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。

ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けない場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。

ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。

自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。

分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

（授業は 4 月 27 日から、学習支援システムを使って始めます。初日に、授業内容や当分の間の授業の進め方、履修予定の皆さんの学習環境のアンケートを取るつもりですので、27 日にまずは学習支援システムにアクセス願います。）春学期は主に視覚の仕組みと光に関する現象を取り上げ、基本的には講義主体で解説を行います。当初は、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験を行う予定でしたが、今年は少なくとも春は無理なようです。2 年生の学生は来年度の履修で考えてみてください。来年度もこの科目は開講します。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間（A・B）の講義内容の説明を行います。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚異常、昆虫の色覚	色覚異常の仕組みについて解説します。
第 5 回	光の種類とその利用	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	電波の利用	身の回りにおける電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み (電球、放電管、蛍光灯)	電気で光るのに異なる原理が利用されています、その仕組みを学びます。

- 第 8 回 光源の種類と発光の仕組み (LED と LASER) LED や LASER の発光原理とこれらを利用した事例を紹介し
ます。
- 第 9 回 オーロラ オーロラの発光原理を学びます。
- 第 10 回 生物発光 ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
- 第 11 回 化学発光 ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
- 第 12 回 屈折と散乱 屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
- 第 13 回 干渉と偏光 干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
- 第 14 回 まとめ 春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。
江森康文他著「色 その科学と文化」、朝倉書店、1984。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（20％）と期末試験の結果（80％）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。A と B、両方の受講が望ましいので、秋学期の B についても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期のこの科目では色に関する内容を基本的に講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光と色の関係	光の 3 原色と色素の 3 原色の関係を人間の視覚と関係して解説します。
第 2 回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第 3 回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第 4 回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 5 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 6 回	染料分子の構造	化学結合の仕組みを解説した後、染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 7 回	植物の色	植物が利用する色素の種類と構造を学びます。
第 8 回	色覚の仕組み	オプシントランパクの違いで吸収波長に違いが出る仕組みを学びます。
第 9 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 10 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。

第11回	染色実験	草木染を実際に行います。
第12回	染色	食品などにみられる発酵や酸化による色の変化について学びます。
第13回	身の回りの色	銀塩写真やポラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。
第14回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心もち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（20%）と期末試験の結果（80%）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。できるだけ授業内容に関するプリントを配布したいと思っています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に化学物質の耐久性も増したことで、人々が化学に関心を持つ機会が減少してきたように思えます。本授業では、これまでの化学の歴史を学習し、物質の性質や反応を探求する学問すなわち化学に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

化学の歴史を、化学史の記述法、概念史、人物史、ジェンダー、技術と環境問題、日本化学史といった種々の切り口を通して学習し、化学について多様な観点から理解を深めることが本授業の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して各回の課題をお知らせします。履修者は、毎回、各回の教科書割当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、レジュメにまとめます。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを提出します。

なお、本授業の開始日は5月6日（水）とし、この日までに第1回「イントロダクション」の資料などを学習支援システムからダウンロードできるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を解説します。
第2回	化学史研究の現在(1)	「酸・塩基・塩の歴史」について学習する。
第3回	化学史研究の現在(2)	「ロバート・ボイルの化学研究の現場」について学習する。
第4回	化学史研究の現在(3)	「18世紀化学史研究の現在」について学習する。
第5回	化学史研究の現在(4)	「再発見・ニッポニウムの真実」について学習する。
第6回	化学史研究の現在(5)	「カラーザースとナイロン」について学習する。
第7回	化学革命の現在(1)	「ベッヒャーとシュタール」について学習する。
第8回	化学革命の現在(2)	「プリーストリ」について学習する。
第9回	化学革命の現在(3)	「カール・ウィルヘルム・シェーレ」について学習する。
第10回	化学革命の現在(4)	「ラヴォアジエ」について学習する。
第11回	化学革命の現在(5)	「ラヴォアジエと質量保存の原理」について学習する。
第12回	人物化学史の現在	人物化学史について学習する。
第13回	該当なし	該当なし

第14回 該当なし 該当なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。

書籍名：化学史への招待

著者名：化学史学会

出版社名：オーム社

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート(100%)によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業形態は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って初めて行われるものなので、必然的に気づきを与えてくれる学生の意見等はありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、法政大学でも、当面の間、授業形態が大きく変わることになり、オンライン授業を行うことになりました。本授業は（昨年度まで私の他の授業を履修していただいた皆さんには授業内でご案内しましたが）、当初は、実際に各種実験を行っていただき、化学の理解を深めるという形態で行う予定でした。しかしながら、オンライン授業に切り替えることにより（必然的に）実験を体験していただくことができなくなりました。そこで、大変申し訳ないのですが、内容を大幅に変更して授業を行うことになりました。今回変更したシラバスをお読みいただいでおわかりいただけるように、化学に関する教科書を学習していく形式といたします。履修者の皆さんは、教科書を各自購入し、各回の割当部分を読むと共に発展的な学習を他の図書やネット資料を活用して行ってください。質問等は学習支援システムを通してお答えします。成績評価については、レポート課題を提出していただくことにより行います。このような授業形態に変更したため、本授業の定員制限は行いません。（希望者全員が履修できます。）

なお、シラバスは今後状況に合わせて変更することがありますので、時々チェックしてください。

また、どうしても当初予定していた実験授業に参加したいという学生の皆様は、今回は本授業を登録せず、現在の感染状況が好転して対面授業（実験教室で行う授業）が可能になった後（現段階では、それが、秋学期からになるのか、来年度からになるのかわかりませんが）での履修をご検討ください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we will learn the history of chemistry through various aspects. The purpose of this lecture is to acquire deeper understanding about chemistry that investigates property and reactivities of chemical substances.

CHM300LA

物質の科学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取り扱います。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。ノートをきちんととまめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第1回)
第7回	けん化価の測定(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第2回)

第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、平常点(50%)、および、各テーマ毎に提出するレポート(50%)によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員(30名)を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、春学期(物質の科学A)は授業内容が大幅に変更されました。秋学期の本授業(物質の科学B)についても、今後の状況次第では、内容が変更される可能性があることをお含み置ください。その場合は、学習支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

〔補足〕

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020年4月24日（金）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数(1)	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数(2)	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数(3)	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム(1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム(2)	LMS, SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ(1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第10回	情報セキュリティ (2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が50%、出席点が50%で評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧にを行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクトに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が60%、出席点が40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧にを行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

Learning the basics about Computer Science. Learning a wide range of theoretical and engineering aspects of computers, including basics and science as well as applied technologies.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業ができない間はZoomをつかった遠隔授業を行います。4月20日（月）現在、授業開始は4月27日（月）です。

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。

第7回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、各回の学習内容の確認や他の回の関連性の考察など、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。欠席時には学習支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

「成績評価は小テスト＝40%、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝20%、期末レポート＝40%を基本とします。」という予定でしたが、遠隔授業の実施期間に各種課題を活用することが想定されますので、暫定的に「成績評価は小テスト＝20%、授業参加（授業内外の活動・課題や映画鑑賞の感想共有など）＝40%、期末レポート＝40%を基本とします。」今後の状況次第で変更される可能性がありますので、随時通知します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。今後も参加型の授業形態について検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。遠隔授業を受ける手段の確保

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective. relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

BIO200LA

Natural Science A 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is divided roughly into two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues. The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.

Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【学生の意見等からの気づき】

It has been a challenge to more actively involve students in the learning process. However, group activities appear to be effective in addressing such an issue, and additional efforts to provide such opportunities will be made.

【Outline and objectives】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs) have come to be recognized as common tasks for the human society, which is, in a way, a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (30 %), and writing assignments (30 %).

BIO300LA

ボルボックス生物論A

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを体験します。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、板書を基本とする講義と、毎回のテーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。

→ 当面の間、Zoom を用いたオンライン授業に変更します。本授業の開始日は4月27日（月）とします。学習支援システムをこまめにチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物としてのボルボックス	授業の概略を説明します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウエンフック顕微鏡と同じ原理でボルボックスを観察してみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理と基本操作を学びます。
第4回	淡水産プランクトンの観察①	顕微鏡を使ってプランクトンを観察し、形態や運動性の多様性を理解します。
第5回	淡水産プランクトンの観察②	一週間培養した後のプランクトンサンプルを観察します。
第6回	生物の多細胞化進化	進化の歴史で複数回起きた多細胞化について学び、多細胞化進化の痕跡を残す生き物を観察します。
第7回	環境応答行動①	ボルボックスが光に集まる性質（走光性）を利用した実験を行います。
第8回	環境応答行動②	走光性行動に必要なファクターを調べます。
第9回	繊毛のはたらき①	生き物が普遍的にもつ繊毛について学びます。
第10回	繊毛のはたらき②	繊毛の動きと、それが作り出す水流を観察します。
第11回	光受容①	生き物が光を感知するしくみとその多様性を学びます。
第12回	光受容②	ボルボックスが光を感知する眼点と呼ばれる構造を観察します。
第13回	多細胞化と機能進化	生物の多細胞化進化の過程で起きた変化について考察します。

第14回 まとめ

13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。

成績は、出席（20%）、平常点（40%）、授業ノート（40%）をもとに評価します。

授業ノートは、授業の説明に従って記録し、最後に提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【その他の重要事項】

・必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。

・授業日の生物材料の準備状況によっては、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

BIO300LA

ボルボックス生物論B

2017年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物プランクトンであるボルボックスは、生物の進化、特に単細胞生物から多細胞生物への進化を研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】

各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた観察・実験とその検討までを体験します。それを通じて、対象物を正確に観察する能力、問題解決能力、実験の結果や考察を記述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、板書を基本とする講義と、毎回のテーマに沿った観察・実験を行いながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	進化における多細胞化	授業の概略を説明します。
第2回	単細胞生物と多細胞生物	単細胞生物と多細胞生物の比較をしながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	生活環と形態形成	ボルボックスの丸い形の形成過程から、生き物の形づくりを学びます。
第4回	有性生殖とその進化①	ボルボックスに近縁の単細胞生物クラミドモナスの有性生殖を観察します。
第5回	有性生殖とその進化②	生物の有性生殖が同形配偶から異形配偶を経て卵生殖へと進化してきた道筋を学びます。
第6回	繊毛の役割①	ボルボックスの表面にも私たちの体のいたるところにも存在する「繊毛」の役割を学びます。
第7回	繊毛の役割②	繊毛を脱離させ、再生させる実験を行います。
第8回	運動性①	繊毛運動を再活性化する実験、通称「ゾンビ実験」を行います。
第9回	運動性②	繊毛運動を生み出すファクターについて考察します。
第10回	粘菌の観察①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌の探餌行動を調べる実験を行います。
第11回	粘菌の観察②	粘菌の探餌行動について考察します。また、粘菌の原形質流動を観察します。
第12回	突然変異体の研究への利用①	突然変異体を利用した生物の研究方法について学びます。
第13回	突然変異体の研究への利用②	様々な突然変異体の特徴を調べていきます。それにより、変異体解析という研究手法を理解します。

第14回 まとめ

13回の授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。

授業の説明に従って観察結果・実験結果・考察などを授業ノートに記録し、最後に授業ノートを提出していただきます。

成績は、授業における活動（50%）、授業ノート（50%）をもとに評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【その他の重要事項】

- ・必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。
- ・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
- ・授業日の生物材料の準備状況によっては、予定を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The green alga *Volvox* is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using *Volvox* and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.

CHM300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通して各回の課題をお知らせします。履修者は、毎回、各回の教科書割当て部分を読みます。その内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、レジュメにまとめます。春学期中に何度かレポート課題を課しますので、指示にしたがってレポートを提出します。

【追記】本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに第1回「イントロダクション」の資料などを学習支援システムからダウンロードできるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	第一章_異なる世界観のはざままで	「異なる世界観のはざままで」を学習する。
第3回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる(1)	「数字のまやかし」～「実際の数字は？」を学習する。
第4回	第二章_ハバートのベルカーブを滑り落ちる(2)	「悲観論 VS 楽観論」～「最後の石油」を学習する。
第5回	第三章_エネルギーと文明の興亡(1)	「文化の発展とエネルギー」～「熱力学の法則」を学習する。
第6回	第三章_エネルギーと文明の興亡(2)	「経済発展の再考」～「大文明が崩壊する理由」を学習する。

第7回	第三章_エネルギーと文明の興亡(3)	「ローマ帝国の熱力学」を学習する。
第8回	第四章_化石燃料時代(1)	「歴史の真相」～「石油時代の幕開け」を学習する。
第9回	第四章_化石燃料時代(2)	「新たな機動性」～「商業の再構築」を学習する。
第10回	第五章_イスラム教という波乱の要素(1)	「ムハンマドの描いたビジョン」～「西洋の影響」を学習する。
第11回	第五章_イスラム教という波乱の要素(2)	「イスラム化」～「サウジアラビア」を学習する。
第12回	第五章_イスラム教という波乱の要素(3)	「民主主義はいずこへ」～「石油を政治の道具に」を学習する。
第13回	該当なし	該当なし
第14回	該当なし	該当なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成やレポート作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。

書籍名：水素エコノミー --- エネルギー・ウェブの時代

著者名：ジェレミー・リフキン

訳者名：柴田裕之

出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート（100%）によって決定されます。レポート課題の詳細については、授業内でお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミ I」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミ II」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（30名）を超える場合は抽選をおこないます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、法政大学では、当面の間、オンライン授業が行われることになりました。本授業も、当初はゼミ形式でおこなう予定でしたが、大学の方針にしたがって授業形態を大幅に変更することにいたしました。履修者の皆さんは、教科書を各自購入し、各回の割当て部分を読むと共に発展的な学習を他の図書やネット資料を活用して行ってください。質問等は学習支援システムを通して受付ます。成績評価については、レポート課題を提出していただくことによって行います。

各回の学習範囲やレポート課題については、学習支援システムによって指示いたしますので、よろしくお願いいたします。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. Such the fossil fuels are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

CHM300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：持続可能社会のための化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】

持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかかわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための化学を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で授業を行います。各受講生には教科書の一部分を割り当てます。各自の割当て部分についてレジュメおよびプレゼンテーション資料を作成し、授業内で発表していただきます。その後、全員でディスカッションを行って理解を深めます。調査・発表内容は、受講生の希望を取り入れて決定しますが、一例を授業計画のテーマ欄に記載しましたので、参考にしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第六章_世界の破綻 (1)	「天然ガスでしのぐ」～「重油と気温上昇」を学習する。
第 2 回	第六章_世界の破綻 (2)	「工業化時代のエントロピーのつけ」～「もっと悪いシナリオ」を学習する。
第 3 回	第七章_現代社会の弱点 (1)	「バイオテロリズム」～「弱点」を学習する。
第 4 回	第七章_現代社会の弱点 (2)	「石油あつての食料生産」を学習する。
第 5 回	第七章_現代社会の弱点 (3)	「電気が停まったとき」～「危地にたつ国家」を学習する。
第 6 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (1)	「脱炭素化」～「エネルギーの錬金術」を学習する。
第 7 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (2)	「水素エネルギーの生産」～「燃料電池-- ミニ発電所」を学習する。

第 8 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (3)	「分散型電源」～「水素エネルギー・ウェブ (HEW)」を学習する。
第 9 回	第八章_水素エコノミーの夜明け (4)	「車を発電所に」を学習する。
第 10 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (1)	「ワールド・ワイド・ウェブの教訓」～「共有財産としての水素」を学習する。
第 11 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (2)	「エネルギーの民主化」～「理論から実践へ」を学習する。
第 12 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (3)	「貧しい人びとにパワーを」～「安心」を見直す」を学習する。
第 13 回	第九章_ボトムアップによる新しいグローバル化 (4)	「地政学に基づく政治から生物圏に基づく政治へ」を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読し、自分が担当する箇所についてプレゼンテーション資料やレジュメを丁寧に作成して下さい。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書をお勧めします。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。
書籍名：水素エコノミー -- エネルギー・ウェブの時代
著者名：ジェレミー・リフキン
訳者名：柴田裕之
出版社：NHK 出版

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度、ディスカッションへの参加度等を考慮した平常点 (50%)、出席点 (50%) を総合的に勘案して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より開設される授業のため、コメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのため、パソコンが必要です。自分のパソコンを持っていくことが望ましいが、大学の貸し出しパソコンを利用しても結構です。

【その他の重要事項】

教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミⅡ」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員 (30 名) を超える場合は抽選をおこないます。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、春学期（教養ゼミⅠ）は授業形態が大幅に変更されました。秋学期の本授業（教養ゼミⅡ）についても、今後の状況次第では、授業形態が変更される可能性があることをお含み置きください。その場合は、学習支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】

Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as raw materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. Such the fossil fuels are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, we will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。発音の基礎から始め、ドイツ語での表現の基本を学んでゆきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、場面に応じたドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていきたい。

- * 4 月 22 日（水）より、学習支援システムで授業を開始します。
- * 4 月 21 日（火）より教科書の通信販売（法大生協）が可能になります。すみやかに教科書を注文してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進捗はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion0 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学びます。
第 3 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（1）	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
第 4 回	Lektion1 出会いと自己紹介－動詞の現在人称変化（2）	前回学習した内容を踏まえて、自己紹介の基本表現を学びます。
第 5 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（1）	ドイツ語の名詞の性と冠詞の格変化を学びます。
第 6 回	Lektion2 家族について尋ねる－名詞の性/冠詞の格変化（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 7 回	Lektion3 明日の予定を尋ねる－不規則変化動詞/命令形（1）	不規則変化動詞と命令形を学びます。

第 8 回	Lektion3 不規則変化動詞/命令形（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 9 回	Lektion4 定冠詞類・不定冠詞類（1）	定冠詞類と不定冠詞類を学びます。
第 10 回	Lektion4 定冠詞類・不定冠詞類（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 11 回	Lektion5 複数形/人称代名詞（1）	ドイツ語の名詞の複数形と人称代名詞の格変化を学びます。
第 12 回	Lektion5 複数形/人称代名詞（2）	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 13 回	Lektion6 前置詞の格支配（1）	ドイツ語の前置詞の用法を学びます。
第 14 回	Lektion6 前置詞の格支配（2）	前回の復習。春学期のまとめとして基礎の確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点：課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 % で評価します。

* 授業内容・方法の変更にもなう成績評価の方法と基準の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進捗とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜伝えてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と表現の仕方の習得を目指す。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。

*授業方法の変更が生じた場合は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion7 趣味について尋ねる - 形容詞の格変化 (1)	春学期の内容の復習。 形容詞の格変化を学びます。 以下の進度はおおその目安です。
第 2 回	Lektion7 趣味について尋ねる - 形容詞の格変化 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 3 回	Lektion8 昼食を食べに行く - 話法の助動詞/未来形 (1)	話法の助動詞と未来形の基本を学びます。
第 4 回	Lektion8 昼食を食べに行く - 話法の助動詞/未来形 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 5 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる - 分離動詞/接続詞と複文 (1)	分離動詞と接続詞の用法の基本を学びます。
第 6 回	Lektion9 駅の窓口で尋ねる - 分離動詞/接続詞と複文 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の基本表現を学びます。
第 7 回	Lektion10 zu 不定詞と再帰代名詞 (1)	zu 不定詞と再帰代名詞を学びます。 休暇の計画を尋ねる - zu 不定詞/再帰代名詞

第 8 回	Lektion10 zu 不定詞/再帰代名詞 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の計画を尋ねる - 話の基本表現を学びます。
第 9 回	Lektion11 動詞の三基本形/過去形 (1)	動詞の三基本形と過去形を学びます。 旅の体験を語る (1) - 動詞の三基本形/過去形 (1)
第 10 回	Lektion11 動詞の三基本形/過去形 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の体験を語る (1) - 話の基本表現を学びます。
第 11 回	Lektion12 現在完了形/非人称表現 (1)	現在完了形と非人称表現を学びます。 旅の体験を語る (2) - 現在完了形/非人称表現 (1)
第 12 回	Lektion12 現在完了形/非人称表現 (2)	前回学習した内容を踏まえて、会話の体験を語る (2) - 話の基本表現を学びます。
第 13 回	Lektion13 意見を交換する - 受動態/比較表現 (1)	受動態と比較表現を学びます。
第 14 回	Lektion13 まとめの試験	前回の学習内容を復習します。秋学期のまとめとして確認の試験を 意図を交換する - 受動態/比較表現 (2) おこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。秋学期の終わりにまとめの試験をします。平常点・課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 % で評価します。

*授業方法の変更ともなう成績評価の方法と基準については、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic vocabulary and speaking skill; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4月27日（月）から授業開始。

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueessung, Befinden 1	sich begrüessen/ verabschieden
3	Begrueessung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Personenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/ Plural Negation
6	Familie 1	Ja/ Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraech, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraech
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

Reports, online performance

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen: von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition: im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習の要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ・フランス文化交流史

ドイツとフランスはヨーロッパ大陸の中央に位置する隣国同士であり、古くから影響を与えあい、ときには競合したり、激しく対立する関係にあった。このような歴史的経緯から、両国の文化はある部分は共通の要素をもっている一方で、別のある部分はいたって対照的な要素をもっている。

この二国のように共通点と差異を同時にもつ多様な文化が地域のなかに共存していることは、現代ヨーロッパの特徴でもある。この授業では、ドイツとフランスの交流関係の長い歴史の里程標をたどることで、ヨーロッパの文化的な豊かさをを知ることを目的とする。ドイツとフランスの歴史や文化に興味があり、訪問の予定がある人には最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外領や旧植民地だった地域が、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、ドイツとフランスの相互の文化的な影響関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

毎回テーマを設定し、ドイツとフランスを専門とする2名の教員（辻英史・竹本研史）が、それぞれの国の文化や芸術作品を取りあげて紹介する。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	ドイツとフランス——「宿敵」か？「盟友」か？
第2回	ドイツとフランスのできるまで	ローマ帝国のアルプス以北地域への影響。
第3回	中世キリスト教文化にみるドイツとフランス	「ロマネスク」芸術と「ゴシック」芸術の両国での普及と発展。
第4回	ルネサンスと宗教改革	中世から近世への移行期のドイツとフランス。
第5回	ブルボン対ハプスブルク	16世紀から18世紀まで、ヨーロッパ外交関係の中軸となった対立関係から生まれた芸術作品について。
第6回	絶対王政とバロック芸術	フランス宮廷文化のドイツにおける模倣と換骨奪胎。

第7回	フランス革命・ナポレオン戦争と民族意識の覚醒	19世紀初頭のフランス革命からナポレオンのドイツ占領とナショナリズムの勃興。
第8回	ドイツ帝国の成立とフランス第三共和制	独仏のあいだで争奪の対象となった国境地帯・アルザス地方について。
第9回	ワーグナーと「バイロイト詣で」	19世紀ドイツ文化のフランスへの影響。
第10回	「印象主義」と「表現主義」	19世紀フランス文化のドイツへの影響。
第11回	1920年代のドイツ・フランス	第一次世界大戦から戦間期における両国の文化。
第12回	ナチ・ドイツの侵略とレジスタンス神話	第二次大戦中ドイツはいかにフランスを支配したのか。フランス人はいかに「抵抗」「協力」したのか。
第13回	戦後の独仏関係と EU	対立から和解・協調への変化。
第14回	まとめ	独仏関係からヨーロッパを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業の内容にもとづき、リアクションペーパーを作成して次回授業の際に提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業への参加（15%）、リアクションペーパー（25%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【Outline and objectives】

History of the cultural transfer between France and Germany

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：独仏文化論

辻 英史、竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の中のドイツとフランス、ドイツとフランスの中の世界

ドイツとフランスは、相互に交流や対立の関係を結んできたばかりでなく、ヨーロッパ内の他の国や地域と長期にわたって密接な関係をむすんできた。とくに近代以降には両国の活動はヨーロッパを越えて世界のさまざまな地域に広がり、そのなかには日本も含まれている。これらの交渉の過程を通じて両国の文化には外部からの影響が深く刻み込まれることになり、その一方でいわゆる「ドイツらしさ」「フランスらしさ」と呼ばれるような、世界中である程度共通する両国のイメージもまた作り上げられてきた。

この授業では、ドイツとフランスがどのような文化をヨーロッパと世界に向けて発信し、どのような影響を外部から受けてきたのかを、いくつかの事例を取りあげて検討する。ドイツとフランスについて、またヨーロッパと世界の関係について、より深く、より広い視点から学びたい人に最適の授業である。

なお、ここで言うドイツにはドイツ語圏のオーストリア、スイスの一部などが、フランスにはその海外領や旧植民地だった地域が、それぞれ含まれる。

【到達目標】

文化や芸術作品を通じて、ヨーロッパや世界に対してドイツとフランスの与えてきた影響や、また受け取ってきた刺激がどのようなものであったかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回テーマを設定し、ドイツとフランスを専門とする2名の教員（辻英史・竹本研史）が、それぞれの国の文化や芸術作品を取りあげて紹介する。画像や映像のほか、音楽や文学作品などを取り扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「ドイツらしさ」と「フランスらしさ」とは何か。
第2回	自然と環境	両国の地理や風景が文化におよぼした影響。
第3回	ギリシア・ローマ世界との関係	古典主義の受容と新古典主義について。
第4回	イタリアとの関係	ルネサンスに代表される芸術先進地域への憧憬。
第5回	イギリスとの関係	資本主義の祖国・「商人の国」イギリスを独仏はどのように見てきたか。
第6回	ロシア・ソヴィエトとの関係	社会主義・共産主義の独仏両国への影響について。
第7回	東欧諸国との関係	20世紀初頭の新独立国家ポーランドやチェコなどとドイツ・フランスの関係。

第8回	アメリカとの関係	独仏両国の芸術作品にみるアメリカのイメージを点検する。
第9回	ドイツ・フランスとキリスト教会の関係	独仏両国における政教分離確立までの道のり。
第10回	ドイツ・フランスにおけるユダヤ人問題	共生と迫害の歴史から生まれた芸術作品を紹介する。
第11回	ドイツ・フランスとその植民地	両国における「オリエンタリズム」の展開と人種差別について。
第12回	現代のドイツ・フランスにおける移民・外国人問題	20世紀後半から21世紀にかけて繰り返されてきた多文化社会構築の試みについて。
第13回	日本の独仏受容	明治から現代までの日本に対するドイツ・フランスの影響を考える。
第14回	まとめ	ドイツとフランスから世界を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業の内容にもとづき、リアクションペーパーを作成して次回授業の際に提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（15%）、リアクションペーパー（25%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

出席皆無の場合、たとえレポートを提出しても単位は認めない。

【Outline and objectives】

This course deals with the cultural interaction between France/Germany and other countries of the world from the Late Antiquity to the present day.

PHL300LA

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。

毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期ニーチェも視野に入れます。

授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された感想や見方に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

*授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。授業は、4月21日（火）から始まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進捗はおおよその目安です。
第2回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第3回	『悲劇の誕生』(1)	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄をとらえます。
第4回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」とらえます。

第5回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇とはどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第6回	『悲劇の誕生』(4)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第7回	ニーチェとショーペンハウアー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けたショーペンハウアーに焦点を当て、ニーチェとの接点と違いについて考えます。
第8回	ニーチェとワーグナー	『悲劇の誕生』執筆の際に影響を受けたワーグナーに焦点を当て、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかを作品にふれながら考えます。
第9回	ニーチェと芸術	『悲劇の誕生』の背景にあるニーチェの芸術と音楽についての考え方を紹介し、その意義を考えます。
第10回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と特徴をとらえます。
第11回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。
第12回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワーグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望します。
第13回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第14回	春学期の試験	春学期のまとめの試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業の内容の整理と復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。ニーチェ（秋山英夫訳）『悲劇の誕生』岩波文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。高辻知義『ワーグナー』岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席とリアクションペーパーを重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価します（平常点40%、試験60%）。

*授業内容・方法の変更にもともなう成績評価の方法と基準の変更は、今後、学習支援システムを通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを正確にとってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to the philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the music of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to modern thoughts.

PHL300LA

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。

ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された意見や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー50%、言葉にふれること40%、質疑応答10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

*授業内容・方法の変更が生じた場合は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進捗はおおよその目安です。
第2回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第3回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズム的思考	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的思考の特徴をとらえます。
第4回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—〈形而上学〉への批判	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によって〈形而上学（従来の哲学）〉へのニーチェの批判の意味を考えます。

第5回	『悦ばしき知恵』—〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第6回	『ツァラトゥストラ』(1)—〈身体〉と〈心〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第7回	『ツァラトゥストラ』(2)—〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第8回	『ツァラトゥストラ』(3)—〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想を捉え、考えます。
第9回	『道徳の系譜』—〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その論点を解きほぐして考えます。
第10回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業の内容を踏まえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点を捉えます。
第11回	ニーチェと現代の哲学・思想、芸術(1)	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点を捉えます。
第12回	ニーチェと現代の哲学・思想、芸術(2)	ニーチェの現代芸術への影響をヨーロッパの世紀末芸術について、絵画・音楽を中心に紹介します。
第13回	まとめ	秋学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第14回	秋学期の試験	秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業の内容の整理と復習をおこなってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席とリアクションペーパーを重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます（平常点40%、試験60%）。

*授業内容・方法の変更が生じた場合の成績評価の基準と方法は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【学生の意見等からの気づき】

正確にノートを取ってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche's Philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to modern thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私探し」の源流を求めて】近代ドイツは、明治期以降の日本に「唯一無二の私」という思考の枠組みを与えました。中でもドイツ語で書かれた文学は、日本の近代化とその人材育成に非常に大きな影響を与えています。現在の日本のクリエイターについても、カフカがいなければ「作家・村上春樹」は今とは一風違っていたでしょうし、ドイツ文学なくして「スタジオ・ジブリ」は決して存在しえなかったでしょう。あるいは明治期の日本があんなに深く「ドイツ」と付き合わなければ、「学園もの」のマンガやラノベも今ほど当たり前のものではなく、ついには「私の個性」や「私が大学で成し遂げたこと」を語らせる日本の「就活」も、今とはちょっと違っていたかもしれせん。

この授業ではドイツ語圏文学の魅力を、王道と王道ではないもの、大人向けと子ども向けのもの、長編と短編を取り混ぜつつ、皆さんと楽しみたいと思います。なぜフィクションが真実を表現しうるのか、言語テキストが表現できること、さらにはそこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

第1の目標は、テキストの内容を理解する読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できる」「考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第2の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化する社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外（「自分は必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

第3の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～20世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(4月20日修正)

授業開始日：4月24日

*今般の世相に鑑み、5月8日、5月15日の2回分を「明治期日本の知識人がドイツで学びもたらした衛生学と細菌学」（日本の西洋医学受容史）にそった内容に変更します。扱う作品は、森鷗外『衛生學大意』『舞姫』、北里柴三郎『医道論』、カント『啓蒙とは何か』などを予定しています。

*毎回、原則として非同期型オンライン授業（講義資料を読む+動画ないし音声メモ視聴）の形式で行います。履修者は各回指定された時間までに課題を提出します。

*履修者の状況次第で、初回ないし2回目一度、同期型オンライン授業（双方向型ビデオオンラインミーティング）の機会を30～40分程度設けるつもりです。

*扱う作品の数は、用意する資料の負担を考慮して少し減らす予定です（希望は伺い参考にさせていただきます）。

*以後、授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。

*5月以降、Google Classroom をツールとして使用する可能性が高いです。

主に19世紀～20世紀のドイツ・オーストリア・スイスで成立した、ドイツ語で書かれた文学作品を、時系列的に扱います。

授業では毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要を説明してから各テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の最後には各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	「カッコいい俺」の生き方？	ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』（1774年）その1
3	「私の心」という大切なもの	ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』（1774年）その2
4	みんなが何と言おうと私はこれがいいの！	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1816年）その1
5	なぜみんなにはこれが見えないの？	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1816年）その2
6	この世界の片隅で	ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835年）その1
7	僕にはあの人しかいないのに	ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835年）その2
8	「スイスは自然がいっぱいでみんなお金持ち」？	シュピリ『ハイジ』（1880-81年）
9	元祖BL？満たされない空虚な気持ち	ムーゼル『寄宿生テルレスの混乱』（1906年）
10	「私」はもういない	カフカ『掟の前で』（1914/15年）、『家父の気がかり』（1917/19年）
11	「生きること」を感じさせてくれるもの	Th. マン『魔の山』（1924年）
12	私はあなたのことを決して忘れない	ツヴァイク『書痴メンデル』（1929年）
13	「正義」の真実？！	ケストナー『飛ぶ教室』（1933年）
14	絶対に伝えたい	ツェラン「死のフーガ」（1945年）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当します。あらゆる大学の授業に関わること、スマホやSNSをいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を振り返ることができればいいですね。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピー資料を配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

・手塚富雄・神品芳夫（著）『増補』ドイツ文学案内（岩波書店、1993年）

・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年

・石田勇次編著『図説ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年

その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

(4月20日修正)

授業視聴後に提出する小レポートの内容（50%）、学期末レポート（50%）

授業への積極的な参加と貢献度・小レポート（リアクションペーパー）の内容（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識は必須ではありません。
- ・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

(Roots of "self-awareness" and a "self discovery" journey) This course introduces literature from the era of German "Sturm und Drang"/Weimar classicism to the German modernism (Berliner Moderne/Wiener Moderne). In the course, we also focus on the sense of "self-identity" and "Bildung" that was developed intensively by Germany or German speaking areas like Habsburg Monarchy as well as by entire German modern literature and culture influences modernization of Japan since Meiji-era definitely. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 B

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツの首都ベルリンは、世界中で、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポール（メトロポリス／大都会）です。この授業では、ベルリンを舞台とする文学作品とその二次創作（映画）を通して、19 世紀後半から現代までのベルリンとその表象の様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿から、その社会の内実に向き合います。作品の舞台は 19 世紀後半からほぼ時系列的に進みます。そして扱われる文学作品と映画は、いわゆる「ドイツ文学史」「名作」の類にとどまりません。扱う作品の中には原文がドイツ語でない、あるいはドイツ語ネイティブではない作家がドイツ語で書いている作品も含まれます。また春学期開講の「ドイツ語圏の文学 A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容になります。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、メトロポールとしてのベルリンの魅力が潜んでいると言えるかもしれません。

【到達目標】

第1の目標は、テキストの内容を理解する読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できる」「考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第2の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化する社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外（「自分は必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

第3の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19 世紀後半～20 世紀、および現代の文学作品や映画（文学作品の二次創作）を時系列的に扱います。

授業では毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要を説明してから、各テキストの抜粋を読みます。映画を扱う回はおなじく抜粋された一部分を教室内のスクリーンで観ます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の最後には各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	エリートが闊歩する官庁街で	森鴎外『舞姫』（1890 年）／『衛生學大意』（1907 年）
3	身分違いの恋？	テオドール・フォンターネ『謎誤あれば』（1888 年）その 1

- 4 オワコン下級貴族の本音？ テオドーア・フォンターネ『謎誤あれば』（1888年）その2
- 5 「黄金の20年代」の徒花？ A. デープリン『ベルリン・アレクサンダー広場』（1927年）／R.W. ファースピンダー監督『ベルリン・アレクサンダー広場』（1980年、西独）
- 6 都会の「キラキラ」に憧れて イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年）その1
- 7 「本当の」私を見て好きになってほしい イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年）その2
- 8 がれきと焦土の街で A. ビーバー／H.-M. エンツェンスベルガー『ベルリン終戦日記—ある女性の記録』（1945年）、深緑野分『ベルリンは晴れているか』（2018年）
- 9 「あっちでひと仕事してきて欲しいんだけど？」 L. デイトン『ベルリンの葬送』（1964年）／G. ハミルトン監督『バーマーの危機脱出』（1966年、英国）
- 10 忘却の彼方へ・私の真実の記憶 トーマス・ブルスイヒ『太陽通り』（1999年）
- 11 ドイツ語コースは一応やりましたけど？！ W. カミナー『シェーンハウザー・アレー』（2001年）、多和田葉子『百年の散歩』（2017年）
- 12 大都会ってとっても危険？！ E. ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）、A. シュタインヘーフエル『リーコとオスカーととっても深い影』（2008年）
- 13 まだ見ぬベルリンへ W. ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走』（2010年）／F. アキン監督『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その1
- 14 私はあなたのことをいつだって見てるから W. ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走』（2010年）／F. アキン監督『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
- ・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当します。あらゆる大学の授業に関わること、スマホやSNSをいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。
- ・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。
- ・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を振り返ることができればいいですね。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピー資料を配布します。

【参考書】

- ・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
 - ・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
 - ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
 - ・宮田真治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
 - ・石田勇次編著『図説ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
- その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献度・小レポート（リアクションペーパー）の内容（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必ず筆記用具を用意してください。携帯電話等のデジタルガジェットをメモがわりに利用することは認めません。

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識は必須ではありません。
- ・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

(Berlin Story) This course introduces literature from the era of German modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

ARSk300LA

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【到達目標】

- 異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、日本語のテキストを購読、全員での討議によって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	予備考察（1）	「人間とは食べるところのものである」とは？ 食文化と人間 団体主義社会と個人主義社会
②	予備考察（2）	「ステレオタイプ」、「偏見」とは？ 良い比較の例、悪い比較の例
③	日本の「食の思想」の特色	和食と「イデオロギー」
④	西洋の「食の思想」の特色	キリスト教の食の思想、 近代ヨーロッパの食の思想
⑤	食物タブーと文化	日本のタブーと西洋のタブー
⑥	食と性差	性差と食の嗜好
⑦	国際化の中の食文化（1）	現代日本の食の状況
⑧	国際化の中の食文化（2）	現代ヨーロッパの食の状況
⑨	食とコミュニケーション	食と人間関係
⑩	文学と映画における食文化（1）	<i>Foodfilm</i> とは何か
⑪	文学と映画における食文化（2）	伊丹十三『タンポポ』などについて
⑫	文学と映画における食文化（3）	小説『バベットの晩餐会』について
⑬	文学と映画における食文化（4）	映画『バベットの晩餐会』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川上睦子：『いま、なぜ食の思想か』社会評論社 2015 年。

I. デイナーゼン：『バベットの晩餐会』ちくま文庫 1992 年。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

ARSk300LA

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、日本語のテキストを購読、全員での討議、5回の課題とフィードバックによって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について 動物の犠牲について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑩	北欧神話と動物（1）	カラス、オオカミについて
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。
普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

絵画、音楽、建築の3分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第2回	絵画編1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第3回	絵画編2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第4回	絵画編3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第5回	絵画編4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第6回	音楽編1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。取り上げる芸術家：バッハ
第7回	音楽編2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。取り上げる芸術家：モーツァルト
第8回	音楽編3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第9回	音楽編4 ドイツ・ロマン派の栄光	19世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第10回 音楽編5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ 19世紀末から20世紀初めの新しい音楽の世界。取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク

第11回 建築編1 教会建築にみる様式の発展 ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで

第12回 建築編2 プランデンブルク門と新古典主義 ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。

第13回 建築編3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義 「メルヘン王」ルートヴィヒ2世の道楽が観光資源になるまで。

第14回 建築編4 ユーゲントシュティルから表現主義建築へ 19世紀末から20世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業への参加（10%）、リアクションペーパー（30%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline and objectives】

introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない？ —とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45年）を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀から20世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第2回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第3回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第4回	第一次大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第5回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。
第6回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。

第7回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実態を明らかにする。
第8回	ナチズムのもとの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第9回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第10回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第11回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第12回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第13回	「ベルリンの壁」の建設（1961年）	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第14回	「ベルリンの壁」の崩壊（1989-90年）	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10%）、リアクションペーパー（30%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline and objectives】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

LANd300LA

留学ドイツ語A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備コースです。夏期ヴァーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）、あるいはドイツへのワーキングホリデーなど、これからドイツ語圏での留学や滞在を検討・予定している方のため、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得と、コミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/2 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ドイツ（語圏）へ行ってみたい」あなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、それは鬼に金棒といったところではないでしょうか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(4月20日修正)

授業開始日：5月8日

*一般的な世相に鑑み、新たにドイツ（語圏）の新型コロナウイルス感染症対策とその報道についてとりあげます。資料としてドイツ政府広報資料、ローベルト・コッホ・インスティテュート（ドイツの国立感染症研究所）発表資料、各種報道メディアなどを使用する予定です。

*基本的に、毎回、同期型オンライン授業（双方向型ビデオオンラインミーティング/Zoom）形式で行います。接続時間は1時間～100分程度ですが入退場はそれぞれの状況次第で、その時々で接続が難しかったりできなかった場合には別途課題を用意します。

*授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。希望者は担当者宛てメールで連絡をください。

*What's app. を使用するかどうかは未定です。

*以後、授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。

*5月以降、Google Classroom をツールとして使用する可能性が高いです。

毎授業、導入部分では、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介・ WhatsApp. でチャットの練習を してみよう
2	乗り物に乗って：その 1	(話法の助動詞を使った表現・前置詞) まずは大学/学校へ行かないと!
3	乗り物に乗って：その 2	(möchte を活用する表現・前置詞) DB (Deutsche Bahn) アプリで切符を買ってみよう
4	時々観光もしたくない ：その1	(公共空間で使える・必要な表現) 自分の住む街を、訪ねてきてくれた親や友だちに案内してあげたい!
5	時々観光もしたくない ：その2	(イベントの予約やコンサートチケットの手配) ベルリンを朝も昼も夜も堪能するよ!
6	来たら食べて寝なく ちゃね：その1	(食べ物を注文する時の表現) 食べ物の語彙・レストランやカフェでの注文と支払いの表現
7	来たら食べて寝なく ちゃね：その2	(予約やキャンセル、ホテルの中での表現) 宿泊先を予約してみよう、ホテルで使う表現
8	道に迷うかもしれない よね：その1	(道先案内の表現) 道に迷ったら?! 市内交通をフル活用するために
9	道に迷うかもしれない よね：その2	(今の状況と要望を伝える) タクシーに乗るには? 電車を乗り間違えちゃったら? 急遽お金/両替が必要になったら?
10	とりあえずお天気次第? ：その1	(天候の表現・屋内の活動に関する表現) 天気を説明する・屋内でできること?
11	とりあえずお天気次第? ：その2	(従属接続詞と副文) 「天気が悪いから」を言い訳にするために…?!
12	なんか調子悪いかも… でも大丈夫! : その 1	(身体の一部・体調の表現・再帰表現) 「具合が悪い」のいろいろ・街の薬局で買えるものは何?
13	なんか調子悪いかも… でも大丈夫! : その 2	(身体の一部・体調の表現・再帰表現)・病院にかかる・既往症を説明する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

・授業ごと予習・復習の課題を出します。

・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニューズフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 (Szenen 2 integriert)』(三修社、2007年)

【参考書】

・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社、2003年)

・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』(白水社、2014年)

・新野守弘・飯田道子・梅田紅子(編著)『知ってほしい国ドイツ』(高文研、2017年)

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015年)

その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

(4月20日修正)

授業（双方向型ビデオオンラインミーティング）の積極的な参加（60~70%）、授業ごとの課題（30~40%）を合わせ、総合的に判断します。

授業への積極的な参加（35%）、宿題等の課題（30%）、学期末試験（35%）を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
- ・スマートフォンないしタブレット・PC類を準備し、法政大学内のWifiを使える状態にしてください。
- ・ご自分のお手元で使えるデジタル端末で、各種端末用"Whats'App."をダウンロードしてもらいます。

【その他の重要事項】

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
- ・この授業では、SNSアプリを操作するだけでなく、授業担当者とも（も）アプリで相互に連絡が取れる状態になります。この点に対し拒否感を感じる方、あるいは「SNSでつながるのは嫌だけど授業は履修したい」という方は事前にぜひ担当者に相談してください。
- ・この授業はこれからドイツ語圏へ留学・滞在を目指す方を対象にしています。ごく最近にドイツ語圏の留学や滞在を経験されている方には、市ヶ谷リベラルアーツ（ILAC）開講の「ドイツ語コミュニケーションA/B」「ドイツ語コミュニケーション中級A/B」や「時事ドイツ語」その他のILAC総合科目、あるいは国際文化学部開講の「ドイツ語アプリケーションI/II/III」等の履修を推奨します。
- ・受講者には、毎週Gラウンジで実施している「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に対し）。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center), exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300LA

留学ドイツ語B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」という方、短期語学研修やドイツ語圏のワーキングホリデーなどをを目指す方の準備と、「行ってきた」ばかりの方のための復習を兼ねた授業です。ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得と、コミュニケーションの心がまえを学びます。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週2回/3セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ドイツ（語圏）へ行ってみたいあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身につけているなら、それは鬼に金棒といったところではないでしょうか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎授業、導入部分では、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種Webサイトの入力やSNSでの発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。SNSアプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介・Whats'App. でチャットの練習をしてみよう
2	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？ : その1	（身体表現）朝と夜寝る前にすること
3	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？ : その2	（身体表現・再帰表現）朝と夜寝る前にすること・「清潔」の概念
4	誕生日が大事！ : その1	（過去の表現・趣味の表現）「家が社交の場」ということの意味
5	誕生日が大事！ : その2	（過去の表現・趣味の表現）あなたが好きなもの、興味のあることは？ 私ならではの贈り物ってなんだろう？

6	見た目で大事?! : その1	(形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法) 今日は何を着ていこうか?
7	見た目で大事?! : その2	(形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法) ショッピングあるある
8	「噂話」「世間話」?! : その1	(振る舞いの表現、形容詞の語彙) 「～さんってどんな人? 誰だっけ?」と聞かれた時にどう説明する?
9	「噂話」「世間話」?! : その2	(振る舞いの表現、形容詞の語彙、過去の表現) あの時…さんと～へ行ったよ/～したよ」と言うために
10	「環境に配慮」は当たり前?! : その1	(命令法、前置詞) 「ゴミの分別」と「ゴミの出し方」
11	「環境に配慮」は当たり前?! : その2	(命令法、前置詞、um ~ zu... の練習) 日常生活の中の家事と掃除
12	「ペットは家族」のリアル: その1	(禁止の表現・ペットに関する語彙) 犬や猫と一緒にできることって何?
13	「ペットは家族」のリアル: その2	(禁止の表現・マナーに関する語彙) 公共施設でのマナーについて説明する
14	まとめ	学期末最終評価試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業ごと予習・復習の課題を出します。
- ・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト (教科書)】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 (Szenen 2 integriert)』(三修社、2007 年)

【参考書】

- ・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社、2003 年)
 - ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』(白水社、2014 年)
 - ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子(編著)『知ってほしい国ドイツ』(高文研、2017 年)
 - ・宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015 年)
- その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 35 %、宿題等の課題 30 %、学期末試験 35 % を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ (有料のもの) でも構いません。
- ・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備し、法政大学内の Wifi を使える状態にしてください。
- ・ご自分のお手元で使えるデジタル端末で、各種端末用"Whats'App." をダウンロードしてもらいます。

【その他の重要事項】

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
- ・この授業では、SNS アプリを操作するだけでなく、授業担当者とも (も) アプリで相互に連絡が取れる状態になります。この点に対し拒否感を感じる方、あるいは「SNS でつながるのは嫌だけど授業は履修したい」という方は事前にぜひ担当者に相談してください。
- ・この授業はこれからドイツ語圏へ留学・滞在を目指す方と、経験者のどちらも履修対象にしていますが、どちらかというところから「これから留学・滞在を予定している」「ヴィーン大学 (例えば) で語学研修を終えてきたばかり」というレベルの方に射程を合わせています。でも派遣留学や SA などの長期留学経験者や長期滞在経験者、あるいはドイツ語圏からの留学生の方にはぜひ、チューターとして履修・参加していただきたいです。

・受講者には、毎週 G ラウンジで実施している「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します (全て「授業への積極的な参加」に対し)。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center) and its previous participants, who try to participate in exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更について

は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、こ

の日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う (講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える(講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う(講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレー	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを 行う(講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシング グルスを 行う(講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブル スを 行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と 実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルール にてバレーボールを行う(講義と 実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボ ール を行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニング を行う(講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析につ いての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週1回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う（講義と実習）。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う（講義と実習）。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う（講義と実習）。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う（講義と実習）。
10	フットサル	フットサルを行う（講義と実習）。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う（講義と実習）。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の開始を 4 月 23 日とします。春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミントンの概要（講義&実技）
3	基本練習（フットワーク・ラケットワーク・ラケットワーク・ショット）	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）打って慣れる
4	基本練習（動きながらショット練習）	シャトルを使つてのストローク（講義・実技） （ドロップ・ネット・ドロップ交互等）
5	基本練習（相手を動かす）	シャトルを使つて（講義・実技） （ドロップ・ネット・クリア等）
6	実戦練習	半面シングルスリーグ戦
7	反省練習	ゲームを反省して、苦手なショット・練習したいショットの練習
8	実戦練習シングルゲーム	前面のシングルゲーム

9	反省練習大きく動かすには	相手を大きく動かすための練習には
10	ダブルスのための練習	サービス・サーブレシーブ・スマッシュのコース・レシーブの練習
11	実戦練習（ダブルスゲーム）①	ダブルスゲーム（トランプにより 1 試合ずつペアを変える
12	実戦練習ダブルスゲーム②	みんなでペアを決めて、リーグ戦を行う
13	ゲームフリー	シングルとダブルスを自由に選び、相手も自由にきめて行う
14	実技試験	基本ストローク実技試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習とする。（各 2 時間）

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60 点）と技術習得点（20 点）とジャッジメント習得点（20 点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本ストロークと基本練習（サーブ・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）
3	バドミントン基本練習とシングルスゲーム	全面シングルス（トランプによりはんを決めて、班長を中心に運営を考えて行う）
4	バドミントン基本練習とダブルスゲーム	ダブルスゲーム（ペア等はトランプで決め、1試合ごとにペアを変更して行う）
5	バスケットボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（ドリブル・シュート・パス等）
6	バスケットボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
7	バレーボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス対人・円陣、サーブ、アタック等）

8	バレーボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
9	ユニホック基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（いろいろなパス・対人・シュート等）
10	ユニホックゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
11	フットサル基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス・ドリブルシュート・ランニングパス等）
12	フットサルゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
13	卓球基本練習とゲーム	歴史とルールのレポート提出。基本練習（サーブとレシーブ・ラリー）シングルスゲームリーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に各種目の「歴史とルール」をレポート提出（A4手書き）を書かせて提出。これを予習・復習各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

磯辺 薫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。

講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月29日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等。
2	食事と健康について	生活習慣病とは BMI 値 五大栄養素について
3	飲酒、喫煙、薬物と健康	それぞれによる身体への影響
4	筋の構造と特性について	筋の収縮メカニズム 筋の分類
5	トレーニングの原理について	過負荷の原理 超回復とは
6	骨と関節、筋肉の名称	標本を使い骨、関節、筋肉の名称を知る
7	ストレッチ動画配信	個々人が自宅で実践しそれぞれの部位を意識しているかレポートにまとめる
8	トレーニング動画配信	個々人が自宅で実践し回数、意識する部位等レポートにまとめる
9	近代オリンピックについて	オリムピズムとは

10	パラリンピックの歴史	障害者スポーツの一例を紹介
11	近代オリンピックをめぐる諸問題について	ボイコット、商業主義、環境問題、ドーピング、ジェンダー等
12	スポーツイベントの経済効果について	オリンピック、ワールドカップ等開催することの意義
13	なし	なし
14	なし	なし

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に活動、意見交換出来るように促す。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は35名程度とする。

第一回目の授業に必ず出席のこと。

春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.

We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

磯辺 薫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。

講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス+実技（フットサル）	授業内容の説明、受講者の決定等 フットサルの競技特性・ルールの理解、ゲーム
2	フットサル応用	フットサルの基本的技術の習得、ゲーム
3	スポーツ心理学	メンタルトレーニングについて
4	スポーツ経営学	スポーツイベント、クラブの運営について
5	アルティメットの基礎とルール	アルティメットの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	アルティメット応用	アルティメットの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球の基礎とルール	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球応用	卓球の基本的技術の取得、ゲーム
9	バレーボールの基礎とルール	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボール応用	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	運動生理学	体の仕組みを学ぶ

12	ドッジボール	ドッジボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 60%：各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 40%

授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に活動したり、意見交換出来るよう促す。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は35名程度とする。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.

We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの方が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べるができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月27日（月）2時限目とし、この日までに具体的にはオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。

6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。 基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】

1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。

ヨガは、筋肉の解剖を意識して、ヨガのポーズを実践する。また呼吸を意識しながら瞑想状態に近づく様、心身のリラクゼーションを図る。

教室で行う講義は、DVDやプロジェクターを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。

5	スポーツ・ウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
7	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
8	スポーツ・ウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツ・ウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
10	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
11	スポーツ・ウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【その他の重要事項】

1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる6種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどをDVDを観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の開始を4月23日からとします。春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる6種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどをDVDを観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミントンの概要（講義&実技）
3	基本練習（フットワーク・ラケットワーク・ラケットワーク・ショット）	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）打って慣れる
4	基本練習（動きながらショット練習）	シャトルを使ってのストローク（講義・実技） （ドロップ・ネット・ドロップ交互等）
5	基本練習（相手を動かす）	シャトルを使って（講義・実技） （ドロップ・ネット・クリア等）
6	実戦練習	半面シングルスリーグ戦
7	反省練習	ゲームを反省して、苦手なショット・練習したいショットの練習
8	実戦練習シングルスゲーム	前面のシングルスゲーム

9	反省練習大きく動かすには	相手を大きく動かすための練習には
10	ダブルスのための練習	サービス・サーブレシーブ・スマッシュのコース・レシーブの練習
11	実戦練習（ダブルスゲーム）①	ダブルスゲーム（トランプにより1試合ずつペアを変える
12	実戦練習ダブルスゲーム②	みんなでペアを決めて、リーグ戦を行う
13	ゲームフリー	シングルスとダブルスを自由に選び、相手も自由にきめて行う
14	実技試験	基本ストローク実技試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習する。（各2時間とする）

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本ストロークと基本練習（サーブ・ドロップ・スマッシュ・レシーブ等）
3	バドミントン基本練習とシングルスゲーム	全面シングルス（トランプによりはんを決めて、班長を中心に運営を考えて行う）
4	バドミントン基本練習とダブルスゲーム	ダブルスゲーム（ペア等はトランプで決め、1試合ごとにペアを変更して行う）
5	バスケットボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（ドリブル・シュート・パス等）
6	バスケットボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
7	バレーボール基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス対人・円陣、サーブ、アタック等）

8	バレーボールゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
9	ユニホック基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（いろいろなパス・対人・シュート等）
10	ユニホックゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
11	フットサル基本練習	歴史とルールのレポート提出。基本練習（パス・ドリブルシュート・ランニングパス等）
12	フットサルゲーム	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
13	卓球基本練習とゲーム	歴史とルールのレポート提出。基本練習（サーブとレシーブ・ラリー）シングルスゲームリーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に各種目の「歴史とルール」をレポート提出（A4手書き）を書かせて提出。これを予習・復習2時間とする。。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は 4 月 23 日から学習支援システム内で開始します。

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目指す。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・バスの技術習得（実習&講義）	バスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。

第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習&講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術（チーム分け）・ゲーム（実習&講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第 14 回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

授業への参画状況（60%）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（B）は2年生以上を対象としており、Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	バレーボールのトレーニングについて（実習&講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第2回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第3回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第4回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第5回	集団的技術・基礎（実習&講義）	Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第6回	集団的技術・応用（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。Aよりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。

第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（セットアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（セットアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	実技試験（実習&講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラスポーツ（障害者スポーツ）について、理論と実践を通して、その社会的意義並びに役割を学ぶ

【到達目標】

- ①障害、またスポーツとは何かについての理解を深める
- ②パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、実践的な動きを身につける
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	視覚障害のある人とスポーツ（講義）	視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
3	ゴールボール・ブラインドサッカー（講義および実習）	ゴールボール・ブラインドサッカー等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
4	肢体不自由のある人とスポーツ（講義）	肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
5	シッティングバレーボール（講義および実習）	シッティングバレーボール等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
6	障害とは何か（講義）	ここまでの授業を踏まえ、障害とは何かについて考える。
7	障害者スポーツとアダプテーション・アクセシビリティ評価（講義）	1. 障害者スポーツにおけるアダプテーションという考え方について考える。 2. アクセシビリティについて学び、評価する。
8	サウンドテーブルテニス（講義および実習）	サウンドテーブルテニス等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。

9	ボッチャ（講義および実習）	ボッチャ等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
10	聴覚障害のある人とスポーツ（講義および実習）	聴覚障害ならびに聴覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学び、その概要を理解する。
11	障害者スポーツの歴史／その他の障害種とスポーツ（講義）	1. 障害者スポーツの歴史について学ぶ 2. その他の障害種を有する人とスポーツのあり方について学ぶ
12	障害者スポーツの現状と課題（講義）	ここまでの授業を通して学んできた障害者スポーツについて振り返り、現在の障害者スポーツの現状とその課題について考える。
13	アダプテッド・スポーツを作る（講義および実習）	ここまでの授業を通して学んだ知識と経験を踏まえ、新たなスポーツを考える。
14	総括（講義）	授業全体を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and its significance in society as well as learning its theoretical frameworks and practical activities.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

秋本 成晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラスポーツ（障害者スポーツ）について、理論と実践を通して、その社会的意義並びに役割を学ぶ

【到達目標】

- ①障害、またスポーツとは何かについての理解を深める
- ②パラスポーツ（障害者スポーツ）について理解を深め、実践的な動きを身につける
- ③パラスポーツ（障害者スポーツ）実践を通して、他者とのより良いコミュニケーション能力の育成を図る
- ④パラスポーツ（障害者スポーツ）やアダプテーションの必要性と役割について学び、これからの社会づくりに生かせる考え方を培う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全体として講義と実技の両方で構成されており、各種理論について講義を通して学び、実技授業を通してパラスポーツ（障害者スポーツ）の理解を深めることを図る。なお、授業内容については、受講生の数や受講者の様子などを考慮し変更を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	視覚障害のある人とスポーツ（講義）	視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
3	ゴールボール・ブラインドサッカー（講義および実習）	ゴールボール・ブラインドサッカー等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
4	肢体不自由のある人とスポーツ（講義）	肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて、その概要を理解する。
5	シッティングバレーボール（講義および実習）	シッティングバレーボール等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
6	障害とは何か（講義）	ここまでの授業を踏まえ、障害とは何かについて考える。
7	障害者スポーツとアダプテーション・アクセシビリティ評価（講義）	1. 障害者スポーツにおけるアダプテーションという考え方について考える。 2. アクセシビリティについて学び、評価する。
8	サウンドテーブルテニス（講義および実習）	サウンドテーブルテニス等を実際に行い、視覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。

9	ボッチャ（講義および実習）	ボッチャ等を実際に行い、肢体不自由のある人を中心に行われているスポーツについて学ぶ。
10	聴覚障害のある人とスポーツ（講義および実習）	聴覚障害ならびに聴覚障害のある人を中心に行われているスポーツについて学び、その概要を理解する。
11	障害者スポーツの歴史／その他の障害種とスポーツ（講義）	1. 障害者スポーツの歴史について学ぶ 2. その他の障害種を有する人とスポーツのあり方について学ぶ
12	障害者スポーツの現状と課題（講義）	ここまでの授業を通して学んできた障害者スポーツについて振り返り、現在の障害者スポーツの現状とその課題について考える。
13	アダプテッド・スポーツを作る（講義および実習）	ここまでの授業を通して学んだ知識と経験を踏まえ、新たなスポーツを考える。
14	総括（講義）	授業全体を振り返り、互いに意見交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
- 2) 課題レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。
- ・教場並びに受講者数等の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
- ・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

Learning about Para-sports (disability sports) and its significance in society as well as learning its theoretical frameworks and practical activities.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はコロナウイルスの影響によりオンライン授業となります。授業の開始日は4月28日です。

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの重要性について講義及び実習
3	リーダーシップとバレーボール	リーダーの資質について講義及びバレーボールゲームの実習
4	リーダーシップとバスケットボール	リーダーの役割について講義及びバスケットボールゲームの実習
5	チームワークとソフトバレーボール	チームワークについて講義及びソフトバレーボールゲームの実習
6	コミュニケーションと身体活動	コミュニケーションについて講義及び実習
7	筋力トレーニング	トレーニングについて講義及び実習
8	トレーニングと健康	トレーニングと健康について講義
9	有酸素運動と身体活動	有酸素運動について講義及び有酸素運動の実習
10	フィットネス	フィットネスについて講義及び実習
11	コミュニケーションとボールゲーム	コミュニケーションについて講義及び実習
12	レクリエーションと身体活動	レクリエーションと身体活動について講義及び実習

13 生涯スポーツとボールゲーム 生涯スポーツについて講義及び実習

14 授業の総括 レポート課題
授業の総括及びレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況60%
 - ②課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの講義及び実践
3	体力測定	体力測定の意義及び実践
4	バドミントン	スポーツと健康について講義 バドミンントンの基礎技術の習得及びゲーム
5	バレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基礎技術の習得及びゲーム
6	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
7	トレーニング演習	トレーニング理論の講義及び実践
8	運動と健康	運動の効果について講義
9	卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
10	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
11	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて講義及び実践
12	バスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基礎技術習得及びゲーム
13	フットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基礎技術習得及びゲーム レポート課題

14 総括

授業の総括

健康についてのディスカッション
レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について理解を深める。
豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はコロナウイルスの影響によりオンライン授業となります。授業の開始日は4月24日です。
この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、希望者多数の場合、1回目の授業ガイダンスにおいて履修者を決定する。
授業はトレーニング実習が主となる他、幾つかのスポーツも実践する。PDCA理論の通り、各自のトレーニング計画を立て、それに沿った内容で実習を行う。毎回トレーニング内容とリアクションペーパーを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についてガイダンスを行う 履修者を決定する
2	ウォーミングアップの意義	ウォーミングアップの意義についての講義及び実践
3	トレーニングの基礎	トレーニングの基礎理論について講義
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	PDCA理論と筋肥大トレーニング	PDCA理論の講義及び筋肥大トレーニングの実習
8	計画立案とパワーアップトレーニング	計画立案について講義及びパワーアップトレーニングの実習
9	筋持久力トレーニング	筋持久力についての講義及び実習
10	最大筋力のトレーニング	最大筋力についての講義及び実習
11	トレーニング演習のチェック	PDCA理論に沿ったトレーニングのチェック 講義及び実習
12	全身持久力のトレーニング	全身持久力についての講義及び実習

13	ディスカッション	トレーニング内容についてディスカッションを実施 レポート課題
14	授業総括	授業を総括する レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で臨むこと。
授業後の課題や次の授業への準備等は、その都度の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価の方法は原則的のものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに即した内容の提供を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日頃より各自の健康状態をチェックし、常に良好な状態での履修が望ましい
教場等、計画通りに進行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたりって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合1回目のガイダンス時に履修者決定を行う

各自の計画に基づくトレーニング及び数種目のスポーツ実践を行う。PDCA理論に沿ったトレーニングの立案、実施、評価、見直しを行う。毎時間トレーニング内容及び反省を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容のガイダンス 受講者の決定
2	PDCA理論	PDCA理論について講義する
3	トレーニング理論	トレーニング理論について講義する
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義。卓球の基礎技術習得及びゲーム 講義及び実習
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	筋肥大のトレーニング	筋肥大のトレーニングについて講義及び実習
8	計画立案とパワーアップトレーニング	計画立案について講義及びパワーアップトレーニングの実習
9	筋持久力のトレーニング	筋持久力についての講義及び実習
10	最大筋力のトレーニング	最大筋力のトレーニングについて講義及び実習
11	トレーニング内容のチェック	トレーニング内容をチェックし、必要に応じて見直しをする。 講義
12	全身持久力のトレーニング	全身持久力のトレーニングについて講義及び実習

13	ディスカッション	トレーニング内夜についてディスカッションを行う 講義及び実習 レポート課題
14	授業の総括	授業の総括を行う レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各2時間を標準とします
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

各自の健康管理を十分行い、常に良好な状態で参加することが望ましい。
教場等、計画通りに施行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンデイショニングの一環であるストレンクス（筋力）トレーニングについて、**各自の目的に応じたトレーニング方法**に着目した**研究を計画し、その効果を検証**していくゼミナールです。

履修者自ら作成した**トレーニング・プログラムを実践**していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとりなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施
2	課題検討期 I ・測定	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②筋力を把握するための測定と分析・評価を行う

3	課題検討期 II ・測定結果の評価	<教室> ①グループワークを行う ②前回の測定結果を分析する ③テーマのヒントを探る
4	課題検討期 III ・トレーニング方法	<教室> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期 I ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期 II ・トレーニングプログラム作成	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期 I ・トレーニング種目の仮決定	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期 II ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期 III ・トレーニング強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期 IV ・トレーニング方法の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期 IV ・トレーニング方法の決定	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する

- 14 反省改善期・発表・総括 <教室>
 ①春学期に取り組んだ学修過程を
 発表する
 ②秋学期の課題を検討する
 ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の10人を超えた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行うことを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が10名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者が履修**できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、**各自のトレーニング方法に着目したトレーニング・プログラムを積極的に実践して検証**することを主とします。授業は履修者が主体となり能動的に進め、その検証結果を総括しゼミ内で共有します。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（**履修者は授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏休前前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 I・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ②Inbodyによる身体組成の分析（春学期との比較） ③教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践 ④リアクションペーパー作成

2	課題・計画の検討期Ⅱ・教養ゼミⅠで検証した項目の測定	<トレセン> ①教養ゼミⅠで検証した項目の測定 ②測定結果について、夏季休暇の前後で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期Ⅲ・測定結果の評価	<教室> ①グループワーク ②授業の1回目および2回目の測定結果を分析し、共有する ③教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ④リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期Ⅰ・測定結果の共有	<教室> ①グループワーク ②前回授業の分析内容を発表する ③リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期Ⅱ・トレーニング方法の再検討	<教室> ①グループワーク ②取り組む課題解決により有効なトレーニングプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・新トレーニングプログラムの試作	<トレセン> ①トレーニングプログラムを試作するために、トレーニング種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・新トレーニングプログラム強度の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・新トレーニングプログラムの仮決定	<トレセン> ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・新トレーニングプログラムの種目の改修	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・新トレーニングプログラムの強度の改修	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの決定	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの実践と効果検証	<トレセン> ①グループワーク ②作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ③測定結果を分析・評価する ④リアクションペーパー作成
13	発表・共有期Ⅰ・新トレーニングプログラムの効果検証と分析	<トレセン> ①グループワーク ②測定結果を考察し、ゼミ内で共有するためのレポートを作成する ③リアクションペーパー作成
14	発表・共有期Ⅱ、総括	<教室> ①グループワーク ②トレーニング効果の検証結果を発表する ③リアクションペーパー作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート： **30%**
2. 授業におけるリアクションペーパー： **30%**
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して日配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、**2017年度**および**2018年度**の履修者は**25名以上**となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、**2019年度**の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の**15人**を超えてた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行う場合があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.
Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：シェイプアップ・ベーシックコース

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。

履修者自らが積極的にシェイプアップする授業です。無理せず自分のペースでシェイプアップを行い、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能をリフレッシュします。シェイプアップは健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）を組み合わせたプログラムを指導します。主に市ヶ谷総合体育館 B1F のトレーニングセンターを使用するアクティブラーニング型の授業です。

本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<p><教室></p> <p>①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明）</p> <p>②授業の進め方およびルールと評価方法</p> <p>③授業計画</p> <p>④受講者の決定</p> <p>⑤使用する施設・器材についての解説</p> <p>⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施</p>
2	身体組成と柔軟性の測定	<p><トレセンおよび教室></p> <p>① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、評価を行う</p> <p>②柔軟性の測定と評価</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>

- 3 ストレングスマシンの操作方法 <トレセン>
①ストレングスマシンの使用方法と諸注意
②マシン操作の練習
③リアクションペーパー作成
- 4 ランニングマシンおよびバイクの操作方法 <トレセン>
①ランニングマシンの使用方法と諸注意
②バイクの使用法と諸注意
③各マシン操作の練習
④リアクションペーパー作成
- 5 マシン各種操作方法 <トレセンまたは4 F 卓球場>
①グループワーク
②各種マシンの使用方法と諸注意
③リアクションペーパー作成
- 6 ストレングスマシンによるサーキットトレーニングの紹介 <トレセン>
①サーキットトレーニング法の解説
②ストレングスマシンを用いた統一負荷によるサーキットトレーニングを実践する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 7 ストレングスマシンの最大筋力の推定 <トレセン>
①最大筋力の推定法
②ストレングスマシンの最大筋力を推定する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 8 ストレングスマシン・サーキットトレーニングの最高反復回数を測定する <トレセンまたは4 F 卓球場>
①次のいずれかの最大筋力に対する負荷で1分間最高反復回数を測定する
②負荷の選択
1/4、1/3、1/2 のいずれか
③パートナーを決め、最大反復回数測定を行う
④リアクションペーパー作成
- 9 ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/4 回 <トレセン>
①最高反復回数の 1/4 回でサーキットトレーニングを行う
②3周終了時の脈拍数を測定する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 10 ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/3 回 <トレセン>
①最高反復回数の 1/3 回でサーキットトレーニングを行う
②3周終了時の脈拍数を測定する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 11 ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 1/2 回 <トレセンまたは4 F 卓球場>
①最高反復回数の 1/2 回でサーキットトレーニングを行う
②3周終了時の脈拍数を測定する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 12 ストレングスマシン・サーキットトレーニング負荷 2/3 回 <トレセン>
①最高反復回数の 2/3 回でサーキットトレーニングを行う
②3周終了時の脈拍数を測定する
③実施した運動を記録する
④リアクションペーパー作成
- 13 ストレングスマシン・サーキットトレーニングの最高反復回数による効果判定 <トレセン>
①第8回授業で用いた重量で1分間最高反復回数を測定する
②パートナーを決め、最大反復回数測定を行う
③第8回授業時の結果と比較し分析する
④リアクションペーパー作成

- 14 測定・総括・レポート作成 <トレセン>
①グループワーク
② Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う
③柔軟性の測定と評価
④春学期に取り組んだ学修過程の記録をもとに振り返りを行う
⑤レポートの書式などの説明と提出日時の指定
⑥春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】

日ごろの運動不足解消に役立ち、実際に体脂肪の減少や一定のシェイプアップ効果が得られたのど声がりアクションペーパーや授業改善アンケートに見られたことから、授業内容は大変好評であったと理解した。そのため、今年度も同様な授業展開を行うとともに、自宅で行える自重トレーニングなどを積極的に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が 30 名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1 を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. スポーツ科学Aの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期のスポーツ科学Bの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。
5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：シェイプアップ・アドバンスコース

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。基本的にスポーツ科学A（シェイプアップ・ベーシックコース）の単位認定を受けた人が履修できます。

履修者自らが積極的にシェイプアップする授業です。無理せず自分のペースでシェイプアップを行い、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能をリフレッシュします。シェイプアップは健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）を組み合わせたプログラムを指導します。主に市ヶ谷総合体育館 B1F のトレーニングセンターを使用するアクティブラーニング型の授業です。

本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：ストレンクスマシンを用いた筋力測定ができる
- 2：運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングができる
- 3：ストレッチングを効果を説明できる
- 4：ジョギングまたはウォーキングの注意点を述べるができる
- 5：ストレンクストレーニングの負荷を適切に設定できる
- 6：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の1回目はガイダンス（教室）です。

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1）運動開始前の身体組成を測定し、記録する
- 2）シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 3）ウォームアップ時に自宅で実践可能な自重トレーニングを行う
- 4）授業のテーマに取り組む：運動中に脈拍数を計測する場合がある
- 5）ストレッチングを主としたウォームダウンを行う
- 6）運動終了後の身体組成を測定し、記録する
- 7）リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析 ③柔軟性および筋力測定 ④各測定の評価を行い正確に記録する ⑤リアクションペーパー作成

2	測定結果の分析と共有	<p><教室></p> <p>①グループワーク</p> <p>②測定結果を「夏季休暇の前後」で比較する</p> <p>③グループ内で情報共有</p> <p>④新たな運動プログラムを模索する</p> <p>⑤リアクションペーパー作成</p>	13	シェイプアップの効果検証	<p><トレセン></p> <p>①グループワーク</p> <p>② Inbody による身体組成の分析、柔軟性の測定</p> <p>③各測定の評価を行い正確に記録する</p> <p>④運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する</p>
3	有酸素運動とストレッチング	<p><トレセン></p> <p>①ランニングマシンを用いたカルボーネン法の実践</p> <p>②ストレッチングの理論と実践</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	14	シェイプアップの評価・総括・レポート作成	<p><トレセン></p> <p>①グループワーク</p> <p>②測定結果を共有し、考察する</p> <p>③これまでの学修過程の整理</p> <p>④秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートの書式など</p> <p>⑤秋学期を総括する</p>
4	最大筋力測定	<p><トレセン></p> <p>①指定されたトレーニングマシンによる最大筋力を推定法によって算出する</p> <p>②リアクションペーパー作成</p>	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</p> <p>本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。</p> <p>授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。</p> <p>特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。</p>		
5	各自の目的別運動プログラムの試作	<p><教室></p> <p>①グループワーク</p> <p>②運動プログラムを試作する</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	<p>【テキスト（教科書）】</p> <p>必要に応じて資料等を配布します。</p>		
6	試作プログラムの確認	<p><トレセン></p> <p>①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う</p> <p>②実施した運動を記録する</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書 2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社 3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社 4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版 5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書 6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店 7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社 		
7	試作プログラムの種目の改修	<p><トレセン></p> <p>①作成した運動プログラムの種目を修正する</p> <p>②実施した運動を記録する</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>単位認定は到達目標に示した 8 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中のトレーニングへの参画状況： 30 % 2. リアクションペーパー： 30 % 3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート： 40 % 		
8	カルボーネン法による有酸素運動	<p><皇居周辺または 4 F 卓球場></p> <p>①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する</p> <p>②カルボーネン法を用いた適切な運動強度を意識する</p> <p>③雨天時は、屋内施設で自重トレーニングまたはサーキットトレーニングを行う</p> <p>④リアクションペーパー作成</p>	<p>※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。</p>		
9	試作プログラムの強度の改修	<p>①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する</p> <p>②実施した運動を記録する</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	<p>【学生の意見等からの気づき】</p> <p>日ごろの運動不足解消に役立ち、実際に体脂肪の減少や一定のシェイプアップ効果が得られたのど声がリアクションペーパーや授業改善アンケートに見られたことから、授業内容は大変好評であったと理解した。そのため、今年度も同様な授業展開を行うとともに、自宅で行える自重トレーニングなどを積極的に紹介したい。</p>		
10	プログラムの実践	<p><トレセン></p> <p>①運動プログラムの実践</p> <p>②実施した運動を記録する</p> <p>③リアクションペーパー作成</p>	<p>【学生が準備すべき機器他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン 		
11	ボルグの運動強度を用いた有酸素運動	<p><皇居周辺または 4 F 卓球場></p> <p>①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する</p> <p>②ボルグの主観的運動強度を意識して有酸素運動の強度を調整する</p> <p>③雨天時は、屋内施設で自重トレーニングまたはサーキットトレーニングを行う</p> <p>④リアクションペーパー作成</p>	<p>【その他の重要事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ科学 A を履修せずに、スポーツ科学 B のみを履修することは認めません。 <p>基本的にスポーツ科学 A の単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、スポーツ科学 A の単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。 		
12	最大筋力の測定およびシェイプアップ・トレーニングの実践	<p><トレセン></p> <p>①グループワーク</p> <p>②最大筋力の測定</p> <p>③作成したプログラムによりシェイプアップを実践する</p> <p>④測定結果および実施した運動を記録する</p> <p>⑤リアクションペーパー作成</p>	<p>【Outline and objectives】</p> <p>The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.</p>		

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・ベーシックコース

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。

運動不足で衰えた身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレングス）で改善していくためのゼミナールです。健康の保持増進に必要な運動プログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、**履修者が主体**となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレングストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録と Google フォームの実施
2	課題検定期 I ・講義	<教室> ①トレーニングの基礎理論 ②トレーニングの効果 ③さまざまなトレーニング方法 ④リアクションペーパー作成

3	課題検討期Ⅱ・測定と評価	<トレセン> ① Inbody による身体組成分析 ②柔軟性および筋力測定 ③測定結果の評価 ④測定の実践レポートについて ⑤リアクションペーパー作成
4	課題検討期Ⅲ・有酸素運動とストレッチング	<トレセン> ①ランニングマシンを用いたカルボネン法の実践 ②ストレッチングの理論と実践 ③リアクションペーパー作成
5	課題検討期Ⅳ・摂取エネルギー量調査	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②リアクションペーパー作成
6	課題検討期Ⅴ・トレーニングマシンの基本操作	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法確認 ②リアクションペーパー作成
7	計画立案期Ⅰ・最大筋力測定	<トレセン> ①指定されたトレーニングマシンによる最大筋力を推定法によって算出する ②リアクションペーパー作成
8	計画立案期Ⅱ・運動プログラム試作	<教室> ①グループワーク ②運動プログラムを試作する ③リアクションペーパー作成
9	計画実行期Ⅰ・試作プログラムの確認	<トレセン> ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
10	計画実行期Ⅱ・試作プログラムの種目の改修	<トレセン> ①作成した運動プログラムの運動種目を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
11	計画実行期Ⅲ・試作プログラムの強度の改修	<トレセンまたは教室> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
12	計画実行期Ⅳ・プログラムの実践	<トレセン> ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する ③リアクションペーパー作成
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①実践してきた運動の効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・総括	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに、可能な限り、シラバスに記載されている授業内容についての情報収集を行い（インターネットや図書館などで）、授業に参加してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

授業後は積極的にクラスメートと情報交換を行い、その結果を踏まえ Google フォームでの振り返りを作成し、次回の授業に活かしてください。また、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を復習してください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始後、授業運営が落ち着いた時点で学習支援システムを利用して周知します。

【学生の意見等からの気づき】

履修者自身が自らトレーニング内容を決め、自由に実践して、効果を検証できることについて、大変好評であったため、今年度も同様な授業展開を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートホン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が 20 名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1 を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員は J O C 医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to act positively in class.

HSS300LA	2017年度以降入学者
教養ゼミⅡ	
サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・アドバンスコース	
伊藤 マモル	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 2/Thu.2	
単位数：2 単位	
2～4 年 ※定員制	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・脱運動不足と健康づくり（ベーシックコース）：木曜日 2 限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも体験や実習に多くの時間を割くことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養い、その成果をレポートとしてまとめます。

【到達目標】

- 1：目的に応じた運動方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践した運動の効果を検証できる
- 5：検証した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B 1 F トレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画した運動を実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 総括・共有の期間

運動の効果を総括した結果をレポートにまとめ、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期 I・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と目標の説明） ② Inbody による身体組成の分析 ③柔軟性および筋力測定 ④各測定の評価を行い正確に記録する ⑤リアクションペーパー作成

2	課題・計画の検討期 II・測定結果の共有	<教室> ①グループワーク ②測定結果を「夏季休暇の前後」で比較する ③グループ内で情報共有 ④新たな運動プログラムを模索する ⑤リアクションペーパー作成
3	課題・計画の検討期 III・教養ゼミⅠで作成したプログラムの実践	<トレセン> ①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②教養ゼミⅠで作成したプログラムを再考する ③リアクションペーパー作成
4	課題・計画の決定期 I・トレーニングプログラムの再検討	<トレセン> ①前回に引き続き運動プログラムを検証する ②プログラムに必要な主性を加える ③実施した内容を正確に記録する ④リアクションペーパー作成
5	課題・計画の決定期 II・トレーニングプログラムの確定	<トレセン及び教室> ①取り組む課題を決定する ②トレーニングプログラムを実践する ③リアクションペーパー作成
6	実行期Ⅰ・トレーニングプログラムの見直し	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを確認し見直す ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ・トレーニングプログラムの強度とセット数の調整	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
8	実行期Ⅲ・トレーニングプログラム条件の決定	<トレセン及び教室> ①運動プログラムを実行し、強度とセット数を決定する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ・トレーニングプログラムの実践	<トレセン> ①運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ・トレーニングプログラムの種目の入れ替え	<トレセン> ①運動プログラムの種目を見直し入れ替える ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ・新トレーニングプログラムの仮決定	<トレセン及び教室> ①種目を入れ替えた運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ・新トレーニングプログラムの効果検証	<トレセン> ①グループワーク ②柔軟性および筋力測定 ③各測定の評価を行い正確に記録する ④運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

- 13 総括・共有期Ⅰ・測定 <トレセン>
と分析 ①グループワーク
②実践してきた運動の効果を検証
するために Inbody の分析を行う
③測定結果を共有し、考察する
④これまでの学修過程の整理
⑤リアクションペーパー作成
- 14 総括・共有期Ⅱ・レ <トレセン>
ポート作成 ①教養ゼミⅡにおいて取り組んだ
学修過程と成果をまとめたレポー
トを提出する
②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに、可能な限り、シラバスに記載されている授業内容についての情報収集を行い（インターネットや図書館などで）、授業に参加してください。特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自身自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

授業後は積極的にクラスメートと情報交換を行い、その結果を踏まえ Google フォームでの振り返りを作成し、次回の授業に活かしてください。また、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を復習してください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるリアクションペーパー：30%
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

履修者自身が自らトレーニング内容を決め、自由に実践して、効果を検証できることについて、大変好評であったため、今年度も同様な授業展開を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。

基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to act positively in class.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更について

は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、こ

の日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う（講義と実習）。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う（講義と実習）。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う（講義と実習）。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う（講義と実習）。
10	フットサル	フットサルを行う（講義と実習）。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う(講義と実習)。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル:

西村 一帆

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月3/Mon.3

単位数: 2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週1回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム	さまざまなボールゲームを行う(講義と実習)。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える(講義)。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う(講義と実習)。
5	インディアカ、ソフトバレーボール	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	卓球シングルス	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う(講義と実習)。
8	卓球ダブルス	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。

11	バレーボール変則ルール	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う（講義と実習）。
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。
授業の取組み平常点 40 点
授業内課題 40 点
レポート課題 20 点
以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるため、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（1）

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「身体活動による生理学的効果」、「身体活動の心理学的効果」、「健康関連情報の取捨選択」、「身体活動と健康」の 4 つをテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。
なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示しますので注意してください。本授業の開始日は 4 月 21 日を予定していますので、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動に対する先行研究のまとめと活動内容の発表	自身が探りたい身体活動による効果（筋量の増大、筋パワーの向上、減量等）について報告する（プレゼンテーション）
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪や骨格筋の変化について学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成（体脂肪量・骨格筋量）の測定方法とその原理を学ぶ（演習）
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 6 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ（演習）
第 7 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 8 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実践および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第 9 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 10 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第 11 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

第12回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	学んだ知識や情報に基づき、グループで骨格筋量増大に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）
第13回	身体活動に関する心理要因1	健康行動を発生・継続させるための心理要因を各自で調べ、グループで討論する。
第14回	身体活動に関する心理要因2	健康行動を発生・継続させるための心理要因について学び、自らの生活に照らして達成を目指した計画を提案する（プレゼンテーション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%、2) 各回のプレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

なお、当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the physiological and psychological benefits accompany physical activity, sift through the evidence the health-related information, and the understanding of the relationship between physical activity and health.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：身体活動による心身の変化と健康（2）

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようにすることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康やQoLの本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスを報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、授業後半においては、受講者自身が行う身体活動の実践状況の報告を行い、最終的な結果の報告や実践を通じた感想、考え・意見などのプレゼンテーションを求め評価の一部とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	様々な対象における健康の考え方1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第3回	様々な対象における健康の考え方2	青年期の健康と身体活動について学ぶ
第4回	身体活動のプログラム作成の実際1	目的に応じて身体活動プログラムを作成して討論し、実践する（演習）
第5回	身体活動のプログラム作成の実際2	前回作成した内容の実践結果を踏まえて身体活動プログラムを修正し、実践する（演習）
第6回	健康関連情報の取捨選択1	日本人の健康状態と新たな健康づくりを学ぶ
第7回	健康関連情報の取捨選択2	今日の健康における様々な社会問題の関与を学ぶ
第8回	身体活動と心身の健康	生活習慣病の成因と身体活動との関係を学ぶ

第9回	身体活動と心身の健康2	瘦身志向の要因と過度な瘦身による生理的状态を学ぶ
第10回	身体活動や健康に関する情報のアウトプット	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報や表現・表記方法を学ぶ(演習)
第11回	身体活動の効果を測定・評価するための手法1	身体活動の効果を測定するために必要な生理的・心理的手法を学ぶ(演習)
第12回	身体活動の効果を測定・評価するための手法2	身体活動の効果を評価するために必要な分析方法を学ぶ(演習)
第13回	身体活動実践結果の報告	実践した身体活動の効果について客観的情報を踏まえて報告する(プレゼンテーション)
第14回	各自の身体活動に関する論議と授業のまとめ	各自が実践した内容を論議し、対象者目的に応じた身体活動に必要な知識や情報を学ぶ(演習)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習して個人の考え・意見をまとめた上で次回の授業に出席することを求めます。さらに、第6～12回においては、各自の身体活動の状況や結果の報告を求めますので、これらの回においては関連のデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践(田中喜代次・大蔵倫博編/金芳堂/2006)

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度(授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価)：60%、2) 身体活動実践状況の報告内容：20%、3) 最終プレゼンテーションの内容：20%、の配分で総合評価する。※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、同一副題の教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。

ただし、第1回目の授業において、履修希望者が定員(20名)を下回っている条件下においてのみ、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、授業を通じて運動やトレーニングの実践のみを希望する者の履修は認めません。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

【授業開始日は、4月22日(水)となります。】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験(仏検)4級～5級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験または課題提出

9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子, 西部由里子著, 『Vas-y!: 初級フランス語 会話・文法そして文化』, 駿河台出版社, 2014 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著, 『デイク仏和辞典』, 白水社, 2003 年。

西村牧夫他編訳, 『ロベール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社, 2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級 I と継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞 (つづき) ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・数字 21~69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞

9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・数字 70~100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y! : 初級フランス語 会話・文法そして文化』、駿河台出版社、2014 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『デココ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロバール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話部分）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、いわゆる欧米地域における移民社会への反発と、「多数派」とされる有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、21 世紀の国際社会について考察します。

【到達目標】

必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における citizenship）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 毎週の授業で簡単な話題提供（1人5~10分程度、大学配布のGmail アカウントに付属する Google スライドを使う）
- 教科書や資料の輪読、映像の分析
- 1や2を踏まえた、授業支援システム「掲示板」へのコメント書き込み（教員 → 学生の一方通行ではなく、学生がお互いに刺激を与えあうため）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→ 討論	学生はとくに準備の必要なし → 掲示板への書き込み
3	ポピュリズムとは何か①	学生による話題提供（の開始）→ 教科書 7-23 頁の講読 → 掲示板への書き込み
4	ポピュリズムとは何か②	学生による話題提供 → 教科書 23-35 頁の講読 → 掲示板への書き込み
5	世界中のポピュリズム①	学生による話題提供 → 教科書 37-53 頁の講読 → 掲示板への書き込み
6	世界中のポピュリズム②	学生による話題提供 → 教科書 53-65 頁の講読 → 掲示板への書き込み
7	ポピュリズムと動員①	学生による話題提供 → 教科書 67-79 頁の講読 → 掲示板への書き込み
8	ポピュリズムと動員②	学生による話題提供 → 教科書 79-93 頁の講読 → 掲示板への書き込み
9	ポピュリズムの指導者①	学生による話題提供 → 教科書 95-107 頁の講読 → 掲示板への書き込み

10	ポピュリズムの指導者 ②	学生による話題提供 → 教科書 107-119 頁の講読 → 掲示板への 書き込み
11	ポピュリズムとデモク ラシー①	学生による話題提供 → 教科書 121-132 頁の講読 → 掲示板への 書き込み
12	ポピュリズムとデモク ラシー②	学生による話題提供 → 教科書 132-143 頁の講読 → 掲示板への 書き込み
13	原因と対応	学生による話題提供 → 教科書 145-176 頁の講読 → 掲示板への 書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこ なせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。
 (イ) 指定するネット上の場所に、話題提供用のリンクを授業前に貼り付けてください。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

カス・ミュデ&クリストバル・ロピラ・カルトワッセル『ポピュリズム
 デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018 年。
 この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、山手線コンソー
 シアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf.
<http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>
 また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。
 どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本
 図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断
 検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

Dominique Reynié, *Populismes : la pente fatale*, Plon, 2011.
 Raphaël Doan, *Quand Rome inventait le populisme*, Les
 éditions du Cerf, 2019.

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
 (イ) 期末レポート：実施しない (0%)
 (ウ) 授業への参加 - 平常点 (15%)
 (エ) 授業への参加 - 掲示板への書き込み (15%)
 (オ) 学生による話題提供 - スライドなどの準備 (15%)
 (カ) 学生による話題提供 - 授業での発表 (15%)
 (キ) 教科書の予習 (15%)
 (ク) 授業での集中度、討論などへの取り組み姿勢 (15%)
 (ケ) その他 - 運営協力や講師のミスの指摘 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留
 意する。

【学生が準備すべき機器他】

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた、日本政府の緊急
 事態宣言を受け、法政大学ではキャンパスへの入構が禁止になっ
 ています。そのため、この授業では Google Hangouts Meet を利用し
 た遠隔授業を当面のあいだ実施します。詳しいことは Hoppii を参
 照してください。

※ Google Classroom を使用します。クラスコードは njritwu で
 す。法政大学から配られたメールアドレスを使ってログインしてく
 ださい。

- ①連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システムと電子メー
 ル）で行ないます。
- ②パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを歓迎して
 います。
- ③学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できる
 よう、VPN 接続の使い方をマスターしてください。
- ④法政大学が提供している VPN 接続については「全学ネットワー
 クシステムユーザ支援 WEB サイト／VPN サービス」を検索、参
 照してください。

【その他の重要事項】

- ①市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部
 など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、各種
 コンソーシアムの他大学の学生の履修を歓迎します。
- ②学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生
 としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下
 さい。
- ③参考書にはフランス語の文献があげてありますが、履修にあたり
 フランス語の能力は要求していません。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French
 culture, history, and society. Open to students with little or
 no previous instruction in French, this seminar will enable
 students to attain a basic understanding of Mainland France
 and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：移民社会とポピュリズム

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界規模における経済的な相互依存が進むなかで、グローバル化への反発をその構成要素として含むポピュリズムが世界各国の政治をゆるがせています。このゼミでは、西ヨーロッパを中心に、東ヨーロッパや南北アメリカ、オセアニアを含む、いわゆる欧米地域における移民社会への反発と、「多数派」とされる有権者によるポピュリズム支持に焦点をあてながら、21世紀の国際社会について考察します。

【到達目標】

必ずしも現代の西ヨーロッパについて専門的に学んだことのない方をふくめ、これからの時代を生きていく人びとに必要な民主主義にかんする教養（市民性の意味における citizenship）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 毎週の授業で簡単な話題提供（1人5～10分程度、大学配布のGmailアカウントに付属するGoogleスライドを使う）
2. 教科書や資料の輪読、映像の分析
3. 1や2を踏まえた、授業支援システム「掲示板」へのコメント書き込み（教員→学生の一方向通行ではなく、学生がお互いに刺激を与えあうため）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	参考書などからの話題提供（教員）→討論	学生はとくに準備の必要なし→掲示板への書き込み
3	現代政治の歴史的文脈 列柱社会／オランダにおける「保守主義型福祉国家」の成立	学生による話題提供（の開始）→教科書 1-27 頁の講読→掲示板への書き込み
4	中間団体政治の形成と展開／大陸型福祉国家の隘路	学生による話題提供→教科書 28-57 頁の講読→掲示板への書き込み
5	福祉国家改革の開始／パートタイム社会オランダ	学生による話題提供→教科書 57-100 頁の講読→掲示板への書き込み
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	学生による話題提供→教科書 100-111 頁の講読→掲示板への書き込み
7	移民問題とフォルタイン	学生による話題提供→教科書 113-139 頁の講読→掲示板への書き込み
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	学生による話題提供→教科書 139-165 頁の講読→掲示板への書き込み

9	バルケネンデ政権と政策転換	学生による話題提供→教科書 165-182 頁の講読→掲示板への書き込み
10	ファン・ゴッホ殺害事件	学生による話題提供→教科書 182-193 頁の講読→掲示板への書き込み
11	ウインデルス自由党の躍進	学生による話題提供→教科書 193-212 頁の講読→掲示板への書き込み
12	福祉国家改革と移民	学生による話題提供→教科書 214-227 頁の講読→掲示板への書き込み
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	学生による話題提供→教科書 227-243 頁の講読→掲示板への書き込み
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 教科書の次回の範囲を予習してきてください。
 (イ) 指定するネット上の場所に、話題提供用のリンクを授業前に貼り付けてください。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。

この教科書は法政大学図書館に所蔵があるが、手線コンソーシアムに参加する近隣の他大学図書館にも複数の所蔵がある。Cf. <http://opac.lib.hosei.ac.jp/hybrid/>

また、都道府県や市区町村が運営する公立図書館にも所蔵がある。どの公立図書館にこの教科書が所蔵されているかについては、日本図書館協会のサイトなどを利用することにより都道府県ごとに横断検索できる。Cf. <http://www.jla.or.jp/link/link/tabid/167/Default.aspx#sogo>

【参考書】

ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』櫻井成夫訳、講談社学術文庫、1993年。
 エリアス・カネッティ『群衆と権力』（上・下）岩田行一訳、法政大学出版局、1971年。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない（0%）
 (イ) 期末レポート：実施しない（0%）
 (ウ) 授業への参加 - 平常点（15%）
 (エ) 授業への参加 - 掲示板への書き込み（15%）
 (オ) 学生による話題提供 - スライドなどの準備（15%）
 (カ) 学生による話題提供 - 授業での発表（15%）
 (キ) 教科書の予習（15%）
 (ク) 授業での集中度、討論などへの取り組み姿勢（15%）
 (ケ) その他 - 運営協力や講師のミスの指摘（10%）

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

- ① 連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システムと電子メール）で行ないます。
- ② パソコン、タブレット等を用いたプレゼンテーションを歓迎しています。
- ③ 学外から法政大学図書館のオンラインデータベースが利用できるよう、VPN接続の使い方をマスターしてください。
- ④ 法政大学が提供しているVPN接続については「全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト／VPNサービス」を検索、参照してください。

【その他の重要事項】

- ① 市ヶ谷キャンパスの法政大学各学部の学生だけでなく、社会学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、各種コンソーシアムの他大学の学生の履修を歓迎します。
- ② 学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】

This seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce premier semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer, etc.); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma ou chanson francophone ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kenteishiken". (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業開始日：2020年4月24日（金）

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- note de synthèse.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite ou excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation personnelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence pourront être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL ; mais les étudiants sont libres d'enregistrer son et images s'ils le désirent.

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est absolument nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

During this first semester, students present - individually or in small groups - a social, cultural or historical theme on one or more countries of the French-speaking world. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: French-speaking areas (French-speaking Europe, French-speaking America, French-speaking Africa, overseas France, etc.); colonization; immigration; national identity and language; French-speaking popular cultures; French-speaking cinema or songs; etc.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petits groupes, présentent un thème social, culturel ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre tous les étudiants.

Quelques exemples de thèmes possibles : la crise sociale (les oppositions populaires aux "réformes"); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les atouts de la France ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau B1+) ou "kenteshiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis.

Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite voire excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes portant sur la France contemporaine - attribution des premiers exposés

②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	Dissertation individuelle rendue à ce dernier cours

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2～4時間を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布).

Une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera aussi distribuée pour des lectures recommandées.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests de contrôle possibles).

【学生が準備すべき機器他】

Ce cours se déroule dans une classe LL. Les étudiants sont libres d'enregistrer son et images.

【Prerequisite】

Un niveau A2/B1 est absolument nécessaire pour suivre ce cours de type séminaire.

【none】

none

【none】

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

During this second semester, students, individually or in small groups, will present a social, cultural or historical theme about France. Each theme then continues to be studied over several sessions to allow for joint research and constructive debate among all students.

Some examples of possible themes: the social crisis (popular oppositions to "reforms"); history of the Fifth Republic; immigration; France in the European Union; the assets of France; etc.

This is a seminar aimed at developing academic skills.

Intermediate and advanced level in French (B1/B2).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Dans ce cours, nous étudierons quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genre et effets littéraires). Autant que possible, le visionnage de scènes de films ou de documentaires correspondants viendront compléter ces études.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (niveau A2), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業開始日：2020年4月23日（木）

L'étude porte sur la lecture, la compréhension et la reproduction de textes écrits. Divers exercices, faciles d'accès et gradués, seront proposés. Périodiquement, un ou plusieurs élèves présenteront un travail plus important (fiche ou compte-rendu de lecture, explication de texte, résumé-analyse, exposé). Des activités orales (jeu de rôle, théâtre), ainsi que le visionnage d'extraits de films ou de documentaires, compléteront ce travail sur l'écrit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode.
②	Le Petit Prince, d'Antoine de Saint-Exupéry	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
③	L'oeuvre de Saint-Exupéry	Critique du Petit Prince. Présentation d'autres oeuvres de Saint-Exupéry.
④	Désert, de J-M-G Le Clézio	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑤	L'oeuvre de Le Clézio	Critique de Désert. Présentation d'autres oeuvres de Le Clézio.
⑥	Les Soleils des indépendances, d'Ahmadou Kourouma	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑦	Les écrivains francophones d'Afrique	Critique des Soleils des indépendances. Présentation d'autres oeuvres de la littérature africaine francophone.
⑧	Une enfance créole, de Patrick Chamoiseau	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑨	Les écrivains francophones de la Caraïbe.	Critique d'une Enfance créole. Présentation d'autres oeuvres francophones des Amériques.
⑩	L'Amant, de Marguerite Duras	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑪	L'oeuvre de Marguerite Duras	Critique de l'Amant. Présentation d'autres oeuvres de Duras.
⑫	La Condition humaine, d'André Malraux	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑬	L'oeuvre d'André Malraux. Les écrivains "engagés".	Critique de La Condition humaine. Panorama de quelques auteurs engagés.

- ⑭ Cannibale, de Didier L'oeuvre de Didier Daeninckx.
Daeninckx L'essor de la littérature policière en
France.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2時間以上を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Pas de manuel, mais des photocopies souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant doit déjà posséder.

(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

L'accent sera mis sur les techniques de présentation à l'oral (débats et exposés) comme à l'écrit (compte-rendu, résumé, technique de plan, dissertation).

【学生が準備すべき機器他】

Dans ce labo de langues (LL 教室), les étudiants peuvent enregistrer le son du cours et des supports de cours (録音機の持ち込み可) .

【Prerequisite】

Un niveau A2, au minimum, est recommandé pour s'inscrire à ce cours

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

We will study, through some extracts, texts of French or French literature of the 20th and 21st centuries. Whenever possible, corresponding films or documentaries will complete these studies.

French Intermediate Level (A2/B1).

LANf300LA

フランス語コミュニケーション(中 2017年度以降入学者
・上級) B

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Dans ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présentent un film francophone, dont ils analysent quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartient à un genre cinématographique particulier.

D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (chansons, textes, bandes dessinées, etc.)

【到達目標】

Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.

Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Après la présentation d'un film francophone par un ou plusieurs étudiants, 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation de ce cours de second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film 1, étude en commun d'une première scène
③	FILM 1 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Mini-test sur film 1. Présentation critique du film 2, étude d'une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Étude d'une ou plusieurs scènes finales

- ⑧ FILM 3 (1) Mini-test sur film 2.
Présentation critique du film 3, étude d'une première scène
- ⑨ FILM 3 (2) Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
- ⑩ FILM 3 (3) Étude d'une ou plusieurs scènes finales
- ⑪ FILM 4 (1) Mini-test sur film 3.
Présentation critique du film 4, étude d'une première scène
- ⑫ FILM 4 (2) Étude d'une ou plusieurs scènes intermédiaires
- ⑬ FILM 4 (3) Étude d'une ou plusieurs scènes finales
- ⑭ Récapitulatif du cours
Mini-test sur film 4.
Discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique ; rendu des derniers devoirs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières.

(予習・復習・積極性厳守。本授業の準備・復習時間は2時間以上を標準とします。)

【テキスト（教科書）】

Pas de manuel mais des photocopies, souvent distribués.

(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

60% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)

40% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre puis réemployer les expressions ou mots nouveaux (mini-tests après l'étude de chaque film).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son.

【Prerequisite】

Un niveau A2 en français est nécessaire pour s'inscrire à ce cours

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

Students, either individually or in small groups, present and analyse a french-language film. Each selected film belongs to a particular genre. A few scenes are then selected to be studied in depth by all the class. Intermediate level in French (A2/B1).

LANf300LA

フランス語講読 A

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランスの都市文化についてのフランス語文献を読む」

2 年生の必修外国語より少し上のレベルのフランス語圏の都市文化に関するフランス語の文章を読むことで、フランス語の文法知識の確認と読解力の向上、そしてフランス語圏の都市文化についての理解の深化を目的とする。

自身の研究のためにフランス語文献が読める基礎を作りたい人、大学院進学を考えていてフランス語力向上の足場固めをしたい人、SA や派遣留学を予定している人、必修外国語よりもう少し骨のある文章を読みたい人、仏検 3 級以上の取得を考えている人、そして何よりもフランス語の文章を読むこと、フランス語を勉強することそのものに快樂と喜びを感じる人。この授業はそんな皆さんのために開かれる荘厳な祝祭空間である。

【到達目標】

辞書や参考書で必死に時間をかけて調べながら、自力でフランス語の文章が読めるようになること。フランスの都市文化についての理解を深めること。それがすべてである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【本授業は、4/24 金曜日 5 限から開始する。大学の方針により、当方は文字情報と音声を中心とした「学習支援システム」による授業を行うが、受講者のネット環境次第でビデオ会議ツールを用いた方式も取り入れる可能性がある。】

*学習支援システムのほか、ゲートル・クラスルームも使用するので、登録しておくこと。

教室コードは、l35ynbd である。

毎回、全員が当たるように指名し、当てられた学生が訳し、その一文の言わんとする内容を解釈する。教員が誤りをただし補足を入れながら、背景に存在する文法的・文化的知識を解説する。きわめて古典的な人文系大学教育の方法である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方の紹介
第 2 回	文献の精読 (1)	都市文化についての訳読と内容解説 (1)
第 3 回	文献の精読 (2)	都市文化についての訳読と内容解説 (2)
第 4 回	文献の精読 (3)	都市文化についての訳読と内容解説 (3)
第 5 回	文献の精読 (4)	都市文化についての訳読と内容解説 (4)
第 6 回	文献の精読 (5)	都市文化についての訳読と内容解説 (5)
第 7 回	文献の精読 (6)	都市文化についての訳読と内容解説 (6)
第 8 回	文献の精読 (7)	都市文化についての訳読と内容解説 (7)

第 9 回	文献の精読 (8)	都市文化についての訳読と内容解説 (8)
第 10 階	文献の精読 (9)	都市文化についての訳読と内容解説 (9)
第 11 回	文献の精読 (10)	都市文化についての訳読と内容解説 (10)
第 12 回	文献の精読 (11)	都市文化についての訳読と内容解説 (11)
第 13 階	文献の精読 (12)	都市文化についての訳読と内容解説 (12)
第 14 回	文献の精読 (13)	都市文化についての訳読と内容解説 (13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：1年生で用いた教科書をよく復習しつつ、テキストの全訳、テキストに出てくるわからない文法・語法、単語・熟語などの確認、そして内容や背景に関する調べ物。以上で、各2時間は最低でも必要であろう。

復習：予習時に間違えた文法、語法、構文などの再確認。以上で1時間は見込まれる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布する。

【参考書】

教場にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

【平常点 [100 %]。授業時に当てた際の訳の質と文法・語法事項の理解度に基づく。また、課題に取り組んだ際の内容も含む。】

←4/19 変更

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the French Reading Practice and of the French urban culture.

LANf300LA

フランス語講読 B

2017 年度以降入学者

竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランスの都市文化についてのフランス語文献を読む」

春学期に引き続き、2年生の必修外国語より少し上のレベルのフランス語圏の都市文化に関するフランス語の文章を読むことで、フランス語の文法知識の確認と読解力の向上、そしてフランス語圏の都市文化についての理解の深化を目的とする。秋学期は春学期よりもややレベルを上げる。

自身の研究のためにフランス語文献が読める基礎を作りたい人、大学院進学を考えていてフランス語力向上の足場固めをしたい人、SAや派遣留学を予定している人、必修外国語よりもう少し骨のある文章を読みたい人、仏検3級以上の取得を考えている人、そして何よりもフランス語の文章を読むこと、フランス語を勉強することそのものに快樂と喜びを感じる人。この授業はそんな皆さんのために開かれる荘厳な祝祭空間である。

【到達目標】

辞書や参考書で必死に時間をかけて調べながら、自力でフランス語の文章が読めるようになること。フランスの都市文化についての理解を深めること。それがすべてである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、全員が当たるように指名し、当てられた学生が訳し、その一文の言わんとする内容を解釈する。教員が誤りをただし補足を入れながら、背景に存在する文法的・文化的知識を解説する。きわめて古典的な人文系大学教育の方法である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方の紹介
第 2 回	文献の精読 (1)	都市文化についての訳読と内容解説 (1)
第 3 回	文献の精読 (2)	都市文化についての訳読と内容解説 (2)
第 4 回	文献の精読 (3)	都市文化についての訳読と内容解説 (3)
第 5 回	文献の精読 (4)	都市文化についての訳読と内容解説 (4)
第 6 回	文献の精読 (5)	都市文化についての訳読と内容解説 (5)
第 7 回	文献の精読 (6)	都市文化についての訳読と内容解説 (6)
第 8 回	文献の精読 (7)	都市文化についての訳読と内容解説 (7)
第 9 回	文献の精読 (8)	都市文化についての訳読と内容解説 (8)
第 10 階	文献の精読 (9)	都市文化についての訳読と内容解説 (9)
第 11 回	文献の精読 (10)	都市文化についての訳読と内容解説 (10)

第12回 文献の精読 (11)	都市文化についての訳読と内容解説 (11)
第13階 文献の精読 (12)	都市文化についての訳読と内容解説 (12)
第14回 文献の精読 (13)	都市文化についての訳読と内容解説 (13)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：1年生で用いた教科書をよく復習しつつ、テキストの全訳、テキストに出てくるわからない文法・語法、単語・熟語などの確認、そして内容や背景に関する調べ物。以上で、2時間は最低でも必要であろう。

復習：予習時に間違えた文法、語法、構文などの再確認。以上で1時間は見込まれる。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布する。

【参考書】

教場にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 [100 %]。授業時に当てた際の訳の質と文法・語法事項の理解度に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the French Reading Practice and of the French urban culture.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語A 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前編）。文字と発音、名詞の性と数、動詞の現在形、名詞の（単数形）対格。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。ロシア語の最も基本的な表現（「～は～を～する」）を理解し作り出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は5月6日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語B」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。「第三外国語としてのロシア語A」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第1回から第5回までがこれにあてられますが、その後も継続します。その上で、最も初歩的な文法のみ（名詞の性・数、動詞の現在形、名詞の対格）を学習します。これらの文法を習得すれば、それだけで十分、ロシア語の最も基本的な表現を理解することができるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	硬母音字、子音字、アクセント
第2回	文字と発音2	軟母音字、半母音字、子音字、
第3回	文字と発音3	硬子音と軟子音、軟音記号
第4回	文字と発音4	発音の規則、子音字
第5回	文字と発音5	無声子音と有声子音子音字、発音の規則、硬音記号
第6回	「これは誰ですか」	疑問文と平叙文、名詞の性
第7回	「彼はロシア人です」	名詞の性と形容詞の変化
第8回	「私の家族」	名詞の性と所有代名詞の変化
第9回	「私の両親」	名詞の複数形と所有代名詞の変化
第10回	「私は散歩しています」	人称代名詞、動詞の現在形（第1変化）
第11回	「私は話します」	動詞の現在形（第2変化）
第12回	「私は好きです」	動詞の現在形（不規則変化）
第13回	「私は魚が好きです」	名詞の対格
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。復習では、単語や例文の暗記に積極的に取り組むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず初回の授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5月6日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。

期末試験 100%。ロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Cyrillic alphabet and pronunciation, and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the present tense of verbs, nouns in the accusative singular).

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者**木部 敬**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。名詞の格、動詞の未来形と過去形、移動の動詞、動詞の体など。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語A」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の不完了体と完了体。「第三外国語としてのロシア語B」では、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の未来形と過去形、動詞の不完了体と完了体）を学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目指します。学期の最後には、必ず学ぶべき初級文法を一通りすべて学習し、ロシア語の全体像が見えるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「教えてください」	動詞の命令形
第2回	「私は話したいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第3回	「どこへ行くのですか」	移動の動詞
第4回	「モスクワの地図」	名詞の生格
第5回	「私は持っています」	所有の表現
第6回	「何曜日ですか」	曜日の表現、数詞
第7回	「私は散歩するつもりです」	動詞の未来形
第8回	「モスクワで」	名詞の前置格と場所の表現
第9回	「あなたは何をしましたか」	動詞の過去形
第10回	「誰に書きますか」	名詞の与格
第11回	「アントンと」	名詞の造格
第12回	「あなたは解いてしまいましたか」	動詞の体と動詞の過去形
第13回	「私は解いてしまいました」	動詞の体と動詞の現在形および未来形
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間時間を標準とします。復習では、単語や例文の暗記に積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布の予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。ロシア語は、文法学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, the future and past tenses of verbs, verbs of motion, verb aspects, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者 A

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2-B1 レベルの受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【更新事項】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とする。具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「自己紹介」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
2	「自己紹介」(2)	文法練習、作文練習
3	「家族」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
4	「家族」(2)	文法練習、作文練習
5	「家」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
6	「家」(2)	文法練習、作文練習
7	「大学生」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
8	「大学生」(2)	文法練習、作文練習
9	「マリナーさんの一日」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
10	「マリナーさんの一日」(1)(2)	文法練習、作文練習
11	「マリナーさんの通勤」(1)	テキストの読解、質疑応答、文法復習
12	「マリナーさんの通勤」(2)	文法練習、作文練習
13	復習	文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、出席および宿題・授業への取り組み 50%

【更新事項】春学期の少なくとも前半が、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準をはっきりします。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（TPKI）A2-B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「電話」(1)	テキストの読解、会話練習
2	「電話」(2)	文法練習、作文
3	「買い物・食料品」(1)	テキストの読解、会話練習
4	「買い物・食料品」(2)	文法練習、作文
5	「プレゼントを買う」(1)	テキストの読解、会話練習
6	「プレゼントを買う」(2)	文法練習、作文
7	「ドライブ」(1)	テキストの読解、会話練習
8	「ドライブ」(2)	文法練習、作文
9	「ホテル」(1)	テキストの読解、会話練習
10	「ホテル」(2)	文法練習、作文
11	「病院」(1)	テキストの読解、会話練習
12	「病院」(2)	文法練習、作文
13	復習	文法の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、出席および宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができ
ます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language.

LANr300LA

実用ロシア語 A

2017 年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (T P K И-1, B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級 (T P K И-1) 受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。

【更新事項】 春学期の少なくとも前半はオンラインで^{*}の開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで^{*}その都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とする。具体的なオンライン授業の方法など^{*}を、学習支援システムで^{*}提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学-1	入学手続き、学生課に相談
3	留学-2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルート の案
8	交通手段-2	バスや路面電車で使う表
9	買い物-1	食料品の買い方
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付にて
12	病院-2	診察で使う表現
13	総合復習	1～13 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語Ⅰ・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【更新事項】春学期の少なくとも前半が、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (ТРКИ-1, B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 1 級 (ТРКИ-1) 受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期総合復習	リスニング練習、会話練習
2	郵便局	手紙、小包を送る。書留、ファックスなどを送る
3	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
4	電話-2	必要な情報を電話で聞く、チケットを予約する；電話で打ち合わせをする
5	天気予報-1	天気予報をラジオで聞く
6	天気予報-2	国の気候の話をする
7	暇な時間	友達が開いたのホームパーティーに行く
8	劇所や映画-1	劇所等のチケットの買い方や劇・映画の種類
9	劇所や映画-2	映画の話をする
10	美術館	美術展に誘う、チケットを買う；美術展に関する印象を述べる
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャルネットワークに関する表現
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著） 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。授業ではロシア語テキストの日本語への訳出、内容の読解や文法の練習問題も行います。

【到達目標】

辞書を用いてロシア語の文章を日本語に訳すことができる、ロシア語での質問に的確に答えることができる。テキストの内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となるため、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とします。授業は基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削、返却となります。個別対応となるため、各々の力が伸びていくことを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法事項の確認	既習文法事項の復習
2	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習
3	複文講読(1)	関係代名詞を含む文を読む
4	複文講読(2)	副動詞を含む文を読む
5	複文講読(3)	能動形動詞を含む文を読む
6	複文講読(4)	被動形動詞を含む文を読む
7	文章講読(1)	文学作品に触れる
8	文章講読(2)	歴史を読む(数詞を含む表現)
9	文章講読(3)	歴史を読む(年月日の表現)
10	文章講読(4)	文化を読む(再帰動詞)
11	文章講読(5)	社会を読む(運動動詞)
12	文章講読(6)	社会を読む(様々な慣用表現)
13	文章講読(7)	昔話を読む(音読練習)
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語を調べテキストを読解するなど、事前学習を欠かさないこと。本授業の予習・復習は2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。辞書や格変化表などは持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

春学期の当分の間オンラインでの開講になったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes.

LANr300LA

ロシア語講読B

2017年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの文章を読むことで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。また、様々な角度からロシアをとらえることもこの授業の目的です。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの音読、日本語への訳出、内容に関する質疑応答が授業の基本となります。なお、授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文章講読(1)	歴史を読む(現代①)
2	文章講読(2)	歴史を読む(現代②)
3	文章講読(3)	政治を読む
4	ロシア映画(1)	リスニング・会話練習
5	ロシア映画(2)	一場面の音読練習
6	文学作品(1)	昔話を読む
7	文学作品(2)	文学作品を読む
8	ロシア映画(3)	内容を文章にする試み
9	ロシア映画(4)	内容を言葉にする試み
10	文章講読(4)	政治家の演説を読む①
11	文章講読(5)	政治家の演説を読む②
12	文章講読(6)	政治家の演説を読む③
13	文章講読(7)	新年に関する文章を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で確認し、格変化形、動詞の活用は覚える努力をすること。本授業の予習・復習は2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出なども含む）50%、学期末試験50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand texts written on various themes. It also enhances listening and conversation skills of students using materials such as movies.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、ロシアでのビジネスやコミュニケーションに知識としても必要な現代の時事ロシア語を学ぶことで、ロシア語のスキル向上とロシアの社会や文化への理解を深めることを目指す。ロシア語の新聞、テレビやインターネットのニュースなどから多様な最新のトピックを取り上げ、既習の文法でその構成を解説し、時事用語を習得、同時に生きた教材でリスニング、リーディングにも挑戦し、総合的な語学運用能力を高める。

【到達目標】

- ・新聞やネットニュースなどの構文を文法を使い読み解ける。
- ・時事ロシア語に必要な語彙や表現を習得する。
- ・ネット上のニュース映像や音源に慣れ、聞き取りや復唱が出来る。
- ・時事ロシア語を学ぶことでロシアの社会や文化への理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日（木4）とします。その際に今後の授業形態についてご相談しましょう。授業支援システムにアンケートを添付します。ご記入ください。（旧シラバス；学習書やテキストに沿って、重要なトピックニュースの文章を解説していく。中級の文法力を固め、時事問題に使われる用語や構文のスタイルを習得していく。同時に、ネット上のニュース映像や音源を視聴し、その速さや抑揚などに慣れ内容が聞き取れ要約できる、また、ある程度の速さで復唱できるよう練習する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学生の興味関心や要望を聞く。既習文法事項の確認
2	近年のニュース	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
3	ロシアの内政	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
4	外交・国際関係	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
5	経済・産業	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
6	軍事・国防	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
7	犯罪・司法	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
8	事故	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
9	気象・自然災害	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
10	市民生活	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング

11	文化	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
12	最新ニュースから①	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
13	最新ニュースから②	テキストの読解、時事用語・文法の確認、リスニング
14	期末試験	期末試験（辞書持ち込みでの和訳）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書や配布テキストの予習・復習（和訳、用語の確認、音読など）を行う。

・[参考書]に提示されたネットニュースなどを視聴し、速さや抑揚、内容の理解と要約の練習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・加藤栄一著『新版 時事ロシア語』（東洋書店新社、2016 年、¥3080）
・その他テキストは適時配布します。

【参考書】

・モスクヴィーナ『ニュースの世界で』第 1_3 部（ズラトウスト、2009-2011 年）（Москвитина Л. И. “В мире новостей. Часть 1-3.” Златоуст, 2009-2011）
・ニュースサイト< NHK WORLD-JAPAN > , < Вести .Ru > , < Голос России > , < BBC Russian.com > など

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合、テストではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み姿勢、課題の提出）で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更（春学期のみ）によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

初級ロシア語既修者が対象です。学生の習熟度により授業計画は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

In this course, students will study current affairs-related knowledge necessary for carrying out business and communication in Russia with the aim of improving their Russian language skills and deepening their understanding of the society and culture surrounding Russia. It also takes up the latest topics in Russian newspapers, TV, Internet news, and so on. Students will decipher the composition using the grammar that they have learned, learn current vocabulary, and also try to listen and read with live teaching materials in order to improve their overall language proficiency.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事など、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済・ビジネス、外交・国際関係、社会について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2) 現在のロシアにおける政治・経済・外交に関わる様々なテーマについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。読む文章は受講者の関心に合わせて選択する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治①	ロシアの内政に関する記事の講読
3	政治②	ロシアの内政に関する記事の講読
4	政治③	ロシアの内政に関する記事の講読
5	経済・ビジネス①	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
6	経済・ビジネス②	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
7	経済・ビジネス③	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
8	外交・国際関係①	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
9	外交・国際関係②	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
10	外交・国際関係③	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
11	社会①	ロシア社会に関する記事の講読
12	社会②	ロシア社会に関する記事の講読
13	社会③	ロシア社会に関する記事の講読
14	まとめ	半期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。したがって、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、期末レポート（40％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, and society in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語A

2017年度以降入学者

廣野 行雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すでに第一、第二外国語を履修した学生が、それ以外に中国語を学ぶためのクラスです。中国語を母語としない人が、中国語を学習するために必要な知識を学び、学習を継続し発展させていくための学力を養成を目指します。

【到達目標】

まず中国語の漢字音を正しく発音し聞き取れるようにピンインというローマ字字母を習得します。中国語は、声調によって語の意味を識別をするという独特な性格があります。正しく声調を発音し聞き分けられるようになることを目指します。次に基本的な語彙と文型を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの課をおって講義を進めていきます。しかし、いうまでもないことですが、語学学習、特に初習の語学には、学習者の主体的な実践が欠かせません。練習問題による予習など積極的な取り組みが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、到達目標の確認などを行う。
第2回	発音編 第1課、第2課	単母音、二重母音、三重母音の発音 子音
第3回	発音編 第2課、第3課	母音学習のまとめ、尾音 n,ng をもつ複合母音、
第4回	発音編 第3課、第4課	声調をつけての発音
第5回	本編 第1課	発音事項の確認、人称代詞、判断文
第6回	第2課	発音練習、指示代詞、疑問文のいろいろ
第7回	第3課、第4課	発音練習、叙述文(形容詞述語)、連体修飾語
第8回	第5課、第6課	前置詞としての在、是～的の文、疑問詞疑問文、数詞
第9回	第7課、第8課	量詞、存現文
第10回	第9課	原因、理由の表現
第11回	第10課	動作相(進行態)、前置詞のいろいろ、助動詞
第12回	第11課	連動文、兼語文
第13回	第12課、まとめ	否定文、様態補語、これまでのまとめ
第14回	学期末試験	学力検測のための試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習にとって予習復習は必要不可欠なものです。週に一回しかない授業ですので、授業が復習の場になるような十分な予習を期待します。「学習のポイント」で取りあげられているは、必ずおぼえましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

相原 茂、玄 宜青著「中国語入門ルール66」朝日出版社刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などの辞書。紙の辞書には及ばないが電子辞書も可。辞書をもつことは、単に学習に役立つだけではなく、自分自身に学習を続ける自覚を促す意味もある。

【成績評価の方法と基準】

学習態度（授業への参加度、予習復習、積極的な質問）50%。期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

A（前期）においては、発音の習得が主なテーマになりますので、主要な文法的知識の習得はBにおいてなされるので、できうるかぎりABを通じての履修が望ましい。

学ぶこと、特に語学学習は、履修者の主体的・実践的な授業参加が欠かせません。その自覚を高めるためにも、途中の休憩時間以外に飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語B

2017年度以降入学者

廣野 行雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期のAに引き続き、中国語の基礎的な語彙、文法等を学ぶ。

【到達目標】

正確な発音の定着と必須語彙、文法事項を身につけ、中国語の学習を続けていく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前期にひきつづいて、テキストの記述にしたがって、内容の説明を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期Aのふりかえり	前期試験問題の解説 復習
第2回	第13課	助動詞のいろいろ、実行態
第3回	第14課	中国語のアスペクト、持続態
第4回	第15課	実行態、経験態
第5回	第16課	比較の表現、将然態
第6回	第17課	結果補語
第7回	第18課	方向補語
第8回	第18課	可能補語
第9回	第19課	方向補語
第10回	第19課	結果補語
第11回	第20課	疑問詞の呼応文型、複文の意味関係
第12回	第20課	離合詞
第13回	まとめ	重要文法事項再確認
第14回	期末試験	学力検測のために試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期A同様、予習に重点を置き、授業で疑問点を解消するよう努める。自分の学力の向上を確認するため、テレビ、ラジオの中国語講座を利用したり、図書館などで中国語の新聞、雑誌の解説に挑戦してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

相原 茂、玄 宜青著「中国語入門ルール66」朝日出版社刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などを購入することを強く勧める。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（授業参加姿勢、予復習、質問）50%と期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならぬよう、質問のやりとりを通じて双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

読解力、会話力いずれにせよ文法的知識がなければ、その効果的な向上は望めません。A、Bを通した通年履修を強く勧めます。

A同様、途中に設ける休憩時間を除いて、飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

*4月21日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	日常用語	あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	会話（1）	自己紹介
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を各自に発表する
第6回	文法（1）	中国語の基本構文と品詞
第7回	文法（2）	連体修飾語と連用修飾語
第8回	文法（3）	補語
第9回	文法（4）	「着」「了」「過」
第10回	読解（1）	文法の問題を解く
第11回	読解（2）	長文読解をする
第12回	会話（2）	買い物する時の会話パターンを作る
第13回	授業内発表（2）	買い物のシミュレーションをする
第14回	総復習・口頭試験	全体の復習及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）の成績で評価される。

*オンライン授業の場合は、課題の完成度によって期末の最終成績から減点されることもある。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容を復習する
第2回	文法（5）	接続詞と複文
第3回	作文（1）	長文作文のイロハ
第4回	作文（2）	作文を添削する
第5回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第6回	授業内発表（3）	レストランにて
第7回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第8回	授業内発表（4）	道を尋ねる/教える
第9回	会話（5）	スピーチ/ものを語る
第10回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第11回	ヒアリング（1）	映像教材を使って聞き取りをする
第12回	ヒアリング（2）	映像教材の聞き取り
第13回	復習	文法と作文の復習
第14回	まとめ・口頭試験	口頭発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）の成績で評価される。

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

参加者が簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、参加者が中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへ到達すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳C

2017年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 フォーマルな表現、定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
8	通訳3 数字、固有名詞、リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション

9	翻訳3 適訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる通訳、報道の表現、専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳4 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳5 講演の定型表現、現場での対応	L 7 逐次通訳演習
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳	総復習 既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明と文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳D

2017年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックス ピーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳4 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ～2）

10	通訳5 司会進行、文語的表現	L13 逐次通訳演習 L14 環境問題(1) リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳5 時事翻訳3	最新時事関連の応用翻訳(経済関連~1)
12	通訳6 ディスカッションの通訳	L14 環境問題(2) 逐次通訳演習
13	翻訳6 時事翻訳4	最新時事関連の応用翻訳(経済関連~2)
14	翻訳・通訳	総復習既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション(復唱)と復習が必須。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50% 期末テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明や文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書(スマートフォンの辞書アプリも可)

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

資格中国語中級A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

2020.04.18 追記

※オンライン授業開始に伴い、授業計画や成績評価が一部変更になる可能性があります。詳しくは、学習支援システムを確認してください。

本授業は、HSK(漢語水平考試)の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK(漢語水平考試)とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション(全文の聞き取り)を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト(前回の学習内容の復習テスト)[約20分]
- ②リスニング問題の解説[約50分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング[約30分]

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分(1-5)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第一部分(6-10)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第二部分(11-15)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング 対策④	HSK3 級リスニング問題の第二 部分 (16-20) の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
6	HSK3 級リスニング 対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三 部分 (21-25) の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
7	HSK3 級リスニング 対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三 部分 (26-30) の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
8	HSK3 級リスニング 対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四 部分 (31-35) の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
9	HSK3 級リスニング 対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四 部分 (36-40) の解説と作文練習、 スキットの会話・ロールプレイ練 習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解 説
13	HSK3 級模擬試験と 解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑 応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
 - ②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
- 以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分(1-5)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分(6-10)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分(11-15)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分(16-20)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分(21-25)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分(26-30)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分(31-35)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分(36-40)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分(41-45)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題(46-85)の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題(86-100)の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

- 有用な文法書として以下のものをあけておく。
- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
 - ②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
- 以上の①と②を総合して100%とし、60%以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業方法などを学習支援システムで掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	レベルチェック HSK合格の基準 HSK 5・6級に到達する概要
第2回	HSK5級の練習	「的」の使い方のまとめ
第3回	HSK5級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第4回	作文の基礎	作文の練習（400字） 練習問題など
第5回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第6回	HSK5級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第7回	HSK5級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第8回	HSK5級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400字）
第9回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第10回	HSK5級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第11回	HSK5級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第12回	HSK5級の練習	絵を見て作文練習（400字）
第13回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第14回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業が再開された場合には期末試験を実施するが、再開されなかった場合には、毎回の課題の実施状況によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は今まで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらった訳文を授業中チェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
12 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと用意すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特徴、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特徴のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教材」に各回で扱う内容の中国語スクリプト（簡体字ピンイン付き）と単語一覧を配布します。

各自で番組を視聴し、期日までに単語を調べて日本語に翻訳し、wordファイルで提出してもらう予定です。

翌週に日本語の翻訳例と文法事項の解説を掲示します。

フィードバックとして、提出してもらった翻訳を添削して返却する予定です。

日本語訳のほか、適宜課題を出しますので期日までに提出してもらう予定です。

授業の最終回にレポートを提出してもらいます。

授業開始は4月27日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	中国各地の三食（1）	各地の朝ご飯：天津の「煎餃果子」、重慶の「小面」、蘇州の「大肉面」、武漢の「干面」
3	中国各地の三食（2）	天津の「煎餃果子」：紅さんの露店にまつわる物語
4	中国各地の三食（3）	天津の「煎餃果子」：紅さんの露店にまつわる物語（続）
5	中国各地の三食（4）	重慶の「牛肉面」：師匠から弟子に伝わる味
6	中国各地の三食（5）	各地の朝ご飯：広州の「早茶」習慣と働く若者の朝食事情
7	中国各地の三食（6）	深圳の工場で働く若者と社食
8	中国各地の三食（7）	深圳の企業で働く湖南省出身の夫婦と食
9	中国各地の三食（8）	湖南省湘郷の「咸蛋」：ある家庭の伝統レシピ

- | | | |
|----|-------------|--|
| 10 | 中国各地の三食（9） | 「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 <input type="checkbox"/> 椒蒸 <input type="checkbox"/> 」
「 <input type="checkbox"/> 蒿子 <input type="checkbox"/> 」 |
| 11 | 中国各地の三食（10） | 「高考（大学統一入学試験）」に挑む親子と食：「 <input type="checkbox"/> 干子 <input type="checkbox"/> 肉」 |
| 12 | 中国各地の三食（11） | 四川省古蔺に住む龍おじいさんの家族と食：「 <input type="checkbox"/> 豌 <input type="checkbox"/> 面」 |
| 13 | 中国各地の三食（12） | 四川省古蔺に住む龍おじいさんの家族と食：「 <input type="checkbox"/> 酸菜煮黄腊丁」 |
| 14 | まとめ | 春学期のふりかえり・レポートの発表と提出 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央台道《舌尖上的中国 第二季》中国广播出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 70 %（スクリプトの日本語訳とリアクションペーパーの提出・発表）
 - ・レポート 30 %
- ※原則として遅刻厳禁です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において地理的な条件、気候風土、生活習慣などが人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国』を教材として用いながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・文献の翻訳作業を通して、中国語運用能力の向上を目指す。
- ・中国の地理、地域の特徴、食材、調理方法、年中行事、生活習慣などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深める。
- ・各自で中華料理店を訪れ、地域の特徴のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に中国語スクリプト（簡体字・ピンイン付き）を配布しますので、各自で地名・用語について調べてきてください。授業では番組を鑑賞しながらスクリプトの翻訳を行います。中国語が不慣れな方も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。また、毎回の授業の終わりに翻訳文とリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	中国各地の特色料理（1）	料理人の包丁技と淮揚料理：冶春茶社の「 <input type="checkbox"/> 干 <input type="checkbox"/> 」「 <input type="checkbox"/> 子 <input type="checkbox"/> 」
3	中国各地の特色料理（2）	広州の点心：「 <input type="checkbox"/> 沙琪 <input type="checkbox"/> 」「 <input type="checkbox"/> 叉 <input type="checkbox"/> 包 <input type="checkbox"/> 」
4	中国各地の特色料理（3）	福建省泉州の「 <input type="checkbox"/> 石花膏 <input type="checkbox"/> 」と「 <input type="checkbox"/> 面 <input type="checkbox"/> 糊 <input type="checkbox"/> 」
5	中国各地の特色料理（4）	四川省樂山の周小姐が営む「 <input type="checkbox"/> 麻辣 <input type="checkbox"/> 」店
6	中国各地の特色料理（5）	四川省樂山の「 <input type="checkbox"/> 麻辣 <input type="checkbox"/> 」と「 <input type="checkbox"/> 涼糕 <input type="checkbox"/> 」
7	中国各地の特色料理（6）	南方人の保存食「 <input type="checkbox"/> 腊味 <input type="checkbox"/> 」をつかった「 <input type="checkbox"/> 仔 <input type="checkbox"/> 」
8	中国各地の特色料理（7）	香港のある腊味店の話
9	中国各地の特色料理（8）	「 <input type="checkbox"/> 苦 <input type="checkbox"/> 」味を代表する「 <input type="checkbox"/> 陳皮 <input type="checkbox"/> 」
10	中国各地の特色料理（9）	澳門のあるレストランを救った「 <input type="checkbox"/> 陳皮鴨 <input type="checkbox"/> 」
11	中国各地の特色料理（10）	「 <input type="checkbox"/> 酸 <input type="checkbox"/> 」味を引き出す調味料：鎮江の黒醋
12	中国各地の特色料理（11）	「 <input type="checkbox"/> 辣 <input type="checkbox"/> 」味を引き出す調味料：「 <input type="checkbox"/> 豆瓣 <input type="checkbox"/> 」

- 13 中国各地の特色料理 「麻辣」味の料理：「藤椒」
(12) 重慶の「麻辣火」
14 まとめ 秋学期のふりかえり・レポートの
発表と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場で配布します。

【参考書】

中央台道《舌尖上的中国 第二季》中国广播出版社、
2014年など

【成績評価の方法と基準】

・平常点70%（スクリプトの日本語訳とリアクションペーパーの提出・発表）

・レポート30%

※原則として遅刻厳禁です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

オンライン授業は、Google Classroom を使って4月23日から開始する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	旅立ち	アルファベット、イントネーション、数詞0～10
3	物と言葉	母音、子音、アクセント
4	食事	名詞、冠詞
5	買い物	基数詞0-100、名詞句
6	看板	動詞、人称、文の種類
7	旅の準備	指示詞、所有詞、動詞 ser
8	スペインの観光名所	動詞 ser, estar, hay、時刻
9	スペインの二大都市	直説法現在規則動詞、前置詞、
10	スペインの自然、歴史、文化	2つの動詞の組み合わせ、疑問詞
11	道順	序数、不定語・否定語
12	スペインの言語	質問と答えの練習
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社、2020年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社

高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社

西川喬『わかるスペイン語文法』同学社

小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。
オンライン授業では、課題と授業内掲示板の内容を平常点とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力をいれたいと思います。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。

家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語B 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アクティビティ	春学期の復習
2	イスパノアメリカ	無人称文、比較
3	ペルー料理	gustar型動詞、間接目的格人称代名詞
4	趣味、体調	感情・感覚の動詞
5	アンデスの自然	目的格人称代名詞
6	日常生活	再帰動詞
7	地域による言語の違い	表記、小数点、従属節、接続法現在
8	旅の手伝い	命令形
9	日本文化	現在進行形、現在完了
10	観光客ヘインタビュー	日付
11	歴史観光	直説法線過去、点過去
12	旅の継続	直説法未来、過去未来
13	クリスマスと新年	願望、接続法現在
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社、2020年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。

家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペインS A修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月12日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 % を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン SA 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようにする。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。基本的に授業はスペイン語で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Conducted in Spanish.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中 2017年度以降入学者級A

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行います。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式3	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式4	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式5	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式6	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式7	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式8	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインの結婚式9	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式10	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式11	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

12	スペインの結婚式 1 2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの結婚式 1 3	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	スペインの結婚式 1 4	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習が不用です。授業で学んだモデル文章の語彙表現を覚えてくるのが毎回の自宅課題である。本授業の復習時間は、30分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業性に伴ってプリントにした。

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中 2017年度以降入学者級B

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行います。

【到達目標】

スペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス の祝い方1	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス の祝い方2	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス の祝い方3	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の祝い方4	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス の祝い方5	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインのクリスマス の祝い方6	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインのクリスマス の祝い方7	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	クリスマスの祝い方8	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペインのクリスマス の祝い方9	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインのクリスマス の祝い方10	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインのクリスマス の祝い方11	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

12	スペインのクリスマス の祝い方1 2	リスニング練習、読解練習、発音 練習、語彙練習、発話練習、再構 築練習
13	スペインのクリスマス の祝い方1 3	リスニング練習、読解練習、発音 練習、語彙練習、発話練習、再構 築練習
14	スペインのクリスマス の祝い方1 4	リスニング練習、読解練習、発音 練習、語彙練習、発話練習、再構 築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習が不用です。授業で学んだモデル文章の語彙表現を覚えてくるのが毎回の自宅課題である。本授業の復習時間は、30分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業性によりプリントにした。

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペインの歴史

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史を学ぶ。春学期は前近代（古代～近世）の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17世紀のスペイン史について学ぶ。

- | | | |
|----|-----------|---------------------------|
| 12 | 絶対王政と啓蒙 | 18世紀のスペイン史について学ぶ。 |
| 13 | スペインの世界遺産 | 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。 |
| 14 | 春学期のまとめ | スペイン（イベリア）前近代史を総括する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN9784750340326、本体価格5,800円。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用のPCとアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペインの歴史

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペインの歴史を学ぶ。秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、プレゼンテーションとディベート、そして学期末レポートにおいて言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの輪読と、それに基づく受講生のプレゼンテーションおよびディベートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足場めを行う。
2	旧体制の揺動	18世紀末から19世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州体制	現行制度でもあるスペインの自治州体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。
14	秋学期のまとめ	歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

【参考書】

資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディベートへの参加度：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでスライドを使用する場合には、接続用のPCとアダプターは各自が用意すること。

【その他の重要事項】

スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide the students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading, presentation and discussion.

LANs300LA

スペイン語講読A

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級文法を習得済みの学生が、中級文法を学ぶとともにそれらの知識を活かして、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関してスペイン語で記されたテキストの講読を行う。

【到達目標】

初級文法の定着と中級文法の習得により、ある程度の分量と内容を伴ったスペイン語の文章を読めるようになる。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマへの理解と関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明と背景知識の解説を交えながら、スペイン語のテキストを精読する。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認する。
2	世界のスペイン語（前半部）	テキスト第1課前半の講読を行う。
3	世界のスペイン語（後半部）	テキスト第1課後半の講読を行う。
4	スペインと日本（前半部）	テキスト第2課前半の講読を行う。
5	スペインと日本（後半部）	テキスト第2課後半の講読を行う。
6	ラテンアメリカと日本（前半部）	テキスト第3課前半の講読を行う。
7	ラテンアメリカと日本（後半部）	テキスト第3課後半の講読を行う。
8	サンティアゴの巡礼路（前半部）	テキスト第4課前半の講読を行う。
9	サンティアゴの巡礼路（後半部）	テキスト第4課後半の講読を行う。
10	メソアメリカの古代文明（前半部）	テキスト第5課前半の講読を行う。
11	メソアメリカの古代文明（後半部）	テキスト第5課後半の講読を行う。
12	フラメンコ（前半部）	テキスト第6課前半の講読を行う。
13	フラメンコ（後半部）	テキスト第6課後半の講読を行う。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東省次、森直香、ダニエル・キンテロ・ガルシア『トピックスで学ぶスペイン語世界《改訂版》』白水社、2017年、ISBN9784560099513、本体価格1,900円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

辞書の使用を怠らないこと。

【Outline and objectives】

In this course, the students develop an understanding of elementary Spanish and obtain a knowledge of intermediate-level Spanish, through reading texts written about the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs300LA

スペイン語講読B

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級文法を習得済みの学生が、中級文法を学ぶとともにそれらの知識を活かして、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関してスペイン語で記されたテキストの講読を行う。

【到達目標】

初級文法の定着と中級文法の習得により、ある程度の分量と内容を伴ったスペイン語の文章を読めるようになる。また、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマへの理解と関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明と背景知識の解説を交えながら、スペイン語のテキストを精読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	タンゴ（前半部）	テキスト第7課前半の講読を行う。
3	タンゴ（後半部）	テキスト第7課後半の講読を行う。
4	スペインの食生活（前半部）	テキスト第8課前半の講読を行う。
5	スペインの食生活（後半部）	テキスト第8課後半の講読を行う。
6	闘牛（前半部）	テキスト第9課前半の講読を行う。
7	闘牛（後半部）	テキスト第9課後半の講読を行う。
8	ラテンアメリカのフォルクローレ（前半部）	テキスト第10課前半の講読を行う。
9	ラテンアメリカのフォルクローレ（後半部）	テキスト第10課後半の講読を行う。
10	「スペインは違う」から観光大国へ（前半部）	テキスト第11課前半の講読を行う。
11	「スペインは違う」から観光大国へ（後半部）	テキスト第11課後半の講読を行う。
12	スペインのサッカー（前半部）	テキスト第12課前半の講読を行う。
13	スペインのサッカー（後半部）	テキスト第12課後半の講読を行う。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東省次、森直香、ダニエル・キンテロ・ガルシア『トピックスで学ぶスペイン語世界《改訂版》』白水社、2017年、ISBN9784560099513、本体価格1,900円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：60%、学期末試験：40%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

辞書の使用を怠らないこと。

【Outline and objectives】

In this course, the students develop an understanding of elementary Spanish and obtain a knowledge of intermediate-level Spanish, through reading texts written about the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

<重要：春学期の授業開始について>

- ・本授業の開始日は、4月23日（木）5限目です。
- ・初回の23日は、Zoomという双方向型のリアルタイム・オンラインシステムを使って、できるだけ皆さんと話をしながら授業を行います。
- ・Zoomへのアクセスのためのリンクなどは、学習支援システムの本授業の「お知らせ」コーナーにアップしますので、仮登録をして、必ず前日までに確認し、準備して下さい。

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)

⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung
⑭	全体のまとめとテスト	Zusammenfassung Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions
for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)
⑧	旅行のためのドイツ語 6 レストランで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)

- ⑨ 旅行のためのドイツ語 7 Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
駅にて
(簡単な表現)
- ⑩ 旅行のためのドイツ語 8 Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
駅にて
(ほかの表現・会話の練習)
- ⑪ 旅行のためのドイツ語 9 Reisedeutsch (Reiseziele)
- ⑫ 文法のまとめ・補足 Grammatik:
Zusammenfassung und Ergänzungen
Übungen zur Wiederholung
- ⑬ 復習 Zusammenfassung
- ⑭ 全体のまとめとテスト Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習・宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

German language course;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまった文章まで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。最後に作品集を作ることも計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	作文の作成	ドイツ語らしい語順 I
4.	Essen und Trinken	好きなものを描写する
5.	Was ich nicht mag	嫌いなこと nicht und kein 否定文

- | | | |
|-----|--------------------------------------|------------------------|
| 6. | Süßigkeiten in Deutschland und Japan | 日本のお菓子について書く |
| 7. | Familie und Beruf | 家族について書く |
| 8. | Liebblingsdinge beschreiben | 好きな「もの」を紹介する
冠詞と代名詞 |
| 9. | 作文作成 2 | 発表 |
| 10. | Essen und Trinken | 食生活についてと好み |
| 11. | Im Restaurant | レストランのメニューと注文 |
| 12. | Süßigkeiten in Deutschland und Japan | 日本のお菓子について書く |
| 13. | Hobby und Freizeit | 不規則動詞
話法の助動詞 |
| 14. | Vor den Ferien | 休暇中の予定 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます：家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明
白水社
ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

小テスト（語彙・表現）（20%）
授業中の課題に取り組む態度（30%）
提出してもらったドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【Outline and objectives】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017年度以降入学者

ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまった文章まで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。・会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります。パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。最後に作品集を作ることも計画しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Tagesablauf	時間、一日の予定 約束のメール
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Orientierung in der Stadt	道案内
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 1 大学紹介を書く

10.	Meine Universität 2	グループワーク発表
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen 1	過去形 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen 2	プレゼンテーション発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます：家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20%）

授業中の課題に取り組む態度（30%）

提出してもらったドイツ語の作文（50%）

を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【Outline and objectives】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics.

We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヒット曲の歌詞で学ぶドイツ語」をテーマに、1920/30年代のヒット曲（*Schlager*）から現代の新民族音楽（*Neue Volksmusik*）まで、分かりやすい歌詞や親しみやすい旋律を通じて、ドイツ語を学ぶと同時にドイツの文化と社会の発展についての理解を深める。

授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知します。

【到達目標】

・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
・ドイツ語の歌のみならず、背景となる現代社会史と地域性との関係を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メディアをプレゼンテーションし、新しい言葉の説明、内容を正確な日本語で理解してもらう。（歌を歌う授業ではない。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明、ドイツの流行歌史について
2	1920/30年代の流行歌（1）	<i>Ein Freund, ein guter Freund</i> の学習
3	1920/30年代の流行歌（2）	<i>Ich wollt ich wär ein Huhn</i> の学習
4	第三帝国の流行歌	<i>Lili Marleen</i> の学習
5	1950/60年代の流行歌（1）	<i>Komm ein bisschen mit nach Italien</i> の学習
6	1950/60年代の流行歌（2）	<i>Flower Power Kleid</i> の学習
7	1970年代の流行歌	<i>Am Tag, als Conny Kramer starb</i> の学習
8	1980年以降の流行歌（1）	<i>Ein bisschen Frieden</i> の学習
9	1980年以降の流行歌（2）	<i>99 Luftballons</i> の学習
10	ドイツ語のロック・ポップ（1）	<i>Verdamp lang her</i> の学習
11	ドイツ語のロック・ポップ（2）	<i>Männer</i> の学習
12	新民族音楽（南ドイツ）	<i>Bayern des samma mia</i> の学習
13	新民族音楽（北ドイツ）	<i>Alle die mit uns auf Kaperfahrt fahren</i> の学習
14	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

独和辞書を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】

（数回提出してもらう課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。

普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

"German with Hit Songs" as theme, you learn German through simple lyrics and friendly melody from Hits of the 1920/30s until modern new folk music and at the same time you deepen your understanding of German culture and society.

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「映画の台詞で学ぶドイツ語」

このクラスでは国際的にも知られている三人の映画監督ヴェルナー・ヘルツォーク、ヴイム・ヴェンダース、トム・ティクヴァの名作の台詞を通じて生きたドイツ語を学ぶと同時にドイツ文化への理解を深める。

【到達目標】

- ・楽しくドイツ語の読解力やリスニング力を向上させる。
- ・ドイツ語の映画のみならず、背景となる現代社会史と表現文化との関係を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メディアをプレゼンテーションし、新しい言葉の説明、内容を正確な日本語で理解してもらう。重要な表現の応用練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
2	Werner Herzog (1)	『カスパー・ハウザーの謎』の学習 (1)
3	Werner Herzog (2)	『カスパー・ハウザーの謎』の学習 (2)
4	Werner Herzog (3)	『カスパー・ハウザーの謎』の学習 (3)
5	Werner Herzog (4)	『カスパー・ハウザーの謎』の学習 (4)
6	Wim Wenders (1)	『ベルリン・天使の詩』の学習 (1)
7	Wim Wenders (2)	『ベルリン・天使の詩』の学習 (2)
8	Wim Wenders (3)	『ベルリン・天使の詩』の学習 (3)
9	Wim Wenders (4)	『ベルリン・天使の詩』の学習 (4)
10	Tom Tykwer (1)	『パフューム ある人殺しの物語』の学習 (1)
11	Tom Tykwer (2)	『パフューム ある人殺しの物語』の学習 (2)
12	Tom Tykwer (3)	『パフューム ある人殺しの物語』の学習 (3)
13	Tom Tykwer (4)	『パフューム ある人殺しの物語』の学習 (4)
14	総復習	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

独和辞書を持ってきてください。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】

数回提出してもらった課題と、授業での練習問題に取り組む態度（平常点）を総合して評価する。

課題提出等：60%

平常点：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムも利用する。

普段使用しているメールアドレスを登録してください。

【Outline and objectives】

"German language and culture through film" as theme, you learn German through dialogues of the masterpieces of the three internationally renowned film directors Werner Herzog, Wim Wenders and Tom Tykwer, and at the same time deepen your understanding of German culture.

LANd200LA

時事ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツの記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

【到達目標】

1. 現代のドイツについて知ること

春学期は、政治、経済、社会、環境の 3 つの分野から、現代ドイツの基礎的な事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにととも各回の授業計画の変更は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 7 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

ドイツの政治・社会・文化・経済に関するニュース記事を読む。新聞や雑誌の記事を教材として用いる。ドイツ語のさらに高度な表現や文法についての練習を兼ねる。教材は事前に配布するので、出席者は準備したうえで出席すること（下記授業時間外学習の項参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ドイツとは	ドイツ語力についての確認と、ドイツについて最低限の知識を確認する。
第 2 回	政治①連邦政府と連邦議会・政党	2017 年連邦議会選挙の結果と新政権発足について紹介する。
第 3 回	政治②州政府と議会	16 の連邦州それぞれの政府と議会の状況、かかえる課題を概観する。
第 4 回	政治③小規模政党・地域政党	極右政党や左派などのほか、さらに地域政党を含めたドイツの政治ランドスケープを明らかにする。
第 5 回	経済① EU とユーロ圏	EU 最大の経済大国であるドイツの経済政策をあつかう。
第 6 回	経済②ドイツの労働市場と失業	ドイツでは就職や転職はどのようにおこなわれているのか。
第 7 回	経済③インターネットと消費生活	ドイツの SNS 事情について知る。

第 8 回	社会①貧困と福祉	ドイツの生活保護をはじめ社会福祉の状況を日本との違いに注目して概観する。
第 9 回	社会②高齢者と介護	日本と並ぶ高齢化社会であるドイツで、高齢者の暮らしはどうなっているのか。
第 10 回	社会③育児と保育	日本と同じくドイツでも育児の負担や保育園不足が問題になっている。その解決策や問題点を検証する。
第 11 回	環境①再生可能エネルギー	日本でも注目されているドイツの再生可能エネルギー利用の実態を紹介する。
第 12 回	環境②エコロジーと生活	家庭でのゴミ出しなど市民生活で見られる環境努力について取りあげる。
第 13 回	環境③都市と公共交通	ドイツの都市内交通を取り上げる。
第 14 回	まとめ：ヨーロッパの中のドイツ	学習内容をふりかえり、ヨーロッパの一国としてのドイツの特徴を改めて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布したテキストを事前に読み、全部理解できなくても良いので、最低限わからない単語の意味を調べるなど予習を行ってから授業にのぞむこと。

また、テーマについて事前に調べ、予備知識を得ておくことと良い。参加者の所属・専門に応じて、短い報告の形で情報提供をおこなってもらうことがある。

ドイツのことだけではなく、日本や他国の事情についても関心を広げていって欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業中に配布する。

【参考書】

独和辞書は毎回持ってくる。

また文法参考書としては以下のものが適当である。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンライン授業となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教室の設備を利用する。

【その他の重要事項】

ドイツ語の教材を扱うが、基礎文法終了程度の語学力があれば受講可能である。

【Outline and objectives】

This seminar gives information about the contemporary German society and provides practical training on German at intermediate level.

LANd200LA

時事ドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のドイツでの出来事について、毎回一定のテーマにもとづいてドイツのニュース記事を紹介する。

ドイツ語文法の基礎を学んだうえで、さらに実用的な練習をすることでドイツ語能力を伸ばし、同時に現代のドイツについて多面的に知ることができる。

ドイツに興味がある人、ドイツ語が好きな人だけでなく、ドイツへの観光・学習旅行および短期ないし長期の留学を考えている人に適した授業である。

【到達目標】

1. 現代のドイツについて知ること

秋学期は、市民社会、地域発展、外国人問題、歴史問題、教育の 5 つの分野から、現代ドイツの最先端の事情について理解する。

2. ドイツ語能力を伸ばすこと

ニュース記事を手がかりに、ドイツ語の聞く能力、話す能力、表現する能力の 3 つの領域についてそれぞれ練習することで、より高いレベルの語学力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業は 3 つのパートから構成される。

- 映像および音声による短いニュース（映像・音声）：簡単なニュースの映像や音声を繰り返し視聴し、またテキストを確認することで、定型表現や構文、語彙について学習する。
- ドイツ社会の状況についての解説：ニュースを理解するために必要な社会背景や事情について解説し、知識を補充する。短い報告の形で参加者に情報提供してもらうことがある。
- 上記の情報をふまえて、発展的な内容を持つニュース記事を読む。新聞や雑誌の記事を教材として用いる。ドイツ語のさらに高度な表現や文法についての練習を兼ねる。教材は前回は配布するので、出席者は準備したうえで出席すること（下記授業時間外学習の項参照）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ドイツとは	ドイツ語力についての確認と、ドイツについて最低限の知識を確認する。
第 2 回	市民社会①ボランティアと市民参加	連邦ボランティア・イヤー制度や民間福祉団体など、新旧のボランティア制度について紹介する。
第 3 回	市民社会②市民イニシアティブ	市民たちの権利要求や抗議の自主的活動の歴史と現状を分析する。
第 4 回	外国人問題①難民とアジール	ドイツ社会が長年向き合ってきた外国人問題についてとくに現在の難民問題を中心に概観する
第 5 回	外国人問題②社会統合とインクルージョン	外国人とドイツの共生をいかに可能にしていくか、政治や民間で行われている努力について取り上げる。

第 6 回	地域発展①大都市の生活	ドイツの大都市はさまざまな開発プロジェクトにより町並みは大きく変貌しつつある。その様子を問題点とともに紹介する。
第 7 回	地域発展②地方都市の未来	大都市が繁栄する一方で、ドイツ地方都市は東部を中心に厳しい経済状況からの再生に挑んでいる。その状況をあつかう。
第 8 回	地域発展③東部各州の問題	再統一から 30 年以上が経過したのち、旧東ドイツだった地域の現状を学ぶ。
第 9 回	歴史問題①ホロコーストを記憶する	ナチスによるユダヤ人迫害はドイツ社会でどのように認識され、教えられてきたのかについて紹介する。
第 10 回	歴史問題②歴史修正主義の台頭に抗して	ナチスを美化ないし相対化しようとする一部の動きに対してどのような対策が取られているのか。
第 11 回	歴史問題③東ドイツの過去の克服	ドイツの歴史のもう一つの問題点である 1990 年までの東ドイツの歴史をどのように考えていくべきかという問題を扱う。
第 12 回	教育①小学校と学力問題	外国籍や移民の背景を持つ子どもたちの増加は教育現場にどのような影響を与えているのか。
第 13 回	教育②大学教育	入学から卒業までドイツの大学制度の問題点を議論する。
第 14 回	教育③市民教育	市民教育 (Bundeszentrale fuer Politische Bildung) について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布したテキストを事前に読み、全部理解できなくてもよいので、最低限わからない単語の意味を調べるなど予習を行ってから授業にのぞむこと。

また、テーマについて事前に調べ、予備知識を得ておくとうまい。参加者の所属・専門に応じて、短い報告をしてもらうことがある。

ドイツのことだけでなく、日本や他国の事情についても関心を広げていって欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業中に配布する。

【参考書】

独和辞書は各自毎回持ってくること（電子辞書、スマートフォンアプリでもかまわない）。

また文法参考書としては以下のものが適当である。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：50%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

教室の設備を利用する。

【その他の重要事項】

ドイツ語の教材を扱うが、基礎文法終了程度の語学力があれば受講可能である。

【Outline and objectives】

This seminar gives information about the contemporary German society and provides practical training on German at intermediate level.

LANd200LA

検定ドイツ語 I

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語技能検定試験（独検）5 級合格に標準をあわせた授業を行う。例年、試験は春（6 月）・秋（11 月）に実施され、春・秋両方受験することも可能である。この授業では、独検の受験を想定した教科書を使用し、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」力をつけると同時に、独検 5 級の合格を目的とする。5 級は春学期ほどの範囲なので、春に 5 級、秋に 4 級を目指すことも可能である。1 年次にドイツ語を履修し、1 年次の学習事項を復習しながら独検 5 級を受験したいという学生に最適である。また、受験を目指すつもりがなくても、これと同程度の語学力を身につけたいという学生の受講も可能である。

【到達目標】

ドイツ語検定に対応するため、よく出題されるような文法事項の確認、文章の読解力の養成、またヒアリング力の強化を目指す。独検 5 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 5 月 11 日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 17 章からなるが、5 級対応は 3 章まで。各章とも確認（文法、対策テスト（練習問題）から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、さらにプリントを配布し、過去問にも取り組む。また多くの人が不得意とするヒアリングの練習も行う。春学期の後半には 4 級対応の内容も学習する予定である（4 章まで）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 0 章 第 1 章	アルファベット 発音（つづり、アクセント、母音の長短、二重母音）
2	第 1 章	発音（子） 変化の理解をし、文の作成や読み取りを試みる
3	第 2 章①	人称変化 文の作り方 練習問題
4	第 2 章②	人称変化 文の作り方 練習問題
5	ヒアリング	ヒアリングに慣れるため、ヒアリングの練習を過去問でやってみる。
6	第 3 章①	名詞の性と冠詞 名詞と冠詞の格 練習問題

7	第3章② 名詞の性と格について まとめて俯瞰する	3人称の人称代名詞と疑問代名詞 疑問副詞 練習問題
8	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習
9	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習
10	第4章	複数形の作り方 複数形の使い方 練習問題
11	読解力の養成	独検の過去問を解いてみる
12	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習
13	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習
14	試験日	実際の検定試験の要領で 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を与えるので、翌週までにやってくる。本授業の準備・復習時間は各30分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

在間進、亀ヶ谷昌秀『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』（三修社）ISBN9784384112740 ¥2,400
また随時プリントも配布する。

【参考書】

1～2年次に使ったテキストや参考書があれば持ってくる。また辞書は必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開校となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

期末試験の得点を80%、平常点を20%の合計で評価する。平常点は、教科書やプリントの練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to pass the german proficiency test.

LANd200LA

検定ドイツ語Ⅱ

2017年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1単位

法文営国環キ2年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語検定試験（独検）4級合格に標準をあわせた授業を行う。例年、試験は春（6月）・秋（11月）に実施されるため、秋か翌年の春に4級を受験することができる。この授業では、独検の受験を想定した教科書を使用し、ドイツ語を「読む」「書く」「聞く」「話す」力をつけると同時に、独検4級の合格を目的とする。1年次にドイツ語を履修し、1年次の学習事項を復習しながら独検4級を受験したいという学生に最適である。また、受験を目指すつもりがなくても、これと同程度の語学力を身につけたいという学生の受講も可能である。

【到達目標】

ドイツ語検定に対応するため、よく出題されるような文法事項の確認、文章の読解力の養成、またヒアリング力の強化を目指す。独検4級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は17章からなるが、4級対応は4章から8章まで。春学期に4章まで進む予定であるので、秋学期は残りの5章から8章まで。各章とも確認（文法）、対策テスト（練習問題）から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、さらにプリントを配布し、過去問にも取り組む。また多くの人が不得意とするヒアリングの練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第5章①	定冠詞類 練習問題
2	第5章②	不定冠詞類 練習問題
3	第5章③	不規則変化動詞 複合的な疑問詞 練習問題
4	ヒアリング	ヒアリングに慣れるため、ヒアリングの練習を過去問でやってみる。
5	第6章①	前置詞の格支配 練習問題
6	第6章②	3・4格支配の前置詞 練習問題
7	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習
8	第7章①	人称代名詞 練習問題
9	第7章②	再帰代名詞 再帰動詞 練習問題
10	読解力の養成 ヒアリング	独検の過去問を解いてみる ヒアリングの練習

11	第8章①	話法の助動詞 未来形 練習問題
12	第8章②	分離動詞 命令形 練習問題
13	読解力の養成	独検の過去問を解いてみる不規則 変化動詞
14	試験日	実際の検定試験の要領で 試験 ・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を与えるので、翌週までにやってくる。本授業の準備・復習時間は各30分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

在間進、亀ヶ谷昌秀『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』（三修社）ISBN9784384112740 ¥2,400
また随時プリントも配布する。

【参考書】

1～2年次に使ったテキストや参考書があれば持ってくる。また辞書は必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を80%、平常点を20%の合計で評価する。平常点は、教科書やプリントの練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to pass the german proficiency test.

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

- ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- 各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- 映画の解釈方法を身につける。
- 異文化理解能力を高める。
- テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ

いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界	地理, 言語, その他
3.	文学	ドイツと言えばゲーテ？ プレゼンテーション
4.	文学	映画：ゲーテの恋～君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
6.	スイスと日本	映画：ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015)
7.	スイスと日本	ハイジ in Japan プレゼンテーション
8.	戦争映画 1	第一次世界大戦 西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション

9. ドイツと日本 ベートーヴェンの「第九」
プレゼンテーション
10. 戦争映画 映画：バルトの楽園 (2006)
第二次世界大戦
プレゼンテーション
ディスカッション
11. ヒトラー ヒトラーと女性
12. サッカーを通してみる サッカーって文化？
戦後ドイツ社会
13. サッカーを通してみる 映画：ベルンの奇跡
戦後ドイツ社会 Das Wunder von Bern
(2003)
14. プレゼンテーション ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成

本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピー配布

【参考書】

・森井 裕一（著，編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）

・宮田真治・島山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ： 50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。（履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。）

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。

◦ 各時代の思想的・文化的背景を理解する。

◦ 映画の解釈方法を身につける。

◦ 異文化理解能力を高める。

◦ テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。

◦ プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
2.	西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マインホフ/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
3.	東ドイツ	Stasi - 東ドイツの秘密警察 映画：善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006)
4.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン！ Good Bye Lenin (2003)
5.	ドイツ統一	プレゼンテーション ディスカッション
6.	青春	映画：50 年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
7.	ヒトラー	ヒトラーについて笑っていいの？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015)

8.	ヒトラー	プレゼンテーション ディスカッション
9.	テロリズム	ドイツ極右組織 NSU
10.	ドイツ極右組織	映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017)
11.	ドイツ極右組織	プレゼンテーション ディスカッション
12.	移民国ドイツ	難民問題
13.	移民国ドイツ	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016)
14.	移民国ドイツ	プレゼンテーション ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を読んでくる宿題を出します。（資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語）

本授業の準備学習・復習時間は、計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布

【参考書】

・森井裕一（著、編集）『ドイツの歴史を知るための 50 章』（エリア・スタディーズ 151）

・宮田真治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子（編）『知ってほしい国 ドイツ』

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ： 50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー： 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

【Outline and objectives】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The Students' final grades will be based on a presentation and active participation in class.

ARSA200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語圏のキーワード

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんでしょうか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思いつくのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。

ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々なキーワードの背後にある、社会や歴史的要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ国歌	ドイツ国歌の成り立ちについて。
第 3 回	ビール	ビール純粋令の歴史について。
第 4 回	マイスター	複線型学校制度について。
第 5 回	自動車	自由と環境について。
第 6 回	休暇	経済の奇跡と労働者の権利について。
第 7 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 8 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 9 回	メディア	戦後ドイツにおける公営メディアの役割について。
第 10 回	マウスとザントマン	東西ドイツの子供時代について。
第 11 回	第三の男	占領下のドイツ語圏について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民（およびその子孫）たちについて。
第 13 回	外国語としてのドイツ語	社会の統合としての言語について。
第 14 回	まとめ	これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 予習：次回のキーワードについて思いつくことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更になります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。
 毎回最初の 10 分ほどでブレインストーミングを行い、最後の 10 分ほどで議論を行うので、積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of the German-speaking countries.

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

ARSA200LA

ドイツの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語圏の社会と思想

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツの文化と社会の関係を社会についての思想を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、ドイツ語圏の思想が、

1. さまざまな歴史的社会的事情との関連で展開してきたこと、および、

2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。

なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。

【到達目標】

この授業を通じて、

・ドイツの社会思想について概観を得ることができます

・20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題についての概観を得ることができます

・論理的に思考し、議論を組み立てる練習ができます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の 20 世紀の歴史の概観	ドイツ語圏の 20 世紀について、高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフランクフルト学派	フランクフルト学派の第 1 世代の研究の背景を大戦期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ウィーンとウィーン学団	ウィーン学団の科学哲学と当時のウィーンの知的状況について概観します。
第 4 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。
第 5 回	亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学	ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
第 6 回	ナチスと哲学者	亡命した哲学者と対比的に、ナチス政権を思想的に支えた哲学者たちについて概観します。
第 7 回	戦後のフランクフルト学派	第 2 次世界対戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。

第 8 回	68 年世代の哲学	ドイツの学生運動が隆盛を迎えた 1968 年代当時の哲学的状況を概観します。
第 9 回	ハーバマスと社会哲学 1: 社会国家と生活世界	戦後ドイツの社会国家について概説し、社会国家制度と社会哲学の関係を概観します。
第 10 回	ハーバマスと社会哲学 2: ポストモダンとの対話	ドイツ語圏の哲学とフランスの哲学の対話について概観します。
第 11 回	ハーバマスと社会哲学 3: 歴史家論争	第 2 次世界対戦後のドイツが、第 2 次世界対戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
第 12 回	ハーバマスと社会哲学 4: ドイツ再統一と討議倫理学	ドイツの再統一が与えた影響について討議倫理学の発展という観点から概観します。
第 13 回	ハーバマスと社会哲学 6: ネオプラグマティズムとドイツの社会哲学	ドイツ語圏の哲学と、アメリカの哲学との交流について概観します。
第 14 回	まとめ	これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。適宜、レジュメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%
授業での発言（コメント・質問）もしくはオフィスアワーの利用：10%
レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

ARSa200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の拡がりを知ることの主たる目的とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土の「地域圏」を単位として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語的世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業開始日は、4月22日（水）となります。】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらおうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本授業の流れについて説明 ・国内の歴史、県・地域圏などの成立経緯
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン・テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche-Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴエル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophonie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

【当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更することになります。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」上で公開しますので、ご確認ください。

なお、以下の評価は、対面授業の実施を前提とした従来の評価方法であるので、ご注意ください。

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

- 1) 30 %：平常点（コメントシート等）
- 2) 70 %：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房, 2018年. 本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房, 2018年. 本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー, ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店, 2008年. 本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会, 2012年. 本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス, 地方を巡る旅)』駿河台出版社, 2017年. 本体 1900 円＋税

ARs200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「フランス語」を介して、フランス的世界の拡がりを知ることを中心とする。フランス語を話す人々の共同体や彼らの住む領域は、一般に「フランコフォニー（フランス語圏）」と呼ばれる。本授業ではそのような（フランス共和国を含めた）広い地域をも対象としつつ、各地域圏・地域・国にどのような地理・歴史的背景、言語状況、各種の文化（歴史建造物、習慣、食生活など）が存在するのかについて検討する。

「フランス的なるもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、フランス語学習の基礎作りを行うだけでなく、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー（フランス語圏）の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なるもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示を努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ海域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ海域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグリブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグリブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧仏領およびベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー（旧ベルギー領）に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse まとめ	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文（場合によっては各地域圏サイト）を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい（或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため。）
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点（特に引用の仕方、参考文献の書き方）について確りと学習しておいて欲しい。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編（土居佳代子訳）『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著（立花英裕監修・中尾ゆかり訳）『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France（フランス、地方を巡る旅）』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税
 - 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition（フランコフォニーへの旅：改訂版）』駿河台出版社、2019 年。本体 2300 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・以下の項目を総合的に判断して評価する。

- 1) 30%：平常点（コメントシート等）
- 2) 70%：期末レポート

【学生の意見等からの気づき】

・初年度においては歴史的要素の説明が多くなってしまったが、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・フランス共和国、フランコフォニー、フランス語などに関する予備知識は、受講の前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【重要】 コロナウィルスの状態に伴う授業の進み方

春学期は遠隔授業の形で行う予定です。ZOOM（オンラインミーティングアプリ）を使用します。尚、1回目（4月21日）と2回目（4月28日）は遠隔授業の形ではなく課題の形で行います。各授業の前日に法政大学の Hoppii で履修者に ZOOM 会議の招待のリンクを提示しますので確認してください。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des articles	買い物する パン屋で
2	À la poste	買い物する 郵便局で
3	Parler des quantités	量のことを話す 朝市で
4	Parler des quantités	量のことを話す スーパーで
5	Demander le prix	値段をたずねる 文房具屋で
6	Passer une commande	注文する 魚屋さんで
7	Passer une commande	注文する カフェで
8	Faire une réservation+ Test	予約する ホテルで 中間テスト
9	Faire une réservation	予約する 駅で
10	Faire des achats	買い物する 服屋で
11	Faire des achats	買い物する 靴屋で
12	Hésiter	買い物する 花屋で
13	Prendre rendez-vous	アポを取る 歯医者で
14	Prendre rendez-vous +Examen final	アポを取る 病院で～期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

遠隔授業に伴う評価基準：

ZOOM 会議中の参加（25%）

遠隔授業の後に教科書の練習問題をし、その後その写メを撮って先生に Hoppii の課題提出機能で先生に送る。（25%）

追加の課題（フランス語で文章を書いて提出する）。（25%）

期末試験（口述試験のみ）（25%）

以下は無効です。

中間テストと期末試験 60%、平常点（授業中の発言と態度）20%、出席 20%。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANf200LA

フランス語コミュニケーション（初級）Ⅱ 2017 年度以降入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Demander des renseignements	情報を尋ねる 地下鉄で
2	Demander des renseignements	情報を尋ねる スポーツクラブで
3	Demander des renseignements	情報を尋ねる 観光局で
4	Exprimer une obligation	義務を伝える 役所で
5	Autoriser et interdire	許す・禁じる スキー所で
6	Vérifier	確かめる 海水浴所で
7	Protester	クレームを言う キャンプ所で
8	Exprimer des intentions, des projets + Test	意図と計画を言う 自転車レンタル所で + 中間テスト
9	Exprimer des intentions, des projets	意図と計画を言う 銀行で
10	Localiser	位置を説明する デパートで
11	Localiser	位置を説明する 地方で
12	Localiser	位置を説明する 紛失したものを探す
13	S'informer par téléphone	電話で問い合わせる 貸し家の賃貸
14	Comparer + Examen final	比較する バカンスについて 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社
：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-
038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末試験 60 %、平常点(授業中の発言と態度)20%、出席 20%。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活を話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills.

LANf200LA

フランス語視聴覚(初・中級) I 2017 年度以降入学者

アガエス ジュリアン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のスキルを磨き、フランス語とフランス語圏の文化についての知識を深めます

Brush up French skills and deepen knowledge of French and French speaking cultures

【到達目標】

DELF A1 レベルに達する

Reach DELF A1 level

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

会話、グループワーク、プレゼンテーション、ゲームなど

Conversation, group work, presentation, game, etc.

During this unusual semester, I will use Zoom (Online classroom). You just need to download the program. I will also send files and homeworks on Google classroom. I will start the meetings on Zoom from today (April 15th).

遠隔授業の実施に伴う、授業計画や成績評価基準の変更については、学習支援システム上で通知する

授業は 4 月 22 日（月）に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Révisions	復習	これまでの事項の確認と復習
Unité 1	ユニット 1-1	詳しい自己紹介（会話、読解）
Unité 1	ユニット 1-2	詳しい自己紹介（作文、聴解）
Unité 2	ユニット 2-1	家族について（会話、読解）
Unité 2	ユニット 2-2	家族について（作文、聴解）
Unité 3	ユニット 3-1	日常生活（会話、読解）
Unité 3	ユニット 3-2	日常生活（作文、聴解）
Unité 4	ユニット 4-1	食事・食生活（会話、聴解）
Unité 4	ユニット 4-2	食事・食生活（作文、読解）
Unité 5	ユニット 5-1	衣服・ファッション（会話、読解）
Unité 5	ユニット 5-2	衣服・ファッション（作文、聴解）
Unité 6	ユニット 6-1	買い物（会話、読解）
Révisions	復習	最終試験に向けた復習
Test	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。インターネットサイト『フラ語』での自習活動を奨励する。

【テキスト（教科書）】

Interactions 2

CLE international

Gael Crépieux

Olivier Massé

Jean-Philippe Rousse

【参考書】

<https://www.furago.education/>

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 30 %

試験 40 %

『フラ語』のウェブサイトでの活動(最低 2500 ポイント) 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。

【Outline and objectives】

DELFL A1 相当の技能（会話、作文、読解、聴解など）

各ユニットは会話・読解と作文・聴解の2パートに分けて行われる。

ただし、どの回でも常にフランス語での会話練習を実施する。

Skills equivalent to DELFL A1 (conversation, composition, reading comprehension, listening comprehension, etc.)

Each unit is divided into two parts: conversation and reading comprehension and composition and listening comprehension.

However, students will always practice speaking in French at any time

LANf200LA

フランス語視聴覚(初・中級)Ⅱ 2017年度以降入学者

アガエス ジュリアン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語のスキルを磨き、フランス語とフランス語圏の文化についての知識を深めます

Brush up French skills and deepen knowledge of French and French speaking cultures

【到達目標】

DELFL A1 レベルに達する

Reach DELFL A1 level

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

会話、グループワーク、プレゼンテーション、ゲーム。

Conversation, group work, presentation, game, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Révisions	復習	前学期の復習
Unité 7	ユニット 7-1	フランスでの様々な手続き（会話、読解）
Unité 7	ユニット 7-2	フランスでの様々な手続き（作文、聴解）
Unité 8	ユニット 8-1	住居（会話、読解）
Unité 8	ユニット 8-2	住居（作文、聴解）
Unité 9	ユニット 9-1	健康（会話、読解）
Unité 9	ユニット 9-2	健康（作文、聴解）
Unité 10	ユニット 10-1	移動に関する表現（会話、読解）
Unité 10	ユニット 10-2	移動に関する表現（作文、読解）
Unité 11	ユニット 11-1	観光・文化（会話、読解）
Unité 11	ユニット 11-2	観光・文化（作文、聴解）
Unité 12	ユニット 12-1	ヴァカンス・旅行（会話、読解）
Unité 12	ユニット 12-2	ヴァカンス・旅行（作文、聴解）
Révisions	復習	最終試験に向けた復習
Test	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。インターネットサイト『フラ語』での自習活動を奨励する。

【テキスト（教科書）】

Interactions 2

CLE international

Gael Crépieux

Olivier Massé

Jean-Philippe Rousse

【参考書】

<https://www.furago.education/>

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 30 %

試験 40 %

『フラ語』のウェブサイトでの活動(最低 2500 ポイント) 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。

【Outline and objectives】

DELF A1 相当の技能(会話、作文、読解、聴解など)

各ユニットは会話・読解と作文・聴解の2パートに分けて行われる。

ただし、どの回でも常にフランス語での会話練習を実施する。

Skills equivalent to DELF A1 (conversation, composition, reading comprehension, listening comprehension, etc.)

Each unit is divided into two parts: conversation and reading comprehension and composition and listening comprehension.

However, students will always practice speaking in French at any time

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業の目的は、フランス語の学習を、時事問題の理解へとつなげられるようにすることにあります。外交やビジネス、国際交流の現場でフランス語を／も使えるようになるには、(ア)語学力にぐわえて、(イ)政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解が必要です。この授業では、(ア)と(イ)に等しく目配りをしながら学習を進めていきます。

【到達目標】

基本的には、時事フランス語 I・II で 1 年間学ぶことを通じて、学生が CEFR 等で 1~2 段階上に近づくことを目標とします。ただし、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 科目であるこの授業では、語学レベルだけでなく、政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解、および専攻分野の異なる学生が参加することが予想されます。そのため到達目標も学生により異なるのが実状であることを踏まえ、2 通りのメニュー(授業計画)を用意しています。どちらのメニューがご自身にふさわしいかは、【テキスト(教科書)】欄に URL をそれぞれ載せておくので、音声サンプルをどの程度理解できるかで判断してください。

メニュー 1 は、仏検 4~5 級程度の学生向けです。教科書① *La Société française* を用います。

メニュー 2 は、仏検で 3 級以上、DELF や DALF、TCF 等の受験を考えている、または留学経験者・志望者などの学生向けです。教科書② *Radio France Internationale (RFI)* の学習用ニュース番組 « *Journal en français facile* » を用います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) 学習者のレベルにあった教材を選ぶ。

(イ) 教材の指定された範囲を予習する。

(ウ) 授業では、発音の理解・矯正を含めて、教科書の読解をおこなう。

(エ) インターネット上の関連する動画を見て、学習者の理解を助けるとともに、時事フランス語の実際の使用に向けたトレーニングを重ねる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	初回顔合わせ	授業の進め方に関する説明 最近のフランス(語圏)情勢について
第 2 回	【メニュー 1】1.1. フランスの国土 【メニュー 2】RFI <i>Journal en français facile</i> , 2020 年 4 月 7 日以前から 1 日分を選び、教材とする。	教科書① 8-9 頁

第3回	【メニュー1】1.2. フランス各地の特色 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年4月14日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 10-11 頁	第13回	【メニュー1】6.2 フランスの左派と右派 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月30日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 40-41 頁
第4回	【メニュー1】2.1 四季の暮らし 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年4月21日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 14-15 頁	第14回	まとめ	第13回までの内容がこなせなかった場合のための予備日
第5回	【メニュー1】2.2 家の中で感じる季節 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年4月28日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 16-17 頁	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業支援システムを用いた宿題や資料の提示を行うため、第2回授業までに自己登録をしてください。自己登録の方法については、「法政大学授業支援システム」で検索してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。		
第6回	【メニュー1】3.1 幼稚園、小学校、中学校 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年5月12日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 20-21 頁	【テキスト（教科書）】 教科書① Bruno Vannieuwenhuys et al., La Société française, Alma, 2013. URL https://www.alma-download.com/fr-SF.htm 教科書② Radio France Internationale. URL https://savoirs.rfi.fr/fr にある « Journal en français facile » ※ 音声ファイル (mp3) が無料でダウンロードできるほか、音声ファイルを文字起こししたもの (transcription) が掲載されている。なお、Radio France Internationale には公式のアプリがある。Android なら Google Play, iPhone なら App Store から最新版を検索、ダウンロードして下さい。アプリがうまく作動しない場合は、ブラウザからアクセスするか、教員に相談して下さい。		
第7回	【メニュー1】3.2 リセとバカロレア 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年5月19日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 22-23 頁	【参考書】 特に指定しないが、Web 上のフランス語圏のさまざまなメディアを随時参照する。		
第8回	【メニュー1】4.1 フランスの大学 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年5月26日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 26-27 頁	【成績評価の方法と基準】 (ア) 期末試験：実施しない (0%) (イ) 期末レポート：実施しない (0%) (ウ) 教科書の予習の有無と質 (40%) (エ) 教科書にかんする授業内の取り組み (音読含む) (40%) (オ) その他 (運営協力や講師のミスの指摘) (20%) なお、メニュー1のほうがメニュー2よりも簡単だから成績が良くなるということはない。受講者ひとりひとりの力が、学期開始時にくらべ、学期が終わる時にどの程度伸びたかが評価の対象となる。また、評価項目の (ウ) や (エ) のような取り組みを各自がどのぐらい地道におこなってきたかも、成績評価の対象となる。		
第9回	【メニュー1】4.2 グランゼコールとその他の専門職教育 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月2日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 28-29 頁	【学生の意見等からの気づき】 滑舌をよくする。		
第10回	【メニュー1】5.1 フランスの食料料理 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月9日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 32-33 頁	【学生が準備すべき機器他】 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた、日本政府の緊急事態宣言を受け、法政大学ではキャンパスへの入構が禁止になっています。そのため、この授業では Google Hangouts Meet を利用した遠隔授業を当面のあいだ実施します。詳しいことは Hoppii を参照してください。 ※ Google Classroom を使用します。クラスコードは t3sysyu です。法政大学から配られたメールアドレスを使ってログインしてください。 仏和・仏仏辞典、文法の解説書 スマートフォンなど、インターネットに接続し、動画や音声視聴できる機器		
第11回	【メニュー1】5.2 普段の食生活 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月16日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 34-35 頁	【その他の重要事項】 学外の方でこの科目の履修を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学までお問合せ下さい。 http://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/gakubu/kamoku.html		
第12回	【メニュー1】6.1 フランス人と政治 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月23日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 38-39 頁	【Outline and objectives】 This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized French vocabulary. By the end of the course, students will be expected to use resources from francophone websites in order to discuss a wide range of current affairs.		

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、フランス語の学習を、時事問題の理解へとつなげられるようにすることにあります。外交やビジネス、国際交流の現場でフランス語を／も使えるようになるには、(ア) 語学力に比べて、(イ) 政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解が必要です。この授業では、(ア) と (イ) に等しく目配りをしながら学習を進めて行きます。

【到達目標】

時事フランス語Ⅱで1学期のあいだ学ぶことを通じて、学生がCEFR等で1～2段階上に近づくことを目標とします。ただし、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）科目であるこの授業では、語学レベルだけでなく、政治・社会問題や歴史的・文化的な背景に対する理解、および専攻分野の異なる学生が参加することが予想されます。そのため到達目標も学生により異なるのが実状であることを踏まえ、2通りのメニュー（授業計画）を用意しています。どちらのメニューがご自身にふさわしいかは、【テキスト（教科書）】欄にURLをそれぞれ載せておくので、音声サンプルをどの程度理解できるかで判断してください。

メニュー1は、仏検4～5級程度の学生向けです。教科書① La Société française を用います。

メニュー2は、仏検で3級以上、DELFLYやDALF、TCF等の受験を考えている、または留学経験者・志望者などの学生向けです。教科書② Radio France Internationale (RFI) の学習用ニュース番組「Journal en français facile」を用います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) 学習者のレベルにあった教材を選ぶ。

(イ) 教材の指定された範囲を予習する。

(ウ) 授業では、発音の理解・矯正を含めて、教科書の読解をおこなう。

(エ) インターネット上の関連する動画を見て、学習者の理解を助けるとともに、時事フランス語の実際の使用に向けたトレーニングを重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	初回顔合わせ	授業の進め方に関する説明 最近のフランス（語圏）情勢について
第2回	【メニュー1】7.1. 雇用と失業 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年9月22日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 44-45 頁

第3回	【メニュー1】7.2. 職場の人間関係 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年9月29日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 46-47 頁
第4回	【メニュー1】8.1 バカンスの季節 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年10月6日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 50-51 頁
第5回	【メニュー1】8.2 バカンスの過ごし方 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年10月13日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 52-53 頁
第6回	【メニュー1】9.1 カトリック教 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年10月20日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 56-57 頁
第7回	【メニュー1】9.2 その他の宗教 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年10月27日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 58-59 頁
第8回	【メニュー1】10.1 社会における女性と男性 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年11月10日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 62-63 頁
第9回	【メニュー1】10.2 家族、カップル、そして、子ども 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年11月17日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 64-65 頁
第10回	【メニュー1】11.1 フランス人のマナー 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年11月24日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 68-69 頁
第11回	【メニュー1】11.2 会話のスタイル 【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年12月1日以前から1日分を選び、教材とする。	教科書① 70-71 頁

- 第12回 【メニュー1】RFI RFI サイト上の教材を用いる。
Journal en français facile, 2020年12月8日以前から1日分を選び、教材とする。
【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月23日以前から1日分を選び、教材とする。
- 第13回 【メニュー1】RFI RFI サイト上の教材を用いる。
Journal en français facile, 2020年12月15日以前から1日分を選び、教材とする。
【メニュー2】RFI Journal en français facile, 2020年6月30日以前から1日分を選び、教材とする。
- 第14回 まとめ 第13回までの内容がこなせなかった場合のための予備日

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized French vocabulary. By the end of the course, students will be expected to use resources from francophone websites in order to discuss a wide range of current affairs.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを用いた宿題や資料の提示を行うため、第2回授業までに自己登録をしてください。自己登録の方法については、「法政大学授業支援システム」で検索してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書① Bruno Vannieuwenhuysse et al., La Société française, Alma, 2013. URL <https://www.alma-download.com/fr-SF.htm>

教科書② Radio France Internationale. URL <https://savoirs.rfi.fr/fr> にある « Journal en français facile » ※ 音声ファイル (mp3) が無料でダウンロードできるほか、音声ファイルを文字起こししたもの (transcription) が掲載されている。なお、Radio France Internationale には公式のアプリがある。Android なら Google Play、iPhone なら App Store から最新版を検索、ダウンロードして下さい。アプリがうまく作動しない場合は、ブラウザからアクセスするか、教員に相談して下さい。

【参考書】

特に指定しないが、Web 上のフランス語圏のさまざまなメディアを随時参照する。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
- (イ) 期末レポート：実施しない (0%)
- (ウ) 教科書の予習の有無と質 (40%)
- (エ) 教科書にかんする授業内の取り組み (音読含む) (40%)
- (オ) その他 (運営協力や講師のミスの指摘) (20%)

なお、メニュー1のほうがメニュー2よりも簡単だから成績が良くなるということはない。受講者ひとりひとりの力が、学期開始時に比べ、学期が終わる時にどの程度伸びたかが評価の対象となる。また、評価項目の(ウ)や(エ)のような取り組みを各自がどのくらい地道におこなってきたかも、成績評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくする。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・仏仏辞典、文法の解説書
スマートフォンなど、インターネットに接続し、動画や音声を視聴できる機器

【その他の重要事項】

学外の方でこの科目の履修を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学までお問合せ下さい。 http://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/gakubu/kamoku.html

ARSa200LA

フランスの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：音楽から考えるフランスの社会と文化

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、音楽を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の観光立国ではありますが、人々は堅実な日常生活を営み、様々な問題を抱えています。フランス革命を通して人権宣言を発布した国でもあり、移民の長い伝統も持っています。そのような国を誰もが知っている、あるいは知る人ぞ知る曲を通して考えていきます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの社会についての具体的な知識を得ることが第一の目標です。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。また音楽という言葉以外の感性に訴える要素が強い媒体に込められた実社会の問題や課題を自ら探知する力を養います。「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回でテーマとして取り上げる曲を聴いて、歌詞や作曲の背景に関する情報から見て取れる課題、問題点を取り出します。教員が提案することもあります。学生が積極的に指摘することも望ましいです。そのことに関して、授業中に考え討論したり、文章にまとめます。さらに調べる必要がある場合には、各自が調べて次の授業のときに考えを述べるようにします。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明； 『オー、シャンゼリゼ』	・「オー」は「oh!」ではない／誤訳か意識か、洋モノタイトルの翻訳 ・この歌は替え歌だった／元歌について ・なぜこの通りはかくも広く美しいのか。

2	フレンチ・ポップス	・ミシェル・ポルナレフ：スキヤンダラスな反抗児； Tout tout pour ma chérie 『シェリーに口づけ』 ??? 『シェリーとは君の事だよマイ・ダーリン』誤訳か意識か（続） ・シルヴィ・ヴァルタン：アイドル ・フランシス・ギャル：もう一人のアイドル エディット・ピアフ：フランスの美空ひばり？ イヴ・モンタン 『枯葉』：Les Feuilles mortes から Autumn leaves へ シャルル・トレネ：フランスの加山雄三？
3	シャンソン	ジョニー・アリデー：宇崎竜童というよりもフレンチ・ビロックン・ローラー アトール：いわゆるプログレ スリマス・アゼム； ダジュン：『パパ、どこなの』 ザ・シンセカイ：『君のために』など
4	ロック	リュリ：イタリアから来た御前音楽家 マレ：わりと耳にすることの多い絶対王政下の音楽家
5	移民の歌	ショパン； ピアノの詩人の一生は小説よりも奇なり リスト：大見得を切る威風堂々の大スター ドビュッシー：キーがない？ 実は至る所で聞こえてくる音楽。浮世絵は版画、版画は浮世絵？ ラヴェル：展覧会の絵も白黒からカラーへ サティ：自分の音楽と食うための音楽
6	17 世紀ルイ王朝の音楽家たち	シンセサイザーのお父さんオンド・マルトゥンとメシアン 具体音楽：アナログの cut and paste IRCAM：今は老舗となった電子音楽の研究所 原作はメリメの中編小説
7	19 世紀の二人の移民音楽家	
8	宿命の？ ライヴァル	
9	音の色	
10	前衛	
11	フランスのオペラ 『カルメン』	
12	ジョルジュ・ビゼーのオペラ『カルメン』 Femme fatale （運命の／致命的な女）VS 清純派	序曲と冒頭 「ハバネラ」 「ミカエラの歌」
13	『カルメン』 スペインという異郷	「アルカラの竜騎兵」： 로마の踊りが圧巻 歌手も踊る（というよりも踊れない歌手はお呼びでない）：「鈴を打ち鳴らす」 「闘牛士の歌」 「行進曲」 最終場面（なぜ原作とこうも違うのか）
14	『カルメン』 大団円は闘技場の外で	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、予定されている曲を検索して聞いておいてください。また作曲家や作詞家についても調べておいてください。さらにそこからどのような課題を引き出すことができるかも考えておいてください。それに対する自分なりの答えもまとめた発言や文章にできるようにしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。プリントを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603。

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問、授業中に書くよう求められる課題など）が30%です。

学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるものを一つ選んで調べる）が70%です。早い時期からテーマを考えておくことが大切です。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

私語が迷惑であるのご指摘をいただきました。確かに、授業中に話している人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

【Outline and objectives】

In this course students will reflect on a variety of aspects of French society with the aid of music. Although France is one of the most popular countries for tourists, people are making their living, trying to resolve different problems, just as those in other countries. France is the country where the declaration of human rights was proclaimed, she has a long history as a host country for immigrants. The students will study well-known or almost unknown musical works which will tell us these aspects of this country. This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映画から考えるフランスの社会と文化

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

法文営国環キ 1~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら様々な面について考えます。

フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身につけることで、今後の職業生活で必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。教員もしくは学生の提案したこうした問題系について議論し、場合によっては文章にまとめます。さらに調べる必要がある場合には、各自が調べて次の授業のときに考えを述べるようにします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 フラ『最強のふたり』 1：	アメリカ映画はアクション豊富で 白黒はっきり、フランス映画は曖昧で考えさせる映画？
	2011年のヒット作 フランス映画の特徴とは？	「ふたり」とはどんなひとたち？
2	『最強のふたり』2： 格差社会と移民	フランスの金持ちとは？ 「パリのスラム街」とは？
3	『最強のふたり』3： 原題とは相当異なる邦題	なぜ「最強」か？

- 4 『シェルブールの雨傘』 誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽；フランスのミュージカル；1960年代のフランスの地方都市カル；
 原題そのままの邦題は何を意味しているのか
- 5 『シェルブールの雨傘』 アルジェリア戦争
 2 フランスにとっての1960年代はじめ
- 6 『シェルブールの雨傘』 「曖昧な」結末
 3 Westside story の向こうを張った？
- 7 フランス映画の歴史：「映画」はフランスで始まった？ リュミエール兄弟の「映画」；メリエス；『月世界旅行』は特撮もの
- 8 『天井桟敷の人々』 1 伝説的な名優勢ぞろい
 1945年の大作
- 9 『天井桟敷の人々』 2 いかかわしきパリの下町
 19世紀のパリという設定
- 10 『天井桟敷の人々』 3 「言葉」の俳優とバントマイム役者
 庶民にとっての劇場
- 11 『天井桟敷の人々』 4 またしても「曖昧な」結末
 カーニバルという空間
- 12 『シラノ』 1： フランスのヒーロー人気ナンバーワン；剣にすぐれて弁もたつが、17世紀の实在の人物をモデルにした19世紀末の芝居
 19世紀末の芝居
 思いを打ち明けられない
- 13 『シラノ』 2： préciosité とアラスの包囲
 17世紀の宮廷と社会状況
- 14 『シラノ』 3： 「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学
 普遍的な価値

【Outline and objectives】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は、授業中に見るので、気になる場面などを各自、検索して見直しておいてください。また監督、製作者、俳優、場合によっては原作についても調べておいてください。さらにそこからどのような課題を引き出すことができるかも考えておいてください。それに対する自分なりの答えもまとまった発言や文章にできるようにしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。プリントを配ります。

【参考書】

『かしこい旅のパリガイド』（CD付）、田中成和、渡辺隆司 著 駿河台出版社

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業で紹介されたことを取っ掛かりとして、自分で主題を絞ってそれに関して詳しく調べ、わかりやすく述べるのが大切です。授業への参加状況（発言や質問、授業中に書くよう求められる課題など）が30%です。

学期末に提出するレポート（授業で扱った主題の中から興味のあるものを一つ選んで調べる）が70%です。早い時期からテーマを考えておくのが大切です。

【学生の意見等からの気づき】

私語が迷惑であるのご指摘をいただきました。確かに、授業中に話をしている人がいました。それとなく近くに行き、気づいてもらうようにしましたが、徹底していなかったかもしれません。今年は授業を始めるにあたって、私語は他人の権利を侵すものであることをはっきりと伝えようと思います。

ARSa200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランスの食文化

梶谷 彩子

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：

集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ画像を用意して進めていきます。現代のフランス料理をテーマにした映像資料も見る予定です。ところどころ皆さんの意見を聞く時間を設けます。

●開講日程●

9/11(金)、/14(月)、/15(火)、/16(水)→2 時限目～4 時限目

9/17(金)→3・4 時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ / 宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ / 18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場 / 給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基生の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー
第 7 回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	口コミで広がる「美食」：サロン・ド・テと美食家クラブ

第 8 回	映画で見る美食のあり方	映像資料鑑賞 その後、感想を書く時間を設けます。
第 9 回	素朴な料理への回帰：「郷土料理」の誕生	フランスの郷土料理はいかにして生まれたか
第 10 回	文化としての「郷土料理」	郷土料理 = 文化的遺産という視点の原点
第 11 回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第 12 回	フランス大統領の食卓	映像資料鑑賞 (第 2 回) その後、感想を書く時間を設けます。
第 13 回	まとめ	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性 皆さんの意見もうかがいます。
第 14 回	試験日	フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①か②を読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を適宜紹介します。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリント資料を配布します。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、Google Classroom を利用します。履修希望の方は、下記コードを入力して Classroom への参加をお願いいたします。

コード：sqy7lt4

【その他の重要事項】

履修申請者が 31 人を超えてしまった場合、定員が 30 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの食文化史

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいよう図像を見ながら進めていきます。ところどころ皆さんの率直な意見を聞く時間も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪勢な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第 9 回	20 世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第 11 回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第 12 回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第 13 回	まとめ	「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか

第 14 回 試験日

フランスの食文化をテーマとした小レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち③を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリント資料を配布します。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『プロのためのフランス料理の歴史 時代を変えたスーパーシェフと食通の系譜』、山内秀文訳、学習研究社、2005 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、Google Classroom を利用します。履修希望の方は、下記コードを入力して Classroom への参加をお願いいたします。

コード：ltpcb5f

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France.

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次に学んだ初級文法を復習し、残りの文法の学習を終える（特に名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の格変化をすべてマスターする）。それらを基礎に、簡単な文章の読解や暗唱を行う。

【到達目標】

辞書等を用いながら、自分自身の力でロシア語の文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。これにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示するので、同システムの情報を常に確認するようにしてください。本授業の開始日は5月6日水曜とします。この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アーニャとユーラが話しています」その1	前置格（単数形と複数形）
2	「アーニャとユーラが話しています」その2	テキストの暗記
3	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その1	対格（単数形と複数形）
4	「ユーラとお母さんのニーナが話しています」その2	テキストの暗記
5	「文夫がサモワールについて尋ねています」その1	生格（単数形と複数形）
6	「文夫がサモワールについて尋ねています」その2	テキストの暗記
7	「文夫と美紀の多忙な毎日」その1	形容詞の短語尾形
8	「文夫と美紀の多忙な毎日」その2	テキストの暗記
9	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その1	与格（単数形と複数形）および無人称述語
10	「ニーナとイーゴリの夫妻が話しています」その2	テキストの暗記
11	「夏休みの計画」その1	無人称文
12	「夏休みの計画」その2	テキストの暗記

- 13 復習 期末試験の想定問題
14 期末試験、まとめと解 文法問題、露文和訳、和文露訳説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。テキスト読解に関しては、自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てるよう予習しなければならない。この予習を前提に、理解したテキストを暗記するよう努力する。また、文法ないし暗記の小テストを毎回受けること。

【テキスト（教科書）】

1 年次より継続のテキスト（「ロシア語初級」法政大学ロシア語教員編）。また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、5月6日の授業開始以降、学習支援システムで提示します。以下は変更前の方法と基準です。参考にしてください。

文法の知識と読解力を問う期末テスト（80%）および平常点（20%）。平常点は小テストの評価が主である。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を活用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part1. The aim of this course is to learn to read easy Russian texts, and to memorize them all in order to increase your vocabulary and reading skills.

LANr200LA

ロシア語4Ⅱ

2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次には学ばなかった新たな文法の学習に取り組む。また、引き続き名詞・形容詞・所有代名詞の単数形および複数形の格変化をすべてマスターするよう努める。これらの学習に基づき、より本格的にテキスト読解の練習を行う。

【到達目標】

書籍・新聞・雑誌やネット上の文章から、最低限の情報を得ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを各自で読解し、それに関して教師が解説やコメントを与える。テキストの意味が分かるだけでなく、それを暗記して語彙力や読解力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「イワンがおなかをこわしたようです」その1	否定生格
2	「イワンがおなかをこわしたようです」その2	テキストの暗記
3	「ニキーチン先生の間わず語り」その1	造格（単数形と複数形）
4	「ニキーチン先生の間わず語り」その2	テキストの暗記
5	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その1	動詞の不完了体と完了体
6	「美紀がナターシャとメッセージを交換しています」その2	テキストの暗記
7	「学生たちの会話」その1	関係代名詞および形容詞の比較級
8	「学生たちの会話」その2	テキストの暗記
9	「コートを買いに」その1	数詞の表現
10	「コートを買いに」その2	テキストの暗記
11	「ニーナが映画監督に電話しています」その1	仮定法
12	「ニーナが映画監督に電話しています」その2	テキストの暗記
13	復習	期末試験の想定問題
14	期末試験、まとめと解説	文法問題、露文和訳、和文露訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。自分で辞書を引き、文法的な事項を勘案しながら、文章の意味を正確に探り当てるよう予習しなければならない。この予習を前提に、理解したテキストを暗記するよう努力する。また、文法ないし暗記の小テストを毎回受けること。

【テキスト（教科書）】

1年次より継続のテキスト（「ロシア語初級」法政大学ロシア語教員編）。また、別のテキストをプリントで配布する。

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

文法の知識と読解力を問う期末テスト（80%）および平常点（20%）。平常点は小テストの評価が主である。

【学生の意見等からの気づき】

より一層音声教材を利用する。

【Outline and objectives】

Russian Reading Part2. The aim of this course is to read easy Russian texts and to memorize them all in order to increase your vocabulary and reading skills. At the end of the course you will be able to master the whole basic grammar, especially nouns, adjectives and possessive pronouns in the all cases singular and plural.

LANr200LA

ロシア語 4 I

2017 年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章読解などを通じて基本文法や基本的な構文を定着させ、未習の文法事項を学び基本的な文法の修得を目指します。さらに、音読や会話のロールプレイなどを通じて、話す、聴く力を伸ばす練習も行います。

【到達目標】

既習文法を理解し運用できること、辞書を用いてロシア語の文章を理解し日本語に訳せること、ロシア語での質問を理解し、それに適切に答えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になるのに伴い、各回の授業計画の変更については、学習支援システムでお知らせします。基本的に課題提示 → 課題提出 → 添削、返却という授業の形になります。授業開始日は4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法の復習（1）	格変化の復習（名詞）
2	既習文法の復習（2）	格変化の復習（形容詞など）
3	動詞（1）	動詞関連の文法事項の確認
4	動詞（2）	動詞の完了体・不完了体
5	複文（1）	関係代名詞を含む複文の読解
6	複文（2）	接続詞を含む複文の読解
7	数詞（1）	数詞と時間の表現
8	数詞（2）	年齢の表現など
9	数詞（3）	年月日の表現
10	数詞（4）	数詞を含むその他の表現
11	形容詞・副詞の比較級	形容詞・副詞の比較級
12	形容詞・副詞の最上級	形容詞・副詞の最上級
13	仮定法	仮定法を用いた表現
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習すること。格変化形や動詞の活用は意識して覚えること。本授業の予習・復習は2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

その他適宜プリントを配布します。辞書は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法を変更します。具体的には授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言のしやすい授業を心掛けます。

【Outline and objectives】

This is a course for students who finished learning Russian for the first grade. The aim of this course is get used to Russian through reading, writing and speaking.

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

法文営環 2 年

【Outline and objectives】

Through reading comprehension, we aim for get used to Russian texts with various themes. And learn conversation and speech expression using materials such as movies and TV programs.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章の読解を通して既習事項の確認、定着、応用を目指します。また、学期の後半には映画など視聴覚教材を用いて、生のロシア語に触れる機会を作ります。ロシアに対する理解を深めることもこの目的の一つです。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読み、理解し、日本語に訳すことができる。ロシア語のテキストを正確に音読できる、簡単な会話表現を理解でき、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文章講読の場合は、テキストの音読、日本語への訳出、内容についての質疑応答が中心となり、視聴覚教材を利用する場合は、音読が中心となります。なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法事項の確認	既習文法事項の確認
2	文章読解（1）	副動詞が含まれる文章読解
3	文章読解（2）	能動形動詞が含まれる文章読解
4	文章読解（3）	被動形動詞が含まれる文章読解
5	文章講読（1）	歴史に関する文章を読む
6	文章講読（2）	社会に関する文章を読む
7	ロシア文学（1）	昔話を読む
8	ロシア文学（2）	文学作品を読む試み
9	ロシア映画（1）	リスニング練習
10	ロシア映画（2）	一場面の音読練習
11	ロシア映画（3）	一場面の会話練習
12	ロシア映画（4）	内容を文章にする試み
13	演説	政治家の演説を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示された課題はやってくること。格変化形や動詞の活用は意識して覚えること。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材（授業で配布します）。

辞書、格変化表、参考書は持参してください。

【参考書】

『入門ロシア語文法（改訂版）』和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、課題提出などを含む）40 %、学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に参加できるような授業を心掛けます。

LANr200LA

ロシア語5 I

2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語文法知識を活かして実際にロシア語でコミュニケーションをしたい方のための授業です。テーマごとにロシア語の表現を学び、実践的に練習します。授業にはロシア語で「読む・書く・聴く・話す」能力を総合的に伸ばします。その他に、ロシアの生活文化や習慣にも触れます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期には、挨拶、紹介、家族、職業や天気などの会話表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えられます。

【更新事項】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とする。具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「お名前は？ お国はどこですか。お仕事は？」	リスニング、会話練習
2	「私の家族」	リスニング、会話練習
3	「今何をしていますか。」	リスニング、会話練習
4	「私の一日」-1	リスニング、会話練習
5	「私の一日」-2	リスニング、会話練習
6	「何時にあいましょうか。」	リスニング、会話練習
7	「どこに住んでいますか。」	リスニング、会話練習
8	「ロシア語でしゃべりますか。」	リスニング、会話練習
9	「ロシアに行ったことがありますか。」	リスニング、会話練習
10	「天気」	リスニング、会話練習
11	「私の休暇旅行。」	リスニング、会話練習
12	「私の一週間」	リスニング、会話練習
13	「何ができますか。」	リスニング、会話練習
14	春学期の復習	リスニング、会話練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの宿題や小テスト 50%、平常点 50%

【更新事項】春学期の少なくとも前半が「オンラインで」の開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価は学習状況や参加度を重視することになりました。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールは変更できます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr200LA

ロシア語5Ⅱ

2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to communicate in Russian in everyday situations. The students will develop an understanding of practical Russian grammar and widely improve their Russian listening and conversation skills.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語文法知識を活かして実際にロシア語でコミュニケーションをしたい方のための授業です。場面ごとにロシア語の表現を学び、実践的に練習します。授業にはロシア語で「読む・書く・聴く・話す」能力を総合的に伸ばします。その他に、ロシアの生活文化や習慣にも触れます。

【到達目標】

日常場面においてロシア語の簡単な会話ができることを目指します。ロシア旅行などの場合にロシア語を使って、ロシア人とのコミュニケーションをとれることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期には食事、趣味、家、旅行などの会話表現を学びます。テキストのもとで表現を学習し、聞き取り練習と会話の実践を行います。ロシア語を使うことによって単語、表現、文法も覚えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前学期復習	リスニング、会話練習
2	「趣味」	リスニング、会話練習
3	「モスクワ」-1	リスニング、会話練習
4	「モスクワ」-2	リスニング、会話練習
5	「買い物」-1	リスニング、会話練習
6	「買い物」-2	リスニング、会話練習
7	「お食事」	リスニング、会話練習
8	「ダイエット」	リスニング、会話練習
9	「私の家」-1	リスニング、会話練習
10	「私の家」-2	リスニング、会話練習
11	「いつも通うところ」	リスニング、会話練習
12	「旅行」-1	リスニング、会話練習
13	「旅行」-2	リスニング、会話練習
14	秋学期の復習	リスニング、会話練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題があります。単語の暗記も必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの宿題や小テスト 50%、平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

成績評価は学習状況や参加度を重視することになりました。

【その他の重要事項】

実際の授業状況や学生の能力に応じて授業スケジュールは多少変更できます。

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。SA ロシアに向かう予定の2年生は事前学習の一環として、必ず履修してください。

ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でバワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりで。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレビューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに基づき、授業時間までにレジュメを学習支援システムにアップします。これをよく読んで、参考資料や映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴すべき動画の URL を示すので、次週までに必ず視聴しておくこと。言うまでもなく隣国ロシアの問題であり、かつ世界のグローバル化が進行する今日、私たちにとってもアクチュアルな問題である、という想像力と好奇心をもって授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワードなどを通してロシアの概略を示す。
第 2 回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第 3 回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルク。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第 4 回 民俗文化とロシア正教、国民の祝日

ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は再び絶大なものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育んできた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなどに信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第 5 回 ロシア・バレエの世界 1

バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。

第 6 回 ロシア・バレエの世界 2

前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第 7 回 ロシアの音楽：グリムカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー

ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリムカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルグエフ、国際的に活躍する現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。

第 8 回 ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）

19 世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフを通して音楽と政治の問題を考える。

第 9 回 ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）

反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。

第 10 回 ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半

『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。

第 11 回 ロシア文学：19 世紀半ば～（ゴゴリ、ドストエフスキー）

ゴゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第 12 回 ロシア文学：19 世紀後半～20 世紀（トルストイ、チェーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）

トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖患者の賞揚。チェーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。

第 13 回 ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴァイン）／日本文学との影響関係

亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。

第 14 回 民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題

ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AV ライブラリーの活用を勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場でプリントを配付します。

【参考書】

参考文献については教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。授業開始日は4月24日（金）、学習支援システムにて。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots, Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業に引き続き、ロシアの文化の多様性を見ていきます。春学期に得た情報を基に、さらにそこに新たな領域・ジャンルの知識を積み重ねていくこととなりますので、各自がロシアのイメージを整理しつつ、吸収して行ってほしいと思います。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレビューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期同様、毎回のテーマに基づき、映画やドキュメンタリー、音楽などの視聴覚資料を用いて解説していきます。授業の最後に、毎回、意見や疑問点をまとめたレビューシートを提出してもらい、次回の授業に活かしていくのも春学期と同じですが、すでに獲得したロシア情報に基づいた、あるいは、日本を含む他国との比較をまじえた、一歩踏み込んだ意見を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／ロシアの歴史1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タールの軛、イワン雷帝の治世について。
第2回	ロシアの歴史2	ピョートル大帝、エカテリーナ大帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第3回	ロシアの歴史3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第4回	ロシアの歴史4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第5回	ロシアの歴史5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェリノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第6回	ソ連映画1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。

- 第7回 ソ連映画2 雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見えていく。
- 第8回 ソ連映画3 反体制の烙印を押された監督（タルコフスキー、パラジャーノフ、イオセリアーニら）の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF映画を概観するとともに、バレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。
- 第9回 ロシア映画4 検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクローフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。
- 第10回 ロシア映画5 前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。
- 第11回 ロシア美術1 イコン（聖像画）の機能について、移動展派の営み、パトロンへの役割について。
- 第12回 ロシア美術2 マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。カバコフ、コマール&メラミッドら現代アートについて紹介。
- 第13回 ロシア・アニメ1 黎明期からプロパガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。
- 第14回 ロシア・アニメ2 アート・アニメ（ノルシュティン、ベトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べる。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場でプリントを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レジュメシート（50%）、期末レポート（50%）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1単位

法文営国環キ 2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかりと覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

*4月21日よりオンライン授業が始まります。学習支援システムを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明。
第2回	ピンイン	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつの練習をする
第4回	会話（1）	自己紹介の練習をする
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を発表する
第6回	基本構文（1）	1、主語・述語・目的語2、品詞
第7回	基本構文（2）	1、連体修飾語 2、疑問文
第8回	基本構文（3）	1、連用修飾語 2、「着」、「了」、「過」
第9回	基本構文（4）	補語
第10回	基本構文（5）	使役・受身・「把」文
第11回	会話（2）	買い物する時の会話パターン
第12回	授業内発表（2）	教師と一対一で買い物のシミュレーションをする
第13回	復習	文法の復習をする
第14回	まとめ	筆記テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの復習をする。

また、HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（100%）評価する。普段の学習態度や発表の出来なども平常点として考慮に入れる（減点制）。

*オンライン授業の場合は、課題の完成度が平常点として評価される。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。

日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容の復習
第2回	文法（6）	複文のさまざま
第3回	文法の練習	プリントにある文法に関する問題を解く
第4回	作文（1）	長文作文のイロハ
第5回	作文（2）	宿題の作文を添削する
第6回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第7回	授業内発表（3）	教師と一対一でレストランでのやり取りを練習する
第8回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第9回	授業内発表（4）	教師と一対一で道順に関するやり取りをする
第10回	会話（5）	スピーチやものの語り方
第11回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第12回	復習	複文の復習
第13回	作文（3）	作文の提出
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を目的に復習する。

単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50%）、口頭試験（50%）を併せて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中国語による自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANe200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (☒☒水平考☒) 1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

昨年度は春秋履修した 2 年生の学生のうち、HSK 3 級と中国語検定 3 級に 4 人合格、HSK4 級 3 人合格、HSK 5 級 2 人合格しました。向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

【到達目標】

HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。今年度は特にリスニング練習を強化したいと考えています。中国語検定準 4 級程度の簡単なものからトレーニングを始めます。繰り返し練習して、リスニング力を養います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます
13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布

【参考書】

HSK 過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。欠席は3回まで。4回以上は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

LANc200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加を認めますが、それなりの覚悟が必要です。単位のためだけに履修すると後悔すると思います。意欲的な学生の参加を歓迎いたします。

【到達目標】

HSK 3級合格以上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
2	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
3	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
4	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
5	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
6	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
7	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
8	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
9	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
10	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
11	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
12	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
13	HSK 3級過去問	HSK 3級過去問
14	授業の総まとめと期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。4回以上欠席の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材を充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

ARSe200LA

中国語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡邊 大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語ということばを通して、中国文化、また、中国という国について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、中国語ということばを通してみえる世界が、日本語を通してみる世界とはいかに違うか、を実感してもらえればと思います。また、ことばについて知ること、我々自身についても新しい発見をしたり、新しいもの見方ができるような授業を心がけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には法政大学の学習支援システムを使用します。

(発音の解説などではごく短い映像も利用する予定ですが、同時配信は行いません)

講義は基本的に PowerPoint を用い、受講生には PDF 資料をダウンロードしてもらいます。

トピック毎に講義内容のまとめや課題に取り組み、提出してもらいます。

教員と受講生とのやりとりは授業内掲示板やメールを用います。

そのほか、受講生と相談しながら適宜よい方法を模索していきたいとおもいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ことばとは何か	あまりにも身近すぎて気づきにくいことばのはたらきについて考えます。
②	類型論からみた中国語	英語や日本語と比較した中国語の特徴
③	中国語の音韻体系－その1	声調・韻母・声母
④	中国語の音韻体系－その2	有声音・無声音等
⑤	中国語文法概説－その1	品詞分類
⑥	中国語文法概説－その2	形態素・単語・フレーズ・センテンス
⑦	中国語文法概説－その3	承前
⑧	中国語の語彙－その1	語彙からみる中国的発想法
⑨	中国語の語彙－その2	外来語・新語・流行語
⑩	中国語の語彙－その3	中国語になった日本語と日本語になった中国語
⑪	文語と白話	書き言葉と話し言葉
⑫	中国語の方言	言語の変化－その1
⑬	大陸の中国語と台湾の中国語	言語の変化－その2

- ⑭ まとめと試験 論述式の試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のまとめや課題をトピック毎に提出してもらいます。

一般的に大学の基準では、授業時間のほか、準備・復習、合わせて4時間が標準的学習時間とされています。

本授業もそれを前提におこないます。

【テキスト（教科書）】

学修支援システムを利用して PDF をダウンロードしてもらいます。

【参考書】

- ・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
- ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
- ・木村英樹、『中国語はじめの一步』、ちくま新書、1996 年
- ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
- ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年
- ・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

まとめと課題（30%）、期末試験（70%）

まとめは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的にトピック毎に提出してもらいます。

期末試験としてレポート（3200 字程度）を提出してもらいます。

レポートの題目は自身で設定してください。

ただし、以下の 3 点、すべてについて具体例をあげながら考察すること。

- ① 「中国語ということば」
- ② 「外国語を学ぶということ」
- ③ 「人間にとってことばとは」

評価の基準は、

- (1) 講義の内容をふまえているか、
- (2) ことばをめぐる問題を多様な角度から捉えているか、
- (3) 自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、

の 3 点です。

レポートは「まとめ」や「課題」を利用して作成できるよう、普段から心がけておいてください。

現在のところ、レポートの提出期限は 7 月 23 日（木）を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々ですが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【その他の重要事項】

※ 4 月 30 日（木）に最初の資料をアップロードする予定です。

※ それまでは参考文献にあげた文献を読むなどしてください。

(かなり難しいものも含まれていますのでかならずしも挙げたものでなくともかまいません。)

また書籍以外でも中国語に関するものであればなんでもかまいません)

※ それまでの連絡は掲示板、もしくはメールにてどうぞ。

今年は対面での授業ができずに残念ですが、その分、より丁寧に、より分かりやすい授業となるよう心がけたいと思います。

このような形式での授業は初めてですので色々試行錯誤するとおもいますがどうぞよろしくお願い致します。

【Outline and objectives】

Through Chinese language, we will think about Chinese culture and view of the world.

ARSe200LA

中国語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡邊 大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語を表記する文字体系である漢字にまつわることがらを通して、中国的思考法について考えます。

【到達目標】

中国語そのものを学ぶ授業ではありませんが、漢字という文字体系が、中国語や中国的思考法といかに関係しているのか、を理解してもらえればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式が中心ですが、質疑応答しながら授業を進めていきます。積極的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字とはなにか	文字の定義と文化形成における文字の役割について
②	中国文化の思考基底－その1	中国的世界観
③	中国文化の思考基底－その2	古い中国と新しい中国
④	漢字学の伝統－その1	中国の伝統的学問分類と漢字学の位置づけ
⑤	漢字学の伝統－その2	許慎と『説文解字』
⑥	漢字学の伝統－その3	漢字の分類法と字書の変遷
⑦	漢字学の伝統－その4	日本の漢字研究
⑧	漢字の歴史－その1	甲骨文・金文・戦国文字
⑨	漢字の歴史－その2	小篆・隸書・楷書
⑩	漢字の歴史－その3	文字の社会的機能の変遷
⑪	漢字の歴史－その4	新中国における文字改革
⑫	日本の漢字と文字政策	常用漢字・人名漢字・国字等
⑬	漢字とコンピュータ	文字コードと入力法
⑭	まとめと試験	論述形式の試験をおこないます。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布します。

【参考書】

・牛島徳次ほか、『中国文化叢書 1 言語』、大修館、1967 年
 ・朱徳熙著/中川正之・木村英樹編訳、『文法のはなし』、光生館、1986 年
 ・木村英樹、『中国語はじめての一步』、ちくま新書、1996 年
 ・藤堂明保、『漢字とその文化圏』（中国語研究学習双書 3）、光生館、1971 年
 ・阿辻哲次、『図説漢字の歴史』（普及版）、1989 年

・林四郎/松岡栄志『日本の漢字・中国の漢字』、三省堂、1995 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（30 %）、期末試験（70 %）

小テストは講義の内容を理解しているかを確認するためのもので基本的に毎授業おこないます。

期末試験は論述式でおこないます。評価の基準は、①講義の内容をふまえているか、②漢字という文字、書写言語と音声言語との違い、人間にとって文字とは、というような問題を多様な角度から捉えているか、③自身の考えをもち、それを自身のことばで表現しているか、の 3 点です。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講者の中には、中国語を履修していない人もいれば、中国語を母語とする人もいます。受講理由は様々でしょうが、中国語を学ぼうとする人にはもちろん、どのような受講者にも、「ことばって面白い」と感じてもらえる授業をしたいと思います。

【Outline and objectives】

Through learning characteristics of Chinese characters, we will understand Chinese thinking process and view of the world.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映画で学ぶ日本と台湾

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

授業開始日は4月23日とし、本来の対面式授業と同じ日程で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方について
第2回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第1回）
第3回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第2回）
第4回	映画で学ぶ中国の文化と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』（第3回）
第5回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第1回）
第6回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第2回）
第7回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『私の少女時代』（第3回）
第8回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第1回）
第9回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第2回）
第10回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『海角七号』（第3回）
第11回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第1回）
第12回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第2回）
第13回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『KANO』（第3回）
第14回	授業の総まとめとレポート	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60%、レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映画から学ぶ中国社会

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008 年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

映像資料を用い、講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終日にはレポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 1 回）
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 2 回）
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』（第 3 回）
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 1 回）
第 6 回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 2 回）
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』（第 3 回）
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 1 回）
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 2 回）
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』（第 3 回）
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 1 回）
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 2 回）
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』（第 3 回）
第 14 回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席、授業態度、コメントペーパー）60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 直子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に中国の演劇作品を通して、中国の文化や社会に対する知識や理解を深めることを目標としている。春学期は特に演劇からみた日中交流史について学んでいく。

隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どのようなものなのか。実際の作品に触れることで、中国の人々と共通の話題が生まれ、また自国の文化についても再認識する契機となる。日中交流の歴史から、これからの日中関係についても考えてみて欲しい。

作品鑑賞では字幕のない映像を使用することもあるので、中国語を履修していることが望ましい。

【到達目標】

1. 中国の演劇作品に描かれる時代背景や社会情勢を理解することができる。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。
4. これまでの日中交流の歴史を回顧し、その上で今後の自分たちの時代の日中関係についても各自の考えを持ち、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテーマに関する講義、作品の読解や鑑賞を行う。授業の最後には、当日の授業内容に関するリアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容やスケジュールの確認と、授業で扱う中国演劇についての概説を行う。
第 2 回	中国の伝統演劇——「京劇」	京劇についての概要と主な作品を取り上げる。
第 3 回	中国の伝統演劇——「京劇」と梅蘭芳	著名な京劇俳優梅蘭芳と、日本との関わりについて学ぶ。
第 4 回	中国の伝統演劇——「京劇」と梅蘭芳	梅蘭芳の伝記映画作品鑑賞。
第 5 回	演劇の近代化——伝統演劇の改革から文明戯	中国で近代演劇が誕生する以前の段階の文明戯と日本との関わりを学ぶ。
第 6 回	演劇の近代化——文明戯から話劇へ	近代劇としての話劇がどうやって誕生したのか、オスカーワイルドの『ウィンダムミア夫人の扇』を中心に学ぶ。
第 7 回	演劇の近代化——文明戯から話劇へ	『ウィンダムミア夫人の扇』のハリウッド版と中国版の比較と日本での上演との比較。
第 8 回	1930 年代の話劇と中国人留学生	1930 年代に日本に留学した中国人留学生の演劇活動について。

- 第 9 回 1930 年代から 1940 年代の日中演劇交流 日本で上演された中国演劇『雷雨』と、中国で上演された日本の演劇について
- 第 10 回 『白毛女』の日中交流 『白毛女』は日本でも松山バレエ団によって上演された著名な作品である。作品と日本での上演の経緯を学ぶ
- 第 11 回 革命模範劇について 中国建国後、文化大革命中の演劇について学ぶ。
- 第 12 回 革命模範劇について 実際の作品を鑑賞し、その特徴を考察する。
- 第 13 回 文革後—現在の中国演劇 新時期から現在までの中国の演劇を概観する。
- 第 14 回 授業の総まとめと期末試験 講義内容に関する記述式の試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱い興味を持った作品は、インターネット上の動画でも見られるものがあるので、鑑賞する。期末試験では自分の興味を持ったテーマについて記述するので、その準備として関連書籍を読む、人物について調べるなどしておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布する。

【参考書】

参考書は指定しないが、必要場合は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点 (15 点)、リアクションペーパー (35 点)、期末試験 (50 点)

【学生の意見等からの気づき】

昨年は女優についてのテーマの際に、中国の女性やフェミニズムに興味を抱いたようだ。作品鑑賞以外にも、学生の興味のある分野について適宜取り上げていきたい。

【その他の重要事項】

中国語履修者の受講が望ましい。

【Outline and objectives】

This course is introduces the Chinese modern drama and film. The aim of this course is to help students acquire the knowledge about the Chinese culture and society. By the end of this course, the student should be able to describe the cultural difference between China and own country.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 直子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、中国の演劇や映画作品を通して中国の文化や社会に対する知識の習得を目標としている。隣国である中国の人々が慣れ親しんできた文化とは一体どういうものなのか。中国でよく知られた演劇作品や最近の映画から見える中国の姿について考察する。

【到達目標】

1. 作品に描かれる時代背景や社会情勢についての知識の習得。
2. 作品を通じて理解したことや疑問点を整理し、まとめることができる。
3. 自国の文化との相違点について比較し考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品の背景やキーワードに関する講義と、作品鑑賞。授業の最後には、当日の授業内容に関するリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容やスケジュールの確認と、授業で扱う作品についての概説を行う。
第 2 回	中国の演劇と映画の歴史	中国映画は初期の演劇とも接点を持っている。中国映画史について紹介し、初期の無声映画などを鑑賞する。
第 3 回	中国の女優①	中国の近代では女性が舞台や銀幕に登場するようになる。中国女性史から女優の誕生をみていく。
第 4 回	中国の女優②	中国の女優阮玲玉について、当時の言説や伝記映画を鑑賞する。
第 5 回	中国の話劇①	中国の作家老舎と作品『茶館』についての紹介と作品鑑賞。
第 6 回	中国の話劇②	中国の作家老舎と作品『茶館』についての紹介と作品鑑賞。文革期の演劇にも触れる。
第 7 回	文化大革命と演劇、バレエ①	文化大革命の時期に行われた現代革命京劇について紹介する。この時期を描いた作品鑑賞。
第 8 回	文化大革命と演劇、バレエ②	文化大革命の時期に行われた現代革命京劇について紹介する。この時期を描いた作品鑑賞。
第 9 回	新時代の中国演劇	文革後の 80 年代～90 年代の中国話劇について学ぶ。
第 10 回	現代の中国演劇	90 年以降の中国の話劇について学ぶ。

第 11 回 香港

中国文化圏の香港について、香港で製作された『十年』を鑑賞し、香港の抱える問題について考える。

第 12 回 台湾の演劇

台湾の演劇（布袋戯や歌仔戯など）について学ぶ。

第 13 回 現代の中国

現代中国の中でも生き続ける伝統演劇。物語の中の伝統演劇の意味を考える。

第 14 回 授業の総まとめと期末試験

講義内容に関する記述式の試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱い興味を持った作品は、インターネット上の動画でも見られるものがあるので、鑑賞する。期末試験では自分の興味を持ったテーマについて記述するので、その準備として関連書籍を読む、人物について調べるなどしておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布する。

【参考書】

参考書は指定しないが、必要な場合は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。最終授業時には記述式の期末試験を行う。

平常点（15 点）、リアクションペーパー（35 点）、期末試験（50 点）

【学生の意見等からの気づき】

日本語の字幕のない作品を鑑賞することがあるので、作品についての説明や翻訳をあらかじめ準備する。

少人数クラスのため、学生が自由に意見を述べてくれた。留学生は自国の文化から現在の自国の問題や課題を真剣に考えてくれ、こちらも大いに参考になった。積極的な意見交換は大歓迎である。

【その他の重要事項】

中国語履修者の受講が望ましい。

【Outline and objectives】

This course is introduces the Chinese modern drama and film. The aim of this course is to help students acquire the knowledge about the Chinese culture and society. By the end of this course, the student should be able to describe the cultural difference between China and own country.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では自分のことを相手に伝える練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングを経て、自宅課題として文章作成を行う。

【到達目標】

自分について、文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	私の名前	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	私の家族	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	私の街	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	私の大学	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	天気	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	私の一日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	人の描写	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	今日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	昨日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	気持ちや感想	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

11	計画	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	旅	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	まとめ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	まとめ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだモデル文章の語彙表現を利用して、自分に関する新たな文章を作成してするのが毎回の自宅課題である。学習の目安は毎回90分程度である。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業性に伴ってプリントにした。

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home. Class explanations will be given in Japanese.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では自分のことを相手に伝える練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングを経て、自宅課題として文章作成を行う。

【到達目標】

自分について、文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	旅	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	昔と今	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	気持ちや感想	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	健康的な生活	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	お祭り	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	昔々	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	人生	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	夢	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	イベント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

11	クリスマス	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スポーツ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	パソコンや携帯電話	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	環境	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだモデル文章の語彙表現を利用して、自分に関する新たな文章を作成してするのが毎回の自宅課題である。学習の目安は毎回90分程度である。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業性に伴ってプリントにした。

【Outline and objectives】

In this course, you will practice communicating yourself to others. Each session will consist of listening to the model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice, and translation training from Japanese to Spanish, followed by writing assignments at home. Class explanations will be given in Japanese.

LANs200LA

時事スペイン語 I

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペルーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

時事スペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。特に、この授業では、スペイン語圏の時事について、その歴史と現状の双方に光を当てて学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の時事に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、高度なレベルの文章読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行う。その後、順番に指名された受講生が訳読を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30%、小テスト：20%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

辞書の使用を怠らないこと。

【Outline and objectives】

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries. A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

ARSa200LA

スペイン語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第3回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

【追記】学習支援システムでの授業開始日：4月30日(木)

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：EU とスペイン)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexit のスペインへの余波)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容(70%)と平常点(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

ARSa200LA

スペイン語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第3回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	プレゼンテーション①	担当者によるプレゼンテーション (例：メキシコの映画産業)
5	プレゼンテーション②	担当者によるプレゼンテーション (例：アルゼンチンのスポーツ事情)
6	プレゼンテーション③	担当者によるプレゼンテーション (例：キューバの現在)
7	プレゼンテーション④	担当者によるプレゼンテーション (例：ラテンアメリカの文学)
8	プレゼンテーション⑤	担当者によるプレゼンテーション (例：フィリピンに残るスペイン語)
9	プレゼンテーション⑥	担当者によるプレゼンテーション (例：日本のスペイン語話者)
10	プレゼンテーション⑦	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスタートアップ企業)
11	プレゼンテーション⑧	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏の中の日本企業)
12	プレゼンテーション⑨	担当者によるプレゼンテーション (例：コスタリカについて)
13	プレゼンテーション⑩	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語圏での日本発サブカルチャーの受容)
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容(70%)と平常点(30%)で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

LANk200LA

朝鮮語 4 B I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。
語彙・文型・表現の知識を増強する。
韓国人留学生との会話も行う予定。
一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・スピーチ・アナウンスなどの聞き取りを通し、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。
学生の数・レベル・ニーズを見て小説・ドラマを適宜変更する。
候補：シークレットガーデン（逆転の女王、二度目の二十歳）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 23 日授業開始

人数が多い場合は、選択必修科目のため 2、3 年生を優先する

A 1 - 2 週は教員から音声ファイル、文書ファイルを提供する形で授業を行う。

各自のペースで学習を進めてほしい。

1 毎週授業日に学習支援システム → 授業名 → 教材から、音声ファイル・文書ファイルをダウンロードする。

2 ・音声解説を聞きながら、文書ファイルを見て声を出して練習をする。

・音声を書き取り、翻訳し、発音練習、録音して、課題から提出する。
3 学習支援システム → 授業名 → 課題から、締め切りまでに課題を提出すること。

課題の例：音声を聞いて書き取る、翻訳する → 写真を撮って画像ファイルを添付して送る（あるいは文書ファイルにして添付して送る）。暗唱して録音して添付して送る。など

4 教員から課題物は返却されないが、共通の気をつけるべきポイントなどは翌週に提示する。

数週間は課題提出をもって出席とみなす。

授業支援システムにアクセスしにくい状態が続く場合は、ゲートルームに移行するので、お知らせを確認すること。

B 3 週目以降はテレビ会議システムなどを使い実際に授業時間に顔を見ながら授業を行いたい、学生の wifi 環境なども確認してから考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さんとオモニ ①② 会話	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さんとオモニ ③④ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
1		

3	サランバンのお客さんとオモニ ⑤⑥ シークレットガーデン 2	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さんとオモニ ⑦⑧ シークレットガーデン 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さんとオモニ ⑨⑩	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	インタビュー聞き取り、歌など 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さんとオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	サランバンのお客さんとオモニ ⑬⑭ シークレットガーデン 5	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さんとオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さんとオモニ ⑰⑱ 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話 あるいは サランバンのお客さんとオモニ ⑲⑳	韓国人留学生と 100 分会話する 聞き取り 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
12	サランバンのお客さんとオモニ 最終回 あるいは 期末試験	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	課題	課題
14	課題	課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。

本授業の準備・復習時間は各 1 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研

シークレットガーデン DVD

二度目の二十歳 DVD

逆転の女王 DVD

【成績評価の方法と基準】

課題提出を重視したい。今のところ課題 70%、テスト・平常点 30% 程度と考えているが、今後の社会の変化を見て変更する可能性がある。定期試験については未定。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できるもの

pc, tablet, スマホ, wifi 環境

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

LANk200LA

朝鮮語 4 B II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力・読む能力を向上させる。語彙・文型・表現の知識を増強する。

韓国人留学生との会話も行う予定。

一定の能力のある学生を対象とします。

【到達目標】

1 韓国のドラマ・歌・ニュース・スピーチなどの聞き取りを通し、音から理解することに慣れる。

2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現を学ぶ。

3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

学生の人数・レベル・ニーズを見てドラマを適宜変更する。

候補：華麗なる遺産（逆転の女王、二度目の二十歳）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。

2 ドラマ・ニュースなどを読み、日本語訳する。

3 文型・表現を学び、発音練習をする。

4 読解・音読等の課題をする。

5 単語や音読・暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	華麗なる遺産 3 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 4	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 5	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 7	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

9	華麗なる遺産 8 アナウンス	小テスト 聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	華麗なる遺産 9 会話練習 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と 100 分会話する
12	華麗なる遺産 1 0	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 1 1 アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。

本授業の準備・復習時間は 1 時間を要する。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（積極性、課題）50 %、テスト 50 %

3 回欠席あるいは遅刻の場合、落第。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も会話の時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

音声録音できる録音機（スマホも可）

【その他の重要事項】

一定の能力のある学生を対象とします。

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. It aims to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

(※旧：基本的にはテキストの順に沿って進める。)

ひとつのテーマについて講義したあとに、2週連続で関連映像の解説上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①－朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へ－南北分断のリアル DMZ
第3回	解説と映画鑑賞②－朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像する－南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史－時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③－激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を生きる－「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④－激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」－朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画－日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤－日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城（現ソウル）を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写－親日派暗殺作戦

第9回	解説と映画鑑賞⑥－日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現
第10回	最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画	時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。
第11回	解説と映画鑑賞⑦－青春の思い出	初恋のロマンス、青春の思い出
第12回	解説と映画鑑賞⑧－青春の思い出	青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写
第13回	映画と講義について	映画は学習手段のひとつとして有効か－韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしていく。
第14回	春学期のまとめと筆記テストの実施	筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【参考書】

韓国映画100年史－その誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンファ著、野崎彦彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

(※旧：筆記テスト50%、平常点50%をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業には必ず出席する。

毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films. The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

(※旧：基本的にはテキストに沿って進めていく。

ひとつのテーマについて講義したあとに、2週連続で関連映像の解説と上映といった形で進める。毎回授業の最後に解説と映像に対する感想文を書いて提出する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第 2 回	解説と映画鑑賞①—外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ—究極な状態に置かれた人々の動き
第 3 回	解説と映画鑑賞②—外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおして韓国社会をみる
第 4 回	現代韓国社会と映画—高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第 5 回	解説と映画鑑賞③—老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴—老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第 6 回	解説と映画鑑賞④—老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴—家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第 7 回	現代韓国社会と映画—犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯について—被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第 8 回	解説と映画鑑賞⑤—最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値—人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。

第 9 回	解説と映画鑑賞⑥—宗教とは	宗教とは何か、人間とは何か—人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第 10 回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力について—2010年代韓国政府を実例に
第 11 回	解説と映画鑑賞⑦—ドキュメンタリー映画	国家とは何か。国家の存在理由—国民の生命・財産の保護。
第 12 回	解説と映画鑑賞⑧—ドキュメンタリー映画	真実究明と記者・言論の役割と力
第 13 回	韓国映画史を振り返る—100年史	創成期～ルネサンス期まで
第 14 回	秋学期のまとめと筆記テストの実施	筆記テストの実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

韓国映画 100 年史—その誕生からグローバル展開まで、鄭ソソ著、野崎彦彦・加藤知恵訳、明石書店、2017 年、3520 円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015 年、3680 円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

(※旧：筆記テスト 50%、平常点 50%をもって総合的に評価する。)

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

映像を用いた授業お時は、毎回短い感想文を提出する。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn about Korean and Korean culture and society through Korean films.

The purpose of the class is to deepen the understanding of Korean society through the characteristics of Korean society and changes in the times depicted in Korean movies.

